

きこないちょう
木古内町

き こ ない い せき
木 古 内 遺 跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

木古内町

木古内遺跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



縄文時代早期後半の竪穴住居跡（H-20）



縄文時代前期後半の竪穴住居跡調査状況（H-7ほか）



溝状遺構

例 言

1. 本書は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構による北海道新幹線建設事業に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センター（平成24年4月付で公益財団法人へ移行）が平成22・23年度に実施した木古内遺跡の埋蔵文化財発掘調査についての報告書である。
2. 調査・整理は、第2調査部第3調査課が担当した。
3. 本書の執筆は、付篇を除き、村田 大・土肥研晶・新家水奈・愛場和人・大泰司統が分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は愛場が行った。
4. 写真の撮影は、現場では各担当者が行い、報告書掲載遺物の撮影は1部1課吉田裕吏洋が行った。
5. 自然科学的分析の内容と委託・依頼先の機関、個人は、次のとおりである。
黒曜石原産地同定：(株)第四紀地質研究所
放射性炭素年代測定：(株)加速器分析研究所
炭化材樹種同定：(株)パレオ・ラボ
炭化種実同定：(株)パレオ・ラボ
P-12出土人骨鑑定：札幌医科大学 松村博文
P-12出土人骨の放射性炭素年代測定：(株)パレオ・ラボ
6. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・御協力をいただいた。（順不同・敬称略）
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
木古内町教育委員会 木元 豊
北斗市教育委員会 森 靖裕
知内町教育委員会 高橋豊彦
松前町教育委員会 前田正憲
厚沢部町教育委員会 石井淳平
市立函館博物館 佐藤智雄、大矢京右
七飯町歴史館 山田 央
北海道考古学会 大沼忠春
北海道考古学研究所 横山英介

記号等の説明

1. 確認した遺構は、下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。
H：竪穴住居跡 P：土坑 TP：Tピット F：焼土 FC：フレイク集中
アルファベットと遺構番号の間にはハイフン「-」を入れ、発掘区（グリッド）名の表記と区別した。また擦文文化期の竪穴住居跡はSHとして区別した。
2. 遺構図の縮尺は、40分の1、遺物出土状況図は20分の1を基本とし、それ以外は任意の縮尺で、各図にスケールを付した。平面図の「+」は、4m方格の大グリットラインの交点で、傍らのアルファベット・アラビア数字は発掘区名である。遺構平面図等のドット「・」付き数値はその地点の標高（m）を表す。
平面図の天方向は、N-50°-Eで、平面図には各図に方位記号を付した。
3. 遺構図の出土遺物分布については下記の記号を使用した。
黒塗り記号：覆土出土 白抜き記号：床面直上・床面出土
●：土器 ○：土器
▲：石器 △：石器
▼：フレイク ▽：フレイク
■：礫 □：礫
4. 本文及び図表中では、遺構の規模を次の要領で示した。一部破壊されているものは、現存する計測値を括弧で示した。
竪穴住居跡・土坑・Tピット・溝状遺構：
確認面の長径×短径／床・底面の長径×短径／確認面からの最大深（m）
焼土：長径×短径／最大厚（m）
フレイク集中：長径×短径（m）
5. 遺物図の縮尺は、次のとおりで、各図にスケールを付した。
復元土器：4分の1 拓影土器：3分の1（一部4分の1）
剥片石器：2分の1 礫石器：3分の1（一部4分の1） 土・石製品2分の1
金属製品：2分の1
6. 写真図版の遺物の縮尺は、復元土器：任意、拓本土器：3分の1、剥片石器：2分の1、礫石器：6分の1を基本とし、それ以外のものは縮尺を付した。

目 次

カラー図版

例 言

記号等の説明

目 次

図 目 次

表 目 次

写真図版目次

I 章 調査の概要

1. 調査要項 1
2. 調査体制 1
3. 調査に至る経緯 1
4. 調査結果の概要 3
5. 遺跡の位置と環境 4
6. 周辺の遺跡 4

II 章 調査の方法

1. 発掘区の設定 7
2. 基本層序 8
3. 調査の方法 8
4. 整理の方法 10
5. 遺物の分類 10

III 章 遺構と出土遺物

1. 概要 15
2. 竪穴住居跡 15
3. 土坑 86
4. Tピット 161
5. 溝状遺構 168
6. 焼土 169
7. フレイク集中 173
8. 遺構出土の遺物 174
 - (1) 竪穴住居跡出土の土器・土製品 174
 - (2) 土坑・Tピット出土の土器・土製品 177
 - (3) 竪穴住居跡出土の石器等 198
 - (4) 土坑・フレイク集中出土の石器等 222

IV 章 包含層の遺物

1. 土器・土製品 255
2. 石器等 265
3. 金属製品 279

V 章 まとめ

1. 遺構について 284
2. 遺物について 285
3. 自然科学的分析結果の評価について 287

付篇 自然科学的手法による分析結果

1. 黒曜石原産地同定（第四紀地質研究所） 293
2. 放射性炭素年代（AMS測定） 299
（加速器分析研究所）
3. 炭化材樹種同定（パレオ・ラボ） 307
4. 種実の同定（パレオ・ラボ） 309
5. P-12出土人骨について 314
（札幌医科大学 松村博文）
6. P-12出土人骨の放射性炭素年代測定 318
（パレオ・ラボ）

写真図版

引用参考文献

報告書抄録

挿 図 目 次

図 I - 1	調査範囲図	2	図 III - 54	H - 27・28	82
図 I - 2	遺跡の位置と周辺の地形	5	図 III - 55	H - 29 (1)	84
図 II - 1	グリット設定図と年度別調査区	7	図 III - 56	H - 29 (2)	85
図 II - 2	基本土層図と土層断面図	9	図 III - 57	P - 1 ~ 4	87
図 III - 1	遺構位置図	13	図 III - 58	P - 5 ~ 9	89
図 III - 2	SH - 1 (1)	16	図 III - 59	P - 10・11	91
図 III - 3	SH - 1 (2)	17	図 III - 60	P - 12	93
図 III - 4	SH - 2 (1)	18	図 III - 61	P - 13~15・17・18	95
図 III - 5	SH - 2 (2)	19	図 III - 62	P - 16・19	96
図 III - 6	H - 1 (1)	22	図 III - 63	P - 20~22・24	97
図 III - 7	H - 1 (2)	23	図 III - 64	P - 23・25・26	99
図 III - 8	H - 1 (3)	24	図 III - 65	P - 27~29	101
図 III - 9	H - 2	25	図 III - 66	P - 30~32・34	103
図 III - 10	H - 3 (1)	26	図 III - 67	P - 33・35~38	105
図 III - 11	H - 3 (2)	27	図 III - 68	P - 39・40	107
図 III - 12	H - 4	29	図 III - 69	P - 41~44	109
図 III - 13	H - 5 (1)	30	図 III - 70	P - 45~49	111
図 III - 14	H - 5 (2)	31	図 III - 71	P - 50~53	113
図 III - 15	H - 6 (1)	32	図 III - 72	P - 54~57	115
図 III - 16	H - 6 (2)	33	図 III - 73	P - 58~61	117
図 III - 17	H - 7 (1)	35	図 III - 74	P - 62~68・70	121
図 III - 18	H - 7 (2)	36	図 III - 75	P - 69・71~73	123
図 III - 19	H - 8 (1)	38	図 III - 76	P - 74~79	125
図 III - 20	H - 8 (2)	39	図 III - 77	P - 80~84	127
図 III - 21	H - 8 (3)	40	図 III - 78	P - 85~89	129
図 III - 22	H - 9 (1)	41	図 III - 79	P - 90~94	131
図 III - 23	H - 9 (2)	42	図 III - 80	P - 95~98	133
図 III - 24	H - 9 (3)	43	図 III - 81	P - 99・100	135
図 III - 25	H - 10 (1)	45	図 III - 82	P - 101・102	137
図 III - 26	H - 10 (2)	46	図 III - 83	P - 103・104	138
図 III - 27	H - 10 (3)	47	図 III - 84	P - 105~107・109	139
図 III - 28	H - 11 (1)	48	図 III - 85	P - 108・113・131 (1)	141
図 III - 29	H - 11 (2)	49	図 III - 86	P - 108・113・131 (2)	143
図 III - 30	H - 12	51	図 III - 87	P - 110~112・114~116・118 ・119・123・124・126・128・129	146
図 III - 31	H - 13	52	図 III - 88	P - 111・112・114~116・118 ・119・123・124・126・128・129	147
図 III - 32	H - 14 (1)	54	図 III - 89	P - 117・120~122・125・127	149
図 III - 33	H - 14 (2)	55	図 III - 90	P - 130・132・133・135	153
図 III - 34	H - 15	57	図 III - 91	P - 134・136~140	155
図 III - 35	H - 16	58	図 III - 92	P - 141~144	157
図 III - 36	H - 17・18 (1)	59	図 III - 93	P - 145~153	159
図 III - 37	H - 17・18 (2)	60	図 III - 94	TP - 1・2	162
図 III - 38	H - 17・18 (3)	61	図 III - 95	TP - 3・4	163
図 III - 39	H - 19	63	図 III - 96	TP - 5・6	165
図 III - 40	H - 20 (1)	64	図 III - 97	TP - 7~9	167
図 III - 41	H - 20 (2)	65	図 III - 98	溝状遺構 (1)	170
図 III - 42	H - 20 (3)	66	図 III - 99	溝状遺構 (2)	171
図 III - 43	H - 20 (4)	68	図 III - 100	F - 1 ~ 5	172
図 III - 44	H - 21 (1)	70	図 III - 101	FC - 1 ~ 3	173
図 III - 45	H - 21 (2)	71	図 III - 102	SH - 1・2出土の土器・土製品	180
図 III - 46	H - 22 (1)	72	図 III - 103	H - 1・3~6出土の土器・土製品	181
図 III - 47	H - 22 (2)	73	図 III - 104	H - 7・8出土の土器	182
図 III - 48	H - 22 (3)	74	図 III - 105	H - 9出土の土器 (1)	183
図 III - 49	H - 23 (1)	76	図 III - 106	H - 9出土の土器 (2)・土製品	184
図 III - 50	H - 23 (2)	77	図 III - 107	H - 10~14出土の土器	185
図 III - 51	H - 23 (3)	78	図 III - 108	H - 16~19出土の土器	186
図 III - 52	H - 24	79			
図 III - 53	H - 25・26	80			

挿 図 目 次

図Ⅲ-109	H-20出土の土器(1) ……187	図Ⅲ-140	P-1~5・10出土の石器 ……224
図Ⅲ-110	H-20出土の土器(2) ……188	図Ⅲ-141	P-14~25出土の石器 ……225
図Ⅲ-111	H-21~25出土の土器 ……189	図Ⅲ-142	P-31出土の石器 ……226
図Ⅲ-112	H-27~29出土の土器 ……190	図Ⅲ-143	P-39~59出土の石器 ……227
図Ⅲ-113	P-1~47出土の土器 ……191	図Ⅲ-144	P-61~97出土の石器 ……228
図Ⅲ-114	P-50~94出土の土器 ……192	図Ⅲ-145	P-99~102出土の石器 ……229
図Ⅲ-115	P-96~102出土の土器 ……193	図Ⅲ-146	P-104・105出土の石器 ……230
図Ⅲ-116	P-104出土の土器 ……194	図Ⅲ-147	P-108出土の石器(1) ……231
図Ⅲ-117	P-105・107出土の土器 ……195	図Ⅲ-148	P-108(2)・P-112出土の石器 ……232
図Ⅲ-118	P-108・111・112出土の土器・ 土製品 ……196	図Ⅲ-149	P-113~142出土の石器 ……233
図Ⅲ-119	P-113~142・TP-5出土の土器 ……197	図Ⅲ-150	FC-1・3出土の石器 ……234
図Ⅲ-120	SH-1・2出土の石器 ……202	図Ⅳ-1	包含層出土土器分布図(1) ……258
図Ⅲ-121	H-1出土の石器 ……203	図Ⅳ-2	包含層出土土器分布図(2) ……259
図Ⅲ-122	H-2~5出土の石器 ……204	図Ⅳ-3	包含層出土の土器(1) ……260
図Ⅲ-123	H-6出土の石器等 ……205	図Ⅳ-4	包含層出土の土器(2) ……261
図Ⅲ-124	H-7出土の石器(1) ……206	図Ⅳ-5	包含層出土の土器(3) ……262
図Ⅲ-125	H-7出土の石器(2) ……207	図Ⅳ-6	包含層出土の土器(4) ……263
図Ⅲ-126	H-8出土の石器(1) ……208	図Ⅳ-7	包含層出土の土器(5)・土製品 ……264
図Ⅲ-127	H-8(2)・H-9出土の石器 ……209	図Ⅳ-8	包含層出土石器分布図(1) ……266
図Ⅲ-128	H-9出土の石器等(2) ……210	図Ⅳ-9	包含層出土石器分布図(2) ……267
図Ⅲ-129	H-10出土の石器等 ……211	図Ⅳ-10	包含層出土石器分布図(3) ……268
図Ⅲ-130	H-11~14出土の石器 ……212	図Ⅳ-11	包含層出土石器分布図(4) ……269
図Ⅲ-131	H-16~19出土の石器 ……213	図Ⅳ-12	包含層出土の石器(1) ……270
図Ⅲ-132	H-20出土の接合資料模式図 ……214	図Ⅳ-13	包含層出土の石器(2) ……271
図Ⅲ-133	H-20出土の石器(1) ……215	図Ⅳ-14	包含層出土の石器(3) ……272
図Ⅲ-134	H-20出土の石器(2) ……216	図Ⅳ-15	包含層出土の石器(4) ……273
図Ⅲ-135	H-20出土の石器(3) ……217	図Ⅳ-16	包含層出土の石器(5) ……274
図Ⅲ-136	H-20(4)・H-21・22出土の石器等 ……218	図Ⅳ-17	包含層出土の石器(6) ……275
図Ⅲ-137	H-23出土の石器 ……219	図Ⅳ-18	包含層出土の石器(7) ……276
図Ⅲ-138	H-24・25・27~29(1)出土の石器 ……220	図Ⅳ-19	包含層出土の石器(8)・石製品・ 金属製品 ……277
図Ⅲ-139	H-29出土の石器(2) ……221	図Ⅴ-1	遺構出土のI群b-1類土器集成 ……286

表 目 次

表Ⅰ-1	遺物集計表 ……3	表Ⅲ-6	遺構出土掲載石器等一覧(1)~(4) ……251
表Ⅱ-1	測量基準点一覧表 ……7	表Ⅳ-1	包含層出土掲載土器等一覧(1)・(2) ……280
表Ⅲ-1	竪穴住居跡規模一覧 ……235	表Ⅳ-2	包含層出土掲載石器等一覧(1)・(2) ……282
表Ⅲ-2	土坑等規模一覧(1)・(2) ……235	表Ⅴ-1	黒曜石原産地同定結果一覧(産地別) ……288
表Ⅲ-3	付属遺構規模一覧(1)~(3) ……236	表Ⅴ-2	放射性炭素年代測定結果一覧(時代順) ……289
表Ⅲ-4	遺構出土遺物一覧(1)~(10) ……238	表Ⅴ-3	遺構出土炭化種実同定結果一覧 ……290
表Ⅲ-5	遺構出土掲載土器等一覧(1)~(4) ……247		

写真図版目次

- 図版 1 遺跡遠景
表土除去後地形
- 図版 2 基本土層 (P56付近)
調査区南西側調査終了状況 (北から)
- 図版 3 SH-1 土層断面
SH-1 遺物出土状況
HF-1 および煙道土層断面
HF-1 周辺遺物出土状況
- 図版 4 SH-2 土層断面
煙道土層断面
HF-1 土層断面
SH-2 完掘状況
- 図版 5 H-1 土層断面
HP-5 土層断面
HP-7・8 土層断面
HP-9 土層断面
H-1 遺物出土状況
- 図版 6 H-2 土層断面
HP-1 土層断面
HP-2・3 完掘状況
H-2 完掘状況
- 図版 7 H-3 土層断面
HF-1 土層断面
HP-1 土層断面
H-3 完掘状況
- 図版 8 H-4 上面遺物出土状況
H-4 土層断面
H-4 遺物出土状況
H-4 付属遺構土層断面
H-4 完掘状況
- 図版 9 H-5 土層断面
HP-4 土層断面
HP-9 土層断面
HP-11 土層断面
H-5 完掘状況
- 図版10 H-6 土層断面
HF-1 土層断面
H-6 遺物出土状況
H-6 完掘状況
- 図版11 H-7~12 調査状況
調査状況 (H-9掘り上げ土検出)
- 図版12 H-7 土層断面
HP-16 土層断面
覆土中土器出土状況
HP-4 遺物出土状況
HP-13 土層断面
H-7 完掘状況
- 図版13 H-8 土層断面
HP-1 遺物出土状況
HF-3 遺物出土状況
H-8 完掘状況
周溝検出状況
HP-6 土層断面
- 図版14 H-9 土層断面
HF-1 検出状況
HP-11 遺物出土状況
H-9 覆土中遺物出土状況
- H-9 完掘状況
- 図版15 H-10 土層断面
石製品出土状況
HP-4・5・6 土層断面
HP-10 土層断面
H-10 完掘状況
- 図版16 H-11 土層断面
H-11 遺物出土状況
HP-2 土層断面
HP-3 土層断面
HP-5 土層断面
- 図版17 H-12 土層断面
HP-1 土層断面
HP-2 土層断面
H-12 完掘状況
- 図版18 H-13 土層断面
H-13 完掘状況
- 図版19 H-17・18・14 調査状況
- 図版20 H-14 土層断面
覆土中小礫出土状況
礫出土状況
HF-1 検出状況
周溝完掘状況
H-14 完掘状況
- 図版21 H-15 遺物出土状況
H-16 遺物出土状況
- 図版22 H-17 土層断面
HF-1 完掘状況
HP-1 完掘状況
周溝1 土層断面
H-17 完掘状況
- 図版23 H-18 土層断面
HF-1 土層断面
炭化材検出状況
HP-1・2・3 完掘状況
H-18 完掘状況
- 図版24 H-19 土層断面
H-19 遺物出土状況
H-20 土層断面
- 図版25 H-20 覆土下位土器出土状況
床面土器出土状況
H-20 遺物出土状況
床面石器出土状況
床面石器出土状況
- 図版26 HP-1・2・10 完掘状況
HP-6 遺物出土状況
HP-7 土層断面
周溝2 土層断面
H-20 完掘状況
- 図版27 H-21 西側土層断面
H-21 東側土層断面
周溝1 完掘状況
H-21 遺物出土状況
- 図版28 H-22 土層断面
HP-1 土層断面
炭化材出土状況
H-22 完掘状況

図版29	H-23 土層断面 覆土中土器出土状況 H P-3 A・B土層断面 H-23 完掘状況	P-33 土層断面 P-34 遺物出土状況 P-35 完掘状況 P-36 完掘状況
図版30	H-24 土層断面 H P-2 土層断面 H-24 西側完掘状況 H P-3 土層断面 H-24 東側遺物出土状況	図版40 P-37 完掘状況 P-38 完掘状況 P-39 遺物出土状況 P-40 土層断面 P-41 完掘状況 P-42 完掘状況 P-43 完掘状況 P-44 完掘状況
図版31	H-25 土層断面 H-26 土層断面 H-25 完掘状況 H-26 完掘状況 H-26 H P-1 土層断面 H-26 H P-2 土層断面	図版41 P-45 土層断面 P-46 完掘状況 P-47 完掘状況 P-48 完掘状況 P-49 完掘状況 P-50 完掘状況 P-51 完掘状況 P-52 完掘状況
図版32	H-27 土層断面 H P-1 土層断面 H-27 完掘状況 H-28 土層断面 H-28 完掘状況	図版42 P-53 完掘状況 P-54 完掘状況 P-55 土層断面 P-56 完掘状況 P-57 完掘状況 P-58 土層断面 P-59 土層断面 P-58・59 完掘状況
図版33	H-29 土層断面 床面遺物出土状況 H P-9 砂検出状況 H-29 炭化材検出状況	図版43 P-60 完掘状況 P-61 遺物出土状況 P-62・63・64 完掘状況 P-65・66・67・68 完掘状況 P-69 完掘状況 P-70 完掘状況 P-71 遺物出土状況 P-72 遺物出土状況
図版34	P-1 遺物出土状況 P-2 遺物出土状況 P-3 完掘状況 P-4 遺物出土状況 P-5 遺物出土状況 P-6 完掘状況 P-7 完掘状況 P-8 遺物出土状況	図版44 P-73 遺物出土状況 P-74 完掘状況 P-75・76 完掘状況 P-77 土層断面 P-78 完掘状況 P-79 完掘状況 (H23年度) P-80 完掘状況 P-81 完掘状況
図版35	P-9 土層断面 P-10 遺物出土状況 P-11 遺物出土状況 P-13 完掘状況 調査区南西部土坑群	図版45 P-82 完掘状況 P-83 完掘状況 P-84 完掘状況 P-85 完掘状況 P-86 完掘状況 P-87 完掘状況 P-88 完掘状況 P-89 遺物出土状況 P-89 完掘状況
図版36	P-12 土層断面 人骨検出状況 人骨検出状況	図版46 P-90・91 完掘状況 P-92 完掘状況 P-93 完掘状況 P-94 完掘状況 P-95・96 完掘状況 P-96 遺物出土状況 P-97 土層断面
図版37	P-14 完掘状況 P-15 完掘状況 P-16 完掘状況 P-17 土層断面 P-18 完掘状況 P-19 遺物出土状況 P-20 完掘状況 P-21 完掘状況	
図版38	P-22 完掘状況 P-23 完掘状況 P-24 完掘状況 P-25 完掘状況 P-26 土層断面 P-27 完掘状況 P-28 完掘状況 P-29 完掘状況	
図版39	P-30 完掘状況 P-31 遺物出土状況 P-31 完掘状況 P-32 完掘状況	

	P-98	遺物出土状況		P-151	完掘状況
図版47	P-99	遺物出土状況		P-152	完掘状況
	P-99	遺物出土状況	図版53	TP-1	完掘状況
	P-100	遺物出土状況		TP-2	完掘状況
	P-101	完掘状況		TP-3	完掘状況
	P-102	遺物出土状況		TP-4	完掘状況
	P-103	遺物出土状況		TP-5	完掘状況
	P-104	遺物出土状況		TP-6	完掘状況
	P-105	遺物出土状況		TP-7	完掘状況
図版48	P-106	遺物出土状況		TP-8	完掘状況
	P-107	遺物出土状況		TP-9	完掘状況
	P-108	遺物出土状況	図版54	溝状遺構34ライン土層断面	
	P-108	遺物出土状況		33ライン土層断面	
	P-113	遺物出土状況		MP-2	完掘状況
	P-113	遺物出土状況		MP-3	完掘状況
	P-108・113	完掘状況		鋤先痕検出状況	
図版49	P-109	完掘状況		溝状遺構完掘状況	
	P-110	完掘状況	図版55	SH-1・2出土の遺物	
	P-111	完掘状況	図版56	H-4・7・8・9出土の復原土器	
	P-112	遺物出土状況	図版57	H-9・14・20出土の復原土器	
	P-114	完掘状況	図版58	H-23・29・土坑出土の復原土器・底部	
	P-115・116	完掘状況	図版59	H-1～7出土の拓本土器	
	P-117	完掘状況	図版60	H-8～11出土の拓本土器	
	P-118	完掘状況	図版61	H-12～20出土の拓本土器	
	P-119	完掘状況	図版62	H-20・21出土の拓本土器	
	P-120	完掘状況	図版63	H-22～29出土の拓本土器	
図版50	P-121・122	完掘状況	図版64	P-1～75出土の拓本土器	
	P-123	完掘状況	図版65	P-77～102出土の拓本土器	
	P-124	完掘状況	図版66	P-104～108出土の拓本土器	
	P-125	完掘状況	図版67	P-108～142・TP出土の拓本土器	
	P-126	完掘状況	図版68	H-1～6出土の石器	
	P-127	完掘状況	図版69	H-6～8出土の石器等	
	P-128	完掘状況	図版70	H-8～10出土の石器等	
	P-129	完掘状況	図版71	H-10～20出土の石器等	
	P-130	完掘状況	図版72	H-20出土の接合資料1	
	P-131	遺物出土状況	図版73	H-20出土の接合資料2	
	P-132	完掘状況	図版74	H-20出土の接合資料3・4・5	
	P-133	完掘状況	図版75	H-20出土の接合資料6・7	
図版51	P-134	土層断面	図版76	H-20出土の石器	
	P-135	完掘状況	図版77	H-20～23出土の石器	
	P-136	完掘状況	図版78	H-23～29出土の石器	
	P-137	完掘状況	図版79	P-1～45出土の石器	
	P-138	遺物出土状況	図版80	P-51～102出土の石器	
	P-139	完掘状況	図版81	P-104～108出土の石器	
	P-140	完掘状況	図版82	P-112～142・FC出土の石器	
	P-141	完掘状況	図版83	包含層出土の復原土器・拓本土器(1)	
	P-142	完掘状況	図版84	包含層出土の拓本土器(2)	
図版52	P-143	完掘状況	図版85	包含層出土の拓本土器(3)	
	P-144	完掘状況	図版86	包含層出土の拓本土器(4)・土製品	
	P-145・147・153	完掘状況	図版87	包含層出土の石器(1)	
	P-148	完掘状況	図版88	包含層出土の石器(2)	
	P-149	完掘状況	図版89	包含層出土の石器(3)	
	P-150	完掘状況	図版90	包含層出土の石器(4)・石製品・金属製品	

I 章 調査の概要

1. 調査要項

事業名 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

事業委託者 独立法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

事業受託者 財団法人北海道埋蔵文化財センター（平成24年4月付で公益財団法人へ移行）

遺跡名 木古内遺跡（北海道教育委員会登録番号B-05-3）

平成22年度

所在地 上磯郡木古内町字木古内55-1ほか

調査面積 7,716m²

調査期間 平成22年4月1日～平成23年3月31日（現地調査5月10日～10月29日）

平成23年度

所在地 上磯郡木古内町字木古内56-19ほか

調査面積 4,304m²

調査期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日（現地調査5月9日～7月15日）

整理期間 平成22年11月1日～平成26年3月31日

2. 調査体制

平成22年度

第2調査部 部長 西田 茂

第2調査部第3調査課 課長 村田 大（発掘担当者）

主査 土肥 研晶 主査 新家 水奈 主査 愛場 和人（発掘担当者）

主査 阿部 明義 主任 大泰司 統

平成23年度

第2調査部 部長 三浦 正人

第2調査部第3調査課 課長 村田 大（発掘担当者）

主査 新家 水奈 主査 愛場 和人（発掘担当者） 主査 広田 良成 主査 大泰司 統

平成24年度

第2調査部 部長 三浦 正人

第2調査部第3調査課 課長 村田 大 主査 愛場 和人

平成25年度

第2調査部 部長 三浦 正人

第2調査部第3調査課 課長 村田 大 主査 愛場 和人

3. 調査に至る経緯

北海道新幹線は、昭和45（1970）年5月に成立した全国新幹線鉄道整備法に基づき、昭和47年6月に青森－札幌間（約300km）を含む基本計画が決定した。

昭和58（1983）年に、津軽海峡線建設に伴い、日本鉄道建設公団（当時）から北海道教育委員会

(以下道教委)に埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。

協議を受けた道教委は、昭和58年5月に所在確認調査を、昭和58年11月に範囲確認調査を6,900㎡にわたって実施している。

平成10年(1998)年に、北海道新幹線木古内駅の設置が決定、平成17(2005)年4月27日新青森—新函館(仮称)の工事認可書が国土交通省から鉄道建設・運輸施設整備支援機構に交付され、同年工事が着工された。

北海道新幹線は、木古内町の行政区域内を約15kmにわたって通過する予定である。新幹線建設計画の具体化に伴い、建設工事にかかわる木古内町内の遺跡発掘調査は、平成21(2009)年度から財団法人(当時)北海道埋蔵文化財センターにより開始されている。

木古内遺跡の調査範囲(図I-1)に関しては、数度にわたって道教委による試掘調査が行われている。昭和56年11月5日・6日に団地造成に係るものとしてC地区とD地区の一部に相当する範囲で、昭和58年11月9日・10日に主にB地区に相当する範囲で、昭和62年1月19日~21日に縫製工場建設に係るものとしてD地区の一部で、平成21年10月6日・7日にA地区で実施されている。これらの試掘調査の結果から、発掘を必要とする面積9,560㎡が提示された(試掘未了部分は含まず)。当該地域における路線の変更は不可能なことから、当センターが発掘調査を実施することとなった。

そのうち、平成22年度は、A・B・Cの3地区6,890㎡の調査を実施し、D地区2,670㎡については、縫製工場の移転時期などから、着手時期は別途検討することとなった。A地区は遺構確認調査範囲、B・C地区は通常が発掘調査範囲である。表土除去作業後に、A地区の北西側と南東側に包含層が残存することが判明したため、この範囲は通常が発掘調査を行うことに変更された。

道教委は、C・D地区の北東側に隣接した地域について、住宅の移転がほぼ終了したことから、平成22年6月29日・30日に6,400㎡の範囲で試掘調査を実施した。その結果、発掘を必要とする面積2,460㎡が提示された。その後、工事工程の変更により、新たに提示された範囲のうち、E地区(644㎡)とF地区(182㎡)について、追加調査することとなった。これにより、平成22年度の調査面積は7,716㎡となった。

平成23年度は、D地区(2,670㎡)、G地区(1,454㎡)、H地区(180㎡)の計4,404㎡を調査することとなった。調査計画の作成中、木古内町教育委員会から、平成23年2月から3月にかけて、木古内町建設水道課が、G地区およびH地区の北東側で工事を実施した旨の連絡があった。関係機関と協議の結果、破壊された包含層部分については遺構確認範囲とし、面積については減じないことで調整が行われた。

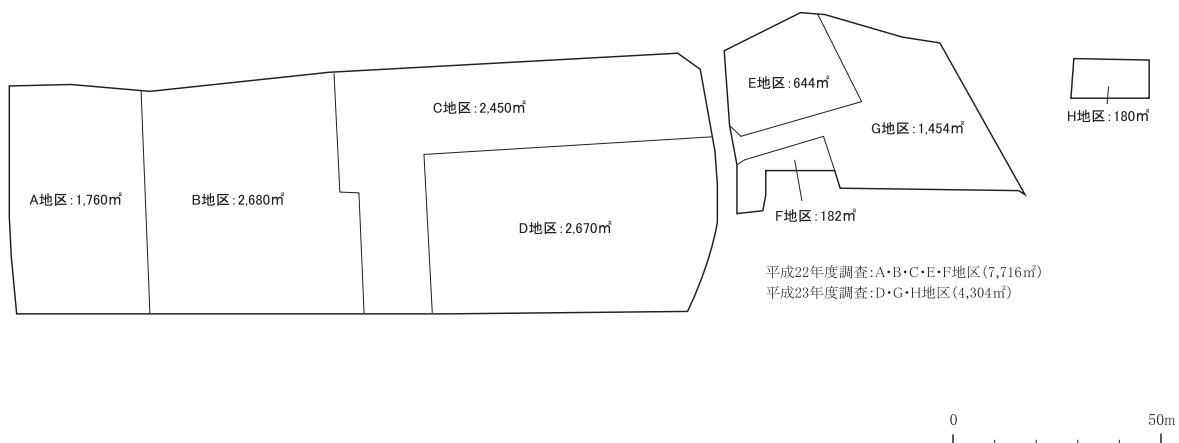


図 I - 1 調査範囲図

調査は、できる限り工事を急ぎたいとの事業者の要請を受け、調査が終了した地区について、順次引き渡しを行った。引き渡し日は、H地区は5月30日、G地区は6月6日、D地区の東側が6月27日、D地区の残りが7月15日である。

平成22年・23年の2か年で調査した面積の合計は、12,020m²となった。

(村田 大)

4. 調査結果の概要

平成22・23年度の調査で確認した遺構は、竪穴住居跡31軒、土坑153基、Tピット9基、溝状遺構1か所、焼土5か所、フレイク集中4か所である。

竪穴住居跡は、縄文時代早期後半、縄文時代前期後半、縄文時代後期前葉、擦文文化期のものがある。早期の住居跡は、東釧路Ⅱ式相当の時期である。

土坑は、縄文時代早期後半、縄文時代前期後半、縄文時代後期前葉のものが主体である。直径1m未満のフラスコ状の土坑が、調査区南西側と北側にまとまって分布する。また、近世以降の和人の土坑墓が1基検出している。

溝状遺構は幅37cm、深さ40cm程の溝が27mにわたってみられるもので、擦文文化期の木柵設置のための布掘り跡の可能性はある。

出土した遺物は、土器等42,373点、石器等96,197点、金属製品4点である。土器は、縄文時代早期後半の東釧路Ⅱ式相当土器、東釧路Ⅳ式土器、縄文時代前期の円筒下層式土器が多く、ついで縄文時代後期前葉の土器、少量ではあるが、縄文時代早期の貝殻条痕文土器、東釧路Ⅲ式土器、中茶路式土器、縄文時代前期の春日町式土器、円筒土器上層a式、縄文時代晩期の土器、擦文土器などが出土している。

石器は、剥片石器ではスクレイパー、石核、フレイク、礫石器ではたたき石、扁平打製石器が多い。

表I-1 遺物集計表

	細分類	遺構	包含層
土器	I a		2
	I b	6,103	16,428
	II a	249	10
	II b	7,177	7,869
	III a	99	21
	III b		4
	IV a	972	2,675
	IV c	64	2
	V	10	255
	VI		21
VII	69	49	
	陶磁器など		113
	不明		4
土製品等	土製品	4	6
	焼成粘土塊	88	79
	計	14,835	27,538

金属製品	船釘・キセル		4
------	--------	--	---

	細分類	遺構	包含層
石器等	石刃鎌		1
	石鎌	58	174
	石槍またはナイフ	15	75
	両面調整石器	42	130
	石錐	48	71
	つまみ付きナイフ	47	206
	筥状石器	5	17
	スクレイパー	318	857
	楔形石器		2
	石核	159	270
	Uフレイク	277	544
	Rフレイク		93
	フレイク	27,365	46,408
	石斧	23	45
	たたき石	80	233
	すり石	21	40
	北海道式石冠	5	10
	石鋸	5	2
	扁平打製石器	119	108
	砥石	63	48
	石錘	3	33
	台石・石皿	34	28
	加工痕ある礫	2	6
礫・原石	6,967	11,107	
石製品	8	24	
旧石器	細石刃核	1	
	計	35,665	60,532

出土遺物	遺構	包含層	総計
点数	50,500	88,074	138,574

剥片石器はほとんどが頁岩製である。また、頁岩製の石刃鎌が1点出土している。

旧石器は、H-10覆土から細石刃核が1点のみ出土した。

金属製品はキセルが3点出土した。

(愛場 和人)

5. 遺跡の位置と環境

木古内町は、北海道の南西部、渡島半島の函館湾の西側に位置する。函館市と松前町のほぼ中間に位置し、函館市からは約42km西にあたる。北東側は北斗市、北西側を厚沢部町、西側を上ノ国町、南側を知内町と町界を接している。南部は津軽海峡に面し、晴れた日には青森県下北、津軽両半島を眺望できる。

町の地形は、細長く幅の狭い平坦地が東西15kmの海岸線に沿って発達し、海岸より数百メートル内陸には、海岸段丘と、北側の急峻な山間部から津軽海峡へと注ぐ大小河川により形成された河岸段丘が帯状に続く。また町域全体の9割近くが海拔100~500mの山岳・丘陵地帯である。山林の多くはスギの植林地であり、畑地・牧草地として利用されている場所もある。市街中心部は、町南部の木古内川、佐女川両河口付近の比較的広い平坦部に形成されている。

木古内遺跡は、J R江差線木古内駅から北東へ約1kmの海岸段丘上にあり、現海岸線からは直線距離で400m程山側に位置する。調査区は、標高約6~12mで、北から南へ緩やかに傾斜する。調査区南西端では、旧河川の跡が検出した。調査前の現況は、J R江差線と平行に走る町道に挟まれた住宅地である。

6. 周辺の遺跡

平成25年度までに掲載されている木古内町の遺跡は、52か所である。遺跡の位置や概要は、木古内2遺跡(1)・(2)(北埋調報278・293)でまとめられている。ここでは、平成21年度より平成25年度までに、町内で発掘調査が行われた遺跡について述べる。

木古内町内の遺跡は、平成21年度より北海道新幹線建設工事に伴い、大平遺跡、大平4遺跡、蛇内2遺跡、木古内遺跡、木古内2遺跡、新道4遺跡、高規格幹線道函館江差自動車道建設工事に伴い、大平遺跡、釜谷8遺跡、札苅5遺跡、札苅6遺跡、札苅7遺跡が、それぞれ公益財団法人(平成23年度まで財団法人)北海道埋蔵文化財センターにより調査されている。

大平遺跡は、平成21~23年度に新幹線建設工事に伴う調査、平成25年度に高規格幹線道建設工事に伴う調査が行われた。平成21~23年度の調査では堅穴住居跡55軒、土坑230基(うちフラスコ状土坑83基、柱穴状土坑106基)、焼土94か所、礫集中2か所、剥片集中130か所、盛土遺構(縄文時代前期後半~中期初頭)などを検出した。遺物点数は約180万点で、土器は縄文時代前期後半の円筒土器下層式が主体で、縄文時代晩期の土器や擦文土器もある。また珧状耳飾り、棒状垂飾、北海道式石冠に似た小型の軽石製石製品なども出土している。平成25年度の調査は先の調査の30mほど海側で行われた。縄文時代晩期中葉の土坑墓を3基検出し、土器や漆塗りの縦櫛、サメの歯などが出土している。

大平4遺跡は、平成21・22年度が新幹線建設工事、24・25年度が高規格幹線道建設工事に伴う調査が行われた。平成21・22年度の調査では縄文時代早期後半の堅穴住居跡2軒、土坑28基、焼土3か所、剥片集中16か所を検出し、平成24・25年度は縄文時代中期後半の堅穴住居跡11軒、土坑17基、焼土15か所、剥片集中13か所などを検出した。

蛇内2遺跡は、平成21~23年度まで調査が行われた。堅穴住居跡15軒(うち縄文時代後期前葉10軒)、土坑96基などを検出した。



図 I - 2 遺跡の位置と周辺の地形

木古内2遺跡は、平成21・22年度に調査が行われた。台地平坦部から竪穴住居跡6軒、フレイク集中1か所を検出した。遺構の時期は縄文時代前期後半の円筒土器下層c～d式頃である。また、台地から続く、標高3～7mの低位部を調査し、縄文時代前期後半の円筒土器下層b式が主体的に出土したほか、縄文時代後期前葉の壺がほぼ完形で出土した。

札苺5遺跡、札苺6遺跡は平成23年度に調査が行われた。

札苺5遺跡は、縄文時代前期後半の竪穴住居跡9軒、Tピット6基、小ピット126基、焼土6か所、フレイク集中2か所を検出したほか、旧石器時代の石器群も確認されている。

札苺6遺跡は、竪穴住居跡（縄文時代中期後半、後期前葉）13軒、土坑（主に縄文時代中期後半）71基、焼土20か所、埋設土器3か所、遺物集中5か所、フレイクチップ集中3か所を検出した。また、縄文時代中期の土偶片が複数みつき、三角形石製品、大珠なども出土している。

釜谷8遺跡は、平成23年度より平成24年度まで調査が行われた。竪穴住居跡2軒、土坑27基、Tピット3基、柱穴状ピット15基、焼土65か所、フレイクチップ集中36か所を検出した。土器は、縄文時代後期前葉土器のほか、貝殻文土器、爪形文が施された縄文時代早期中葉の土器も出土している。石器は、篋状石器のトランシェ様石器が多く出土した。

札苺7遺跡は、平成25年度に調査が行われ、縄文時代後期前葉の竪穴住居跡4軒、後期後葉8軒、土坑45基、焼土9か所などを検出した。土坑は、底面の直径が2m程の大型のフラスコ状土坑が12基検出している。

新道4遺跡は、平成25年度に調査が行われた。昭和59～61年度に調査されたB・C・D・G地区に隣接する745m²を調査し、竪穴住居跡10軒、土坑41基、柱穴様小ピット52基、焼土14か所、盛土1か所を検出した。盛土は調査区南西界に一部が確認されたもので、時期は縄文時代後期前葉である。

（新家 水奈・愛場）

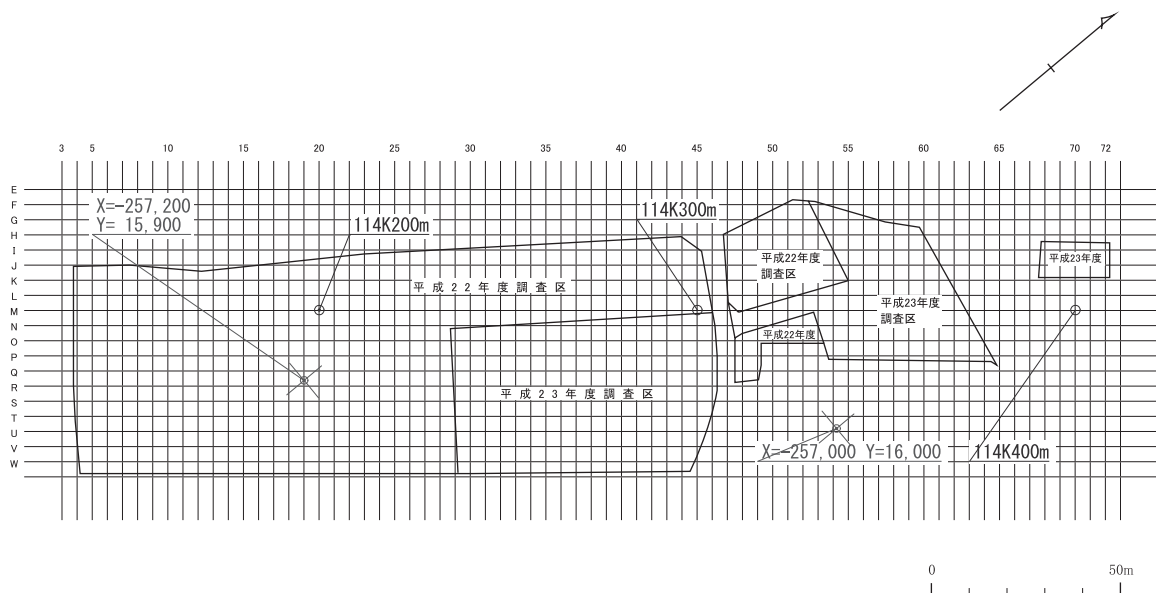
II章 調査の方法

1. 発掘区の設定

基図は、「北海道新幹線 新青森起点 113K500m～114K300付近 補助基準点網図」（平成20年）を使用した。北海道新幹線計画中心線（センター）を基線とし、「Mライン」とした。南西から北東方向で、遺跡付近の114K200m～114K400mの間は直線である。また、114K200mでこの基線と直交する線を設け、算用数字を付した。基線の方向角は $39^{\circ}50'53''$ である。

グリッドは4m区画とし、Mラインから北西方向へL、K、J～Eと降順し、南東方向へN、O、P～Xの平行するラインを設けた。これと直交する数字ラインは、114K200mを「20ライン」とし、南西から北東側へと昇順する。グリッドの呼び名は、南西側の杭名とし、アルファベットと算用数字を列記した。

平成22・23年度ともに、北海道新幹線建設のために設置されていた、既設3級基準点、3-NO.8（3008）と3-NO.9（3009）を使用した。水準測量は、標高値のある後者の基準点から行った。



図II-1 グリッド設定図と年度別調査区

表II-1 測量基準点一覧表

杭名	種類		世界測地系				真北 方向角 ($^{\circ}$ $'$ $''$)	標高 (m)	備考
			平面直角座標 X I系 (m)		地理座標 ($^{\circ}$ $'$ $''$)				
			X	Y	北緯	東経			
114K200m	北海道新幹線 計画 中心線	平成22年度 調査区 グリッド杭: M-20	-257,184.967	15,888.289	—	—	—	8.637	平成22年度 基線 南西側基準杭
114K300m	北海道新幹線 計画 中心線	平成22年度 調査区 グリッド杭: M-45	-257,108.192	15,952.365	—	—	—	11.328	平成22年度 基線 北東側基準杭
114K400m	北海道新幹線 計画 中心線	調査区外 M-70	-257,031.418	16,016.440	—	—	—	—	平成23年度 基線上杭
3-NO.8 (3008)	既設3級基準点	北海道新幹線建設局 平成17年7月24日 新設	-257,509.321	15,634.604	41 40 53.7	140 26 16.1	-0 07 29.6	10.622	「点の記」 GPS測量 埋設
3-NO.9 (3009)	既設3級基準点 BM	北海道新幹線建設局 平成17年7月24日 新設	-257,225.161	15,838.304	41 41 02.9	140 26 24.9	-0 07 35.5	7.768	「点の記」 GPS測量 埋設
Nライン (南西-北東) 基線 方向角		$39^{\circ}50'53''$		各 杭間 直線距離		100m			

2. 基本層序

観察方法

土層の観察は、『土壤調査ハンドブック』（ペトロジスト懇話会1984）・『新版標準土色帖』を参考に、必要な項目を設け行った。

基本層序

I層：現地表土 耕作土や盛土、攪乱層など

II層：黒色土層

黒色（10YR1.7/1～2/1）壤土～埴壤土で、粘着性は中、堅密度は堅、III層層界は判然である。層厚は20～60cmで、近代から縄文時代早期の遺構・遺物を包含する。

II層中で2つの火山灰が認められた。

駒ヶ岳dスコリア（K o - d 噴出年代1640年）は、調査区南西側旧河道部でみられた。色調は灰白色（10YR 8/1）、層厚は1～3 cm程で、点在する。白頭山苦小牧降下スコリア（B - T m 噴出年代10世紀）は、擦文文化期の遺構上位のII層中でみられた。色調は暗褐色（10YR 3/4）、層厚は8 cm程である。2次堆積層で腐植土と混在する部分もある。

縄文時代前期、後期の竪穴住居跡窪みのII層中では、赤褐色土がレンズ状に堆積していた。当センター花岡による検鏡（H-8～10試料）によれば、「どの試料も多量のプラントオパールを含み、鉱物は角閃石、輝石、雲母、鉄-チタン鉱物、長石、火山ガラスなどがある。鉱物は角が丸く、破片状となることから、土の母材は風成塵である。赤味色は熱による高温酸化によるもので、函館市中野A遺跡、中野B遺跡、石倉貝塚でみられたP. D. 3と同様の土」とのことである。起因は不明だが、自然焼土の堆積と考えられる。

III層：漸移層

暗褐色（10YR 3/3）～灰黄褐色（10YR 5/2）壤土で粘着性は中～強、堅密度は堅、IV層層界は漸変である。層厚は2～15cmである。

IV層：ローム質土

褐色（10YR 4/6）壤土で粘着性は強、堅密度は堅である。調査区南西側の舌状台地縁では水つきとなり、グライ化し、明褐灰色（7.5YR 7/2）となる。

土層断面図

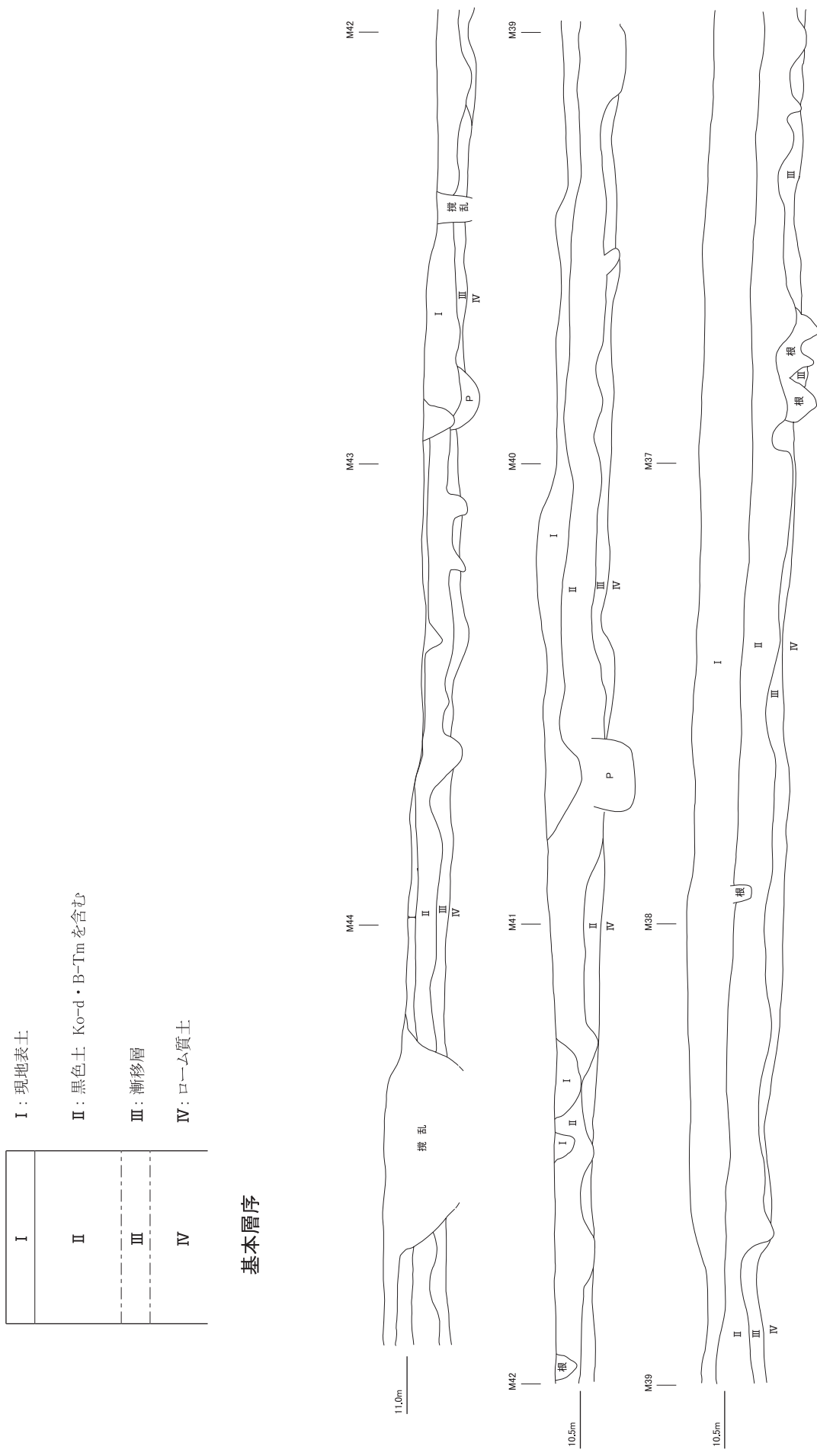
比較的攪乱の影響が少ない調査区ほぼ中央のM36～M45ラインの土層断面図を掲載した。

3. 調査の方法

はじめに建設機械によりI層（住宅基礎の一部、ブロック塀、敷き砂利等）の除去作業を行った。調査区域は住宅地で、その造成により広く削平・攪乱を受けており、IV層まで削平される範囲もあった。

II層からIV層までは人力により掘り下げた。包含層調査は層ごとに掘り下げ、出土遺物はグリット・層ごとに取り上げた。II～IV層で遺構・包含層を調査し、遺構がない場合はIV層上面で調査を終了した。またP・Q・T・Vの15ラインでは旧石器確認のためIV層を幅1 m、深さ1 m程を人力で掘り下げたが、遺物は出土しなかった。

遺構調査はトレンチ、半截等で土層を観察し、壁・床面・底面の確認により遺構であるかを判断した。土層断面を記録後、全体を掘り下げ完掘した。遺物は状況の良い土器や石器について出土状況や



図II-2 基本土層図と土層断面図

出土位置を記録した。住居跡では床面の土器・石器のみ位置を記録したものがあつた。それ以外は層ごとにまとめて取り上げた。

地形測量図は、表土除去後地形と最終地形について作成した。

4. 整理の方法

一次整理

現場での遺物の取り上げは、ビニール袋に「遺跡名（略：キ）・出土地点（遺構名・グリッド）・出土層位・遺物種別・取り上げ番号（出土位置記録のもの）・取り上げ年月日」の情報を記し、遺物を収納した。遺物は水洗・乾燥後、分類を行い、出土地点・出土層位・取り上げ番号・取り上げ年月日の情報を「遺物カード」に記載した。遺物カードの情報は遺構別・グリッド別に遺物台帳に記載していった。土器については2 cm以上を目安に注記作業を行った。内容は「キ・遺構グリッド名・層位・（取り上げ番号）」で、ポスターカラーとクリアラッカーを使用した。

二次整理

遺物台帳を Excel に入力し、データ化を行い、二次整理作業の基礎データとした。

土器は分類ごとに接合を行い、遺構、包含層の順序で作業を進めた。接合作業後、復原可能のものは番号を与え、復原作業を行った。その後立面図等の実測図を作成した。破片は接合により大きくなったもの、特徴が認識しやすい口縁部や底部の破片を中心に選び出し、拓影図および垂直方向の断面図を組み合わせて図示した。掲載土器は観察表を作成した。

石器は遺構の石器について接合を行った。石器は完形のものを中心に器種や形態の多様性を示せることを考慮し、掲載する石器を選び出し、実測図を作成した。

遺物は集計し、その結果を出土点数表、出土分布図にまとめた。

5. 遺物の分類

土器の分類

土器は（公財）北海道埋蔵文化財センターの一般的な分類に準じ、縄文時代早期から擦文文化期に至るまでⅠ～Ⅶ群に分類し、遺物の出土のみられる時期については細分類を使用している。

Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器群

a 類：貝殻・沈線文系土器群および条痕文系土器群

b 類：縄文・撚糸文・絡条体圧痕文・貼付文・縄線文のあるもの

b 1 類：東釧路Ⅱ・Ⅲ式に相当するもの

b 2 類：コッタロ式に相当するもの

b 3 類：中茶路式に相当するもの

b 4 類：東釧路Ⅳ式に相当するもの

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの

a 類：胎土に繊維を含み厚手で縄文が施された丸底・尖底の土器群

b 類：円筒土器下層式に相当する土器群

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

a類：天佑寺式・涌元式・トリサキ式・大津式・白坂Ⅲ式に相当するもの

b類：ウサクマイC式・手稲式・ホッケマ式に相当するもの

c類：堂林式・三ツ谷式・湯の里3式に相当するもの

V群 縄文時代晩期に属するもの

VI群 続縄文時代に属するもの

VII群 擦文文化期に属するもの

土製品等 紡錘車、再生土製円盤、土器片錘がある

石器等の分類

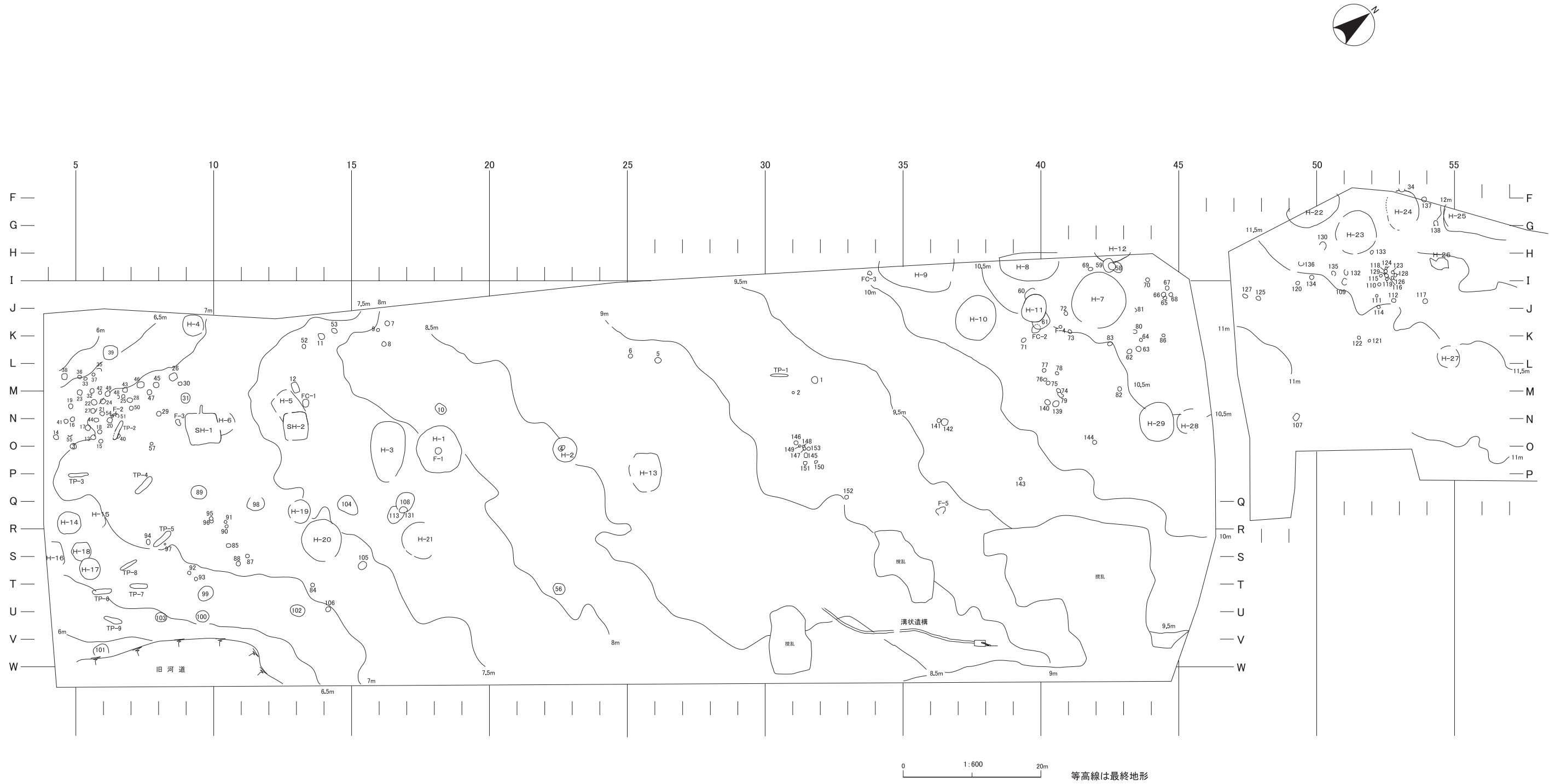
分類に使用している器種名称は以下のとおり

縄文時代の石器

石刃鏃、石鏃、石槍またはナイフ、両面調整石器、石錐、つまみ付きナイフ、筒状石器、スクレイパー、楔形石器、Rフレイク、Uフレイク、フレイク、石核、石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、扁平打製石器、石鋸、砥石、台石、石皿、加工痕ある礫、礫、原石、石製品

旧石器

細石刃核



図III-1 遺構位置図

Ⅲ章 遺構とその遺物

1. 概要

確認した遺構は、竪穴住居跡31軒、土坑153基、Tピット9基、溝状遺構1か所、焼土5か所、フレイク集中3か所である。

竪穴住居跡の時期は、縄文時代早期（H-1～3・13・19～21）、縄文時代前期後半（H-7～12・22～26・28・29）、縄文時代後期前葉（H-4・6・14・15・17・18）、擦文文化期（SH-1・2）などがある。分布域は明瞭に分かれ、縄文時代早期の住居跡は、調査区12～26ラインの標高7～9mの範囲、前期後半の住居跡は、調査区北側34～55ラインの標高10～12mの範囲、後期前葉の住居跡は、調査区南西の標高6～7mの範囲、擦文文化期の住居跡は、9～14ラインの標高7～8mの範囲にそれぞれ分布する。

土坑は、平面形が直径1m未満の円形・不整形で、断面形がフラスコ状になるものが多く、これらは調査区南西の旧河道近くと、調査区北側30～55ラインの標高9～12mの範囲とに、まとまって分布する。時期は、出土遺物から南西端側が縄文時代前期後半から後期前葉、北側が早期後半（東釧路Ⅳ式期）の可能性がある。これ以外の土坑は、平面形が直径1mを超える楕円形・不整形で、遺物を伴うものが多い。時期は縄文時代早期後半（P-96・102・104・105・108・112・113）、縄文時代前期前半（P-100・107）、縄文時代前期後半（P-58～61・89・99）、縄文時代後期前葉（P-11・19）、近世以降（P-12）などがある。P-12は底面から人骨を検出したもので、人骨鑑定や放射性炭素年代測定結果などから近世以降の土坑墓と考えられる。

溝状遺構は、幅約30cm、深さ30～40cmの溝が27mにわたって、等高線に沿ってみられるものである。底面では、柱穴が数か所で確認され、木柵跡の可能性もある。溝覆土にはB-Tm火山灰が堆積するため擦文文化期の遺構と考える。

Tピット・焼土・フレイク集中の時期は縄文時代である。Tピットは舌状台地先端部に分布する。

2. 竪穴住居跡

SH-1（図Ⅲ-2・3 図版3）

位置 M8・9・10/N8・9・10/O9・10 立地 標高約7.5mの平坦面に位置し、北東約9mにSH-2がある。縄文時代の竪穴住居跡（H-6）を切る。

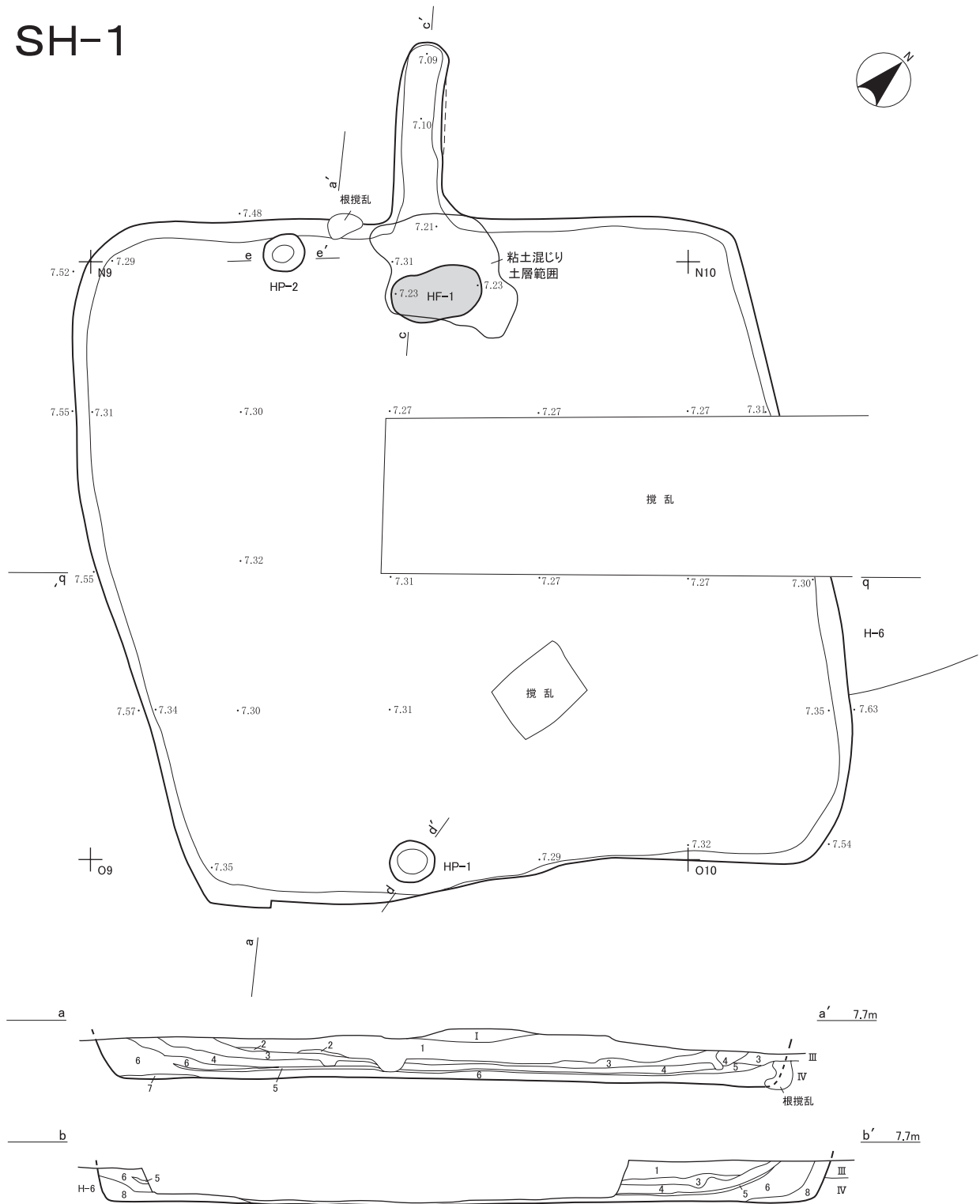
規模 4.71×4.44/4.53×4.3/0.31m 平面形 菱形

調査 II層下部～IV層面で、黒色・黒褐色土の隅丸方形の堆積を確認した。セクションaラインより西側ではII層面が残存していたが、それ以外はIV層まで削平されていた。土層観察ベルトを設定し、全体を掘り下げ、床面・壁を検出した。カマド周辺と床面では、土壌を採取し、フローテーションにより微細遺物を回収した。カマドとHF-1採取の炭化材2点については、放射性炭素年代測定を行った（付篇2・4参照）。

覆土 8層に分層した。覆土1～5は自然堆積層である。覆土4は白頭山-苫小牧降下火山灰（B-Tm）で、4～8cm程の厚さではほぼ住居の窪み全体を覆っていたようである。その直下には黒色土層（覆土5）が2～3cm堆積する。覆土6～8は屋根土などの崩落土と推測され、壁際で厚く堆積する。形態 平面形は菱形に近い隅丸方形で、床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

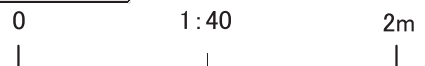
付属遺構 カマドおよび煙道と土坑2基（HP-1・2）を確認した。

SH-1

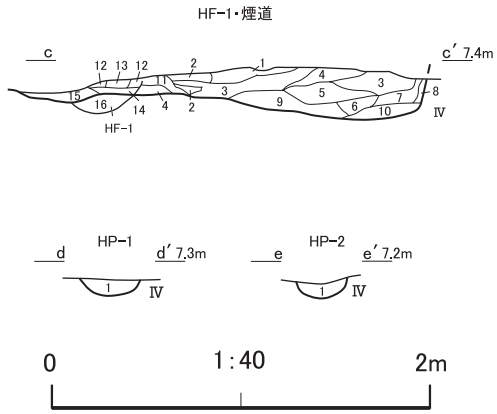


SH-1土層

層名	マンセル着色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/1	半褐色	壤土	中	堅	II>に多い黄褐色火山灰?
2	10YR3/1	黒褐色	壤土	弱	堅	II+火山灰?
3	10YR1.7/1	黒色	壤土	中	堅	II>IV小粒径
4	10YR3/4	暗褐色	シルト質壤土	中	堅	B-Tm火山灰
5	10YR1.7/1	黒色	壤土	中	堅	II>IV小粒径
6	10YR3/2	黒褐色	壤土	中	堅	II>IV
7	10YR3/3	黒褐色	壤土	中	堅	IV>III
8	10YR3/1	黒褐色	壤土	中	堅	II>IV



図Ⅲ-2 SH-1 (1)



SH-1煙道土層

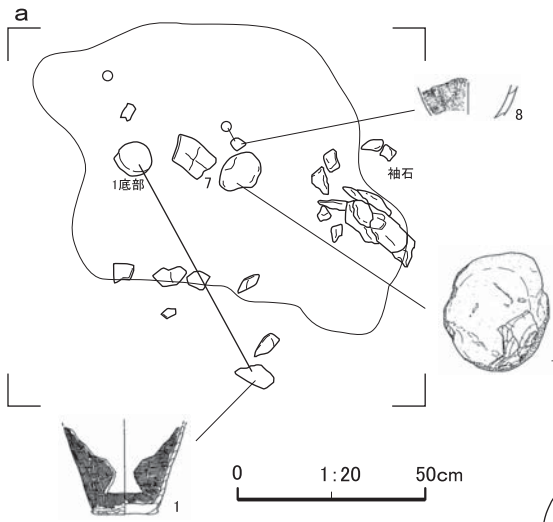
層名	マンセル染色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II>IV
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	埴壤土	弱	堅	粘土+礫
3	10YR3/2	黒褐色	壤土	中	堅	II>IV
4	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II>IV
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	壤土	中	軟	IV>II
6	10YR4/6	褐色	壤土	中	堅	IV>IIすじ状に混じる
7	10YR2/1	黒色	壤土	中	堅	II>IV
8	10YR4/6	褐色	壤土	中	堅	IV>II
9	10YR3/4	暗褐色	壤土	中	堅	IV>II
10	10YR1.7/1	黒色	壤土	中	しろう	II>IV
11	10YR2/3	黒褐色	壤土	中	堅	II>I2
12	7.5YR4/4	褐色	壤土	中	堅	礫
13	7.5YR3/4	暗褐色	埴壤土	中	堅	粘土+礫
14	7.5YR4/6	褐色	埴壤土	中~強	堅	粘土被殻
15	7.5YR3/3	暗褐色	埴壤土	中	堅	II>粘土小粒径
16	5YR4/6	赤褐色	壤土	中	すこぶる堅	粘土 IVが漸移的に被殻

SH-1HP-1土層

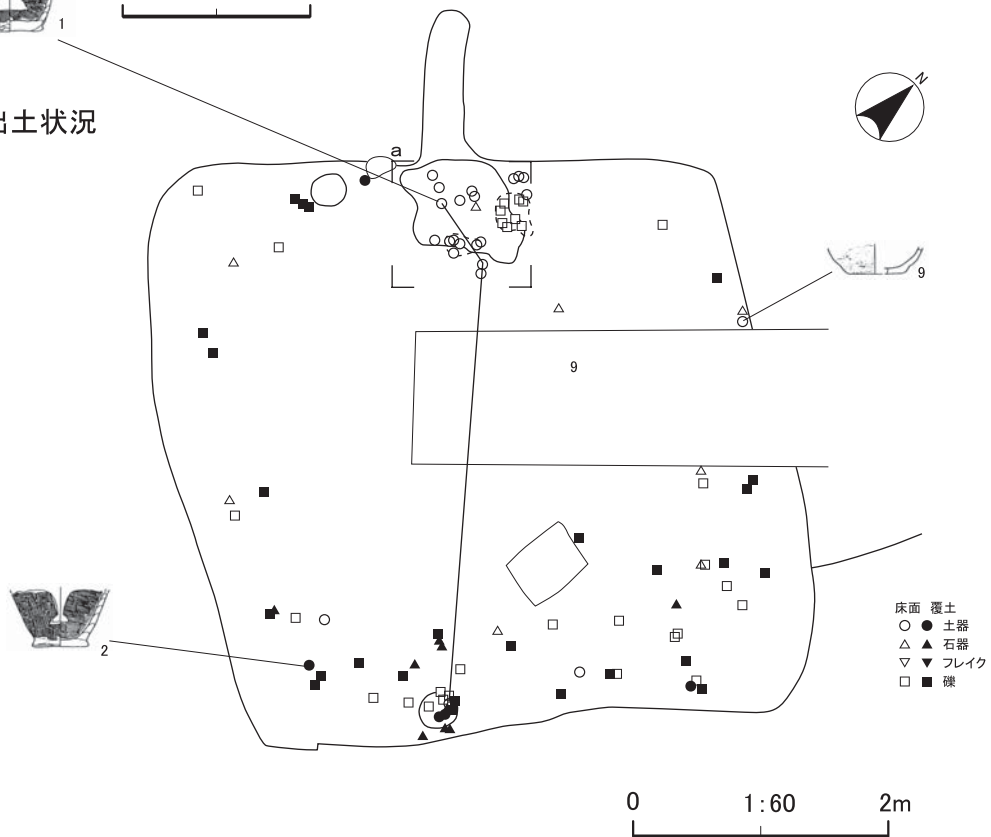
層名	マンセル染色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II>IV

SH-1HP-2土層

1	5YR4/4	にぶい赤褐色	壤土	中	堅	被殻した粘土+礫
---	--------	--------	----	---	---	----------

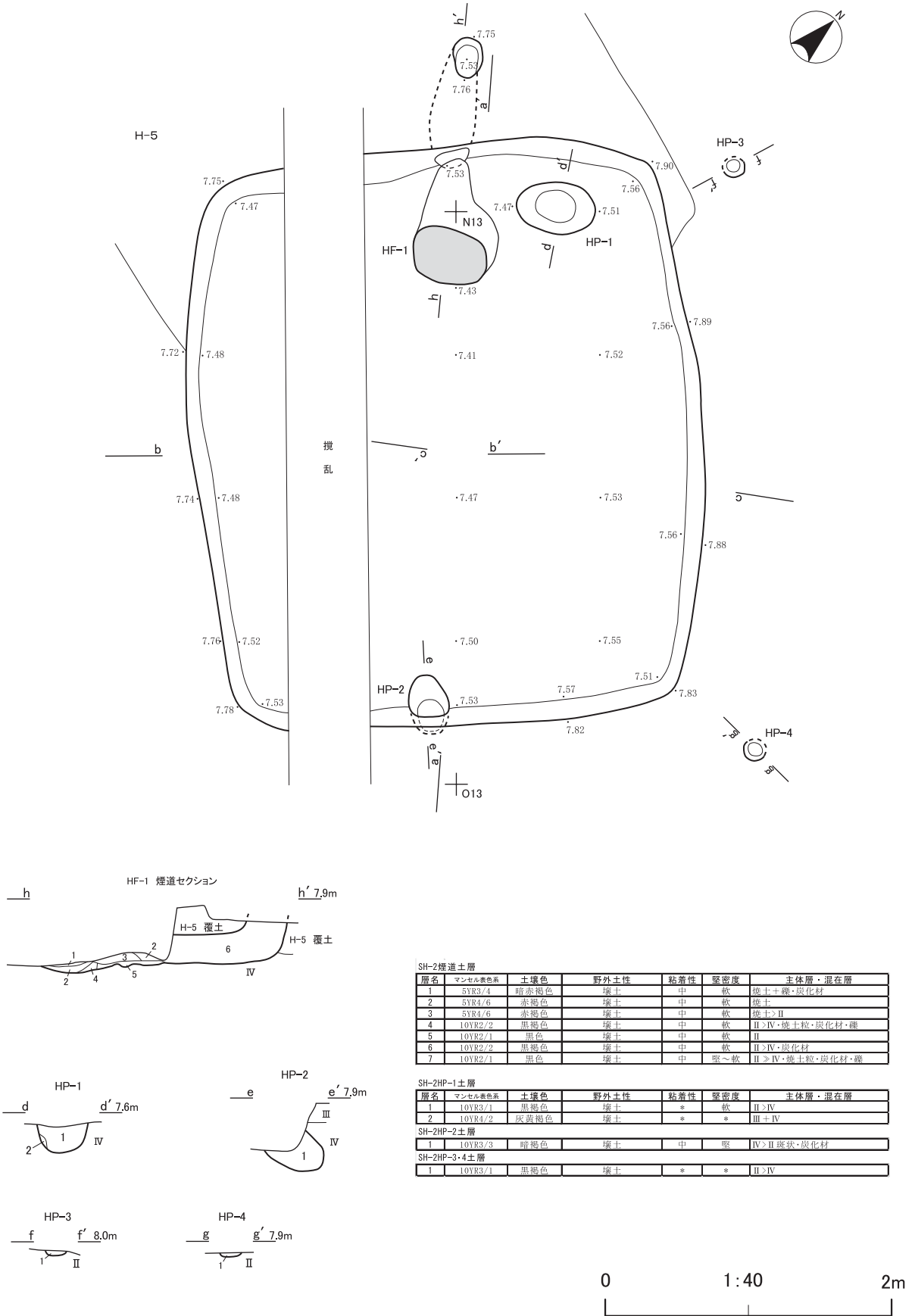


遺物出土状況



図III-3 SH-1(2)

SH-2



SH-2煙道土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	5YR3/4	暗赤褐色	壤土	中	軟	壤土+礫・炭化材
2	5YR4/6	赤褐色	壤土	中	軟	壤土
3	5YR4/6	赤褐色	壤土	中	軟	壤土>II
4	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	軟	II・IV・燧土粒・炭化材・礫
5	10YR2/1	黒色	壤土	中	軟	II
6	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	軟	II>IV・炭化材
7	10YR2/1	黒色	壤土	中	堅~軟	II>IV・燧土粒・炭化材・礫

SH-2HP-1土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/1	黒褐色	壤土	*	軟	II>IV
2	10YR4/2	灰黄褐色	壤土	*	*	III+IV

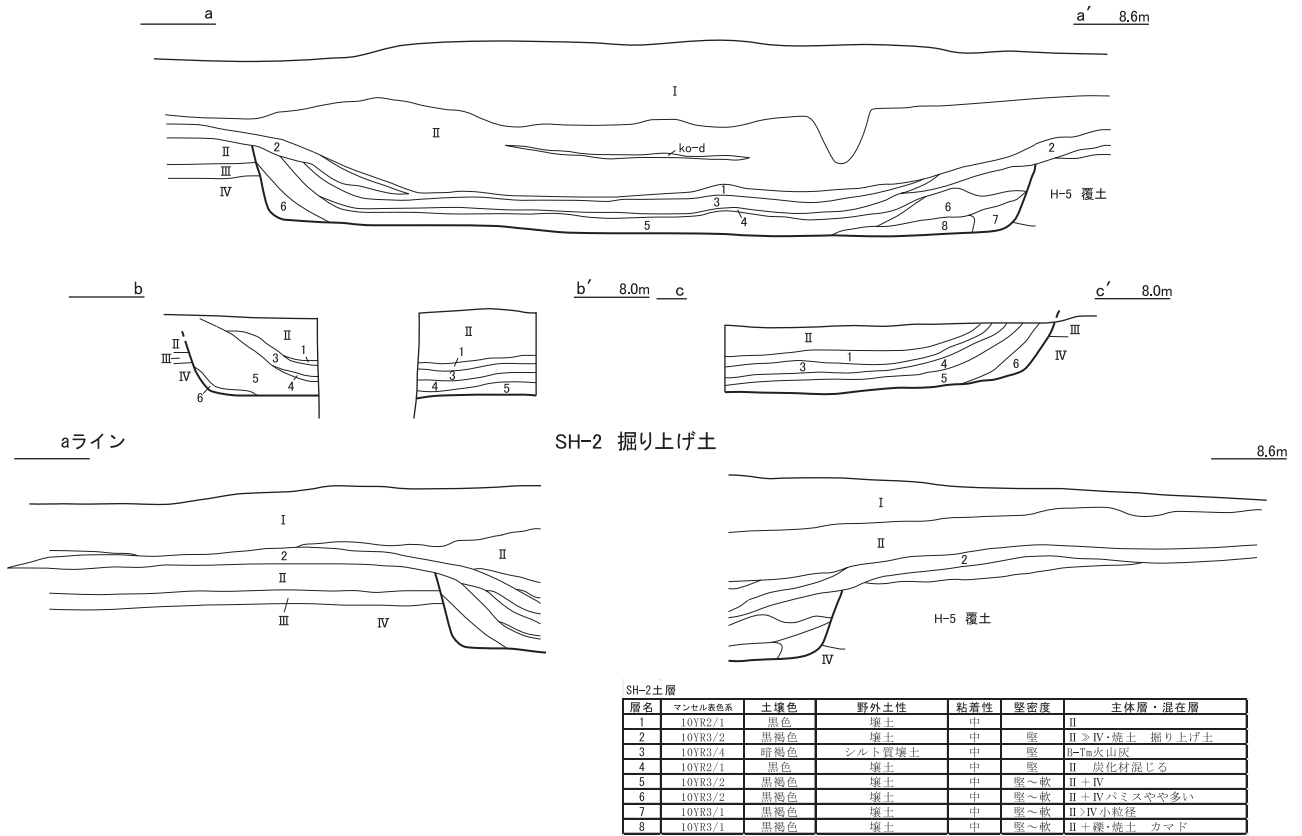
SH-2HP-2土層

1	10YR3/3	暗褐色	壤土	中	堅	IV>II斑状・炭化材
---	---------	-----	----	---	---	-------------

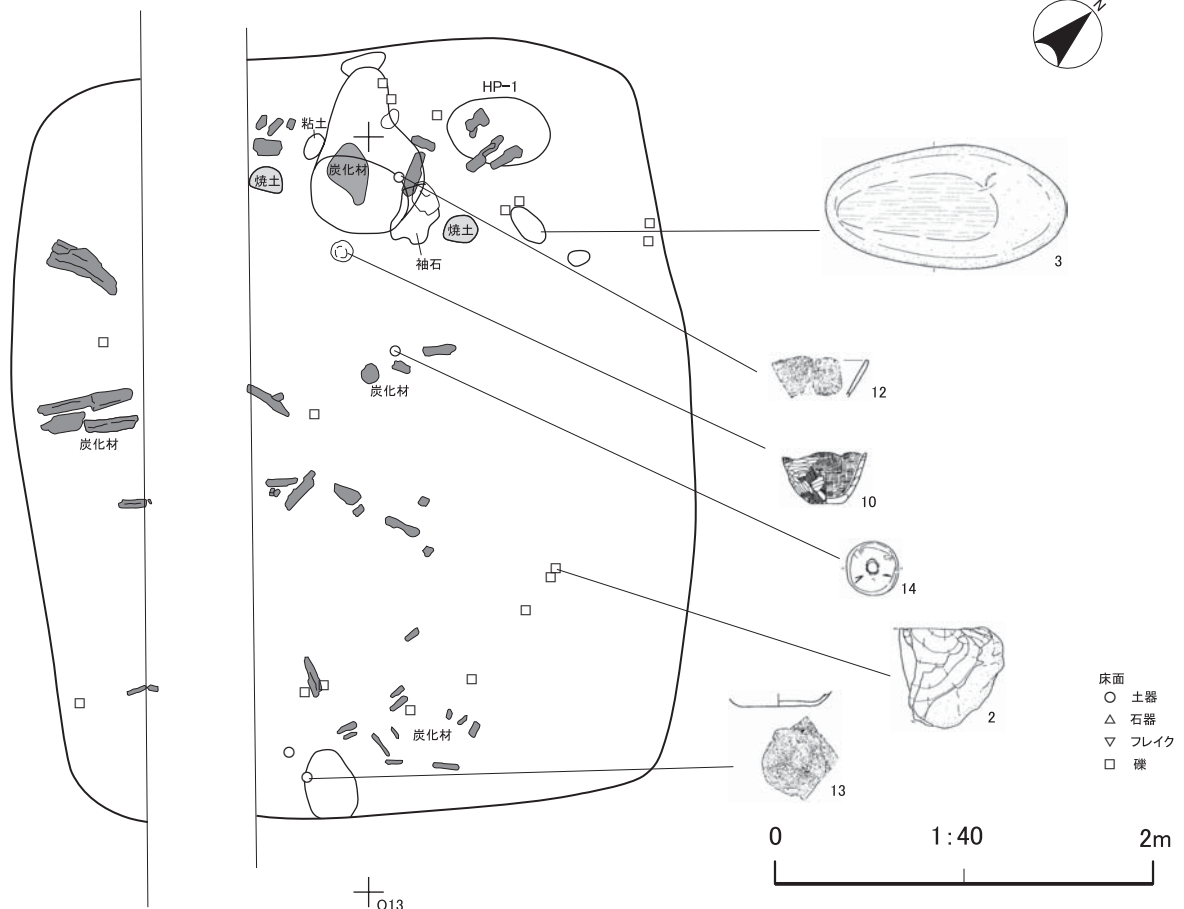
SH-2HP-3・4土層

1	10YR3/1	黒褐色	壤土	*	*	II>IV
---	---------	-----	----	---	---	-------

図Ⅲ-4 SH-2 (1)



遺物出土状況



図III-5 SH-2 (2)

カマドと煙道は北西壁の中央にあり、いずれも上部は削平されていた。カマド焼土は壁から20cm程離れた床面で検出し、その上部にカマド構築粘土と推測される礫や粘土塊混じりの粘土層があるのみで残存状況は悪い。カマド焼土の北東側では袖石とみられる扁平な角礫が破碎して出土した。焼土の平面形は長径約60cmの楕円形で、被熱層は9cm程である。

煙道は幅が約30cmで、壁から1.2m程まっすぐ突出する。深さは先端に向かって床面より10cm程深くなっている。煙道覆土中には褐色粘土が少量みられた。上部が削平されているが、側面壁が筒状になる部分がみられたことからトンネル式の煙道と考える。

HP-1・2は直径30cm程の平面形が円形となる小土坑で、断面は皿状となる。HP-2はカマドから西側へ60cm程の壁際にあり、粘土塊や礫混じりの焼土が充填する。柱穴は床面および住居周辺を精査したが検出しなかった。

遺物 遺物はⅦ群土器46点、たたき石1点、砥石1点、フレイク126点、礫85点など319点出土したが、縄文時代後期の竪穴住居跡を切って構築されるため、縄文時代の遺物が多い。擦文文化期の遺物はカマド周辺や壁際に分布する。

時期 出土遺物や住居構造から擦文文化期と考える。8世紀末頃の可能性がある。

(愛場 和人)

SH-2 (図Ⅲ-4・5 図版4)

位置 M12・13/N12・13 **立地** 標高約8mの平坦面に位置し、南西側9m程にはSH-1がある。縄文時代の竪穴住居跡(H-5)を切る。

規模 4.06×3.6/3.83×3.39/0.36m **平面形** 長方形

調査 II層調査中、B-Tm火山灰が周縁にみられる隅丸方形の黒色土の堆積を確認した。グリット13ラインに土層観察用のベルトを設定し、北東側から掘り下げていった。床面直上では炭化材が比較的良好に残る部分があり、位置を記録し、サンプルを採取した。平坦な床面と壁の立ち上がりを確認し、規模から住居跡と判断した。カマド周辺の土壌はフローテーションにより微細遺物を回収した。床面とHF-1土壌から採取した炭化材については樹種同定および放射性炭素年代測定を行った(付篇2・3・4参照)。

覆土 8層に分層した。覆土2は掘り上げ土と推測する。覆土3はB-Tm火山灰で、5~8cmの厚さで窪み全体に堆積する。その下部は薄い黒色土(覆土4)があり、それ以下では概ね黒褐色土が堆積する。

形態 平面形は北西-南東に長軸がある隅丸長方形である。床面は平坦で壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 カマド跡および煙道、土坑4基(HP-1~4)を確認した。

カマド跡と煙道は北西壁のほぼ中央にある。カマド構築粘土はほとんど残存しておらず、周辺には被熱した礫・焼土が混じる黒色・黒褐色土層がみられるのみである。カマド焼土は壁から40cm程離れた床面で検出し、平面形は長径50cm程の楕円形となる。カマド焼土東側には袖石とみられる板状礫が破碎して出土した。煙道は断面がL字となるトンネル式で、幅は20~30cm、壁から75cm程突出する。煙道の深さはほぼ床面と同レベルである。煙道覆土は概ね黒色土で、炭化材や被熱した小礫が少量混じる。

HP-1はカマド北側、HP-2は南西壁際の中央にある。HP-2は壁側に斜めに掘り込まれている。覆土は黒色土とIV層起源の黄褐色土が斑状に混じる。HP-3・4はそれぞれ住居北と西角の外側50~60cmで確認した。深さは3cm程で、外柱穴の可能性はある。

掘り上げ土は土層断面での確認で、平面形は不明である。色調は黒褐色で、最厚部分で10cm程とな

る。住居周囲2.5m程の範囲に広がっていたようである。

遺物 遺物は、Ⅶ群土器23点、すり石1点、礫518点など751点出土した。小型の完形土器(図Ⅲ-102-10)がカマド焼土南側床面から出土した。礫は、棒状礫が多く、住居南西側覆土を中心に出土した。

時期 出土遺物や住居構造から擦文文化期と考える。8世紀末頃の可能性がある。(愛場)

H-1 (図Ⅲ-6~8 図版5)

位置 N17・18/O17・18/P17・18 **立地** 標高約8mの平坦面に位置し、南西にはH-3がある。

規模 6.96×6.68/5.96×5.64/0.96m **平面形** ほぼ円形

調査 N・O18区のⅡ層が周囲のグリッドより深く落ち込む状況を確認した。下水道の攪乱を掘りぬいたところ、ローム質土層中から遺物が検出した。このため付近を精査すると、住居跡の一部を検出し、その覆土に遺物が入っていることが確認された。住居跡周辺の包含層調査がⅢ~Ⅳ層に達し、O18杭を中心に直径約7mの円形にⅡ層が落ち込むのが確認された。これをH-1とし、杭を中心に幅50cmのベルトをほぼ東西・南北方向に設定し、周囲の包含層を掘り進めた。

Ⅱ層を30cmほど掘り下げると、住居跡の覆土上面である黄褐色土層が平坦に検出され、窪みの中央付近で焼土(F-1)を1か所検出した。この面付近では縄文時代早期後半の土器片や頁岩フレイクのまとまりなどが出土しており、窪み内で石器作りなどの作業が行われていたものとみられる。検出面からの深さは住居跡西側で約1mあり、東側ほど浅くなり、壁の立ち上がりも緩やかになる。床面は南西側で緩やかな凹凸がみられるが、全般に平らであったが、炉跡は検出されなかった。

覆土 住居跡上位にはⅡ層の黒色土が落ち込み、下位は全般にⅣ層起源のローム質土壌が層厚50cmで堆積する。下位に堆積する土量から上屋構造は土葺であったとみられる。

形態 長径約7m、短径約6.7mのほぼ円形の住居跡である。

付属遺構 小土坑17か所(HP-1~17)を確認した。このうち柱穴の可能性があるものはHP-1の1か所だけである。ただ、HP-17付近の壁際で検出された柱穴の痕跡とみられるものの状況から、削りすぎで失われているが、壁際には小柱穴が並んでいた可能性がある。

遺物 遺物は2,700点出土した。覆土では全般に頁岩フレイクが2,167点出土し、覆土上部ではI群b-1類土器がみられた。石器では石鎌、石槍またはナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石核のほか、早期と思われる赤身を帯びた蛇紋岩製の石斧、砂岩製のたたき石、すり石なども出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(土肥 研晶)

H-2 (図Ⅲ-9 図版6)

位置 N22・23/O22・23 **立地** 標高8.5m付近の平坦面

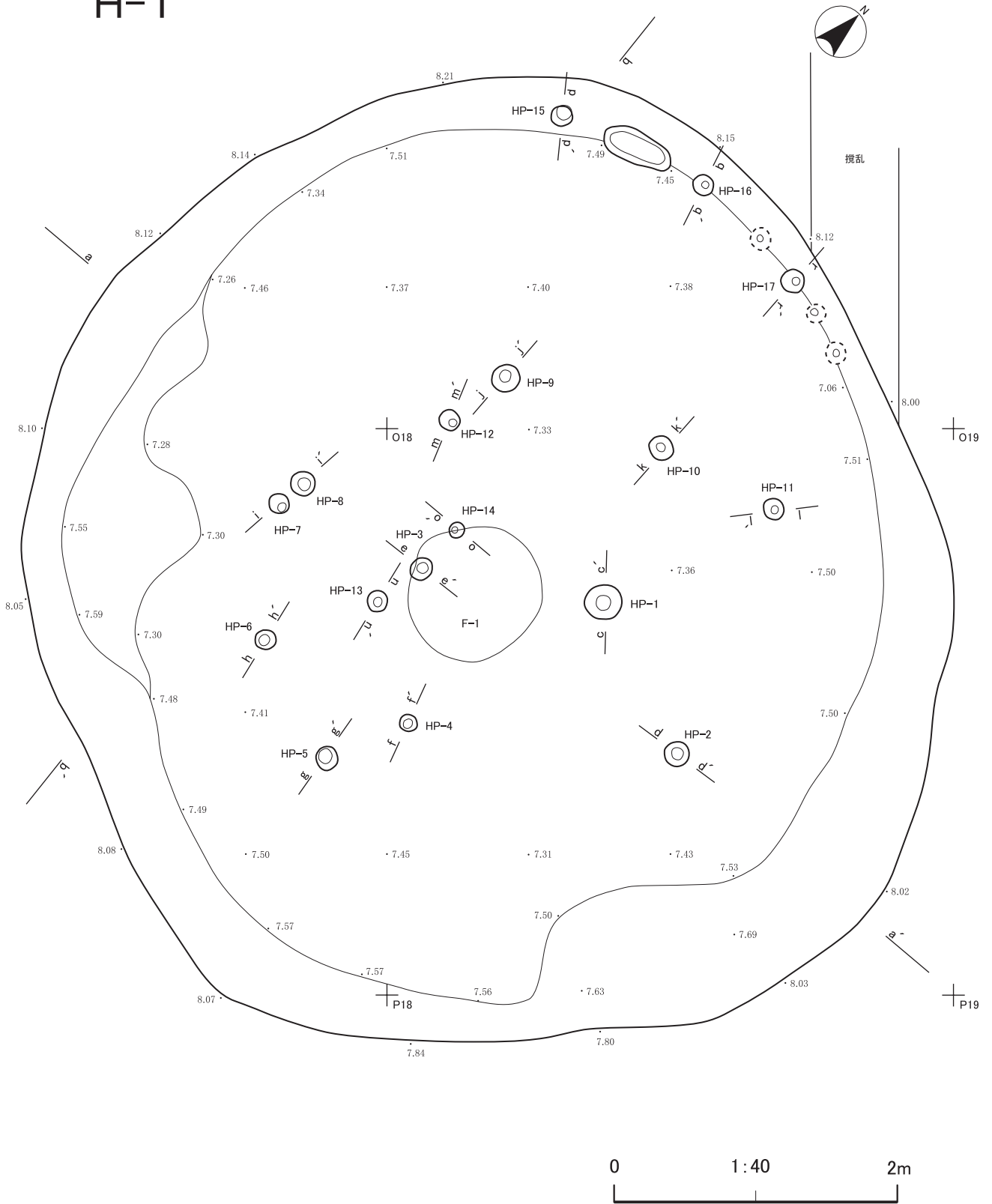
規模 3.66×3.39/3.45×3.17/0.28m **平面形** 円形

調査 Ⅳ層面で黒色~黒褐色土の円形の堆積を確認した。土層観察用のベルトを残し周囲を掘り下げていったところ、ベルトに土坑の覆土断面がみられた。このため土坑(P-4)を先行して調査した。その後、確認面から30cm程下で床面と壁の立ち上がりを確認し、規模や平坦な床面から竪穴住居跡と判断した。

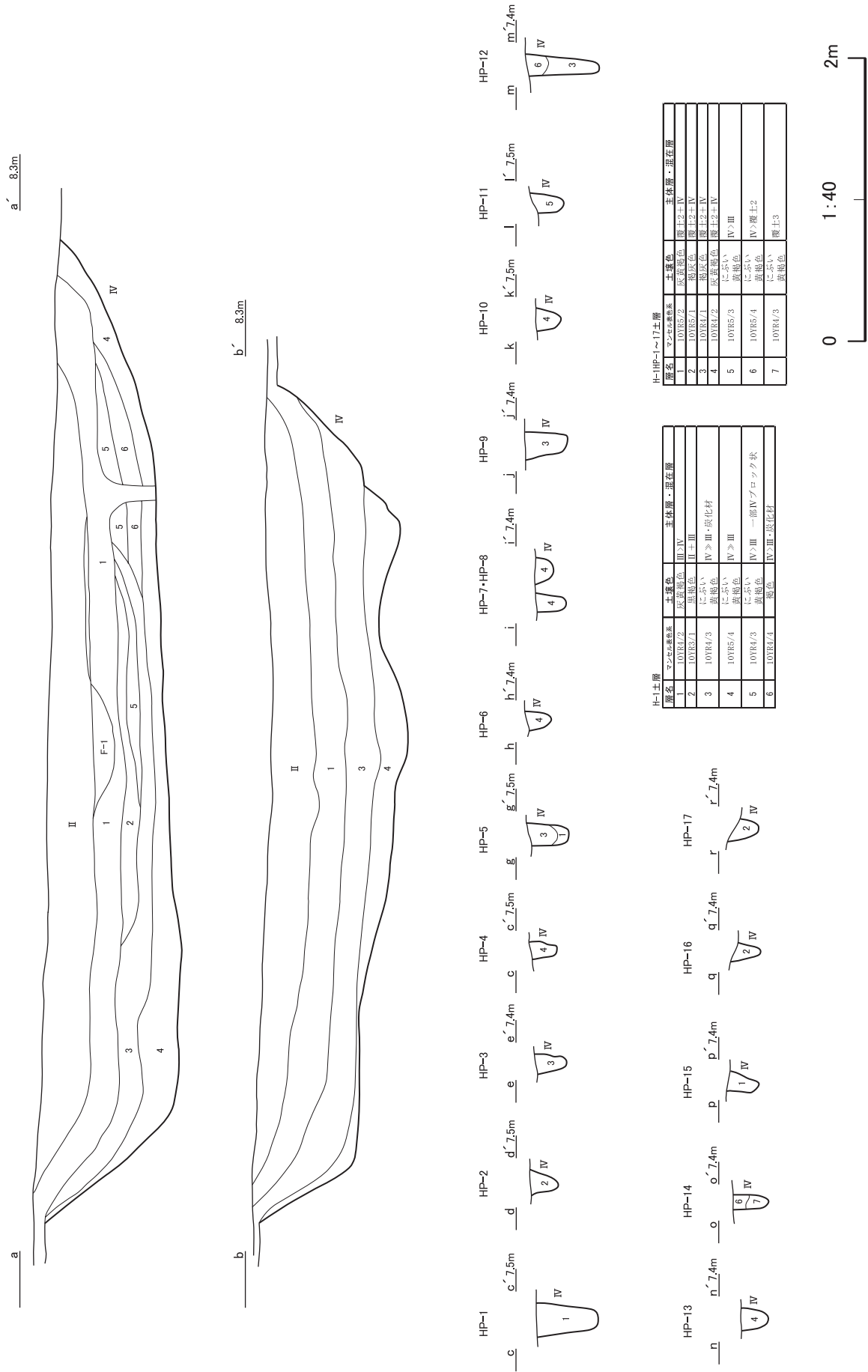
覆土 覆土は7層に分層した。覆土1はⅡ層起源の黒色土、覆土2~7が屋根土や壁などの崩落土と考えられる。

形態 平面形はやや多角形に近い円形となり、床面は平坦で、壁は曲線的で斜めに立ち上がる。

H-1



图Ⅲ-6 H-1 (1)



H-1HP-1~17土層

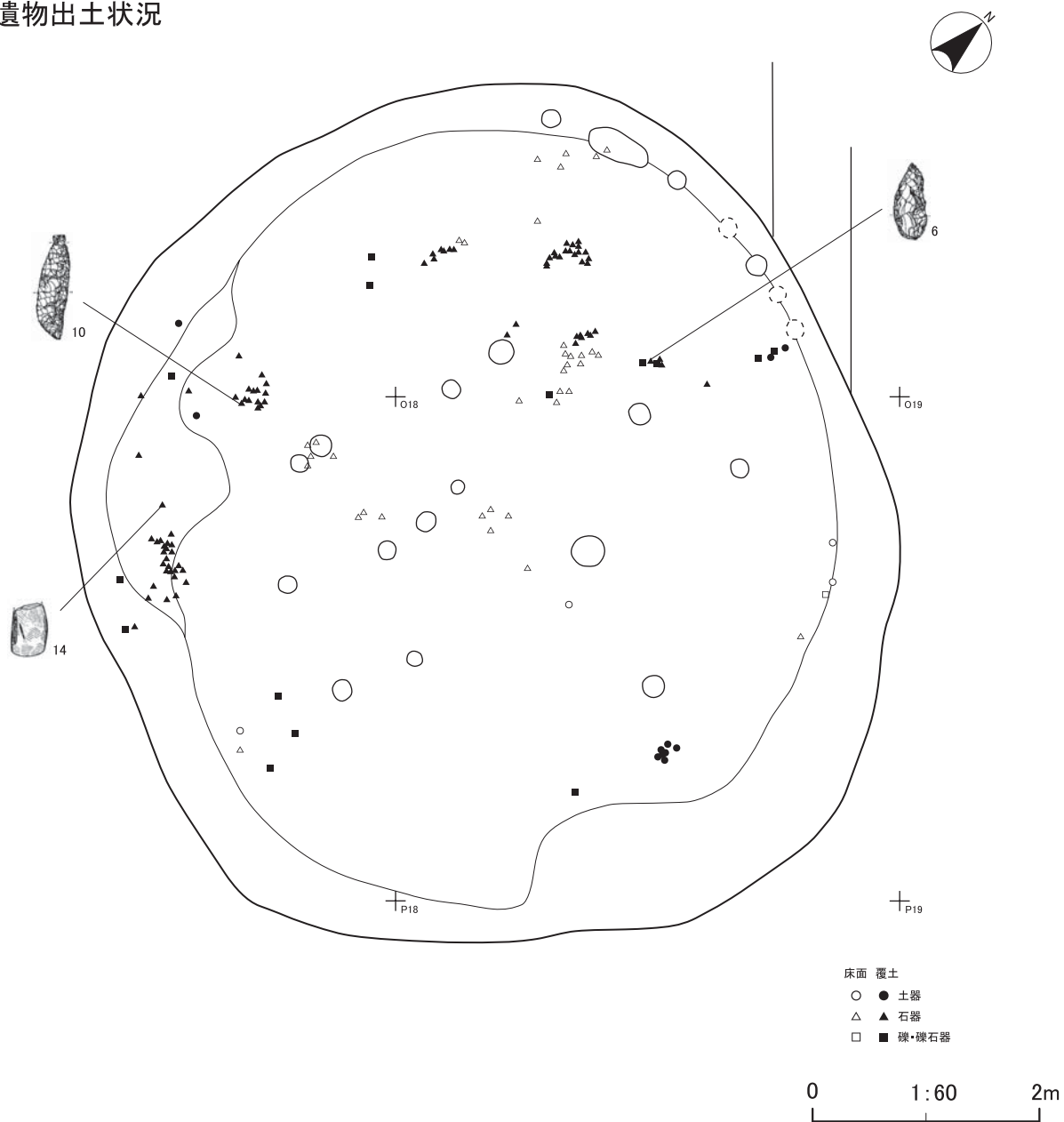
層名	マンネロ層番号	土層色	主体層・所在層
1	10YR5/2	灰黄褐色	層上2+IV
2	10YR5/1	褐色	層上2+IV
3	10YR4/1	褐色	層上2+IV
4	10YR4/2	灰黄褐色	層上2+IV
5	10YR5/3	に赤い 黄褐色	IV>III
6	10YR5/4	に赤い 黄褐色	IV>層上2
7	10YR4/3	黄褐色	層上3

H-1土層

層名	マンネロ層番号	土層色	主体層・所在層
1	10YR4/2	灰黄褐色	III>IV
2	10YR3/1	黄褐色	II+III
3	10YR4/3	に赤い 黄褐色	IV>III+炭化材
4	10YR5/4	に赤い 黄褐色	IV>III
5	10YR4/3	に赤い 黄褐色	IV>III 一部IVゾロツク状
6	10YR4/4	褐色	IV>III+炭化材

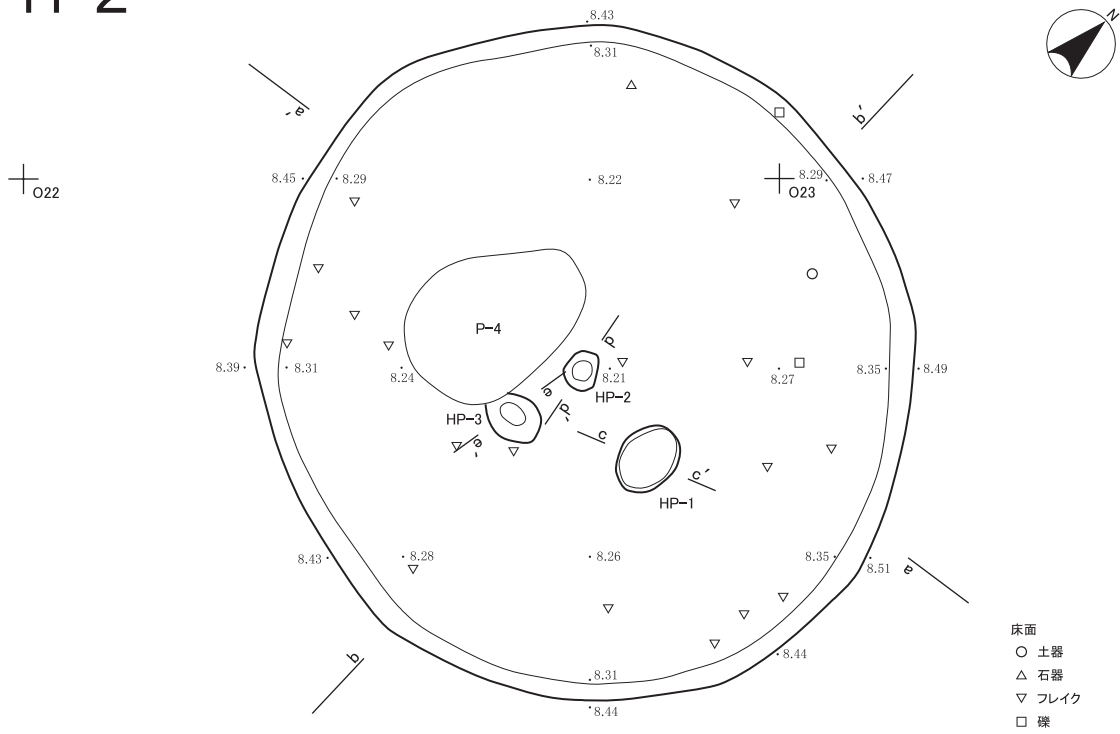
図III-7 H-1 (2)

遺物出土状況

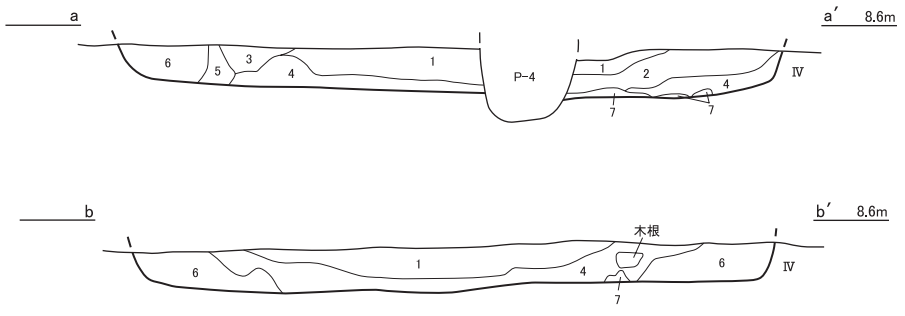
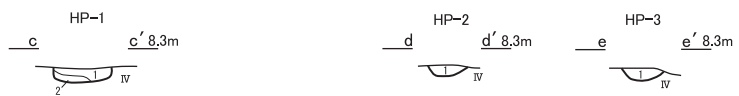


図Ⅲ-8 H-1 (3)

H-2



- 床面
 ○ 土器
 △ 石器
 ▽ フレイク
 □ 礫



H-2土層

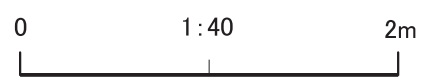
層名	マンセル着色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR1.7/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II
2	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	ナシふる堅	II・III>IV
3	10YR3/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	ナシふる堅	II・III>IV
4	10YR3/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II ≧ IV
5	10YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II ≧ IV
6	10YR4/3	にぶい 黄褐色	埴壤土～壤土	中	堅	IV ≧ II
7	10YR4/4	褐色	埴壤土～壤土	中	ナシふる堅	IVブロック

H-2HP-1土層

層名	マンセル着色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II>III
2	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	III+II

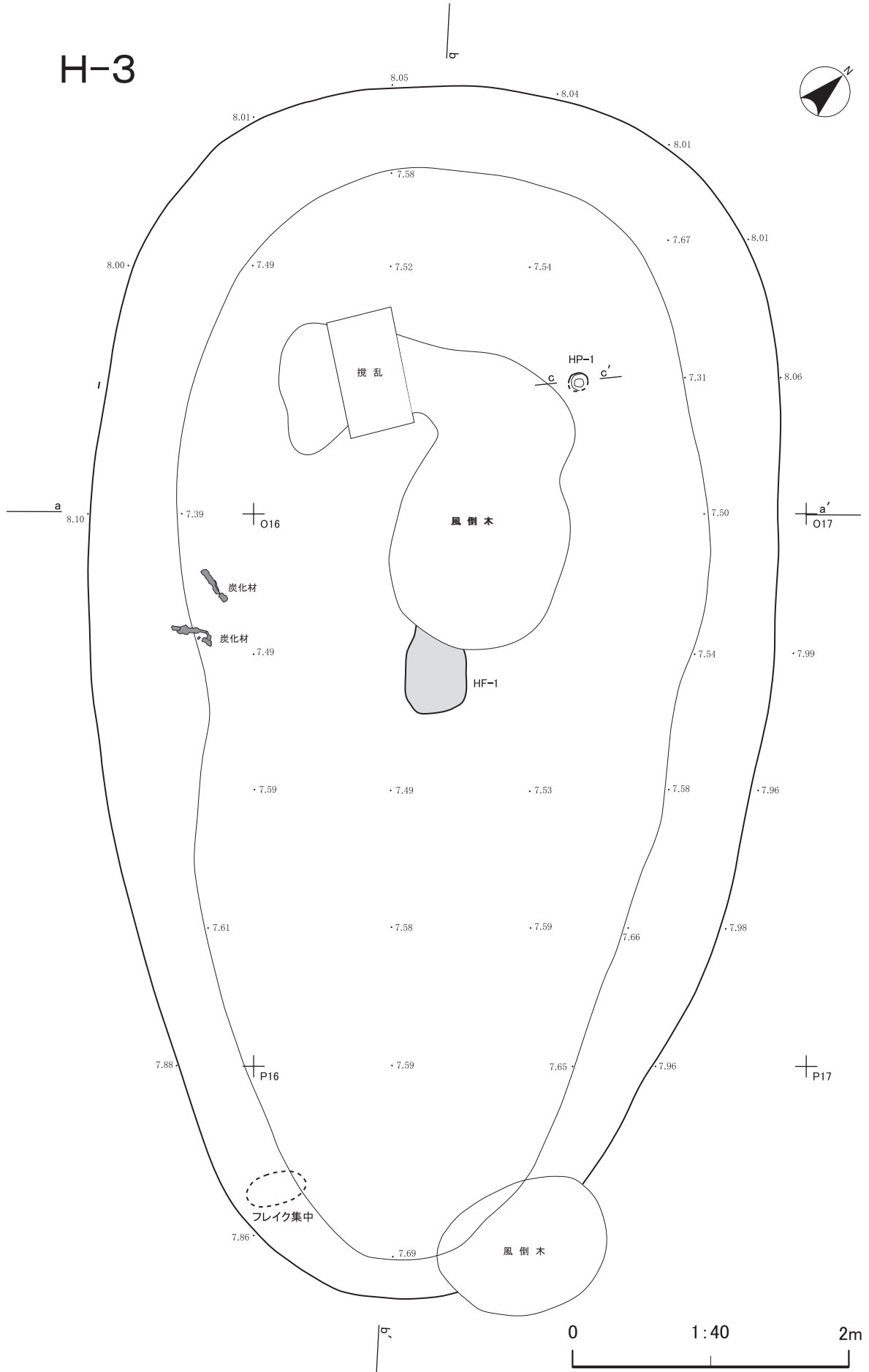
H-2HP-2・3土層

層名	マンセル着色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	ナシふる堅	III>IV・II炭化材

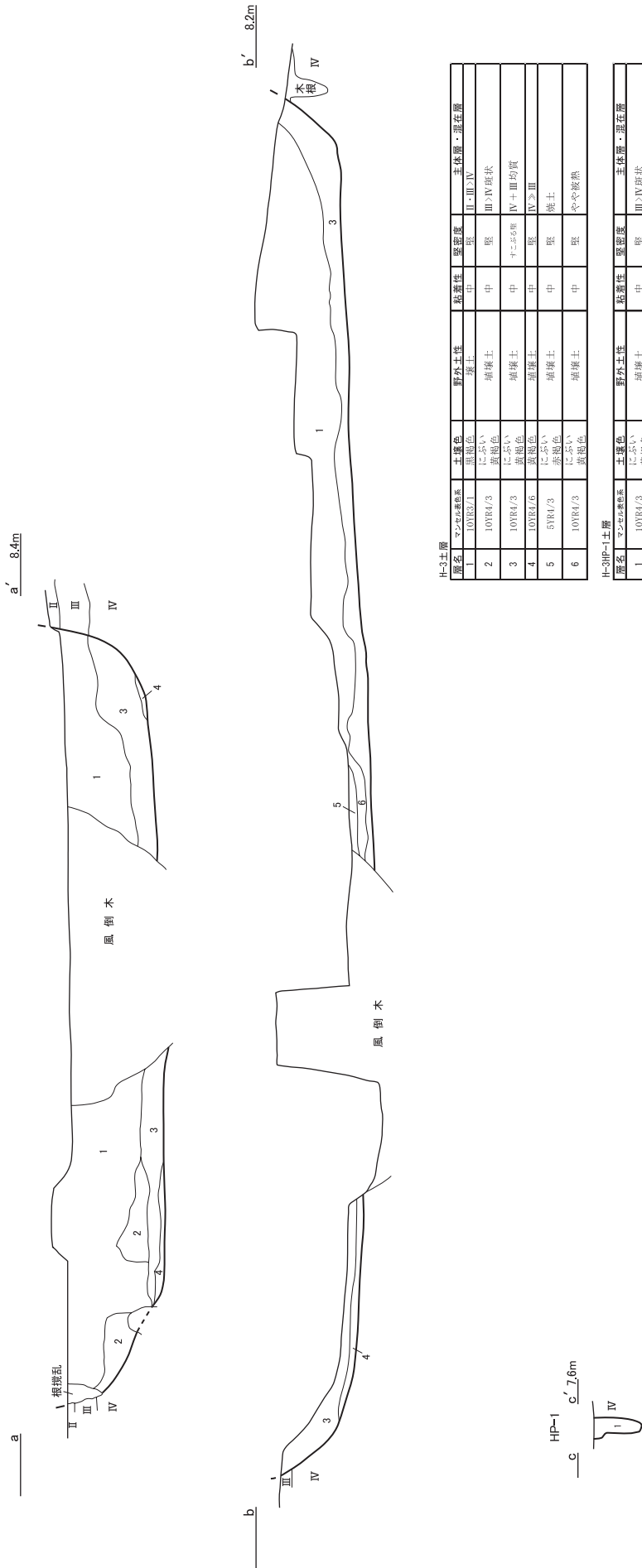


図III-9 H-2

H-3



図Ⅲ-10 H-3 (1)



H-3土層

層名	ヤシロの層番号	土壌色	野外土性	粘着性	堅硬度	主体層・混在層
1	10YR6/3	黒褐色 にぶい	埴土	中	堅	III・III>IV
2	10YR6/3	黒褐色 にぶい	埴土	中	堅	III>IV班状
3	10YR6/3	黒褐色 にぶい	埴土	中	サコボロ堅	IV+III均質
4	10YR6/6	黒褐色 にぶい	埴土	中	堅	IV>III
5	5YR4/3	赤褐色 にぶい	埴土	中	堅	埴土
6	10YR6/3	黒褐色 にぶい	埴土	中	堅	やぐげ煎

H-3HP-土層

層名	ヤシロの層番号	土壌色	野外土性	粘着性	堅硬度	主体層・混在層
1	10YR6/3	黒褐色 にぶい	埴土	中	堅	III>IV班状

図III-11 H-3 (2)

付属遺構 小土坑3基（HP-1～3）を確認した。いずれも断面形が皿形で、深さは6～7cm程である。

遺物 遺物は257点出土した。床面出土はI群b類土器3点、石鏃1点、フレイク42点など少ない。

時期 周辺の遺構や出土遺物から縄文時代早期後半と考える。（愛場）

H-3（図Ⅲ-10・11 図版7）

位置 N15・16/O15・16/P15・16 **立地** 標高約7.9～8mの平坦面に位置し、北東側にはH-1がある。 **規模** 8.75×4.99/7.89×3.83/0.75m **平面形** 不整の楕円形

調査 II層～III層上面で黒褐色土の楕円形の堆積を確認した。土層観察用のベルトを設定し、周辺を掘り下げていった。中央付近には大きな風倒木があり、覆土と地山IV層の土色の差があまりなかったため、床面や壁の立ち上がりは不明瞭であった。精査の結果、平坦な床面と斜めに立ち上がる壁を認め、規模から住居跡と判断した。

覆土 6層に分層した。覆土上部（覆土1）は黒褐色土で、下部はIV層主体のにぶい黄褐色・黄褐色土層である。床面・壁のIV層との境界は不明瞭である。

形態 平面形は不整の楕円形となる。床面は概ね平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 焼土1か所を確認した。焼土は風倒木の南東側にあり、床面より上部の黄褐色覆土中にある。

遺物 遺物は2,939点出土した。床面からはI群b-1類土器2点、フレイク8点のみの出土である。住居南側壁付近の覆土ではフレイクの集中（438点）がみられた。

時期 周辺の遺構や出土遺物から縄文時代早期後半と考える。（愛場）

H-4（図Ⅲ-12 図版8）

位置 J8・9/K8・9 **立地** 標高6.5～7m付近の緩斜面

規模 3.04×3.02/2.80×2.64/0.30m **平面形** 隅丸方形に近い不整な円形

調査 III層で黒色～黒褐色土を主とした土の堆積が認められ、不整な円形の平面形を想定できた。土層確認用のベルトを設定し、掘り下げた。床面と想定できるおおよそ平坦な面とゆるく外側に開きながら立ち上がる壁を検出し、規模と付属遺構から竪穴住居跡と判断した。掘り込み面はIII層中～下位である。

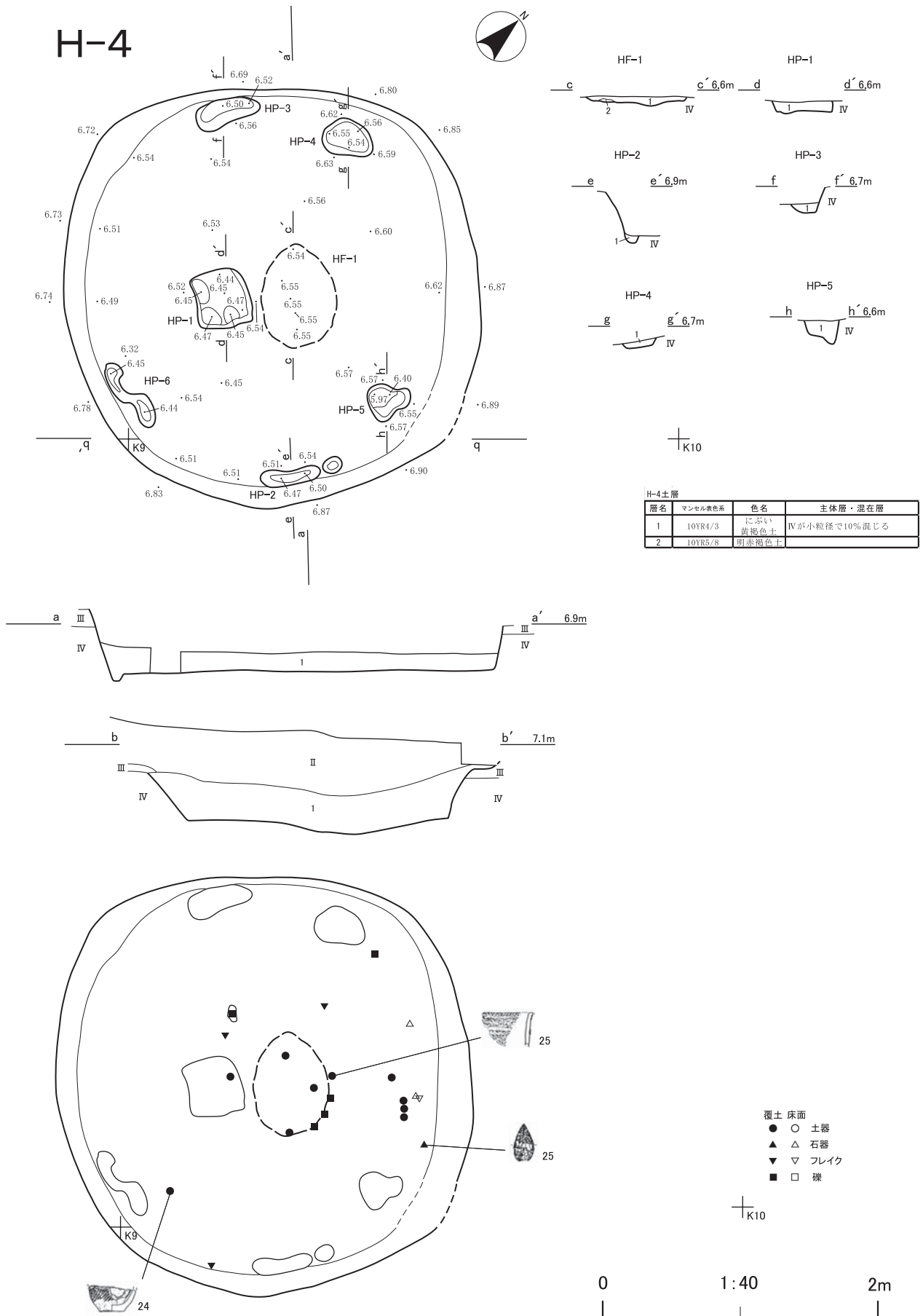
覆土 覆土1層としたにぶい黄褐色土から成る。IV層由来土を含んでおり、掘り上げ土の再流入、あるいは土葺き屋根の崩落の可能性がある。検出面で確認した、II層から連続する黒色土は廃絶後のくぼみに自然堆積したものと考える。

付属遺構 炉跡1か所（HF-1）と小土坑6基（HP-1～6）を確認した。

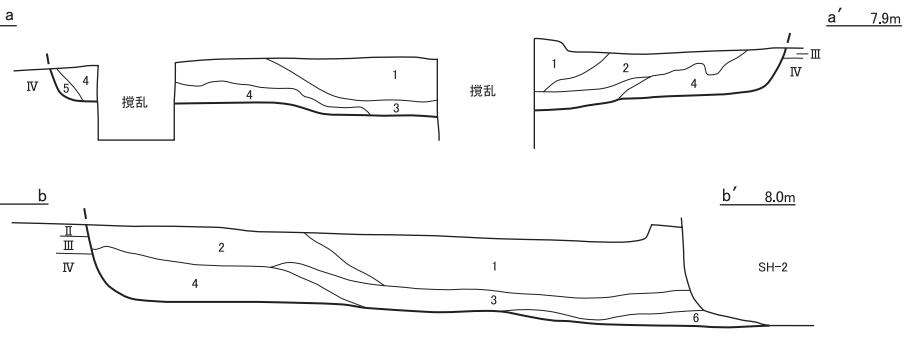
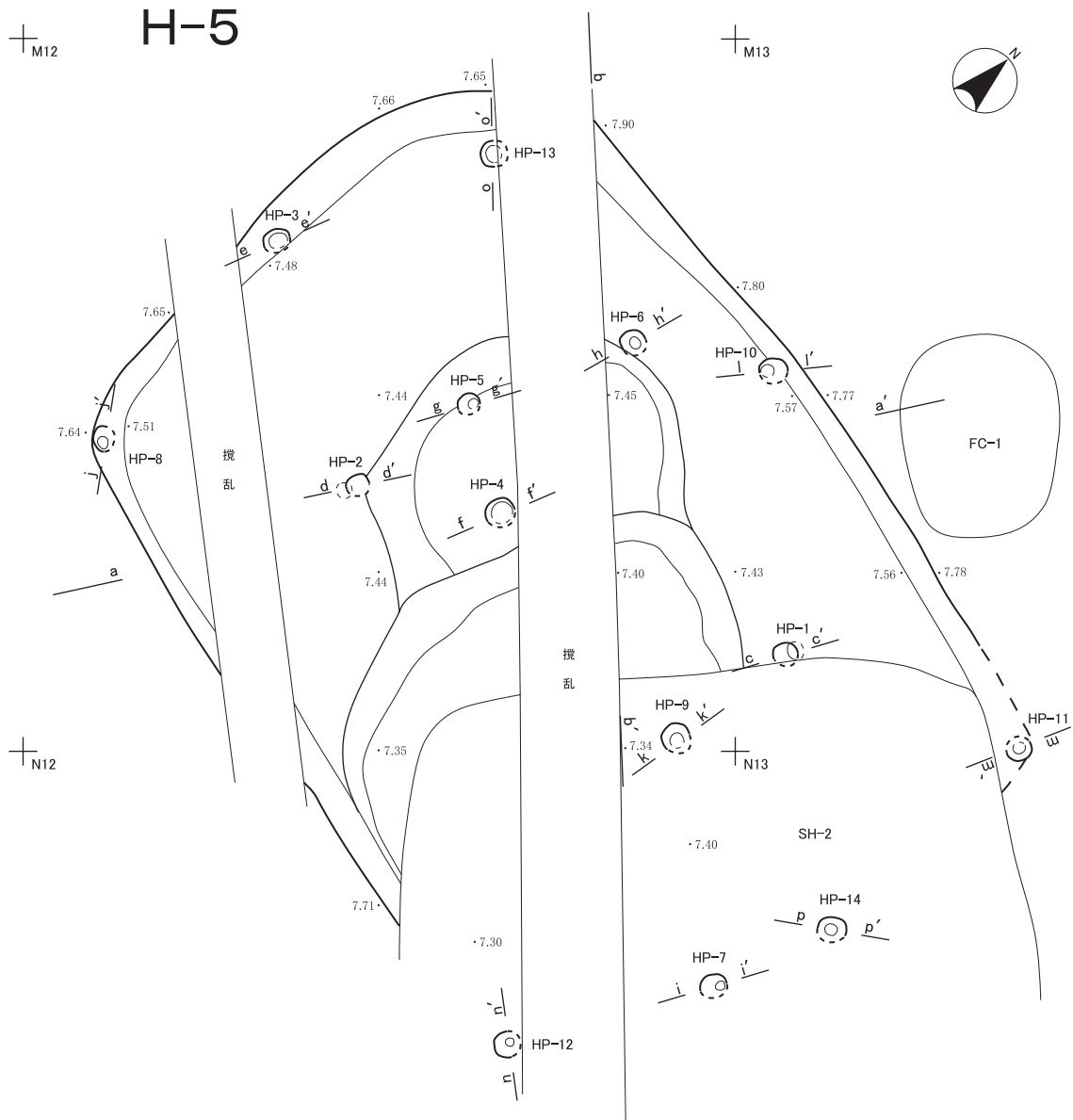
HP-1は石組炉の炉石抜き取り跡を思わせる形状をしているが、実際熱を受けた可能性がある酸化した土の分布がみられたのはHF-1である。ただし住居中央のくぼみに対して、水がたまり水分が無くなった際に含まれていた鉄分やマンガンが残され、酸化して発色した可能性がある。壁際では壁柱穴を思わせる溝状の土坑HP-2・3及び、住居南側の不明瞭な窪みHP-6がある。また、不整な平面形をした浅い土坑HP-4・5がある。

遺物 遺物は覆土から189点出土した。IV群a類土器、フレイクが主な遺物である。II群b土器も出土するが、これは流入と考える。

時期 住居構造と出土遺物から縄文時代後期前葉と考える。（大泰司 統）

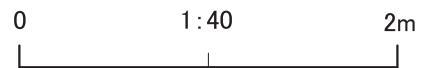


図III-12 H-4

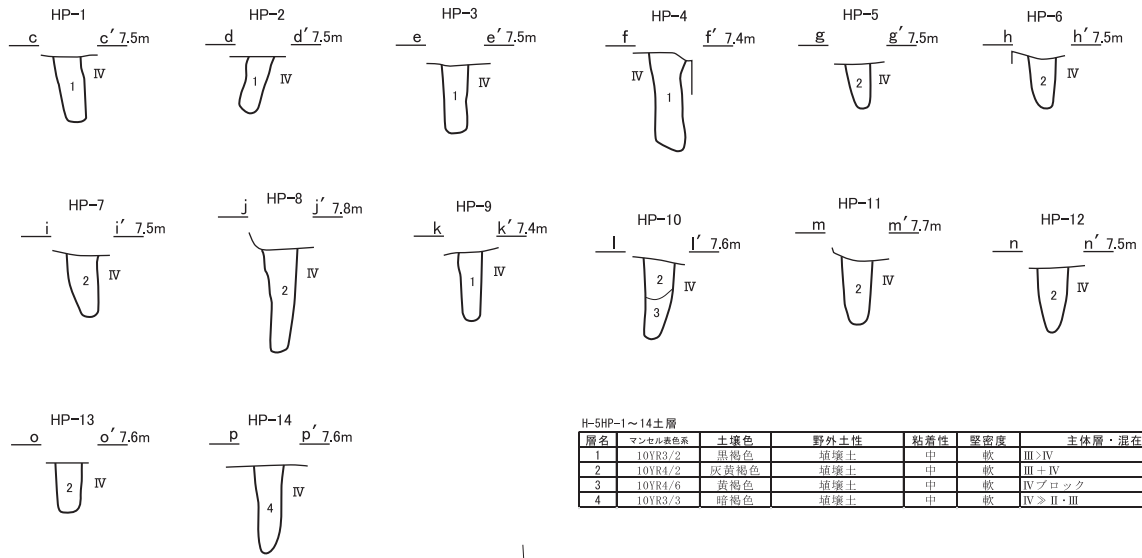


H-5土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR1.7/1	黒色	埴壤土~壤土	中	堅	II
2	10YR1.7/1	黒色	埴壤土~壤土	中	堅	II>>IV小粒径
3	10YR3/1	黒褐色	埴壤土~壤土	中	堅	II・III>IV・散化材
4	10YR4/3	に濃い、黄褐色	埴壤土	中~強	堅	III+IV
5	10YR4/6	黄褐色	埴壤土~壤土	中	堅	IV>IV>IV>IV>IV>IV
6	10YR2/2	黒褐色	埴壤土~壤土	中	堅	II・III>IV

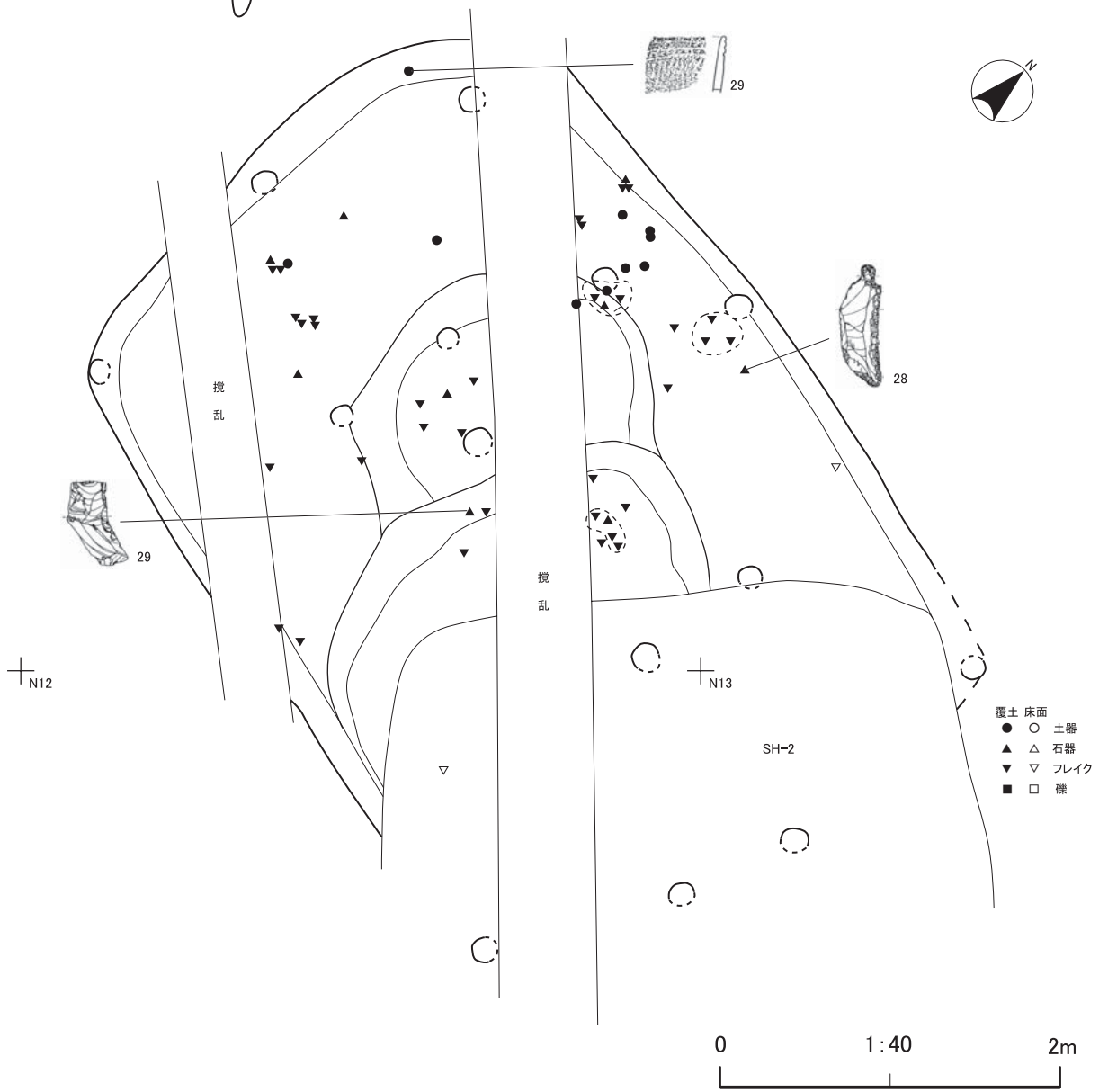


図III-13 H-5 (1)



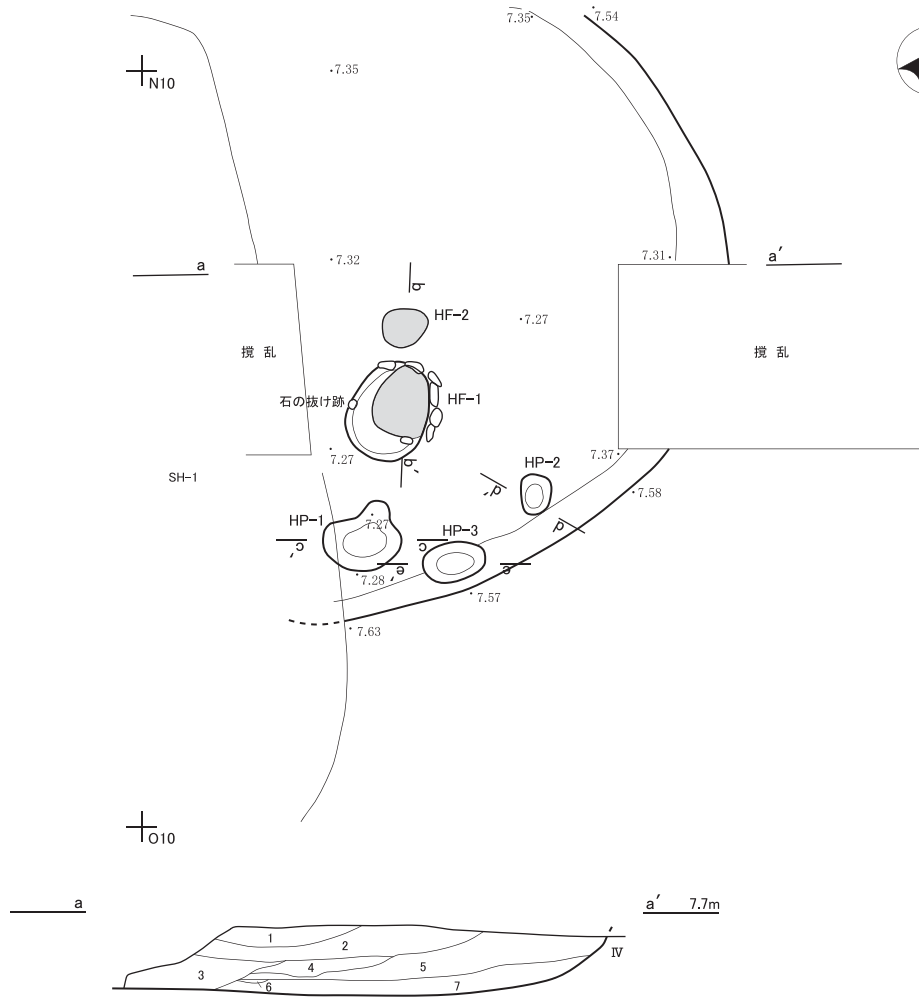
H-5HP-1~14土層

層名	マンセル染色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	埴壤土	中	軟	III・IV
2	10YR4/2	灰黄褐色	埴壤土	中	軟	III・IV
3	10YR4/6	黄褐色	埴壤土	中	軟	IVブロック
4	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	中	軟	IV ≧ II・III



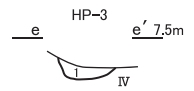
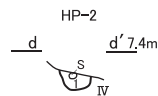
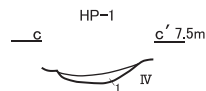
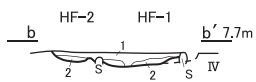
図III-14 H-5 (2)

H-6



H-6土層

層名	マンセル色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	5YR4/6	赤褐色	埴壤土	中	堅	自然堆積の埴土
2	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > III・IV
3	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II > III・IV
4	10YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II > III・IV
5	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II > III・IV
6	10YR3/4	暗褐色	砂壤土	なし	堅	砂質土
7	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II > 砂質土・炭化材・埴土

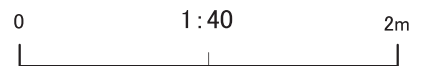


H-6HF-1・2土層

層名	マンセル色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	7.5YR3/4	暗褐色	埴壤土	中～強	堅	II・III > 埴土
2	5YR4/6	赤褐色	埴壤土	中	すこぶる堅	埴土 IVが漸移的に被熱

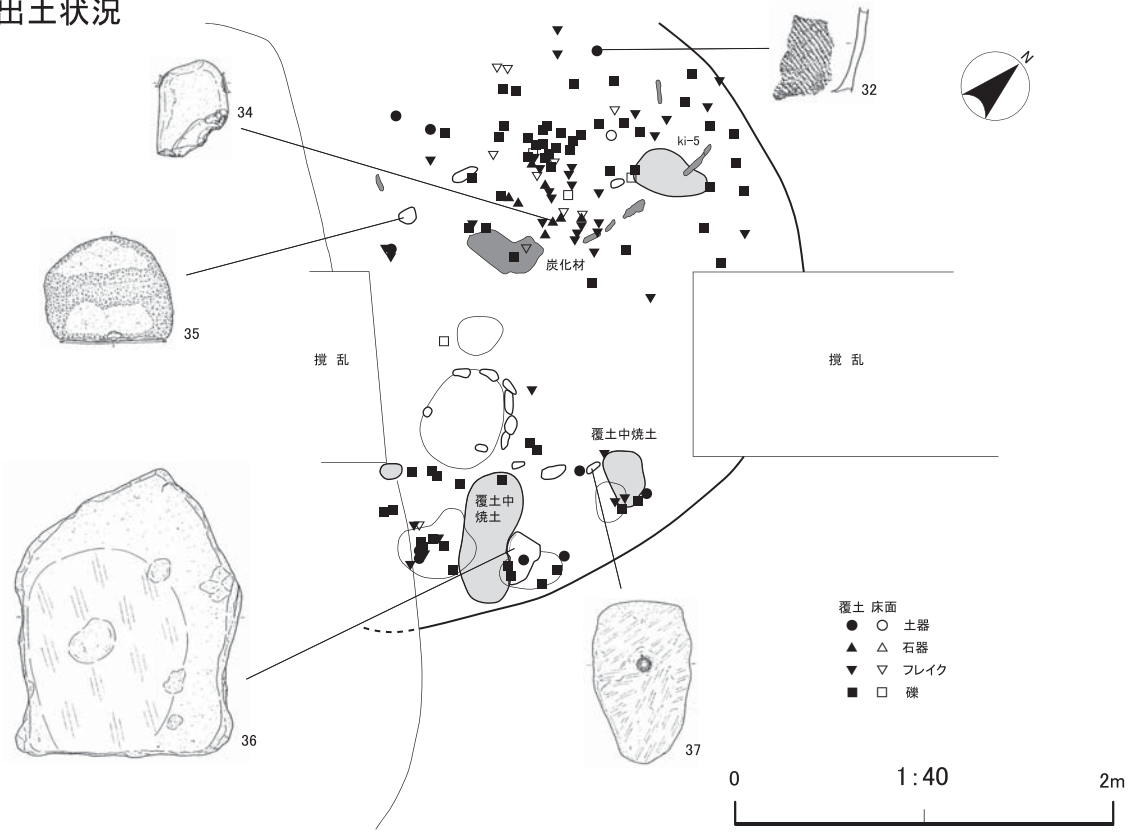
H-6HP-1～3土層

1	10YR3/1	黒褐色	埴壤土	中	堅	II > III・IV
---	---------	-----	-----	---	---	-------------



図Ⅲ-15 H-6 (1)

遺物出土状況



図III-16 H-6 (2)

H-5 (図Ⅲ-13・14 図版9)

位置 M12・13/N12・13 立地 標高約8mの平坦面に位置し、北東側にFC-1が近接する。

規模 (5.26)×3.62 / (5.0)×3.34 / 0.52m 平面形 長方形

調査 SH-2調査時、北西側の壁全面と一部床面に黒色土の堆積を確認した。遺構の覆土と考え、北西側を精査すると平面形が長方形となる落ち込みであることがわかった。水道管敷設の攪乱を掘り抜き、土層を確認したところ、床面と壁の断面がみられ、規模から住居跡と判断した。床面は中央から南東側が皿状にやや窪んでいた。

覆土 6層に分層した。覆土1・2はⅡ層黒色土主体の自然堆積層である。覆土3～6はⅣ層を主体とするもので屋根土、壁などの崩落・流入土と考える。

形態 西側はSH-2によって壊されているが、平面形は東西に長軸がある隅丸長方形となる。床面は中央から南東側が窪み、段差がみられる。

付属遺構 柱穴14か所(HP-1～14)を確認した。柱穴は住居四隅(HP-8・11・12・13)、壁際(HP-3・7・10・14)、住居内側に並ぶもの(HP-2・5・6 / HP-1・9)がある。径は13～19cm、深さは24～54cmである。HP-1・2はやや内傾するがそれ以外はほぼまっすぐな断面形状である。先端部は平坦もしくは丸味を帯びるものがあり、覆土はⅣ層を主体とするものとⅡ・Ⅲ層に少量のⅣ層が混じるものがある。

遺物 遺物は312点出土した。覆土ではⅠ群b類土器4点、Ⅱ群a類土器1点、Ⅱ群b類土器15点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー6点などが出土している。床面出土はフレイク8点のみである。

時期 出土遺物から時期は縄文時代で、形態から縄文時代前期前半の可能性ある。(愛場)

H-6 (図Ⅲ-15・16 図版10)

位置 M10/N10 立地 標高約7.5mの平坦面

規模 (3.44)×(2.80) / (3.16)×— / 0.37m 平面形 円形・卵形?

調査 SH-1検出時、北側に赤褐色土を伴う黒色土の堆積を確認した。SH-1調査終了後、土層観察用ベルトを残して周辺を掘り下げた。覆土中からは礫を主体とした遺物が多く出土し、床直上では覆土中焼土と炭化材がまとまってみられた。検出面から30cm程掘り下げたところで床面および石組炉を検出し、住居跡と判断した。炭化材は状況のよいものを採取し、放射性年代測定を行った(付篇2参照)。

覆土 7層に分層した。覆土1・2はⅡ層起源の自然堆積層である。覆土3～7はⅡ層黒色土にⅢ・Ⅳ層が混じる土層で、屋根土、壁などの崩落・流入土と考えられる。覆土6は薄い砂壤土層である。

形態 平面形は円形もしくは卵形となる。床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

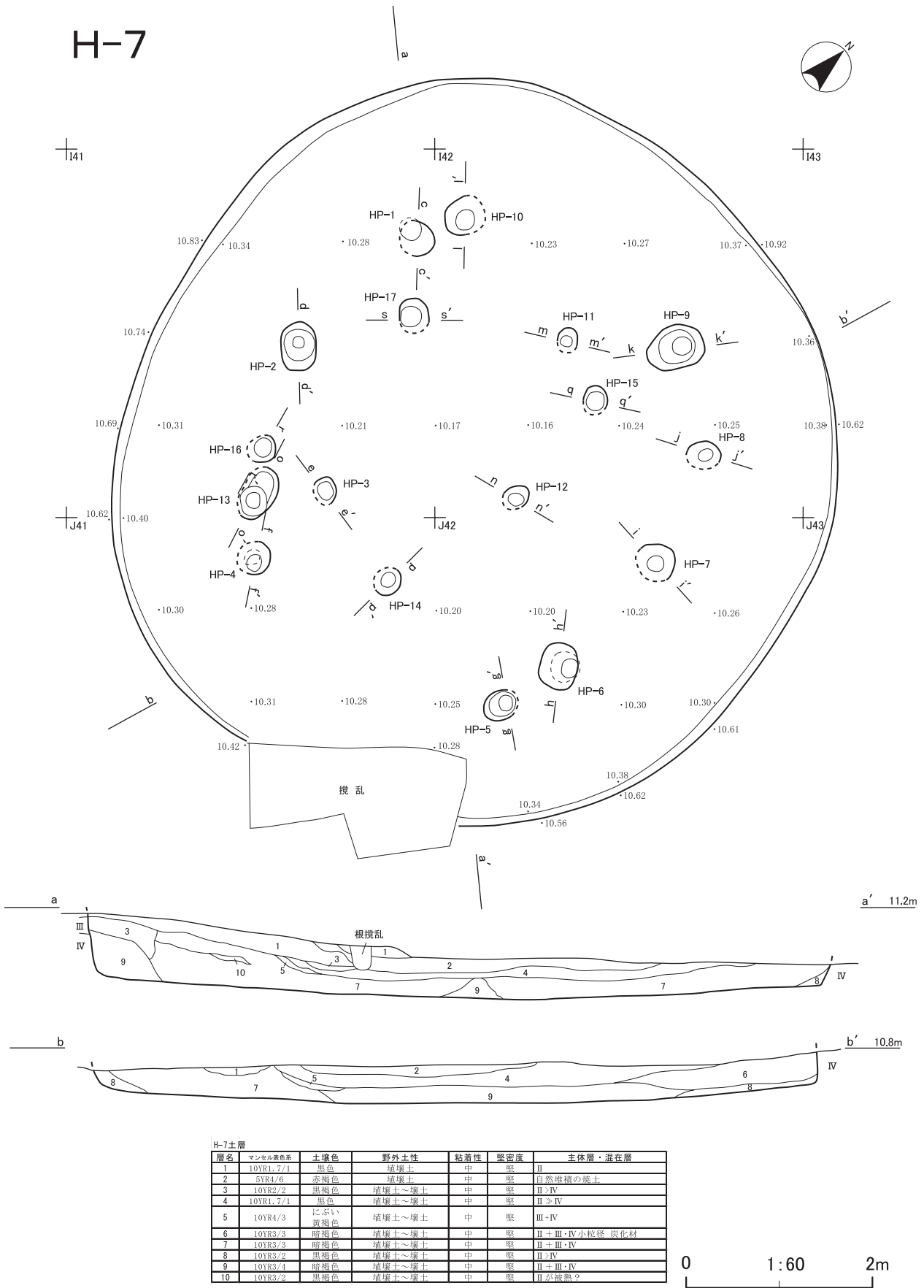
付属遺構 石組炉(HF-1)、焼土(HF-2)、土坑3基(HP-1～3)を確認した。

HF-1は住居中央より、南西壁側に位置する。床面をやや掘り込んだ面に焼土層があり、掘り込みの東から北側には円礫が埋め込まれる。HF-2はHF-1北西側にある小型の焼土である。

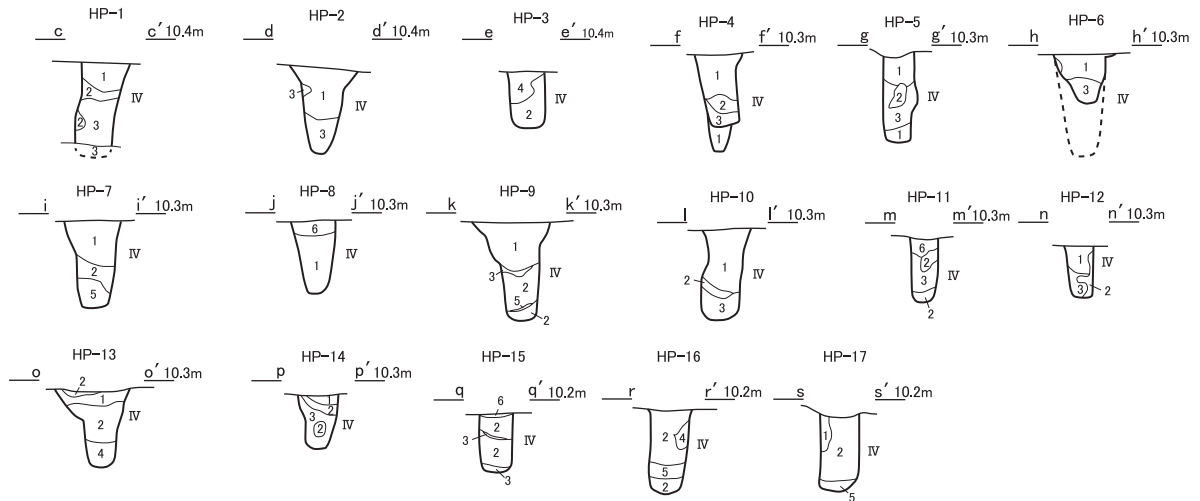
土坑は住居南西壁側に3基近接している。HP-1は平面形が不整形で、浅皿状となる。覆土上部には石皿がみられた。HP-2は柱穴の可能性があるので、平面形は隅丸方形となる。

遺物 遺物は333点出土した。覆土ではⅣ群a類土器やフレイク、礫が多く、北海道式石冠、石製品もみられる。床面や付属遺構からはⅣ群a類土器やフレイク、礫が少量出土する。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉で、炭化材の状況から焼失住居跡である。(愛場)



図III-17 H-7 (1)

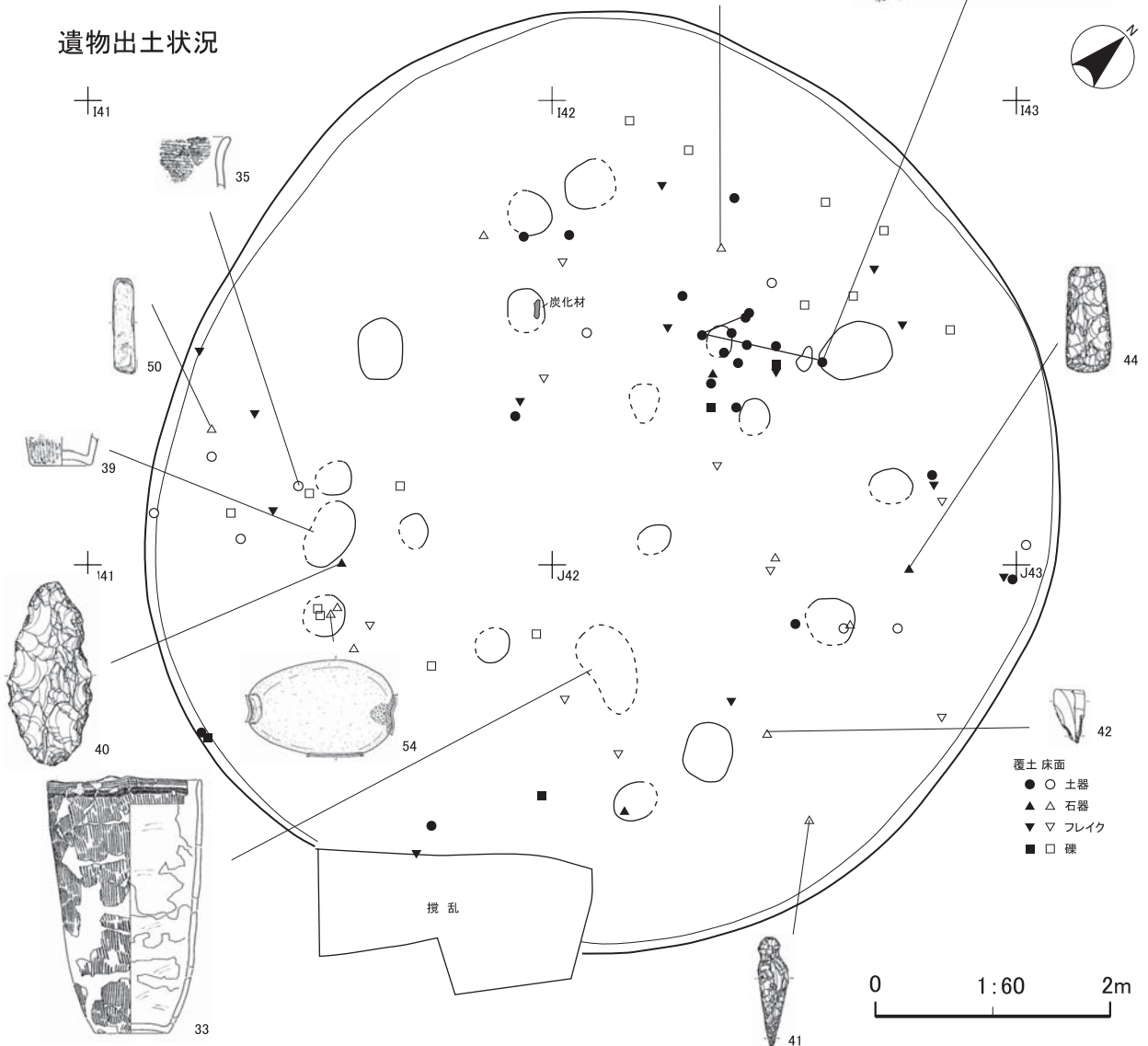


H-7HP-1~17土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	埴壤土	中	しろう	II
2	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	軟～堅	自然堆積の焼土
3	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	軟～堅	II > IV
4	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	しろう	III > IV
5	10YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	しろう	III + IV
6	10YR3/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II + III - IV



遺物出土状況



図Ⅲ-18 H-7 (2)

H-7 (図III-17・18 図版12)

位置 H41・42/I41・42・43/J41・42・43 **立地** 標高約10.5~11mの平坦面
規模 8.13×7.85/7.99×7.71/0.93m **平面形** 円形
調査 表土除去後、削平されたⅢ~Ⅳ層面で円形の堆積を確認した。土層観察ベルトを十字に設定して全体を掘り下げた。検出面から40cm程掘り下げたところで堅くしまった平坦な床面と壁を確認し、住居跡と判断した。床面で採取した炭化材は放射性炭素年代測定を行った(付篇2参照)。
覆土 10層に分層した。覆土1・2・4・10は自然堆積である。覆土2は赤褐色の自然焼土で住居中央部に堆積する。覆土3・5~9は概ねⅣ層を主体とする屋根土および壁の崩落土の可能性が高い。覆土10は焼土の可能性が高い。
形態 平面形は円形で、床面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。
付属遺構 柱穴17か所(HP-1~17)を確認した。東と西壁から1~1.3m程離れて並ぶものと、その内側に分布するものがある。径はすべて20cm以上で、30cmを超えるものもある。柱の先端形状は平ら、もしくは丸みを持つ。HP-1・10やHP-4・13・16など近接して柱穴がみられる部分があり、HP-3・13・15・16・17はⅣ層主体土で上部が埋め戻されている。数回の柱の更新、拡張などが行われたと想定される。
遺物 遺物は2,753点出土した。多くは覆土出土で、Ⅱ群b類土器が1,467点出土したほか、フレイク、礫などが多い。
時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(愛場)

H-8 (図III-19~21 図版13)

位置 H38・39・40/I38・39・40 **立地** 標高10.5~10.8mの平坦面
規模 (8.60)×(4.10)/(8.26)×(3.92)/0.76m **平面形** 楕円形?
調査 調査区北東側の表土除去後、調査区堺に沿って長さ8m程の規模で黒色土の堆積を確認した。大半を町道に削平されている。短軸にベルトを設定し、確認面から60cm程掘り下げたところ、堅い地山の床面と壁が現れた。床面では炭化材が検出し、放射性炭素年代測定を行った(付篇2参照)。
覆土 6層に分層した。覆土1層はⅡ層起源の自然堆積層で、火山灰層(Ko-dやB-Tm)も確認できた。覆土3・4・6層はⅣ層起源で非常に堅くしまっている。
形態 壁の立ち上がりの角度は垂直に近く、非常に明瞭である。床面は堅固で平坦である。
付属遺構 炉跡3か所(HF-1~3)、柱穴7か所(HP-1~7)、周溝1か所を確認した。
 HF-2・3は直径1m、深さ20cm程の円形の掘り込みを持つ。焼土層はいずれもⅣ層が焼けたもので、非常に堅固である。柱穴は径約30~60cm、深さ約20~80cmである。覆土は上部が堅く、下部にしまりが無いものが多い。深さや位置から、HP-1・3・5・6は主柱穴と考えられる。
 周溝は住居北側の壁際で検出した。長さは約2m、幅は20cm弱、深さは5cm程である。
遺物 遺物は1,554点出土した。Ⅱ群b類土器は覆土、床面から847点出土した。他にフレイクが514点と多くみられる。HF-2・3周辺からは土器やスクレイパー、フレイク、礫石器、礫がまとまって出土し、HP-1覆土からは扁平打製石器、礫が出土した。
時期 出土遺物から縄文時代前期後半の時期と考える。(新家)

H-8

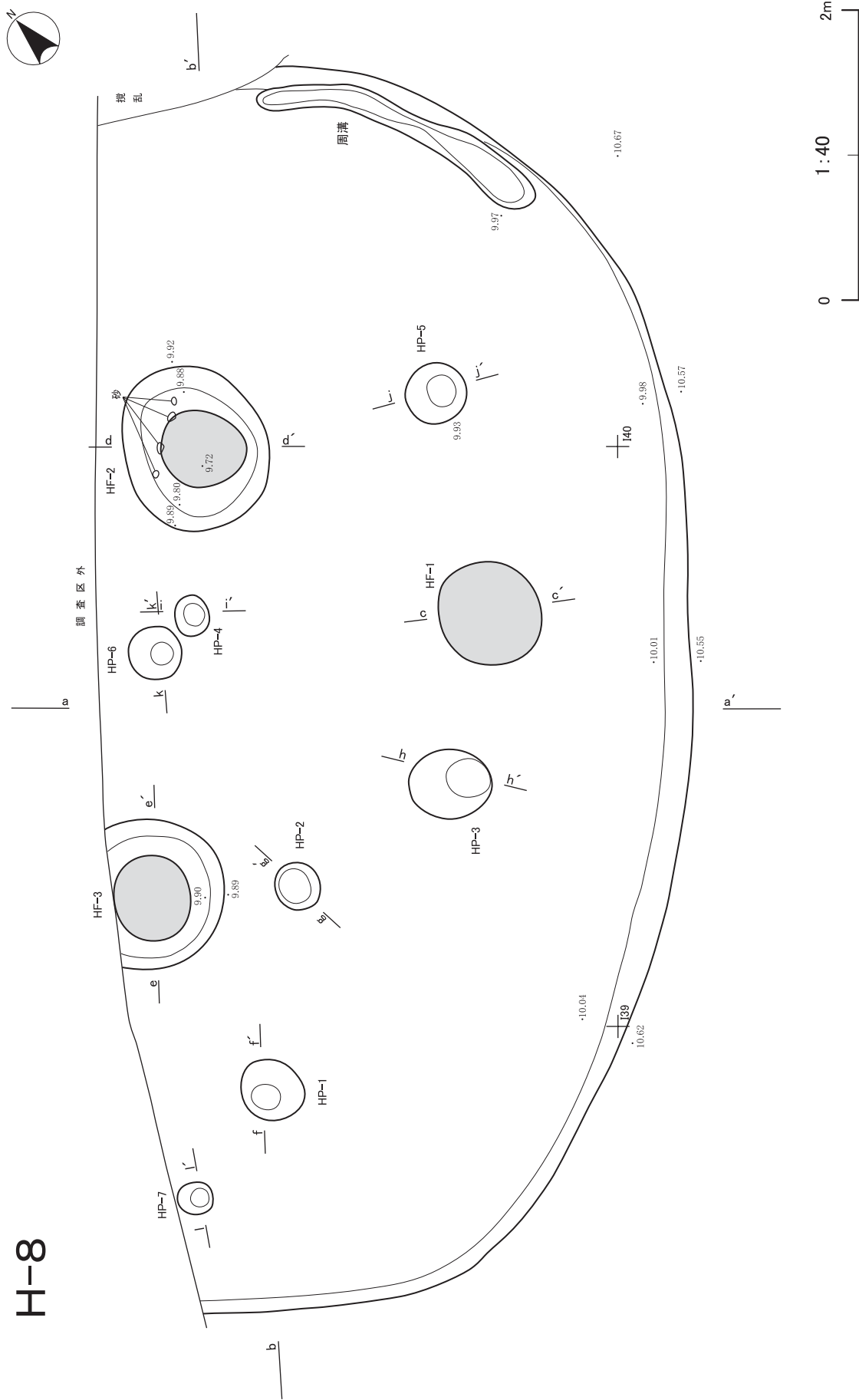
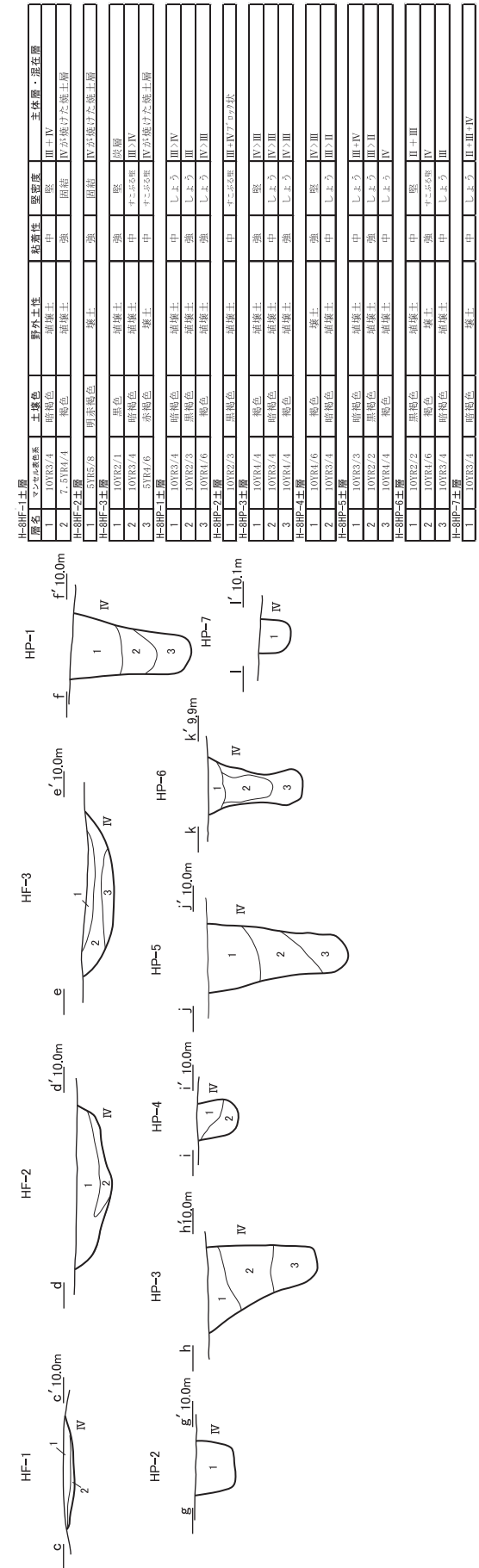
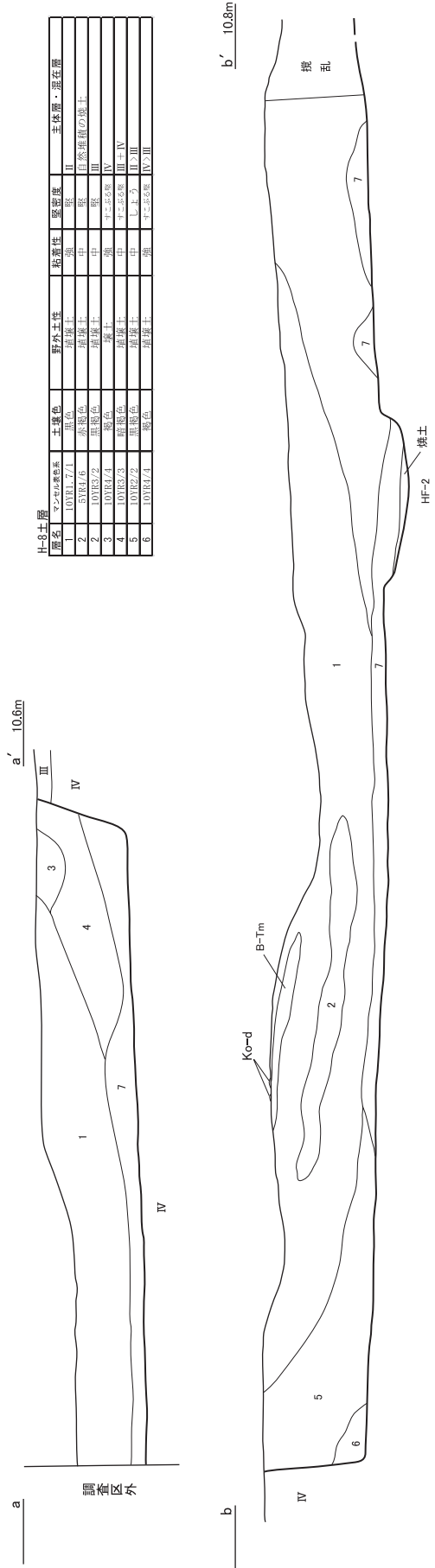
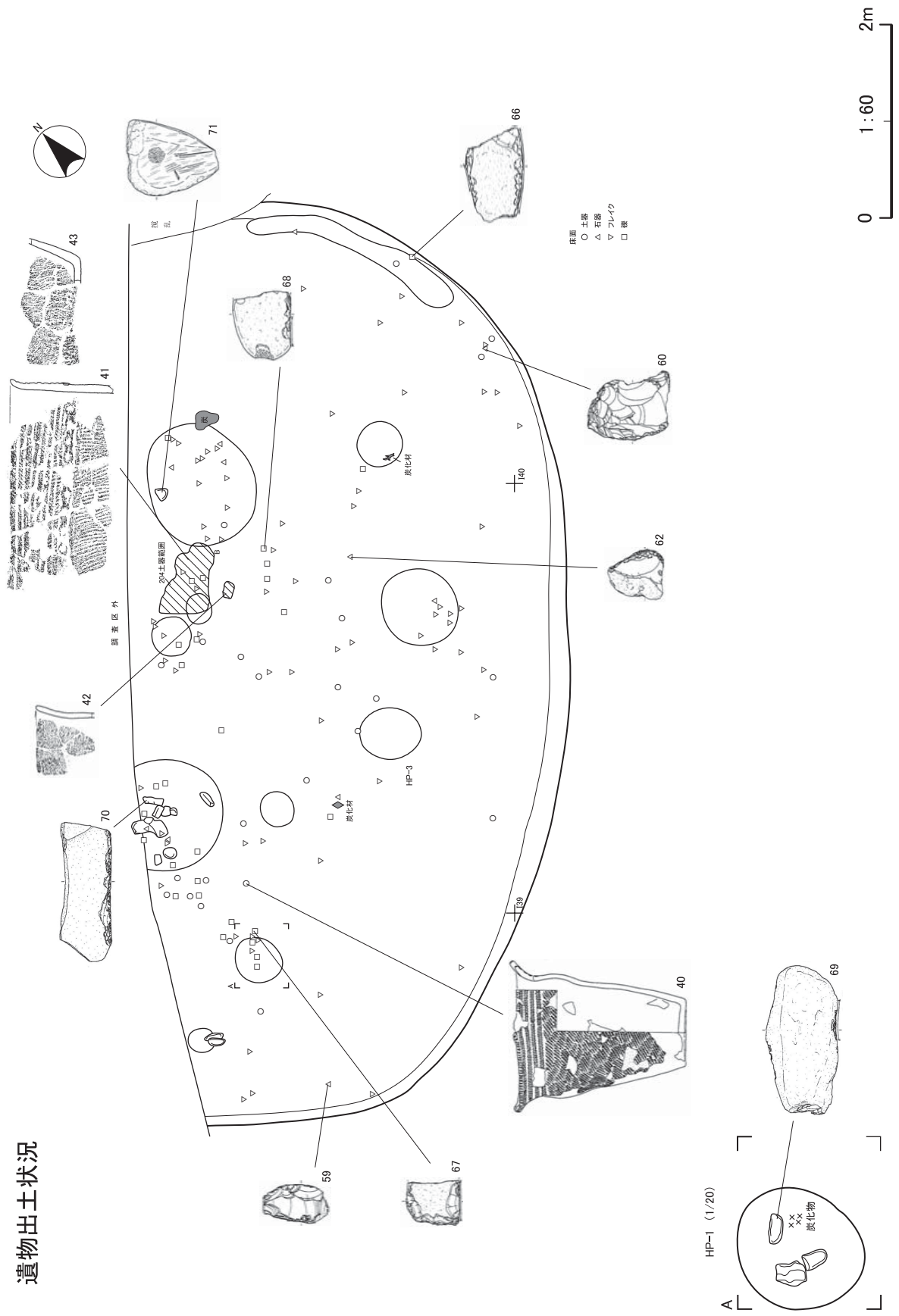


图 III-19 H-8 (1)

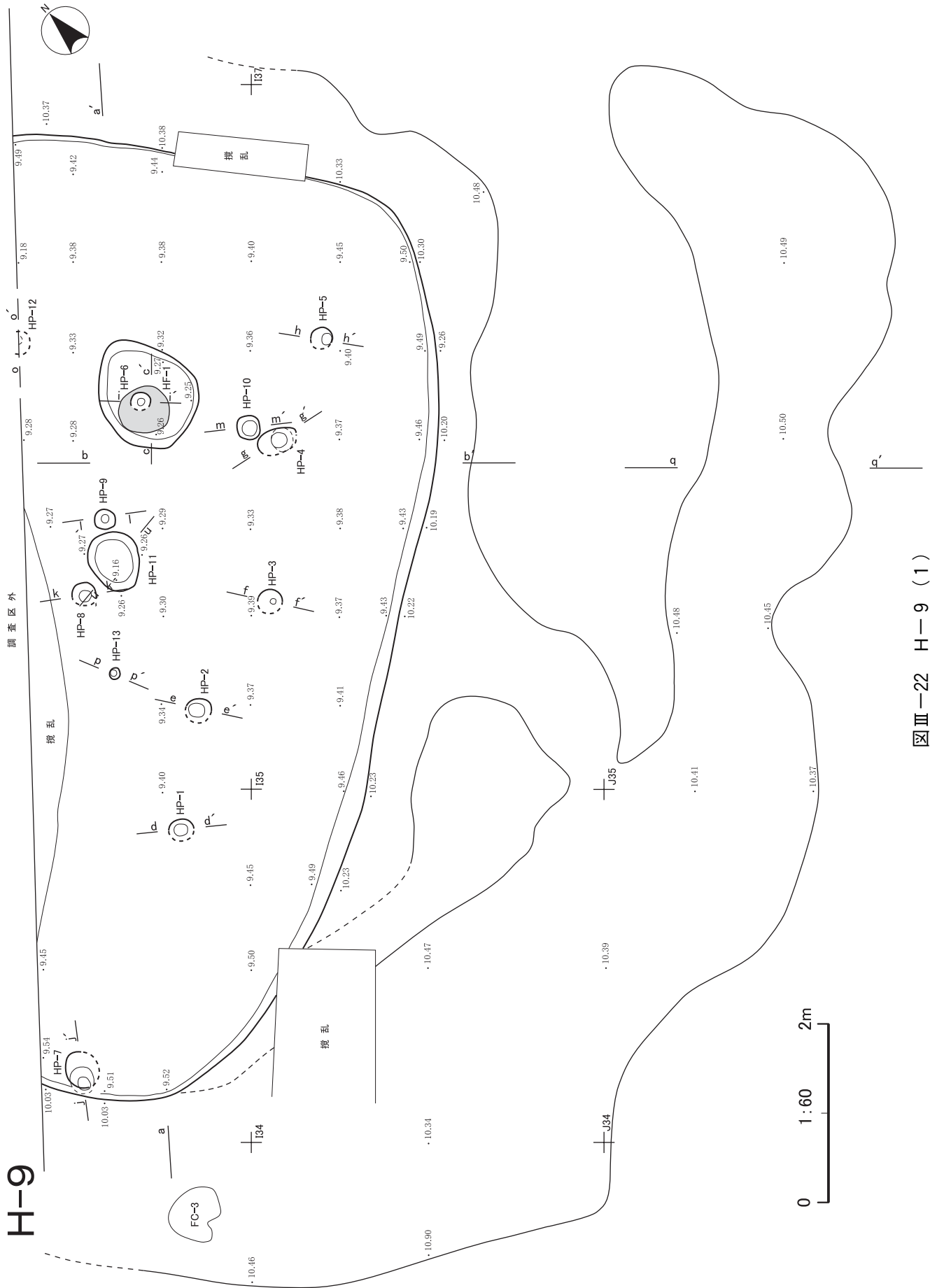


図III-20 H-8 (2)

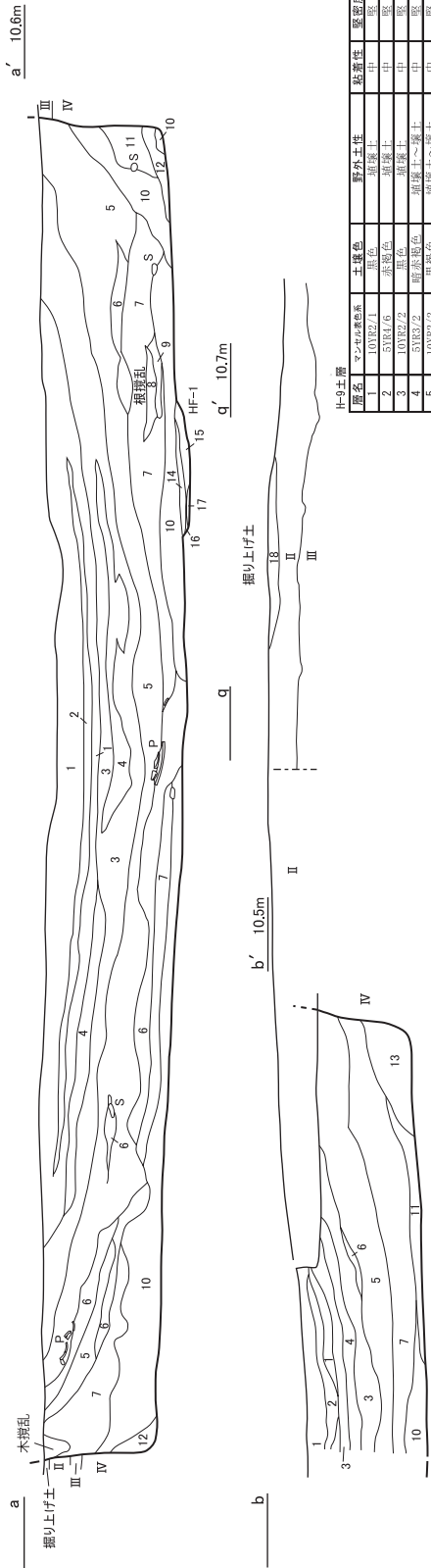
遺物出土状況



図Ⅲ-21 H-8 (3)



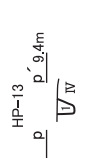
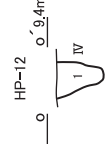
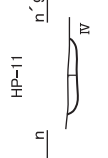
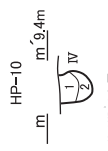
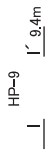
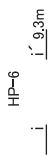
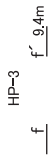
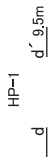
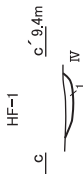
図III-22 H-9 (1)



層名	マクロ地味	土壌色	野外土性	粘着性	緊密度	主体層・混在層
1	5YR4/6	赤褐色	掘り上げ土	中	堅	II
2	5YR4/6	赤褐色	掘り上げ土	中	堅	II、IV、IVが漸移的に混在
3	10YR2/2	褐色	掘り上げ土	中	堅	II
4	5YR3/2	暗赤褐色	掘り上げ土	中	堅	IV、IVが漸移的に混在
5	10YR2/2	褐色	掘り上げ土	中	堅	II、IV、IVが漸移的に混在
6	10YR1/1	黒色	掘り上げ土	中	堅	II、IV、IV
7	10YR4/6	赤褐色	掘り上げ土	中	堅	II、IV、IV
8	10YR2/1	黒色	掘り上げ土	中	堅	II
9	5YR4/6	赤褐色	掘り上げ土	中	堅	II、IVが漸移的に混在
10	10YR3/4	赤褐色	掘り上げ土	中	堅	II、IV、IV
11	10YR4/6	赤褐色	掘り上げ土	中	堅	II、IV
12	10YR2/3	褐色	掘り上げ土	中	堅	II、IV
13	10YR4/3	赤褐色	掘り上げ土	中	堅	IVプロック
14	10YR4/6	赤褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	IV
15	10YR3/4	赤褐色	掘り上げ土	中	堅	IV、IV、IV、IV
16	10YR1/1	黒色	掘り上げ土	中	堅	IV、IV、IV、IV、IV
17	5YR4/4	赤褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	IV
18	10YR3/2	褐色	掘り上げ土	中	堅	II、IV、IV、IV、IV、IV、IV

H-9土層

層名	マクロ地味	土壌色	野外土性	粘着性	緊密度	主体層・混在層
1	5YR4/4	赤褐色	掘り上げ土	中	堅	IVが漸移的に混在



H-9HP-1土層

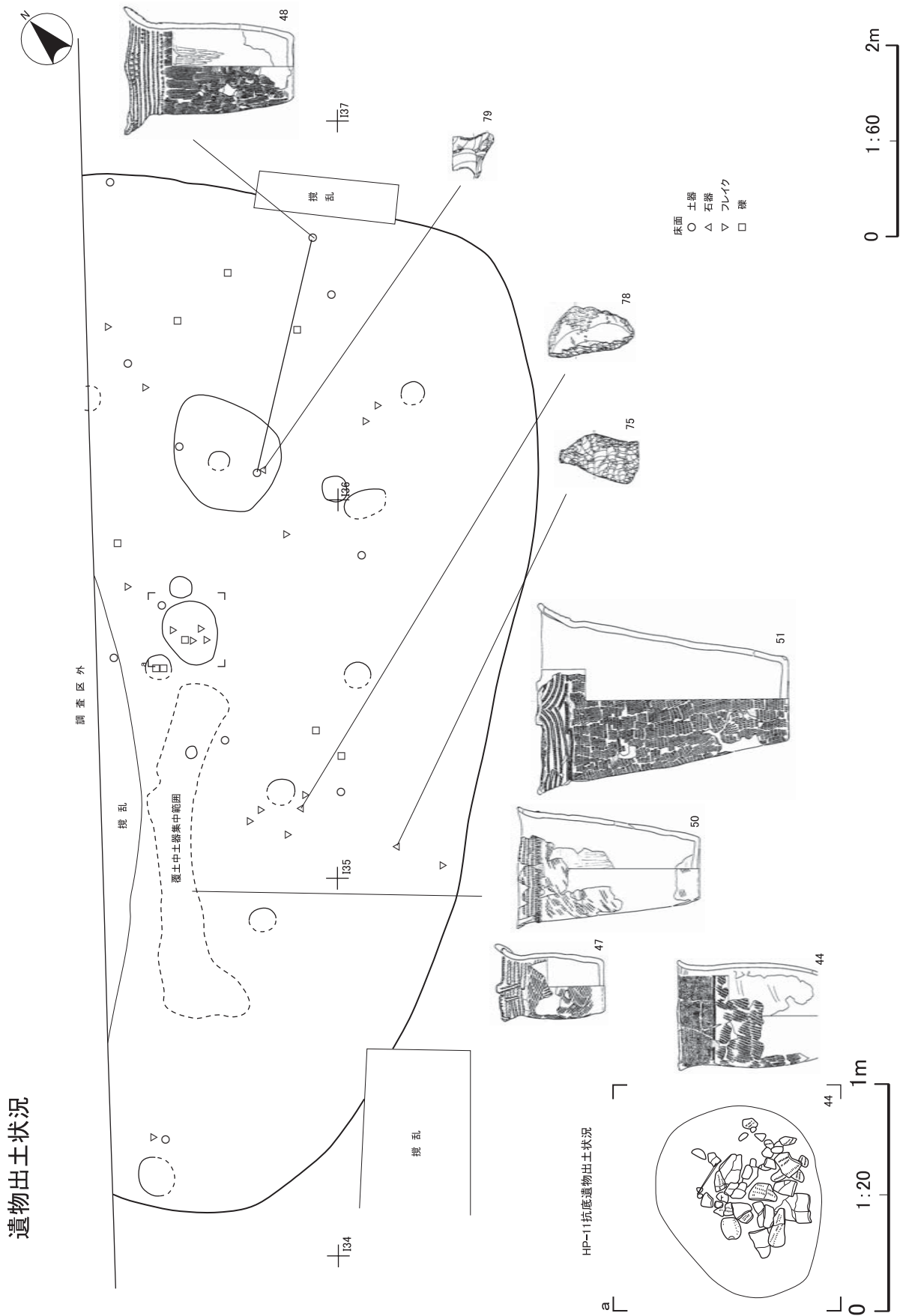
層名	マクロ地味	土壌色	野外土性	粘着性	緊密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II
2	10YR2/2	褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
3	10YR4/6	赤褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
4	10YR4/6	赤褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
5	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
6	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
7	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
8	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
9	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
10	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
11	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
12	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
13	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
14	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
15	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
16	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
17	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
18	10YR3/3	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV

H-9HP-6土層

層名	マクロ地味	土壌色	野外土性	粘着性	緊密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II
2	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
3	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
4	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
5	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
6	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
7	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
8	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
9	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
10	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
11	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
12	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
13	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
14	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
15	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
16	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
17	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV
18	10YR3/2	暗褐色	掘り上げ土	中	II、IV、IV	II、IV、IV

図III-23 H-9 (2)





図Ⅲ-24 H-9 (3)

H-9 (図Ⅲ-22~24 図版14)

位置 H34・35・36 / I34・35・36 立地 標高約10~10.5mの平坦面

規模 (10.71) × (4.87) / (10.57) × (4.75) / 1.21m 平面形 隅丸長方形?

調査 調査区北境付近のⅡ層面で、掘り上げ土と思われる黒褐色土が帯状に広がっていたことから竪穴住居跡を想定した。掘り上げ土内側の黒色土堆積に土層観察用のベルトを設定し、周辺を掘り下げた。30cm程掘り下げたところで自然焼土層を確認した。それ以下の覆土は遺物が多く、土器はつぶれた状態で出土するものが数個体みられた。検出面から1m程掘り下げたところで平坦な床面と壁を確認した。住居跡は北西側半分が町道によりすでに削平されており、今回は南東部半分程を調査した。HF-1上面では炭化材が検出し、放射性炭素年代測定を行った(付篇2参照)。

覆土 17層に分層した。覆土1~4は自然堆積層である。覆土4は赤褐色自然焼土層で6mの範囲でレンズ状に堆積している。覆土5・6は黒色・黒褐色土が入り混じる層で周辺からの流入土の可能性はある。覆土7~13はⅣ層主体で屋根土や壁の崩落土などである。覆土7上部では土器がつぶれたような状態で出土し、中央部は比較的平坦な土層になる。住居廃絶後のくぼみが二次的に利用された可能性がある。覆土7中には焼土層(9)がみられる。覆土14~16はHF-1の掘り込みを埋め戻した土層である。

形態 平面形は長径10mを超える隅丸長方形か。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

付属遺構 炉跡(HF-1)1か所、土坑1基(HP-11)、柱穴12か所(HP-1~10・12・13)を確認した。

HF-1は住居長軸上北東壁から3m程の床面にあり、径約55cm、層厚約6cmである。床面を皿状に掘り込んだくぼみに形成され、焼土上には粘質の炭化材層がある。この掘り込みは床面と同レベルまでⅣ層主体土で埋め戻されている。HP-11は浅皿状の土坑で、住居長軸上、HF-1から1m中央よりに位置する。底面からは土器が敷き詰められるように出土した。

柱穴は南側壁長軸壁から1.1~1.5m内側に並び、径約25~35cmで、深さ約70~90cmのもの(HP-1~5・7・10)、住居中央長軸付近に並ぶ比較的浅いもの(HP-6・8・9・13)がある。HP-6はHF-1を切って構築されている。

住居跡東~南側には5m程の幅で掘り上げ土がみられた。層厚は薄く、厚いところでも10cm程である。

遺物 遺物は2,832点出土した。覆土中からはⅡ群b類~Ⅲ群a類土器が1,724点出土した。潰れたような状態で出土するものがあり、住居廃絶後窪みに廃棄された可能性がある。床面の遺物は少ないがHP-11坑底から円筒土器下層d1期(図Ⅲ-105-44)の土器がまとまって出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(愛場)

H-10 (図Ⅲ-25~27 図版15)

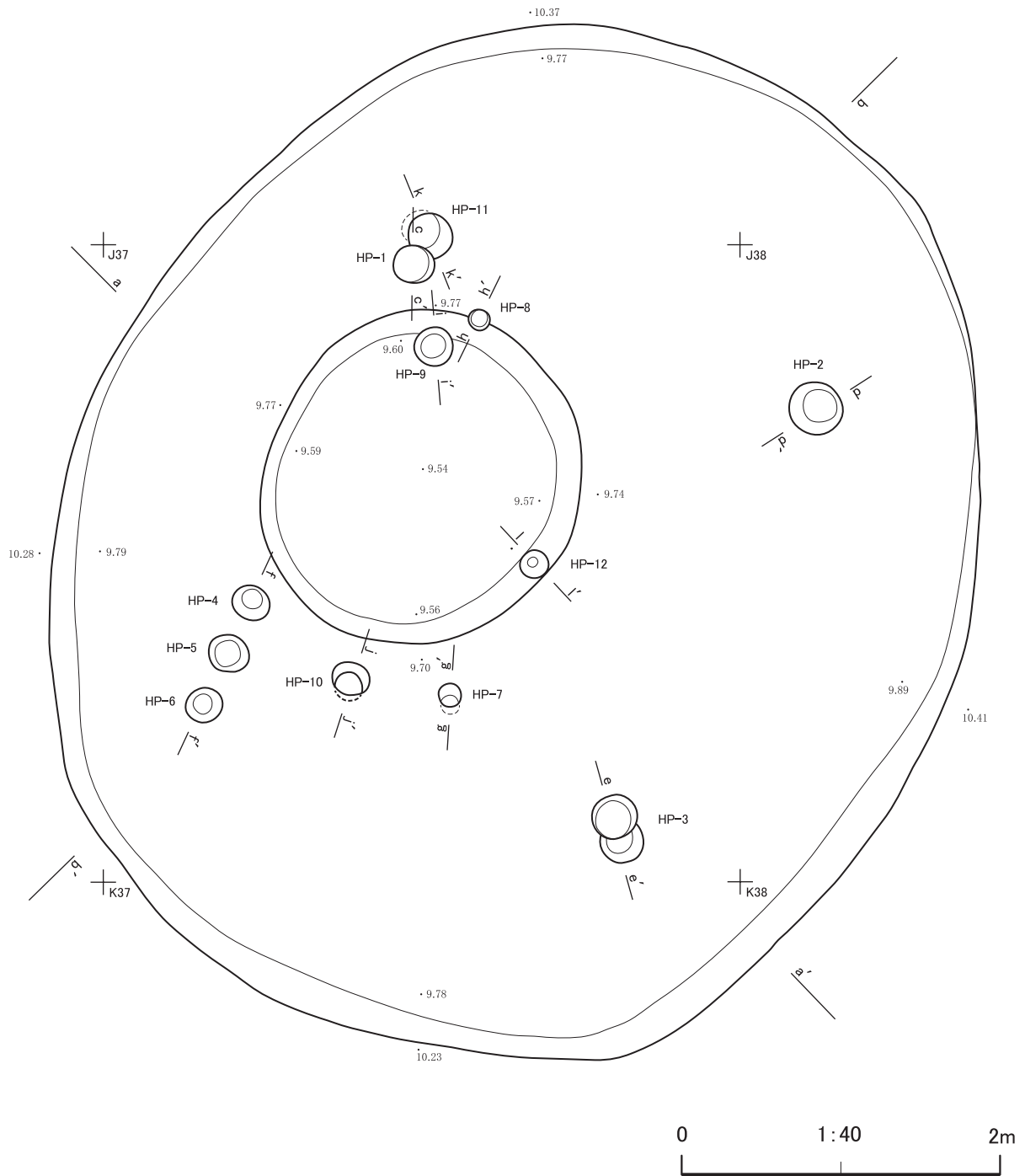
位置 I37・38 / J36・37・38 / K37・38 立地 標高10.5~10.6mの平坦面

規模 6.55×5.72 / 6.22×5.52 / 0.82m 平面形 楕円形

調査 Ⅲ層上面で径6m程の黒色土の堆積を確認した。土層観察ベルトを設定し掘り下げたところ、明瞭に立ち上がる壁と、平坦な床面を検出した。また、中央よりやや西よりにベンチ状の掘り込みを検出した。その後床面から柱穴12本を検出した。焼土や炉はなかった。

覆土 5層に分層した。覆土1はⅡ層起源の自然堆積層で、赤褐色の自然焼土層も一部みられる。覆土3は中央のベンチ状の落ち込みの覆土で、Ⅱ層起源の黒色土である。覆土4・5層はⅣ層起源のローム質土を含み非常に堅くしまった層である。

H-10



図III-25 H-10 (1)

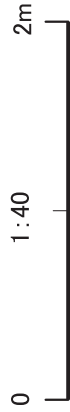
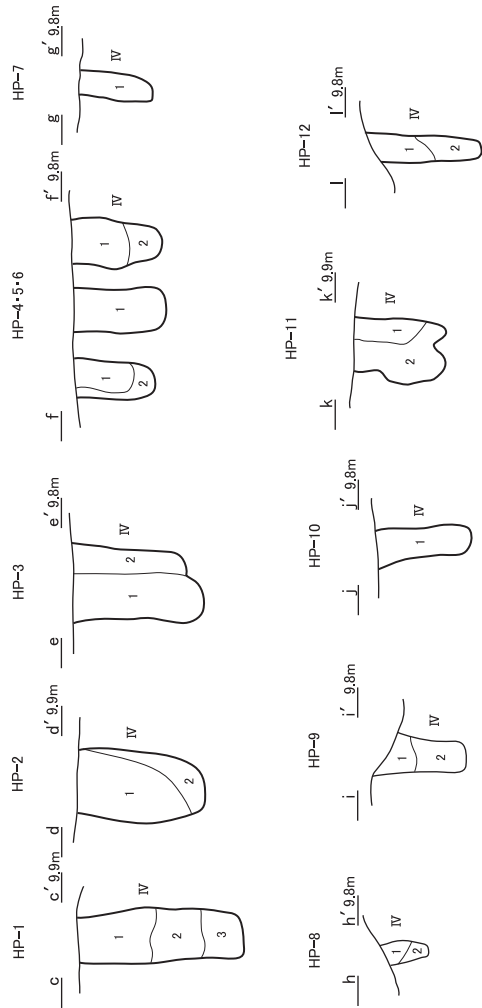


H-10土層

層名	マツル川階地系	土壌色	野外土性	粘着性	堅固度	主体層・混在層
1	10VR2/3	黒色	垣塚土	強	堅	II
2	10VR4/6	赤褐色	垣塚土	中	堅	自然埋積の粘土
3	10VR2/3	黒褐色	垣塚土	中	堅	II>III
4	10VR1/7/3	黒色	垣塚土	強	堅	II
5	10VR3/4	暗褐色	垣塚土	強	堅	IV>III
6	10VR4/4	褐色	垣塚土	強	堅	IV>III

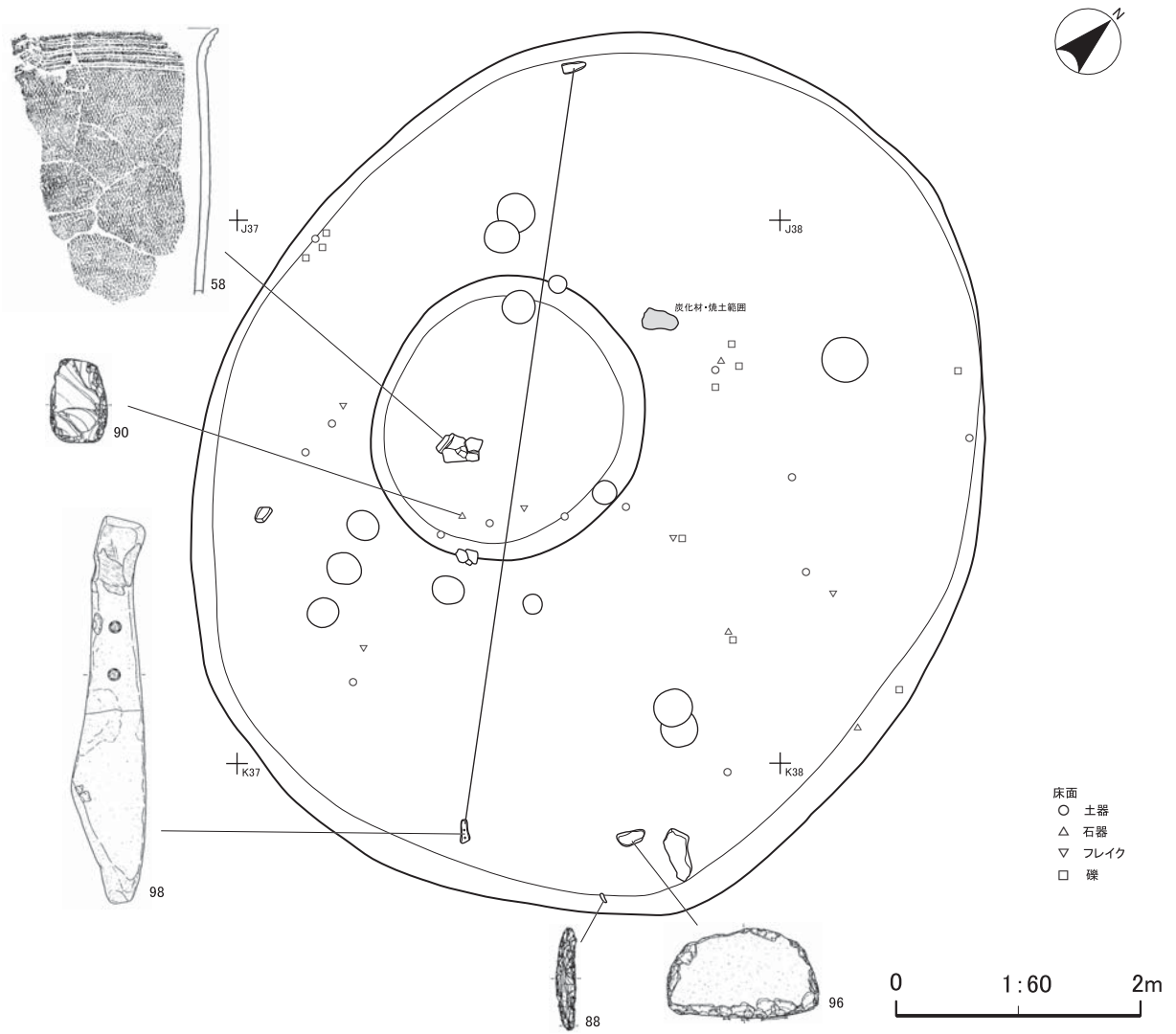
H-10HP-1土層

層名	マツル川階地系	土壌色	野外土性	粘着性	堅固度	主体層・混在層
1	10VR2/3	黒褐色	垣塚土	中	しよろ	II+III
2	10VR3/4	暗褐色	垣塚土	中	しよろ	III+IV
3	10VR4/4	褐色	垣塚土	強	しよろ	III+IV
H-10HP-2土層						
1	10VR2/1	黒色	垣塚土	中	しよろ	II+III
2	10VR3/4	暗褐色	垣塚土	強	しよろ	III+IV
H-10HP-3土層						
1	10VR2/3	黒褐色	垣塚土	強	しよろ	III>II
2	10VR3/4	暗褐色	垣塚土	強	しよろ	III>IV
H-10HP-4土層						
1	10VR3/3	暗褐色	垣塚土	強	しよろ	III+IV
2	10VR3/6	褐色	垣塚土	強	しよろ	IV
H-10HP-5土層						
1	10VR2/3	黒褐色	垣塚土	中	しよろ	II+III
H-10HP-6土層						
1	10VR2/3	黒褐色	垣塚土	強	しよろ	II+III
2	10VR3/4	暗褐色	垣塚土	強	しよろ	III+IV
H-10HP-7土層						
1	10VR3/3	暗褐色	垣塚土	中	しよろ	III+IV
H-10HP-8土層						
1	10VR2/3	黒褐色	垣塚土	中	しよろ	III+III
2	10VR4/4	褐色	垣塚土	中	しよろ	III+IV
H-10HP-9土層						
1	10VR4/6	褐色	粘土	中	しよろ	IV
2	10VR2/3	黒褐色	垣塚土	中	しよろ	II+III
H-10HP-10土層						
1	10VR2/3	黒褐色	垣塚土	強	しよろ	II+III
H-10HP-11土層						
1	10VR3/6	褐色	粘土	強	しよろ	IV
2	10VR3/4	暗褐色	垣塚土	強	しよろ	III+IV
H-10HP-12土層						
1	10VR3/4	暗褐色	垣塚土	中	しよろ	III+IV
2	10VR4/6	褐色	粘土	中	しよろ	IV



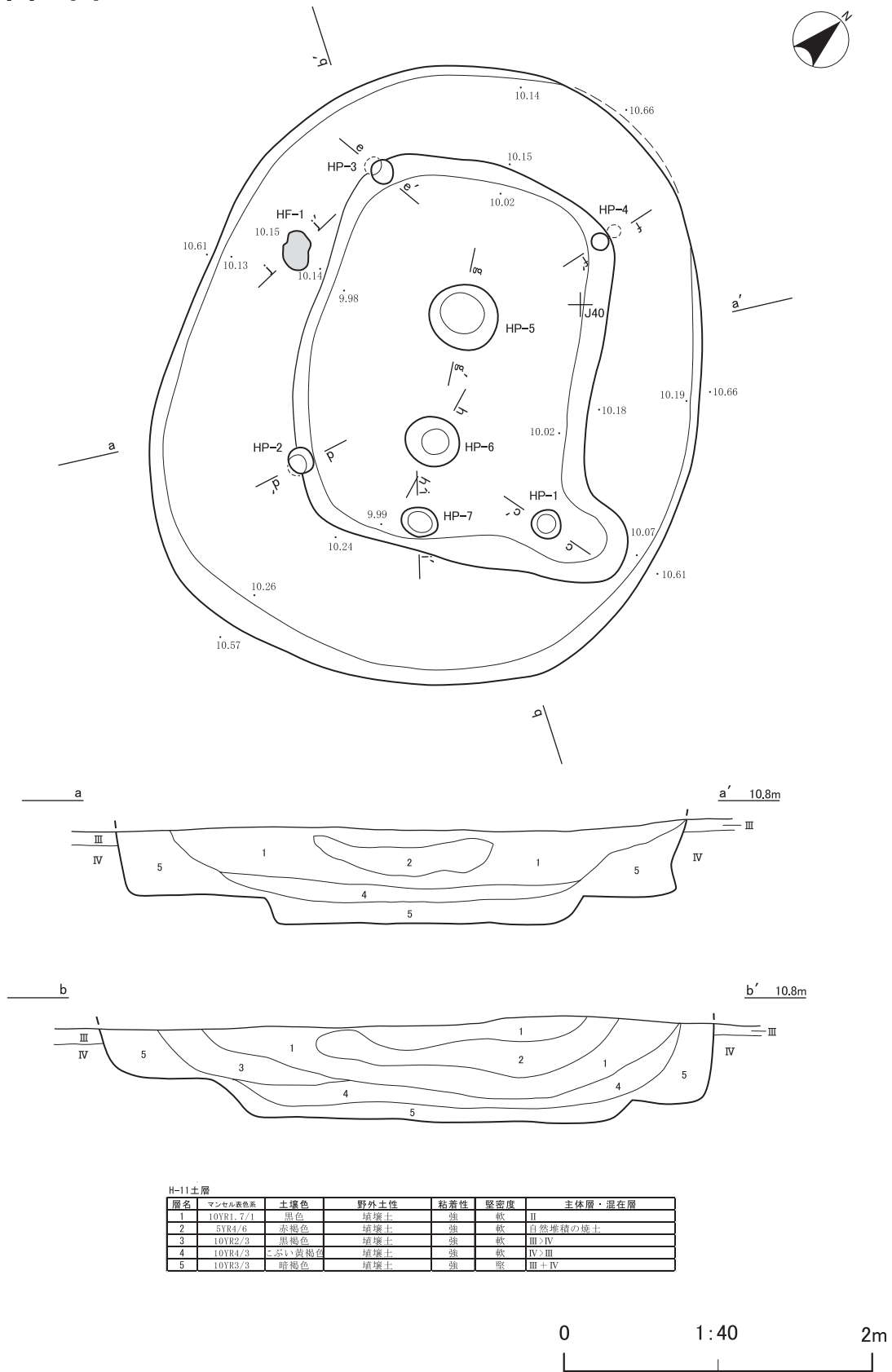
図III-26 H-10 (2)

遺物出土状況

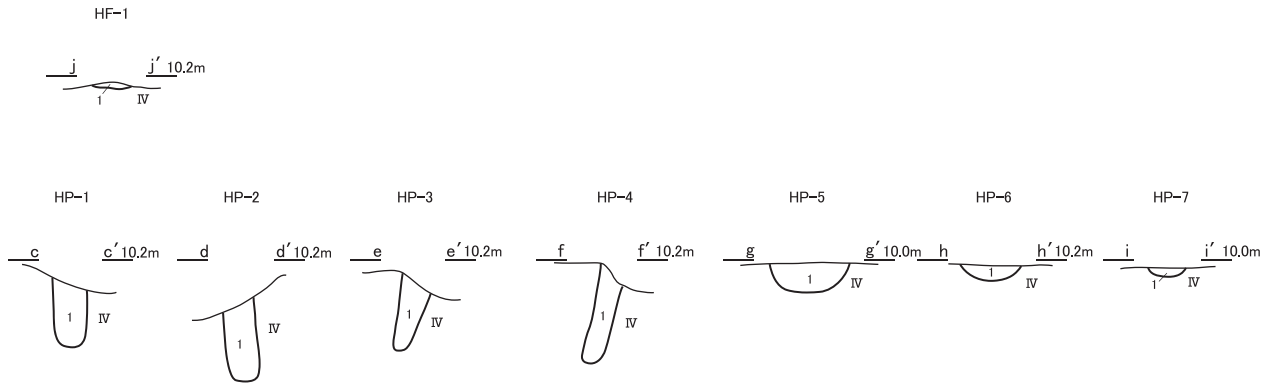


図III-27 H-10 (3)

H-11

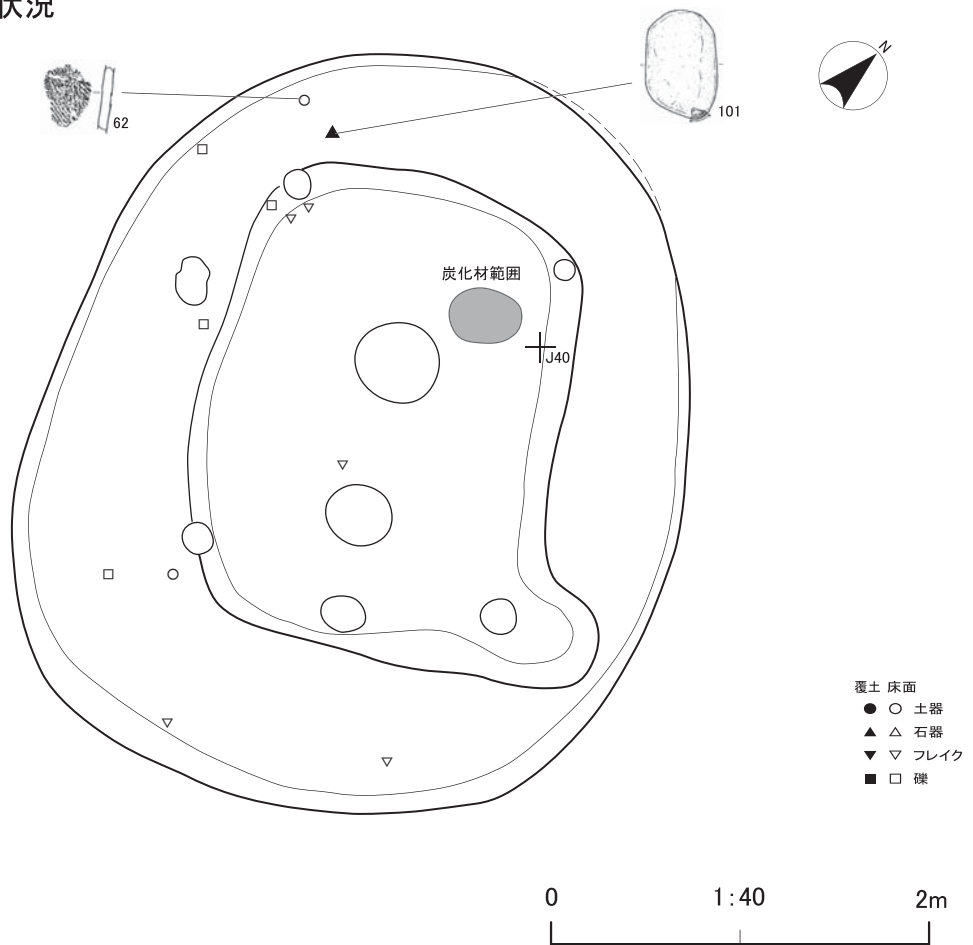


図Ⅲ-28 H-11 (1)



H-11HF-1土層						
層名	マンセル染色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	7.5YR3/4	暗褐色	壤土	中	中	すこぶる堅IVが覆けた堆土層
H-11HP-1						
1	10YR3/4	暗褐色	埴壤土	強	しろう	III
H-11HP-2						
1	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	強	しろう	III
H-11HP-3						
1	10YR3/4	暗褐色	埴壤土	強	しろう	III
H-11HP-4						
1	10YR3/4	暗褐色	埴壤土	強	しろう	III
H-11HP-5						
1	10YR4/4	褐色	埴壤土	強	しろう	III>IV
H-11HP-6						
1	10YR4/4	褐色	埴壤土	強	しろう	III>IV
H-11HP-7						
1	10YR4/3	こげい黄褐色	埴壤土	強	しろう	III>IV

遺物出土状況



図III-29 H-11 (2)

形態 平面形は南北を長軸とした楕円形で、周辺のH-7～9と比べると小型の住居跡である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

付属遺構 ベンチ構造、柱穴12か所（HP-1～12）を確認した。

住居床面やや南西よりに、径2m、深さ16cm程のベンチ状の掘り込みがある。平面形はほぼ円形で、床面は平坦である。柱穴は直径約15～40cm、深さ約30～80cmである。覆土はいずれも非常にもろく、しまりはない。HP-1～3・5の4本が主柱穴と思われる。

遺物 遺物は729点出土した。床面ではⅡ群b類土器がまとまって出土した。また穿孔を施した石製品が、床面北西端と南東端で出土し、接合した。同じく南東端の床面からは石錐1点、扁平打製石器1点も出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。 (新家)

H-11 (図Ⅲ-28・29 図版16)

位置 I39・40/J39・40 **立地** 標高10.6～10.8mの平坦面

規模 4.08×3.48/3.96×3.31/0.70m **平面形** 楕円形

調査 H-8の南東側包含層を調査中、Ⅲ層上面で長径4m程の楕円形の黒色土の堆積を確認した。十字に土層観察ベルトを設定し、掘り下げたところ、ベンチ構造のある住居跡であった。また、住居の東西壁にそれぞれ土坑の断面が検出され、H-11はこの2つの土坑（P-60・61）を切って構築されている。床面では炭化材が検出し、放射性炭素年代測定を行った（付篇2参照）。

覆土 5層に分層した。覆土1層はⅡ層が自然堆積して落ち込んだもの、覆土2層は赤褐色焼土層で、層厚は20cm強である。覆土3～5層はⅢ・Ⅳ層を起源とした埋め戻し土である。床面とベンチに一番近い覆土である覆土5層は非常に堅くしまる。

形態 平面形は楕円形で、壁は明瞭に立ち上がる。床面は50～60cmほど掘り込まれ、平坦で非常に堅い。ほぼ中央に長軸約2.5mのベンチ構造がある。

付属遺構 ベンチ構造、焼土1か所（HF-1）、小土坑3基（HP-5～7）、柱穴4か所（HP-1～4）を確認した。

ベンチ構造の平面形はやや隅丸方形で、段差は20cm程である。床は平坦で堅くしまり、東側角が舌状に若干突出している。焼土は床面西側壁際で検出した。層厚約4cmで非常に堅くしまる。小土坑は浅い土坑で、ベンチ構造の床面の長軸に沿って並ぶ。直径は25～45cm、深さは5～15cmである。覆土は非常に軟らかく、色味はHP-1～4よりもやや明るい。

柱穴はベンチ構造の四隅に位置する。いずれも直径20cm弱と、同時期の住居跡の柱穴に比べると細身である。深さは40cm程である。覆土は非常に軟らかく、もろい暗褐色土である。

遺物 遺物は155点出土した。多くは覆土出土で、床面からはⅡ群b類土器2点、フレイク5点、扁平打製石器破片1点、礫3点が出土したのみである。

時期 出土遺物や住居構造から、縄文時代前期後半と考える。 (新家)

H-12 (図Ⅲ-30 図版17)

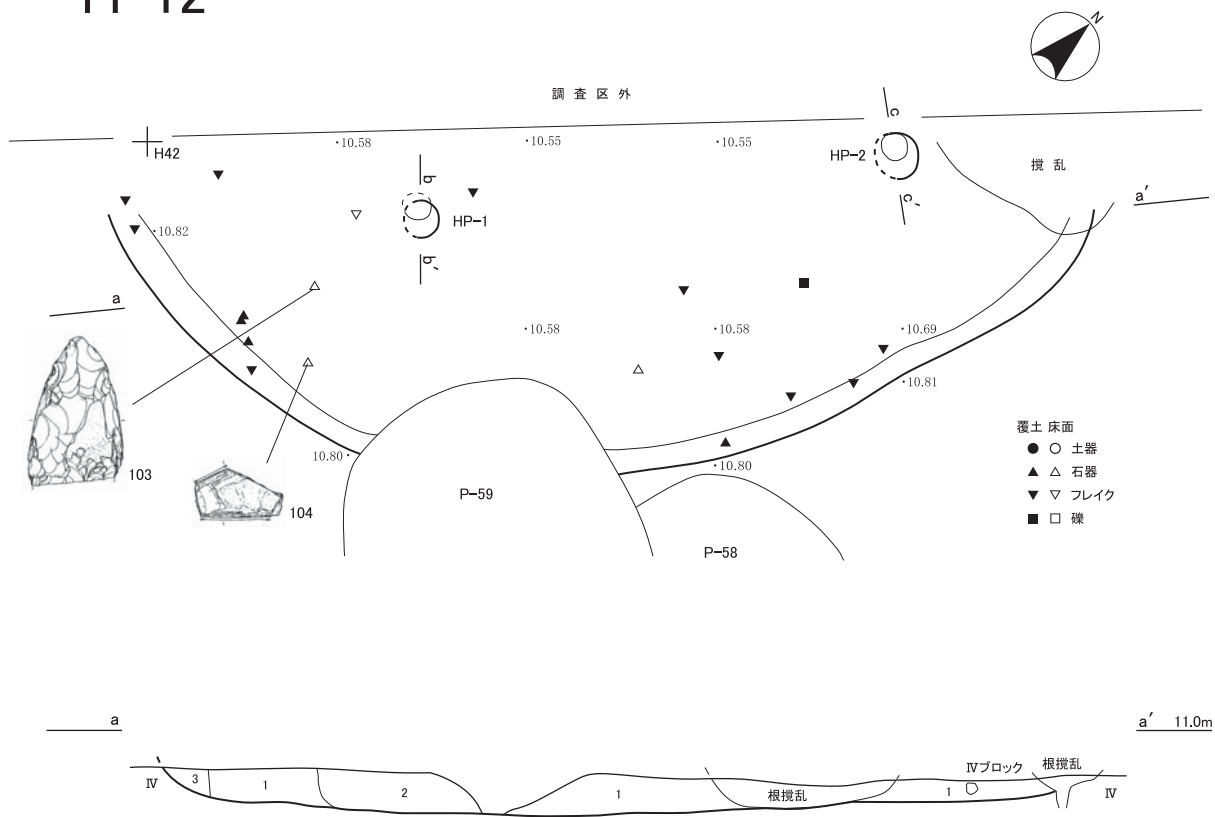
位置 H41・42・43

立地 標高約10.9mの平坦面。南東側にはP-58・59があり、P-59に切られている。

規模 (5.20) × (1.76) / (4.87) × (1.64) / 0.26m **平面形** 円形?

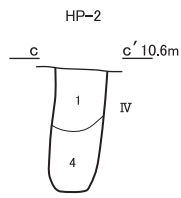
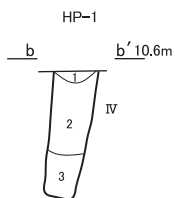
調査 Ⅳ層面で暗褐色・黒褐色の堆積を確認した。調査区境と短軸のT字状に土層観察ベルトを

H-12



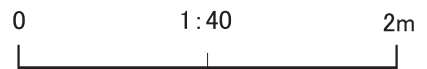
H-12土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	中	堅	II・III+IV
2	10YR2/3	黒褐色	埴壤土	中	堅	II・III+IV
3	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	堅	II・III+IV



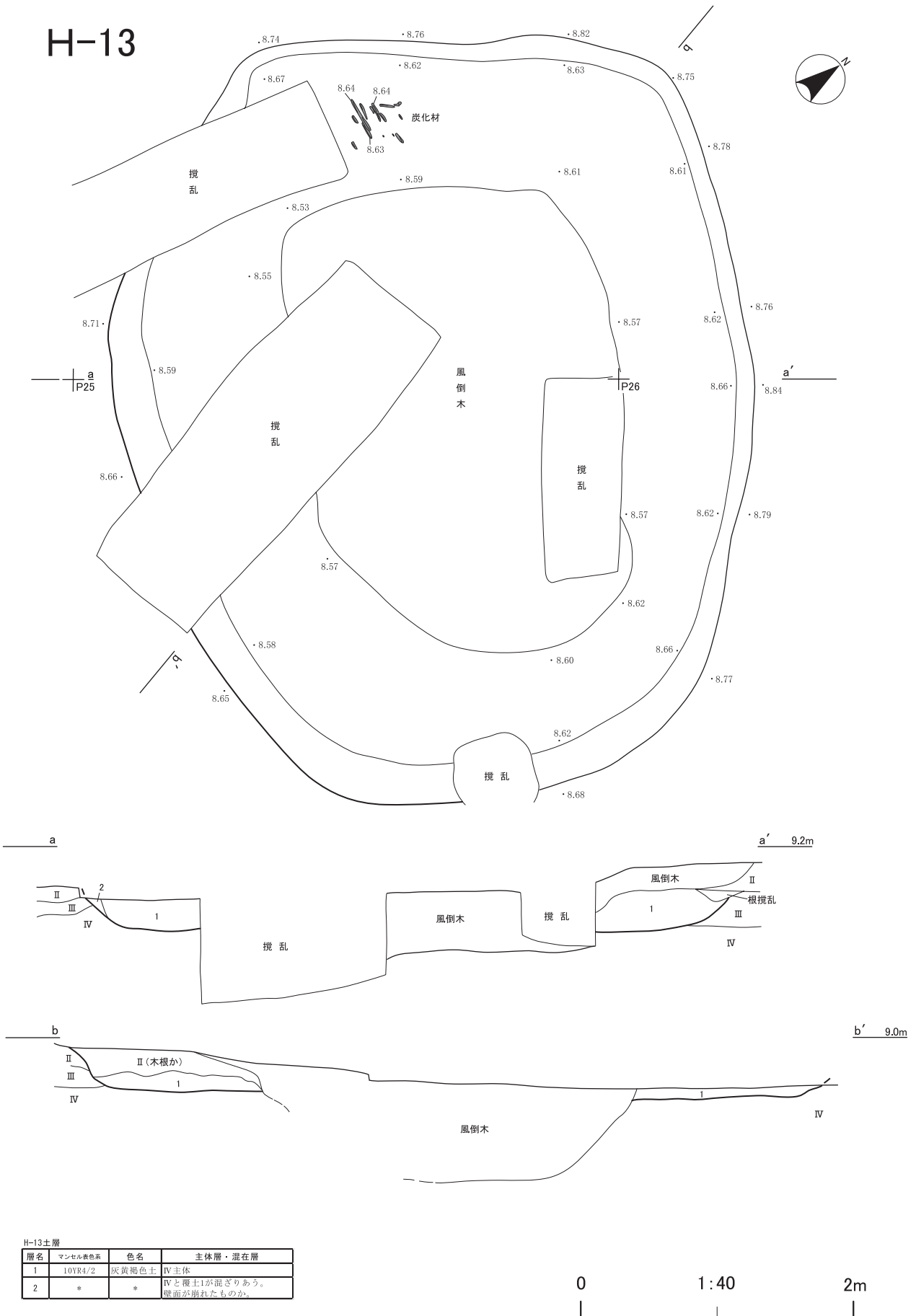
H-12HP-1・2土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	埴壤土	中	しよ	II+IV
2	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	しよ	III+IV
3	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	しよ	2+IV 凝状
4	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	中	しよ	II+IV



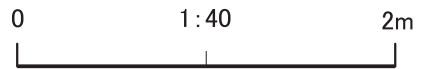
図III-30 H-12

H-13



H-13土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR4/2	灰黄褐色土	IV主体
2	*	*	IVと覆土Iが混ざりあう。壁面が崩れたものか。



図Ⅲ-31 H-13

設定し、周辺を掘り下げた。検出面から20cm程で平坦面を確認し、その面で柱穴が検出したことから住居跡と判断した。住居跡は北西側が町道により削平されており、今回南東側の1/3程度を調査した。覆土3層に分層した。IV層を主体とした黒褐色土・暗褐色土層で屋根土などの崩落・流入土の可能性はある。

形態 平面形は円形または楕円形と推測される。床面は概ね平坦で壁は緩やかに立ち上がる。周辺の竪穴住居跡に比べ、掘り込みは浅い。

付属遺構 柱穴2か所（HP-1・2）を確認した。

HP-1は径23cm・深さ66cm、HP-2は径27cm・深さ65cmで、いずれもやや外傾し、先端形状は平坦となる。

遺物 遺物は82点出土し、床直上・床面からはII群b類土器2点、フレイク2点、石鋸2点と少ない。

時期 遺物から縄文時代で、周辺の遺構から縄文時代前期後半の可能性はある。（愛場）

H-13（図III-31 図版18）

位置 O25・26/P25・26 **立地** 標高8.5～9m付近の緩斜面

規模 5.60×4.70/5.20×4.26/0.48m **平面形** 不整な隅丸の六角形

調査 III層上面で灰黄褐色土の堆積を確認した。攪乱および風倒木によって大部分が破壊されていたが、不整な六角形の平面形を想定できた。掘り込み面はIII層上位である。土層確認用ベルトを設定し、関連する攪乱を全て掘りぬいた。そこから灰色黄褐色土を遺構覆土と想定し、調査を行った。床面と想定できるおおよそ平坦な面とゆるく外側に開きながら立ち上がる壁を検出し、規模から竪穴住居跡と判断した。住居西側において、床面より約2cm上位から構造物の可能性のある炭化した木の枝がまとまって出土した。放射性炭素年代測定を行った（付篇2参照）。

覆土 覆土1層としたにぶい黄褐色土から成る。IV層由来土を含んでおり、掘り上げ土の再流入、あるいは土葺き屋根の崩落の可能性はある。

付属遺構 付属遺構は検出出来なかったが、攪乱によって破壊された可能性が高い。

遺物 遺物はI群b類土器9点、石鏃1点、フレイク29点など計43点出土した。

時期 調査状況と出土遺物、周辺の遺構から縄文時代早期後半と考える。（大泰司）

H-14（図III-32・33 図版20）

位置 Q4・5/R4・5 **立地** 標高約7mの平坦面

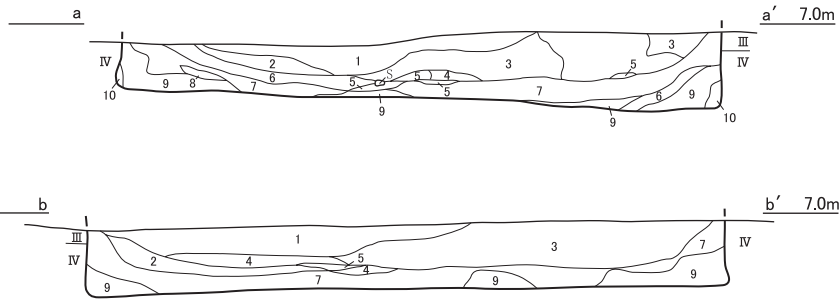
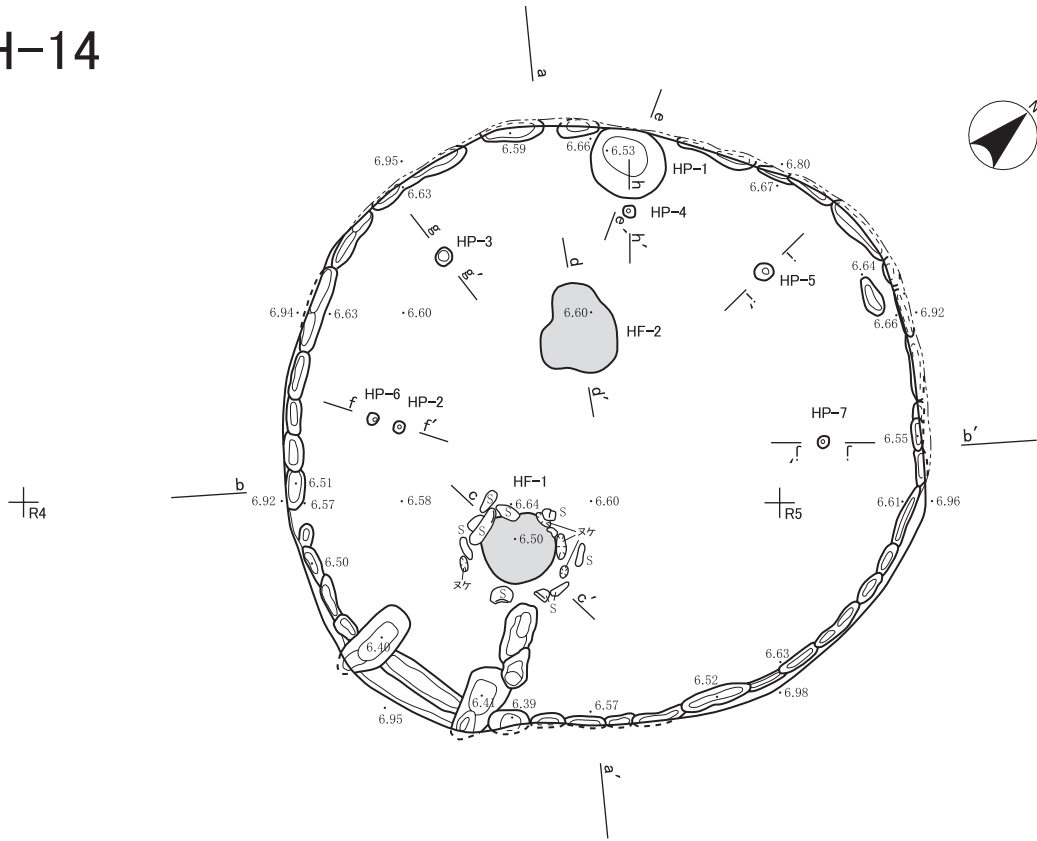
規模 3.57×3.35/3.38×3.22/0.42m **平面形** 不整の円形

調査 III～IV層面において円形で中央に赤褐色土がみられる黒色・黒褐色土の堆積を確認した。十字に土層観察ベルトを設定し、トレンチ調査を行いながら全体を掘り下げた。覆土中位では礫の集中とその上に土器片が出土した。これはHF-2上部にあたる。検出面から40cm程掘り下げたところで、床面・焼土・壁の立ち上がりを確認し、住居跡と判断した。床面炭化材は炭化樹種同定、石組炉の焼土から回収した炭化材については放射性炭素年代測定をそれぞれ行った（付篇2・3参照）。

覆土 10層に分層した。図には現れていないが、最上面には赤褐色の自然焼土層がある。覆土1はII層起源の自然堆積土である。覆土2はにぶい褐色土層で礫の集中がみられた。覆土7～10は屋根土や壁などの崩落土と考えられる。

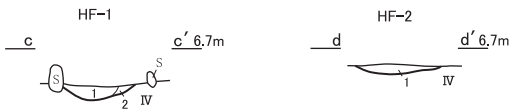
形態 平面形は多角形にもみえる不整円形で、南側がやや突き出る。壁はほぼ垂直もしくはややオーバーハングして立ち上がる。

H-14



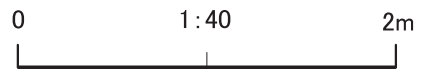
H-14土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	壤土	中	堅	II > IV 小粒径5%
2	10YR4/3	にぶい 黄褐色	植壤土	中	堅	IV > II・III
3	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II > III・IV
4	10YR1.7/1	黒色	壤土	中	堅	II > IV
5	5YR4/6	赤褐色	植壤土	中	堅	粘土
6	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II > III・IV
7	10YR3/4	暗褐色	植壤土～壤土	中	堅	II + IV
8	10YR4/4	褐色	植壤土	中	堅	IV
9	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II > III・IV
10	10YR4/6	褐色	植壤土	中	堅	IV > II・III

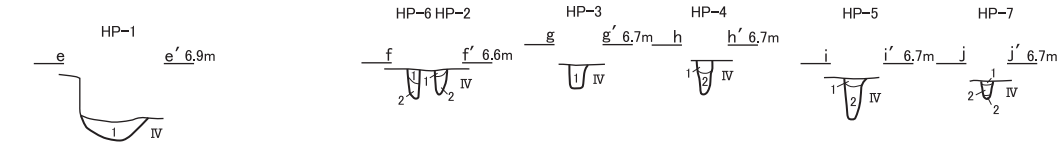


H-14HF-1・2土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	5YR4/6	赤褐色	植壤土	中	堅	粘土 IVが漸移的に成熟
2	10YR3/3	暗褐色	植壤土	中	堅	II + 粘土・炭化材



図Ⅲ-32 H-14 (1)



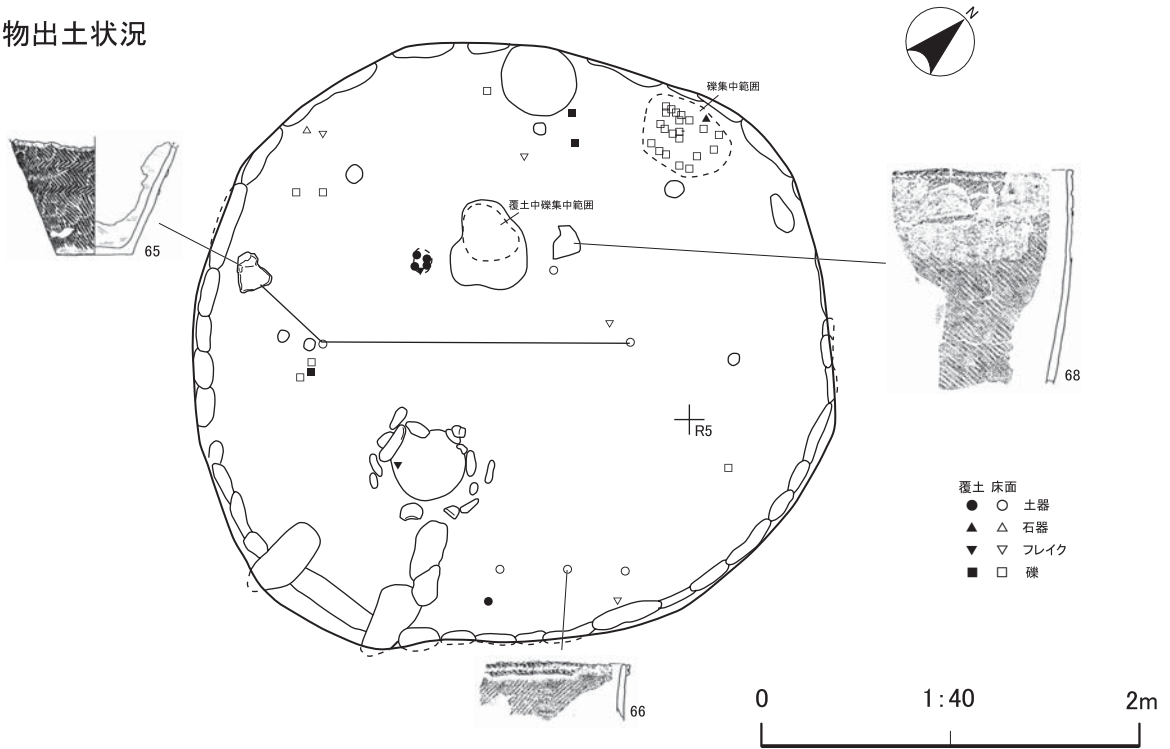
H-14HP-1土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	埴壤土	中	堅	II・III・IV 小澱混じる

H-14HP-2~7土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/4	暗褐色	埴壤土	中	堅	II + III・IV
2	10YR5/6	明褐色	埴壤土	中	軟	IV

遺物出土状況



図III-33 H-14 (2)

付属遺構 石組炉1か所(HF-1)、焼土1か所(HF-2)、土坑1基(HP-1)、柱穴5か所(HP-2~6)、周溝、出入口構造を確認した。

石組炉は住居中央からやや南側にある。礫はほぼ円形に生まれ、一部抜き取られている。焼土は長径40cm程で被熱層は約7cmである。HF-2は住居中央からやや西側の床面に位置する。

HP-1は北西壁際にある径40cm程の土坑で、底面は皿状となる。覆土中からは礫が500点程出土した。柱穴は石組炉より北側で確認した。壁から50cm程内側に約80~90cmの間隔でめぐり、径は6~10cmで深さは9~22cmで先端は尖る。住居壁際には溝がほぼ全周する。長さ約15~40cm単位の溝状の掘り込みが連続するもので、深さは概ね5cm程である。南南西側のやや突き出した壁際には出入口構造があり、出入口と石組炉の間には2か所の礫抜き取り痕がある。

遺物 遺物は4,725点出土した。内訳はIV群a類土器439点、フレイク592点、礫3,657点などである。HF-2上面の覆土中では30cm程の範囲から径2~4cmの円礫が3,000点近くまとまってみられた。また住居北側の壁際床面からは棒状礫が506点出土した。

時期 出土遺物や住居構造から縄文時代後期前葉と考える。(愛場)

H-15 (図Ⅲ-34 図版21)

位置 Q5・6/R5・6 立地 標高約7mの平坦面

規模 (2.14) × (1.38) / (2.14) × (1.32) / 0.05m 平面形 円形?

調査 IV層面で焼土を確認した。周辺の黒褐色・暗褐色土層を掘り下げると、北東側でわずかに壁の立ち上がりがみられた。焼土から北東側に向け、床面と壁がわずかに残る住居跡と判断した。

覆土 3層に分層した。黒褐色~暗褐色の土層で、もっとも残りの良い部分で層厚5cm程である。

形態 形態は不明であるが、円形か。

付属遺構 炉跡2か所(HF-1・2)を確認した。HF-1は床面から3cm程掘り込まれた窪みに形成され、径34×28cm、被熱層厚4cmである。HF-2は径約30cm、被熱層厚4cmで、HF-1の掘り込みに切られる。

遺物 遺物は10点出土した。内訳はII群b類1点、フレイク7点、礫2点である。

時期 出土遺物から縄文時代で、住居構造から縄文時代後期前葉の可能性がある。(愛場)

H-16 (図Ⅲ-35 図版21)

位置 R4/S4 立地 標高約6~7mの平坦面

規模 (3.74) × (1.42) / (3.55) × (1.17) / 0.62m 平面形 隅丸方形?

調査 調査区南西堺での層面で黒色土の堆積を確認した。調査区堺にそった長軸とそれに直交する短軸の土層観察ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。確認面から50cm程掘り下げたところで床面と壁の立ち上がりを認定した。住居跡は南側が用水路により削平されており、今回は住居跡北側1/3程度を調査した。

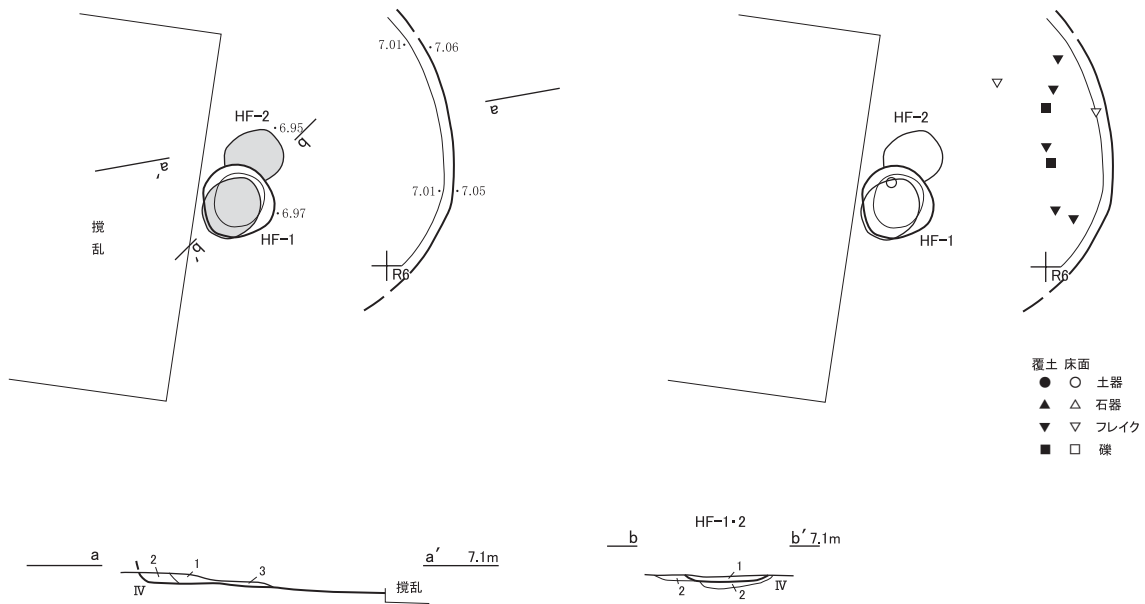
覆土 8層に分層した。覆土1は自然堆積で、覆土2は漸移的に焼けた焼土層である。覆土3~8は屋根土、壁などに関連した崩落土、流入土と考えられる。

形態 平面形は隅丸方形か。床面は平坦で壁は急角度で立ち上がる。南東側は風倒木で壊される。

付属遺構 検出していない。

遺物 遺物は414点出土した。フレイク(190点)や礫(92点)が多い。土器はI群b類土器、II群b類土器、IV群a類土器がみられ、床面からはI群b類土器9点、IV群a類土器14点が出土している。

H-15

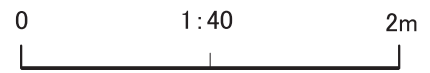


H-15土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	堆積土	中	堅	II>III・IV
2	10YR3/3	暗褐色	堆積土	中	堅	II±III・IV
3	10YR3/4	暗褐色	堆積土	中	堅	2±III・IV斑状

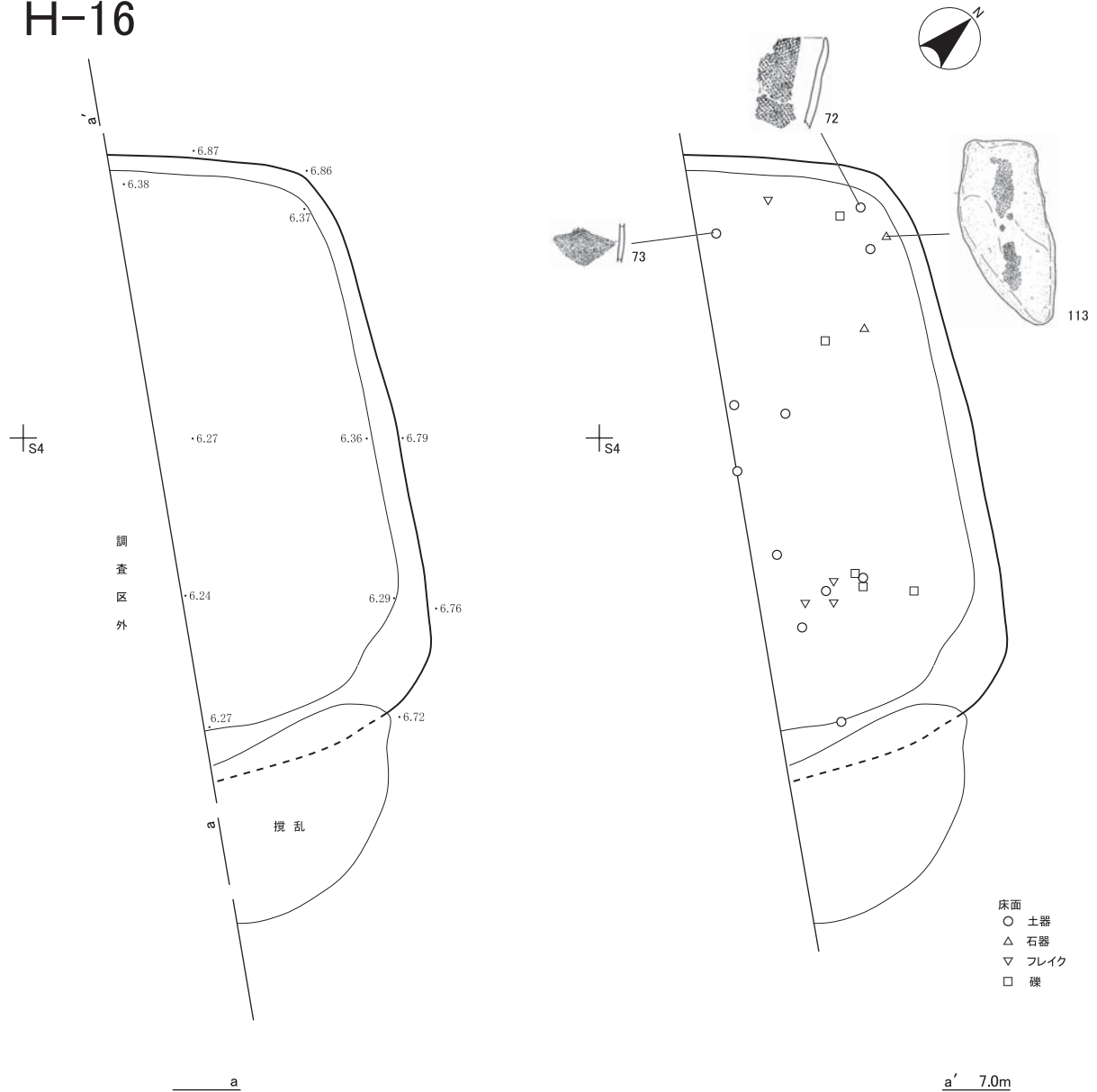
H-15HF-1・2土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	堆積土	中	すこぶる堅	II>III・IV・焼土
2	5YR4/6	赤褐色	堆積土	中	すこぶる堅	焼土 IVが漸移的に成熟

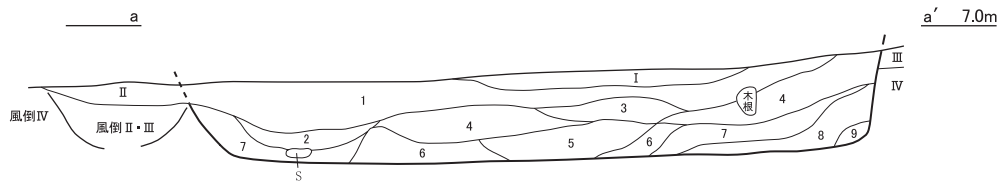


図III-34 H-15

H-16

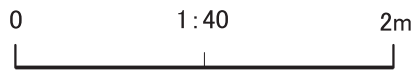


- 床面
 ○ 土器
 △ 石器
 ▽ フレイク
 □ 礫



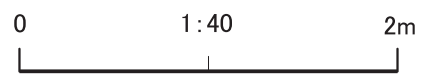
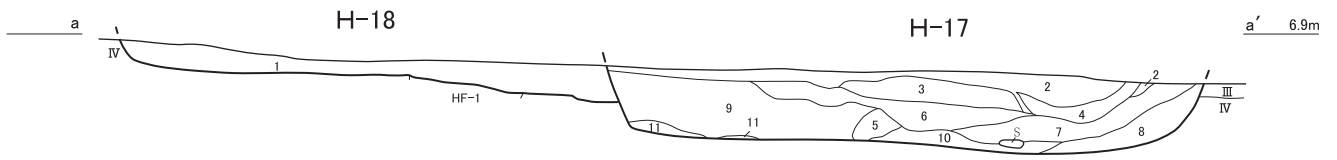
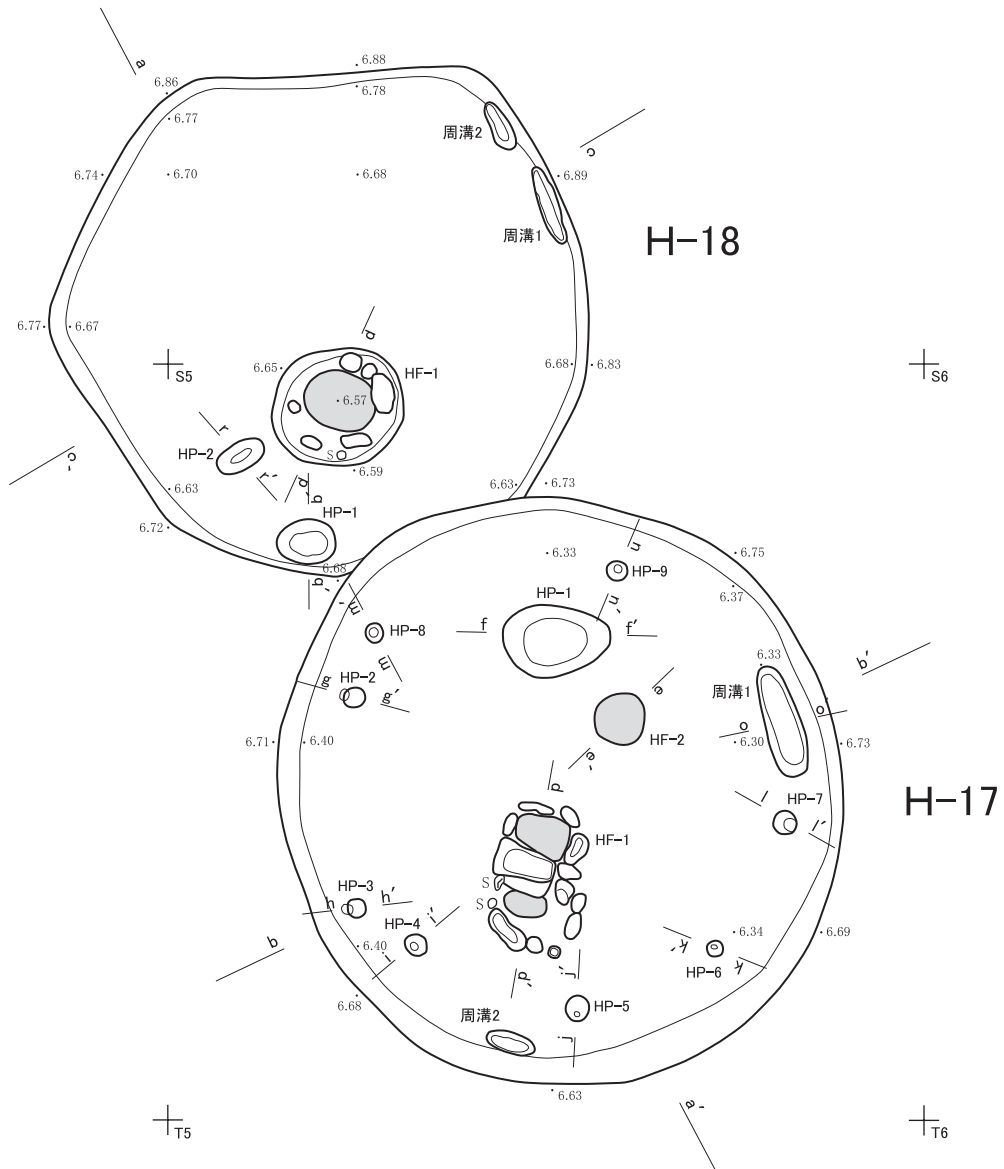
H-16土層

層名	マンセル表色名	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴塚土	中	堅	II
2	5YR4/4	にぶい赤褐色	埴塚土	中	堅	自然堆積の焼土
3	10YR3/2	黒褐色	埴塚土	中	堅	II+IV
4	10YR3/4	暗褐色	埴塚土	中	堅	III・IV>II
5	10YR2/2	黒褐色	埴塚土	中	堅	II>IV小粒径
6	10YR3/2	黒褐色	埴塚土	中	堅	II+IV
7	10YR2/2	黒褐色	埴塚土	中	堅	II>IV小粒径
8	10YR2/2	黒褐色	埴塚土	中	堅	II>IV小粒径 7よりIV多い
9	10YR4/6	褐色	埴塚土	中	堅	IV>II

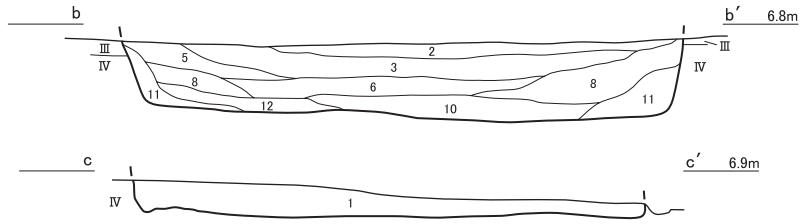


図Ⅲ-35 H-16

H-17・18



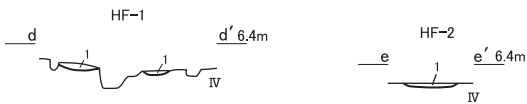
図III-36 H-17・18 (1)



H-17・18土層

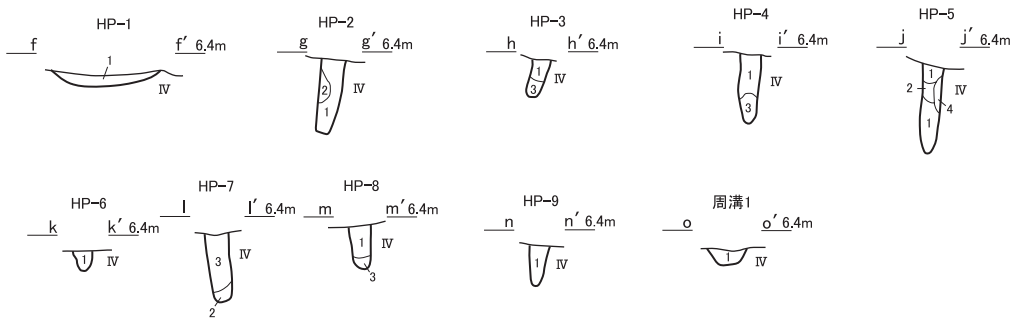
層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III>IV均質 炭化材混じる
2	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II>III・IV
3	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	IV>II・III
4	5YR4/6	赤褐色	埴壤土～壤土	中	堅	埴土
5	10YR2/3	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II>IV
6	10YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II > IV小粒径5%
7	10YR3/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III+IV
8	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II+III・IV
9	10YR4/3	にぶい黄褐色	埴壤土～壤土	中	堅	IV>II・III
10	10YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II > IV
11	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III+IV
12	10YR4/6	褐色	埴壤土～壤土	中	堅	IV>II・III斑状

H-17



H-17HF-1・2土層

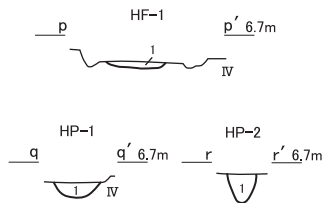
層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	5YR4/8	赤褐色	埴壤土	中	オコボる型	埴土 IVが漸移的に成熟



H-17HP-1～9・周溝1土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/4	暗褐色	埴壤土～壤土	中	しまう	II・III>IVブロック
2	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	しまう	IV>II・III
3	10YR2/3	黒褐色	埴土	中	しまう	II>IV
4	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	しまう	IV

H-18

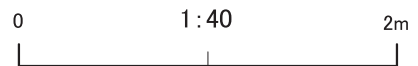


H-18HF-1土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	5YR4/8	赤褐色	埴壤土	中	オコボる型	埴土 IVが漸移的に成熟

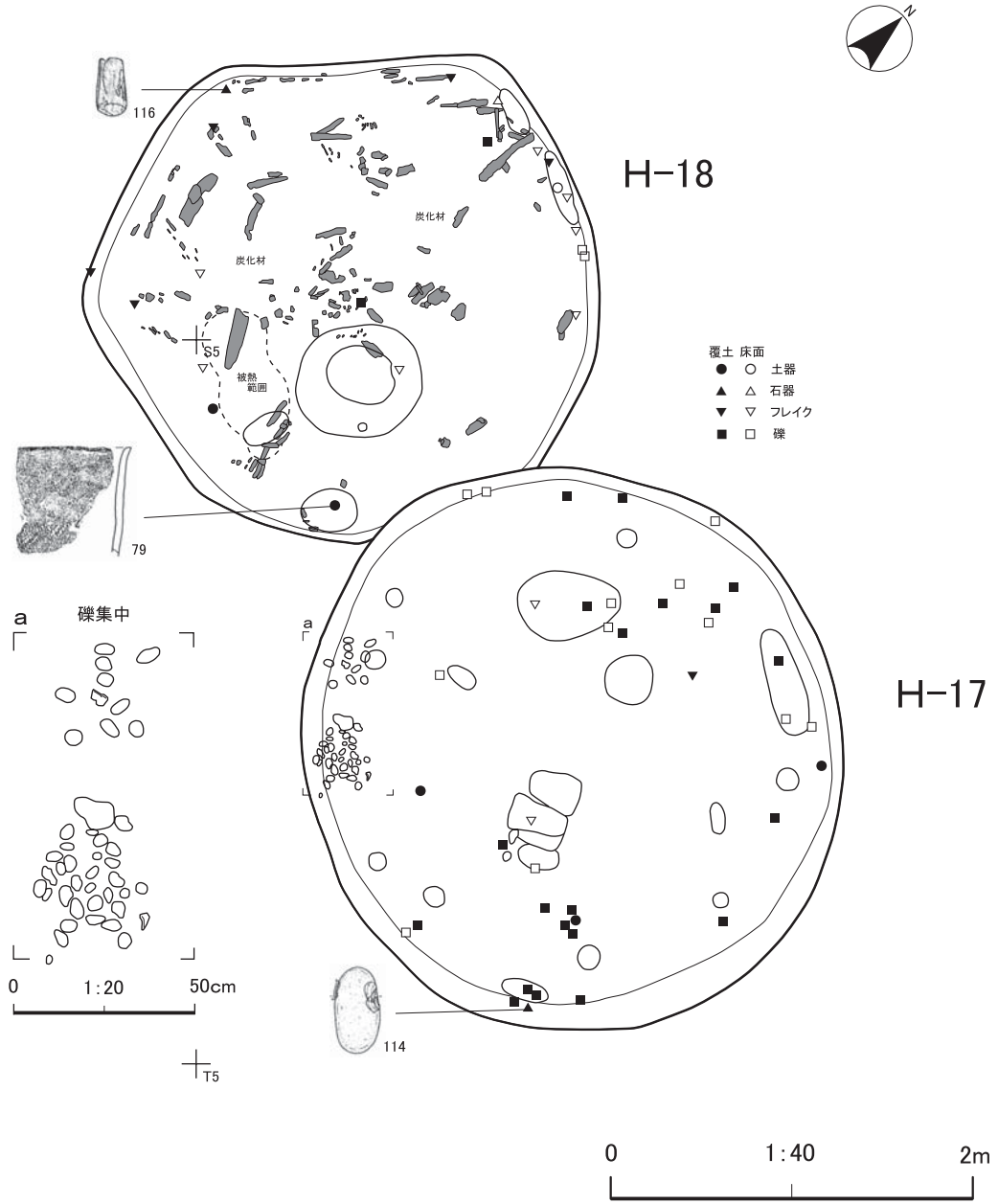
H-18HP-1・2土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III>IV



図Ⅲ-37 H-17・18 (2)

遺物出土状況



図III-38 H-17・18(3)

時期 出土遺物から縄文時代である。

(愛場)

H-17 (図Ⅲ-36~38 図版22)

位置 S5 立地 標高約7mの平坦面

規模 3.19×2.96/2.88×2.75/0.45m 平面形 円形

調査 Ⅲ層面で黒褐色・褐色土の円形の堆積が2つ連なって検出した。2か所の落ち込みにかかる長い土層観察ベルトと、それに直交するベルトをそれぞれに設定した。H-17は東側の落ち込みで、検出面から45cm程掘り下げたところで平坦な床面と壁を確認し、住居跡と判断した。土層の観察によりH-17が西側のH-18より新しい。石組炉焼土から回収した炭化材については、放射性炭素年代測定を行った(付篇2参照)。

覆土 11層(覆土2~12)に分層した。覆土2は炭化材混じりの黒褐色土、覆土3はⅣ層主体土である。覆土4は漸移的に焼ける焼土層である。覆土6層はⅡ層主体の黒色土で、少量のⅣ層粒を含む。覆土7~11は屋根土や壁などの崩落・流入土の可能性はある。

形態 平面形は円形で、床面は概ね平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 石組炉1か所(HF-1)、炉跡1か所(HF-2)、土坑1基(HP-1)、柱穴8か所(HP-2~9)、周溝1か所を確認した。

HF-1は住居中央よりやや南東側にある。大きな礫の抜き取り痕を挟んで2か所に焼土があり、その周囲にそれぞれ礫の抜き取り痕がめぐっている。規模は北西側が径29×21cm、被熱層厚が4cm、南東側が径23×12cm、被熱層厚が2cmである。HF-2は石組炉から50cm程北側にあり、円形で直径は29cmである。

HP-1は平面形が卵形で、底面は皿状となる。柱穴は壁際をめぐっており、直径は9~12cm程である。深さは11~48cmとばらつきがあり、やや内傾するものが多い。

周溝は北西壁近くにみられる。長径60cm、幅20cmで深さは5cm程度である。南東の壁際には周溝とも礫の抜き取り痕とも判断しにくい窪みがみられる。

遺物 遺物は361点出土した。土器はⅠ群b類、Ⅱ群b類、Ⅳ群a類土器があるがⅣ群a類土器が多く、床面直上からも1点出土している。住居南西の壁際には80×30cm程の範囲に棒状礫が60点程まとまって出土した。その中には両端に抉りが入られたⅡ群b類土器片(未掲載)もみられた。

時期 出土遺物や住居構造から縄文時代後期前葉と考える。

(愛場)

H-18 (図Ⅲ-36~38 図版23)

位置 R4・5/S4・5 立地 標高約7mの平坦面

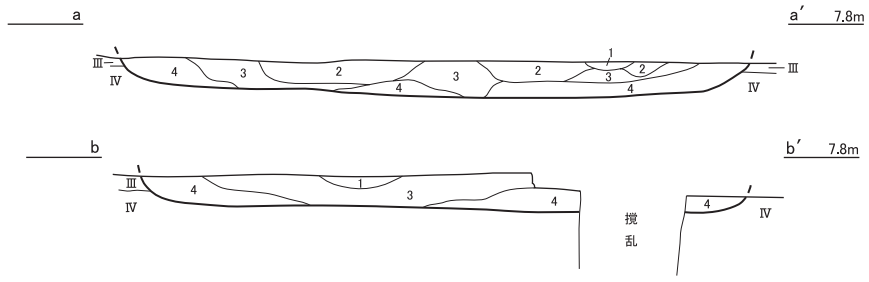
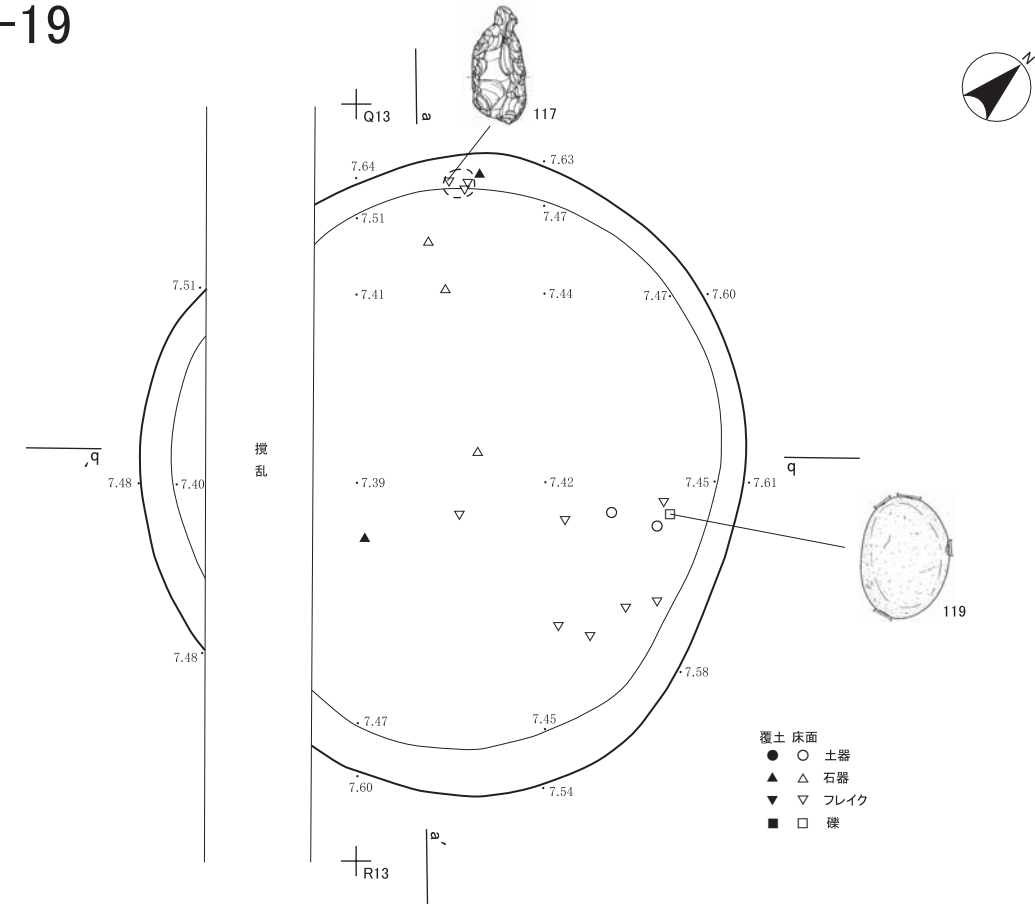
規模 2.85×2.66/2.69×2.54/0.3m 平面形 六角形

調査 Ⅲ層面で黒褐色・褐色土の円形の堆積が2つ連なって検出した。2か所の落ち込みにかかる長い土層観察ベルトと、それに直交するベルトをそれぞれに設定した。H-18は西側の落ち込みで、検出時から炭化材が多くみられた。このため炭化材を残して掘り下げ、位置を記録した。状況の良いものはサンプルを採り、樹種同定と放射性炭素年代測定を行った(付篇2・3)。検出面から15cm程掘り下げたところで床面と壁を確認し、住居跡と判断した。

覆土 炭化材を含むⅣ層主体の暗褐色土である。

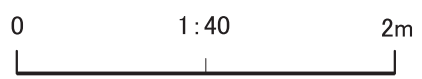
形態 住居の平面形は一辺が1.3~1.6m程の六角形?で、東側壁際の一部がH-17により壊されている。炭化材は中央から壁へ放射状に建材が組まれた構造が見て取れた。

H-19



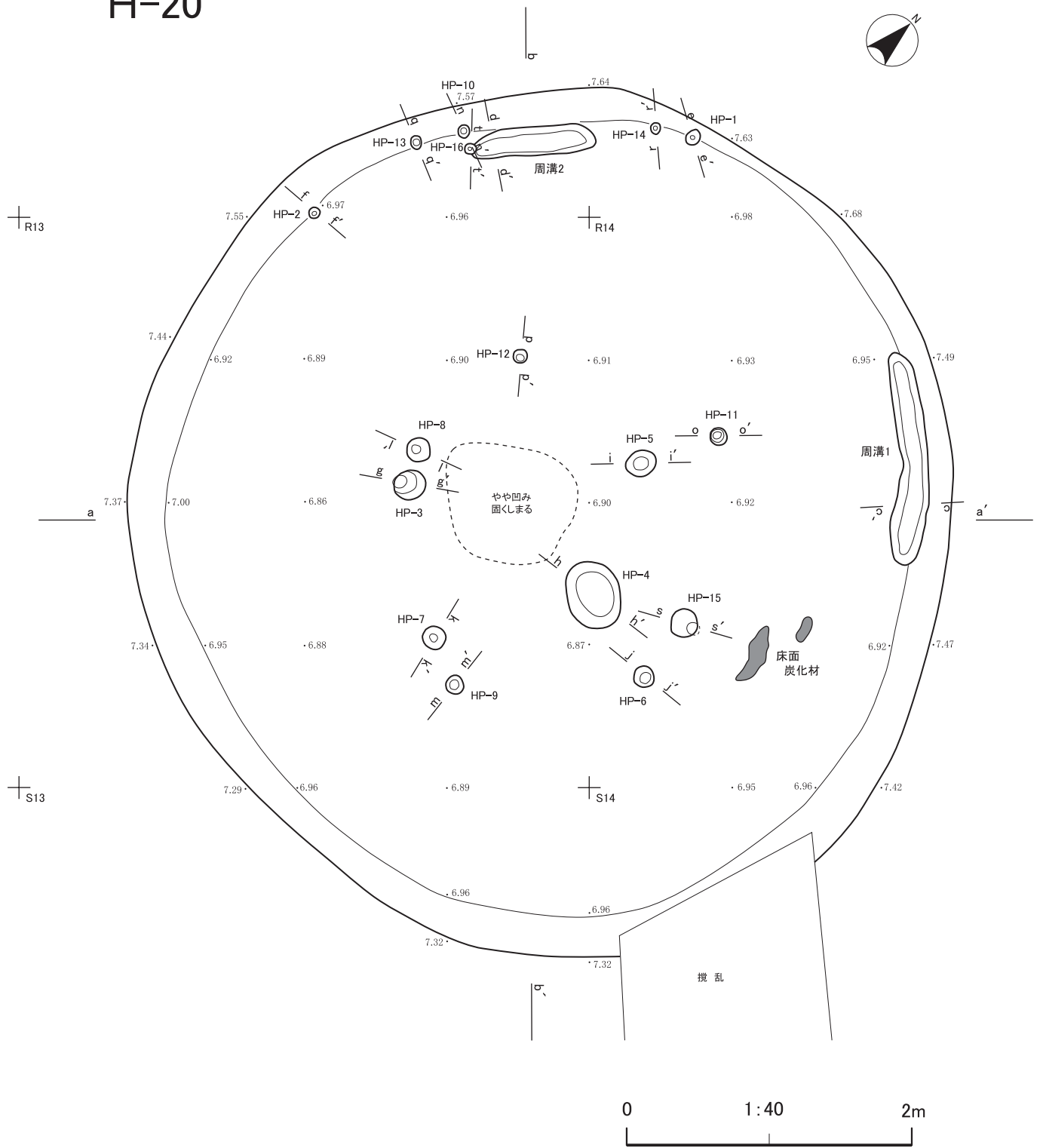
H-19土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II > IV
2	10YR3/4	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	IV > II・III
3	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	III・IV > II
4	10YR2/3	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II > III・IV

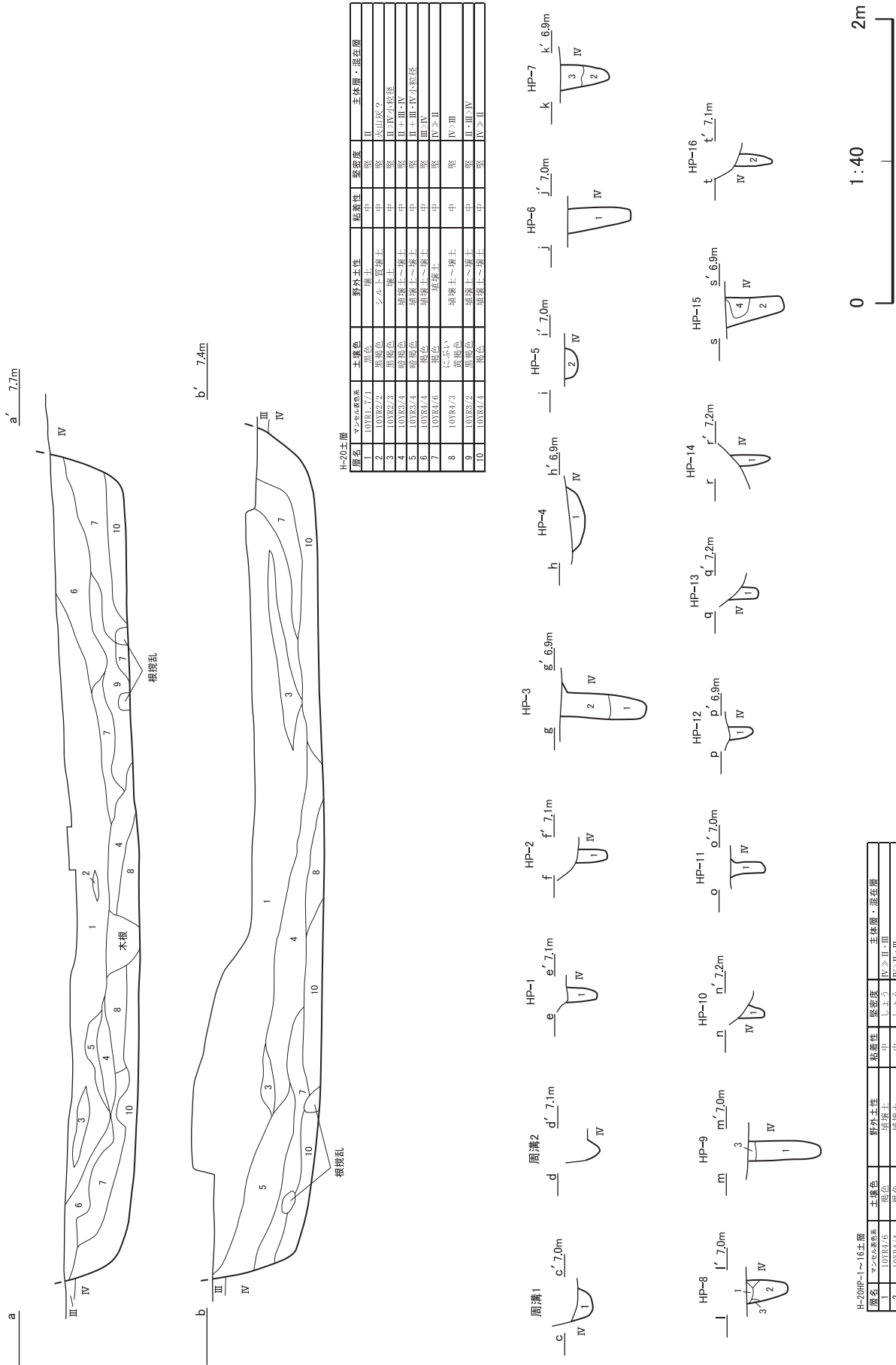


図III-39 H-19

H-20



図Ⅲ-40 H-20 (1)



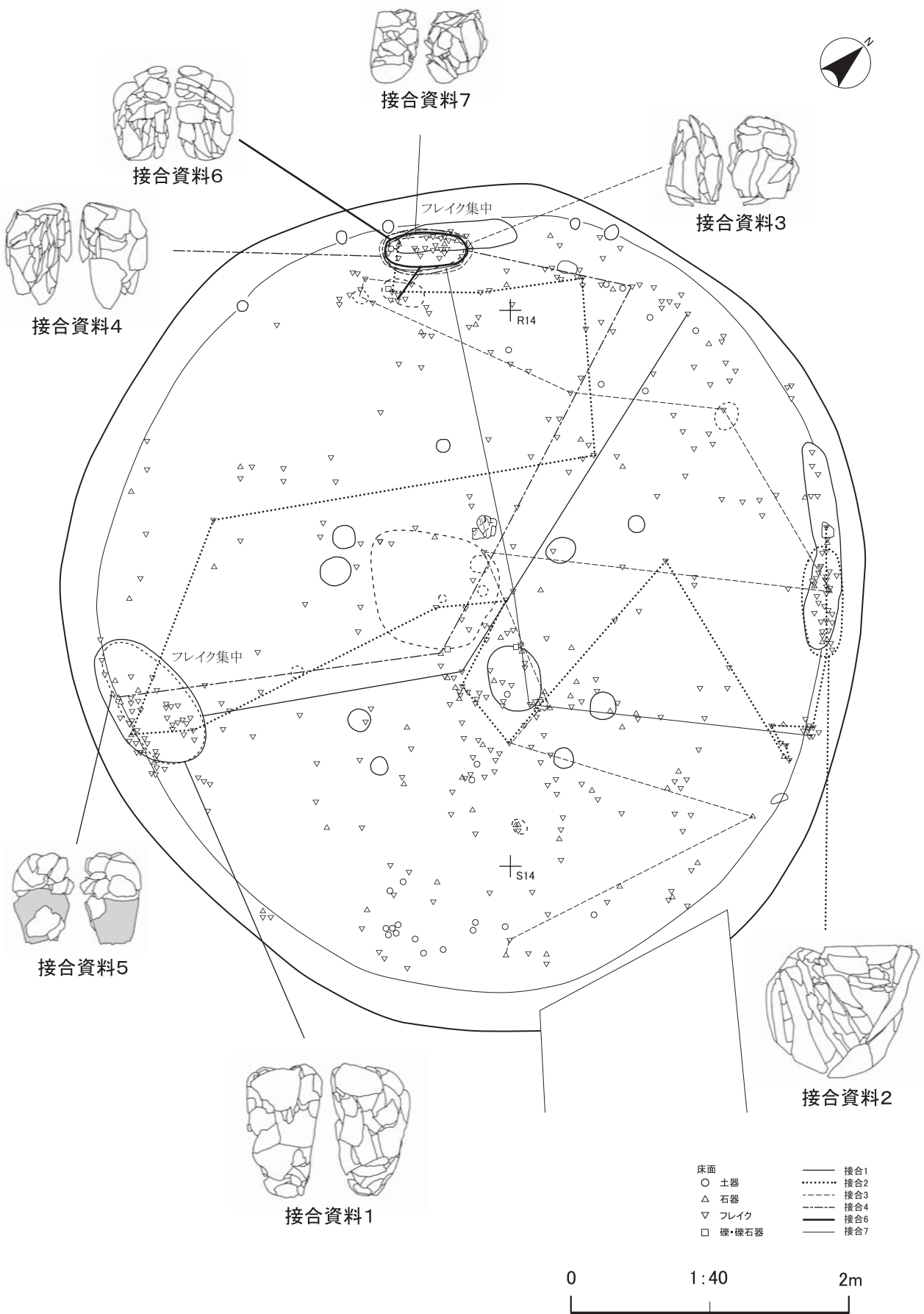
H-20土層

層名	マシンの深さ	土層色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・遺存層
1	10YR3/7.1	黒色	埴土	中	堅	山形土
2	10YR2/2	黒褐色	シル質埴土	中	堅	山形土
3	10YR2/2	黒褐色	埴土	中	堅	山形土
4	10YR2/4	暗褐色	埴土～埴土	中	堅	山形土
5	10YR2/4	暗褐色	埴土～埴土	中	堅	山形土
6	10YR2/4	暗褐色	埴土～埴土	中	堅	山形土
7	10YR4/6	褐色	埴土	中	堅	山形土
8	10YR3/3	こぶい	埴土～埴土	中	堅	山形土
9	10YR2/2	黒褐色	埴土～埴土	中	堅	山形土
10	10YR2/4	暗褐色	埴土～埴土	中	堅	山形土

H-20HP-1～16土層

層名	マシンの深さ	土層色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・遺存層
1	10YR1/6	褐色	埴土	中	しよう	IV>II・III
2	10YR1/4	褐色	埴土	中	しよう	IV>II・III
3	10YR1/4	褐色	埴土	中	堅	IV>II・III
4	10YR5/6	黄褐色	埴土	中	堅	IV

図III-41 H-20 (2)



図Ⅲ-42 H-20 (3)

付属遺構 石組炉1か所（HF-1）と小土坑2か所（HP-1・2）、溝状遺構を確認した。

石組炉は住居中央よりやや南東側にある。床面を円形に掘りくぼめ、その外周に礫の抜き取り痕が残る。HP-1・2は南東壁側にあり、礫の抜き取り痕の可能性もある。

遺物 遺物は157点出土した。このうち114点はフレイクである。床面ではIV群a類土器、フレイクがみられた。

時期 出土遺物や住居構造から縄文時代後期前葉で、炭化材の状況から焼失住居跡である。

（愛場）

H-19（図Ⅲ-39 図版24）

位置 Q12・13 **立地** 標高約7.5mの平坦面

規模 3.4×3.21/2.96×2.91/0.23m **平面形** 不整円形

調査 Ⅲ～Ⅳ層で円形の暗褐色主体土の堆積を確認した。十字に土層観察用のベルトを設定し、全体を掘り下げていった。20cm程掘り下げたところで、平坦な床面と斜めに立ち上がる壁を確認し、規模から住居跡と判断した。

覆土 4層に分層した。覆土1はⅡ層起源の自然堆積黒色土層である。覆土2・3は暗褐色土層、覆土4は黒褐色土で、いずれもⅢ・Ⅳ層の混合土である。

形態 平面形は不整の円形となる。床面は平坦で壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 検出していない。

遺物 遺物は103点出土した。床直上・床面からはI群b-1類土器2点、つまみ付きナイフなどが出土した。

時期 出土遺物や周辺の遺構から縄文時代早期後半と考える。

（愛場）

H-20（図Ⅲ-40～43 図版25・26）

位置 Q13・14/R13・14/S13・14 **立地** 標高約7.5mの平坦面

規模 6.1×5.8/5.56×5.36/0.78m **平面形** 円形

調査 Ⅲ～Ⅳ層面で円形の黒色土の堆積を確認した。十字に土層観察ベルトを設定し、トレンチ調査を先行しながら全体を掘り下げていった。覆土中からは土器、フレイクなどが多く出土した。50～70cm程掘り下げたところで平坦な床面と壁を検出し、縦穴住居跡と判断した。床面には頁岩の石核・フレイク・フレイクチップがほぼ全面にみられた。これらは3cm未満のフレイクをのぞき位置を記録して取り上げた。また床面採取の炭化材について放射性炭素年代測定を行った（付篇2参照）。

覆土 10層に分層した。覆土1～3はⅡ層起源の自然堆積土で、覆土2は火山灰の可能性もある。覆土4～8・10はⅣ層主体土層で屋根土などの崩落土の可能性はある。

形態 平面形はほぼ円形で、床面は平坦で、壁は急角度で立ち上がる。

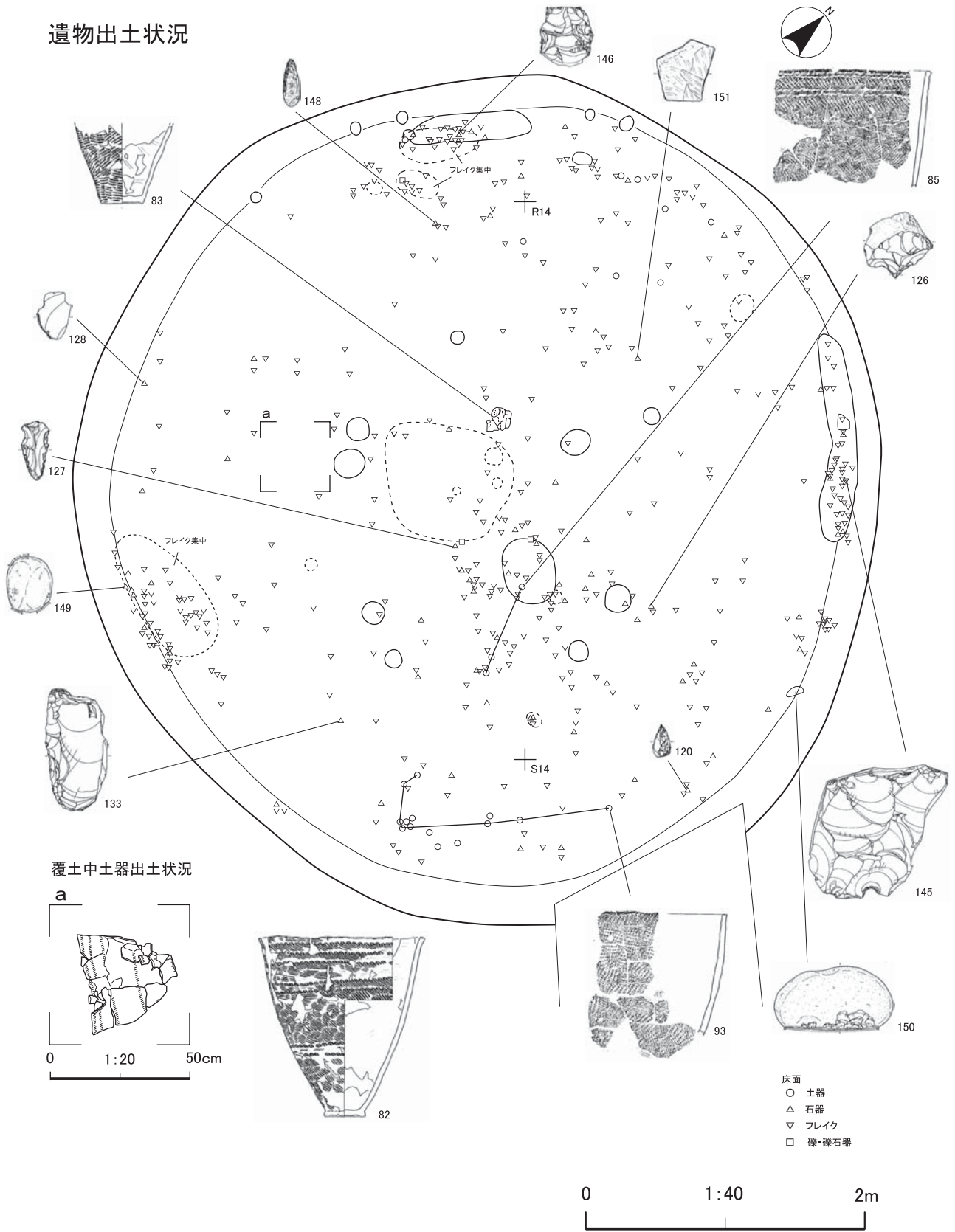
付属遺構 土坑1基（HP-4）、柱穴15か所（HP-1～3・5～16）、周溝2か所を確認した。

土坑HP-4は住居中央よりやや南東側にある。平面形は不整楕円形で断面形は浅い皿状となる。

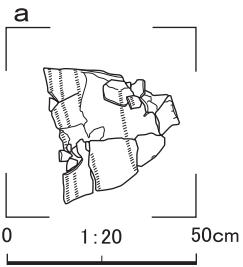
柱穴は中央部2m程の範囲を取り囲むもの（HP-3・5～9・11・12・15）と、北西壁際に位置するもの（HP-1・2・13・14・16）がある。中央付近の柱穴はHP-3・6・7・8・9など直径13～20cm、深さ25cmを超える比較的大型の柱穴である。北西壁際の柱穴は直径10cm未満で、先端形状は丸や尖るものが多い。

周溝は住居北西と北東側の壁際にみられる。幅20cm、深さは10cm程で、長さは周溝1では約90cm、

遺物出土状況



覆土中土器出土状況



図Ⅲ-43 H-20(4)

周溝2では約1.5mである。いずれも剥片石器、石核、フレイクが多く出土した。なお住居はほぼ中央床面には50cm程の範囲がやや窪み、硬くしまる部分があり、焼土層はないが炉跡の可能性はある。

遺物 遺物は12,971点出土し、床面や付属遺構からはI群b-1類土器98点、石鏃5点、両面調整石器2点、石錐4点、スクレイパー26点、石核12点、頁岩フレイクが9,407点、石斧1点、たたき石1点、砥石1点などが出土した。土器は覆土下位(図Ⅲ-109-82)、床面(図Ⅲ-109-83)で2個体が潰れた状態で出土した。

フレイク・Rフレイク・石核は、住居床面全面から出土し、特に周溝1・2周辺や住居南壁際に集中して見られた。これらについて接合作業を行ったところ、多くの頁岩の接合資料が得られ、7つの接合資料(接合資料1~7)について写真、模式図を掲載した。接合資料は周溝1周辺(接合資料3・4・6・7)、周溝2周辺(接合資料2)、住居南側フレイク集中域(接合資料1・5)にそれぞれ主体があるが、いずれも住居内で広く接合する傾向がある。接合資料2は住居内のほか、P-108・72のスクレイパーと接合している。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。頁岩原石を持ち込み、石器製作を行っている。
(愛場)

H-21(図Ⅲ-44・45 図版27)

位置 Q17/R16・17/S17 **立地** 標高約7.6~7.8mの平坦面

規模 5.45×(4.52)/5.08×(4.54)/0.44m **平面形** 不整形円形?

調査 Ⅲ層調査中、フレイクがややまとまって出土する範囲があり、ベルトを設定して周囲を掘り下げた。その結果、北東側半分を攪乱・削平された暗褐色の堆積をⅣ層上面で確認した。残った堆積の輪郭はほぼ円形で、さらに掘り下げると、床面と思われる平坦で堅い床面が現れた。

覆土 2層に分層した。いずれも非常にしまりが良く、堅固である。Ⅲ・Ⅳ層を起源とする褐色~暗褐色層である。

形態 平面形は円形で、掘り込みはⅡ層中である。地形標高が低い側の壁の立ち上がりは明瞭である。床面は水平・平坦である。床面に周溝のような長楕円形の浅い掘り込みが1か所ある。

付属遺構 周溝1か所を検出した。床面西側の壁寄りに位置し、長さ約90cm、幅約30cm、深さ約5cmである。

遺物 遺物は234点出土した。床面からはI群b-1類土器7点、石鏃1点、石核5点、フレイク84点、すり石1点などが出土している。広くフレイクや石核が分布していることから、石器製作の場であったかもしれない。

時期 出土遺物と周辺の遺構から縄文時代早期後半と考える。
(新家)

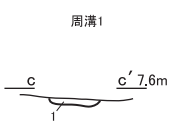
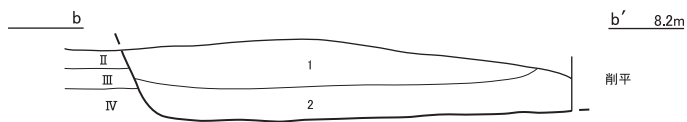
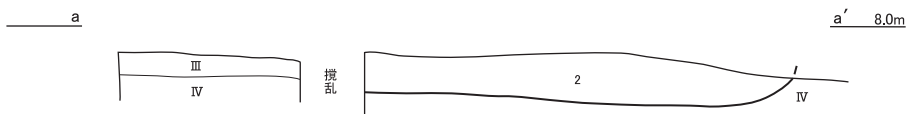
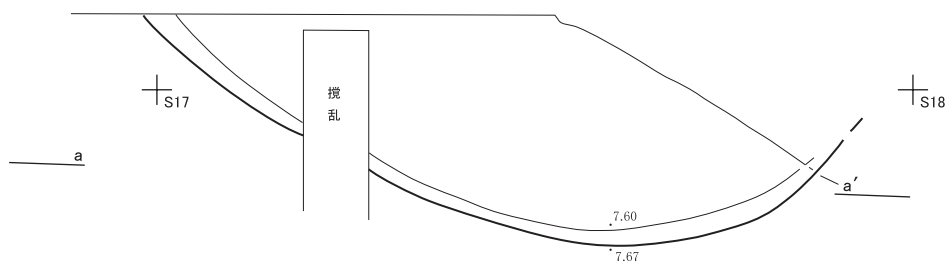
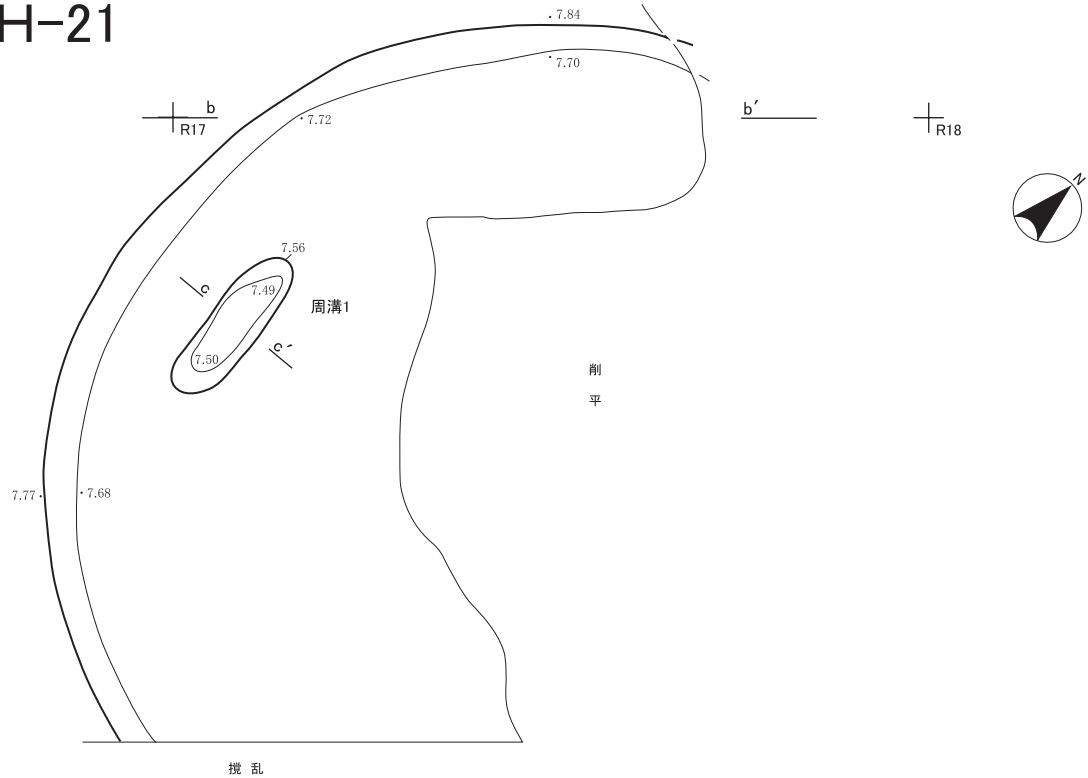
H-22(図Ⅲ-46~48 図版28)

位置 F48・49・50/G49・50 **立地** 標高11.5~11.8m付近の緩斜面

規模 7.88×(3.32)/7.28×(2.24)/0.84m **平面形** 不整形な楕円形?

調査 表土除去後、Ⅲ~Ⅳ層中で黒褐色土を主体土の堆積を確認した。西側は宅地造成によって削平されていたが、楕円形の平面形を想定できた。土層観察ベルトを設定し、掘り下げた。Ⅱ層主体土中には、赤く酸化した土のまとまりが混じっていた。さらに掘り下げて中央にくぼみを有する床面とはほぼまっすぐに立ち上がる壁を検出した。壁が開口部で屈曲して外側へ開くのは壁面が崩落したためと考える。規模と付属遺構から住居跡と判断した。住居南側では、床面より約2cm上位から炭化し

H-21

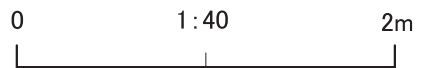


H-21土層

層名	マンセル着色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR4/4	褐色	壤土	中	十二分硬	III>IV
2	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	中	十二分硬	III>IV

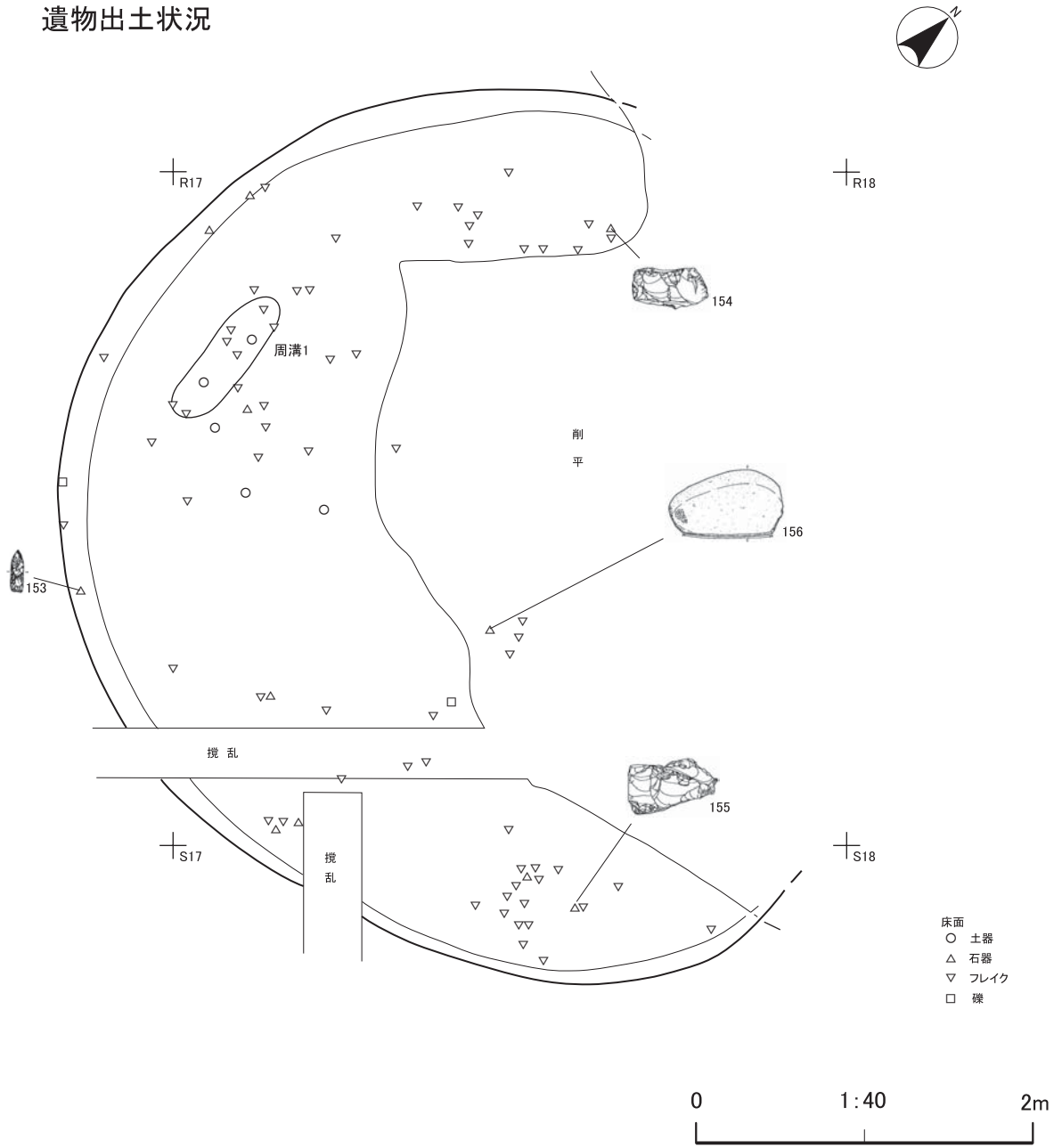
H-21周溝土層

1	10YR3/3	暗褐色	壤土	中	十二分硬	III>IV
---	---------	-----	----	---	------	--------



図Ⅲ-44 H-21 (1)

遺物出土状況



図III-45 H-21 (2)

H-22

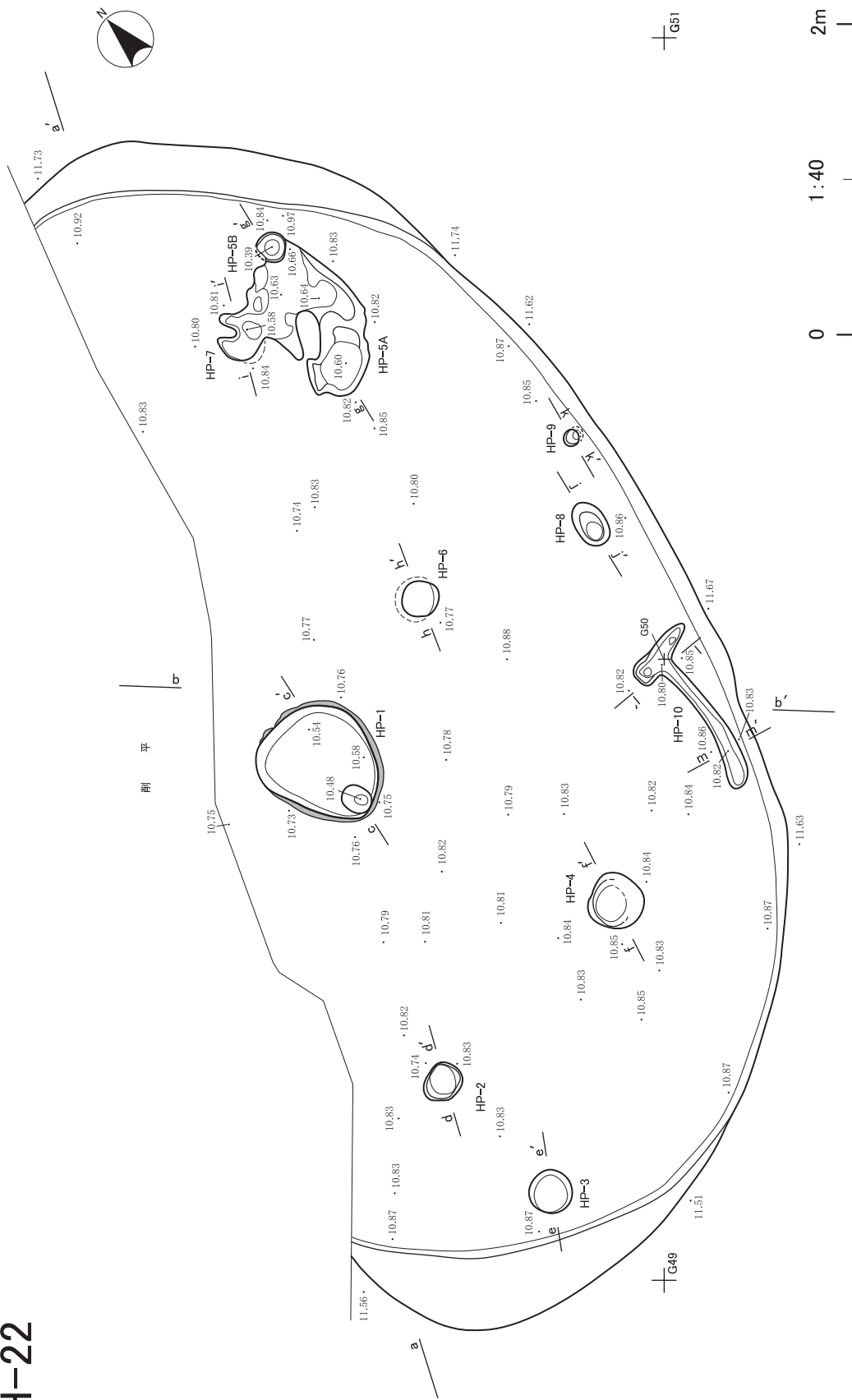
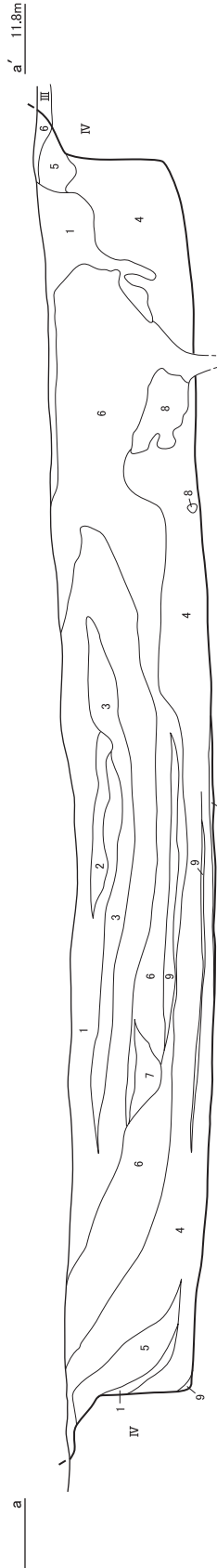
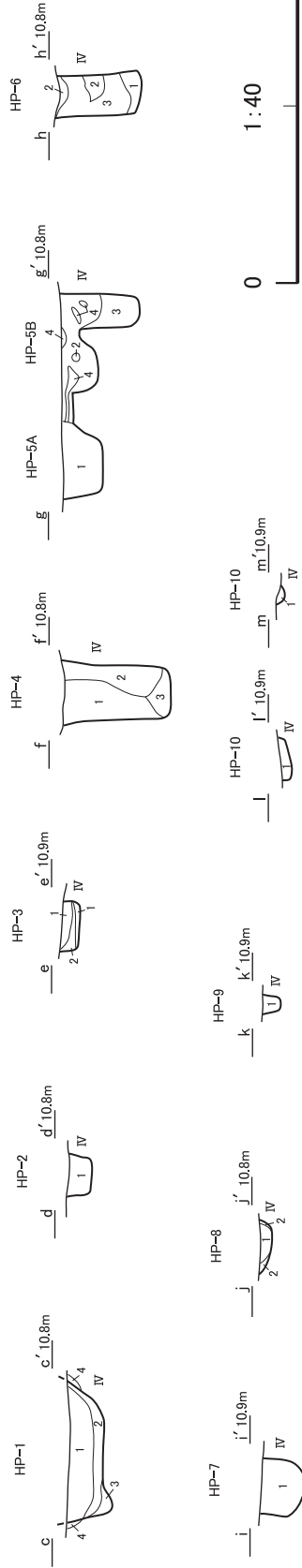
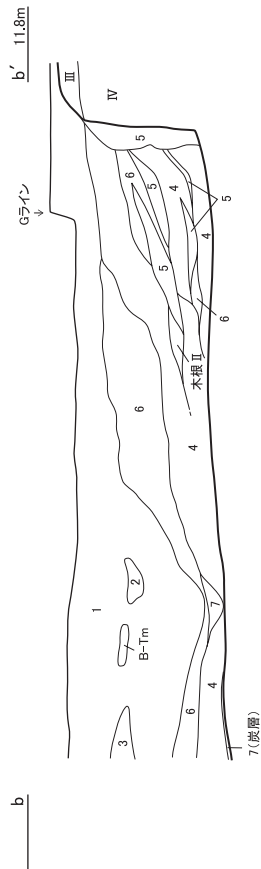


图 III-46 H-22 (1)



H-22土層

層名	マンセル単色系	色名	主役層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II 土層
2	7.5YR7/6	暗褐色	I層に酸化した灰分等が含まれたもの。
3	10YR2/2	黒褐色	II 土層
4	10YR4/3	にぶい 灰褐色	小粒径のIVが15%混じる
5	10YR6/8	明灰褐色	IV 土層
6	10YR3/3	暗褐色	小粒径のIVが10%混じる
7	10YR6/8	明灰褐色	IV 土層
8	10YR1/7/1	灰色	



H-22HP-9土層

層名	マンセル単色系	色名	主役層・混在層
1	10YR4/3	にぶい 黄褐色	HP-2土層と同ー

H-22HP-10土層

層名	マンセル単色系	色名	主役層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	IVがブロッツク状に混じる

H-22HP-5土層

層名	マンセル単色系	色名	主役層・混在層
1	10YR2/3	暗褐色	HP-10土層のIVが混じる
2	10YR2/3	暗褐色	HP-10土層のIVが混じる
3	10YR2/3	暗褐色	HP-10土層のIVが混じる
4	10YR6/8	明灰褐色	HP-10土層のIV

H-22HP-8土層

層名	マンセル単色系	色名	主役層・混在層
1	10YR1/7/1	灰色	
2	10YR6/8	明灰褐色	

H-22HP-3土層

層名	マンセル単色系	色名	主役層・混在層
1	10YR4/3	にぶい 黄褐色	
2	10YR6/8	明灰褐色	IV 主体

H-22HP-4・6・7土層

層名	マンセル単色系	色名	主役層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	
2	10YR4/3	にぶい 灰褐色	
3	10YR6/8	明灰褐色	

H-22HP-1土層

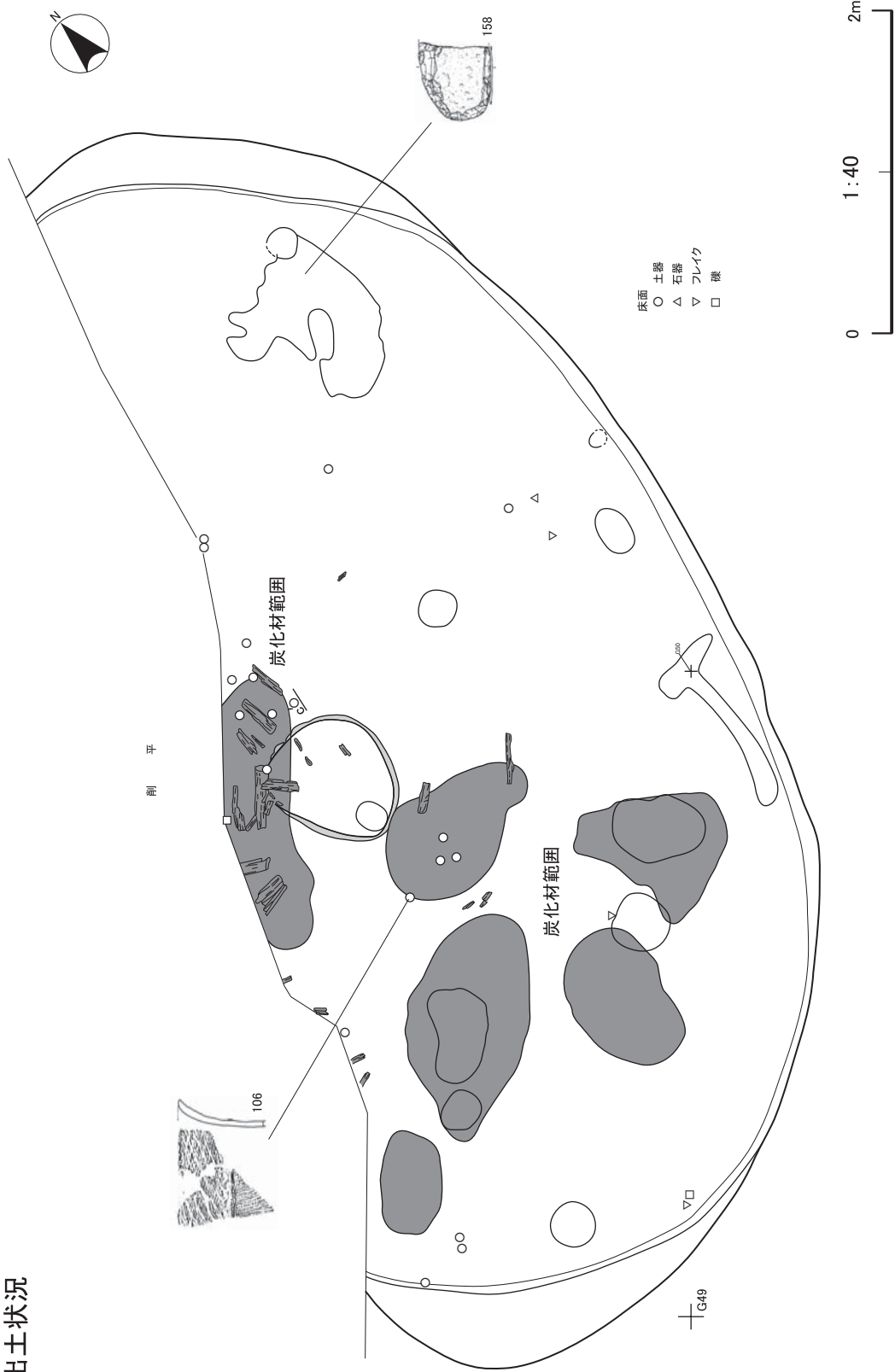
層名	マンセル単色系	色名	主役層・混在層
1	10YR6/8	明灰褐色	中〜大粒径のIVから成る。間を埋めるように暗褐色土が入り込む。下部は灰が5%混じる
2	10YR1/7/1	灰色	小さな暗褐色主体の灰化物層
3	10YR6/6	明灰褐色	IV 主体
4	7.5YR6/6	褐色	IVが凝集

H-22HP-2土層

層名	マンセル単色系	色名	主役層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II 土層。小〜大粒径のIVが5%混じる。

図Ⅲ-47 H-22 (2)

遺物出土状況



図Ⅲ-48 H-22 (3)

た木の枝がまとまって出土し、炭化樹種同定と放射性炭素年代測定を行った（付篇2・3参照）。屋根材のような構造物が炭化した可能性もある。

覆土 覆土4層とした黄褐色土が下半分をしめる。掘り上げ土の再流入の可能性もあるが、その量と壁付近から中心までおおよそ水平な堆積がみられることから、土葺き屋根の崩落の可能性もある。その上の黒褐色土は廃絶後のくぼみに自然堆積したものと考え、覆土2層は住居廃絶後のくぼみに発生したもので、住居そのものの性質とは無関係と判断した。床面より2cm程上には平面形の南側を中心に薄く炭化物層が途切れ途切れに広がり、いくつかは炭化材形状を残していた。北側に見当たらないのは風倒木によって乱された可能性がある。

付属遺構 土坑2か所（HP-1・10）と柱穴7か所（HP-2～9）を確認した。

HP-1は炉を思わせる状況で、全体的に被熱し、炭化した小型のクルミが詰まっていた。床面よりやや上の炭化物層とはHP-1覆土1層によって連続していない。東壁際に溝状のHP-10が巡る。小型の柱穴HP-8・9もこれに関連するものと推測する。

柱穴は長方形に近い平面形の輪郭にそって並ぶと推定される。四隅に位置するものを主柱穴とする。HP-4・5Bであり長方形の長辺中央に位置するのがHP-6である。HP-2・3は浅く、HP-5Aはこの周辺の床を壊している風倒木痕に関連する可能性がある。

遺物 遺物は375点出土した。床面ではⅡ群b類土器47点、フレイク、礫が出土している。なお床面として取り上げたものは、1cm程床面より上であり、覆土最下位とした方が適切とも言える。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。（大泰司）

H-23（図Ⅲ-49～51 図版29）

位置 F50・51・52/G50・51・52/H50・51 立地 標高11.5～12m付近の緩斜面

規模 5.96×5.84/5.70×5.70/0.68m 平面形 不整な楕円形

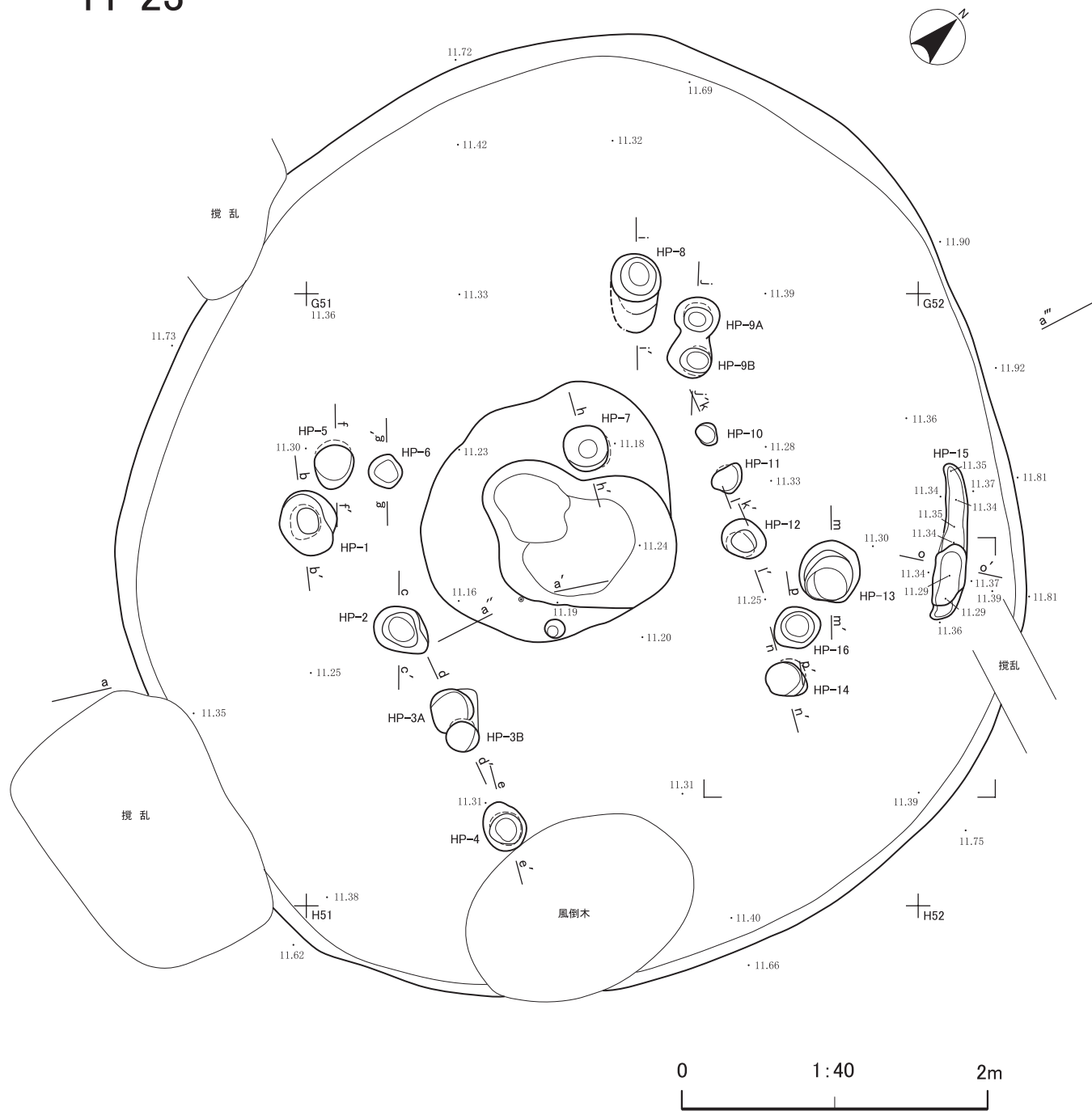
調査 削平されたⅢ～Ⅳ層中で、黒褐色土主体土の堆積を確認した。住宅基礎によって分断されていたが、おおよそ円形をした平面形をみてとれた。Ⅱ層主体土中には、自然焼土のまとまりが混じっていた。自然焼土は確認面よりやや上から分布しており、本遺構の掘り込み面も確認面より上と考える。土層確認ベルトを設定し、掘り下げた。中央にくぼみを有する床面とほぼまっすぐに立ち上がる壁を検出した。壁が開口部で屈曲して外側へ開くのは壁面が崩落したためと推察できる。規模と付属遺構から住居跡と判断した。また住居東側では床面より2～10cm程上から炭化した木の枝がまとまって出土した。屋根材などの構造物の可能性を考えたが年代が新しく出ている（付篇2参照）。

覆土 覆土3層とした黄褐色土が下半分をしめる。掘り上げ土の再流入の可能性もあるが、その量と壁付近から中心までおおよそ水平な堆積がみられることから、土葺き屋根の崩落の可能性もある。その上の黒褐色土は廃絶後のくぼみに自然堆積したものと考え、覆土2層は住居廃絶後のくぼみに発生したもので、住居そのものの性質とは無関係と判断した。

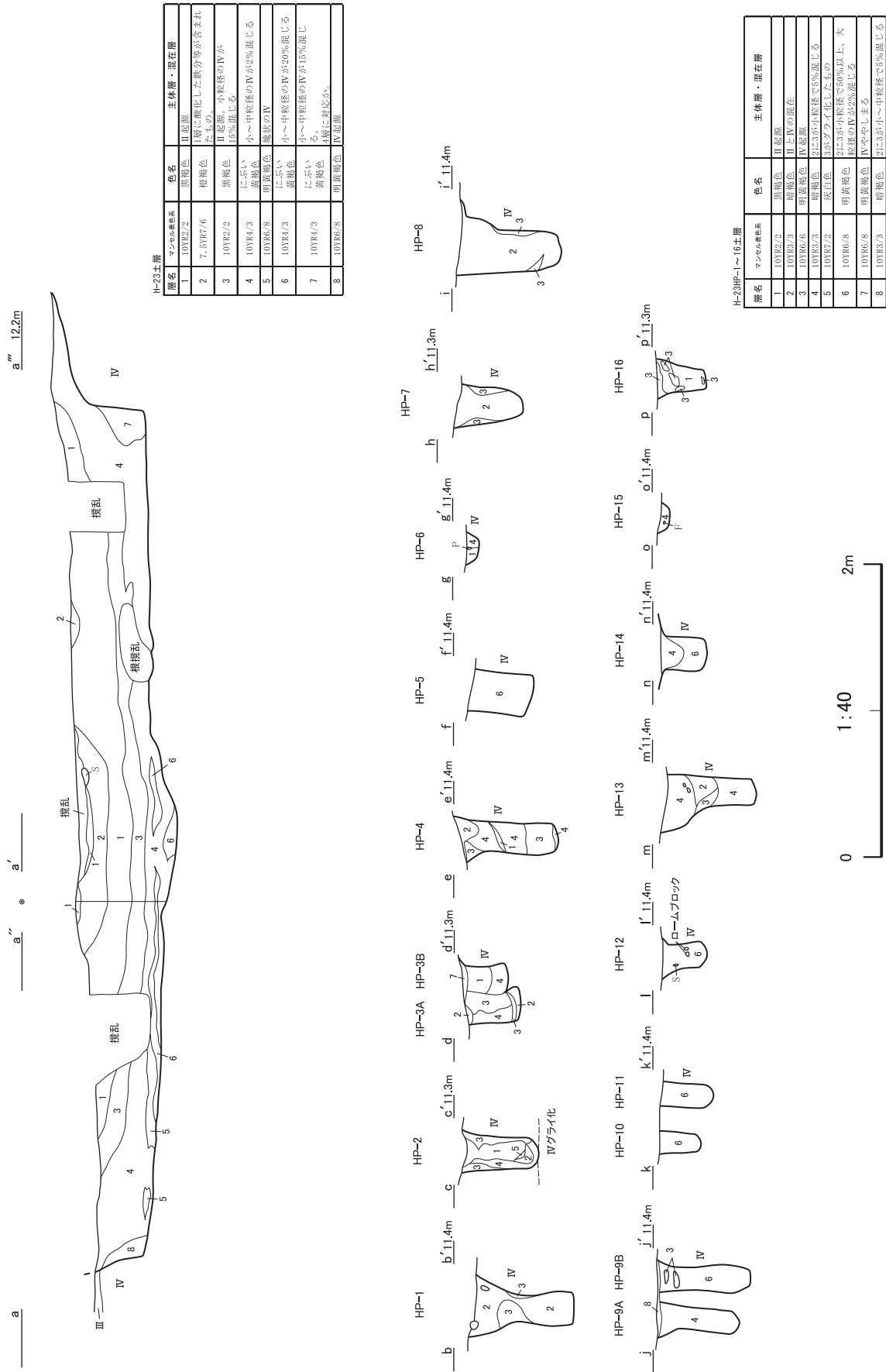
付属遺構 土坑1基（HP-15）と柱穴と思われる土坑17か所（HP-1～14・16）を確認した。

柱穴は住居中央に正方形に近い輪郭にそって並ぶ。四隅に位置するものを主柱穴とするとHP-1・5・6、HP-8・9A・9B、HP-13・14・16、HP-3A・3B・4の組み合わせである。同じ番号でAとした方が土層から新しい。3回の建て替えが想定されるが、セット関係は不明である。またこの四角形の輪郭線上には主柱穴以外にも浅い土坑HP-6、HP-10・11・12も並ぶ。床面中央部分は窪んでおり、窪みの平面形内に、HP-7が主柱穴のように深く掘られている。柱穴と考えるが、家を支えるためだけのものかどうか、用途は不明である。また柱穴を覆土の類似からHP-5

H-23



図Ⅲ-49 H-23 (1)



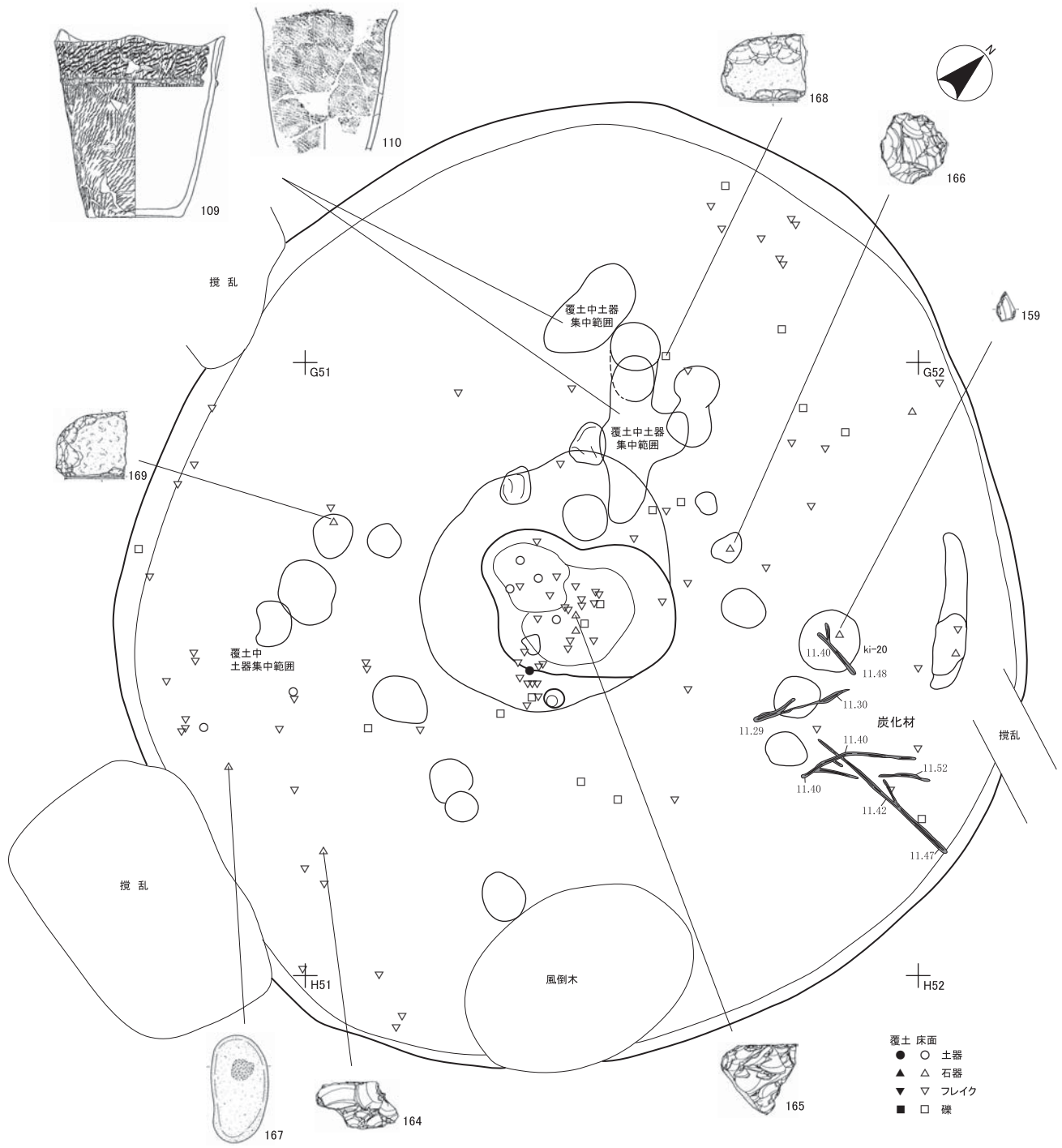
H-23土層

階名	マンセル系色	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II土層
2	7.5YR7/6	橙褐色	I層に酸化した鉄分等が含まれたもの。
3	10YR2/2	黒褐色	II土層。小粒径のIVが15%混じる
4	10YR4/3	にぶい 灰褐色	小～中粒径のIVが2%混じる
5	10YR6/8	明黄褐色	塊状のIV
6	10YR4/3	にぶい 灰褐色	小～中粒径のIVが20%混じる
7	10YR4/3	にぶい 灰褐色	小～中粒径のIVが15%混じる。I層に砂粒が。
8	10YR6/8	明黄褐色	IV土層

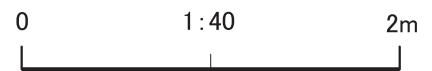
H-23HP-1～16土層

階名	マンセル系色	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II土層
2	10YR3/3	暗褐色	IIとIVの混在
3	10YR6/6	明黄褐色	IV土層
4	10YR2/2	暗褐色	IIに3%小粒径のIVが混じる
5	10YR7/2	灰白色	3%ガラス化したままのIV
6	10YR6/8	明黄褐色	IIに3%小粒径のIVが50%以上、大粒径のIVが9%混じる
7	10YR6/8	明黄褐色	IVやしまる
8	10YR3/3	暗褐色	IIに3%小～中粒径のIVが混じる

図III-50 H-23 (2)

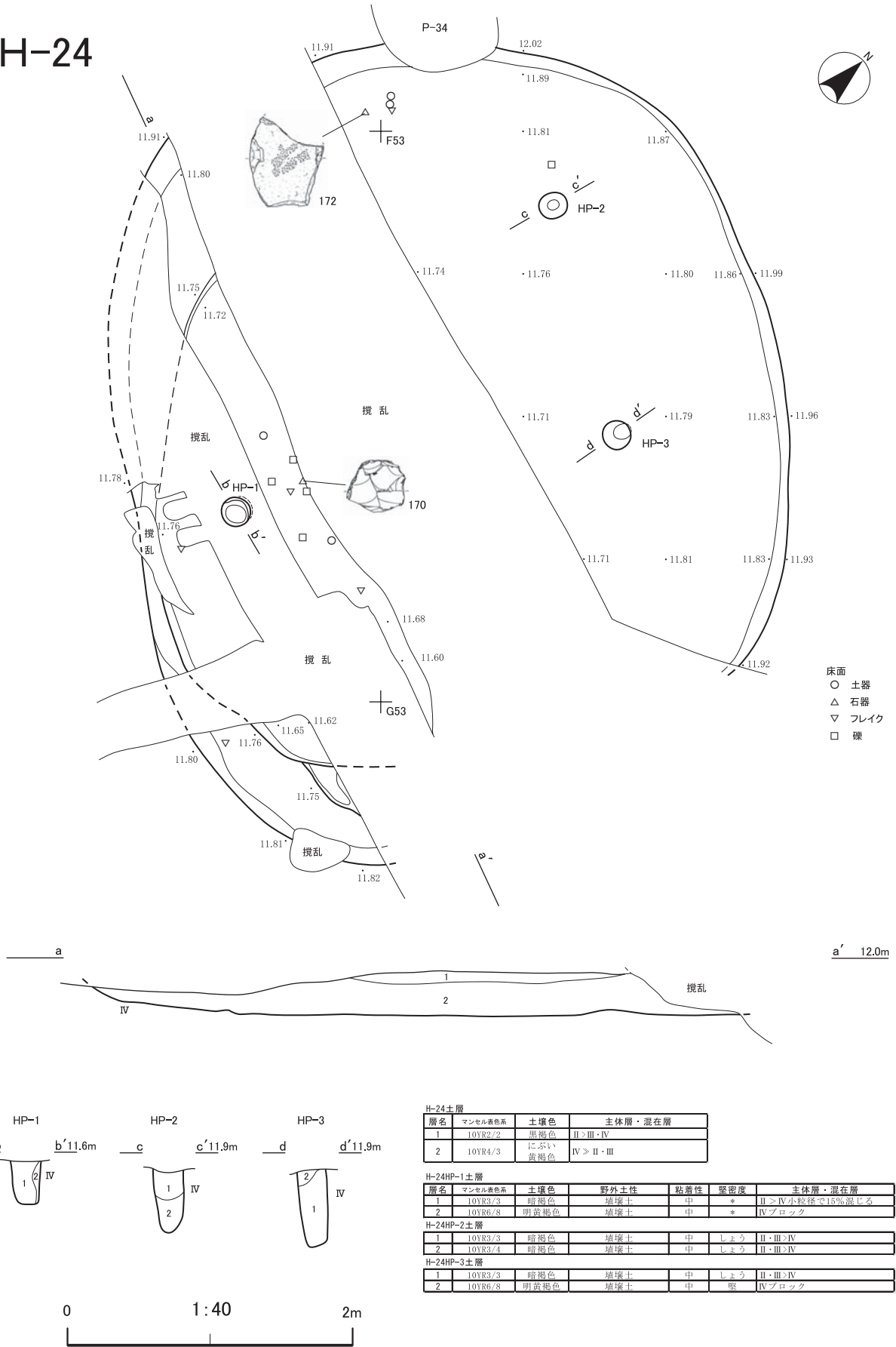


遺物出土状況



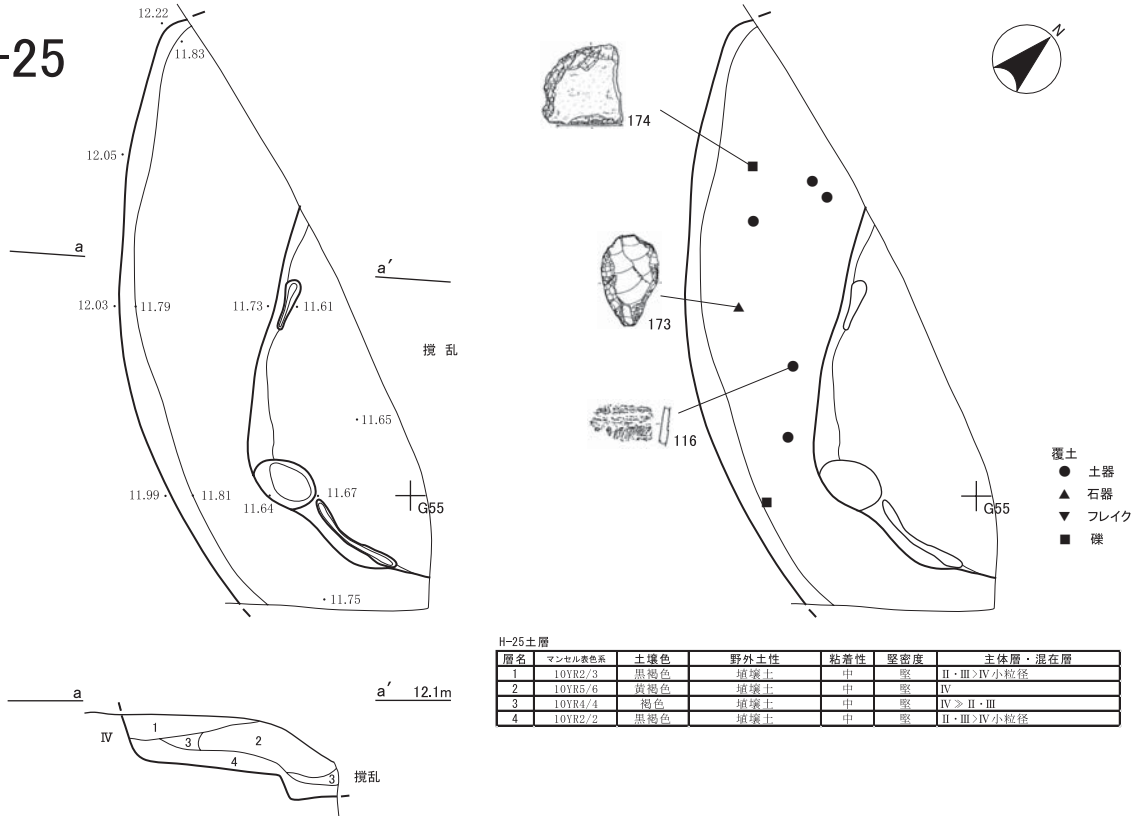
図Ⅲ-51 H-23 (3)

H-24

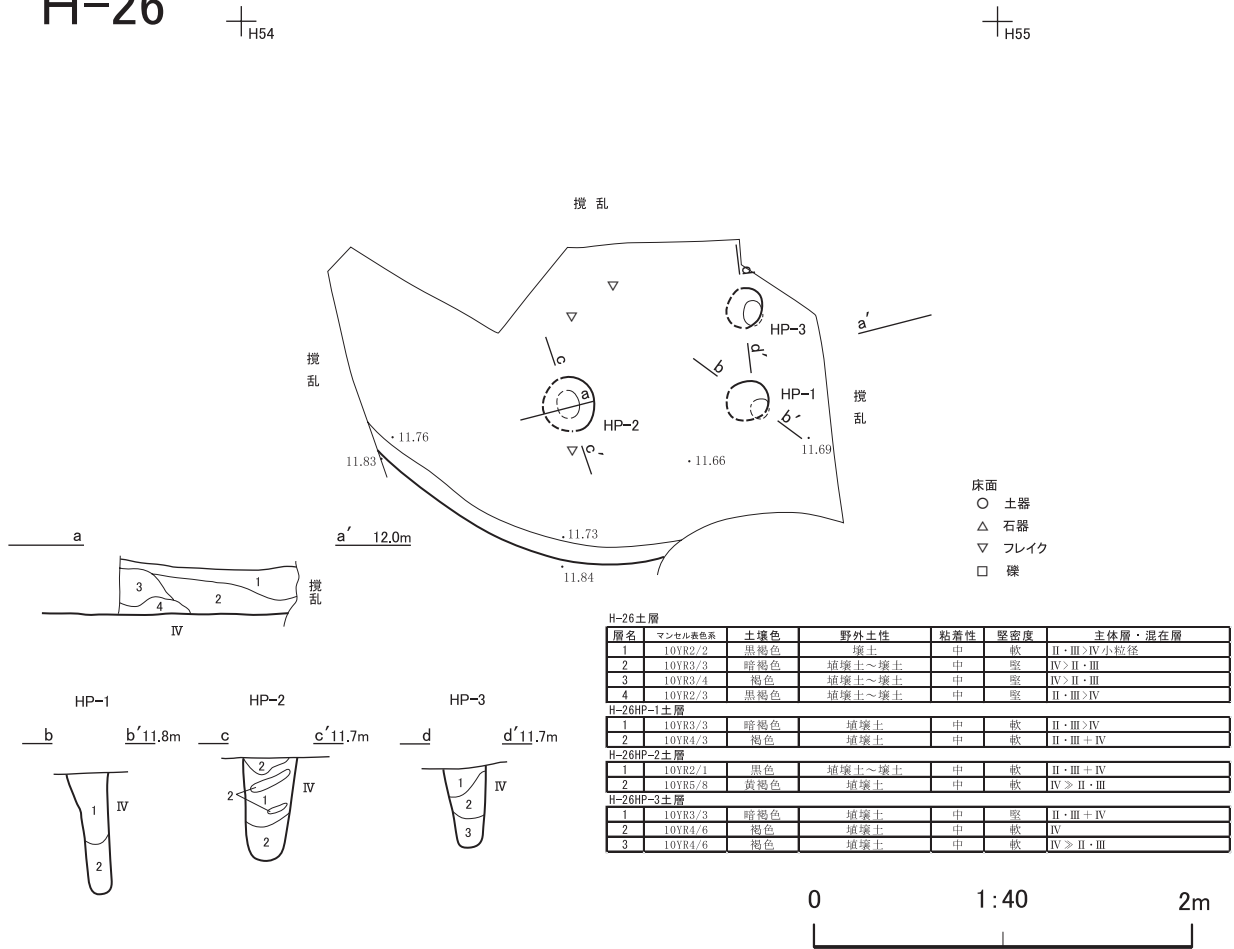


図III-52 H-24

H-25



H-26



図Ⅲ-53 H-25・26

・9A・10・11・12・14、HP-1・7・8、HP-6・9A・13・4・3Aの組み合わせも想定できるが、四隅の主柱穴という構造は満たさない。土坑（HP-15）は北東壁際に溝状に巡る。これは3回の建て替えのうち一時期について壁の位置を反映している可能性がある。

遺物 遺物は1,661点出土した。覆土1層からその下面ではⅡ群b類土器（952点）を主体とする遺物の出土があり、住居廃絶後、廃棄された可能性が高い。床面からはⅡ群b類土器12点、石鏃1点、石核2点、フレイク135点、扁平打製石器4点などが出土した。なお床面として取り上げたものは、厳密には1cm程床面より上であり、覆土最下位とした方が適切とも言える。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。 (大泰司)

H-24 (図III-52 図版30)

位置 E52・53/F52・53/G52・53 **立地** 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 (5.50)×4.67/(5.20)×4.51/0.32m **平面形** 不整な楕円形

調査 年度別の調査区の境にあり平成21(南側)・22年度(北側)の2か年で調査した。

削平されたⅣ層中で黒褐色土主体土の堆積を検出した。住居中央と南側は住宅基礎により破壊されていたが、楕円形の平面形を想定できた。土層確認ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。床面と想定できるおおよそ平坦な面とゆるく外側に開きながら立ち上がる壁を検出した。規模と付属遺構から住居跡と判断した。

覆土 2層に分層した。にぶい黄褐色土(覆土2)が下半分をしめる。掘り上げ土の流入、あるいは土葺き屋根の崩落の可能性もある。その上の黒褐色土は廃絶後のくぼみに自然堆積したものとする。

付属遺構 柱穴3か所(HP-1~3)とベンチ構造を確認した。柱穴はいずれも径20cm以上で、先端形状は平らもしくは丸みを帯びる。住居南側には段差が3~10cmのベンチ構造がある。

遺物 遺物は622点出土した。覆土中ではⅡ群b類土器が543点出土したが、床面ではⅠ群b類土器3点、Ⅱ群b類土器2点、スクレイパー1点、フレイク6点、扁平打製石器破片36点、台石1点など散漫である。なお床面として取り上げたものは、厳密には1cm程度床面より上であり、覆土最下位とした方が適切とも言える。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。 (大泰司・愛場)

H-25 (図III-53 図版31)

位置 F54・55/G54・55 **立地** 標高約12mの平坦面

規模 (3.36)×(1.25)/(3.09)×(1.10)/0.43m **平面形** 不明

調査 表土除去後、Ⅳ層面で不整形の黒褐色土の堆積を確認した。堆積中央部に土層観察用ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。ベンチ構造をもつ床面と壁の立ち上がりが見られたため住居跡と判断した。北側は住宅基礎などで深く攪乱を受けており、南側の一部が残存するのみである。

覆土 4層に分層した。床面は黒褐色土(覆土4)で覆われ、上位にはⅣ層主体土(覆土2・3)が見られる。

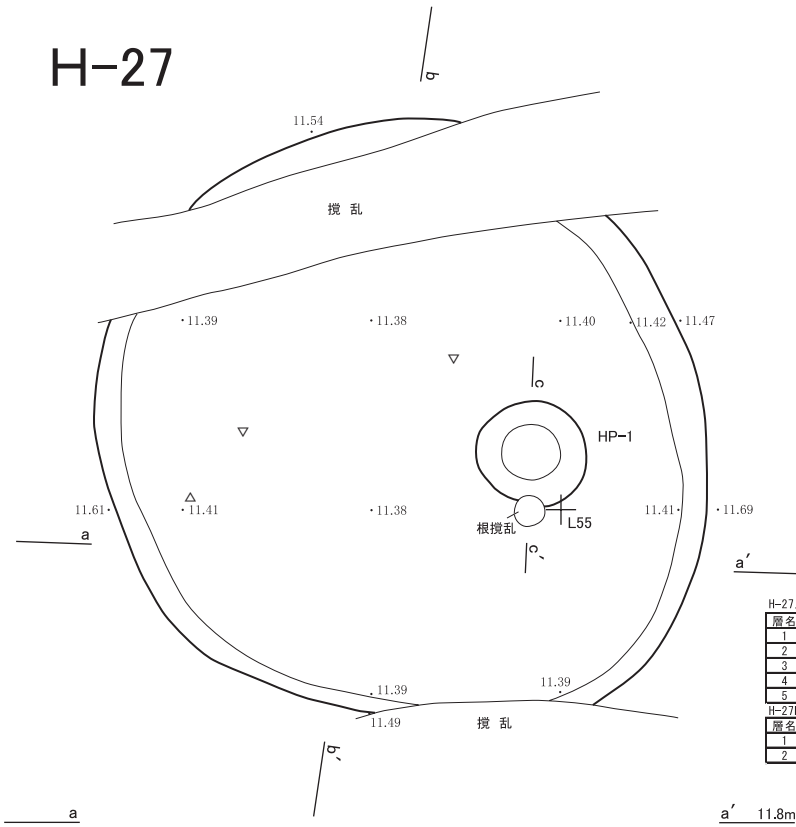
形態 平面形は不明である。ベンチ構造があり、壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 ベンチ構造を確認した。壁から0.4~1m内側では10cm程の段差があり、南側角には柱穴の可能性のある窪みや幅5cm程度の溝状の窪みが見られた。

遺物 遺物はⅡ群b類土器12点、スクレイパー1点、扁平打製石器1点、礫1点の計15点出土した。

時期 出土遺物や周辺の遺構から縄文時代前期後半と考える。 (愛場)

H-27

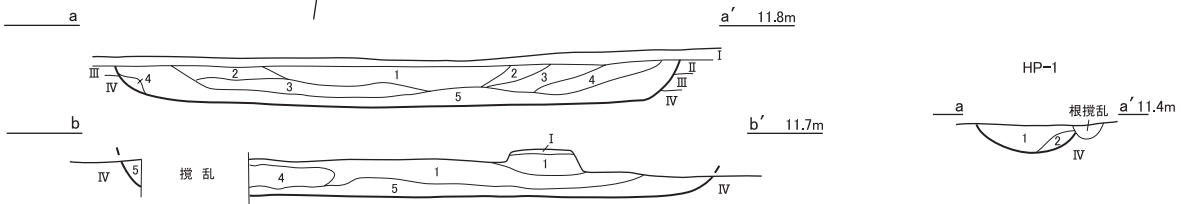


H-27土層

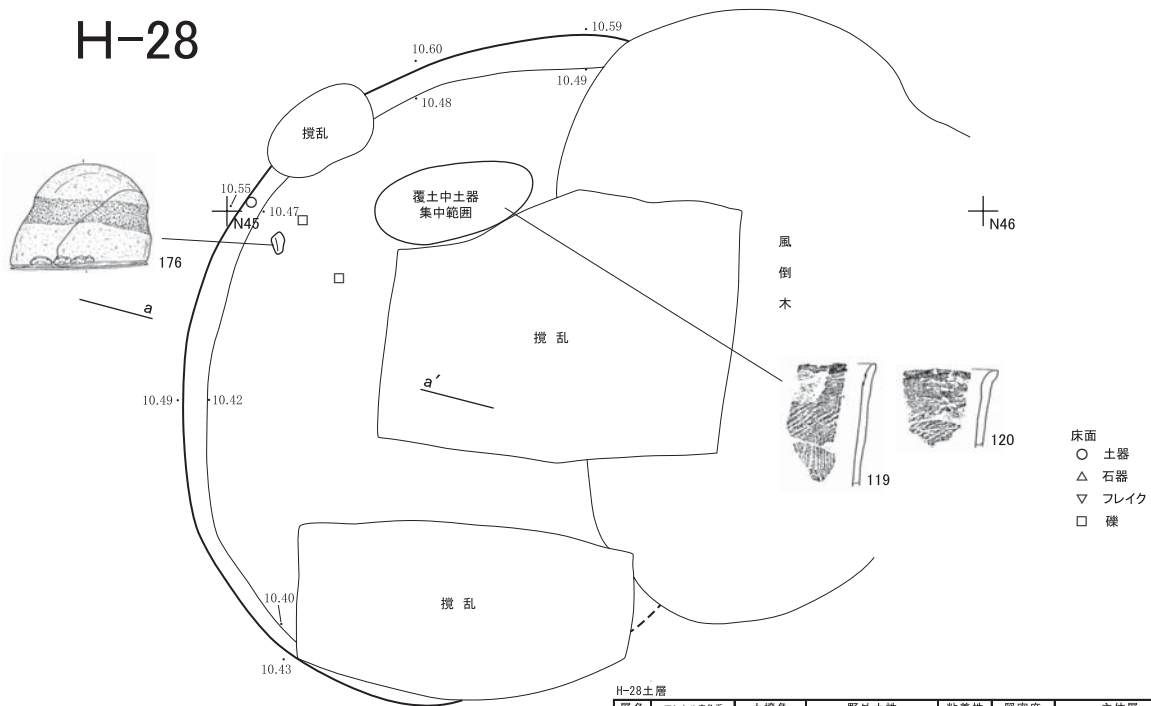
層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴埴土～壤土	中	中～強	II・III > IV
2	10YR2/3	黒褐色	埴埴土～壤土	中	中～強	IV > IV
3	10YR3/3	暗褐色	埴埴土～壤土	中	中～強	IV > II・III
4	10YR3/4	暗褐色	埴埴土～壤土	中	堅	IV > II・III
5	10YR2/2	黒褐色	埴埴土～壤土	中	堅	II・III > IV

H-27HP-1土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/3	黒褐色	埴埴土～壤土	中	中～強	II > IV
2	10YR3/3	暗褐色	埴埴土～壤土	中	中～強	IV > II・III



H-28



H-28土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	埴埴土～壤土	中	堅	II・III > IV小粒径



図Ⅲ-54 H-27・28

H-26 (図III-53 図版31)

位置 H54 立地 標高約11.8mの平坦面
規模 (2.53) × (1.69) / (2.53) × (1.60) / 0.32m 平面形 不明
調査 表土除去後、IV層面で不整形の黒褐色土の堆積を確認した。堆積中央に土層観察用ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。床面と壁の立ち上がりがみられ、柱穴が検出したため住居跡と判断した。南側の一部のみ残存しており、それ以外は住宅基礎・水道管などにより攪乱される。
覆土 4層に分層した。いずれもII層黒色土とIV層褐色土の混合土層となる。
形態 平面形は不明である。床面は平坦で壁は斜めに立ち上がる。
付属遺構 柱穴3か所(HP-1~3)を確認した。径は15~20cm、深さは40~60cm程で、先端形状は丸くなる。
遺物 遺物は覆土中からフレイクが3点出土した。
時期 周辺の遺構から縄文時代前期後半の可能性がある。(愛場)

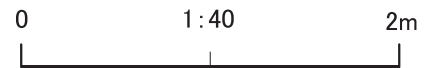
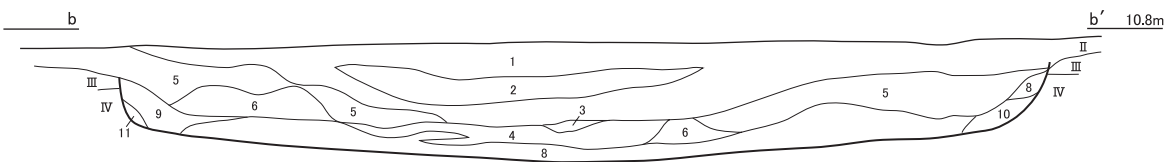
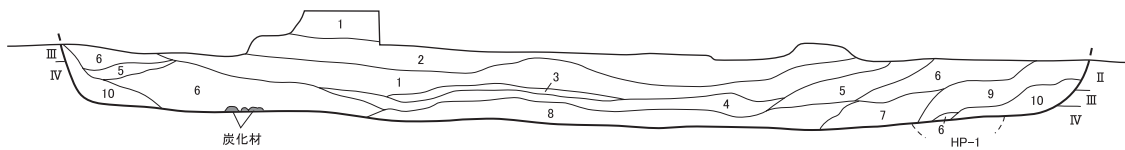
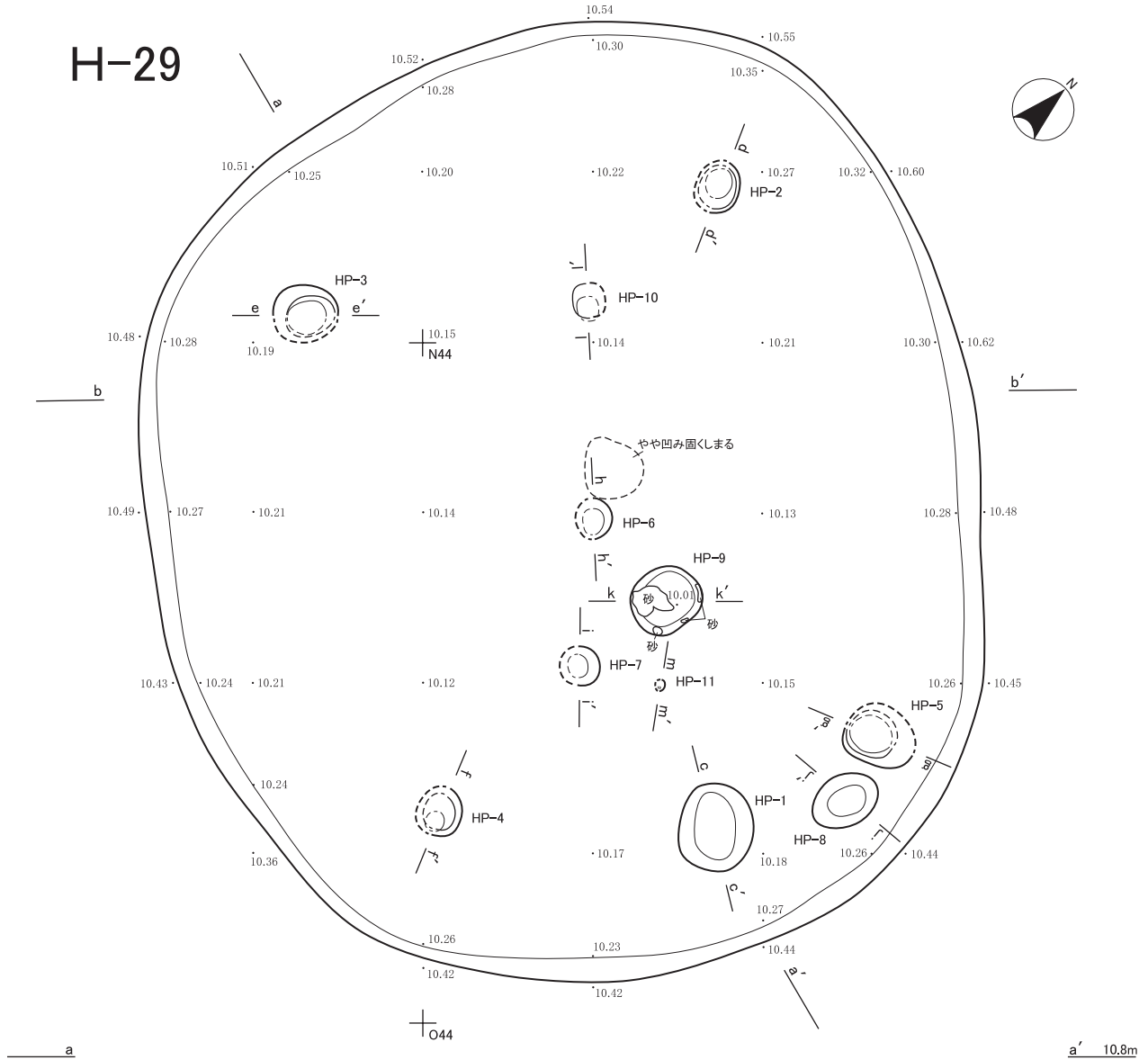
H-27 (図III-54 図版32)

位置 K54・55/L54・55 立地 標高約11.5~11.7mの平坦面
規模 3.38×3.14/3.15×2.83/0.23m 平面形 円形
調査 III層で遺物を多く含む円形の黒色土の堆積を確認した。堆積中央部に十字状に土層観察ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。平坦な床面と壁の立ち上がりがみられたため、規模から住居跡と判断した。
覆土 5層に分層した。床面は黒褐色土(覆土5)で覆われ、その上部にIV層主体土(覆土3・4)がみられる。
形態 平面形は円形で、床面は平坦、壁は曲線的に緩やかに立ち上がる。
付属遺構 土坑1基(HP-1)を検出した。住居中央よりやや北東側にある。平面形は直径50cmを超える楕円形で底面は皿状となる。
遺物 遺物は125点出土した。覆土からはI群b類土器37点、II群b類土器17点、扁平打製石器3点、礫36点などが出土したが、床面からはフレイクが2点出土したのみである。
時期 出土遺物から縄文時代と考える。(愛場)

H-28 (図III-54 図版32)

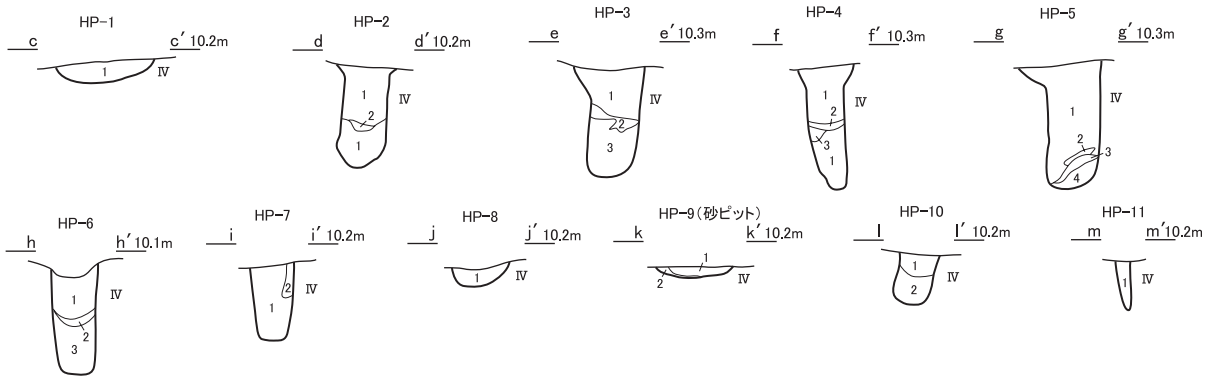
位置 M45/N44・45 立地 標高約10.4~10.6mの平坦面
規模 3.70 × (2.87) / 3.44 × (2.70) / 0.10m 平面形 楕円形
調査 III~IV層面で攪乱や風倒木の間に円形の黒色土の堆積を確認した。土層観察ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。平坦な床面と壁の立ち上がりがみられたため、規模から住居跡と判断した。北東側は風倒木、中央・南東部分は攪乱により壊されている。
覆土 黒褐色土層が堆積する。
形態 平面形は楕円形である。床面は平坦で、壁は曲線的に緩やかに立ち上がる。
付属遺構 検出していない。
遺物 遺物は覆土からII群b類土器53点、フレイク37点、北海道式石冠2点など98点出土した。
時期 出土遺物や周辺の遺構から縄文時代前期後半と考える。(愛場)

H-29



層名	マンセル染色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR1.7/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II
2	5YR5/8	明赤褐色	埴壤土～壤土	中	堅	自然堆積の埴土
3	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III>IV炭化材混じる
4	10YR1.7/1	黒色	埴壤土～壤土	強	堅	II・III>IV
5	10YR2/3	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III>IV
6	10YR3/4	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	IV>II・III 炭化材混じる
7	10YR3/4	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III+IV 炭化材混じる
8	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III+IV 炭化材混じる
9	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III>IV
10	10YR1.7/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II>IV
11	10YR1.7/1 -10YR3/3	黒色・ 暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II+IV斑状

図Ⅲ-55 H-29 (1)



H-29HP-1土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II > IV

H-29HP-2土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR2/3	黒褐色	壤土	中	しろう	II・III > IV
2	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	IV

H-29HP-3土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR3/4	暗褐色	埴壤土～壤土	中	しろう	II・III + IV
2	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	IV
3	10YR3/4	暗褐色	埴壤土～壤土	中	軟	II・III + IVブロック・炭化材

H-29HP-4土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR3/4	暗褐色	埴壤土～壤土	中	しろう	II・III + IV
2	10YR2/3	黒褐色	埴壤土～壤土	中	しろう	II > IV
3	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	IV

H-29HP-5土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR3/4	暗褐色	埴壤土～壤土	中	しろう	II・III + IV
2	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	IV
3	10YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	しろう	II
4	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	IV

H-29HP-6土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV
2	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	IV
3	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	しろう	II・III > IV

H-29HP-7土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV
2	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	IV

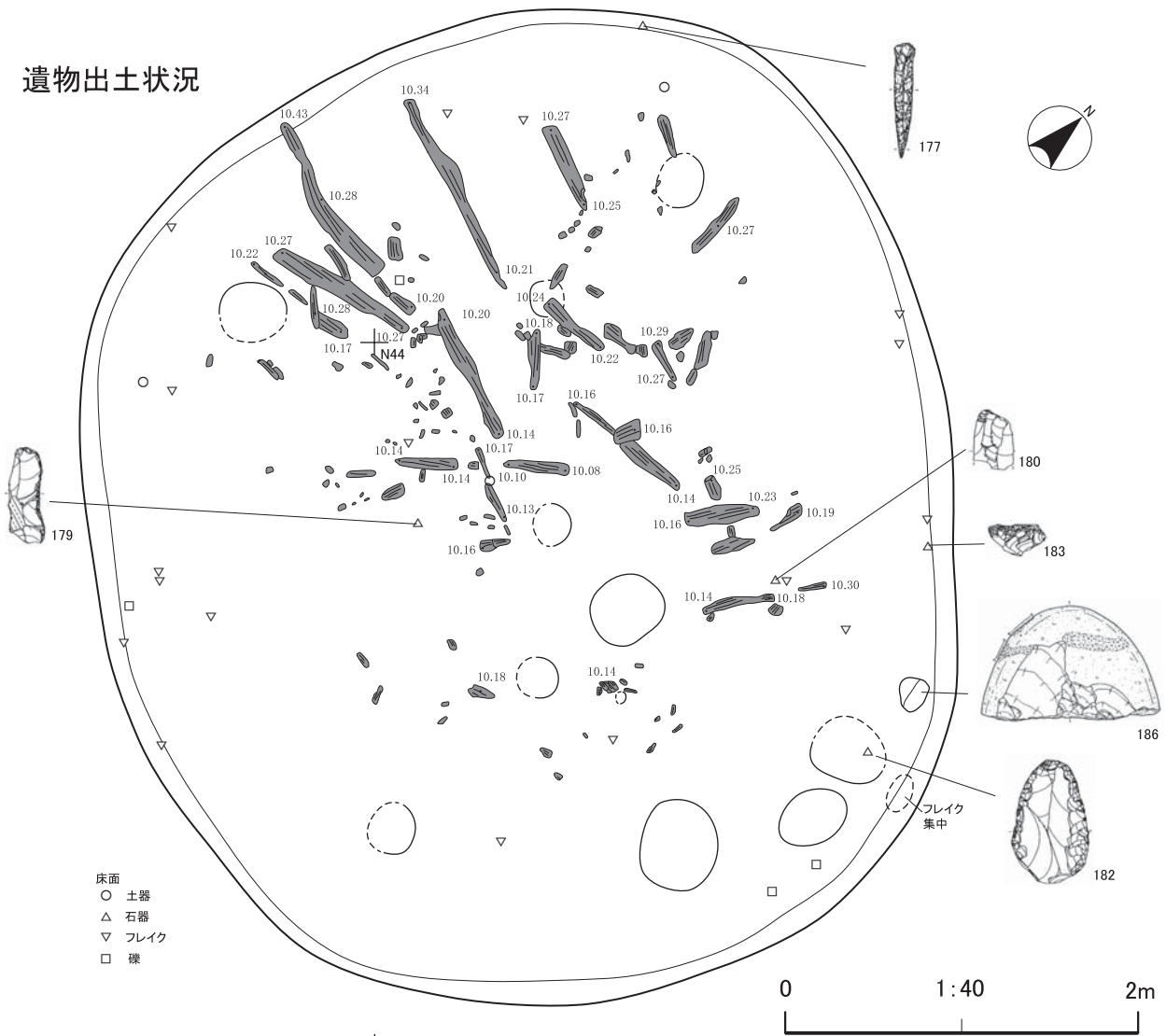
H-29HP-8土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV

H-29HP-9土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR4/6	褐色	埴壤土～壤土	中～強	すこぶる堅	IV
2	10YR7/1	灰白色	砂土	なし	すこぶる堅	

H-29HP-10土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	IV
2	10YR2/1・10YR4/6	黒色・褐色	埴壤土	中	しろう	II + IV

H-29HP-11土層						
層名	マンセル表色	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	その他
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV

遺物出土状況



図III-56 H-29 (2)

H-29 (図Ⅲ-55・56 図版33)

位置 M43・44/N43・44 立地 標高約10.4~10.5mの平坦面

規模 5.51×4.97/5.34×4.71/0.50m 平面形 楕円形

調査 II層面で赤褐色の自然焼土層と黒色土の堆積を確認した。堆積中央部に十字に土層観察ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。焼土以下の黒色土層では土器がまとまってみられ、床面直上の黒褐色土層では炭化材が多く検出した。炭化材は位置を記録し、残存状況のよいものについては採取し、樹種同定および放射性炭素年代測定を行った(付篇2・3)。検出面から40cm程掘り下げたところで平坦な床面と壁を検出し、規模から住居跡と判断した。

覆土 11層に分層した。覆土1はII層起源、覆土2は自然焼土層である。覆土3・4では土器がまとまって出土した。覆土5~11は黒褐色から暗褐色土層で、屋根土の崩落や掘り上げ土の流入土の可能性はある。

形態 平面形は隅丸長方形に近い楕円形である。床面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 土坑3基(HP-1・8・9)・柱穴8か所(HP-2~7・10・11)を検出した。

HP-1・8は平面形が楕円形で断面は皿状となる。覆土は住居最下部の覆土11層と同じ土層である。HP-9はいわゆる砂ピットである。平面形は直径約40cmの不整楕円形で、掘り込みは5cm程である。灰白色の砂が土坑縁に残存する。覆土はIV層起源の褐色土で埋め戻された可能性がある。

主柱穴4か所(HP-2・3・4・5)を確認した。いずれも直径20cmを超えるもので、床面からの深さは50cmを超える。先端形状はHP-2が丸みを帯びる以外は平らとなる。HP-6・7・10は規模的に主柱穴と変わらないもので住居中央長軸上に並ぶ。HP-11は径5cmで先端形状が尖る杭状の柱穴で、砂ピットの南西側に位置する。

遺物 遺物は836点出土した。床直上・床面と付属遺構の遺物はI群b類土器3点、II群b類土器5点、石錐1点、スクレイパー3点、フレイク82点、北海道式石冠1点など少量である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半で、炭化材出土状況から焼失住居跡である。(愛場)

3. 土坑

直径1m未満の土坑は、調査区南西端と北側にまとまりがみられる。調査区南西端の土坑はP-3・13~33・35~39・41・43・45~51・54・55・57がある。調査区北側の土坑はP-62~83・110・112・114~130・132~153がある。それ以外は平面形が1mを超える楕円形で、遺物を伴うものが多い。

P-1 (図Ⅲ-57 図版34)

位置 L31 立地 標高9.4m付近の緩斜面

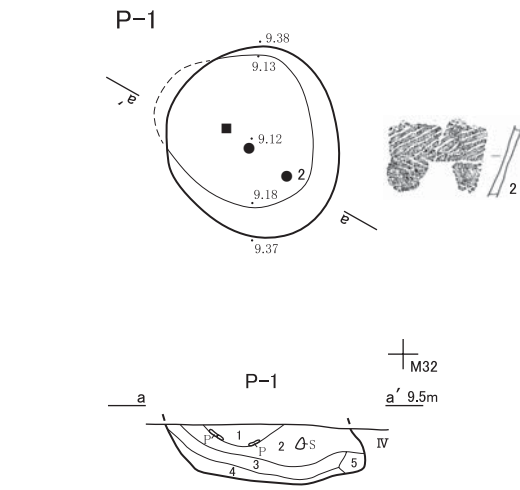
規模 1.01×0.92/0.8×0.74/0.31m 平面形 不整な円形

調査 IV層面で黒褐色土の円形の堆積を確認した。長軸で半截し、ほぼ平坦な底面と斜めに立ち上がる壁面を検出し、規模から土坑と判断した。西壁は一部オーバーハングする。

覆土 5層に分層した。II層起源の黒色土にIV層黄褐色土が混じる黒褐色土層となる。

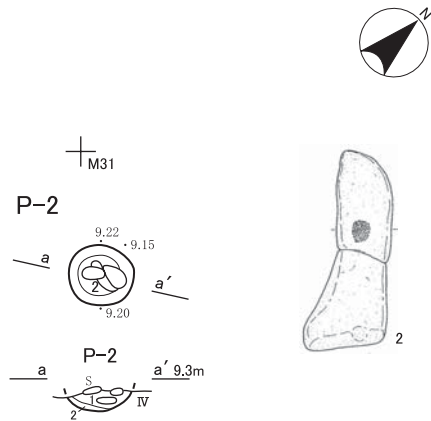
遺物 I群b-4類土器77点、石錐1点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、フレイク25点、すり石1点、礫10点の計116点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)



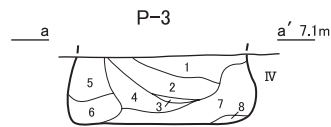
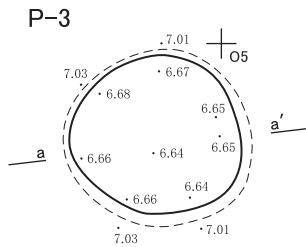
P-1土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II > IV
2	10YR2/3	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	III・IV + II > 炭化物・焼礫
3	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II > III・IV
4	10YR2/3	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II + IV 斑状
5	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	中～強	堅	IV > II



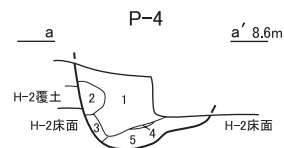
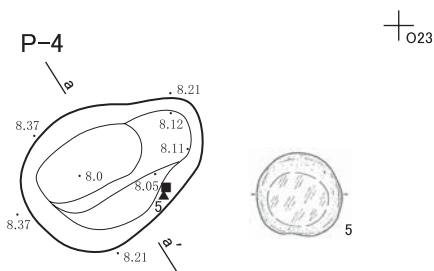
P-2土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	堅	II > III・IV
2	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	中	堅	II + III・IV



P-3土層

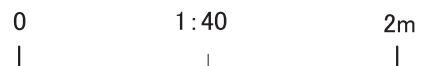
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	II 主体で極小粒径のIVが5%混じる
2	10YR3/2	黒褐色	II 主体
3	10YR1.7/4	黒色	
4	10YR4/2	灰黄褐色	極小粒径のIVが1%混じる
5	10YR4/4	褐色	II + IV
6	10YR6/8	明黄褐色	塊状のIVが入り込む
7	10YR2/2	黒褐色	極小粒径のIV層が3%混じる
8	10YR5/6	黄褐色	



P-4土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	硬	II > IV
2	10YR3/2	黒褐色	埴壤土	中	オニシロ岩	III・IV + II > 炭化物・焼礫
3	10YR4/4	褐色	埴壤土	中	堅	II > III・IV
4	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	II + IV 斑状
5	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中～強	堅	IV > II

- 覆土
- 土器
 - ▲ 石器
 - ▼ フレイク
 - 礫



図III-57 P-1～4

P-2 (図Ⅲ-57 図版34)

位置 M30・31 立地 標高9.2m付近の緩斜面
規模 0.35×0.31/0.22×0.2/0.11m 平面形 円形
調査 IV層面で礫のまとまりと黒褐色土の堆積を確認した。出土遺物を記録し、遺物取り上げ後、北西側を半截した。皿状の底面と壁面を検出し、規模から土坑と判断した。
覆土 2層に分層した。上部は黒褐色土で、底面直上には暗褐色土が薄く堆積する。
遺物 砥石2点、礫2点が出土した。砥石2点は接合した。
時期 出土遺物から縄文時代と考える。 (愛場)

P-3 (図Ⅲ-57 図版34)

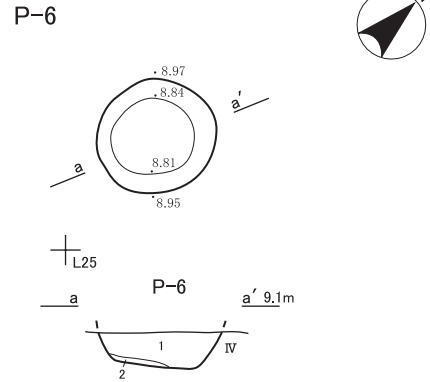
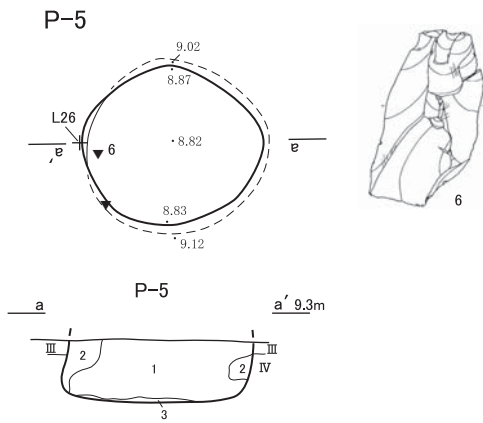
位置 O4・5 立地 標高7.0~7.5m付近の緩斜面
規模 0.90×0.84/1.00×0.92/0.36m 平面形 不整な円形
調査 削平されたIV層中にて黒褐色~褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。
遺物 Ⅱ群b類土器1点、つまみ付きナイフ1点、フレイク1点、メノウ礫1点が出土した。
時期 確認状況から縄文時代のもので、前期後半以降と考える。 (大泰司)

P-4 (図Ⅲ-57 図版34)

位置 O22 立地 標高8.4m付近の緩斜面
規模 1.03×0.74/0.82×0.53/0.31m 平面形 不整な楕円形
調査 H-2 覆土調査中、土層観察用ベルト断面に落ち込みを確認した。断面を記録し、掘り下げたところ不整な底面と急角度で立ち上がる壁面を検出した。規模から土坑と判断した。
覆土 5層に分層した。底面上部や壁際には黒褐色・褐色土層がみられ、その上部にはⅡ層起源の黒色土が堆積する。土質は固くしまる。
遺物 Ⅱ群b類土器1点、石鏃1点、すり石1点、フレイク7点など12点出土した。
時期 出土遺物から縄文時代で、H-2より新しい。 (愛場)

P-5 (図Ⅲ-58 図版34)

位置 K26/L26 立地 標高9m付近の緩斜面
規模 0.94×0.84/0.93×0.92/0.34m 平面形 不整な円形
調査 Ⅲ層調査中、ほぼ円形の黒色土の堆積を確認した。北西側を半截し、平坦な底面とややオーバーハングする壁の立ち上がりを検出した。規模から土坑と判断した。
覆土 3層に分層した。壁際に黒褐色土層が少量みられるが、主体はⅡ層起源の黒色土でⅣ層パミスをごく少量含む。底面直上には黒色土と褐色土が斑状に混じった薄い土層がみられる。
遺物 フレイク7点が出土した。1点は10cmを超える大型のフレイクである。
時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

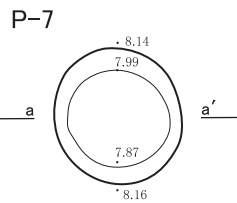


P-5土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > IVブロック
2	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	堅	II + III・IV
3	10YR4/1	黒色	埴壤土	中	堅	II + III・IV斑状
	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	

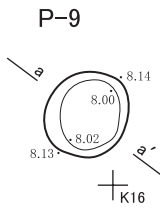
P-6土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	堅	II > III・IV
2	10YR2/1 ~10YR2/2	黒色 黒褐色	埴壤土	中	堅	II + III・IV斑状



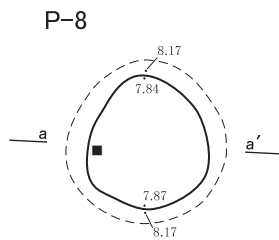
P-7土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴壤土~壤土	中	堅	II > IV小粒径
2	~10YR2/2	黒褐色	埴壤土~壤土	中~強	堅	II・III > IV



P-8土層

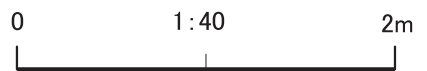
層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR4/6	褐色	埴壤土	中	堅	IV > II
2	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > IV小粒径
3	~10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	堅~軟	II + III・IV
4	10YR2/3	黒褐色	埴壤土	中	堅	IV > II・III
5	10YR4/4	褐色	埴壤土	中~強	堅	IV > II
6	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中~強	堅	II > IV
7	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > IV小粒径
	10YR4/4	褐色	埴壤土	中	堅	IV > II・III



P-9土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1 ~10YR2/2	黒色 黒褐色	壤土	中	堅	II > IV小粒径

- 覆土
- 土器
 - ▲ 石器
 - ▼ フレイク
 - 礫



図III-58 P-5~9

P-6 (図Ⅲ-58 図版34)

位置 K25 立地 標高9 m付近の緩斜面

規模 0.64×0.59/0.43×0.39/0.2m 平面形 円形

調査 Ⅲ層調査中、円形の黒褐色土の堆積を確認した。西側を半截し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 2層に分層した。底面直上には黒色土と褐色土が斑状に混じった薄い土層がみられる。その上部はすべてⅡ層起源の黒色土で、少量のⅣパミスを含む。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

P-7 (図Ⅲ-58 図版34)

位置 J16 立地 標高8.1m付近の緩斜面で、P-8・9が近接する。

規模 0.72×0.67/0.51×0.53/0.17m 平面形 円形

調査 削平されたⅣ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。北西側を半截し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 2層に分層した。底面直上には黒色土と褐色土が斑状に混じった薄い土層がみられる。その上部はすべてⅡ層起源の黒色土で、少量のⅣパミスを含む。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

P-8 (図Ⅲ-58 図版34)

位置 K16 立地 標高8.2m付近の緩斜面で、P-7・9が近接する。

規模 0.71×0.63/0.87×0.83/0.34m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。北西側を半截し、平坦な底面とオーバーハングする壁の立ち上がりを検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 7層に分層した。黒色土主体土層と黄褐色土主体層が互層となる。人為的な埋め戻し土の可能性が高い。

遺物 覆土中から礫2点が出土した。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

P-9 (図Ⅲ-58 図版35)

位置 J15・16 立地 標高8.1m付近の緩斜面で、P-7・8が近接する。

規模 0.48×0.44/0.34×0.34/0.14m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。北側を半截し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅢ層主体でⅣ層パミスをごく少量含む。 遺物 遺物は出土していない。

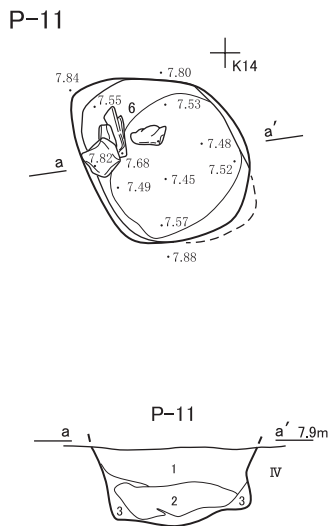
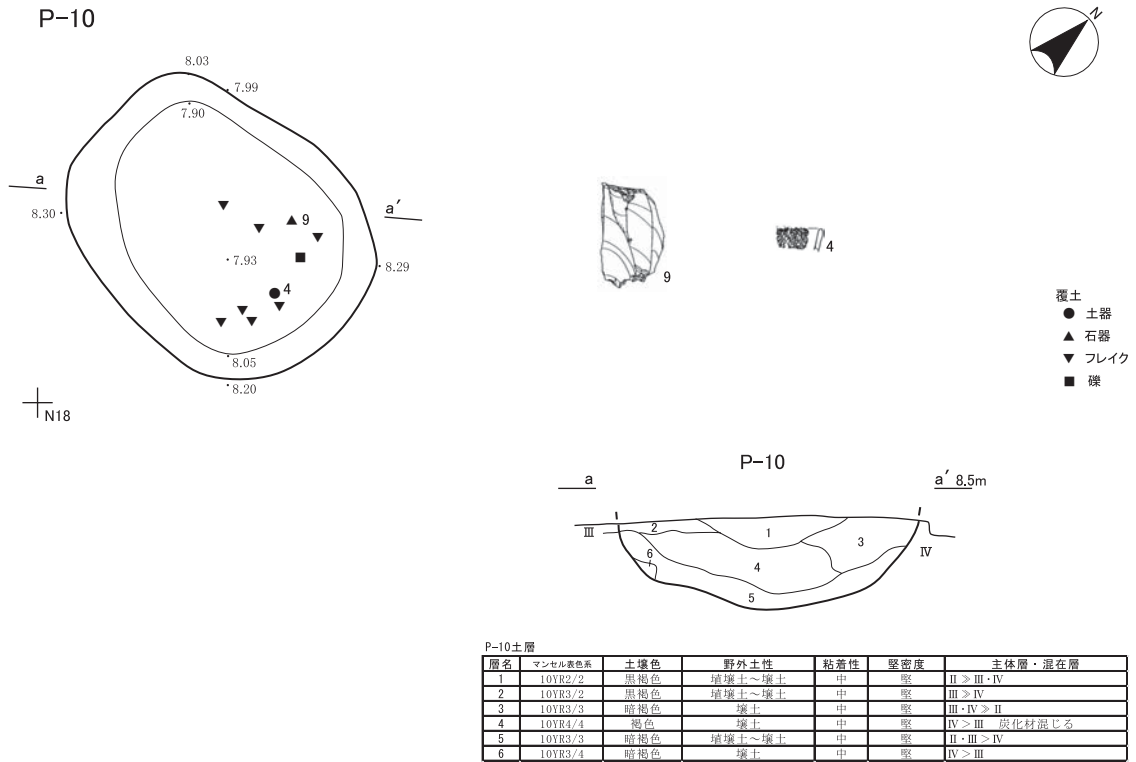
時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

P-10 (図Ⅲ-59 図版35)

位置 M18 立地 標高8 m付近の緩斜面、2 mほど南東にH-1がある。

規模 1.65×1.34/1.34×1.04/0.49m 平面形 不整な隅丸方形

調査 Ⅲ層調査中、楕円形の黒褐色土の堆積を確認した。南東側を半截し、皿状の底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。



図III-59 P-10・11

覆 土 覆土は6層に分層した。上部にⅡ層主体の黒褐色土がみられるが、それ以下はⅢ・Ⅳ層主体の暗褐色土・褐色土が堆積する。人為的な埋め戻し土の可能性はある。

遺 物 Ⅰ群b-4類土器2点、スクレイパー1点、石核2点、フレイク35点、たたき石1点など43点が出土した。

時 期 出土遺物や周辺の遺構から縄文時代早期後半と考える。 (愛場)

P-11 (図Ⅲ-59 図版35)

位 置 K13・14 **立 地** 標高7.5~8 m付近の緩斜面

規 模 1.10×0.84/0.62×0.72/0.40m **平 面 形** 不整な円形

調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。底面はいびつであり、壁面は外側に開きながら立ち上がる。東壁のみ一か所内側にすぼまる。

覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土にⅣ層が斑状に微量混じったものである。上半分については、Ⅱ~Ⅳ層が混じり合った状況がみてとれる。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。埋め戻しの可能性はある。

遺 物 覆土1層上面からⅣ群a類土器がまとまって53点出土した。ほかにⅡ群b類土器1点、礫1点がある。

時 期 確認状況から縄文時代で、後期前葉以降と考える。 (大泰司)

P-12 (図Ⅲ-60 図版36)

位 置 L12・13/M12・13 **立 地** 標高7.5~8 m付近の緩斜面

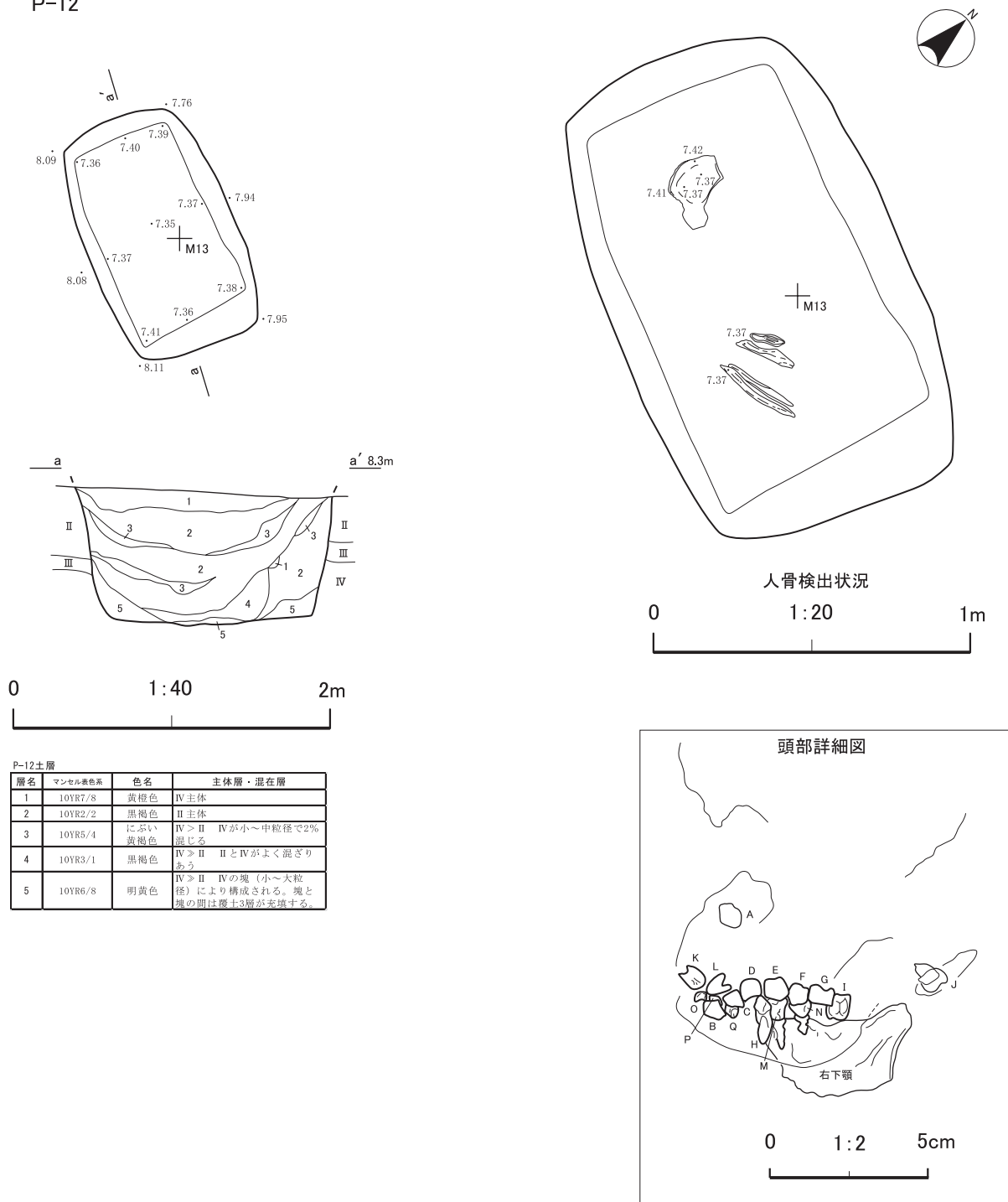
規 模 1.54×0.94/1.23×0.71/0.85m **平 面 形** 長方形

調 査 Ⅱ層中、およびグリットライン壁面に黒褐色土とにぶい黄褐色土の広がりとして検出した。掘り込み面は確認面より上である。平坦な底面と、ゆるく外側に立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。掘り込み面が擦文住居等と比較してかなり上であるため、中世以降の土坑と考えられた。しかし、駒ヶ岳の火山灰は分布していない場所のため、土坑の時期が近世か中世かは不明である。完掘時に頭部と脚部と思われる骨を土坑底部より検出した。人骨は糊状であり、顔面は土圧でつぶれたため、90度にねじれたような状況であった。骨の分布状況から右体側を下にして、顔面を南向きにした屈葬と考えられる。そのため位置とおおよその形状から脚部は両足の脛部分と推測され、頸骨と腓骨と考えられる。土圧による変形で、左右の確認は出来なかった。片足の腓骨は糊化が進み取り上げられなかった。もう片方は放射性年代計測を行うこととした。結果、土坑は近世以降の可能性が高いと判断するに至った。また残存する人骨について形質人類学的な分析を札幌医科大学 松村博文氏に依頼した。歯の残存状況がよかったことから、その分析が主に行われた。その結果、和人壮年(20~40歳)男子の可能性が高いという結果がでた。これは屈葬であることや、放射性炭素年代計測結果と矛盾しない。

覆 土 底面付近の覆土はⅡ~Ⅳ層の混じり合った覆土4・5層によって構成される。開口部付近には覆土1層、Ⅳ層主体土が入り込む。1層と4・5層の間に関してはⅡ層主体土2層とⅣ層主体土3層が交互に堆積している。2・3層の上半と1層に関しては、別な掘り込みがからんだ、あるいは遺体の腐敗・消滅に伴い土饅じゅうの落ち込んだものという可能性がある。掘り込み面は地表にかなり近い。埋め戻しの土坑墓であると判断する。

遺 物 Ⅳ群・Ⅴ群土器、頁岩フレイク、頁岩・安山岩・珪岩の礫が出土した。四角い形状から棺

P-12



図III-60 P-12

の存在を想定し、釘を探したが検出されなかった。また、副葬品と考えられる遺物の出土はなかった。
時期 確認状況から中世～近世以降、年代測定結果から近世～近代の墓と考える。(大泰司)

P-13 (図Ⅲ-61 図版35)

位置 N5 立地 標高7m付近の緩斜面
規模 $0.74 \times 0.66 / 0.82 \times 0.84 / 0.40\text{m}$ 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて明～にぶい黄褐色土の堆積を確認した。中央がややくぼむ底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆土 覆土上半部は塊状のⅣ層とⅡ～Ⅳ層が混在した土層である。下半部も同様だが、Ⅱ層の比率が高い。黒褐色土が分布する。黒褐色土にはⅣ層が斑状に広がり、埋め戻しの可能性もある。
遺物 Ⅱ群b類土器が2点出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-14 (図Ⅲ-61 図版37)

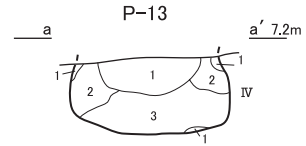
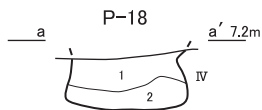
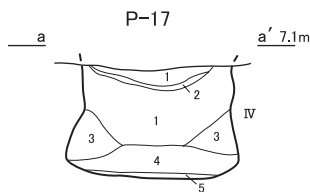
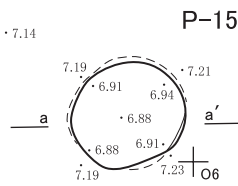
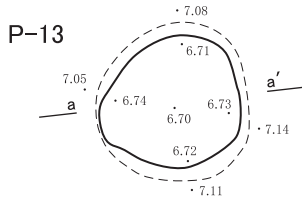
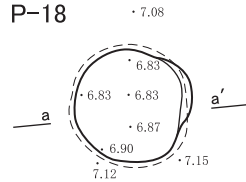
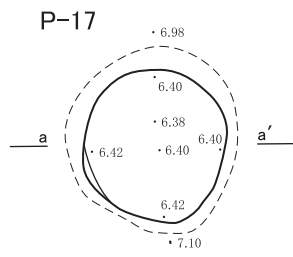
位置 N4 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面
規模 $0.80 \times 0.68 / 0.70 \times 0.60 / 0.38\text{m}$ 平面形 不整な楕円形。
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色～褐色土の堆積を確認した。底面は浅くくぼみ、壁面はゆるく開きながら立ち上がるが、東部分のみ内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。
遺物 Ⅱ群b土器6点、スクレイパー1点、フレイク3点が散点的に出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-15 (図Ⅲ-61 図版37)

位置 N5・O5 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面
規模 $0.60 \times 0.54 / 0.62 \times 0.56 / 0.34\text{m}$ 平面形 不整な円形
調査 削平されたⅣ層中にて灰黄褐色土の堆積を確認した。中央がややくぼむ底面と、ほぼまっすぐに立ち上がる壁面を持つ。底面と壁面から土坑と判断した。
覆土 覆土上半部はⅡ～Ⅳ層が混在した土層が主体である。下半部も同様だが、Ⅱ層の比率が高い。壁面側にはⅣ層の崩落土と思われる土層が分布する。埋め戻しの可能性もある。
遺物 Ⅱ群b類土器小片1点、フレイク6点、珪岩礫1点が出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

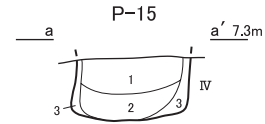
P-16 (図Ⅲ-62 図版37)

位置 N4 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面
規模 $0.72 \times 0.64 / 0.78 \times 0.68 / 0.46\text{m}$ 平面形 不整な円形
調査 削平されたⅣ層中で黄褐色～黄橙色土の堆積を確認した。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすぼまる。
覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混じり合った土によって構成され、埋め戻しと考える。
遺物 Ⅱ群b類土器1点、スクレイパー1点、フレイク5点、安山岩礫1点が出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)



P-13土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/8	明黄褐色	塊状のIV
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	II～IV混在。IV小～中粒径で3%混じる
3	10YR2/2	黒褐色	II > III・IV



P-15土層

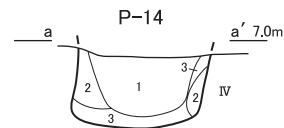
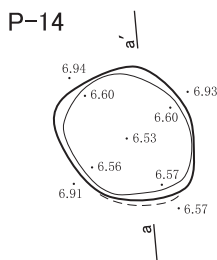
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/2	灰黄褐色	II～IV混在。IVが小粒径で3%混じる
2	10YR3/2	黒褐色	II～IV混在。IIの比率高い。IV小～中粒径で2%混じる
3	10YR4/6	褐色	IV主体の小～大粒径のIVブロック

P-17土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/2	灰黄褐色	IVが小粒径で7%混じる
2	10YR3/2	黒褐色	IVが小粒径で2%混じる
3	10YR6/6	明黄褐色	IV > II
4	10YR3/2	黒褐色	IV 崩落か
5	10YR3/2	黒褐色	IIとIVが混ざりあう

P-18土層

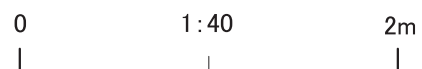
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/8	明黄褐色	塊状のIV
2	10YR2/2	黒褐色	IV小～中粒径で1%混じる



P-14土層

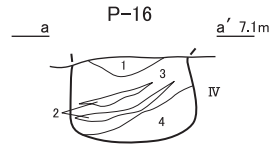
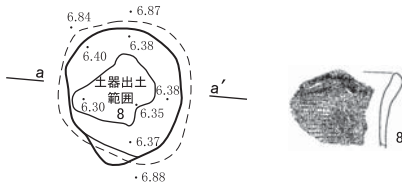
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体で小～中粒径のIVが2%混じる
2	10YR4/6	褐色	IV > II
3	10YR4/4	褐色	IIとIVが混ざりあう

04



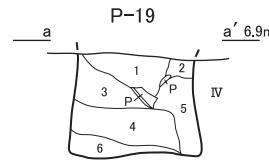
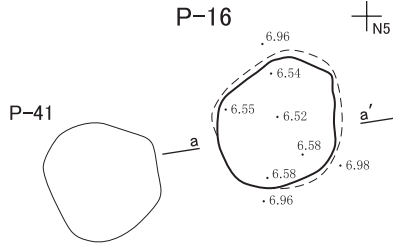
図III-61 P-13～15・17・18

P-19



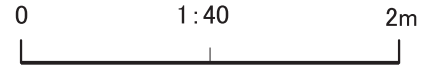
P-16土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR7/6	明黄褐色	IVが塊状に入り込んだもの
2	10YR5/6	黄褐色	IIとIVが混ざりあう。小～中粒径のIVが2%混じる
3	10YR3/4	暗褐色	IV主体土にIIが混ざりあう
4	10YR2/2	黒褐色	II主体



P-19土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/2	灰黄褐色	小～大粒径のIVが25%混じる
2	10YR6/8	黄褐色	IV主体
3	10YR3/1	黒褐色	II主体
4	10YR5/6	暗褐色	IVが塊状に入り込んだもの
5	10YR5/4	にぶい黄褐色	IIとIVが斑に混ざりあう
6	10YR2/2	黒褐色	II主体しまりなし



図Ⅲ-62 P-16・19

P-17 (図Ⅲ-61 図版37)

位置 N5 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.80×0.74/1.00×0.90/0.60m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて灰黄褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土から構成される。覆土下半部には黒褐色土が分布する。埋め戻しの可能性がある。開口部の覆土1層については、削平時にずれてきたIV層の可能性がある。

遺物 II群b類土器14点、スクレイパー1点、フレイク14点、礫1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)

P-18 (図Ⅲ-61 図版37)

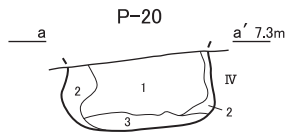
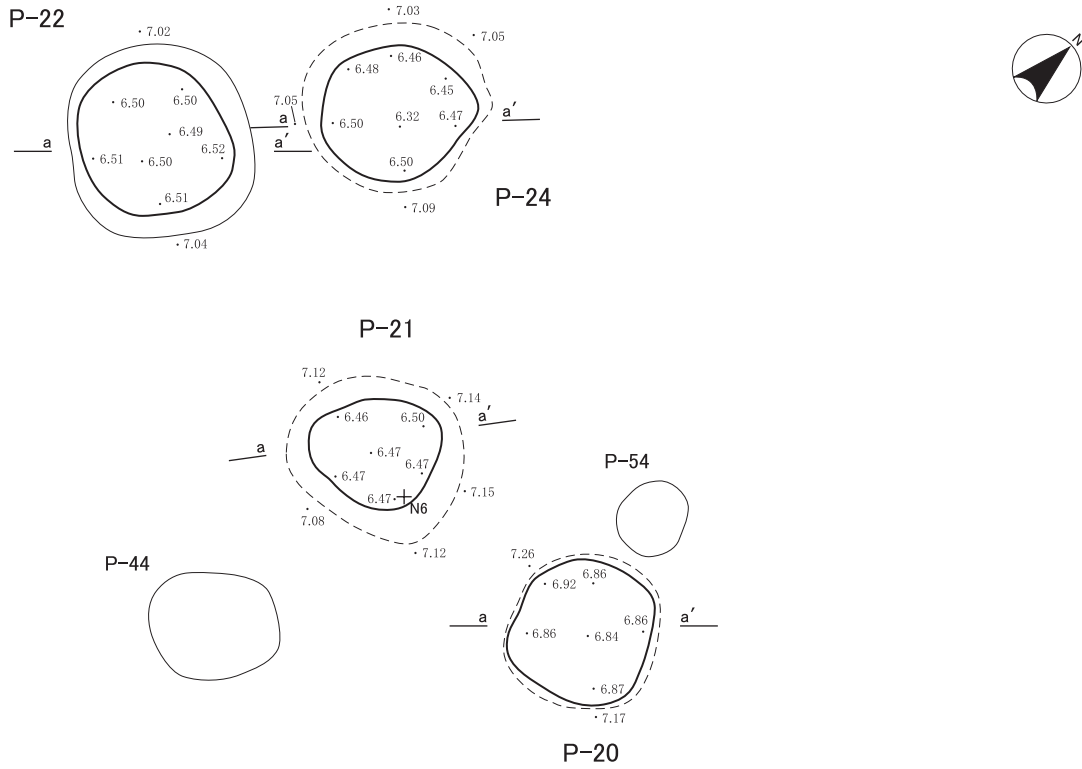
位置 N5 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.58×0.6/0.64×0.62/0.30m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて明黄褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

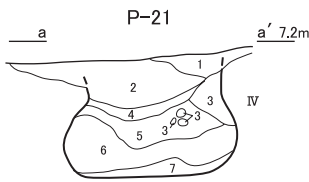
覆土 覆土上半部は塊状のIV層である。下半部には黒褐色土が分布する。黒褐色土にはIV層が斑状に入り込み、埋め戻しの可能性もある。

遺物 II群b類土器3点、石鏃1点、フレイク7点が出土した。



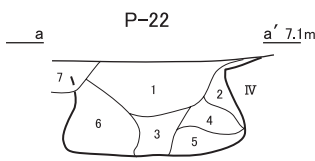
P-20土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR4/6	褐色	IIとIVが混在する。IVが小粒径で5%混在している
2	10YR6/8	明黄褐色	IV
3	10YR2/3	黒褐色	IVが小粒径で2%混在する



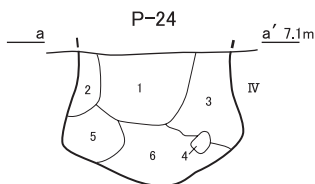
P-21土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	IIの流入
2	10YR5/2	灰黄褐色	IVが小～中粒径で20%混在する
3	10YR6/6	明黄褐色	崩落したIV
4	10YR3/2	黒褐色	II主体でIVが中～大粒径で20%混在する
5	10YR4/6	褐色	IIとIVが混在する
6	10YR2/3	暗褐色	IIとIVが混在する
7	10YR4/3	にぶい黄褐色	IIとIVが混在する。IVが小～大粒径で30%混じる。ややしまる



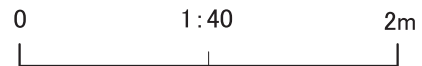
P-22土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR5/2	灰黄褐色	IV小～中粒径で25%混じる
2	10YR6/6	明黄褐色	塊状のIV
3	10YR3/2	黒褐色	II > IV小粒径で5%混じる
4	10YR4/4	褐色	II + III + IV
5	10YR3/2	黒褐色	II > III + IV
6	10YR3/3	暗褐色	II > III + IV
7	10YR5/2	灰黄褐色	IV主体。凹凸ずれてきた土



P-24土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR5/2	灰黄褐色	IV小～中粒径で25%混じる
2	10YR6/6	明黄褐色	塊状のIV
3	10YR4/4	褐色	IV > II
4	10YR6/6	明黄褐色	塊状のIV
5	10YR4/4	褐色	IV大粒径で1%混じる
6	10YR2/3	暗褐色	II + IV



図III-63 P-20～22・24

時期 確認状況から縄文時代で前期後半以降と考える。(大泰司)

P-19 (図Ⅲ-62 図版37)

位置 M4 立地 標高6.5～7 m付近の緩斜面

規模 0.70×0.56/0.78×0.72/0.56m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて明黄褐色～黄褐色土の堆積を確認した。底面は浅くくぼみ、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。

遺物 Ⅱ群b類土器2点、Ⅳ群a類土器27点、フレイク3点、焼成粘土塊が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、後期前葉以降と考える。(大泰司)

P-20 (図Ⅲ-63 図版37)

位置 N6 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.74×0.70/0.84×0.78/0.38m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、内側にややすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層の混じり合った土によって構成される。壁面際には崩落したⅣ層、底面直上にはⅡ層主体の土が薄く入り込む。埋め戻しの可能性がある。

遺物 Ⅱ群b類土器3点、フレイク67点、扁平打製石器1点、礫3点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-21 (図Ⅲ-63 図版37)

位置 M5・6/N5・6 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.66×0.58/0.92×0.88/0.66m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて灰黄褐色土と黒色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層の混じり合った土によって構成される。覆土中位にはⅡ層主体の土が薄く入り込む。開口部のⅣ層主体土は、削平時にずれてきた土の影響もある。埋め戻しの可能性がある。

遺物 Ⅱ群b類土器1点、頁岩フレイク11点、礫5点が散発的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で前期後半以降と考える。(大泰司)

P-22 (図Ⅲ-63 図版38)

位置 M5 立地 標高7 m付近の緩斜面

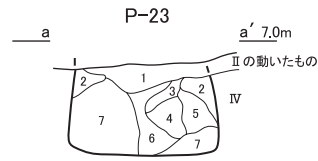
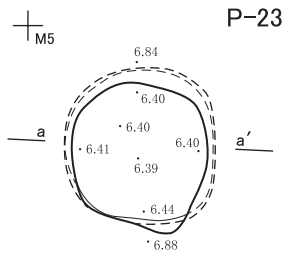
規模 0.88×0.80/1.08×1.04/0.48m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層中にて灰黄褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、すぼまるように立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土と、Ⅱ層主体土に、塊状のⅣ層が混在する。埋め戻しの可能性がある。確認面の覆土7層は削平時にずれてきた土の可能性が高い。

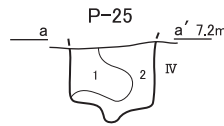
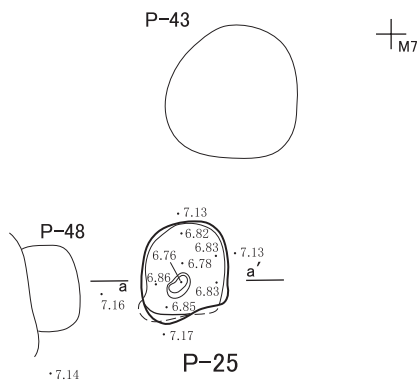
遺物 Ⅱ群b類土器3点、フレイク22点、礫2点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)



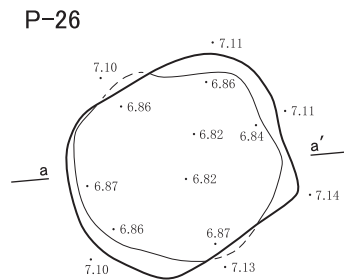
P-23土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR5/2	灰黄褐色	IV小粒径で20%混じる
2	10YR6/6	明黄褐色	塊状のIV
3	10YR3/3	暗褐色	II~IV混ざりあう
4	10YR4/4	褐色	IV>II・III
5	10YR6/6	明黄褐色	IV主体・2との層境不明瞭
6	10YR4/4	褐色	IV小~中粒径で15%混じる
7	10YR4/4	褐色	IV>II・III



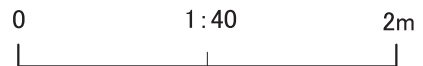
P-25土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	小~中粒径のIV25%混じる
2	10YR3/2	黒褐色	小~中粒径のIV25%混じる



P-26土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色土	II>IV小粒径1%
2	10YR6/6	明黄褐色土	IV>IV小粒径5%



図III-64 P-23・25・26

P-23 (図Ⅲ-64 図版38)

位置 M5 立地 標高6.5~7 m付近の緩斜面
規模 0.84×0.78/0.74×0.66/0.50m 平面形 四角形に近い不整な円形
調査 削平されたⅣ層中にて灰~明褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面とまっすぐ立ち上がる壁面から、土坑と判断した。壁は徐々に内側へすぼまる。
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土に、Ⅳ層主体の土や塊状のⅣ層から構成される。埋め戻しの可能性がある。覆土1層は削平時にずれてきた土と考える。
遺物 Ⅱ群b類土器4点、フレイク5点、礫1点が散点的に出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-24 (図Ⅲ-63 図版38)

位置 M5・6 立地 標高7 m付近の緩斜面
規模 0.84×0.70/1.00×0.90/0.68m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて褐~明黄褐色土の堆積を確認した。中央がくぼむ底面と、ややすぼまるように立ち上がる壁面から、土坑と判断した。
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土と、塊状のⅣ層が混在する。埋め戻しの可能性がある。
遺物 Ⅱ群b類土器1点、頁岩フレイク3点、台石1点が散点的に出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-25 (図Ⅲ-64 図版38)

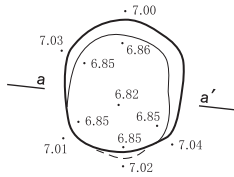
位置 M6 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面
規模 0.52×0.44/0.50×0.42/0.40m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の広がりとして検出した。およそ平坦な底面と、ほぼまっすぐに立ち上がる壁面を持つ。壁面はおおむねゆるやかに外側へ開くが、南壁の一部のみ内側へややすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。底面のほぼ中央に楕円形をした10cmほどのくぼみがある。用途等は不明である。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。色調にはⅡ層の混在比率の多少に由来する濃淡があり、そこにⅣ層が散点的に混じったものである。埋め戻しの可能性がある。
遺物 Rフレイク1点、フレイク1点が散点的に出土した。
時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-26 (図Ⅲ-64 図版38)

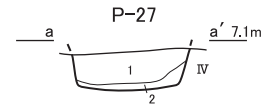
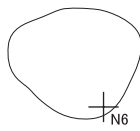
位置 L8 立地 標高7 m付近の緩斜面
規模 1.20×1.00/1.02×1.12/0.28m 平面形 四角形に近い不整な円形
調査 Ⅲ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面とまっすぐ立ち上がる壁面から、土坑と判断した。西壁と東壁は一部オーバーハングする。
覆土 覆土はⅡ層主体土に、Ⅳ層が小粒径でわずかに混じる。壁際にはⅣ層主体土が分布する。埋め戻しの可能性がある。
遺物 I群b類土器1点、Ⅳ群a類土器3点、フレイク3点、メノウ礫1点が出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)



P-27



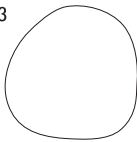
P-21



P-27土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	II > IV 小～大粒径で1%混じる
2	10YR6/6	明黄褐色	IV主体。斑状のIVが小～中粒径で5%混じる

P-43

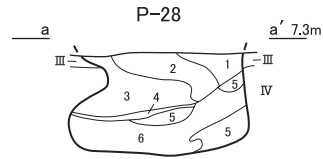
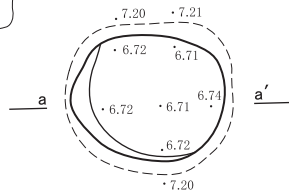


M7

P-25



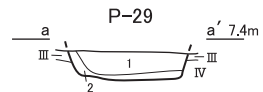
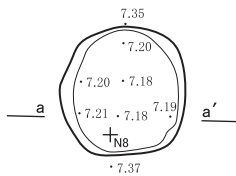
P-28



P-28土層

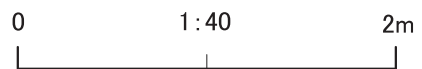
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR4/6	褐色	II～IVが混じりIIIに色調が似る
2	10YR4/6	褐色	II～IVが混じりIIIに色調が似る。IV小粒径で25%混じる
3	10YR3/2	黒褐色	II > III + IV 小粒径で25%
4	10YR2/2	黒色	II主体
5	10YR6/8	明黄褐色	塊状になったIV
6	10YR4/6	褐色	II～IVが混ざりIIIに色調が似る。1層に近い

P-29



P-29土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	II主体
2	10YR4/4	褐色	II + IV 小～中粒径



図III-65 P-27～29

P-27 (図Ⅲ-65 図版38)

位置 M5 立地 標高7 m付近の緩斜面

規模 $0.70 \times 0.62 / 0.64 \times 0.52 / 0.20\text{m}$ 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、やや広がるように立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ層主体土にⅣ層が斑状に混じる。また底面付近にはⅣ層主体土が分布する。埋め戻しの可能性もある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)

P-28 (図Ⅲ-65 図版38)

位置 M6・7 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面

規模 $0.80 \times 0.64 / 0.88 \times 0.80 / 0.54\text{m}$ 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。ややくぼむがおおよそ平坦な底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。南壁はとりわけ著しく内側へすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層がよく混じり合った土によって構成される。覆土中位には黒色土の土層が薄く入り込む。埋め戻しの可能性がある。

遺物 Ⅱ群b類土器5点、フレイク7点、安山岩礫1点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)

P-29 (図Ⅲ-65 図版38)

位置 M7・8/N7・8 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面

規模 $0.68 \times 0.64 / 0.64 \times 0.56 / 0.1\text{m}$ 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅢ層中にて褐~黒褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、ゆるやかに外側に立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土は上部がⅡ層主体、下部はⅡ層とⅣ層が混在している。

遺物 Ⅱ群b類土器2点、フレイク5点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)

P-30 (図Ⅲ-66 図版39)

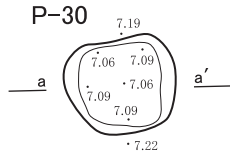
位置 L8 立地 標高7 m付近の緩斜面

規模 $0.58 \times 0.52 / 0.42 \times 0.42 / 0.16\text{m}$ 平面形 四角形に近い不整な円形

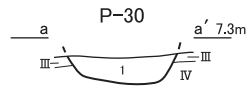
調査 Ⅲ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。中央がやや窪む底面とゆるやかに広がりながら立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあったもの。Ⅱ層の割合が多い。埋め戻しかどうかは判然としない。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

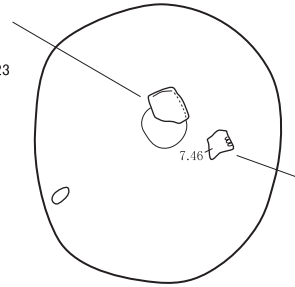
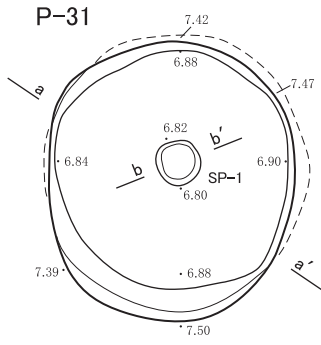


M9

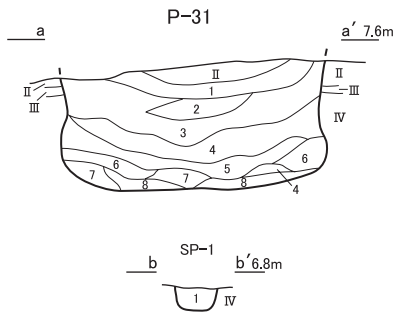


P-30土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/3	暗褐色土	II > III・IV



22

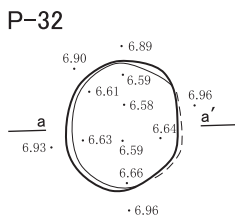


P-31土層

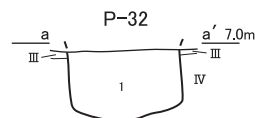
層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	5YR3/6	暗赤褐色	埴壤土～壤土	中	堅	埴土
2	7.5YR3/1	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV
3	7.5YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II > III・IV小粒径・炭化材
4	7.5YR3/1	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV小粒径
5	7.5YR2/1	黒色	埴壤土～壤土	中	堅	II > IV
6	7.5YR3/1	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV
7	7.5YR3/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II > IV
8	7.5YR3/1	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II > IV 6に比し黒味強い

P-31SP-1土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	じょう	II・III > IV

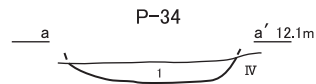
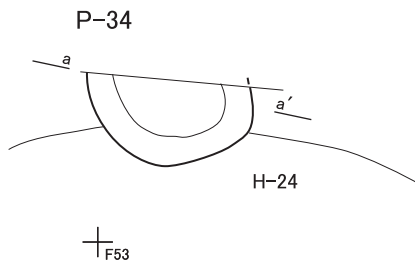


M6



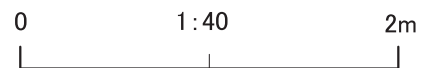
P-32土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	II > III・IV IV小～中粒径で5%混じる



P-34土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV



図III-66 P-30～32・34

P-31 (図Ⅲ-66 図版39)

位置 M8・9 立地 標高7.5m付近の緩斜面

規模 1.47×1.29/1.44×1.38/0.7m 平面形 不整な円形

調査 II層調査中、黒色土中に赤褐色土の堆積を確認し、南側を半截した。底面は平坦で壁は垂直に立ち上がり、底部付近ではややオーバーハングする部分もある。底面中央では径約20cm、深さ12cm程の柱穴状の小土坑を検出した。

覆土 8層に分層した。覆土1～3は自然堆積層で、覆土1は自然焼土層である。覆土4以下は黒褐色土・黒色土が互層となり、底部付近の黒褐色土層は細かく分層できる。

遺物 II群b類土器10点、IV群a類土器37点、石槍またはナイフ1点、両面調整石器1点、スクレイパー4点、フレイク130点、たたき石1点、扁平打製石器1点、砥石1点など214点出土した。覆土上面では大型のスクレイパー、底面近くでは砥石、礫などが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性はある。(愛場)

P-32 (図Ⅲ-66 図版39)

位置 M5 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面

規模 0.68×0.60/0.64×0.64/0.36m 平面形 六角形に近い不整な円形

調査 削平されたIII層中にて暗褐色土の堆積を確認した。中央がやや窪む底面とまっすぐ立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土に、IV層が斑状に点在する。埋め戻しの可能性がある。

遺物 II群b類土器片1点出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-33 (図Ⅲ-67 図版39)

位置 L5 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面

規模 0.52×0.42/0.56×0.32/0.20m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて暗褐色土の堆積を確認した。底面は北側の方が深く窪む。壁はゆるく広がりながら立ち上がる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。

遺物 II群b類土器が3点出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-34 (図Ⅲ-66 図版39)

位置 E52・53 立地 標高12m付近の緩斜面

規模 0.91×(0.47)/0.60×(0.33)/0.13m 平面形 不整な円形?

調査 H-24調査時、北西壁際で暗褐色土の堆積を確認した。北側は攪乱を受けていたため南東側を半截し、皿状の底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。

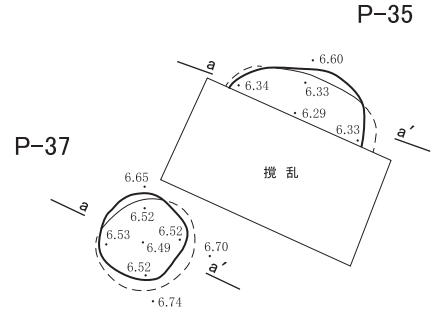
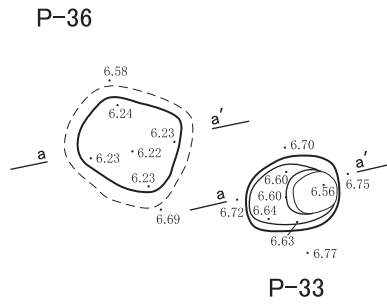
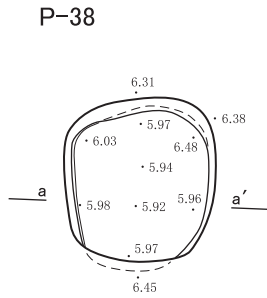
覆土 覆土は1層でII層起源の黒色土とIV層黄褐色土が混じる。

遺物 I群b類土器1点、石鏃1点、礫1点出土した。

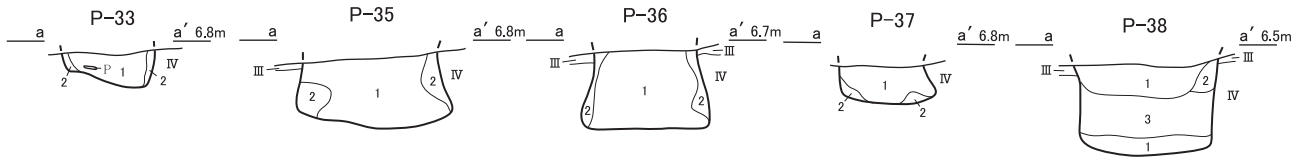
時期 H-24を切って構築しているため、縄文時代前期後半以降と考える。(愛場)

⊕
L5

⊕
L6



P-35



P-33・37土層

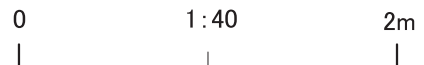
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	II～IVが混ざりあう。 IV小粒径で1%混じる
2	10YR4/4	褐色	IV>II・III

P-35・36土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	II～IVが混ざりあう。 IV小粒径で1%混じる
2	10YR4/4	褐色	IV>II・III

P-38土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	II～IVが混ざりあう。 IV小粒径で1%混じる
2	10YR4/4	褐色	IV>II・III
3	10YR4/4	褐色	II～IVが混ざりあう。 IV小粒径で1%混じる



図III-67 P-33・35～38

P-35 (図Ⅲ-67 図版39)

位置 L 5 立地 標高6.5~7 m付近の緩斜面
規模 (0.76) × (0.26) / (0.86) × (0.24) / 0.38m 平面形 不整な楕円形?
調査 削平されたⅣ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。南側半分が電柱のアンカーによって破壊される。中央がくぼむ底面を持つ。壁面は内側にすぼまる形状だが、南東壁のみゆるやかに外側にひろがる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。
遺物 Ⅱ群b類土器1点、フレイク1点が出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-36 (図Ⅲ-67 図版39)

位置 L 5 立地 標高6.5m付近の緩斜面
規模 0.52×0.44/0.64×0.60/0.42m 平面形 隅丸四角形
調査 削平されたⅢ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と壁面から、土坑と判断した。
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。
遺物 頁岩フレイク4点が散点的に出土した。
時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-37 (図Ⅲ-67 図版40)

位置 L 5 立地 標高6.5~7.0m付近の緩斜面。
規模 0.42×0.46/0.50×0.52/0.20m 平面形 四角形に近い不整な円形
調査 削平されたⅣ層中で暗褐色土の広がりを確認した。中央がくぼむ底面を持つ。壁面は内側にすぼまる形状だが、南東壁はゆるやかに外側にひろがる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。
遺物 メノウ礫が1点出土した。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

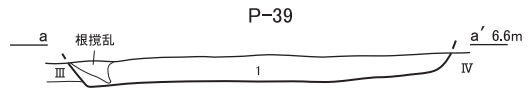
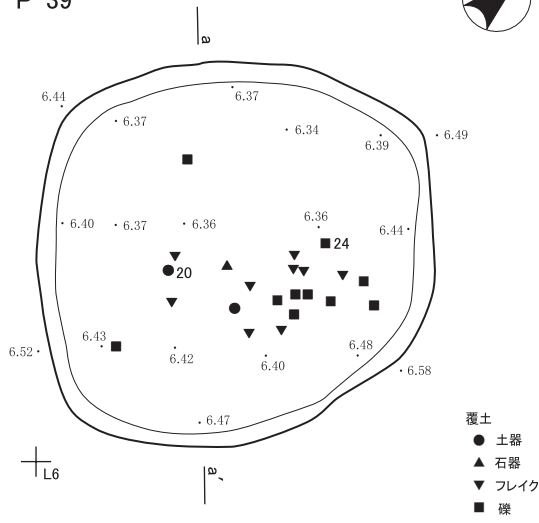
P-38 (図Ⅲ-67 図版40)

位置 L 4 立地 標高6.5m付近の緩斜面
規模 0.88×0.80/0.86×0.70/0.48m 平面形 四角形に近い不整な円形
調査 削平されたⅢ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。中央がややくぼむ底面とまっすぐ立ち上がる壁面から、土坑と判断した。壁はおおむね徐々に外側へひろくが北壁と南東壁の一部はオーバーハングする。
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。
遺物 遺物は出土しなかった。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-39 (図Ⅲ-68 図版40)

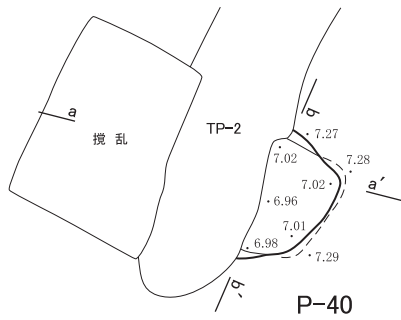
位置 K 6 立地 標高6.5m付近の緩斜面
規模 2.10×2.04/1.90×1.84/0.14m 平面形 八角形に近い不整な方形
調査 Ⅲ層上面にて暗褐色土の広がりを確認した。掘り込み面は確認面より上だが、近いものと

P-39

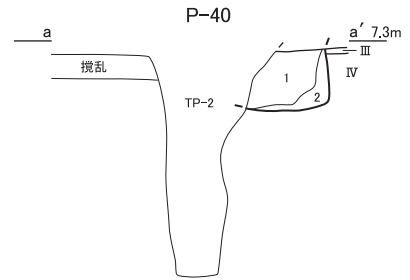


P-39土層

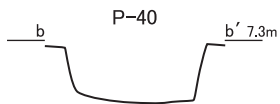
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	II~IVが混ざりあう。IVが小粒径で1%、大粒径で5%混在する
2	5YR5/4	にぶい赤褐色	地鉄鉱と思われるにぶい赤褐色の薄層が入り込む



P-40

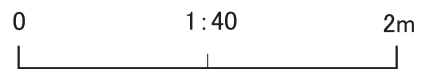


107



P-40土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/3	黒褐色	小粒径のIVが5%混在
2	10YR5/6	明黄褐色	IV主体土に、小粒径のIVが1%、中粒径のIIが20%混在



図III-68 P-39・40

想定する。おおよそ平坦な底面とゆるく外側へ開くように立ち上がる壁面から遺構と判断した。規模的に小型住居の可能性もあったが、深さが浅く、付属遺構のないことから土坑と判断した。

覆土 II～IV層が混ざりあったものが主体である。IV層が散点的に混ざり込む事から埋め戻しの可能性もある。

遺物 II群b類土器2点、Uフレイク1点、フレイク11点、扁平打製石器1点、礫8点が出土した。礫は拳大の垂角礫で、土坑中央よりやや東側にまとまって出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-40 (図III-68 図版40)

位置 N6 **立地** 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.74×(0.34)／0.62×(0.36)／0.32m **平面形** 不整な円形で隅丸方形に近い

調査 III層上面にて黒褐色土の堆積を確認した。TP-2を挟んで現代の攪乱が連続していたため、当初は攪乱と判断していた。まず平面形が明瞭だったTP-2を調査後にその壁面に現れた土層断面の観察をもとに土坑を認知した。底面はおおよそ平坦である。壁面はゆるく開きながら立ち上がるが、東側のみ内側にすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。TP-2との新旧は不明である。しかしP-40覆土2層の分布を明瞭に確認できなかったのでTPピットの方が新しい可能性もある。

覆土 覆土はII層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土はII層にIV層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。

遺物 II群b類土器3点、石核1点、頁岩フレイク9点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代のものと考え。(大泰司)

P-41 (図III-69 図版40)

位置 N4 **立地** 標高6.5～7m付近の緩斜面

規模 0.62×0.60／0.64×0.64／0.36m **平面形** 不整な円形

調査 削平されたIV層中で黄橙色～にぶい黄褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はII～IV層が混じり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。

遺物 フレイク5点が散点的に出土した。 **時期** 確認状況から縄文時代と考える。

(大泰司)

P-42 (図III-69 図版40)

位置 M5 **立地** 標高6.5～7m付近の緩斜面

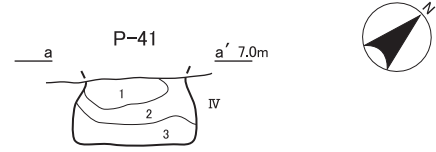
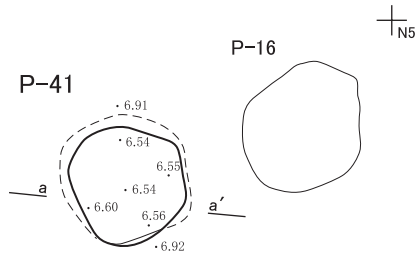
規模 0.48×0.48／0.80×0.76／0.56m **平面形** 不整な円形

調査 削平されたIII層中にて暗～明黄褐色土の堆積を確認した。中央はややくぼむが、ほぼ平坦な底面と、すぼまるように立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土の上半分はII～IV層が混ざりあった土に、下半分はII層主体土に、それぞれ塊状のIV層が混在する。埋め戻しの可能性がある。確認面の覆土1層は削平時にずれてきた土の可能性がある。

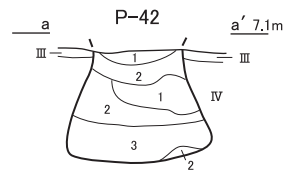
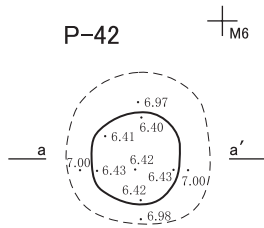
遺物 II群b類土器片4点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)



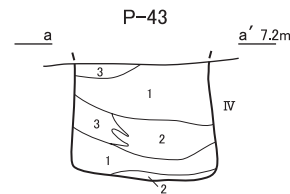
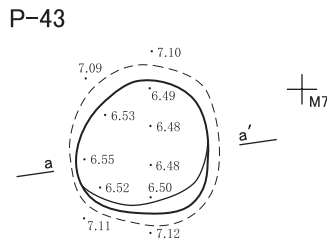
P-41土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/8	黄褐色	IVが塊状に入り込んだもの
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	II~IVが混ざりあう。IVが小~中粒径で5%混じる
3	10YR2/2	黒褐色	II主体でIVが中粒径で1%混じる



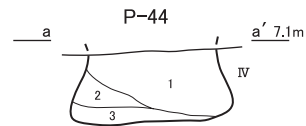
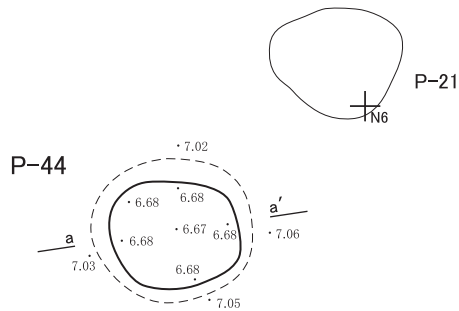
P-42土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/6	明黄褐色	塊状になったIV
2	10YR3/3	暗褐色	II+IV 小~大粒径の斑状
3	10YR3/2	黒褐色	II主体



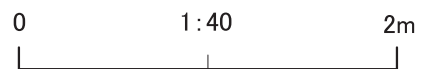
P-43土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/8	明黄褐色	塊状のIV
2	10YR3/2	黒褐色	II~IVがよく混じり合う
3	10YR3/2	黒褐色	2層に中粒径のIV1%混じる



P-44土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/8	明黄褐色	小~大粒径のIVが詰まった土層



図III-69 P-41~44

P-43 (図Ⅲ-69 図版40)

位置 L 6 / M 6 立地 標高 7 ~ 7.5m 付近の緩斜面
規模 0.70×0.68 / 0.88×0.76 / 0.60m 平面形 不整な円形
調査 削平されたⅣ層中にて明黄褐色土の堆積を確認した。浅く窪むが、およそ平坦な底面と内側にややすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆土 覆土はⅣ層主体の明黄褐色土とⅡ層主体の黒褐色土によって構成される。埋め戻しの可能性がある。
遺物 フレイク 8 点が散点的に出土した。 時期 確認状況から縄文時代と考える。
(大泰司)

P-44 (図Ⅲ-69 図版40)

位置 N 5 立地 標高 7 ~ 7.5m 付近の緩斜面
規模 0.68×0.56 / 0.86×0.76 / 0.36m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて明黄褐色土の広がりとして検出した。おおよそ平坦な底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆土 覆土は塊状のⅣ層によって構成される。底面直上にはⅡ層主体の黒色土が分布する。埋め戻しの可能性もある。
遺物 礫 1 点が出土した。 時期 確認状況から縄文時代と考える。
(大泰司)

P-45 (図Ⅲ-70 図版41)

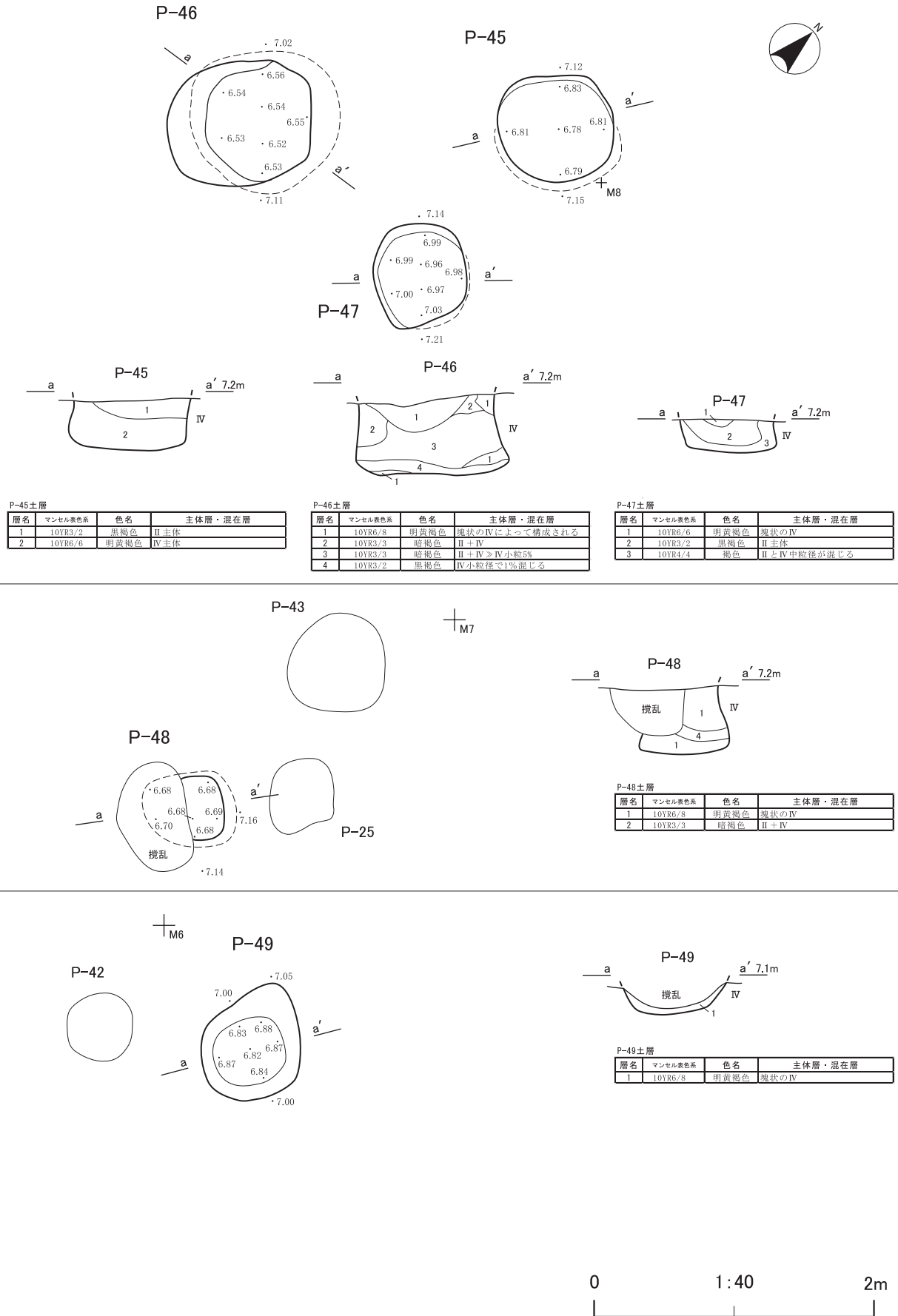
位置 L 7 · L 8 / M 7 立地 標高 7 ~ 7.5m 付近の緩斜面
規模 0.82×0.76 / 0.84×0.78 / 0.36m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中で黒褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、おおむね内側にすぼまる壁面を持つ。北西壁のみゆるく外側に開く。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆土 覆土は上部がⅡ層主体、下半はⅣ層主体である。埋め戻しの可能性がある。
遺物 Ⅱ群b類土器 1 点、スクレイパー 1 点、フレイク 16 点が散点的に出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。
(大泰司)

P-46 (図Ⅲ-70 図版41)

位置 L 7 / M 7 立地 標高 7 ~ 7.5m 付近の緩斜面
規模 1.02×0.84 / 1.06×1.04 / 0.56m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて環状をした暗褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。壁面南側のみ開口部が外側に開く
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。底面には黒褐色土が分布する。埋め戻しの可能性がある。開口部の覆土 1 層については、削平時にずれてきたⅣ層の可能性がある。
遺物 Ⅱ群b類土器 1 点、フレイク 9 点が出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。
(大泰司)

P-47 (図Ⅲ-70 図版41)

位置 M 7 立地 標高 7.0 ~ 7.5m 付近の緩斜面



図III-70 P-45~49

規 模 0.74×0.66/0.66×0.66/0.24m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 削平されたⅣ層中にて褐～黒色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、ほぼまっすぐ立ち上がる壁面を持つ。壁はおおむねゆるやかに外側にひろがるように立ち上がるが、一部東側は内側にややすぼまる。
覆 土 覆土は上部がⅡ層主体、下部はⅡ層とⅣ層が混在している。最上部の塊状に入り込むⅣ層は削平時に入り混んだ可能性がある。
遺 物 Ⅱ群b類土器3点、フレイク29点が散点的に出土した。
時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)

P-48 (図Ⅲ-70 図版41)

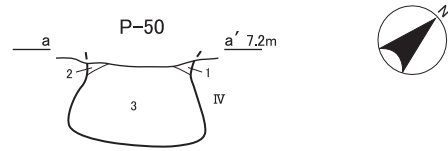
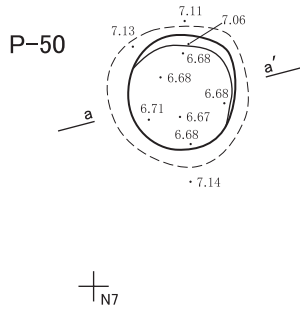
位 置 M6 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面
規 模 0.56×0.44/0.64×0.54/0.48m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 削平されたⅣ層中にて暗黄褐色土の堆積を確認した。南西側は攪乱によって無くなっている。中央が浅く窪むが、およそ平坦な底面と内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆 土 覆土南西側は攪乱により不明であるが、覆土は塊状のⅣ層によって構成され、間にⅡ層主体の土が入り込む。埋め戻しの可能性がある。
遺 物 フレイク2点出土した。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-49 (図Ⅲ-70 図版41)

位 置 M6 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面
規 模 0.72×0.70/0.52×0.48/0.22m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 削平されたⅣ層中にて攪乱を検出した。遺物の有無を確認していたところ、暗黄褐色土の堆積が認められた。およそ平坦な底面と、外側にゆるく開きながら立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆 土 覆土上半部は攪乱により不明である。残った下半部の覆土は塊状のⅣ層によって構成される。埋め戻しの可能性がある。
遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

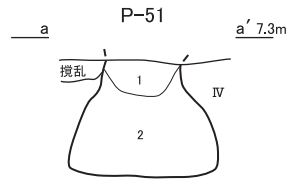
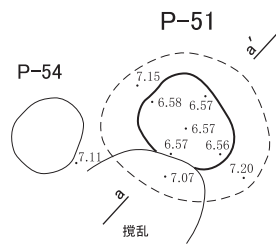
P-50 (図Ⅲ-71 図版41)

位 置 M7 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面
規 模 0.60×0.56/0.72×0.76/0.42m 平 面 形 不整な円形
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。ややくぼむがおおよそ平坦な底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆 土 覆土は開口部際あたりに塊状のⅣ層や、Ⅱ～Ⅳ層がよく混じり合った土が分布するが、ほとんどがⅡ層主体土で構成される。それには微量のⅣ層が、散点的に混じる。埋め戻しの可能性もある。
遺 物 Ⅱ群b類土器3点、頁岩フレイク5点が散点的に出土した。
時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)



P-50土層

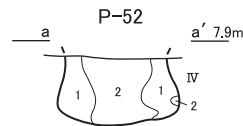
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/8	明黄褐色	塊状のIV
2	10YR4/6	褐色	II~IVが混ざり皿に色調が似る。IVが小粒径で25%混じる
3	10YR3/2	黒褐色	IVが小粒径で1%混じる



P-51土層

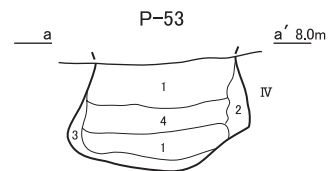
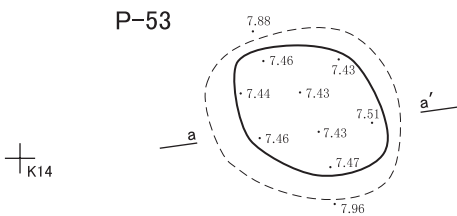
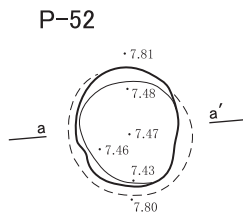
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	IVが小粒径で1%混じる
2	10YR3/3	暗褐色	II+IV小粒径で5%

K13



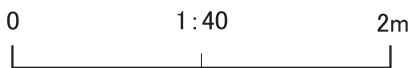
P-52土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	IVが小粒径で1%混じる
2	10YR3/3	暗褐色	II+IV小粒径で5%



P-53土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR4/4	褐色	II~IVがよく混ざりあい、根によるものか黒色土が混ざり込む。小~中粒径のIVが15%混じる。空むしまる
2	10YR6/8	明黄褐色	大粒径のIV粒間に1層が入り込んだ土層



図III-71 P-50~53

P-51 (図Ⅲ-71 図版41)

位置 N6・M6 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面
規模 0.52×0.44/0.86×0.76/0.60m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中に、黒褐色土の堆積を確認した。平坦な底面と、内側にすぼまる形状の壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。開口部南側は木根と思われる攪乱で破壊されている。
覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層の混じり合った土によって構成される。開口部付近はⅡ層主体で、大半はⅡ層とⅣ層の混在土である。壁面際には崩落したⅣ層が分布する。埋め戻しの可能性がある。
遺物 スクレイパー1点、Uフレイク1点、石核1点、フレイク10点、礫1点が出土した。
時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-52 (図Ⅲ-71 図版41)

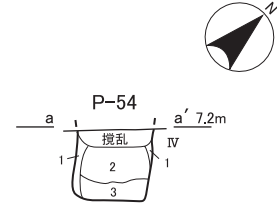
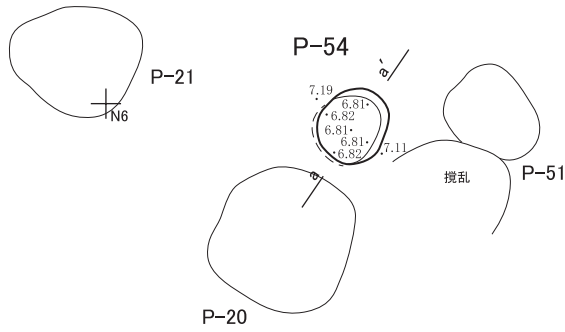
位置 K13 立地 標高7.5～8m付近の緩斜面
規模 0.62×0.52/0.60×0.66/0.36m 平面形 不整な円形
調査 削平されたⅣ層中で褐色土の堆積を確認した。底面は中央が浅くくぼむ。壁面は内側にすぼまるが、北壁のみ一か所外側に開く。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混在した土層から成る。壁面付近の覆土は斑状のⅣ層によって構成される。埋め戻しの可能性がある。
遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-53 (図Ⅲ-71 図版42)

位置 J14/K14 立地 標高7.5～8m付近の緩斜面
規模 0.92×0.64/1.08×0.90/0.58m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面は中央がくぼむ。壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混在した土層から構成される。底面から壁面付近にかけての覆土はⅡ層主体土に斑状のⅣ層によって構成される。壁面際の一部には壁面の崩落と思われるⅣ層が塊状に入り込む。埋め戻しの可能性がある。
遺物 Ⅱ群b類土器小片が1点出土した。
時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)

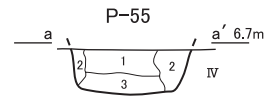
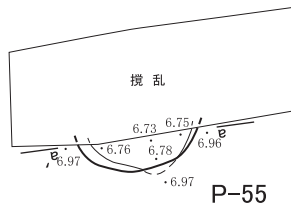
P-54 (図Ⅲ-72 図版42)

位置 M6/N6 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面
規模 0.38×0.36/0.36×0.34/0.40m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中に攪乱土層を確認した。遺物回収を目的に攪乱を掘り下げたところ、黒褐色土の堆積を確認した。平坦な底面と、まっすぐに立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層の混じり合った土によって構成される。上半分はⅡ層主体。下半分はⅡ層とⅣ層の混在土である。壁面際には崩落したⅣ層が分布する。埋め戻しの可能性がある。
遺物 フレイク2点、礫4点が散点的に出土した。
時期 確認状況から縄文時代のものと考え。 (大泰司)



P-54土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR6/8	明黄褐色	塊状のIV
2	10YR3/2	黒褐色	IVが小粒径で1%混じる
3	10YR3/3	暗褐色	II+IV IV大粒径で5%混じる

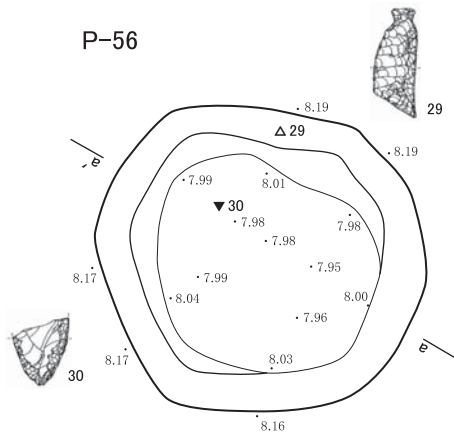


P-55土層

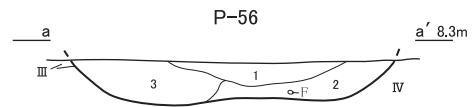
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR5/6	黄褐色	IVが塊状に入り込んだもの
2	10YR3/1	黒褐色	II主体で小～中粒径のIVが2%混じる
3	10YR5/4	にぶい黄褐色	II～IVが混ざりあう

05

P-56



T23



P-56土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR4/6	褐色	II～IVが混ざりあう。IVが小粒径で5%混在する
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	II～IVが混ざりあう。IVが小粒径で7%混在する

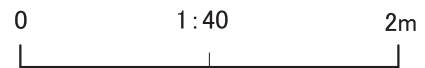
- 覆土底面
- ○ 土器
 - ▲ △ 石器
 - ▼ ▽ フレイク
 - □ 礫

P-57



P-57土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	壤土	中	堅	II・III>IV小粒径



図III-72 P-54~57

P-55 (図Ⅲ-72 図版42)

位置 N4 立地 標高6.5~7 m付近の緩斜面

規模 (0.64) × (0.16) / (0.56) × (0.12) / 0.24m 平面形 不整な楕円形?

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土~黄褐色土の堆積を確認した。西側の半分以上は攪乱によって破壊されている。底面は浅くくぼみ、壁面はゆるく開きながら立ち上がるが、東部分のみ内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-56 (図Ⅲ-72 図版42)

位置 T22 立地 標高8 m付近の緩斜面

規模 1.74×1.50/1.16×1.06/0.24m 平面形 六角形に近い不整な円形

調査 Ⅳ層上面にて褐色~にぶい黄褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面とすり鉢状に立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土に、Ⅳ層が小粒径で散点的に混じる事から、埋め戻しの可能性がある。

遺物 つまみ付きナイフ1点、フレイク1点出土した。つまみ付きナイフはゆるやかな壁面の直上から出土し、坑底面直上とも言い得る。石器の端部は切り出し状であり、縄文時代早期後半の足形付土板に伴うつまみ付きナイフに似る。当該期に定型的な可能性がある。また、覆土の底面に近い位置から黒曜石フレイクが出土した。近隣に黒曜石の産地はなく、意図的に埋めた可能性もある。

時期 縄文時代早期後半の土坑墓の可能性はある。(大泰司)

P-57 (図Ⅲ-72 図版42)

位置 N7/O7 立地 標高9 m付近の緩斜面

規模 0.45×0.39/0.32×0.27/0.14m 平面形 不整な円形

調査 Ⅳ層面で小型円形の黒色土の堆積を確認した。北側を半截し、皿状の底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。

覆土 Ⅱ層起源の黒色土主体で、Ⅳ層パミスが少量混じる。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-58 (図Ⅲ-73 図版42)

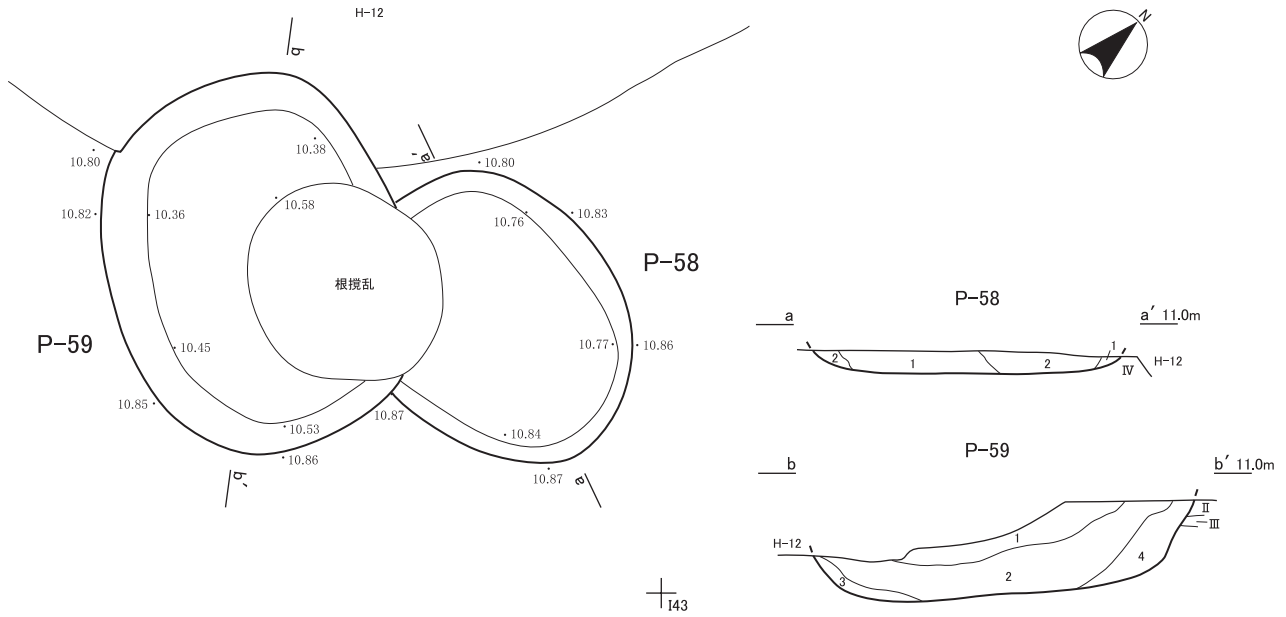
位置 H42 立地 標高10.9m付近の緩斜面。P-59に切られる。

規模 1.63×1.33/1.42×1.09/0.13m 平面形 楕円形

調査 H-12調査中、南東壁際に楕円形の黒褐色・暗褐色土の堆積が2つ重なるように確認された。遺構の切りあいが予想されたため、それぞれの長軸に土層観察ベルトを設定するとともに、堆積が重なる部分にもベルトを設定して掘り下げた。平坦な底面と穏やかに立ち上がる壁を確認し、土坑と判断した。また西側の堆積は土坑P-59であった。切りあいの先後関係は抜根跡で不明瞭だが、覆土断面の状況から本遺構がP-59に西側角を切られているものと考えられる。

覆土 黒褐色土と暗褐色層が互層となる。いずれもⅡ層黒色土とⅣ層黄褐色土の混合土である。

遺物 I群b類土器1点、II群b類土器3点、フレイク10点、礫2点出土した。

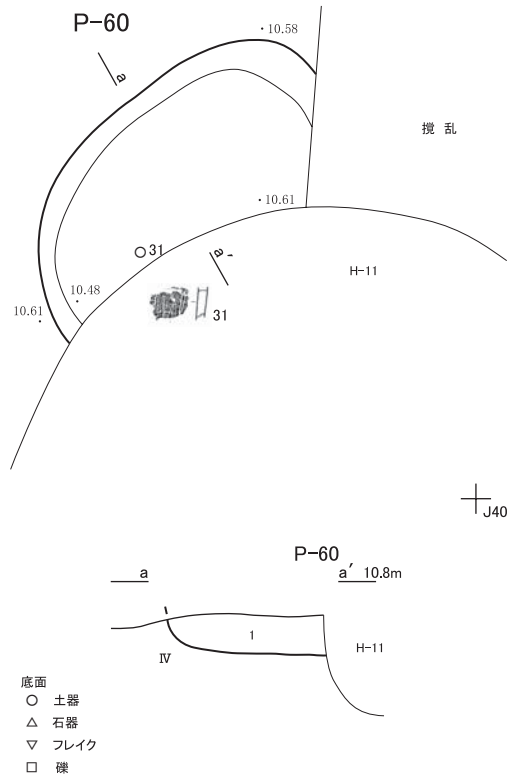


P-58土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	壤土	中	堅	II・III+IV
2	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II・III > IV

P-59土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II > IV
2	10YR3/2	黒褐色	壤土	中	堅	II・III+IV小粒径
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	壤土	中	堅	III > IV
4	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II > IV

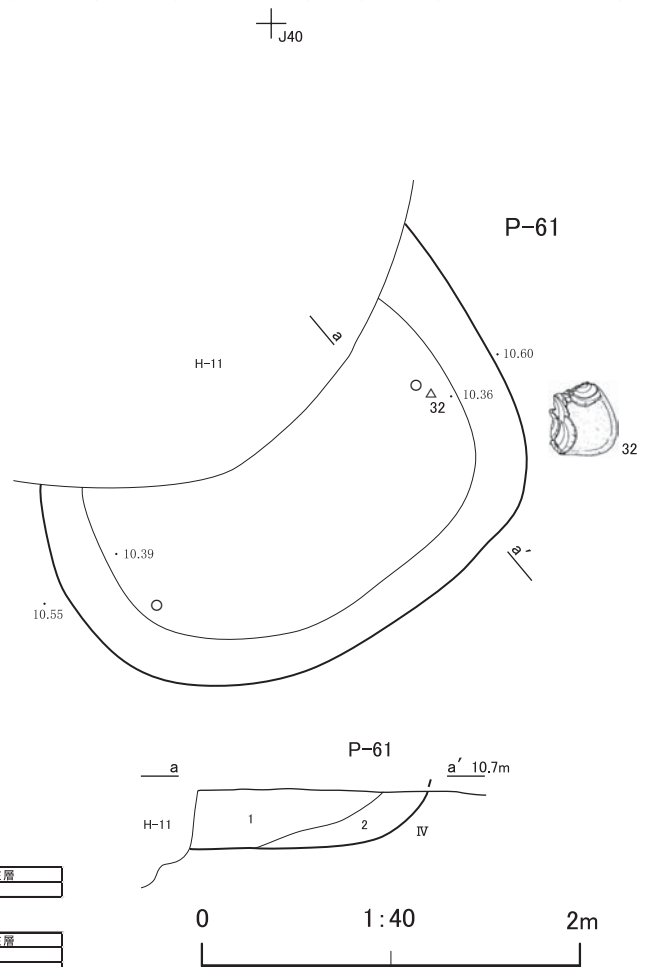


P-60土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	強	堅	II + III

P-61土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	強	堅	III
2	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	堅	II > III



図III-73 P-58~61

時 期 出土遺物から縄文時代と考える。H-12より新しい。(愛場)

P-59 (図Ⅲ-73 図版42)

位 置 H42 立 地 標高10.9m付近の緩斜面

規 模 1.96×1.57/1.62×1.18/0.52m 平 面 形 楕円形

調 査 H-12調査中、南東壁際に楕円形の黒褐色・暗褐色土の堆積が2つ重なるように確認された。遺構の切りあいが予想されたため、それぞれの長軸に土層観察ベルトを設定するとともに、堆積が重なる部分にもベルトを設定して掘り下げた。抜根跡が残り、底面もやや不整であったため風倒木の可能性も考えたが、斜めに立ち上がる壁を確認し、土坑と判断した。また東側のP-58との先後関係は抜根跡で不明瞭だが、覆土断面の状況から本遺構がP-58より新しく構築されたと考える。

覆 土 4層に分層した。覆土2は遺物が多く出土し、炭化材が多く含まれていた。

遺 物 II群b類土器63点、スクレイパー4点、Uフレイク2点、フレイク33点、たたき石1点、台石1点、礫23点が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。H-12・P-58より新しい。(愛場)

P-60 (図Ⅲ-73 図版43)

位 置 I 39 立 地 標高約10.8mの平坦面

規 模 1.94×1.62/(1.10)×(0.96)/0.22m 平 面 形 楕円形?

調 査 H-11調査中、西側壁に長さ約1.5m、深さ約20cmの暗褐色土の落ち込みの断面を確認した。平面の輪郭を精査し、ベルトを設定して掘り下げたところ、平坦な坑底面と壁の立ち上がりを確認した。東側をH-11に切られている。

覆 土 暗褐色土の1層である。

遺 物 遺物は坑底面からII群b類土器片が1点出土した。覆土からはI群b類土器2点、II群b類土器7点、フレイク5点、扁平打製石器片1点、礫4点が出土した。

時 期 出土遺物と類似するP-61の特徴から、縄文時代前期後半と考える。(新家)

P-61 (図Ⅲ-73 図版43)

位 置 J 39・40 立 地 標高約10.8mの平坦面

規 模 2.58×2.00/(1.90)×(1.40)/0.32m 平 面 形 楕円形?

調 査 H-11調査中、東側壁に長さ約2m、深さ約30cmの暗褐色土の落ち込みの断面を確認した。平面の輪郭を精査し、ベルトを設定した。P-60よりもやや大きめの土坑で、平坦な坑底面とゆるやかな壁の立ち上がりを持つ。西側をH-11に切られている。

覆 土 2層に分層した。両層とも堅くしめる。覆土1層はIII層を含む暗褐色土、壁際に堆積する。覆土2層は1層よりやや黒味を帯びた黒褐色土である。

遺 物 坑底からII群b類土器2点、フレイク1点、覆土からII群b類土器31点、石核1点、フレイク126点、礫3点が出土した。

時 期 出土遺物から、縄文時代前期後半と考える。(新家)

P-62 (図Ⅲ-74 図版43)

位 置 K43 立 地 標高10.5~11m付近の緩斜面

規 模 0.78×0.66/0.52×0.42/0.14m 平 面 形 不整な楕円形
 調 査 削平されたⅣ層中で黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
 覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
 遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-63 (図Ⅲ-74 図版43)

位 置 K43 立 地 標高10.5~11m付近の緩斜面
 規 模 0.76×0.72/0.70×0.64/0.14m 平 面 形 不整な円形
 調 査 削平されたⅣ層中で黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
 覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土で、覆土下半は上半よりやや褐色味がかっている。自然堆積と考える。
 遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-64 (図Ⅲ-74 図版43)

位 置 K43 立 地 標高10.5~11m付近の緩斜面
 規 模 0.50×0.44/0.44×0.36/0.08m 平 面 形 不整な楕円形
 調 査 削平されたⅣ層中で黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
 覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
 遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-65 (図Ⅲ-74 図版43)

位 置 I44 立 地 標高10.5~11m付近の緩斜面
 規 模 0.56×0.44/0.48×0.40/0.24m 平 面 形 不整な楕円形
 調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。当初攪乱と誤認したため土層断面図は無い。
 覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。自然堆積と考える。
 遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-66 (図Ⅲ-74 図版43)

位 置 I44 立 地 標高10.5~11m付近の緩斜面
 規 模 0.68×0.62/0.50×0.40/0.24m 平 面 形 不整な楕円形
 調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の広がりとして検出した。底面は中央がややくぼむ。壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。当初攪乱と誤認。覆土上半分について、土層断面図は無い。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。自然堆積と考える。
遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-67 (図Ⅲ-74 図版43)

位置 I 44 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
規模 0.62×0.54/0.50×0.48/0.22m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面は中央にくぼみを有するがおおよそ平坦である。壁面は東側が外側に開きながら立ち上がり、西側が内側へすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。当初攪乱と判断したため、覆土上部について、土層断面図は無い。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-68 (図Ⅲ-74 図版43)

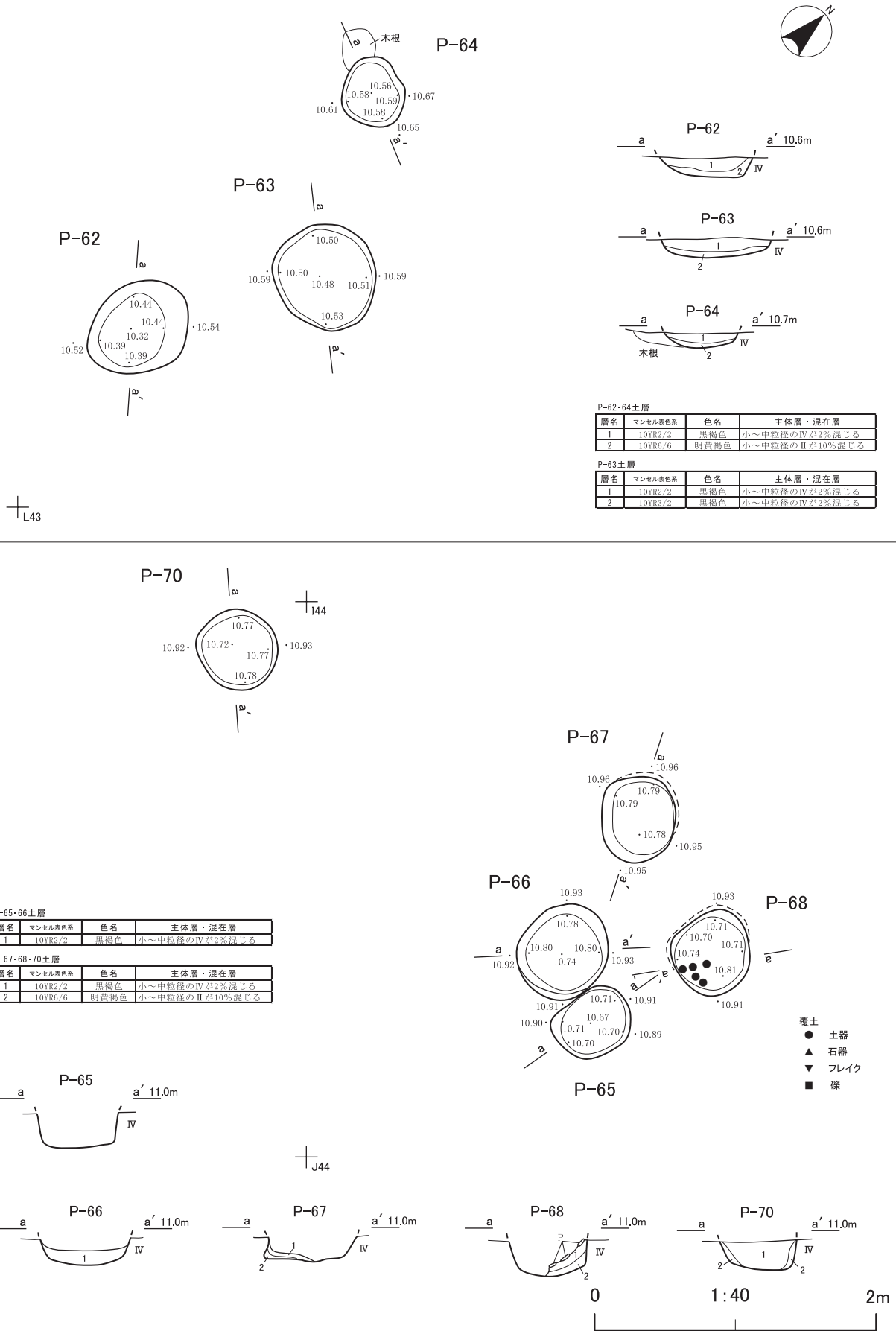
位置 I 44 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
規模 0.58×0.54/0.50×0.48/0.22m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の広がりとして検出した。底面はくぼむ。壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。当初攪乱と判断したため、覆土上部について、土層断面図は無い。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土は、Ⅱ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
遺物 I群b-4類土器が12点出土した。
時期 確認状況から縄文時代早期後半と考える。 (大泰司)

P-69 (図Ⅲ-75 図版43)

位置 H41 立地 標高10.8m付近の緩斜面
規模 0.66×0.52/0.59×0.59/0.33m 平面形 不整な円形
調査 Ⅳ層面で小型円形の黒色土の堆積を確認した。南側を半截し、平坦な底面とややオーバーハングする壁の立ち上がりを検出した。
覆土 Ⅱ層起源の黒色土で、Ⅳ層パミスが少量混じる。
遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

P-70 (図Ⅲ-74 図版43)

位置 I 43 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
規模 0.60×0.56/0.50×0.48/0.20m 平面形 不整な円形
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はくぼむ。壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。壁面側の覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
遺物 安山岩礫が1点出土した。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)



図III-74 P-62～68・70

P-71 (図Ⅲ-75 図版43)

位置 K39 立地 標高約10.5mの平坦面
規模 0.75×0.44/0.54×0.32/0.15m 平面形 楕円形
調査 H-11の東側包含層を調査中、径70cmほどの黒色土の堆積を確認した。半截し、断面を観察した。平坦な坑底と緩やかに立ち上がる壁を検出した。
覆土 覆土は黒色土の1層で、堅くしまる。
遺物 覆土からI群b-4類土器片4点、フレイク1点が出土した。
時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺には同規模の土坑P-70・72~79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-72 (図Ⅲ-75 図版43)

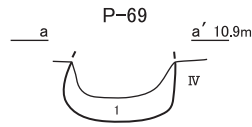
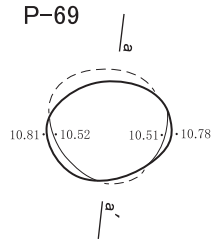
位置 J40 立地 標高約10.8mの平坦面
規模 0.59×0.34/0.52×0.30/0.12m 平面形 楕円形
調査 H-11とH-7の間の包含層を調査中、径60cm程の黒褐色土の堆積を確認した。半截し、平坦な坑底と緩やかに立ち上がる壁を検出した。
覆土 黒褐色土の1層で、堅くしまる。
遺物 坑底からI群b類土器片が1点出土した。
時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺には同規模の土坑P-71・73~79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-73 (図Ⅲ-75 図版44)

位置 J40・41/K41 立地 標高約10.6mの平坦面
規模 0.61×0.43/0.48×0.30/0.12m 平面形 楕円形
調査 H-11とH-7の間の包含層を調査中、径60cm程の黒色土の堆積を確認した。半截し、丸みを持つ坑底と緩やかに立ち上がる壁を検出した。
覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。
遺物 I群b類土器片5点、スクレイパー2点が出土した。
時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺には同規模の土坑P-71・72・74~79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-74 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 M40 立地 標高約10.2mの平坦面
規模 0.66×0.51/0.53×0.43/0.27m 平面形 楕円形
調査 調査区南東側の壁際で径60cm程の黒色土の堆積を確認した。半截し、やや傾斜があり丸みを持つ坑底と明瞭に立ち上がる壁を検出した。
覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。
遺物 遺物は出土しなかった。
時期 周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71~73・75~79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

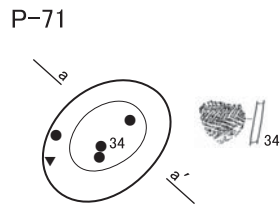


P-69土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
I	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II ⇒ IV 小粒徑

┆
┆ I42

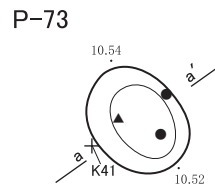
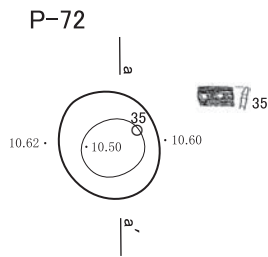
┆
┆ K39



P-71土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
I	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II

┆
┆ J41



P-72土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
I	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	堅	II

P-73土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
I	10YR2/1	黒色	埴壤土	強	堅	II

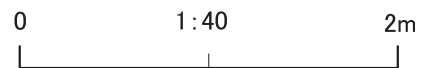
覆土 底面

● ○ 土器

▲ △ 石器

▼ ▽ フレイク

■ □ 礫



図III-75 P-69・71~73

P-75 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 L40 立地 標高 約10.2mの平坦面

規模 0.58×0.44/0.55×0.38/0.22m 平面形 円形

調査 調査区南東側の壁際で径60cm程の黒色土の堆積を確認した。半截し、平坦な坑底と明瞭に立ち上がる壁を検出した。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。 遺物 I群b類土器片が1点出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71~74・76~79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。 (新家)

P-76 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 L40 立地 標高約10.2mの平坦面

規模 0.53×0.37/0.43×0.30/0.35m 平面形 楕円形

調査 調査区南東側の壁際で径50cm程の黒褐色土の堆積を確認した。半截し、丸みのある坑底と明瞭に立ち上がる壁を認定した。

覆土 黒褐色土の1層と、やや赤味を帯びた焼けの弱い焼土のような2層である。

遺物 遺物は出土していない。

時期 周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71~75・77~79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。 (新家)

P-77 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 L40 立地 標高 約10.3mの平坦面

規模 0.58×0.75/0.54×0.68/0.33m 平面形 楕円形

調査 調査区南東側の壁際で径60cmほどの黒色土の堆積を確認した。半截し、やや丸みのある坑底と、オーバーハングしながら明瞭に立ち上がる壁を認定した。小規模のフラスコ状土坑と思われる。

覆土 黒色土の1層で堅くしまる。

遺物 坑底からI群b類土器片が1点出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71~76・78・79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。 (新家)

P-78 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 L40 立地 標高 約10.3mの平坦面

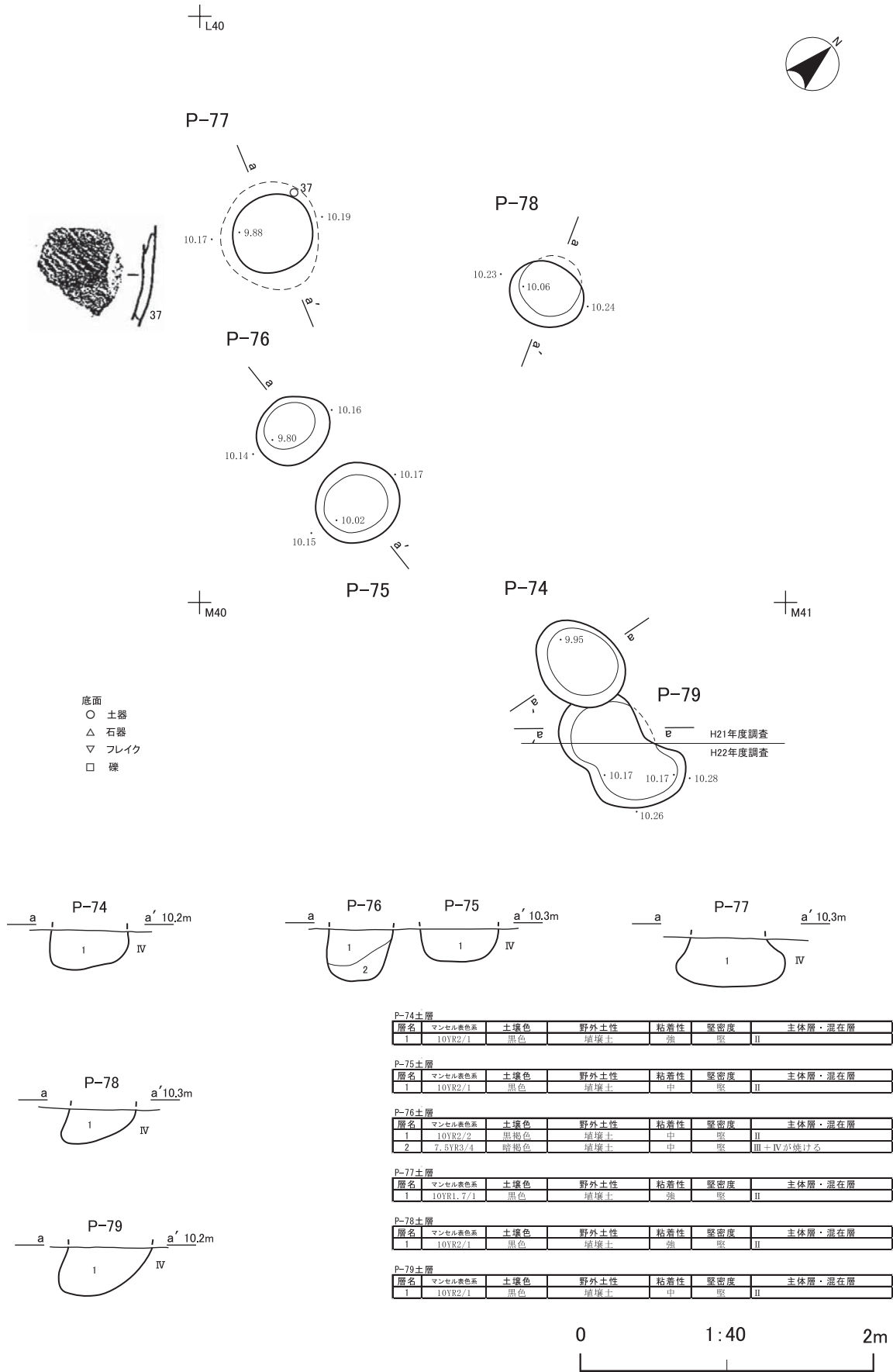
規模 0.52×0.43/0.43×0.41/0.22m 平面形 楕円形

調査 調査区南東側の壁際で径50cmほどの黒色土の堆積を確認した。東側がややオーバーハングし、坑底は傾斜する。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。

遺物 I群b類土器片22点、フレイク1点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71~77・79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。 (新家)



図III-76 P-74~79

P-79 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 M40 立地 標高 約10.3mの平坦面
規模 0.93×0.54/0.79×0.48/0.34m 平面形 不整形
調査 年度別調査区界にあったため平成20年度・21年度の2か年で調査した。IV層で黒色土～黒褐色土の堆積を確認した。断面は北側がややオーバーハングし、坑底は傾斜する。
覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。 遺物 I群b-4類土器片が1点出土した。
時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71～78があり、時期・性格の似た土坑と思われる。 (新家・大泰司)

P-80 (図Ⅲ-77 図版44)

位置 J43/K43 立地 標高10.7m付近の緩斜面
規模 (0.52)×0.55/(0.42)×0.4/0.2m 平面形 不整な円形
調査 IV層面で円形の黒色土の堆積を確認した。南西側を半截し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を認定した。土坑南西側の立ち上がりは攪乱で壊されている。
覆土 II層起源の黒色土主体で、IV層が少量混じる。
遺物 遺物は出土していない。 時期 周辺の土坑から縄文時代早期後半と考える。 (愛場)

P-81 (図Ⅲ-77 図版44)

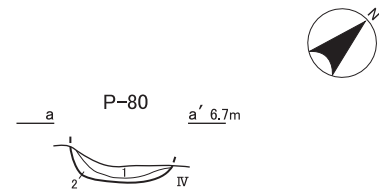
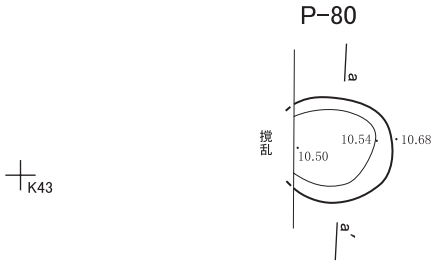
位置 J43 立地 標高10.8m付近の緩斜面
規模 0.55×(0.25)/0.37×(0.13)/0.08m 平面形 不整な円形?
調査 IV層面で黒色土の堆積を確認した。攪乱により南西半分が破壊されており、攪乱断面に皿状の土坑断面がみられた。残りの半分の掘り下げた。
覆土 II層起源の黒色土主体で、IV層が少量混じる。
遺物 遺物は出土していない。 時期 周辺の土坑から縄文時代早期後半と考える。 (愛場)

P-82 (図Ⅲ-77 図版45)

位置 L42/M42 立地 標高10.5m付近の緩斜面
規模 0.64×0.54/0.64×0.52/0.15m 平面形 不整な楕円形
調査 IV層面で円形の黒色土の堆積を確認した。北西側を半截し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を確認した。
覆土 II層起源の黒色土で、下部はIV層パミスが多く混じる。
遺物 遺物は出土していない。 時期 周辺の土坑から縄文時代早期後半と考える。 (愛場)

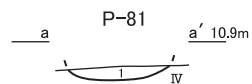
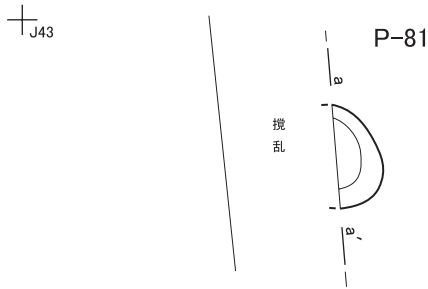
P-83 (図Ⅲ-77 図版45)

位置 K42 立地 標高10.5m付近の緩斜面
規模 0.71×0.53/0.49×0.35/0.19m 平面形 楕円形
調査 IV層面で楕円形の黒色土の堆積を確認した。南側を半截し、平坦な底面と斜めに立ち上がる



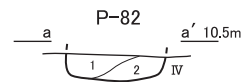
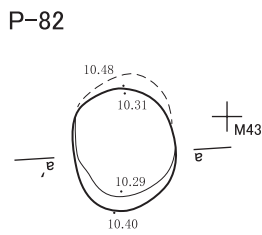
P-80土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > IV
2	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > IV



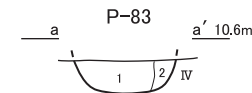
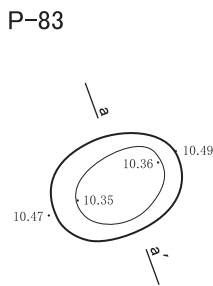
P-81土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > IV



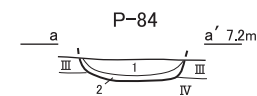
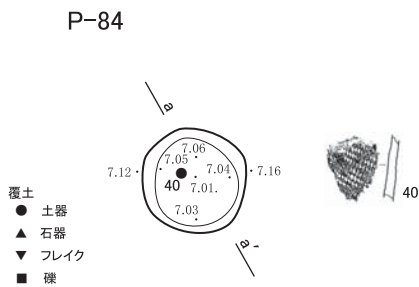
P-82土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > IV 小粒径
2	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > IV



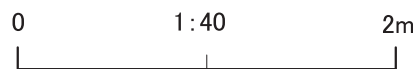
P-83土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > IV
2	10YR3/4	暗褐色	埴壤土	中	堅	II+III+IV



P-84土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/3	暗褐色	IIIが小～中粒径で1%混じる
2	10YR3/1	黒褐色	IIIが小～中粒径で5%混じる



図III-77 P-80~84

る壁を確認した。

覆 土 2層に分層した。壁際に一部暗褐色土がみられる他は、Ⅱ層起源の黒色土である。
遺 物 遺物は出土していない。 時 期 周辺の土坑から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-84 (図Ⅲ-77 図版45)

位 置 T13 立 地 標高7~7.5m付近の緩斜面
規 模 0.56×0.56/0.46×0.44/0.12m 平 面 形 不整な楕円形、隅丸の六角形に近い
調 査 削平されたⅢ層中、暗褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、ゆるやかに外側にひらく壁面を持つ。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体の土にⅢ層が混じる。自然堆積の可能性が高い。
遺 物 I群b-1類土器が1点出土した。
時 期 確認状況から縄文時代早期後半と考える。(大泰司)

P-85 (図Ⅲ-78 図版45)

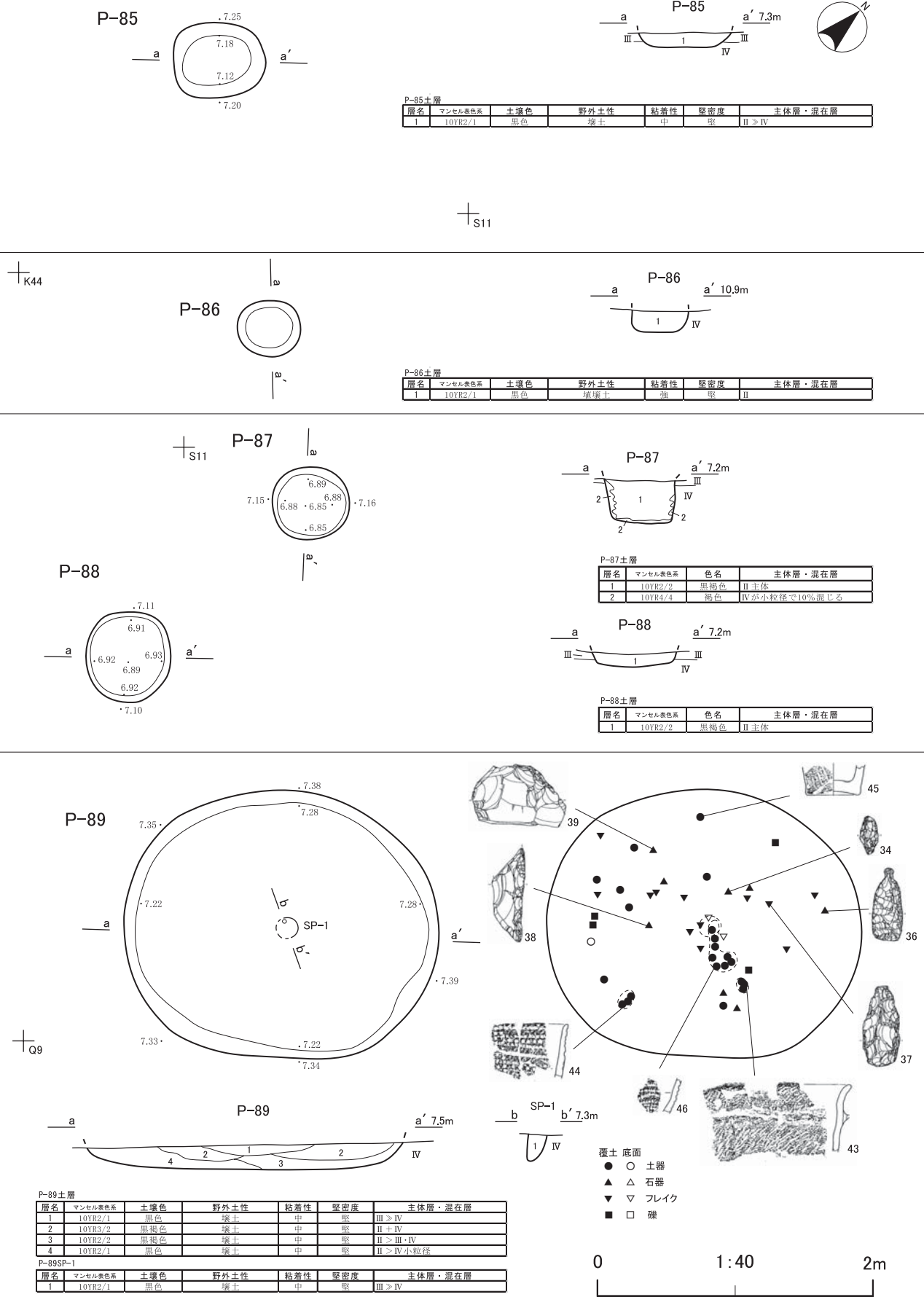
位 置 R10 立 地 標高7.3m付近の緩斜面
規 模 0.67×0.55/0.49×0.36/0.1m 平 面 形 不整の円形
調 査 IV層面で円形の黒色土の堆積を確認した。半截し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。
覆 土 Ⅱ層起源の黒色土である。 遺 物 Ⅱ群b類土器が1点出土した。
時 期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-86 (図Ⅲ-78 図版45)

位 置 K44 立 地 標高約11mの平坦面
規 模 0.46×0.32/0.41×0.30/0.17m 平 面 形 円形
調 査 調査区北東側で径50cm程の黒色土の堆積を確認した。掘り込みは浅いが、坑底は平坦で壁は明瞭に立ち上がる。
覆 土 黒色土の1層で、堅くしまる。 遺 物 遺物は出土していない。
時 期 周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑が複数あり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-87 (図Ⅲ-78 図版45)

位 置 S11 立 地 標高7~7.5m付近の緩斜面
規 模 0.56×0.54/0.48×0.44/0.32m 平 面 形 不整な円形
調 査 削平されたⅢ層中で黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面はほぼまっすぐに立ち上がり、ゆるく外側へ開く。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。
遺 物 I群b-4類土器が2点出土した。
時 期 確認状況から縄文時代早期以降と考える。(大泰司)



図III-78 P-85~89

P-88 (図Ⅲ-78 図版45)

位置 S10 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面
規模 0.66×0.62/0.58×0.54/0.10m 平面形 不整な円形
調査 削平されたⅢ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面は中央が浅くくぼみ、壁面はほぼまっすぐに立ち上がり、ゆるく外側へ開く。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。自然堆積の可能性はある。
遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-89 (図Ⅲ-78 図版45)

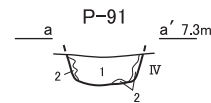
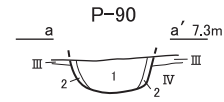
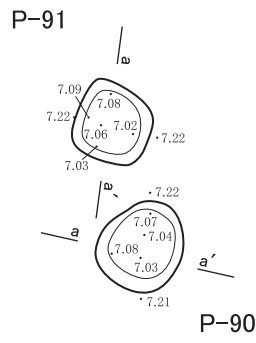
位置 P9/Q9 立地 標高7.4m付近の緩斜面
規模 2.29×1.95/2.12×1.77/0.21m 平面形 不整の楕円形
調査 削平されたⅣ層面で楕円形の黒色~黒褐色土の堆積を確認した。長軸中央に土層観察ベルトを残し、全体を掘り下げた。平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。長径2.3m程の比較的大型の土坑である。底面中央には径13cmの柱穴があり、先端形状は尖る。
覆土 4層に分層した。層界は不明瞭だが、Ⅱ層起源の黒色土と黒褐色土の互層となる。
遺物 遺物は566点出土した。Ⅱ群a類土器2点、Ⅱ群b類土器310点、フレイク214点の他、石鏃、つまみ付きナイフ、筥状石器、スクレイパー、たたき石、扁平打製石器などがある。
時期 出土遺物から縄文時代前期後半の可能性はある。 (愛場)

P-90 (図Ⅲ-79 図版46)

位置 Q10/R10 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面
規模 0.50×0.46/0.36×0.34/0.18m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅢ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。壁面付近の覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
遺物 遺物は出土しなかった。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-91 (図Ⅲ-79 図版46)

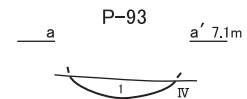
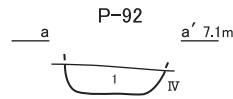
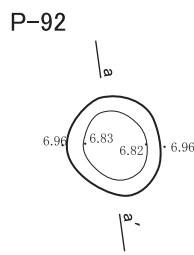
位置 Q10 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面
規模 0.40×0.40/0.30×0.30/0.14m 平面形 不整な円形、隅丸方形に近い
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。壁面付近の覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
遺物 フレイク4点が出土した。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)



⊕R11

P-90・91土層

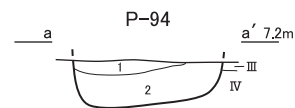
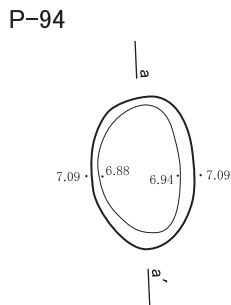
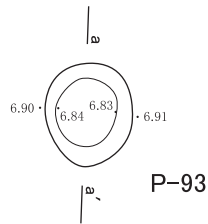
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/3	黒褐色	II主体
2	10YR4/4	褐色	II > IV



P-92・93土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II > IV

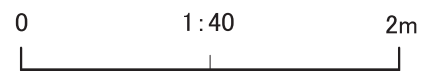
⊕T9



P-94土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	壤土	中	堅	II > IV
2	10YR3/4	暗褐色	壤土	中	堅	II + III・IV

⊕S8



図III-79 P-90~94

P-92 (図Ⅲ-79 図版46)

位置 S9 立地 標高7m付近の緩斜面、P-93・94と近接する。
規模 $0.53 \times 0.48 / 0.32 \times 0.29 / 0.16\text{m}$ 平面形 不整の円形
調査 IV層面で円形の黒褐色土の堆積を確認した。南西側を半截し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。
覆土 II層起源の黒色土にIV層が少量混じる。
遺物 I群b類土器3点、フレイク1点、礫1点が出土した。
時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。 (愛場)

P-93 (図Ⅲ-79 図版46)

位置 S9 立地 標高7m付近の緩斜面、P-92・94と近接する。
規模 $0.56 \times 0.46 / 0.36 \times 0.32 / 0.12\text{m}$ 平面形 不整の円形
調査 IV層面で円形の黒褐色土の堆積を確認した。南西側を半截し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。
覆土 II層起源の黒色土にIV層が少量混じる。 遺物 遺物は出土していない。
時期 周辺のP-92と規模・形状が似ており、縄文時代早期後半と考える。 (愛場)

P-94 (図Ⅲ-79 図版46)

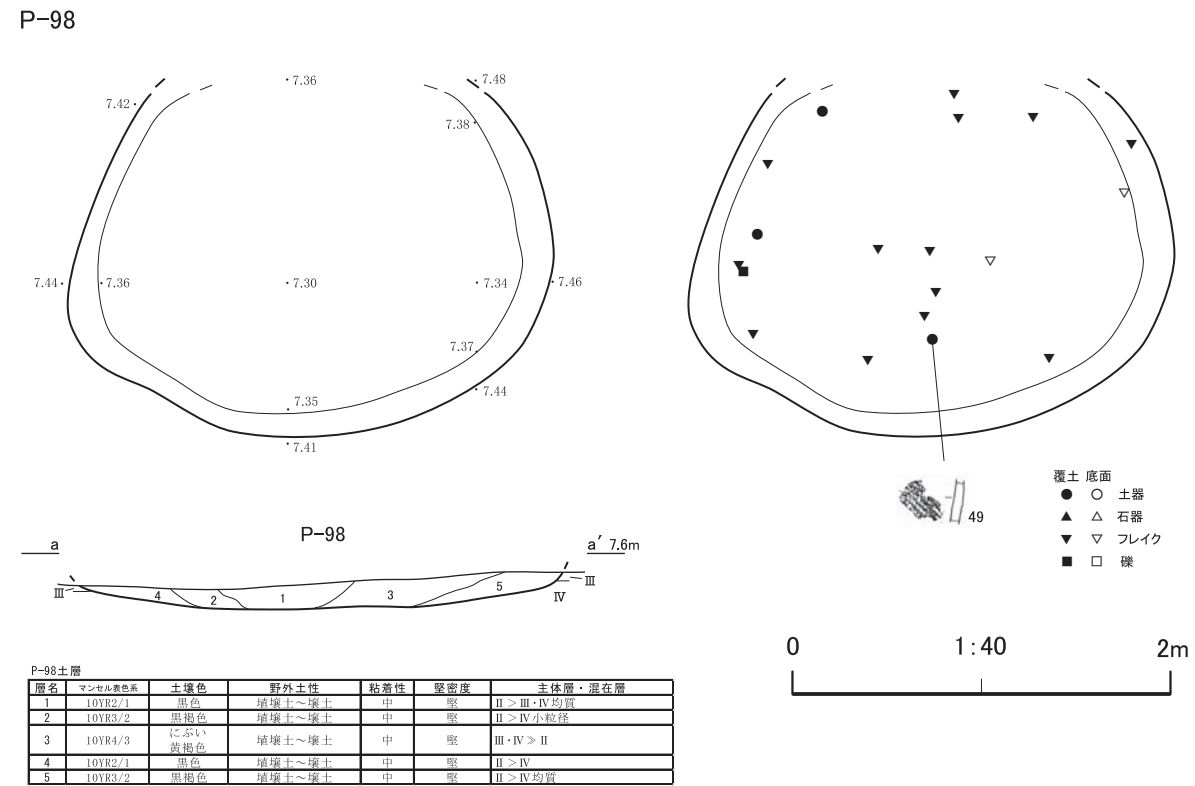
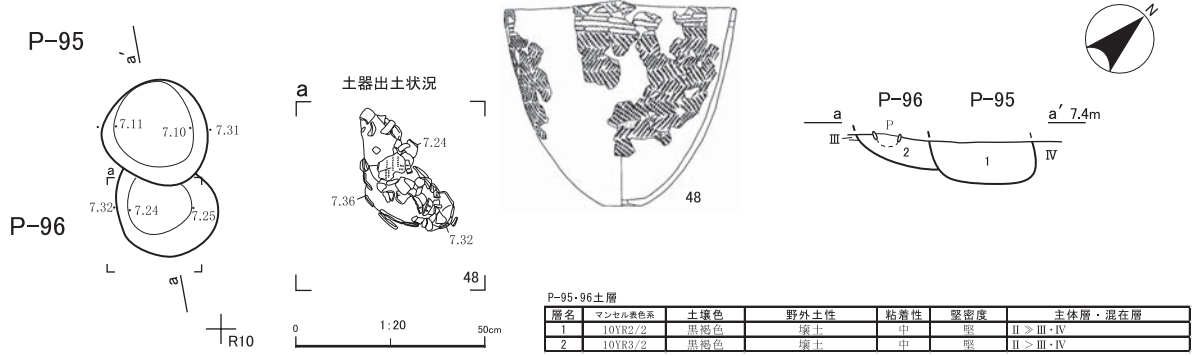
位置 R7 立地 標高7m付近の緩斜面、P-92・93と近接する。
規模 $0.81 \times 0.54 / 0.68 \times 0.43 / 0.26\text{m}$ 平面形 不整楕円形
調査 IV層面で楕円形の黒色土の堆積を確認した。長軸南側を半截し、平坦な底面と急角度で立ち上がる壁を検出した。
覆土 2層に分層した。上部がII層起源の黒色土、下部がII・III層とIV層が混じる暗褐色土である。覆土2は人為的な埋め戻し土の可能性がある。
遺物 I群b-3類土器1点、フレイク4点が出土した。
時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。 (愛場)

P-95 (図Ⅲ-80 図版46)

位置 Q9 立地 標高7.3m付近の緩斜面、P-96が隣接する。
規模 $0.57 \times 0.49 / 0.34 \times 0.28 / 0.18\text{m}$ 平面形 不整の円形
調査 IV層面で楕円形の黒色土の堆積から土器がまとまって出土した。土器のまとまりを記録し、土器を残して長軸北側を半截した。土層観察から2つの土坑があることがわかり、西側をP-95、土器のまとまり側をP-96とした。本土坑がP-96を切って構築している。
覆土 II層起源の黒色土にIV層が少量混じる。
遺物 I群b-4類土器9点、フレイク3点、礫1点が出土した。
時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。 (愛場)

P-96 (図Ⅲ-80 図版46)

位置 Q9 立地 標高7.3m付近の緩斜面。P-95が隣接する。
規模 $0.57 \times 0.36 / 0.49 \times 0.28 / 0.18\text{m}$ 平面形 不整の円形



図III-80 P-95~98

調査 IV層面で楕円形の黒色土の堆積から土器がまとまって出土した。土器のまとまりを記録し、土器を残して長軸北側を半截した。斜めに立ち上がる壁を確認し、土層からP-95によって本遺構の北西側が切られていることがわかった。

覆土 II層起源の黒色土にIV層が少量混じる。

遺物 I群b-4類土器が横倒しに潰れて(324点)出土した(図III-115-46)。他に石核1点、フレイク2点がある。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-97(図III-80 図版46)

位置 R8 立地 標高7m付近の緩斜面

規模 $0.26 \times 0.24 / 0.22 \times 0.22 / 0.22\text{m}$ 平面形 不整な円形。隅丸方形に近い

調査 III層にて灰黄褐色土の広がりを確認した。底面はおおよそ平坦である。壁面はまっすぐ立ち上がるが東側のみやや内側にすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はIV層主体土である。開口部付近に礫が並んでいた。埋め戻しの可能性がある。

遺物 覆土上部に安山岩のすり石1点と礫1点とが並んで出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-98(図III-80 図版46)

位置 P11/Q11 立地 標高7.5m付近の緩斜面

規模 $2.58 \times (1.86) / 2.23 \times (1.63) / 0.2\text{m}$ 平面形 不整の楕円形

調査 III層調査中、黒色土とにぶい黄褐色土が斑状に混じる楕円形の堆積を検出した。長軸中央に土層観察ベルトを設定し、全体を掘り下げた。平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁を確認し、規模から土坑と判断した。

覆土 5層に分層した。南側はII層起源の黒色土主体土で、北側はIV層起源の黄褐色土主体土層となっている。

遺物 II群b類土器3点、Uフレイク1点、フレイク27点、礫30点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半の可能性はある。(愛場)

P-99(図III-81 図版47)

位置 T9 立地 標高6.9m付近の緩斜面

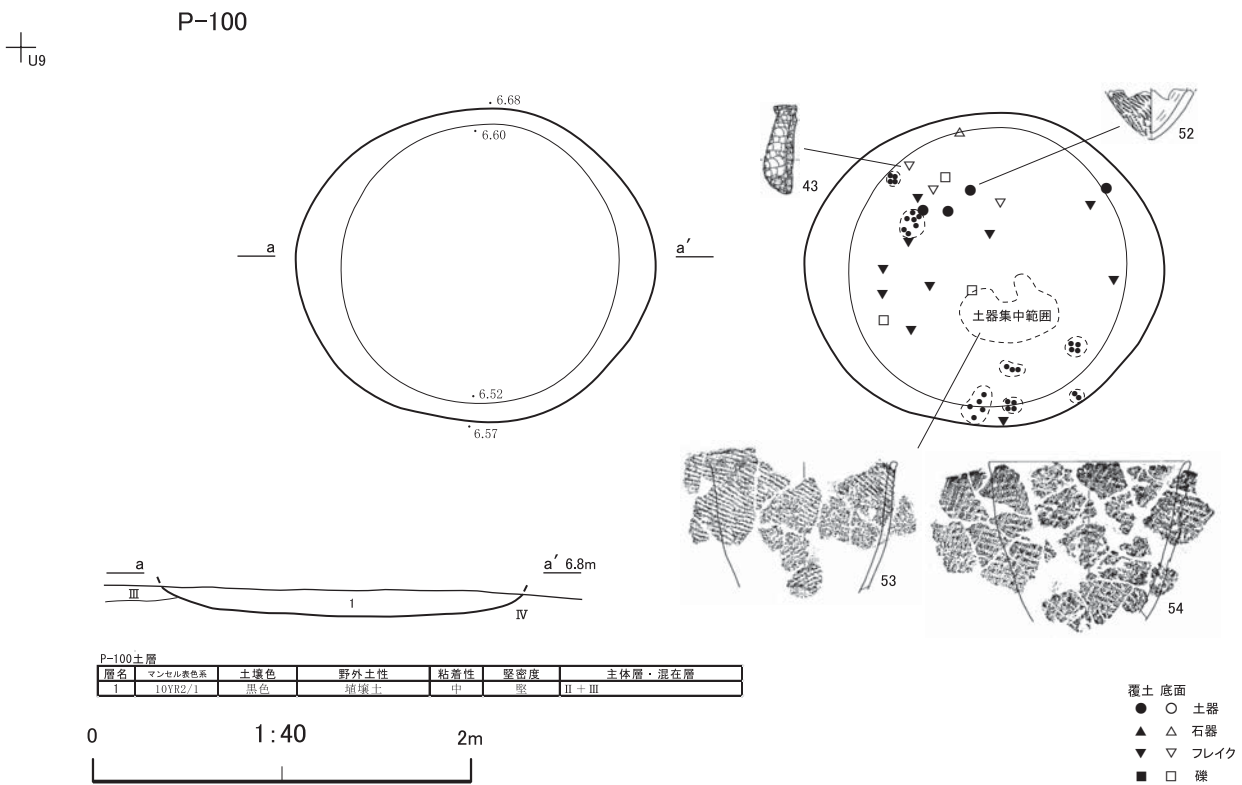
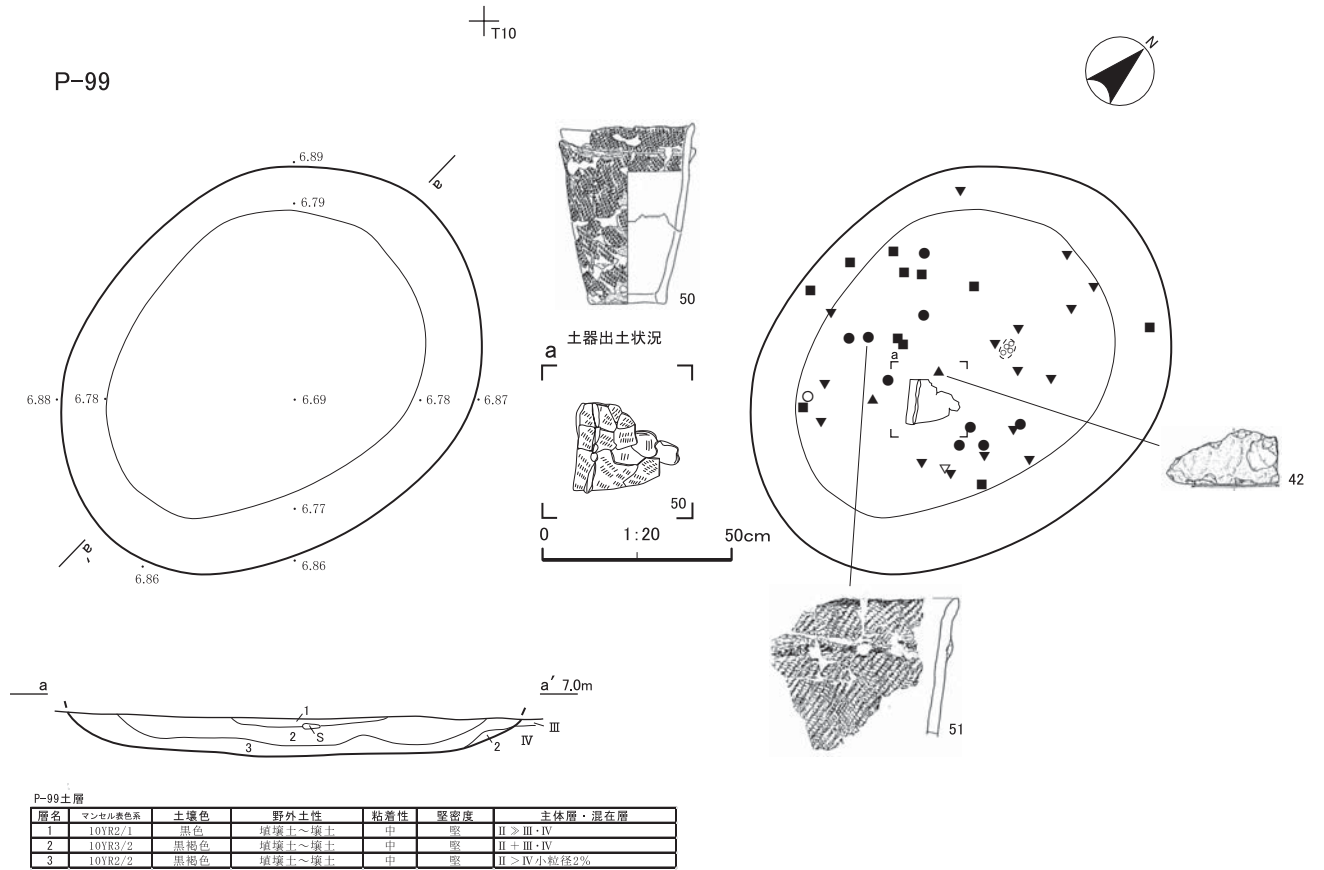
規模 $2.43 \times 1.89 / 1.82 \times 1.40 / 0.24\text{m}$ 平面形 楕円形

調査 III層調査中、黒色土・褐色土が斑状に混じる楕円形の堆積を確認した。長軸中央に土層観察ベルトを設定し、全体を掘り下げた。平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁を確認し、規模から土坑と判断した。

覆土 3層に分層した。最下層は黒褐色土が壁際からはほぼ全面にみられ、その上部に褐色土・黒色土が堆積する。人為的な埋め戻し土の可能性もある。

遺物 II群b類土器194点、フレイク242点、石斧片1点、扁平打製石器1点が出土した。土坑中央やや南側の底面直上からは円筒土器下層b式(図III-115-50)が潰れて出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(愛場)



図III-81 P-99・100

P-100 (図Ⅲ-81 図版47)

位置 U 9 立地 標高 約6.8mの緩斜面
規模 1.90×1.50/1.46×1.48/0.14m 平面形 円形
調査 調査区南側の旧河道に向かって傾斜する緩斜面上で、径2 m程の黒色土の堆積を確認した。掘り込みは浅いが、坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。
覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。
遺物 遺物はⅡ群 a 類土器246点、つまみ付きナイフ2点、フレイク77点、礫4点の計329点が出土した。西壁寄りの覆土から尖底部(図Ⅲ-115-52)が出土した。
時期 出土遺物から縄文時代前期前半と考える。(新家)

P-101 (図Ⅲ-82 図版47)

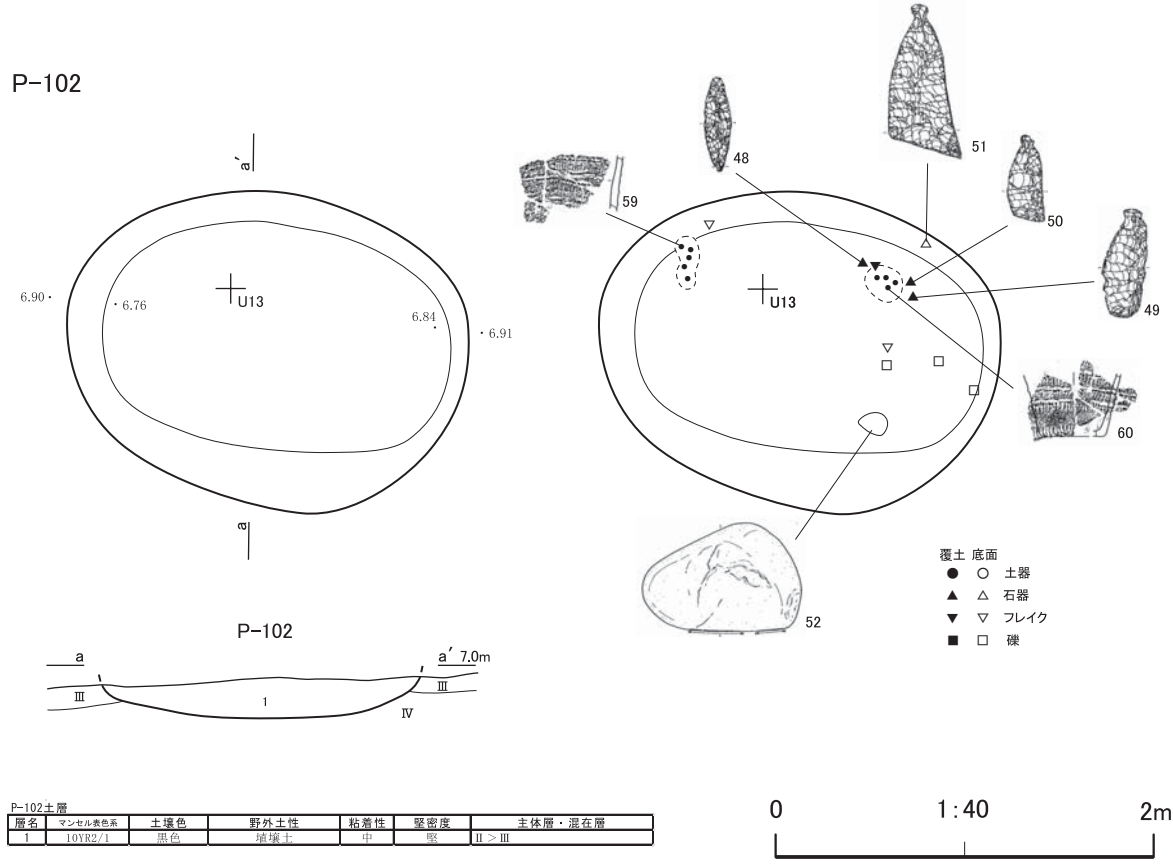
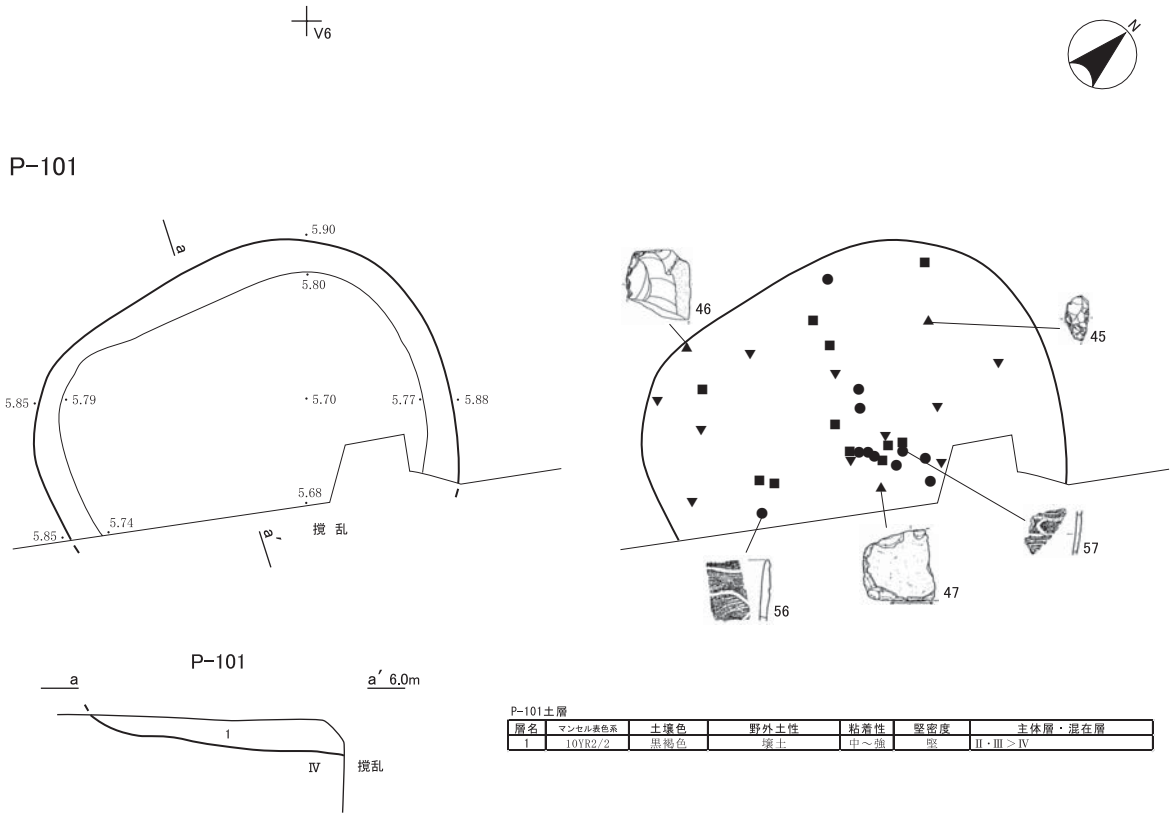
位置 V 5・6 立地 標高5.9m付近の緩斜面
規模 2.26×(1.45)/1.93×(1.28)/0.22m 平面形 不整の円形?
調査 旧河道縁のⅣ層斜面で黒褐色土の堆積を確認した。斜面上部から下部へ向けて土層観察ベルトを設定し、全体を掘り下げた。皿状となる底面と壁を確認した。斜面下の河道側は側溝により壊されている。
覆土 Ⅱ層起源の黒色土にⅣ層が均質に混じる。
遺物 Ⅱ群 b 類土器2点、Ⅳ群 a 類土器12点、石錐1点、スクレイパー1点、フレイク15点、扁平打製石器1点、礫12点が出土した。
時期 出土遺物から縄文時代と考える。(愛場)

P-102 (図Ⅲ-82 図版47)

位置 T12・13/U12・13 立地 標高約7 mの緩斜面
規模 2.14×1.84/1.65×1.20/0.23m 平面形 楕円形
調査 調査区南側の旧河道に向かって傾斜する緩斜面上で、径2 mほどの黒色土の堆積を確認した。掘り込みは浅いが、坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。
覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。
遺物 Ⅰ群 b-3 類土器47点、石錐1点、つまみ付きナイフ3点、フレイク11点、すり石1点、礫3点が出土した。
時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(新家)

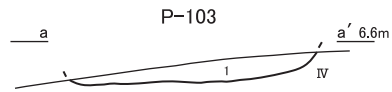
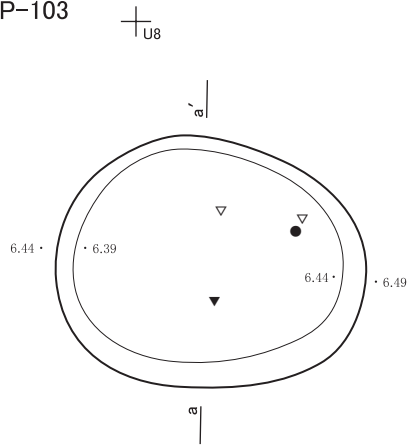
P-103 (図Ⅲ-83 図版47)

位置 U 7・8 立地 標高 約6.6mの緩斜面
規模 1.64×1.43/1.32×1.12/0.12m 平面形 楕円形
調査 調査区南側の旧河道に向かって傾斜する緩斜面上で、径1.5m程の黒色土の堆積を確認した。掘り込みは浅いが、坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。
覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。
遺物 Ⅰ群 b 類土器片1点、フレイク5点が出土した。
時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(新家)



図III-82 P-101・102

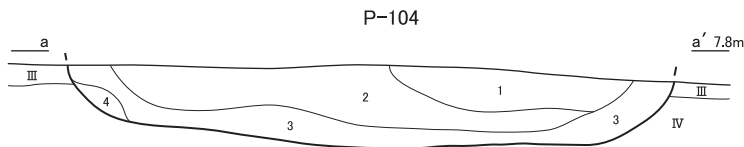
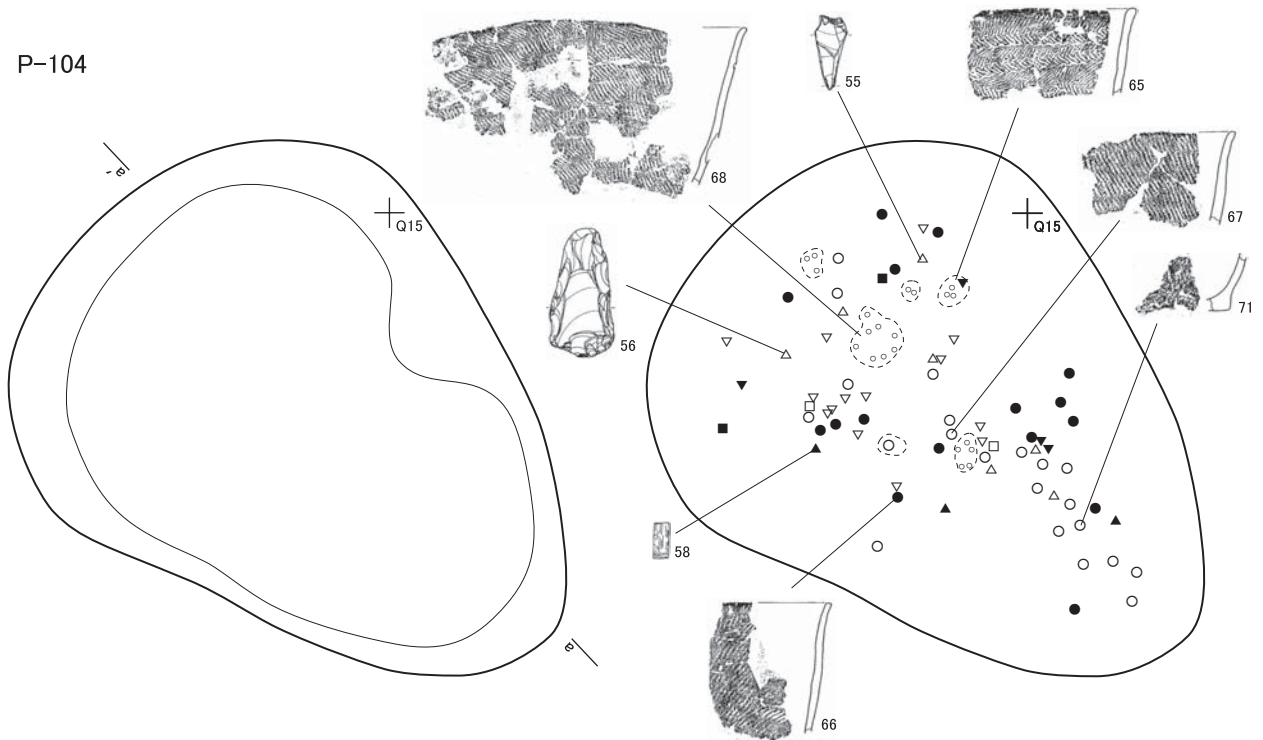
P-103



P-103土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
I	10YR2/1	黒色	埴壤土	中	堅	II > III

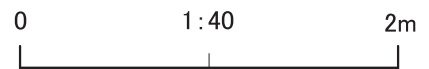
P-104



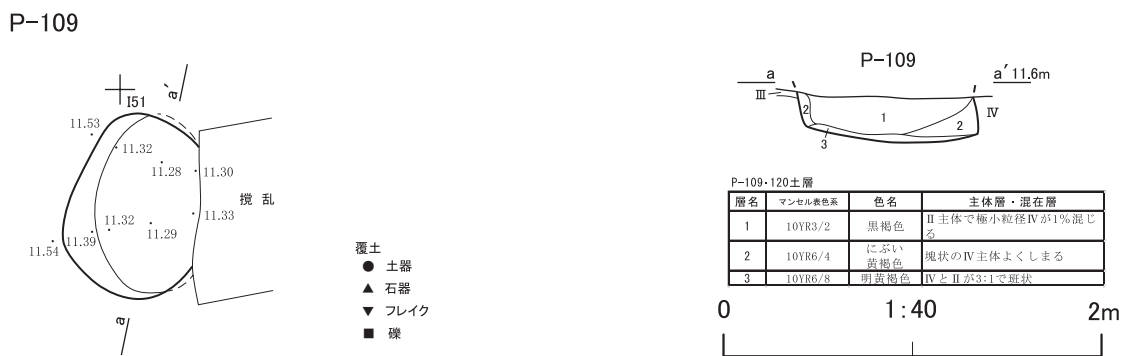
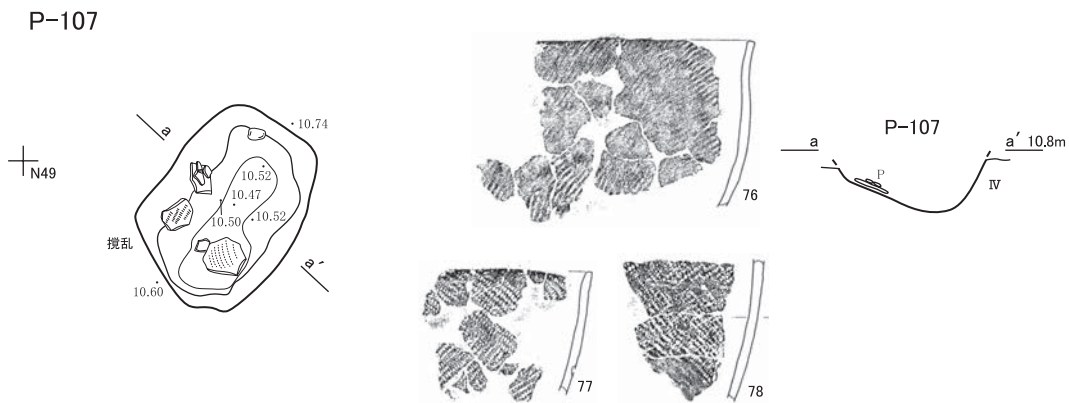
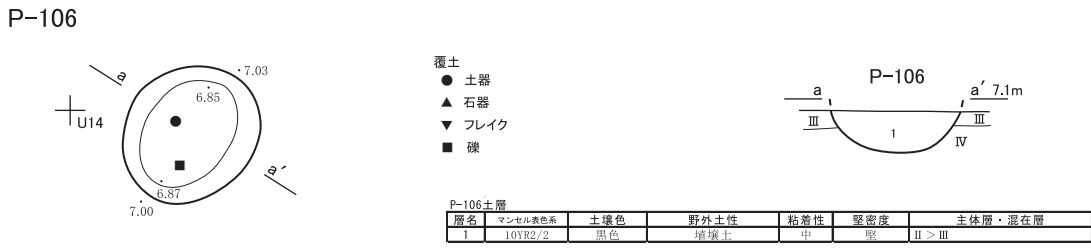
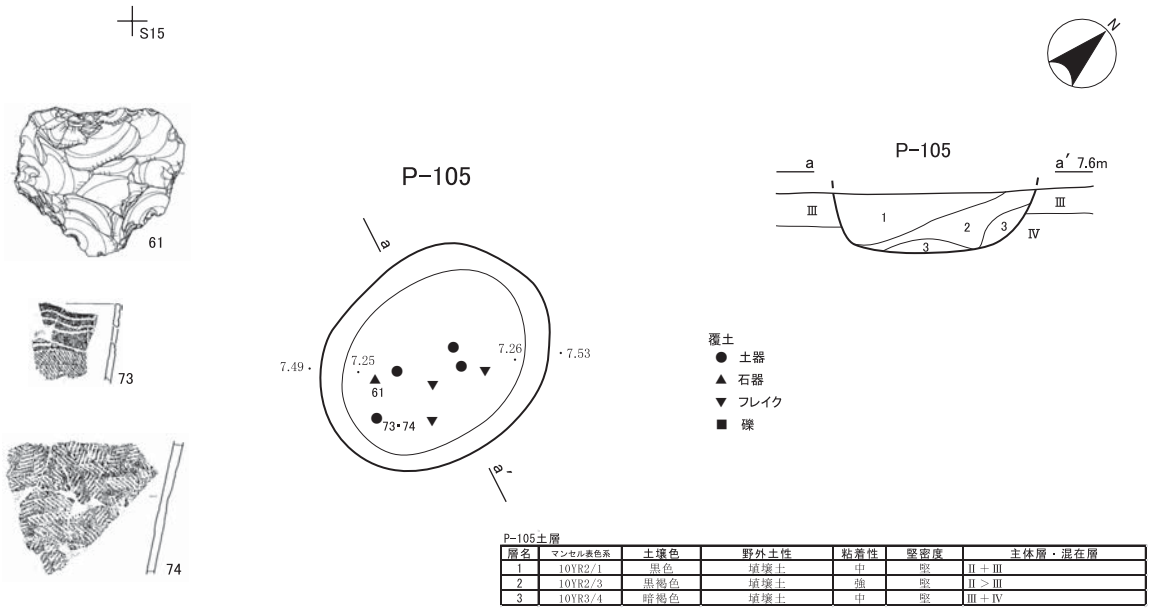
- 覆土 床面
- ○ 土器
 - ▲ △ 石器
 - ▼ ▽ フレイク
 - □ 礎

P-104土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	強	堅	II > III
2	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	中	堅	III > II
3	10YR2/3	黒褐色	埴壤土	強	すこぶる堅	II + III
4	10YR4/3	にぶい	埴壤土	中	堅	IV > III



図Ⅲ-83 P-103・104



図III-84 P-105~107・109

P-104 (図Ⅲ-83 図版47)

位置 P14・15/Q14・15 立地 標高約8mの平坦面

規模 3.24×2.72/2.51×1.94/0.46m 平面形 隅丸三角形?

調査 P・Q14・15付近の包含層調査中、遺物のまとまりと長さ3m程の黒褐色土の堆積を確認した。掘り込みは深いところで50cm程あったと考えられる。平面形は不整形で、壁や坑底は平坦でなく凹凸がある。柱穴や焼土等はなく、住居跡とせずに土坑とした。

覆土 4層に分層した。覆土1～3は黒～暗褐色土で覆土3層は非常に堅くしまる。覆土4層はIV層起源の黄褐色土で堅くしまる。

遺物 I群b-1類土器833点、両面調整石器2点、石錐1点、篋状石器1点、スクレイパー3点、石核1点、フレイク353点、石斧1点、たたき石1点、すり石1点など1,228点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(新家)

P-105 (図Ⅲ-84 図版47)

位置 S15 立地 標高約7.6mの平坦面

規模 1.30×1.08/1.06×0.84/0.33m 平面形 楕円形

調査 S15付近の包含層調査中、径1m程の黒色土の堆積を確認した。半截し、平坦な坑底面と緩やかに立ち上がる壁を検出した。

覆土 3層に分層した。いずれも堅くしまっている。

遺物 I群b-1類土器44点、石核1点、フレイク6点、台石1点、礫25点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(新家)

P-106 (図Ⅲ-84 図版48)

位置 T14/U14 立地 標高約7.2mの緩斜面

規模 0.77×0.62/0.69×0.45/0.22m 平面形 楕円形

調査 調査区南側の旧河道に向かって傾斜する緩斜面上で、径80cm程の黒色土の堆積を確認した。半截し、丸みを帯びる坑底面と緩やかに立ち上がる壁を検出した。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。遺物 I群b類土器片1点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(新家)

P-107 (図Ⅲ-84 図版48)

位置 M49/N49 立地 標高10.5～11m付近の緩斜面

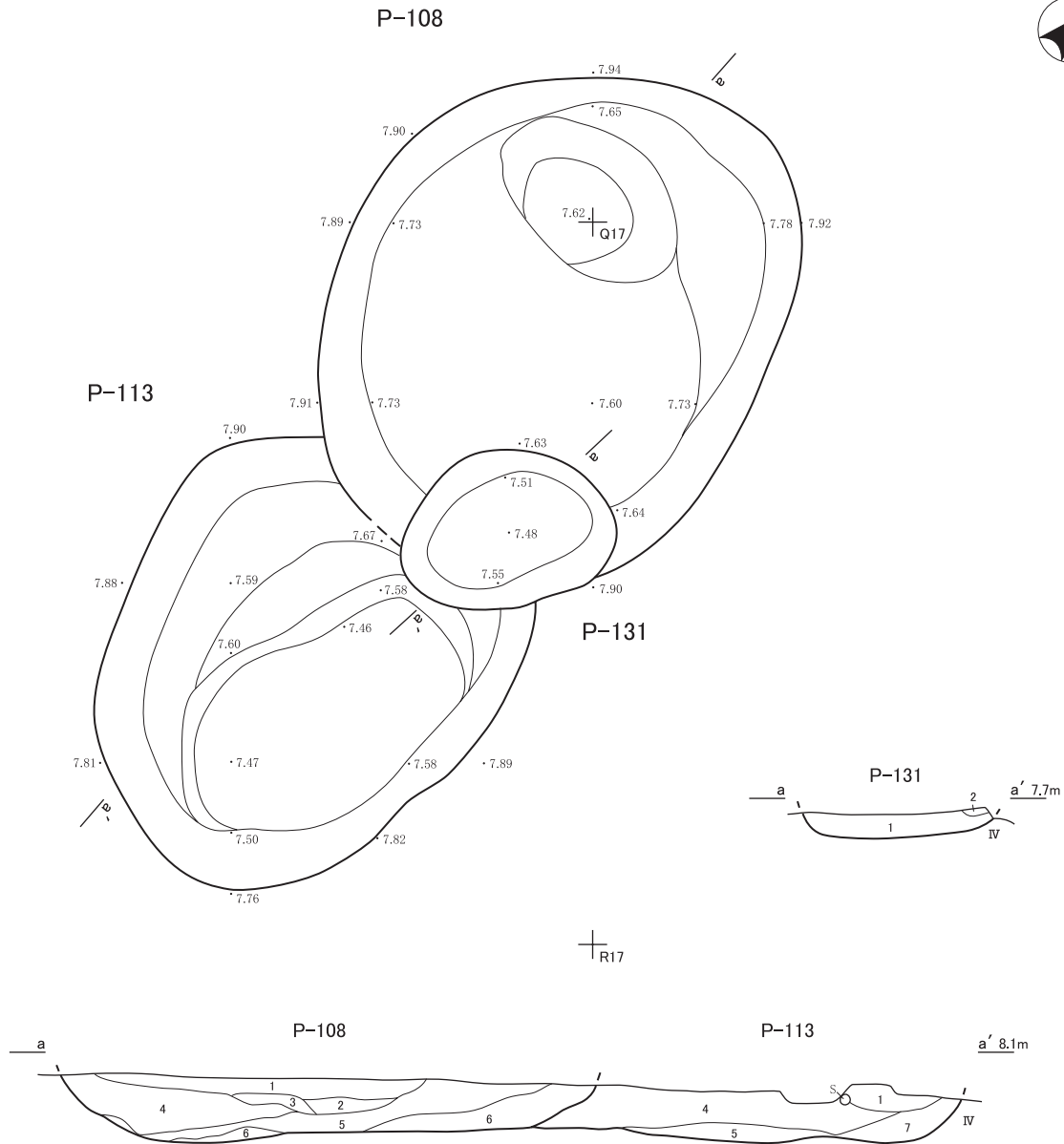
規模 1.08×0.76/0.92×0.42/0.26m及びその周辺4m程 平面形 不整楕円形

調査 削平されたⅢ層中から、褐灰色～黒色土の堆積を確認した。くぼみ底面と、ゆるやかに外側にひらく壁面を持つ。底面と壁面は不明瞭である。くぼみの3か所に遺物がまとまって出土したため、土坑の可能性をもつものとした。しかし、木の根跡のくぼみに土器をまとめて廃棄した可能性が高い。

覆土 覆土はⅡ層主体の土にⅣ層が混じる。自然堆積の可能性が高い。

遺物 Ⅱ群a類土器が3か所で282点まとまって出土したほか、フレイクが5点出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期前半の土器廃棄状況と考える。(大泰司)

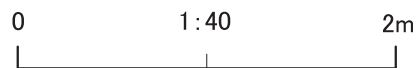


P-108・113土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II > III > IV
2	10YR4/4	褐色	埴壤土～壤土	中	堅	IV > III
3	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II > III・IV
4	10YR3/4	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV 炭化材・遺物多い
5	10YR3/3	暗褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II・III > IV
6	10YR4/4	褐色	埴壤土～壤土	中	堅	IV > III
7	10YR3/2	黒褐色	埴壤土～壤土	中	堅	II > III > IV 斑状

P-131土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	埴壤土～壤土	中	堅	III・IV > II
2	10YR4/4	褐色	埴壤土～壤土	中	堅	III・IV



図III-85 P-108・113・131 (1)

P-108 (図Ⅲ-85・86 図版48)

位置 P16・17/Q16・17 立地 標高7.9m付近の緩斜面。P-113・131が切りあう。
規模 3.05×2.51/2.45×2.05/0.39m 平面形 不整の楕円形
調査 Ⅲ層調査中、遺物がまとまって出土する範囲があった。周辺を精査したところ黒褐色土の楕円形の堆積を確認した。長軸上に土層観察用ベルトを設定し、全体を掘り下げた。遺物は2cm以上のものについて位置を記録して取り上げた。40cm程掘り下げたところで、やや凹凸がある底面と斜めに立ち上がる壁を確認した。また南側には本遺構とは別の落ち込みがあることがわかった。土層観察用ベルトを延長し、土層を確認したところ南側に同規模の土坑P-113が連なるようにあり、本遺構がP-113を切って構築されていることを確認した。

またP-108とP-113の間の底面に黄褐色土の楕円形の堆積がみられ、半截したところ土坑(P-131)であることが判明した。土層観察などから先後関係はP-113→P-108→P-131となる。

覆土 6層に分層した。覆土はⅡ層起源の黒色土とⅣ層黄褐色土が混じる土層で埋め戻しの可能性が高い。

遺物 遺物は2,062点出土した。I群b-1類土器は1,292点出土し、2個体が復原された(図Ⅲ-118-79・80)。ほかに石鏃1点、両面調整石器1点、石錐4点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー19点、石核3点、フレイク683点、石斧1点、たたき石2点、すり石1点、石錘1点などがあり、遺物は土坑全体に分布する。またスクレイパーがH-20の接合資料2と接合した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-113 (図Ⅲ-85・86 図版48)

位置 Q16 立地 標高7.9m付近の緩斜面。P-108・131が切りあう。

規模 (2.56)×2.18/(1.98)×1.73/0.31m 平面形 不整の楕円形

調査 P-108調査中、隣接する南側に遺物が多くみられる暗褐色土の堆積が認められた。

P-108長軸の土層観察用ベルトを延長し、土層を確認したところ、やや凹凸がある床面と斜めに立ち上がる壁を確認した。本遺構北側はP-108およびP-131に切られている。

覆土 Ⅱ層起源の黒色土にⅣ層が均質に混じる。

遺物 遺物は1,438点出土した。内訳はI群b-1類土器976点、石鏃11点、両面調整石器1点、石錐2点、スクレイパー5点、U・Rフレイク6点、石核5点、フレイク331点、たたき石1点、すり石1点、砥石1点、台石片1点、礫97点である。遺物は土坑南側に多く分布する。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-131 (図Ⅲ-85・86 図版50)

位置 Q16 立地 標高7.9m付近の緩斜面。P-108・113を切る。

規模 1.20×0.87/0.90×0.61/0.15m 平面形 不整の楕円形

調査 P-108底面精査中、南東側壁際にぶい黄褐色土の楕円形の堆積を確認した。長軸西側を半截し、皿状の底面と壁を検出した。P-108・113を切って構築されるようである。

覆土 Ⅱ層起源の黒色土にⅣ層が均質に混じる。

遺物 I群b-1類土器1点、Uフレイク1点、石核1点、フレイク4点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半以降と考える。(愛場)



図III-86 P-108・113・131 (2)

P-109 (図Ⅲ-84 図版49)

位置 I 50・51 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 $0.98 \times (0.68) / 0.92 \times (0.54) / 0.24\text{m}$ 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅢ~Ⅳ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。ややくぼむがおおよそ平坦な底面と、ほぼまっすぐに立ち上がる壁面を持つ。壁面の一部は微妙に内側にすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。覆土上半はⅡ層が主体、底面直上と壁面付近にはⅣ層が主体の覆土が分布する。埋め戻しの可能性もある。

遺物 フレイク9点が出土した。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-110 (図Ⅲ-87 図版49)

位置 I 52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 $0.48 \times 0.40 / 0.50 \times 0.38 / 0.12\text{m}$ 平面形 不整な円形、隅丸方形に近い

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はいびつにくぼみ、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺物 遺物は出土しなかった。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-111 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位置 I 52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 $0.36 \times 0.36 / 0.44 \times 0.40 / 0.22\text{m}$ 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦であり、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺物 I群b-4類土器15点、フレイク10点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。(大泰司)

P-112 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位置 I 52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 $0.60 \times 0.52 / 0.52 \times 0.50 / 0.14\text{m}$ 平面形 不整な円形、隅丸方形に近い

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はいびつにくぼみ、壁面は開きながら立ち上がる。北西壁のみ内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺物 I群b-4類土器4点、石核1点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。(大泰司)

P-114 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位置 J52 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面

規模 0.48×0.42/0.54×0.50/0.22m 平面形 不整な円形、隅丸方形に近い

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-115 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位置 H52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.42×0.38/0.40×0.28/0.12m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の土から成る。褐鉄鉱を多く含む。底部上から壁面付近にかけての覆土斑状のⅣ層をより多く含む。自然堆積の可能性がある。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-116 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位置 H52/I52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.60×0.54/0.52×0.42/0.12m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は開きながらたちあがる、西側は開口部がやや内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の土である。壁面から底面にかけては、斑状のⅣ層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性がある。

遺物 I群b-4類土器2点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。 (大泰司)

P-117 (図Ⅲ-89 図版49)

位置 I53・54 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.80×0.62/0.82×0.78/0.26m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層中に、褐色土の堆積を確認した。中央がくぼむ底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

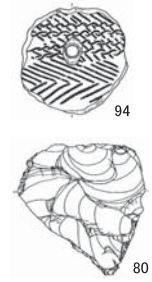
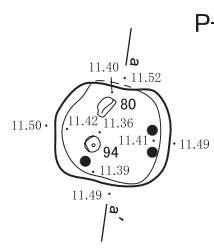
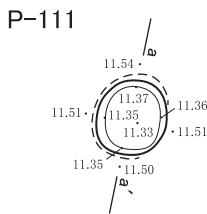
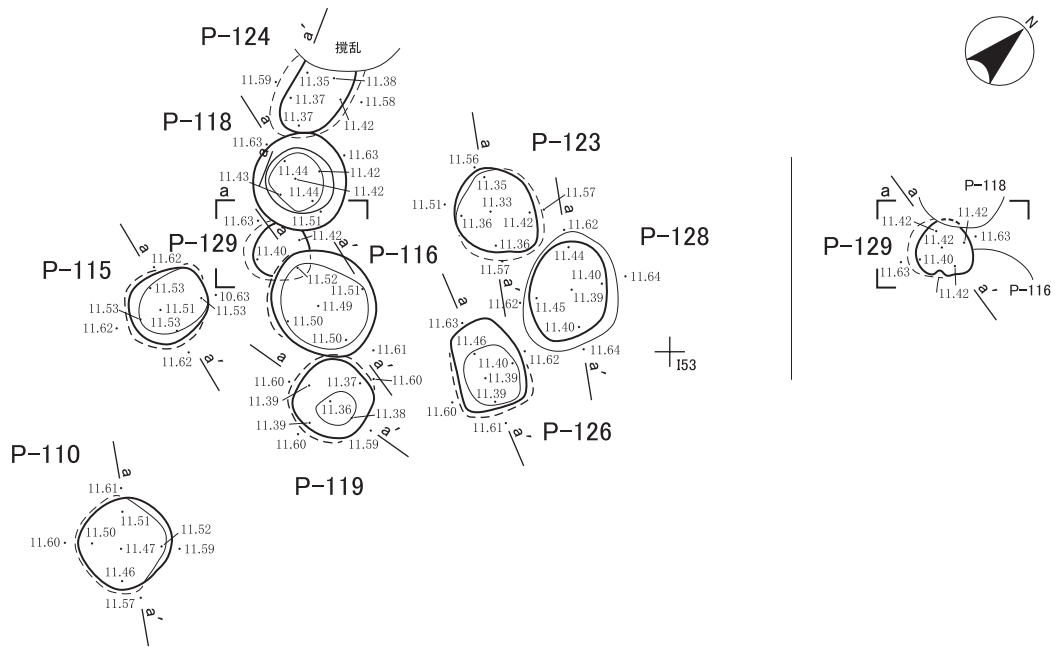
覆土 覆土はⅡ層に微量のⅣ層が散点的に混じる土である。壁面から底面にかけては、斑状のⅣ層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性が高い。

遺物 I群b-4類土器8点、頁岩フレイク29点が散点的に出土した。

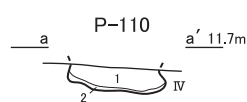
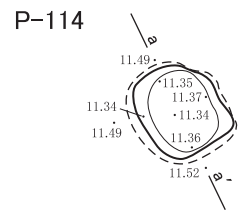
時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。 (大泰司)

P-118 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位置 H52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

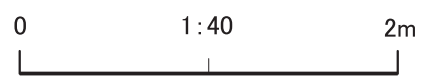


- 覆土 底面
- ○ 土器
 - ▲ △ 石器
 - ▼ ▽ フレイク
 - □ 礫

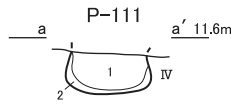


P-110土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR4/4	褐色	IVが小粒径で10%混じる

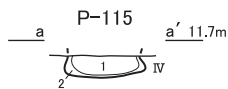
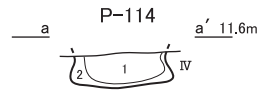
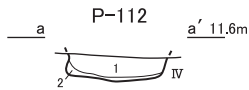


図Ⅲ-87 P-110~112・114~116・118・119・123・124・126・128・129



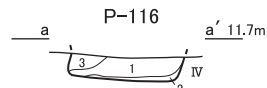
P-111・112・114土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR4/4	褐色	IVが小粒径で10%混じる



P-115土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR4/4	褐色	IVが小粒径で10%混じる



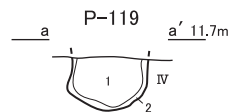
P-116土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR4/4	褐色	IVが小粒径で10%混じる
3	10YR3/3	暗褐色	崩乱土の入り込み



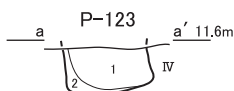
P-118土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	酸化鉄分を含む明黄褐色土。7.5YR5/8が小粒径で2%混じる
2	10YR4/6	褐色	酸化鉄分を含む明黄褐色土。7.5YR5/8が小粒径で2%混じる。1が鉄分の影響をより強く受けた色み
3	10YR4/4	褐色	IVが小粒径で10%混じる



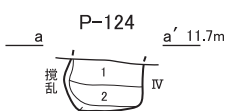
P-119土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR4/4	褐色	IVが小粒径で10%混じる



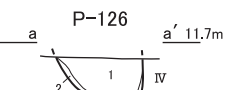
P-123土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR4/4	褐色	小粒径のIVが1%混じる。遺物出土。ややしまる
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	IIとIVがよく混ざりあう



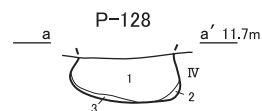
P-124土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	小粒径のIV1%混じる。酸化鉄分を含む明黄褐色土。7.5YR5/8が小粒径で2%混じる
2	10YR4/6	褐色	小粒径のIV1%混じる。酸化鉄分を含む明黄褐色土。7.5YR5/8が小粒径で2%混じる。1が鉄分の影響をより強く受けた色み
3	10YR4/4	褐色	IV小粒径で10%混じる



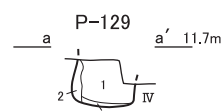
P-126土層

層名	マンセル表色系	色名	その他
1	10YR4/4	褐色	小粒径のIV1%混じる。遺物出土。ややしまる
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	IIとIVがよく混ざりあう



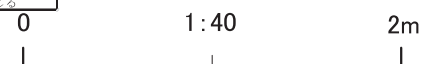
P-128土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR4/4	褐色	小粒径のIVが1%混じる。遺物出土。ややしまる
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	IIとIVがよく混ざりあう
3	10YR6/6	明黄褐色	小粒径のIVが10%混じる



P-129土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR4/4	褐色	小粒径のIVが1%混じる。遺物出土。ややしまる
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	IIとIVがよく混ざりあう
3	10YR6/6	明黄褐色	小粒径のIVが10%混じる



図III-88 P-111・112・114~116・118・119・123・124・126・128・129

規 模 0.52×0.50/0.28×0.26/0.20m 平 面 形 不整な円形
調 査 削平されたⅣ層中で暗褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体でⅣ層が微量に混じった土から成る。下半分は水の作用によるものか、褐鉄鉱を多く含む。壁面付近は斑状のⅣ層をより多く含む。自然堆積の可能性がある。
遺 物 Ⅰ群b類土器が1点出土した。
時 期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。 (大泰司)

P-119 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位 置 I 52 立 地 標高11.5~12m付近の緩斜面
規 模 0.42×0.40/0.46×0.46/0.28m 平 面 形 不整な円形、隅丸方形に近い
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の広がりとして検出した。底面はいびつにくぼみ、壁面は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。
遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-120 (図Ⅲ-89 図版49)

位 置 I 49 立 地 標高11~11.5m付近の緩斜面
規 模 0.58×0.54/0.70×0.64/0.34m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はいびつにくぼみ、壁面は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。
遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

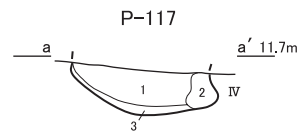
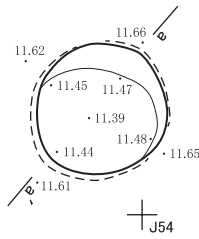
P-121 (図Ⅲ-89 図版50)

位 置 K 51 立 地 標高11~11.5m付近の緩斜面
規 模 0.40×0.34/0.38×0.36/0.22m 平 面 形 不整な円形、隅丸方形に近い。
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はいびつにくぼみ、壁面は南側が内側にすばむ以外、ゆるく外側へ開く。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。
遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-122 (図Ⅲ-89 図版50)

位 置 K 51 立 地 標高11~11.5m付近の緩斜面
規 模 0.48×0.42/0.32×0.32/0.18m 平 面 形 不整な円形、隅丸方形に近い。
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦であるが、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

P-117

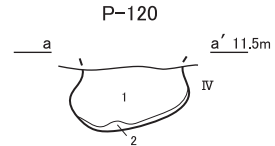
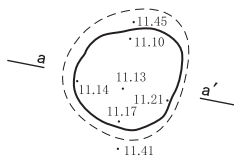


P-117土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR4/4	褐色	小粒径のIVが1%混じる。遺物出土。ややしまる
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	IIとIVがよく混ざりあう
3	10YR6/6	明黄褐色	小粒径のIVが10%混じる

149

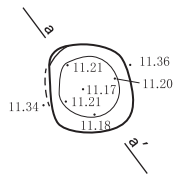
P-120



P-109・120土層

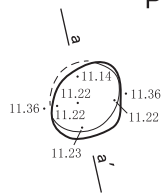
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/2	黒褐色	II主体で極小粒径IVが1%混じる
2	10YR6/4	にぶい黄褐色	塊状のIV主体よくしまる
3	10YR6/8	明黄褐色	IVとIIが3:1で斑状

P-122

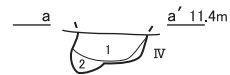


K52

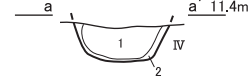
P-121



P-121



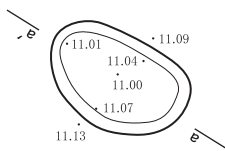
P-122



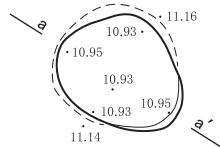
P-121・122土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR4/4	褐色	IVが小粒径で10%混じる

P-127



P-125



P-125



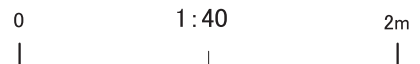
P-127



P-125・127土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR4/4	褐色	IVが小粒径で10%混じる

J48



図Ⅲ-89 P-117・120~122・125・127

覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。壁面付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-123 (図Ⅲ-87・88 図版50)

位 置 H52 立 地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規 模 0.46×0.42/0.48×0.46/0.24m 平 面 形 不整な円形

調 査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は内側にすぼまるが、南壁のみ微妙に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆 土 覆土はⅡ層主体の土である。壁面から底面にかけては、斑状のⅣ層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性はある。

遺 物 I群b類土器が2点出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。 (大泰司)

P-124 (図Ⅲ-87・88 図版50)

位 置 H52 立 地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規 模 0.38×0.28/0.42×0.38/0.24m 平 面 形 不整な楕円形

調 査 削平されたⅣ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面はほぼまっすぐに立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。西側は攪乱を受ける。

覆 土 覆土はⅡ層主体でⅣ層が微量に混じった土から成る。下半分は水的作用によるものか、褐鉄鉱を多く含む。底部付近は斑状のⅣ層をより多く含む。自然堆積の可能性はある。

遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-125 (図Ⅲ-89 図版50)

位 置 I47 立 地 標高11~11.5m付近の緩斜面

規 模 0.72×0.56/0.70×0.64/0.22m 平 面 形 不整な楕円形

調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は東側が外側へ開くが、他は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-126 (図Ⅲ-87・88 図版50)

位 置 H52/I52 立 地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規 模 0.50×0.36/0.32×0.28/0.24m 平 面 形 不整な楕円形

調 査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。底面は中央より東側がくぼむ、壁面西側は開きながら立ち上がる、東側は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆 土 覆土はⅡ層に微量のⅣ層が散点的に混じる土である。壁面から底面にかけては、斑状のⅣ層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性はある。

遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-127 (図Ⅲ-89 図版50)

位置 I 47 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面
 規模 0.76×0.51/0.66×0.37/0.09m 平面形 不整な楕円形
 調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦であるが、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
 覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。壁面付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。
 遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-128 (図Ⅲ-87・88 図版50)

位置 H52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面
 規模 0.52×0.40/0.64×0.50/0.26m 平面形 不整な楕円形
 調査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
 覆土 覆土はⅡ層主体の土である。壁面から底面にかけては、斑状のⅣ層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性はある。
 遺物 I群b類土器が3点出土した。
 時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。 (大泰司)

P-129 (図Ⅲ-87・88 図版50)

位置 H52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面
 規模 0.30×0.26/0.34×0.28/0.24m 平面形 不整な円形
 調査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
 覆土 覆土はⅡ層主体の土である。壁面から底面にかけては、斑状のⅣ層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性はある。
 遺物 覆土中からI群b類土器が5点出土した。
 時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。 (大泰司)

P-130 (図Ⅲ-90 図版50)

位置 G50/H50 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面
 規模 (1.30)×1.00/(0.90)×0.58/0.18m 平面形 不整な楕円形か
 調査 削平されたⅢ層中に、暗褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、外側に開きながら立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。開口部南側は現代の住居攪乱によって破壊されている。
 覆土 覆土上半はⅡ~Ⅳ層の混じり合った土によって構成される。下半はⅡ層主体土である。層の境界には一部Ⅶ層が塊状に入り込む。埋め戻しの可能性はある。
 遺物 Ⅱ群b類土器2点、スクレイパー1点・Uフレイク5点が散点的に出土した。
 時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)

P-132 (図Ⅲ-90 図版50)

位置 H51 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.82×0.54/0.70×0.34/0.30m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。木の根と思われる攪乱が連続しており、平面形は不明瞭であった。底面中央は浅くくぼみ、壁面は内側にすぼまるが、一部についてはほぼまっすぐな立ち上がりである。攪乱中の黒褐色土を掘り下げて遺物回収していた際、明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土は黒褐色土であったが、攪乱部分といっしょに掘り抜いたので、土層観察図は無い。

遺物 I群b類土器3点、フレイク4点、安山岩礫片1点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。 (大泰司)

P-133 (図Ⅲ-90 図版50)

位置 H51・52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.60×0.42/0.56×0.50/0.24m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅢ~Ⅳ層中に、黒褐色土の堆積を確認した。中央がくぼむ底面と、内側にすぼまりながら立ち上がる壁面を持つ。北壁のみゆるく開きながら立ち上がる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ層主体の土である。壁面から底面にかけて斑状のⅣ層が密に入り込む。自然堆積の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-134 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 H49/I49 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面

規模 0.64×0.64/0.32×0.32/0.34m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅢ~Ⅳ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面は東側がいびつにくぼみ、壁面北東側は内側にすぼまるように立ち上がり、南西側は外側に開くように立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土上半はⅡ層主体の黒褐色土である。下半はⅡ層主体土に斑状のⅣ層が加わって構成される。壁面付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-135 (図Ⅲ-90 図版51)

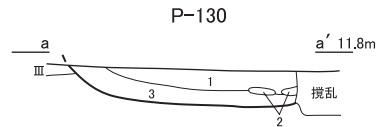
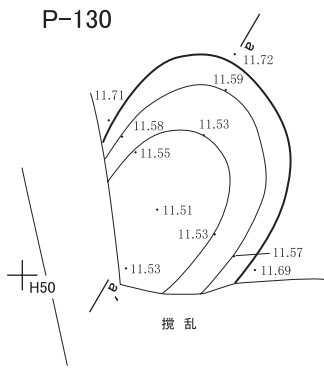
位置 H50 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.72×0.54/0.78×0.52/0.32m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、まっすぐに立ち上がる壁面を持つ。ただし、壁面の一部は微妙に内側にすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

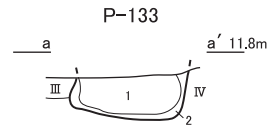
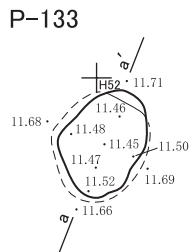
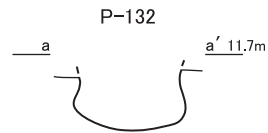
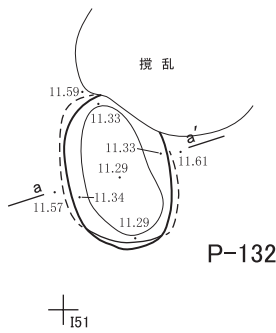
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。底面直上と壁面付近には小~中粒径のⅣ層によって構成される。埋め戻しの可能性もある。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)



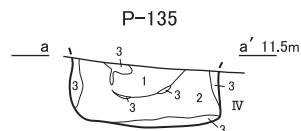
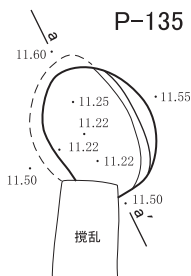
P-130土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	IVが小～大粒径で10%混じる
2	10YR2/2	黒褐色	II主体
3	10YR6/8	明黄褐色	塊状のIV



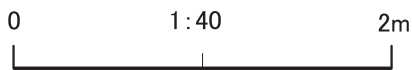
P-133土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR5/8	黄褐色	IV主体



P-135土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR2/2	黒褐色	II主体でIV極小～小粒径で15%混じる
3	10YR4/6	褐色	IVが小～中粒径で密に詰まり、その間をIIが充填する



H51

図III-90 P-130・132・133・135

P-136 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 H49 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面

規模 0.80×(0.64) / 0.80×0.58 / 0.38m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて、塊状のⅣ層が詰まった攪乱を掘り下げたところ、黒褐色土の広がりとして検出した。底面は中央がくぼみ、壁面東側は内側にすぼまるように立ち上がり、西側は外側に開くように立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 残存する覆土上半はⅡ層主体の黒褐色土である。下半はⅡ層主体土に斑状のⅣ層が加わって構成される。壁面付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。

遺物 フレイク1点が出土した。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-137 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 F53 立地 標高12m付近の緩斜面

規模 0.72×0.69 / 0.59×0.56 / 0.22m 平面形 不整の円形

調査 Ⅳ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。南西側を半截し、やや凹凸のある底面とオーバーハングする壁を認定した。規模から土坑と判断した。

覆土 3層に分層した。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-138 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 F54 / G54 立地 標高12m付近の緩斜面

規模 (0.71) × 0.59 / (0.77) × 0.71 / 0.3m 平面形 不整の楕円形

調査 Ⅳ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。南東側を半截し、皿状の底面とオーバーハングする壁を確認した。規模や土層から土坑と判断した。

覆土 3層に分層した。 遺物 フレイク1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-139 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 M40 立地 標高10m付近の緩斜面

規模 1.02×0.83 / 0.79×0.58 / 0.51m 平面形 卵形に近い不整な楕円形

調査 Ⅲ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面とゆるやかに開きながら立ち上がる壁面から、土坑と判断した。西側の壁面立ち上がり際の一部に木根が入り込んだ痕があり土坑が破壊されている。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあったもの。Ⅱ層の割合が多い。よく混じり合っており、埋め戻しの可能性が高い。

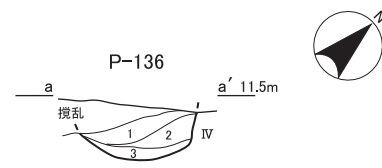
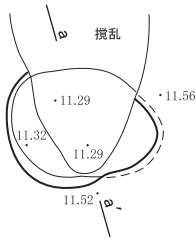
遺物 I群b類土器6点、凝灰岩礫1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代のものと考え。出土遺物は流入と考えられる。周辺の遺物出土状況から、早期後半以降のものと考え、早期後半、前期後半、後期前葉の可能性がある。(大泰司)

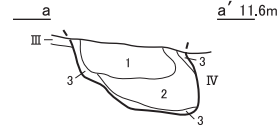
P-140 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 M40 立地 標高10m付近の緩斜面

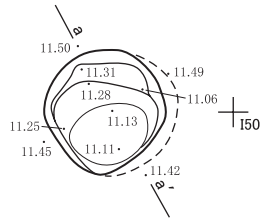
P-136



P-134



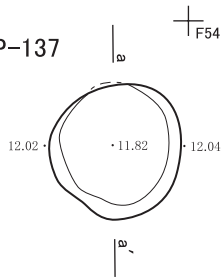
P-134



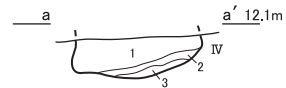
P-134・136土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	10YR2/2	黒褐色	II主体でIVが極小～小粒径で15%混じる
3	10YR4/6	褐色	IVが小～中粒径で密に詰まり、その間をIIが充填する

P-137



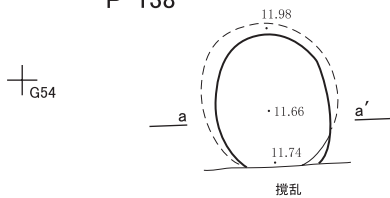
P-137



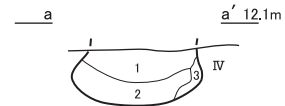
P-137土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II・III>IV
2	10YR2/1	黒色	壤土	中	堅	II・III>IV
3	10YR4/6	褐色	壤土	中	堅	IV>II・III斑状

P-138



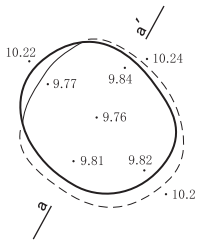
P-138



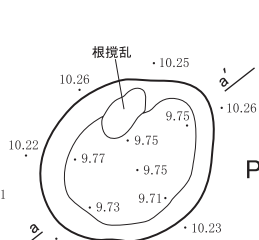
P-138土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II・III>IV
2	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II・III>IVブロック
3	10YR4/6	褐色	壤土	中	堅	IV>II・III斑状

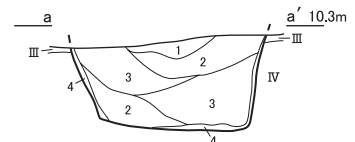
P-140



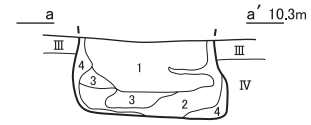
P-139



P-139

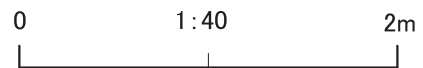


P-140



P-139・140土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II
2	10YR2/2	黒褐色	II+IV
3	10YR2/2	黒褐色	II>IV
4	10YR3/4	暗褐色	II>IV小粒径で15%混じる



N40

図III-91 P-134・136~140

規 模 0.84×0.71/0.86×0.80/0.43m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 III層中にて黒褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面を持つ。壁面はゆるく外側に
広がり、南壁が開きながら立ち上がる以外にはしだいに内側にすぼまる形状である。土坑と判断した。
覆 土 覆土はII～IV層が混ざりあったもの。II層の割合が多い。よく混じり合っており、埋め戻
しの可能性が高い。
遺 物 I群b類土器が1点出土した。
時 期 確認状況から縄文時代と考える。出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以
降の可能性はある。 (大泰司)

P-141 (図III-92 図版51)

位 置 N36 立 地 標高9.5~10m付近の緩斜面
規 模 0.64×0.56/0.66×0.59/0.47m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 III層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央は凹み、壁面は開きながら立ち上がって
からいったん内側にすぼまり、また開く形状である。土坑と判断した。
覆 土 覆土はII～IV層が混ざりあったもの。II層の割合が多い。よく混じり合っており、埋め戻
しの可能性が高い。
遺 物 遺物は出土していない。
時 期 確認状況から縄文時代と考える。出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以
降の可能性はある。 (大泰司)

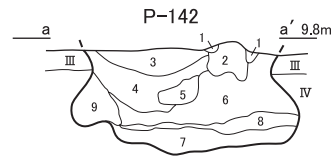
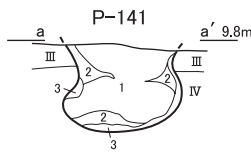
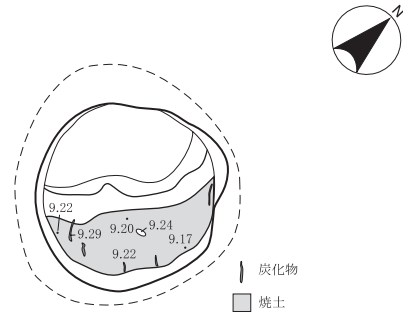
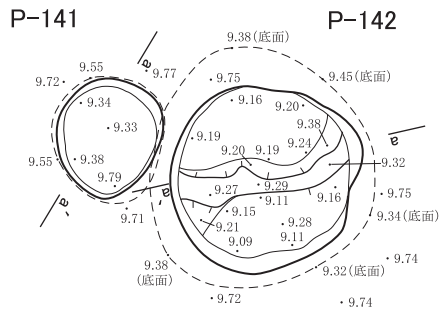
P-142 (図III-92 図版51)

位 置 N36 立 地 標高9.5~10m付近の緩斜面
規 模 1.04×0.99/1.20×1.26/0.56m 平 面 形 不整な円形
調 査 III層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央は凹み、壁面は開きながら立ち上がって
からいったん内側にすぼまり、また開く形状である。土坑と判断した。凹んだ底面の中央は南北を軸
として、木根によって、中央が盛り上がるように破壊されている。
覆 土 覆土はII～IV層が混ざりあったもので、II層の割合が多いものが多い。よく混じり合っ
ており、埋め戻しの可能性が高い。
上部の覆土1層とした部分については酸化した鉄分を含む土層である。また、中央の盛り上がり部分
についてはその西側に木根が入り込んで東側に押し出したためにできたものと考えられる。この隆起
帯の東側については底面に炭および焼土層が分布する。土層断面には示されなかったため、その上面
と下面について図示した。炭化物は上面に分布し、目立ったものについては図示した。同じ面で、白
色粘土が固まりで出土したがIV層起源のものとする。
遺 物 I群b-4類土器3点、スクレイパーが1点出土した。
時 期 出土遺物は流入と考える。周辺の遺物出土状況から、縄文時代早期後半以降の可能性があ
る。 (大泰司)

P-143 (図III-92 図版52)

位 置 P39 立 地 標高9.7m付近の緩斜面
規 模 0.42×0.36/0.37×0.29/0.19m 平 面 形 不整の楕円形

N36



P-141土層

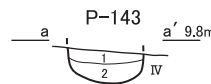
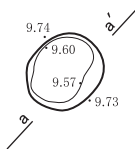
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II > IV
2	10YR2/2	黒褐色	II > IV
3	10YR3/4	暗褐色	II > IV小粒径で15%混じる

P-142土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	5YR4/3	にぶい赤褐色	
2	5YR5/6	明赤褐色	褐色5YR6/8のパミス小粒径で6%混じる
3	10YR3/4	暗褐色	小粒径のIVが2%混じる
4	10YR3/4	暗褐色	小粒径のIVが10%混じる
5	10YR3/4	暗褐色	小粒径のIVが2%、小粒径の橙色5YR6/8パミス2%混じる混じる
6	10YR2/2	黒褐色	小粒径のIVが2%混じる
7	10YR2/2	黒褐色	
8	10YR6/8	明黄褐色	IV主体
9	10YR2/2	黒褐色	II主体、木根?

P39

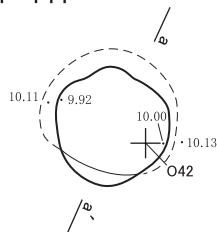
P-143



P-143土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR3/3	暗褐色	埴壤土	中	堅	II・III > IV 炭化材・焼土粒混じる
2	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	堅	II・III > IV

P-144



P-144土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	埴壤土	中	堅	II > IV

図III-92 P-141~144

調査 IV層で楕円形の暗褐色土の堆積を確認した。長軸東側を半截し、皿状の底面とほぼ垂直で立ち上がる壁を確認した。小型であるが、覆土がII層とIV層の混合土であることから土坑と判断した。
覆土 2層に分層した。II層起源の黒色土にIV層黄褐色土が混じるもので、覆土1には炭化材や焼土粒が混じる。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

P-144 (図III-92 図版52)

位置 N41・42/O41・42 立地 標高10.1m付近の緩斜面

規模 0.62×0.59/0.65×0.72/0.24m 平面形 不整の円形

調査 IV層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。西側を半截し、皿状の底面とオーバーハングする壁を確認した。規模や土層から小型の土坑と判断した。

覆土 2層に分層した。II層起源の黒色土にIV層黄褐色土が混じるもので、覆土1には炭化材や焼土粒が混じる。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

P-145 (図III-93 図版52)

位置 O31 立地 標高9m付近の緩斜面

規模 0.69×0.49/0.74×0.56/0.35m 平面形 四角形に近い不整な楕円形

調査 III層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性がある。

遺物 頁岩フレイクが1点出土した。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性がある。 (大泰司)

P-146 (図III-93)

位置 N31/O31 立地 標高9m付近の緩斜面

規模 0.59×0.56/0.65×0.63/0.26m 平面形 円形

調査 III層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の可能性がある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性がある。 (大泰司)

P-147 (図III-93 図版52)

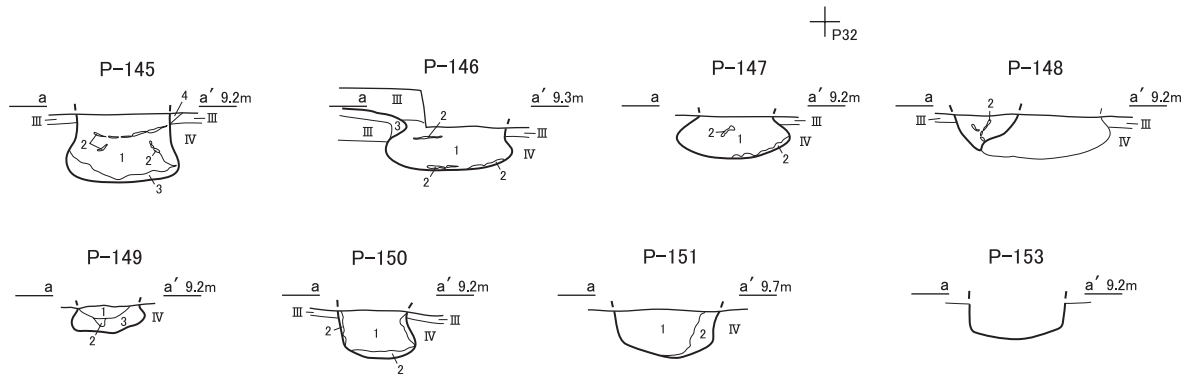
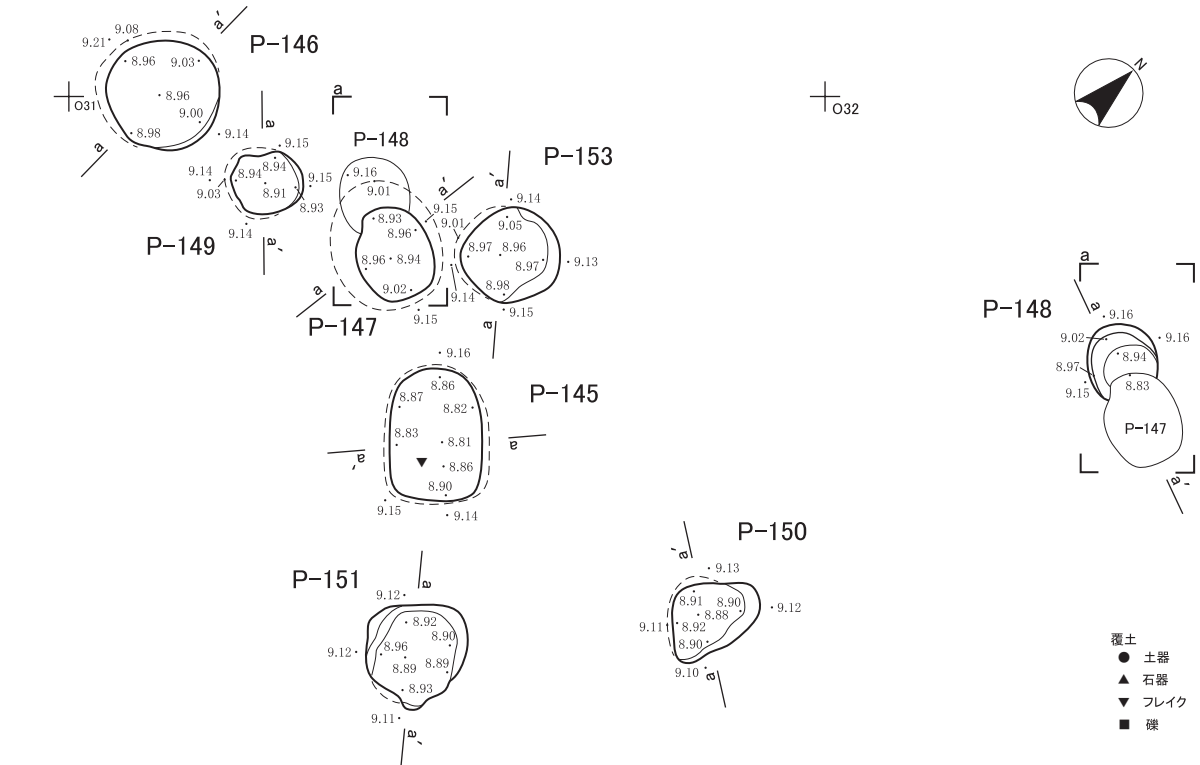
位置 O31 立地 標高9m付近の緩斜面

規模 0.50×0.39/0.69×0.57/0.22m 平面形 円形

調査 III層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性がある。

遺物 遺物は出土していない。



P-145・146・150・151土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/1	黒褐色	小粒径のIVが5%混じる
2			IV主体
3	10YR6/6	明黄褐色	IV主体。小粒径のIVが密に詰まる
4	10YR3/3	暗褐色	III主体

P-147土層

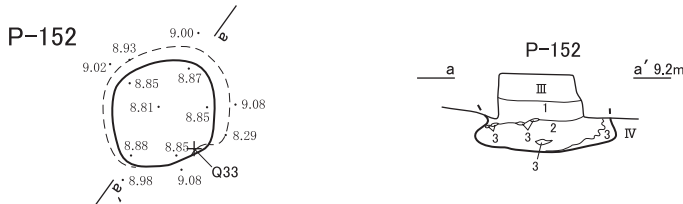
層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR2/3	黒褐色	小粒径のIVが2%混じる

P-148土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/4	暗褐色	小粒径のIVが1%混じる
2			IV主体

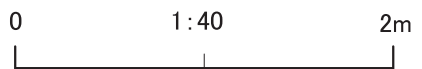
P-149土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR3/1	黒褐色	II主体。流入。しまりあり
2	5YR4/8	赤褐色	鉄分酸化土層?
3	10YR3/3	暗褐色	II~IVが混じりながら堆積。III大粒径間にIIが入りこむ。しまりあり



P-152土層

層名	マンセル表色系	色名	主体層・混在層
1	10YR4/2	灰黄褐色	
2	10YR2/2	黒褐色	小・中粒径のIVが2%混じる。ややしまる
3	10YR5/8	黄褐色	



図III-93 P-145~153

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-148 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 O31 立地 標高9 m付近の緩斜面

規模 (0.28) × 0.38 / (0.15) × 0.27 / 0.23m 平面形 楕円形

調査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。残存する壁面は開きながら立ち上がる。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-149 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 O31 立地 標高9 m付近の緩斜面

規模 0.37 × 0.36 / 0.42 × 0.39 / 0.15m 平面形 不整な楕円形

調査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 覆土中からⅠ群b類土器が1点出土している。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-150 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 O31 立地 標高9 m付近の緩斜面

規模 0.48 × 0.36 / 0.43 × 0.37 / 0.26m 平面形 不整な楕円形で三角形に近い

調査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がる。南から西側部分について、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-151 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 O31 立地 標高9 m付近の緩斜面

規模 0.56 × 0.52 / 0.50 × 0.35 / 0.26m 平面形 不整な楕円形で卵型に近い

調査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がる。南側部分について、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-152 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 P32・33 / Q32・33 立地 標高9 m付近の緩斜面

規 模 0.63×0.56/0.72×0.60/0.29m 平 面 形 不整な円形
 調 査 Ⅲ層にて灰黄褐色～黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。
 覆 土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性がある。
 遺 物 遺物は出土していない。
 時 期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性がある。(大泰司)

P-153 (図Ⅲ-93 図版52)

位 置 O31 立 地 標高9m付近の緩斜面
 規 模 0.52×0.50/0.49×0.44/0.19m 平 面 形 不整な円形
 調 査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。半截した段階で、木根痕の可能性が高いとし、土層断面図を残さなかった。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がる。南側部分について、途中ですぼまる形状である。完掘後、周囲の土坑と比較検討し、木根痕の可能性もあるが、記録すべきと判断した。
 覆 土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性がある。
 遺 物 遺物は出土していない。
 時 期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性がある。(大泰司)

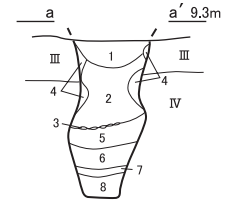
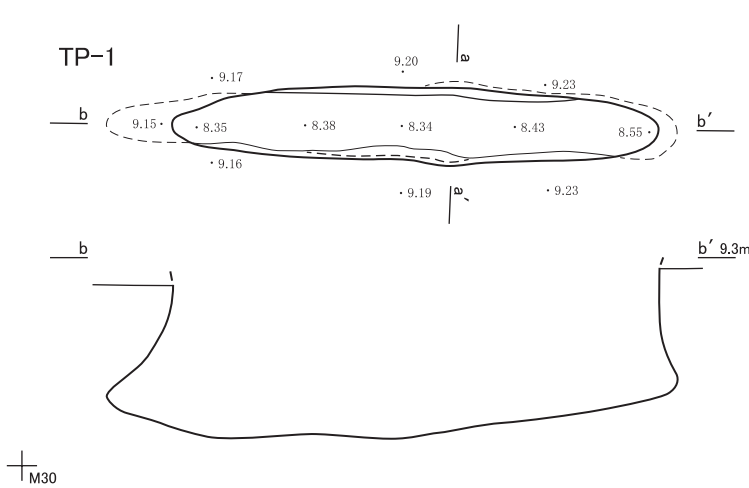
4. Tピット

T P-1 (図Ⅲ-94 図版53)

位 置 L30 立 地 標高9～9.5m付近の緩斜面
 規 模 2.54×0.54/3.00×0.46/0.80m 平 面 形 長楕円形
 調 査 Ⅲ層上面にて黒色土の堆積を確認した。底面はおおよそ地表の緩斜面と同じ方向により強く傾く。長軸両端の壁は内側にすぼむが、緩斜面の下側の方が深く抉られる。側壁はほぼまっすぐに立ち上がる。
 覆 土 Ⅱ～Ⅳ層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。ほかに壁面の崩落と推定できる、塊状のⅣ層が認められる。自然に埋没したものとする。
 遺 物 フレイク2点、礫2点が出土した。
 時 期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

T P-2 (図Ⅲ-94 図版53)

位 置 N6 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面
 規 模 2.94×0.58/2.54×0.18/1.32m 平 面 形 長楕円形
 調 査 削平されたⅢ層からⅣ層にかけての面で黒色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。底面は長軸の中心部分が深くなっている。長軸両端の壁は内側にすぼむが、緩斜面の下側の方が深く抉られる。側壁はほぼまっすぐに立ちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。P-40と先後関係は不明であるが、P-40覆土2層の分布を明瞭に確認できなかったのでTピットの方が新しい可能性もある。
 覆 土 Ⅱ～Ⅳ層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。ほかに、壁面の崩落なのか、Ⅳ層が塊状に分布する土層がある。また底面よりやや上に炭化物混じりの層が面的に広がっ



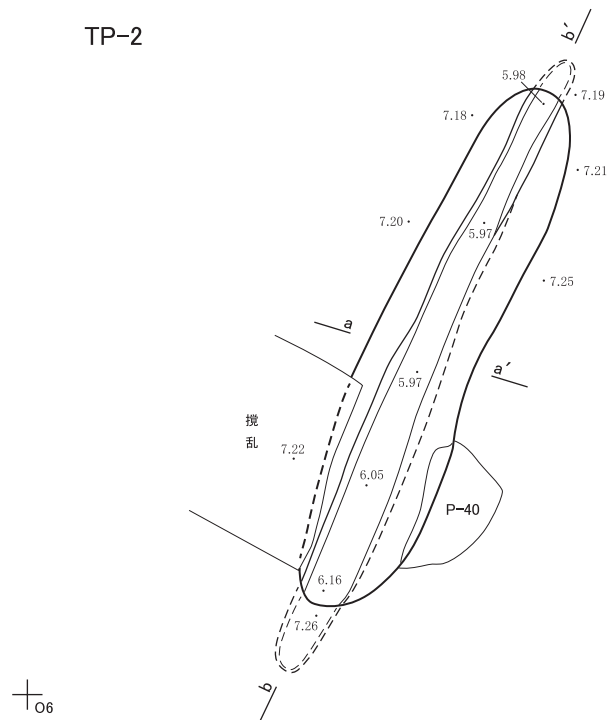
M30

M31

TP-1土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	10YR1.7/1	黒色	II
2	10YR3/1	黒褐色	II > IV
3	10YR7/6	明黄褐色	IV
4	10YR4/6	褐色	塊状のIII+IV
5	10YR7/6	明黄褐色	IVの流入
6	10YR2/1	黒色	IIの流入か
7	10YR4/1	褐灰色	小〜中粒径のIVが2%混じる
8	10YR7/6	明黄褐色	IVの流入にIIが10%以下混じる

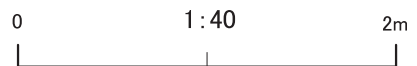
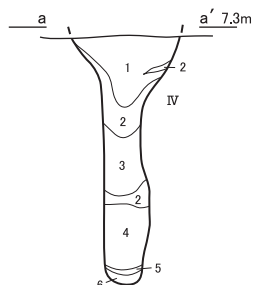
TP-2



b' 7.3m

O6

O7

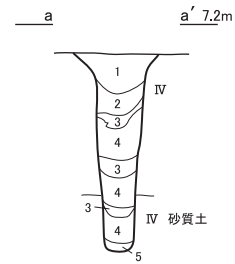
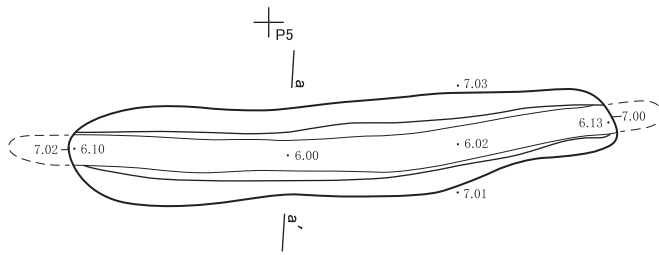


TP-2土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	10YR2/1	黒色	II
2	10YR5/6	黄褐色	IV
3	10YR2/1	黒色	II > IV 大粒径5%
4	10YR5/8	黄褐色	IV しまりなし
5	10YR2/3	黒褐色	炭化物が混じる
6	10YR3/3	暗褐色	II > IV

図Ⅲ-94 TP-1・2

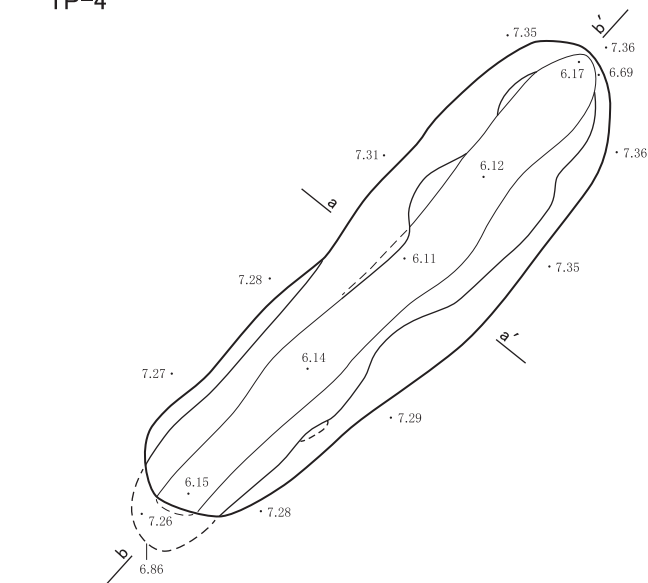
TP-3



TP-3土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II・III > IV
2	10YR2/3	黒褐色	壤土	中	堅	III > IV斑状
3	10YR2/2	黒褐色	壤土	中	堅	II・III > IV
4	10YR4/6	褐色	粘壤土	中	しろう	IV > II・III
5	10YR2/3	黒褐色	壤土	中	軟	III > IV

TP-4

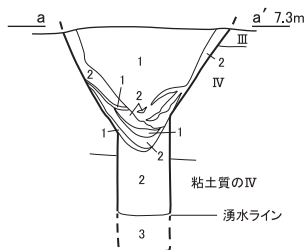


P8



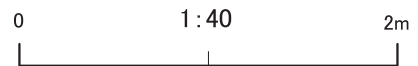
Q7

Q8



TP-4土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	10YR3/1	黒褐色	II主体
2	10YR6/8	明黄褐色	IV主体
3	10YR3/4	暗褐色	II > IV



図III-95 TP-3・4

ていた。自然に埋没したものと考える。

遺物 II群b類土器6点、IV群a類土器34点、石鏃1点・礫、メノウや珪岩の礫が出土した。ただし、P-40の遺物が混在している可能性もある。

時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

TP-3 (図Ⅲ-95 図版53)

位置 P4・5 立地 標高7m付近の緩斜面

規模 2.89×0.51/4.44×0.18/1.05m 平面形 長楕円形

調査 削平されたIV層面で、細長い黒色土の堆積を確認した。中央部短軸に土層観察用ベルトを設定し、全体を掘り下げた。1m程掘り下げたところで底面と壁の立ち上がりを検出した。

覆土 底面に薄く黒褐色土が堆積し、その上部はIV層起源褐色土と黒褐色土の互層となる。自然に埋没したものと考える。

遺物 IV群a類土器4点、フレイク10点、礫12点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

TP-4 (図Ⅲ-95 図版53)

位置 P7 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面

規模 3.26×0.90/3.46×0.32/1.20m 平面形 長楕円形

調査 削平されたIII層からIV層にかけての面にて黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状は視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、おおよそ平坦であった。長軸南端の壁は内側にすぼむが、これは緩斜面の下側である。北端と側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 II~IV層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。自然に埋没したものと考える。

遺物 I群b類土器1点、II群b類土器4点、IV群a類土器11点、頁岩フレイク65点、扁平打製石器1点、礫22点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

TP-5 (図Ⅲ-96 図版53)

位置 R7・8 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面

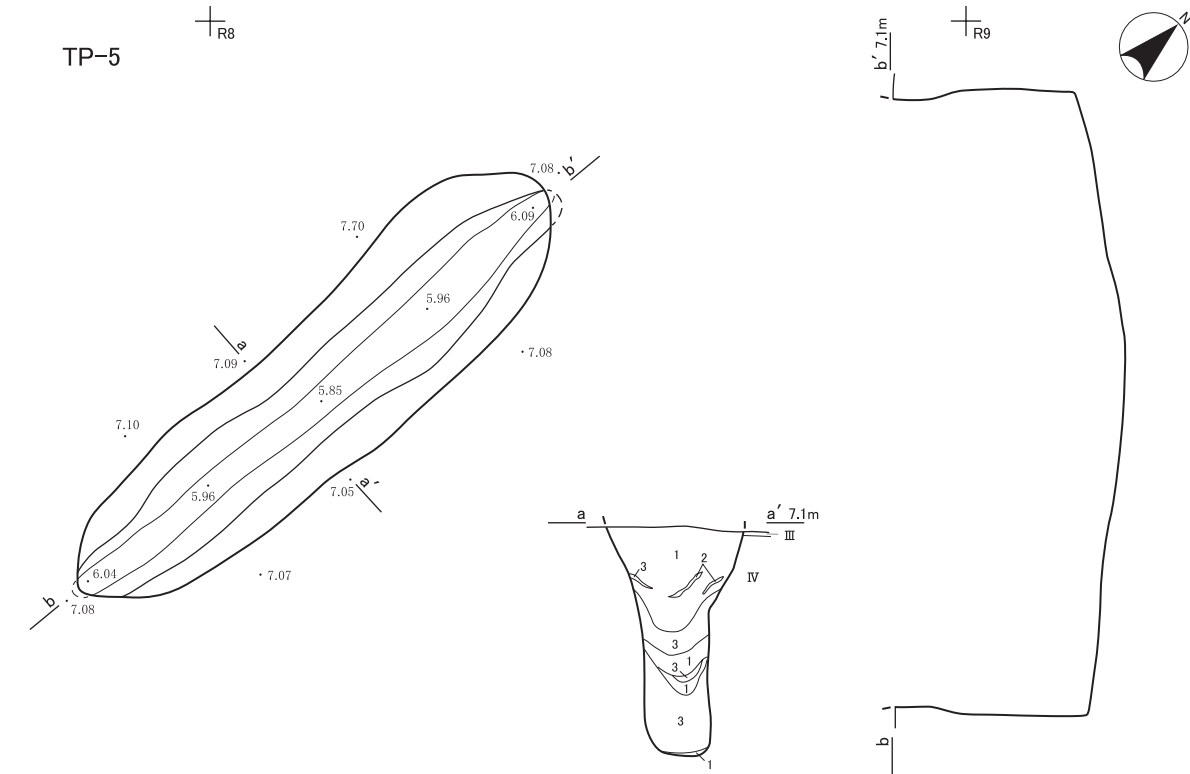
規模 3.20×0.70/3.3×0.14/1.20m 平面形 長楕円形

調査 削平されたIII層からIV層にかけての面で黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。底面はおおよそ地表の緩斜面と同じ方向に傾く。長軸両端の壁は内側にややすぼむ。側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 流入したII~IV層によって構成される。自然に埋没したものと考える。

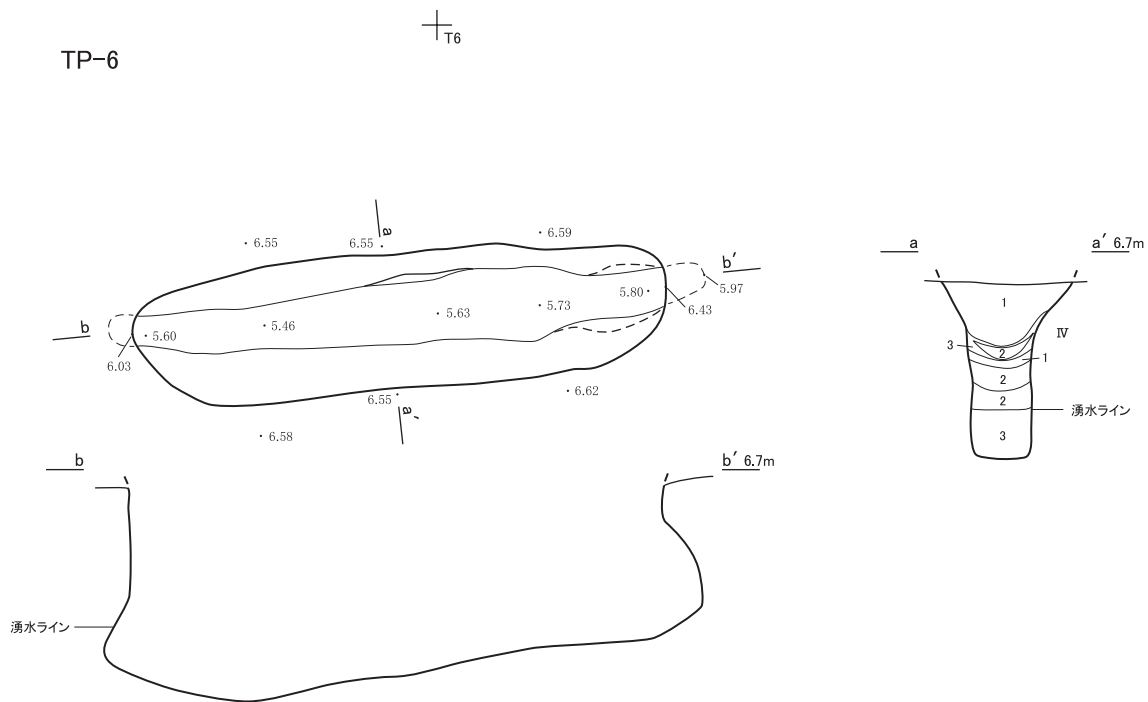
遺物 I群b類土器4点、II群b類土器10点、IV群土器64点、V群土器9点、石鏃1点、スクレイパー6点、Uフレイク2点、フレイク229点、礫26点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)



TP-5土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II主体
2	5YR6/6	橙台	褐鉄鉱
3	10YR7/6	明黄褐色	IV主体



TP-6土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II > 小 ~ 中粒径 IV 1%
2	10YR4/2	灰黄褐色	IV > II > 小 ~ 中粒径 IV 1%
3	10YR6/6	明黄褐色	IV 混在



図III-96 TP-5・6

TP-6 (図Ⅲ-96 図版53)

位置 T5・6 立地 標高6.5m付近の緩斜面。

平面形 長楕円形 規模 2.82×0.70/3.14×0.34/0.92m

調査 削平されたⅣ層から黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状については視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、底面はおおよそ地表の緩斜面と同じ方向により強く傾く。長軸両端の壁は内側にすぼむが、緩斜面の下側の方が深く抉られる。側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 Ⅱ～Ⅳ層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。自然に埋没したと考える。

遺物 覆土中からⅡ群b類土器16点、Ⅳ群a類土器19点、石鏃1点、スクレイパー2点、頁岩フレイク43点、石斧1点、礫21点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

TP-7 (図Ⅲ-97 図版53)

位置 T6・7 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面

平面形 長楕円形 規模 2.54×0.70/3.12×0.16/1.02m

調査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状については視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、底面は長軸に対して中心部分が深くなっている。長軸両端の壁は内側にすぼむ。側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 Ⅱ～Ⅳ層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。

遺物 覆土中からⅠ群b類土器1点、Ⅱ群b類土器12点、Ⅳ群a類土器8点、石核1点、フレイク71点、礫21点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

TP-8 (図Ⅲ-97 図版53)

位置 S6・7 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面

平面形 長楕円形 規模 2.70×0.50/3.04×0.22/1.06m

調査 削平されたⅣ層にて黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状については視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、底面はおおよそ平坦である。長軸両端の壁は内側にすぼむ。側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 Ⅱ～Ⅳ層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。

遺物 Ⅱ群b類土器3点、Ⅳ群a類土器33点、スクレイパー1点、フレイク22点、礫29点が出土した。

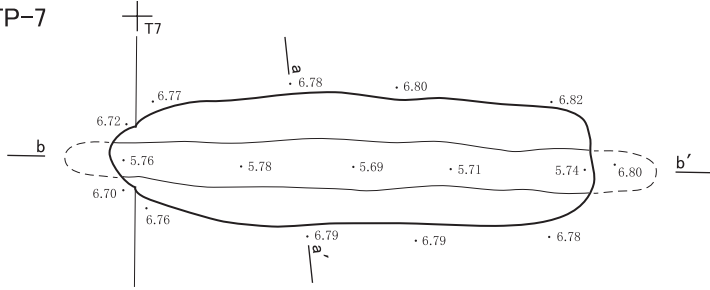
時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

TP-9 (図Ⅲ-97 図版53)

位置 U6 立地 標高6～6.5m付近の緩斜面

平面形 長楕円形 規模 2.50×0.40/2.84×0.32/0.80m

TP-7

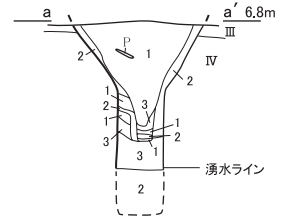
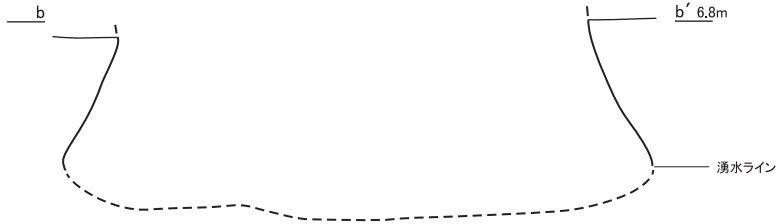


T8



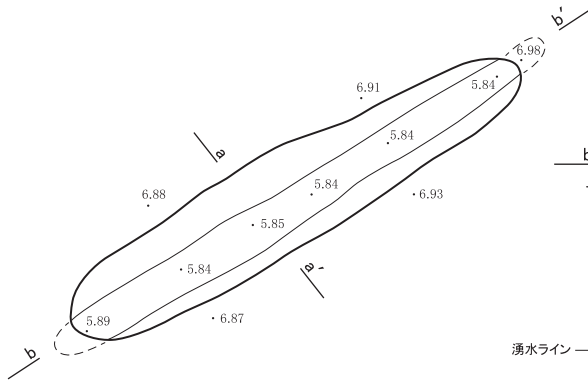
TP-7土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II起源の土
2	10YR6/8	明黄褐色	IV起源の土
3	10YR4/1	褐灰色	IIとIVが混じり合う



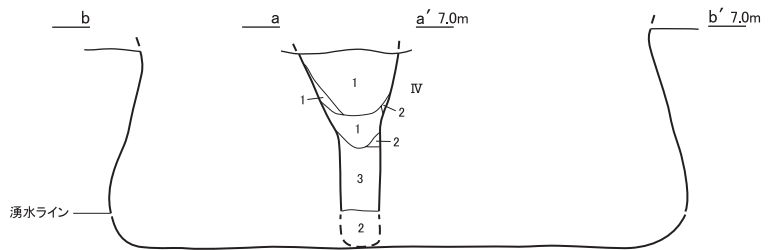
TP-8

S7



TP-8土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II > IV小粒径20%
2	10YR6/8	明黄褐色	IV起源
3	10YR4/1	褐灰色	IIとIVが混じり合う



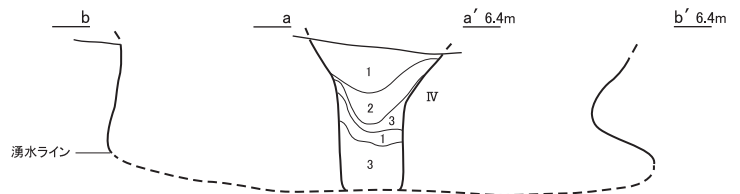
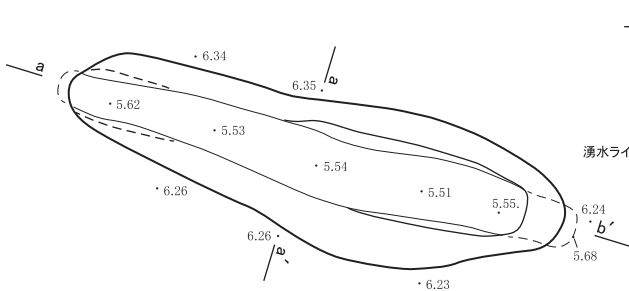
a a' 7.0m

b' 7.0m

U6 TP-9

TP-9土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	10YR2/2	黒褐色	II起源
2	10YR3/3	暗褐色	IIとIVが混じり合う
3	10YR6/8	明黄褐色	IV起源



a a' 6.4m

b' 6.4m



図III-97 TP-7~9

調 査 削平されたⅣ層にて黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状については視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、底面はおおよそ平坦である。長軸両端の壁は内側にすぼむが、緩斜面の下側の方が深く抉られる。側壁はほぼまっすぐに立ちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。深さについては典型的な例と比較してより浅い。途中で掘りやめるものもあるためその型の可能性もある。

覆 土 Ⅱ～Ⅳ層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。

遺 物 Ⅱ群b類土器3点、Ⅳ群a類土器50点、フレイク13点、礫19点が出土した。

時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

5. 溝状遺構

溝状遺構 (図Ⅲ-98・99 図版54)

位 置 U32～36/V36～38 **立 地** 標高8.8～8.9mの緩斜面

規 模 (27.2)×0.37/(27.2)×0.24/0.38m

調 査 Ⅱ層上面でB-Tm火山灰が30cm程の幅で帯状に堆積している部分を確認した。周辺を慎重に掘り下げていくと、火山灰の堆積は等高線に沿うような形で、調査区東端まで20m以上続くことがわかった。4か所に土層観察ベルトを残し、火山灰以下の覆土を全体に掘り下げていった。30cm程掘り下げたⅢ層～Ⅳ層上面中に底面が検出した。グリット34ラインより東側の底面では工具による掘削跡が連続して残っており、それより西側では柱穴列がみられた。覆土からは縄文土器や礫が少量出土した。

溝状遺構の西側のT31・32区は攪乱などですでにⅣ層まで掘り下げていた。Ⅳ層面を精査したが柱穴などの痕跡がみられないため、調査部分がほぼ西端になると考えている。東側は調査区外へさらに続いているようである。B-Tm火山灰下の覆土中出土の炭化材について放射性炭素年代測定を行った。

覆 土 3～5層に分層した。覆土1は黄褐色のB-Tm火山灰で3～6cmの厚さで溝全面に堆積している。その下にはⅡ層起源の黒色土が床面まで堆積する。柱穴MP-3周辺では黒色土の下部の底面近くにⅣ層主体の暗褐色土がみられ、柱穴の掘り方の土の可能性もある。

形 態 溝の全長は27mを超える。溝はほぼ等高線に沿う形で2か所で緩やかに屈折し、東端では90度近く屈曲している様子が伺えた。溝の幅は25～37cm、深さは概ね30cmで、最も深いところで38cmである。底面は平らもしくは皿状に緩やかに湾曲し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

付属遺構 柱穴4か所(MP-1～4)を確認した。また底面では工具による掘削痕がみられた。

MP-1～4は溝の西端6m程の範囲で1.3m～1.7mの間隔で底面中央から検出した。底面から10～38cmほどの比較的深い柱穴である。MP-1・2・3は平面形が四角くなる。4本の柱の周辺には深さ3～5cmの浅皿状のくぼみが連続してあり、これらは深く設置された柱の間に充填するように置かれた柱跡の可能性もある。西端部分を除いては底面には鋤によると思われる掘削痕が残るのみである。掘削痕は明瞭で、刃先の角度や刃先の向きなどが捉えられた。

これらの状況や東北地方の類例から溝状遺構は柱を連続して立てるためのいわゆる「布掘り」で、西側部分では板塀が構築されたが、他の部分では板塀は設置されなかったと考える。

遺 物 I群b類土器26点、Ⅱ群b類土器6点、フレイク16点、礫73点が出土した。本遺構には関連しない。

時 期 時期はB-Tm降下以前である。溝が埋まりきらないうちにB-Tm火山灰が堆積してい

ることから擦文文化期前半期と考える。

(愛場)

6. 焼土

焼土は5か所で確認した。F-1がH-1覆土中から検出した以外はⅡ層面での検出で、いずれも遺物は伴わない。立地・平面形・規模・時期は以下のとおりである。

F-1 (図Ⅲ-100)

位置 O18 立地 H-1覆土中央に位置する。規模 $0.97 \times 0.93 / 0.15\text{m}$

平面形 円形 時期 確認状況から縄文時代早期後半と考える。(土肥)

F-2 (図Ⅲ-100)

位置 M6/N6 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面 規模 $0.72 \times 0.24 / 0.10\text{m}$

平面形 不整な楕円形がふたつ連続する。時期 確認状況から縄文時代と考える。

F-3 (図Ⅲ-100)

位置 N8 立地 標高7.5m付近の緩斜面 規模 $0.98 \times 0.65 / 0.06\text{m}$

平面形 不整形 時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

F-4 (図Ⅲ-100)

位置 J40 立地 標高約10.6mの平坦面

規模 $0.45 \times 0.43 / 0.14\text{m}$ 平面形 円形

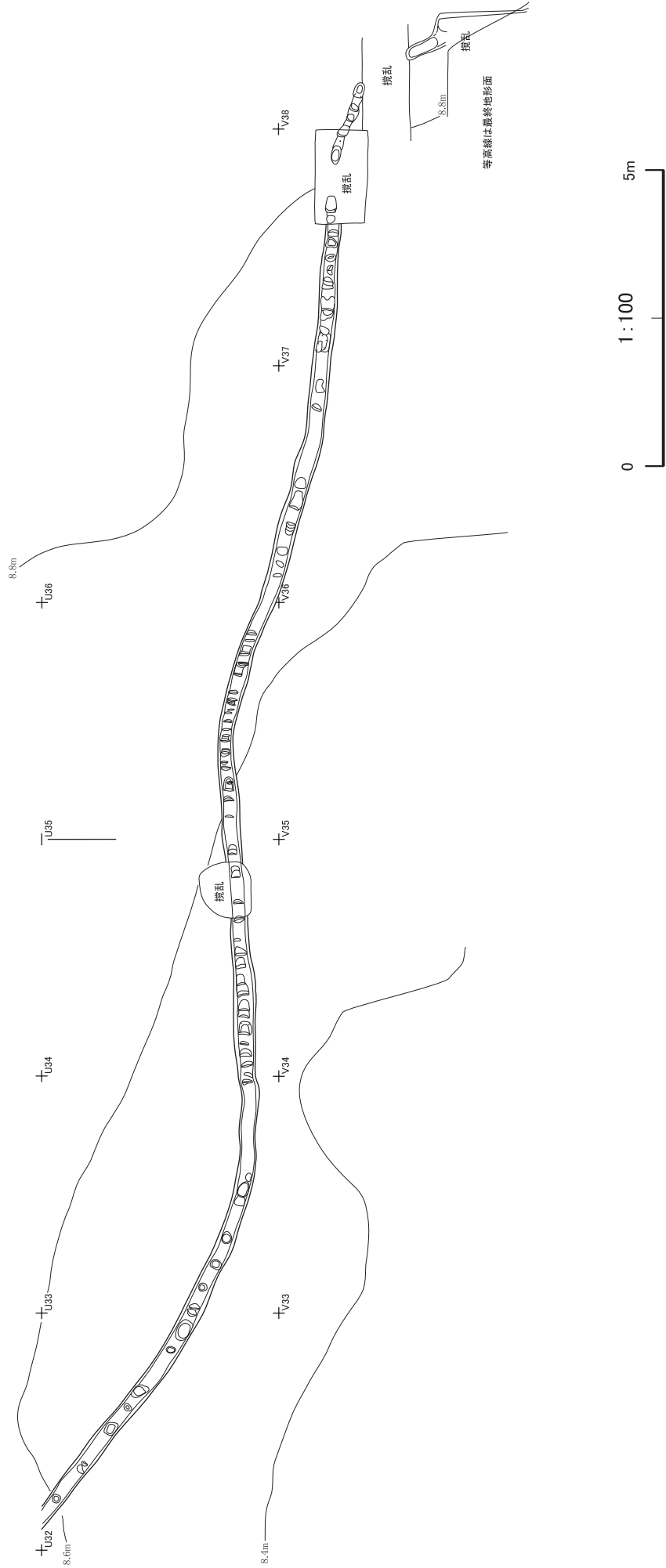
時期 周辺の土坑群と同じ縄文時代早期か、あるいは周辺の住居と同じ縄文時代前期後半かどちらかの時期と考える。(新家)

F-5 (図Ⅲ-100)

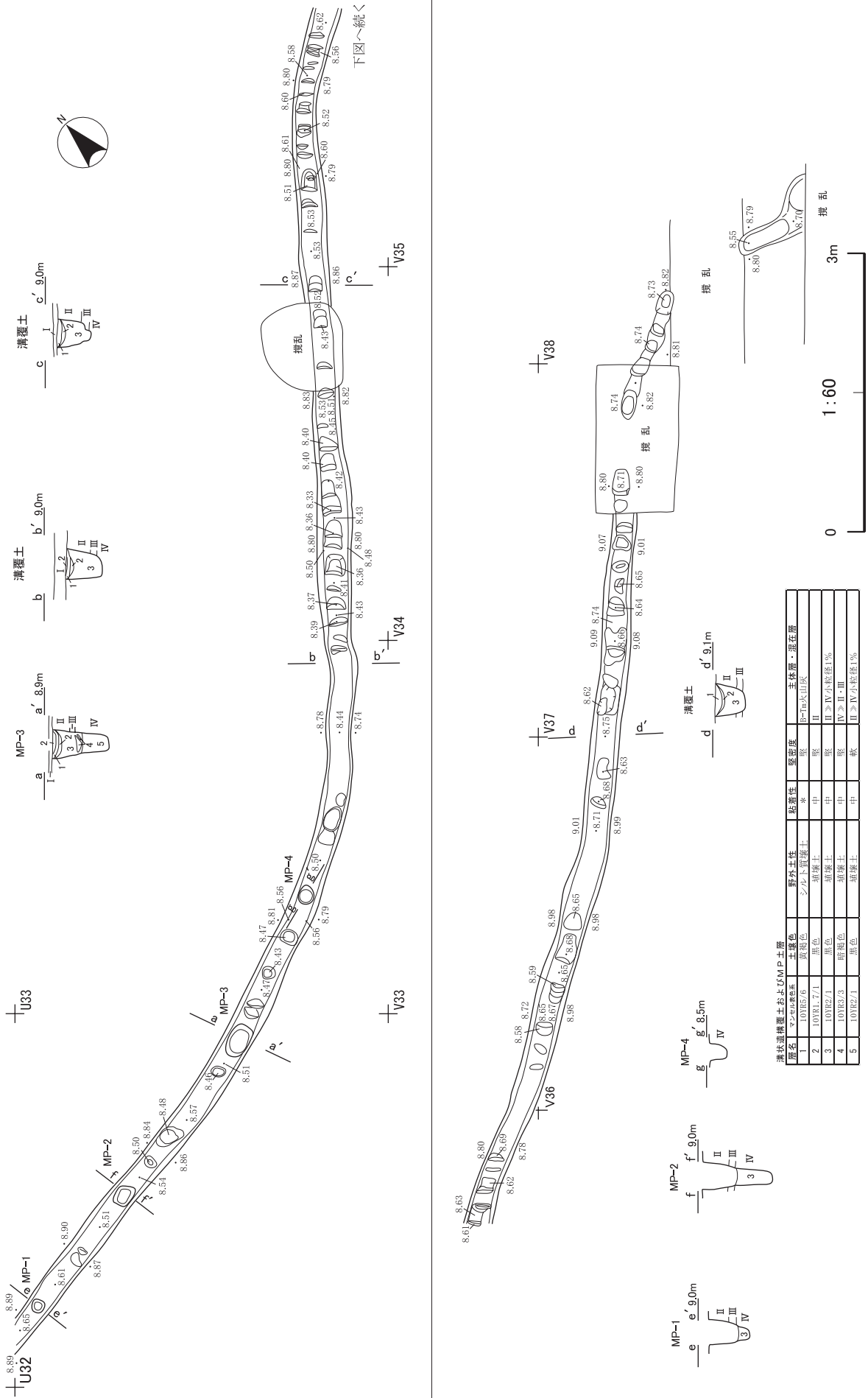
位置 Q36 立地 標高9.5m付近の緩斜面 規模 $1.46 \times (0.99) / 0.22\text{m}$

平面形 不整形 時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

溝状遺構(全体図)

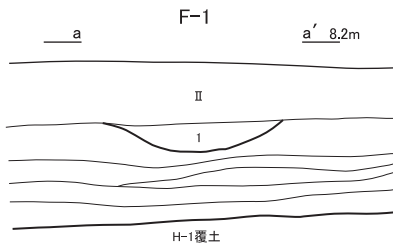
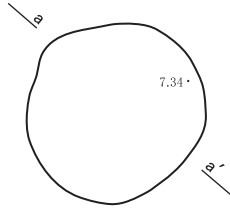


図Ⅲ-98 溝状遺構(1)



図III-99 溝状遺構 (2)

1018 F-1



F-1土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	5YR4/4	にぶい赤褐色	

109

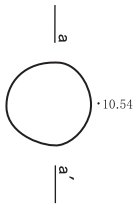
F-3



F-3土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	5YR4/6	赤褐色	壤土	中	堅	IVが焼ける

F-4



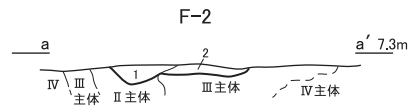
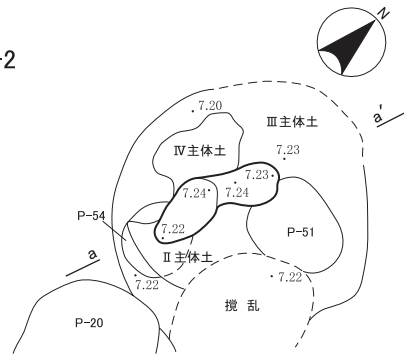
1041

F-4土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	7.5YR3/4	暗褐色	堆積土	中	堅	III+IVが焼ける

F-2

106

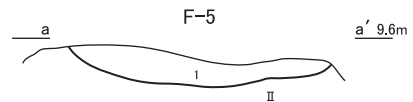
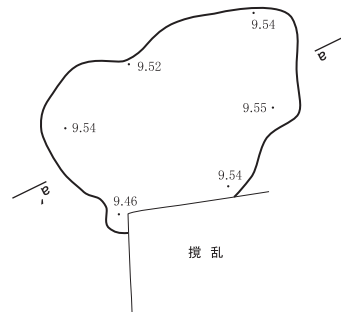


F-2土層

層名	マンセル表色系	土壌色	主体層・混在層
1	5YR6/8	褐色	
2	5YR4/6	赤褐色	

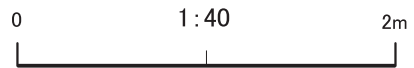
1036

F-5

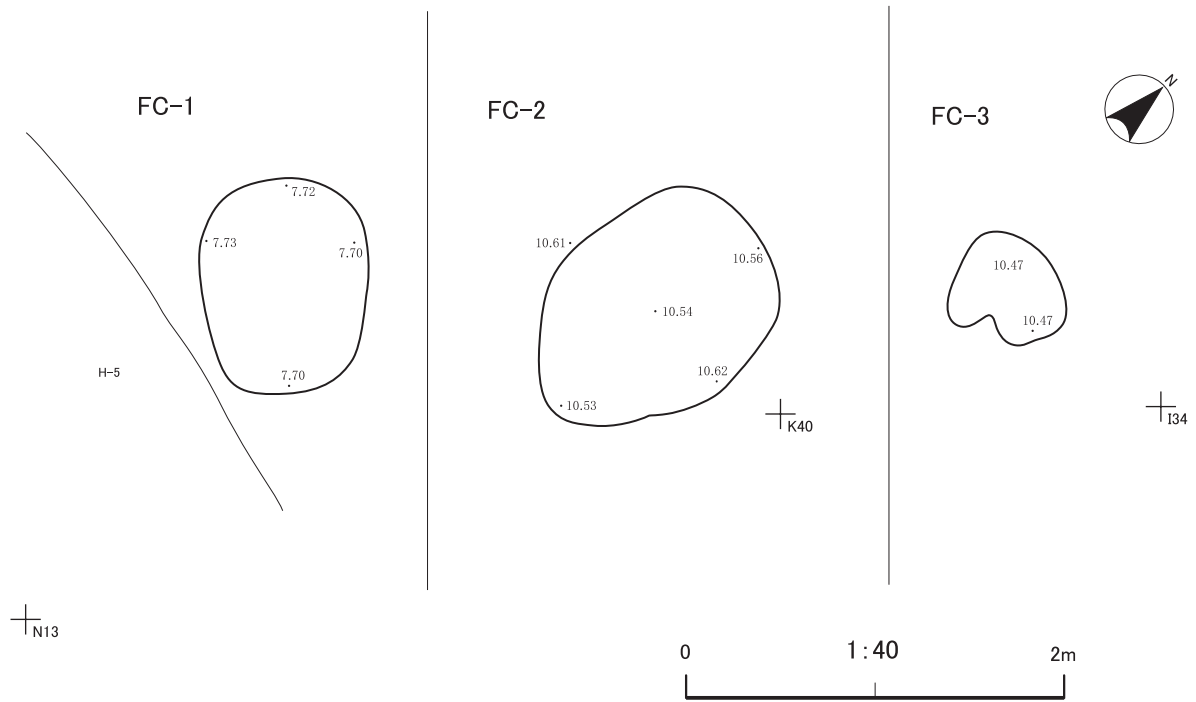


F-5土層

層名	マンセル表色系	土壌色	野外土性	粘着性	堅密度	主体層・混在層
1	5YR5/6	明褐色	堆積土~壤土	中	堅	炭化材混じる



図Ⅲ-100 F-1~5



図Ⅲ-101 FC-1～3

7. フレイク集中

出土石器はすべて頁岩製である。時期は縄文時代で、FC-2はP-61上部出土、FC-3はH-9掘り上げ土直下の出土で、それぞれ縄文時代前期後半以前の時期である。

FC-1 (図Ⅲ-101)

位置 M13 立地 標高7.7m付近の平坦面、H-5に近接する。

規模 1.14×0.89m

遺物 石槍またはナイフ片1点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー3点、石核2点、フレイク1,392点が出土した。

FC-2 (図Ⅲ-101)

位置 J39・40 立地 標高10.6m付近の平坦面、P-61上位に位置する。

規模 1.43×1.07m

遺物 I群b類土器6点、II群b類土器5点、石鏃片1点、フレイク816点が出土した。

FC-3 (図Ⅲ-101)

位置 H33 立地 標高10.5m付近の平坦面 規模 0.61×0.56m

遺物 両面調整石器1点、石核3点、フレイク58点、礫4点が出土した。(新家・愛場)

8. 遺構出土の遺物

(1) 竪穴住居跡出土の土器・土製品

1～9はSH-1出土のⅦ群土器である。2は覆土出土で、その他は床面もしくはカマド焼土周辺から出土した。1・2は甕の底部から胴部の復原土器で、底部は張り出し、器面には輪積痕が残る。内外面はハケメ調整が施される。1の底部外面には、笹の葉脈痕がみられる。3～8は甕である。3・4は口縁部で、3は口唇断面が丸みを帯び、4は角型となる。5～8は胴部である。5は4と同一個体の可能性があり、調整様の浅い横位沈線文がみられる。6・7は輪積痕が残り、7の内面には炭化物が付着する。8は小型の甕の底部付近で、内面は黒色、外面はタテミガキが施される。9は坏の底部である。内黒で内外面ともミガキが施される。

10～14はSH-2出土のⅦ群土器である。10はカマド焼土近くの床面直上で出土した。小型土器で、器高6.8cm、口径10.7cm、底径4.3cmである。口縁部と胴部の間にはわずかながら段がある。口縁は図正面以外打ち欠かれているが、4波状となりそうである。外面はハケメ調整後、胴部を中心にミガキが施される。内面はハケメ、ナデ調整がなされ、上半部には口縁割れ口を含め炭化物が付着する。11は小型の甕で、器厚は2～4mmと薄い。内外面ともやや粗いミガキが施され、黒色を呈する。12・13は同一個体の坏である。器厚は4mm程で、段状の沈線がみられるが、ミガキにより不明瞭となる。14は土製の紡錘車で、3.3cmと小型である。ヘラ痕ともとれる粗雑な沈線文が描かれる。

15～18はH-1覆土出土のⅠ群b-1類土器である。15はやや外反する口縁部で、無文地に縄線文が施される。16は横位の絡条体圧痕文の他、半円形の浅い刺突文がみられる部分がある。17・18はやや張り出しがみられる底部である。縄文は斜行もしくは横走気味となり、底部外面にも施される。15は東釧路Ⅱ式相当土器、16は東釧路Ⅲ式土器である。

19～23はH-3覆土出土のⅠ群b-1類土器である。19～21は内面に凹凸が残り、器厚が一定しない。19は口唇部がやや肥厚し、内外面にLR原体による縄文が施される。内面は縦位となる。20は撚糸文が施文される。21は細い綾絡文が4条みられる。22・23は東釧路Ⅲ式土器。22は底部で、側面に縦位の縄端圧痕文が押捺される。胴部は同一原体での羽状縄文となる。23は再生土製円盤未成品、片側からの穿孔を途中でやめている。

24～28はH-4覆土出土のⅣ群a類土器である。24は直径約4cmの深鉢底部で、割れ口は平坦に調整されており、この大きさに意図的に割られた可能性がある。多条のRL原体による縄文が施文され、内面には炭化物が付着する。25は2条の貼付帯上に縄線文が巡り、貼付間はナデられる。26・27は無文地に沈線文が施文される。26は縦の蛇行文、27は雷文などが描かれ、一部に細い縄文がみられる。28は底部付近で、細い無節の縄文が縦位に施される。

29はH-5覆土出土のⅡ群a類土器で、口縁部に押し引き文が3条巡り、LR原体の縄文が縦行する。

30～32はH-6覆土出土のⅣ群a類土器である。30は折り返し口縁となる。31は小型の鉢形土器で、沈線文と細い縄文が施文されている。32は深鉢の底部付近で、細い綾絡文が縦に施される。

33～39はH-7覆土出土のⅡ群b類土器である。33は円筒土器下層d1式で、器高37cm、口径21cm、底径11cmの筒型の深鉢である。口縁は緩やかな4波状で、底部は中央がやや窪み、上げ底となる。口縁部文様帯は2cm程で縄線文、羽状縄文が施される。胴部は自縄自巻の原体による施文で、下半では節がはっきりしない原体が使用される。34～39は円筒土器下層b～c式と考える。34～37は、いずれも口頸部に撚糸文が横走する。34・37は単軸絡条体6A類で、34は断面三角形の隆帯があり、胴部は反撚・正撚の合撚の原体による縄文である。35は床直上出土である。38は薄い隆帯を挟んで上に一条、下に2条の平行沈線があり、貼付上には斜めに刺突様の沈線が施される。39は直径6cm程の上げ底の

底部である。

40～43はH-8出土のⅡ群b類土器である。40は円筒土器下層d2式で、底部が床面出土であるが、主体は覆土中出土である。胴部上半から口頸部へかけ張り出し、口縁部は4波状で開く器形となる。波頂部は窪み双頭状となる。口唇断面は三角形で、縄による縦キザミが入られる。口頸部には無文地にLR原体を折り返して2本1組とした縄線文、胴部にはLR原体の斜縄文が施される。41～43は床面出土で、円筒土器下層b～c式と考える。41・43は同一個体で、口径40cm以上の大型の深鉢になりそうである。口頸部には絡条体圧痕文が横位に7条施され、その下に薄い隆帯が巡る。胴部は撚糸文で、底部付近では縦位、斜位に施され、網目文状になる。42は摩耗するが、口縁直下に縄線文が確認できる。

44～57はH-9出土のⅡ群b類・Ⅲ群a類土器である。44がHP-11坑底から出土した以外は、覆土中出土で、覆土上位からは円筒土器下層d2式～円筒土器上層a式にかけての土器がまとまって出土した。

44～46・56は円筒土器下層d1式と考える。44・45は胴部がやや膨らみ、口縁が開き気味となる器形で、胴部には縄文が施される。いずれも摩耗が激しく文様のはっきりしないが、44は縄線文・結束羽状文、45では3条の縄線文が確認できる。46は器高15cm、口径14cm、底径7.4cmで、斜めに開く器形となる。縄線文、結束羽状縄文、撚糸文が施文される。底部は上げ底となる。内面はヘラ状工具でミガキ調整が行われる。56はやや上げ底の底部で、胴部と底部外面に撚糸文が施される。

47～51・53・55は円筒土器下層d2式である。多くは口縁部が強く外反し、底部から口縁部にかいまっすぐ(48)、もしくは斜めに直線的にひろがる(50・51・52・55)筒型となる。胴部がやや張り出す(47・49)ものもある。口縁部は4波状(48～52)が多く、双頭の突起(49・52)や四角形の突起(51)があるものがある。口頸部文様帯には折り返して2条1組とした縄線文(47・49)、撚りの違う原体による矢羽状縄線文(51・52)、絡条体圧痕文(50・53)が数条横位に施される。胴部地文は縄文、撚糸文、多軸絡条体回転文がある。内面や底部外面はいずれもよく磨かれており、底部外面は中央がやや窪み、無文となるものが多い。

47は平縁で1か所にのみ突起がある。縄線文が横位、縦位に施される。口唇はヘラ状工具によるキザミが突起部以外全周する。胴部は撚糸文か。49は推定で器高45cm、口径34cm、底径15cmである。底部付近の破片2点は、H-10覆土からの出土である。LR原体による縄文が施され、口唇には細いキザミが入られる。50は推定で器高32cm、口径21cm、底径11cmである。薄い隆帯と口唇には縄端の圧痕文がみられる。器面は摩耗が激しく、胎土の角礫が露出する。51・53・55は多軸絡条体の回転施文がなされる。51は口唇にも回転施文される。53は絡条体圧痕文と刺突列、55は貼付上と口縁に縄線文、刺突列が施される。

52・54は円筒土器上層a式とした。いずれも縦位の貼付をもち、撚りの異なる原体による矢羽状縄線文、胴部には縄文が施される。52は器高43cm、口径33cm、底径15cmで、底部から口頸部まで斜めに直線的にひろがる。口縁部は開き、4波状となる。波頂部は双頭となり、その内面は、つまみだされたような形状になる。頂部からは縦位の貼付が垂下し、その貼付下位には四角形の貼付が付帯する。口頸部と胴部の間は、内面からの成形により張り出しており、外面からは隆帯にみえる。文様は縄線文、刺突文が施される。54は4波状で、ボタン状の貼付がある頂部と、器内面から2本の貼付が垂下する頂部がある。波頂部下の胴部には、縦位に綾絡文が施文される。57は土器片再生円盤である。

58・59はH-10出土のⅡ群b類、円筒土器下層d1・d2式である。58は縦位貼付がはがれた跡がある。口頸部には矢羽根状の縄線文が施され、上から3条目のみ矢羽根の向きが逆になる。胴部は多

軸絡条体回転文が施文される。59は横位撚糸文、刺突文、結束羽状縄文が施される。

60～62はH-11出土で、60は円筒土器下層 d 1 式、61は円筒土器上層 a 式か。61は縄線文、縄端圧痕文が施される。62は床面出土で、綾絡文が縦位に 2 条みられる。

63はH-12出土のⅡ群 b 類土器胴部、結束?の羽状縄文がみられる。

64はH-13出土で、R 原体による縄線文と縄文がみられる。Ⅰ群 b-1 類土器か。

65～70はH-14出土のⅣ群 a 類土器である。65・66は床面、床直上出土で、それ以外は覆土中出土である。65は胴部に貼付帯が 2 条巡り、貼付後に縄文が施されている。66・68は縄線文が施されるもの。66は口唇直下の貼付帯上に縄線文が施される。68は広く剥落するが、3 条の平行縄線文が確認できる。67は縄文が縦位に施文される。69・70は胴部から底部までの破片で、開きの少ない細長い器形となる。69は多条 L R 原体の縄文で、底部付近では R L 原体による縄文も一部みられる。70は底側面がやや張り出す部分があり、上げ底となる。

71～74はH-16出土のⅣ群 a 類土器で、72～74は床面出土である。71は内外面に横位のミガキ調整がみられる。72は尖り気味の口縁で R L 原体の縄文が斜行、横走する。73は細い縄文が施される。74は底部付近の破片で、内外面にハケメ痕が残る。

75～77はH-17覆土出土である。75・77はⅣ群 a 類土器、76はⅢ群 b 類榎林式か。75は口唇角型で、縄端の圧痕文?が 2 条施される。

78・79はH-18出土のⅣ群 a 類土器である。78は波状口縁で複節縄文が施文される。79は口縁に無文部があり、口唇は折り返し状となる。

80・81はH-19覆土出土のⅠ群 b-1 類土器である。80は R L 原体による縄文が施され、内面は横位、斜位に調整痕がみられる。81は底部縁がリング状に高まる。

82～102はH-20出土のⅠ群 b-1 類土器である。83・85・93・98は床面・床直上出土で、その他は覆土出土である。東釧路Ⅱ式土器に相当する土器群である。

82は床面から 5 cm 程上の覆土中から横倒しの状態で潰れて出土した。器高 33cm、口径 30cm、底径 7 cm 程で、口径と底径の差が大きい深鉢土器である。口縁部はやや開き、平縁だが縄端の押捺により小波状気味となる。底部は張り出し、底面は周縁が貼付のよりリング状に高まる。口縁から胴部にかけては R 原体の縄端回転文が 5 条横環する。同様の文様は胴部下半部にも 2 条施され、その条間には幅 3 cm 程の縄線文が間隔をあけて施文される。縄文は R 原体の無節斜行縄文が施されるが、一部横走気味をなす部分もある。底部外面には縄端圧痕?がみられる。器内面は条痕が一部みられるが概ねナデによる調整で、凹凸を残す。胎土には砂粒、垂角礫が多く混じる。83は床面出土で、底部から胴部の復原土器である。底部から胴部に向け斜めに広がる器形で、底面は周縁がリング状に高まる。胴部・底部外面には、L R 原体による縄文が斜行、横走する。器内面は条痕が一部みられるが、概ねナデによる調整で、凹凸を残す。胎土には砂粒が多く混じる。

84～89は縄線文が施される。縄線文は平行 (85・86・88・89)、斜め (84・87)、縦位 (86) のものがあり、84では同一原体を用いた縄端圧痕文が条間に施される。内面は横位の調整痕 (84)、縄文 (86)、調整が不明瞭で凹凸が残るもの (85・87・88・89) がある。84・88は同一個体で、R L 原体による縄線文、縄端圧痕文、縄文が施される。縄文は縄端を意識し横位に回転させ、やや段状となる部分があり、施文の方向を変え切り合う部分もある。88では無文地と縄文地の間に全周しない縄線文がみられる。85は綾絡文が数条みられる。縄文は口縁部では斜行、綾絡文の下は切り合っている。口唇には縄によるキザミが入られる。90は押し引き文と刺突文がみられるものでⅡ群 a 類土器の可能性もある。

91～98は縄文が施される。斜行縄文(91・95・96)を基本とするが、施文の方向を変え切り合う(93・94・97)ものがある。口唇(93～97)、内面(94・96)にも縄文が施される。91は口径11cm程の小型土器である。92は口縁無文部に斜めに原体を置いての縄文施文を繰り返し、文様を構成する。93は綾絡文が数条みられ、口唇にはR原体による縄文が施文される。内面には横位調整痕が残る。94は胎土に5mmから2cm程の砂粒が多く混じる。97は口唇がやや肥厚する。98は底部付近で、張り出しのある底部となりそうなものである。

99～102は底部である。99～101は底部外面周縁がリング状に高まるもので、底面には縄文が施される。100は高台が高く、102は底部外面が平らで、比較的底面の厚みがある。

103・104はH-21覆土出土のⅡ群b-1類土器で、103には綾絡文、104には斜位の縄線文がみられる。

105～108はH-22出土のⅡ群b類土器、円筒土器下層b～c式である。105・106は隆帯があり、口縁部が大きく開く器形となる。105は口頸部に撚糸文施文後、ナデやヘラ状工具による横位調整をして、縦位の縄線文を施している。106は不整の綾絡文、107は合撚の原体による縄文が施文される。108は縄文が施される直立気味の底部である。

109～113はH-23覆土出土のⅡ群b類、円筒土器下層c式である。109は器高31cm、口径28cm、底径16cm程、底部から口縁にかけ斜めに広がる器形で、口縁は4波状となる。隆帯には棒状工具による斜め横からの刺突文が施される。口頸部には不整の綾絡文、胴部と底部外面には撚り戻し原体による縄文が施文される。110は胴部から口頸部にかけわずかに斜めに広がり、ややくびれて口縁部が開く器形である。口縁は4波状で口縁断面は丸味をもつ。複節の斜行縄文が施文される。111は不整の綾絡文と縦位沈線文が施される。112は無文地、113は複節縄文地に縄線文がそれぞれ施される。

114～115はH-24覆土出土のⅡ群b類土器である。114は絡条体圧痕文がみられる。115は貼付帯のある胴部で、撚糸文が施される。116はH-25覆土出土のⅡ群b類土器である。摩耗がはげしいが縄線文、撚糸文が確認できる。

117・118はK54区Ⅱ層出土のものがほとんどであるが、H-27覆土出土の土器片が2点接合したためH-27出土として扱った。Ⅱ群b類、円筒土器下層b～c式と考える。117・118は同一個体で、口縁部には無文地に網目状撚糸文、胴部には多軸絡条体回転施文がみられ、底部は上げ底となる。

119・120はH-28覆土出土のⅡ群b類土器である。口縁部は無文で、やや開き気味となる。

121～123はH-29覆土出土のⅡ群b類土器である。121は円筒土器下層d1式とした。器形は器高35cm、口径28cm、底径13cm程で、筒形で口頸部がややくびれて開く器形である。口頸部文様帯は5cm程度で横走する撚糸文地に縄線文が上から2条・1条・3条と施される。胴部と底部外面には撚り戻しの原体による縄文が縦行する。122は覆土下部出土で、撚糸文が施される。123は底部で摩耗が激しい。

(2) 土坑・Tピット出土の土器・土製品

1・2はP-1出土のⅠ群b-4類土器、3はP-3出土のⅡ群b類土器胴部である。4はP-10出土で、器厚が3～4mmで、口唇に縄側面の押捺がある。Ⅰ群b-4類土器か。

5はP-14出土のⅡ群b類土器で、文様ははっきりしない。胎土には繊維が多く含まれる。

6はP-11出土のⅣ群a類土器である。口縁直下に薄い貼付帯が巡り、多条LRの原体を貼付上では横位、それ以外では縦位に施文する。

7はP-17出土のⅡ群b類土器で、撚糸文が施される。胎土には繊維・砂粒が混じる。8はP-19出土のⅣ群a類土器で、同一の破片が27点出土している。口縁部は肥厚し、波状となり、LR原体による縄文が横走する。

9はP-20、10はP-22、11はP-23、12はP-24出土のⅡ群b類土器である。9・10には撚糸文、11は撚り戻し原体による縄文が施される。13はP-26出土のⅣ群a類土器である。14はP-28出土のⅡ群b類土器で、摩耗により文様は不明である。

15～17はP-31出土のⅣ群a類土器である。15・16は無文部、17は綾絡文と羽状縄文が施される。

18～32はⅡ群b類、円筒土器下層b～c式である。18・19はP-33出土の胴部と底部で、底部外面には縄文が施される。20・21はP-39出土で、20は隆帯、21には撚糸文がみられる。22はP-40出土で、合撚の原体による縄文が施文される。23・24はP-42出土の胴部と底部である。25はP-45出土で不整の綾絡文が施される。26はP-46出土、27はP-47出土、28はP-50出土である。28は結束羽状第1種である。29・30はP-59出土で、同一個体である。撚糸文が口頸部では横位、胴部では縦位に施文される。底部は上げ底となる。31はP-60出土で、撚糸文が施文される。32はP-61出土で断面三角形の隆帯がある。

33～39はⅠ群b-4類土器である。33はP-68、34はP-71、35はP-72、36はP-75、37はP-77、38はP-78、39はP-79出土である。33・36には絡条体圧痕文、38・39には自縄自巻LRとLL原体による羽状縄文が施文される。

40はP-84出土のⅠ群b-1類土器で、内外面にRL原体による縄文が施される。41はP-87出土のⅠ群b-3類土器で、細い縦位の貼付や絡条体圧痕文が確認できる。

42～46はP-89出土である。42・43・45は円筒土器下層a～b式、44・46は春日町式土器である。42は直線的に開く器形で、口縁部と胴部に横位に綾絡文が数条施される。地紋はLR原体による縄文である。43は断面三角形となる隆帯があり、撚り戻し原体による縄文が施される。45は胴部に反撚・正撚の合撚の原体による縄文が施文される。底部には細い格子状の沈線文が描かれる。44・46は押し引き文が施される。44は縄文施文後、横位、縦位に押し引きされ、一部沈線状になる部分もある。46は尖底部である。

47はP-94出土のⅠ群b-3類土器である。

48はP-96覆土出土のⅠ群b-4類土器である。器高27cm、口径30cm、底径4.5cmで、口縁は2突起となる。口縁部は縄線文で幾何学文が描かれ、胴部は撚りの違う原体による羽状縄文が施文される。底面は小型でやや窪む。49はP-98出土のⅡ群b類土器の胴部である。

50・51はP-99出土の円筒土器下層b式である。50は坑底から5cm程上位で横倒しで出土した。器高約24cm、口径18cm、底径10cm程の筒形で、断面形が三角形の隆起帯が巡る。口頸部はLR原体の縄文、胴部および底部は反撚・正撚の合撚りの原体により縄文が施文される。内面は剥落、摩耗し、胎土に繊維が多く混じる。51は緩やかな波状口縁となりそうで、隆帯上は指頭による圧痕文がみられる。

52～55はP-100出土のⅡ群a類土器である。52は縦位押し引き文がある尖底部で、上位にはRL原体による縄文が施文される。53・54は平縁で、縄文が施文される。53は口縁から胴部まで多条RL原体を横位に、それより下位は縦位に施文する。54は多条LR原体を横位、縦位に交互に施文し、羽状としている。55は横位の押し引き文がみられる。

56・57はP-101出土のⅣ群a類土器で、56は沈線文間に櫛状工具による細い沈線が充填する。

58～60はP-102出土のⅠ群b-3類土器である。58は微隆起間に調整痕が残り、一部絡条体圧痕文が施される。60は底部で微隆起間は縄側面圧痕文が施される。微隆起に沿って縄線文が施される部分もある。

61～72はP-104出土のⅠ群b-1類、東釧路Ⅱ式相当の土器である。65～68・71は底面から出土した。61・62は無文地に縄線文が施されるもので、61はやや撚りのゆるい縄線文が施される。63～65

は綾絡文が施文されるものである。64は綾絡文のみがみられる。65は綾絡文間にRの無節縄文、それ以外はLR原体による縄文が施文される。66～69は縄文が施されるものである。斜行縄文(66～68)・縦行縄文(69)がある。68は斜行縄文が一部縦気味になる。口縁はややうねるが概ね平縁である。内面はヘラ状工具で調整される。70～72は底部である。いずれもLR原体による斜行縄文が施文される。70は底部側面に縄端の縦位圧痕文が押捺される。底部外面は平らに調整され無文である。71・72は底部外面周縁が貼付により高くなる。

73～75はP-105出土のI群b-1類、東釧路Ⅱ式相当の土器である。73は波状口縁に沿って無文部に縄線文が施される。胴部縄文は縄端を意識して横位回転し、段状になる。74も縄端を意識し、横位、縦位に施文される。75は縄線文間に2又の工具による刺突文が施される。

76～78はP-107出土のⅡ群a類土器か。いずれも縄文のみが施され、76・78には内面にも縄文がみられる。76は胴部が張り出し。口縁部がややくびれる器形となる。平縁で、口唇は縄文施文後なでられ、文様が不明瞭となっている。77・78は撚りの違う原体による羽状縄文となる。78は切り合いが激しい。

79～92はP-108出土のI群b-1類、東釧路Ⅱ式相当の土器で、79・80は縄文のみが施される復原土器である。79は器高28cm、口径26cm、底径5.6cm程の深鉢形土器で、底部から胴部まで大きくひろがり、口縁部にかけてやや直立気味になる。全体にややゆがむ。LR原体による縄文が斜位、縦位に向きをかえて施され、口唇や内面口縁部付近にも縄文がみられる。内面は指頭による凹凸が残り、胴部から底部は横位に条痕がみられる。胎土には砂粒が混じる。80は器高13cm、口径約16cm、底径は約6cmの小型の鉢形土器である。多条LR原体による縄文が斜行するが、一部横走気味となる部分もある。底部外面や内面全体にも縄文が施される。

81～87は縄線文が施されるもの。81は隆帯があり、その上下に平行して縄線文が施される。隆帯上は縄端圧痕文が施文される。口唇は棒状工具先端でのキザミが入れられ、小波状気味となる。82は撚りの緩い縄線文がみられる。83は多条の原体による平行、斜行の縄線文と縄端圧痕文が施文される。口唇と胴部には同じ原体による縄文が施される。84はやや波状となる縄線文が施文され、胴部、口唇部、内面に縄文が施される。85・86は斜位の縄線文がみられる。87は縄線文により円弧状の文様が描かれる。縄線間は2又の工具による刺突文が充填される。

88は平組紐の端部および側面の圧痕文がみられる。89は綾絡文が施文される。

90～92は縄文が施されるもの。90・91は縄端を意識し、やや段差ができるものである。92は内面にも縄文があり、口唇には縄側面が押捺される。

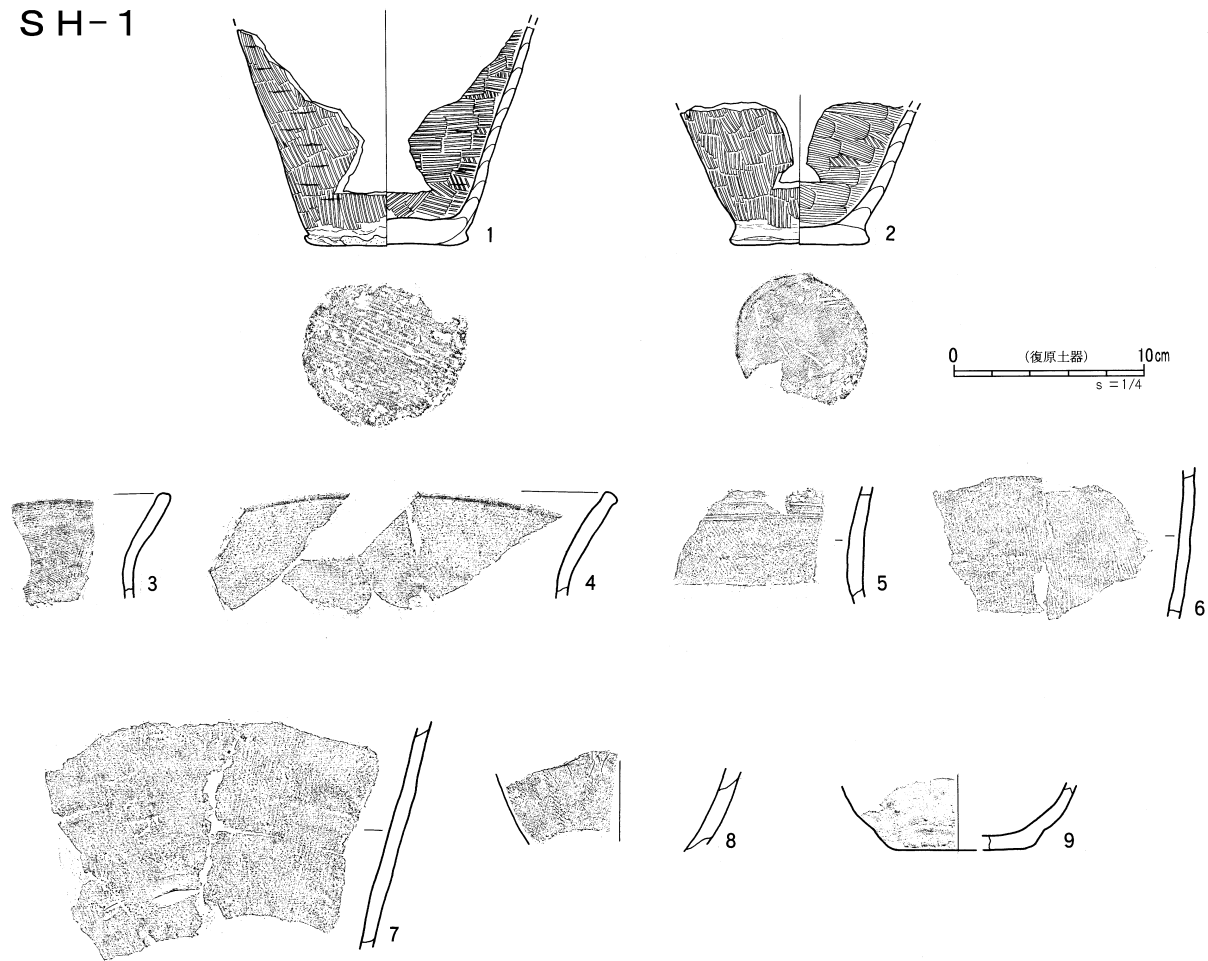
93はP-111出土のI群b-4土器、94はP-112出土のI群b-4類の土器片再生土製品である。

95～105はP-113出土のI群b-1類、東釧路Ⅱ式相当の土器である。95～97は縄線文が施される。95は平行、斜行、波状の縄線文により文様が構成され、縄線文下には斜位の縄端圧痕文がみられる。胴部には綾絡文、太さの違う原体を合わせたRL縄文が施文される。97は平行、斜行、縦行、円弧状のLR原体による縄線文により文様が描かれる。明瞭ではないが渦巻き状となる部分もある。98・99は同一個体で綾絡文が数条みられるものである。100～102は縄文のみのもので、いずれもRL原体による縄文が施される。101は縦行縄文となり、内面にも1cm程の幅で縄文がみられる。103～105は底部で、側面がやや張り出す。103・104は底部外面周縁に高まりがあり、上げ底となる。104の内面には指頭痕が複数残る。105は底部外面が平らに調整される。

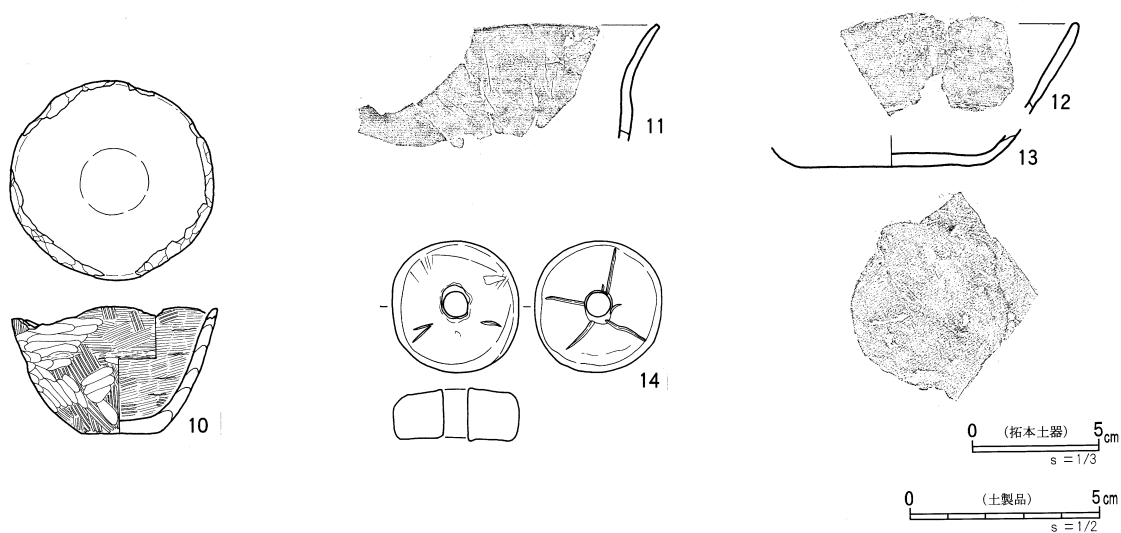
106はP-116、107・108はP-117、109はP-118、110はP-129出土のI群b-4類土器である。

111はP-131出土のI群b-1類土器で、摩耗するが、RL原体による縄文を、向きを変え施文し

SH-1

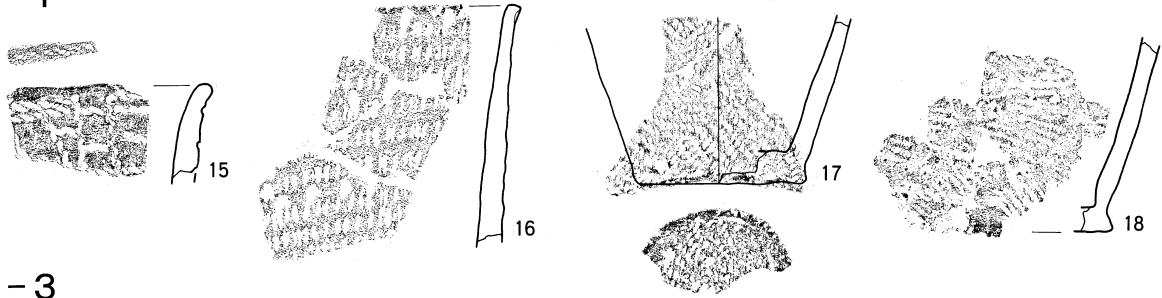


SH-2

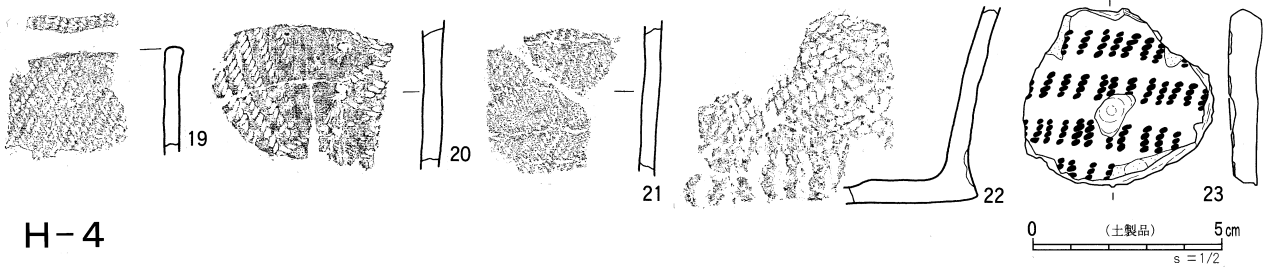


図Ⅲ-102 SH-1・2出土の土器・土製品

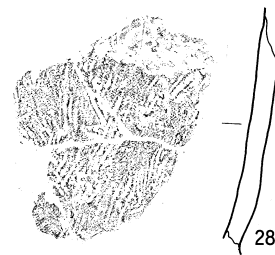
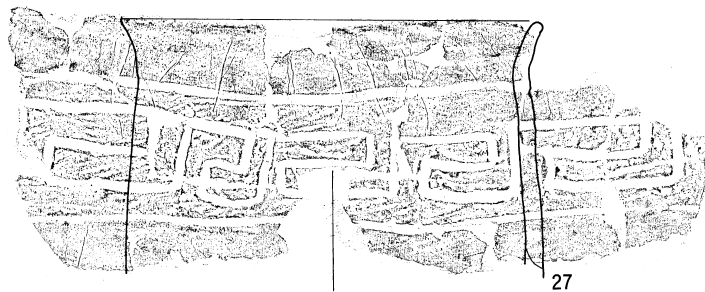
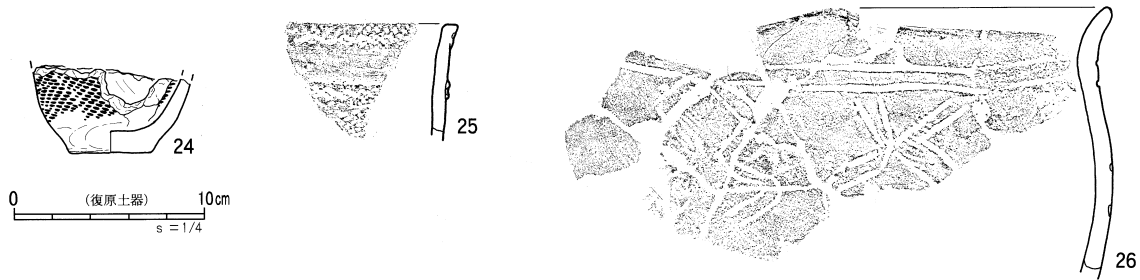
H-1



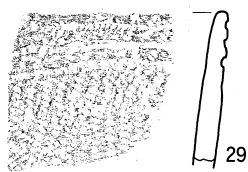
H-3



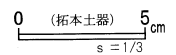
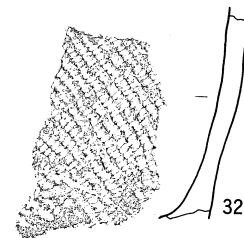
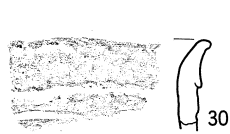
H-4



H-5

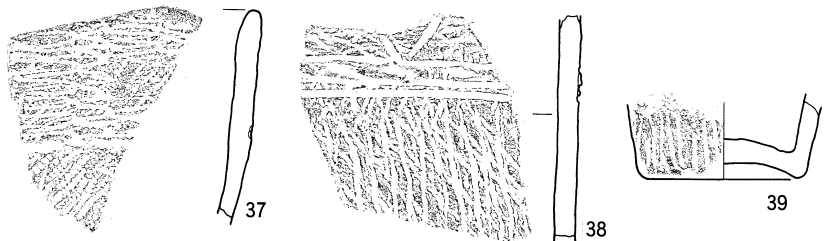
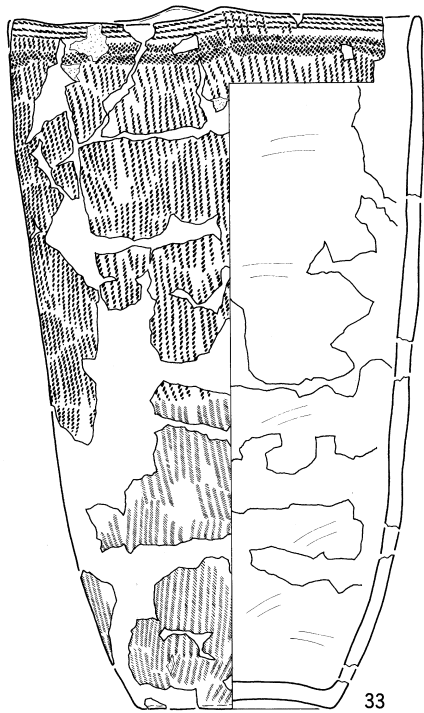


H-6

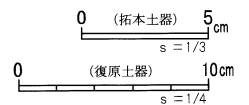
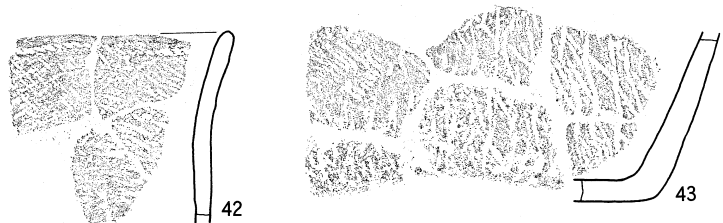
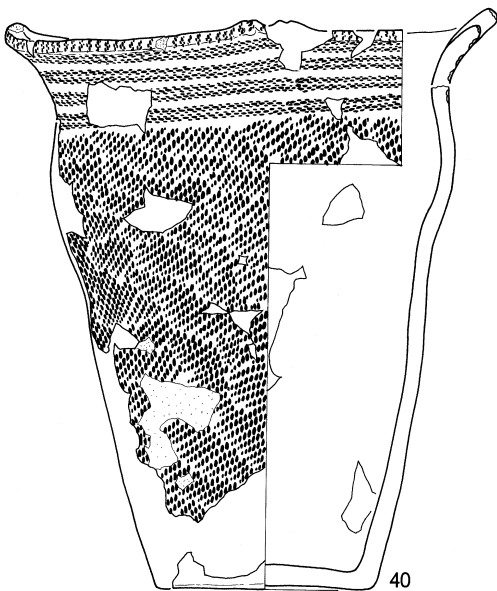


図III-103 H-1・3～6出土の土器・土製品

H-7



H-8



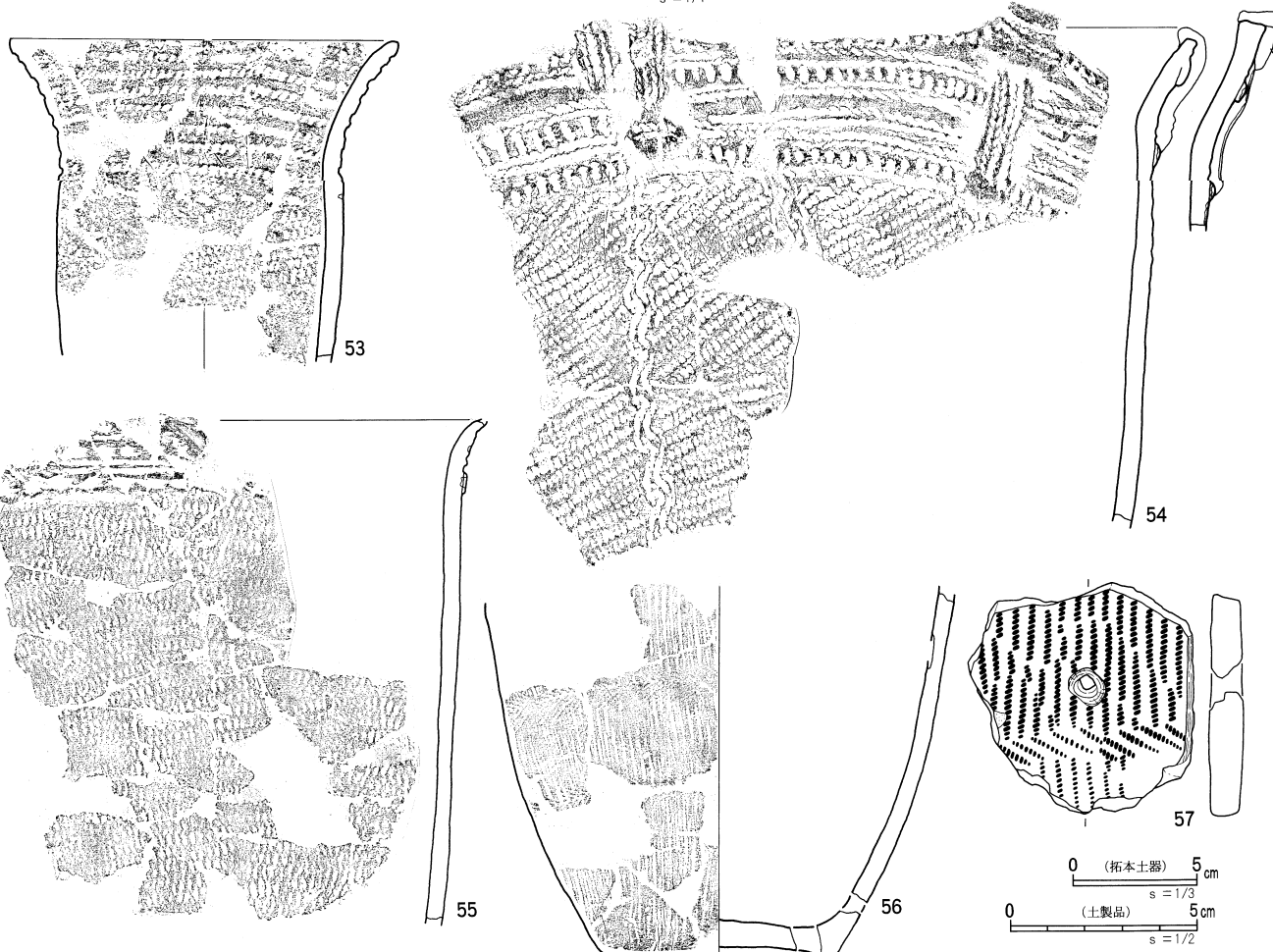
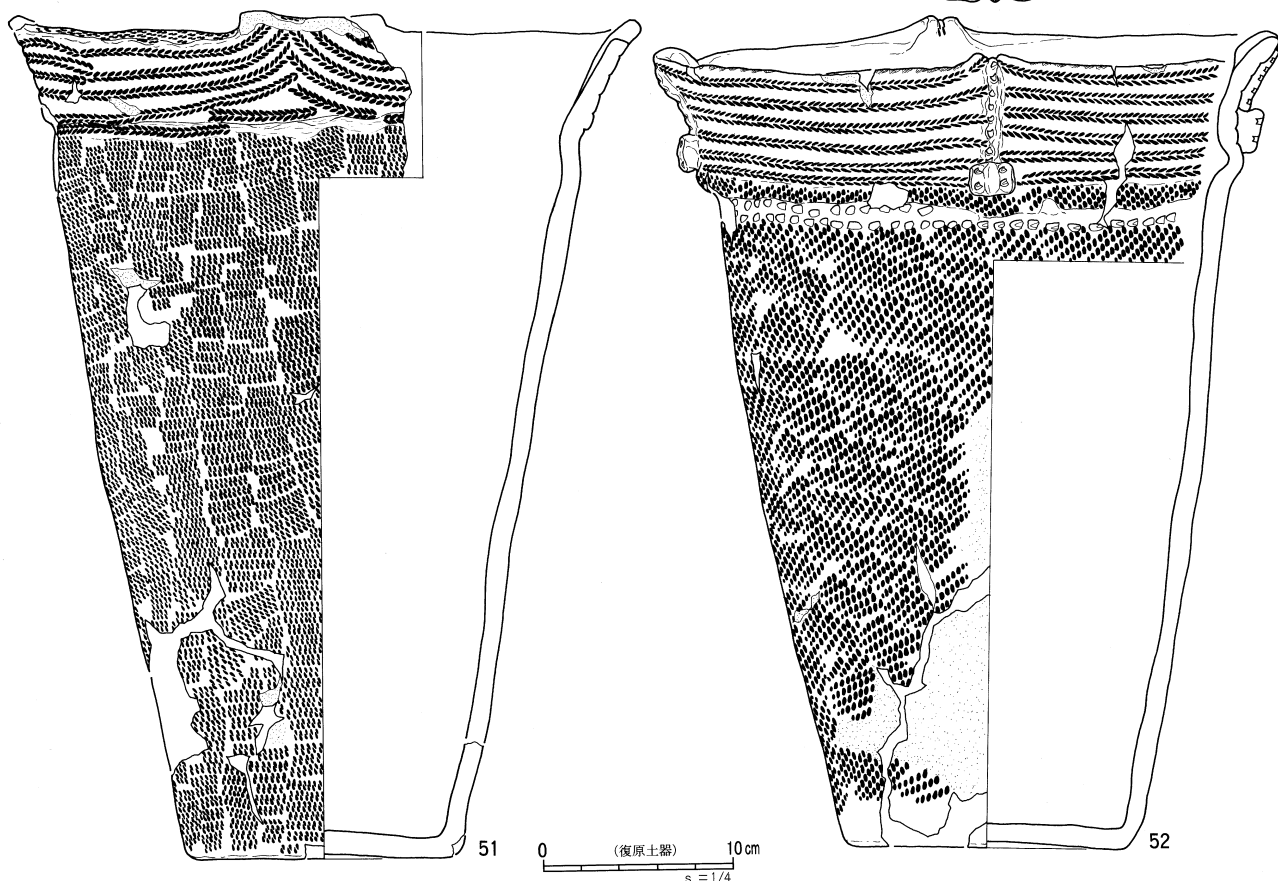
図III-104 H-7・8出土の土器

H-9



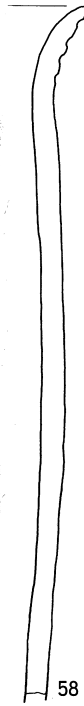
図III-105 H-9出土の土器(1)

H-9

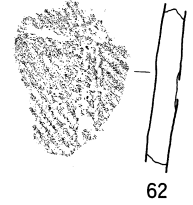
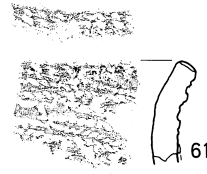
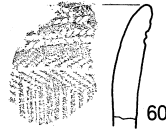


図Ⅲ-106 H-9 出土の土器 (2) ・土製品

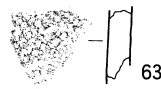
H-10



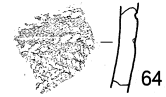
H-11



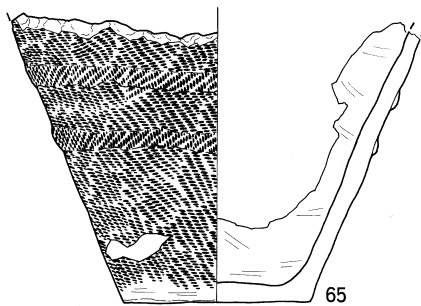
H-12



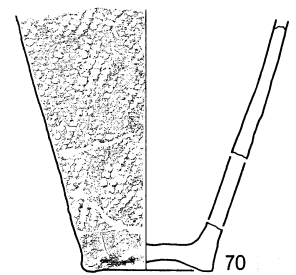
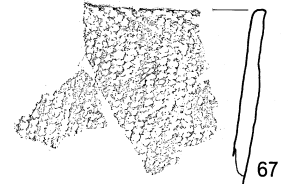
H-13



H-14



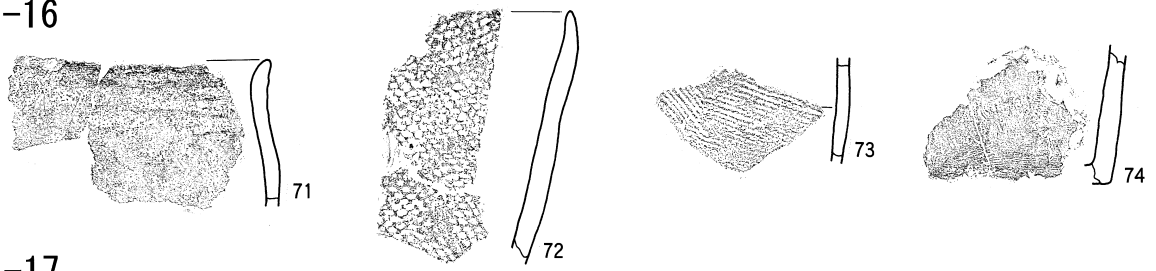
0 (復原土器) 10cm
s = 1/4



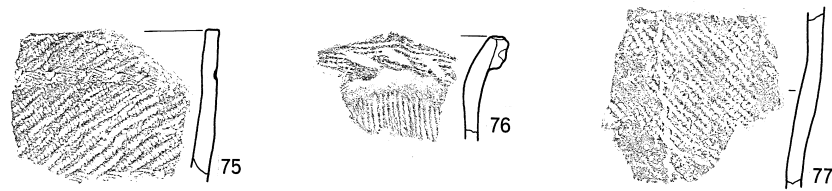
0 (拓本土器) 5cm
s = 1/3

図III-107 H-10~14出土の土器

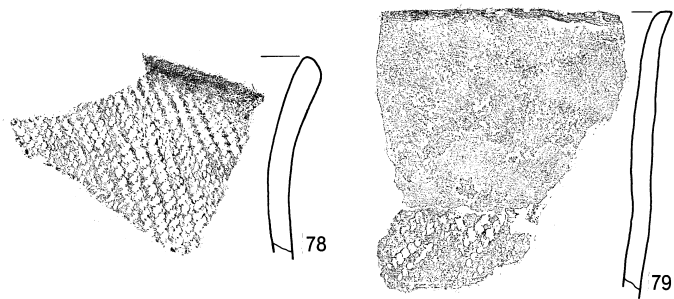
H-16



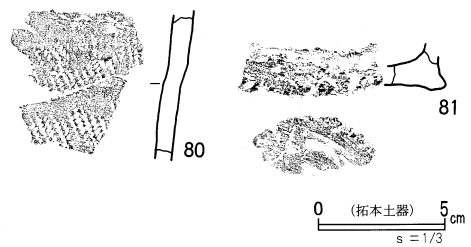
H-17



H-18



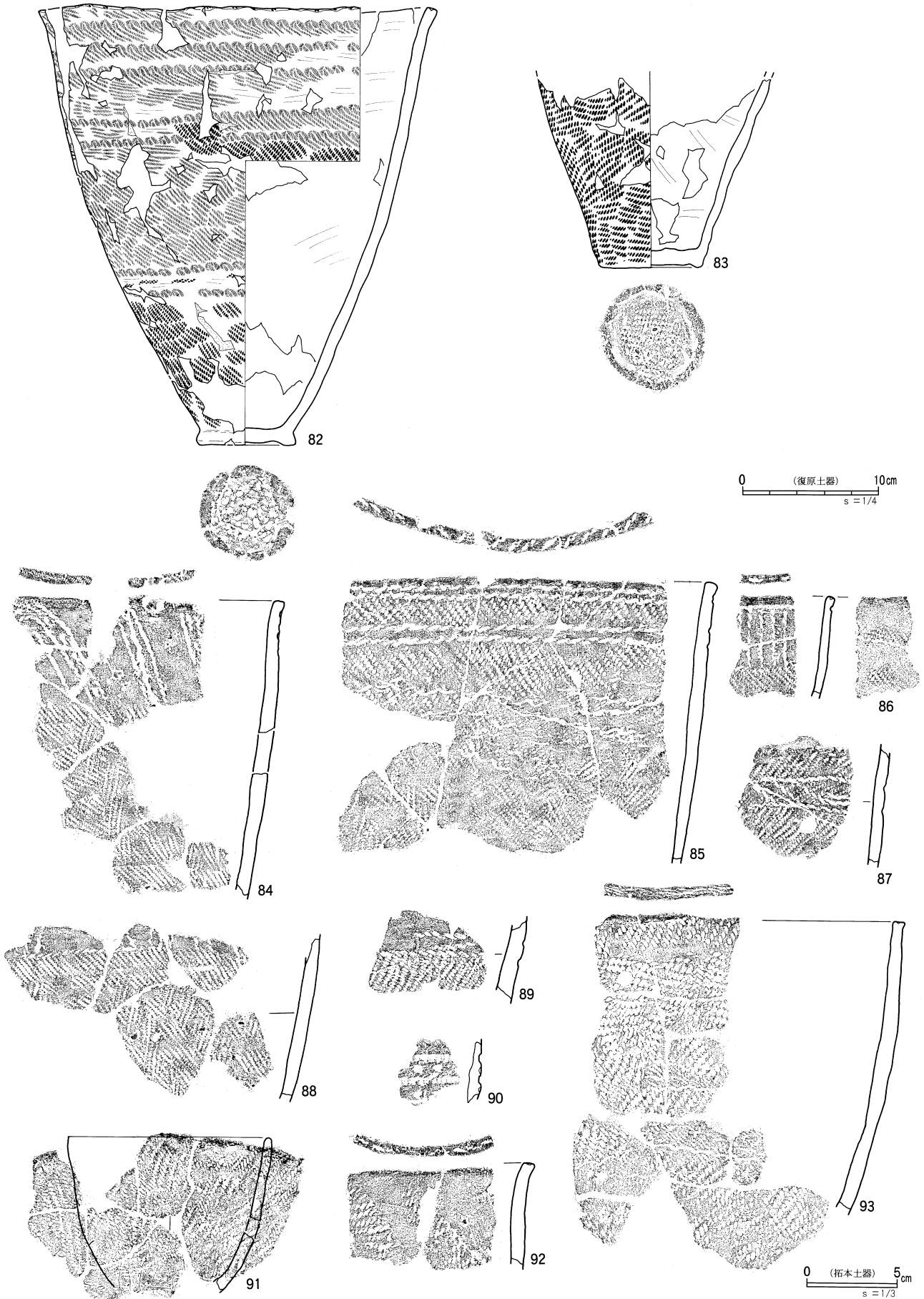
H-19



0 (拓本土器) 5cm
s = 1/3

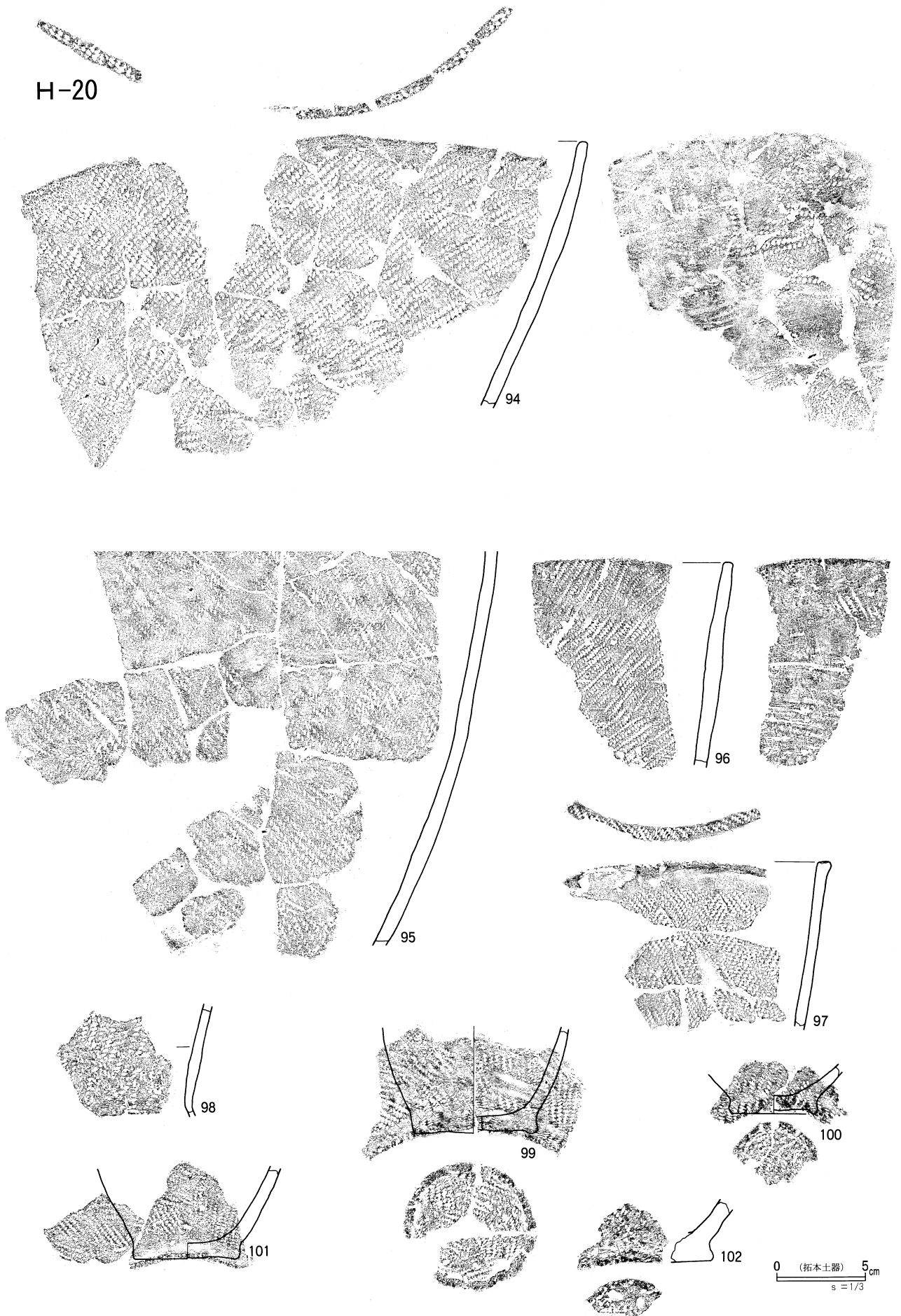
図Ⅲ-108 H-16~19出土の土器

H-20



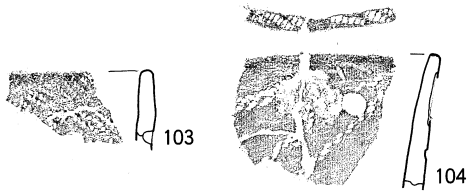
図III-109 H-20出土の土器(1)

H-20

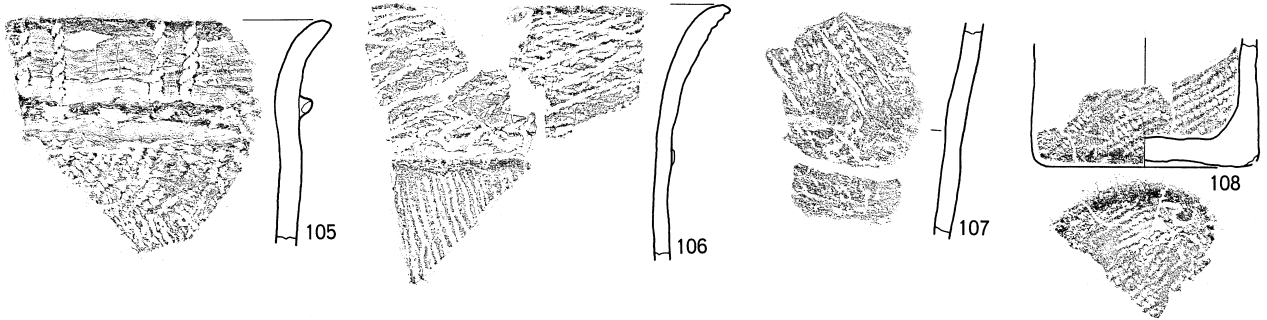


図Ⅲ-110 H-20出土の土器(2)

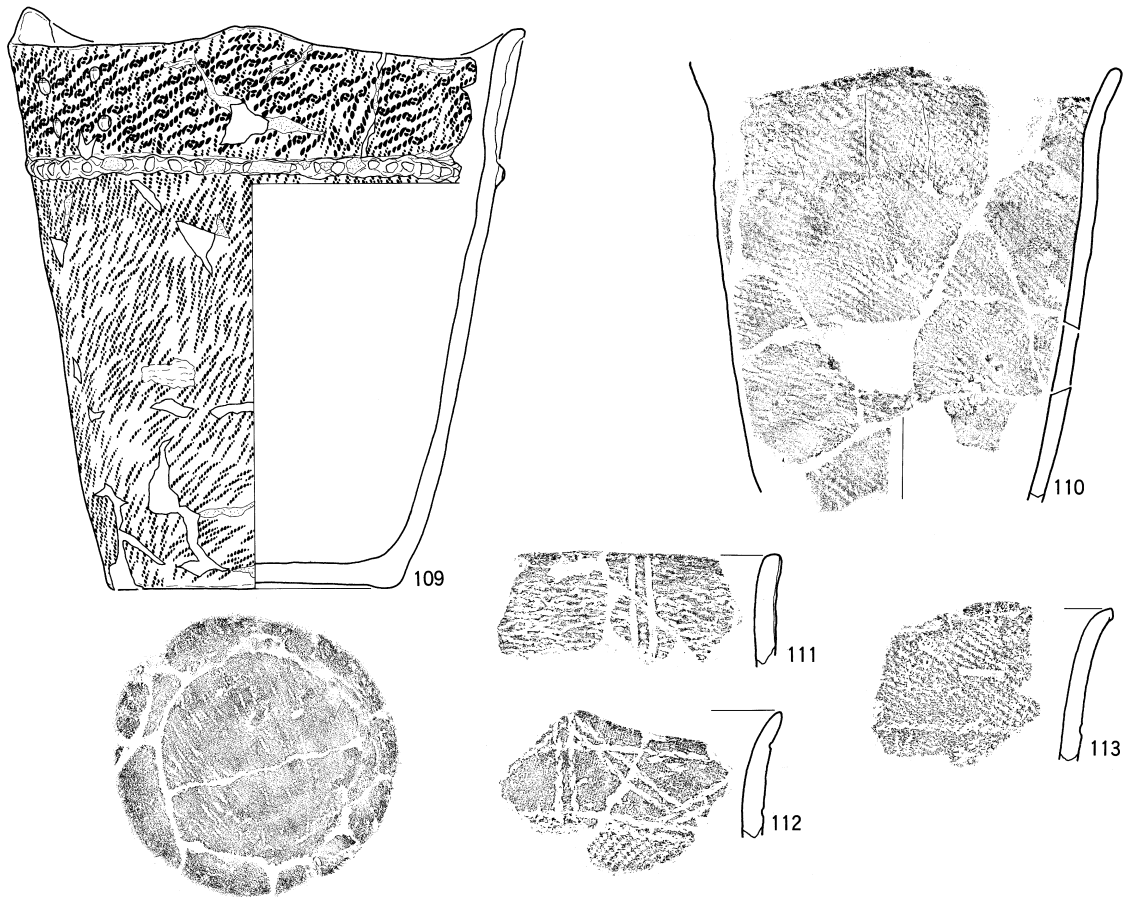
H-21



H-22



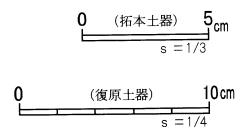
H-23



H-24

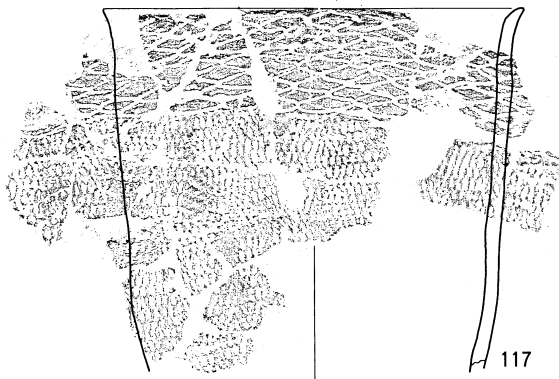


H-25



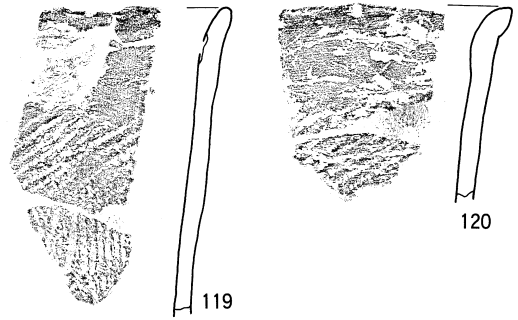
図III-111 H-21~25出土の土器

H-27



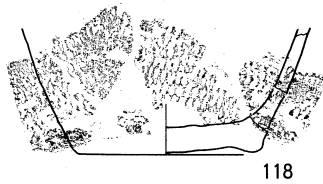
117

H-28

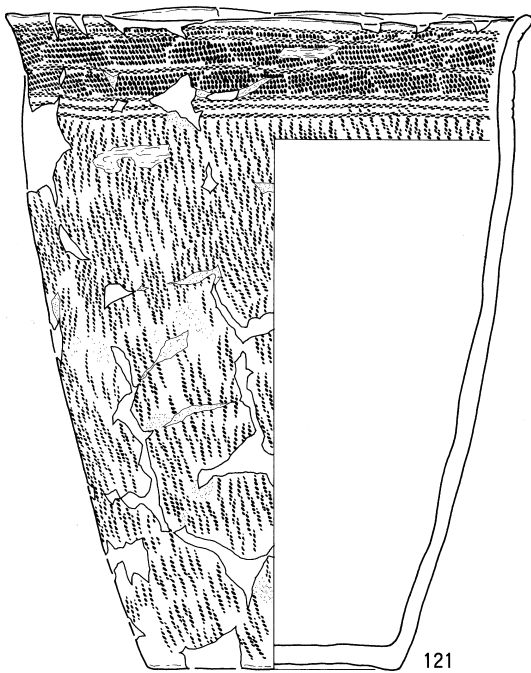


119

120



118



121

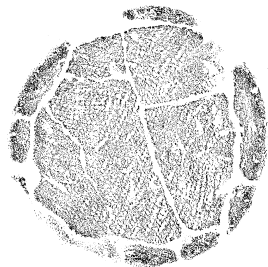


122



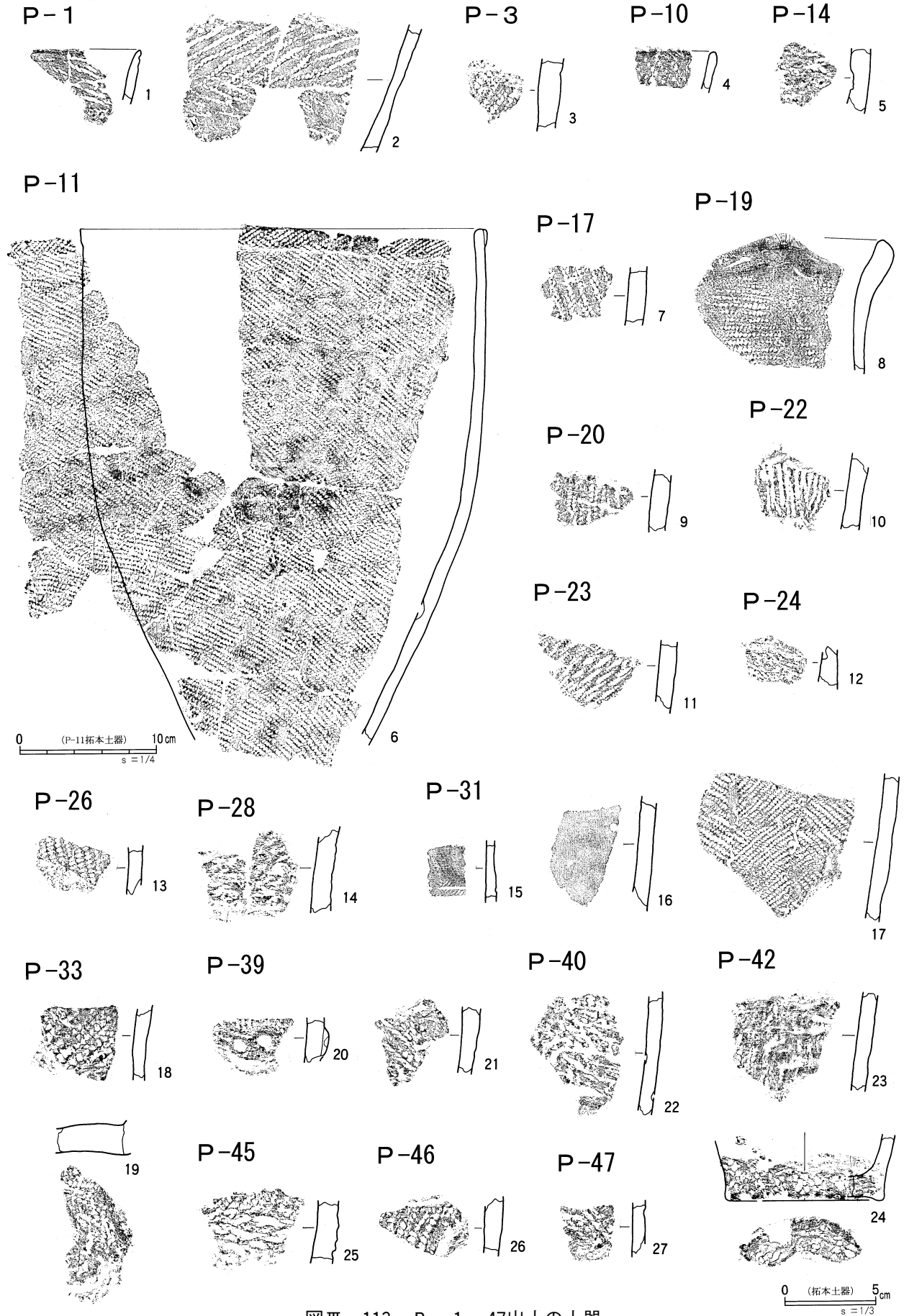
123

0 (拓本土器) 5cm
s = 1/3

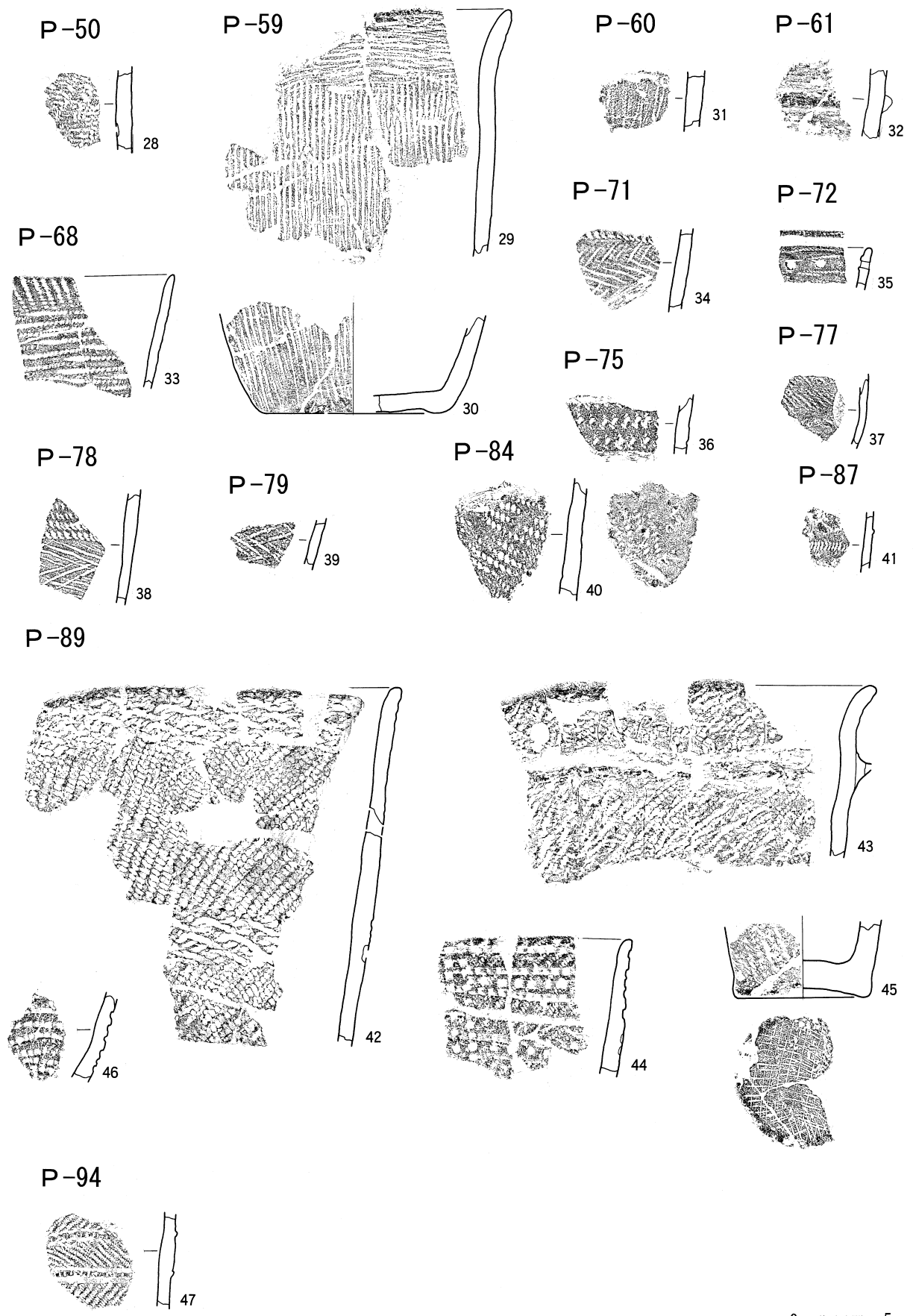


0 (復原土器) 10cm
s = 1/4

図III-112 H-27~29出土の土器



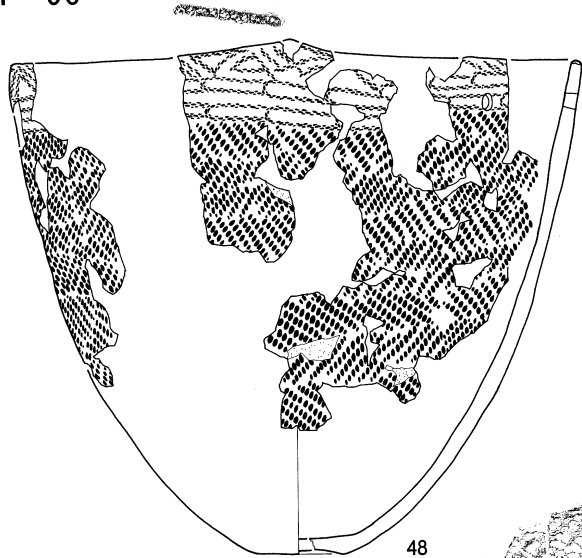
図III-113 P-1~47出土の土器



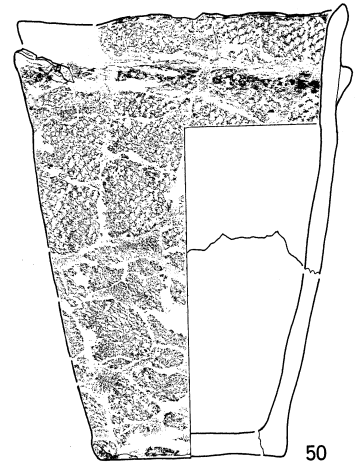
0 (拓本土器) 5 cm
s = 1/3

図III-114 P-50~94出土の土器

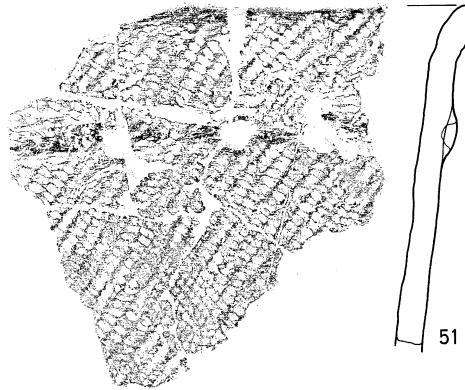
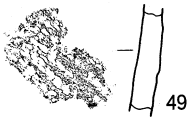
P-96



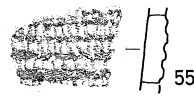
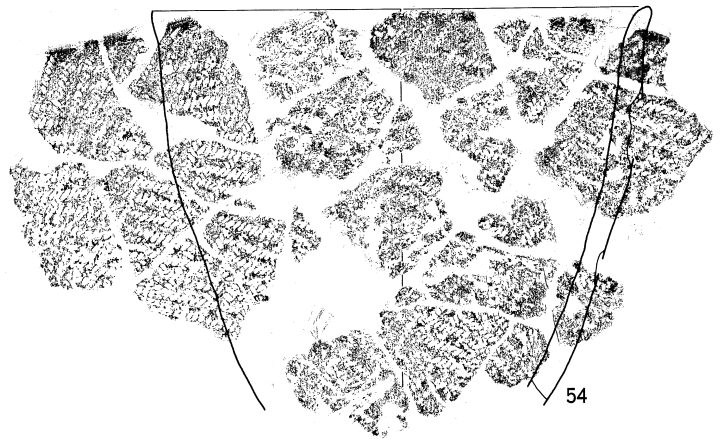
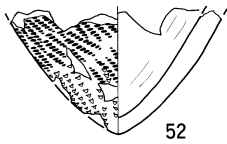
P-99



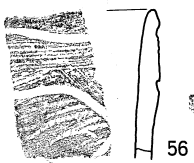
P-98



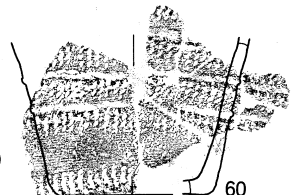
P-100



P-101



P-102



0 (復原土器) 10cm
s = 1/4

0 (拓本土器) 5cm
s = 1/3

図III-115 P-96~102出土の土器

P-104

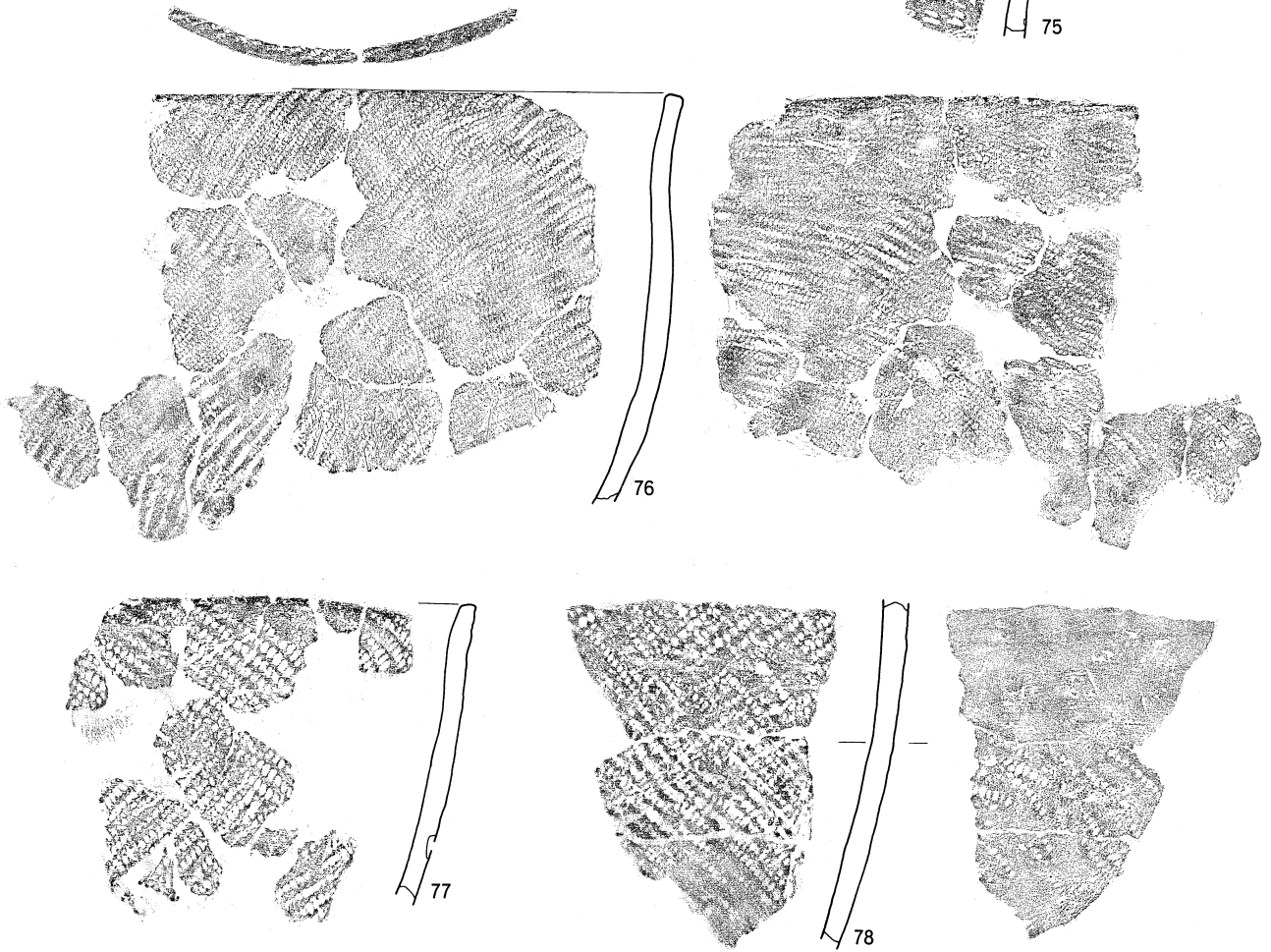


図Ⅲ-116 P-104出土の土器

P-105



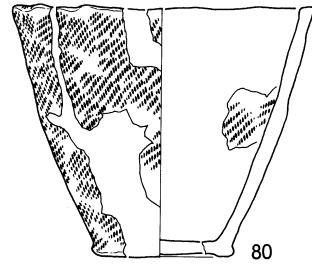
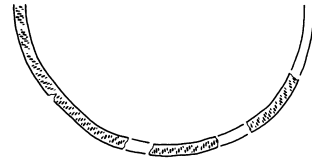
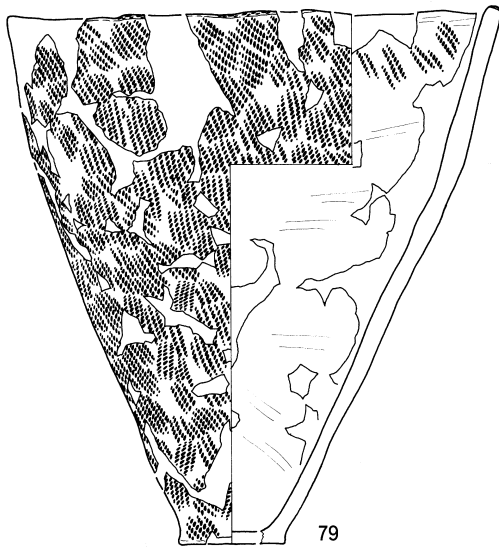
P-107



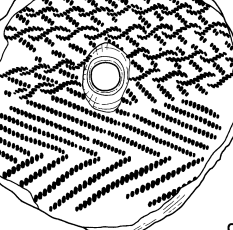
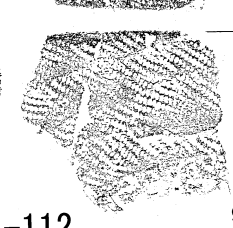
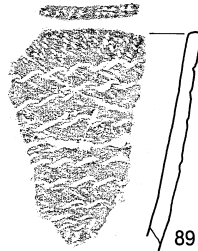
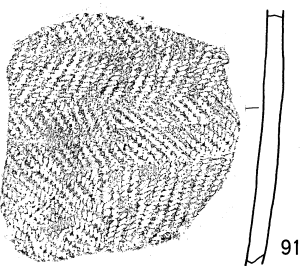
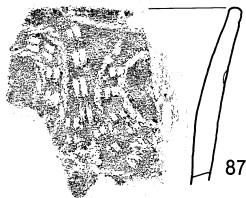
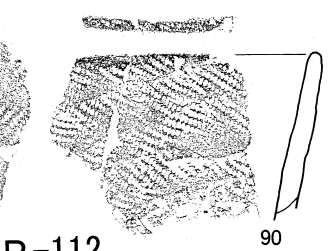
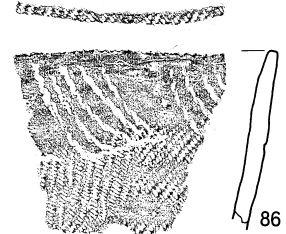
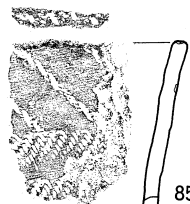
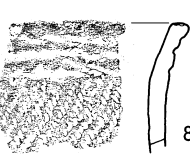
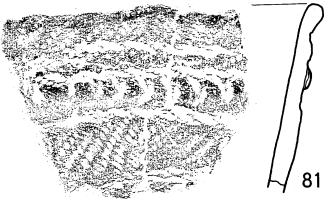
0 (拓本土器) 5cm
s = 1/3

図III-117 P-105・107出土の土器

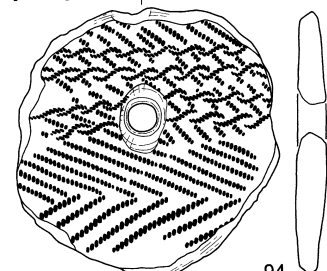
P-108



0 (復原土器) 10cm
s = 1/4



P-112



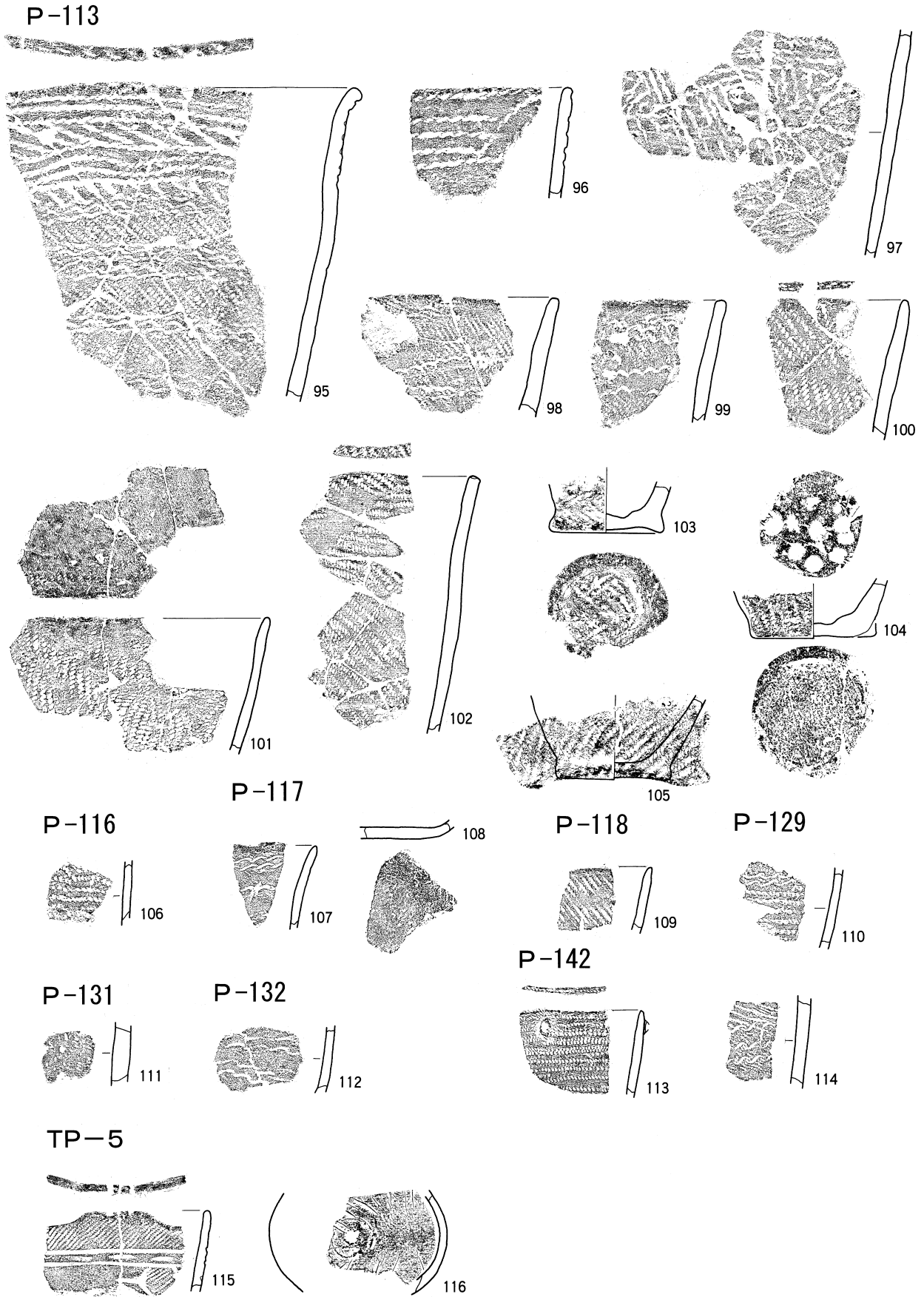
0 (土製品) 5cm
s = 1/2

P-111



0 (拓本土器) 5cm
s = 1/3

図III-118 P-108・111・112出土の土器・土製品



図III-119 P-113~142・TP-5出土の土器

0 (拓本土器) 5cm
s=1/3

ている。112はP-132出土、113・114はP-142出土のI群b-4類土器である。

115・116はTP-5出土のV群土器である。116は注口土器胴部である。(愛場)

(3) 竪穴住居跡出土の石器等

剥片石器は、石材について特にふれないものは頁岩製である。

1はSH-1出土のたたき石、チャート製で火打ち石の可能性はある。

2・3はSH-2出土で、2は石核としたが、チャート製で、火打ち石の可能性はある。3は砂岩製すり石で、平滑な面が片面にある。煤が付着する。

4～17はH-1覆土出土である。4・5は石鏃、6は石槍またはナイフ、7～9は石錐である。7は黒曜石製で、原産地同定で「丸瀬布系?」という結果がでた。10はつまみ付きナイフ、11はスクレイパー、12はUフレイク、13は石核である。14は赤色を呈する蛇紋岩製の石斧で、擦り切り痕が残る。15は擦り切り残片で、側縁と端部にすり痕がある。16は安山岩のすり石、17は安山岩のたたき石である。

18～20はH-2出土である。18は石鏃片で床面出土、19は石錐、20は石核である。

21～24はH-3覆土出土である。21は両面調整石器、22は篋状石器で、いわゆるトランシェ様石器である。23は石核、24は断面三角形のすり石である。

25～27はH-4出土である。25は石鏃、26はスクレイパーである。27は石核で、円礫を半割して打面とし、剥片をとっている。

28～30はH-5出土である。28はつまみ付きナイフ、29・30はスクレイパーである。

31～37はH-6覆土下位出土である。31は石鏃で茎部にアスファルトが付着する。32はスクレイパー、33は篋状石器で、側縁と下端部に粗い二次加工がなされる。34は泥岩製のたたき石、35は溶結凝灰岩製の北海道式石冠、36は安山岩製の石皿で、HP-3上部から出土した。37は凝灰岩製の石製品で、全面が擦られる。平坦面には穿孔が途中まで施される。

38～57はH-7出土で、41・42・48・50が床面、54がHP-4覆土中から出土した。38は黒曜石製の石鏃、39は石槍またはナイフ、40は長さ13cm程の木葉形の両面調整石器である。41・42は石錐、41はつまみ付きナイフ転用品である。43はつまみ付きナイフである。44は篋状石器で、両面が二次加工され、下端部に比較的急角度の刃部がある。45～47はスクレイパー、48・49は石核である。50は石斧で、素材の稜部を調整し、下端部に刃部を設けている。51は珪岩製たたき石、52～54は安山岩製の扁平打製石器、53は刃部がV字に調整されるが、すり痕はない。55は凝灰岩製の石鋸で、使用部の断面は丸くなる。56・57は砥石である。

58～71はH-8出土で、58は覆土、59～62、66～68が床面、63～65・70がHF-3、69がHP-1、71がHF-2出土である。58は黒曜石製の石鏃、59～63はスクレイパーで、剥片の側縁に刃部を設ける。64は石核である。65は安山岩製のたたき石、1稜部にすり痕がみられる。66～70は扁平打製石器、68は扁平礫、69は扁平礫を半割した素材を利用し、それ以外は板状の素材が利用される。71は砥石で、擦り後につけられた、たたき痕が両面にみられる。全面に炭化物が付着する。

72～86はH-9出土で、75・78・79は床面、それ以外は覆土出土である。72は両面調整石器、73はつまみ付きナイフ転用の石錐である。74・75はつまみ付きナイフ、74は黒曜石製で両面調整され、75はつまみ部が不明瞭である。76～80はスクレイパーである。76は長軸両端に挟りが作出される。77はラウンド状、79は内湾する刃部がある。78・80は縦長剥片の側縁に刃部がみられ、80は下端部にも刃部がある。81は石核で、打面調整を行い、打面を変えながら剥離を行っている

82は石斧で、1側縁に擦り切り痕が残る。83は泥岩製たたき石で、断面四角形の稜部はそれぞれ打

ち欠かれ、グリップ状の加工?がなされている。84は安山岩製の石皿である。85・86は石製品、85は条痕状の沈線が凝灰岩平坦面にみられるもので、比較的太い2条が直線的となる。86は凝灰岩製の平玉である。

87～98はH-10出土で、88・90・93・96・98は床面、95は覆土上位、それ以外は覆土下位から出土した。87は石鏃で、細い茎部がある。88・89は石錐、いずれも機能部の断面は三角形である。90・91はスクレイパーで、同一母岩の黒色頁岩が使われる。92は細石刃核で、断面が楔形の舟形となる。打面から側面への調整や、側面から打面への調整剥離がみられる。美利河型細石刃核の可能性もある。93は石核、頁岩扁平礫を素材とする。94は石斧基部、95は石鋸である。96・97は板状礫素材の扁平打製石器。98は石製品で、2点が住居床面の離れた場所から出土した。全面が擦られ、形状は骨刀に似る。上部にはグリップ状の挟りが作出される。片面には2か所に直径5mm程の穿孔がみられる。

99～102はH-11出土で、99は覆土上位、それ以外は下位から出土した。99はつまみ付きナイフ、100はスクレイパー片である。101は頁岩、102は安山岩製のたたき石である。

103・104はH-12床直上出土の石鋸である。103は頁岩製の両面調整石器の両側縁が擦られている。断面はV字状となる。105はH-13覆土出土の石鏃である。

106～110はH-14覆土出土である。106は石鏃で、正面図左側縁先端付近には折れ面を残す。107・108は石槍またはナイフである。109は石錐で、原石を半割した素材を利用する。110は小型の石核である。

111～113はH-16出土で113は床直上出土である。111はつまみ付きナイフ片で焼けはじけにより破損する。112は石斧である。113はたたき石で、すり面もある。被熱により赤化する。

114はH-17出土の安山岩製たたき石である。

115・116はH-18覆土出土である。115はつまみ付きナイフで、全面焼けはじけがみられる。116は片岩製石斧で煤が付着する。

117～119はH-19出土で、117・119は床直上出土である。117・118はつまみ付きナイフ、119は安山岩製のたたき石である。

H-20接合資料について

H-20からは多量の石器が出土し、その中には同一母岩と考えられる剥片などが多数含まれていたため、石器については接合作業を行った。その結果、複数の接合資料を得ており、その内良好な資料7個体について、模式図及び写真を掲載した。掲載した接合資料の長軸方向の長さは約10～20cmである。石材は全て頁岩で、珪質分に富み石材として良質なものが多い。原礫の形状は多くが垂角礫と考えられ、接合資料3・9を除き、比較的原礫に近い状態で遺跡内に搬入されている。石器製作の作業工程は、まず原礫面の除去、次に素材剥片の剥離、最終的に剥片を取り尽くした残核の遺棄という流れが多くみられる。素材剥片の剥離については、最初は石核の長軸方向に作業面を設定し、剥片剥離を行うが、剥片剥離の進行により石核が小型化していくと、打面、作業面共に頻繁に転移する傾向がみられる。剥離される剥片は規格性に乏しく、不定形なものが多い。ただし、接合資料2・8などでは縦長の剥片が含まれる。また、接合資料は剥片と石核で構成され、定型的な石器はほとんど含まれていない。

接合資料1 (図III-132 図版72)

住居南壁際のフレイク集中域を主体とし、他に住居北側壁際、HP-4周辺の剥片が接合した。

石核2点、剥片82点で構成される。原石は垂角礫で、分割後、原礫面を一部除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗灰色の頁岩で、原礫面には風化した白色部分が一部みられる。

作業内容は、最初に上面で大きな剥離により原礫面の除去が行われ、次にその剥離面を打面にして原石の長軸方向で剥片剥離が連続的に行われる。剥離される剥片は不定形で、折れているものが多い。剥離された剥片には石核（141）として利用されるものがある。その後下面及び右側面の下部の原礫面の除去が行われ、不定形剥片の剥離が行われる。最終的に石核（140）は遺棄される。

接合資料2（図Ⅲ-132 図版73）

周溝2周辺の集中域を主体に、周溝1、住居南側フレイク集中など広く接合したほか、P-108のスクレイパーとも接合した。

スクレイパー1点、Rフレイク1点、石核2点、剥片56点で構成される。原石は亜角礫で、原礫面を一部除去した状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶色の頁岩で、原礫面には風化した黄褐色部分が大きくみられる。作業内容は、最初に大きな剥離で正面以外の原礫面の除去が行われる。大型の剥片が多く、石核（143）の素材になるものがある。次に上面及び下面を打面、右側面と左側面を作業面に設定して剥片剥離が行われる。剥離される剥片は縦長のものが多く、スクレイパー（P-108・72）、Rフレイク（144）の素材となるものが含まれる。剥片剥離が進行して石核が小型化していくと、頻繁に打面と作業面が転移し、剥離される剥片は不定形なものが多くなる。最終的に石核（145）は遺棄される。

接合資料3（図Ⅲ-132 図版74）

周溝1周辺（138）を主体にHP-4周辺、周溝2（139）、住居東側の剥片など広く接合した。石核2点、剥片25点で構成される。原石は亜角礫で、原礫面をほぼ除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶褐色の頁岩で、原礫面には風化した黄褐色部分がみられる。石材の特徴から、接合資料4と同一母岩と考えられる。作業内容は、最初に残っている原礫面の除去が行われ、次に下面及び上面を打面に、左側面から正面を作業面として剥片剥離が行われる。その後、正面側と裏面側に長軸方向で大きく分割され、各個体で剥片剥離が行われる。各個体では周縁部を打面、表裏面を作業面として、求心状に剥片剥離が行われ、最終的に石核（138・139）は遺棄される。剥離される剥片はほとんどが不定形である。

接合資料4（図Ⅲ-132 図版74）

周溝1の集中域を主体に、住居南側、住居中央部の剥片が接合した。

石核1点、剥片32点で構成される。原石は亜角礫で、原礫面を一部除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶褐色の頁岩で、原礫面には風化した黄褐色部分がみられる。石材の特徴から、接合資料3と同一母岩と考えられる。作業内容は最初に裏面の左側縁の稜付近を打面として、平坦な剥離により主に裏面、上面、右側面の原礫面が除去される。次に正面、裏面を打面とし、右側面、左側面を作業面として連続的に剥片が剥離され、最終的に石核は遺棄される。剥離される剥片は不定形である。石核は図示していないが、長さ約4cm、幅約4.5cm、厚さ約2.5cmの小型で扁平な形状である。

接合資料5（図Ⅲ-132 図版74）

石核（142）が住居南側のフレイク集中域から出土した。

石核1点、剥片17点で構成される。頁岩製の亜角礫を原石とし、原礫面を一部除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。作業内容は、最初に上面の稜を打面、原石正面から右側面を作業面に設定して、長軸方向に連続的な剥片剥離が行われる。次に前の作業面を打面、裏面上部を作業面に設定し、左側面に向けて横方向の比較的細かい剥片剥離が行われた後、打面を左側面に移動して大型で分厚い剥片が剥離される。その後は打面及び作業面を転移しながら不定形の剥片を剥離し、最終的には

石核(142)を遺棄する。剥離された剥片の多くに原礫面がみられ、形状は不定形なものが多いである。

接合資料6(図III-132 図版75)

周溝1周辺の剥片が接合した。

剥片40点で構成される。原石は亜角礫で、粗割後一部石核整形が行われた状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶色の頁岩で、原礫面には風化した白色部分が見られる。石材の特徴は接合資料8と類似する。作業内容は、最初に正面上部を打面、上面を作業面として比較的幅広く平坦な剥離が施される。次に平坦な剥離が施された上面を打面、右側面を作業面に設定して横幅の1/2程度、縦長の剥片剥離が行われる。最後に下面を打面、左側面を作業面として小型の剥片が剥離される。石核は出土していない。

接合資料7(図III-132 図版75)

周溝1周辺を主体に、HP-4周辺、住居東壁際の剥片が接合した。

石核2点(1個体未掲載)、剥片35点で構成される。原石は亜角礫で、原礫面を一部除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶色の頁岩で、原礫面には風化した白色部分が見られる。石材の特徴は接合9と類似する。作業内容は、最初に右側面上部を打面、上面を作業面として、縦長の剥片が剥離される。その間に正面を打面、上面を作業面とする剥片剥離も少量行われており、これは作業面の調整剥離と考えられる。全体の1/2程度剥片剥離が行われた後、上面に打面作出のため大きな幅広い剥片の剥離が施される。次にその剥離面を打面とし、右側面を作業面として縦長気味の剥片が剥離される。最終的に石核は遺棄される。石核は図示していないが、長さ約4cm、幅約3.5cm、厚さ約2cmで、裏面が原礫面となる。剥離された剥片は比較的縦長であるが、多くは折れている。

120~152はH-20出土で、152を除き床面もしくは付属遺構覆土出土である。120~122は石鏃である。120・121は柳葉形で、側縁に折り取るような急角度の加工がなされる。123は両面調整石器で、側縁が鋸歯状となる。石槍またはナイフの基部の可能性がある。124~126は石錐である。124・125は棒状で、126は厚みのある剥片素材の一端に機能部がある。127・128はつまみ付きナイフである。127には1側縁に鋸歯状の加工が施され、128は剥片の周縁に簡単な調整がなされる。129~137はスクレイパーで、剥片の側縁を片面から加工するだけのものが多い。129~134・137は縦長素材の側縁に刃部が作出されるもので、130は撥形となる。135は内湾する刃部、136は鋸歯状の刃部となる。137は、フレイクが数点接合し、その状況を写真図版76に掲載した。138~143・145~147は石核で、144はRフレイクである。前述の通り、138~145は接合資料と接合する。

148は蛇紋岩製の石斧、厚さ4mm程と薄く、垂飾の可能性はある。149はメノウ製たたき石、フレイクのまとまりの側から出土している。150は断面三角形のすり石である。151は凝灰岩製の砥石。152は覆土上位出土の石製品、凝灰岩製で端部に孔がつけられる。

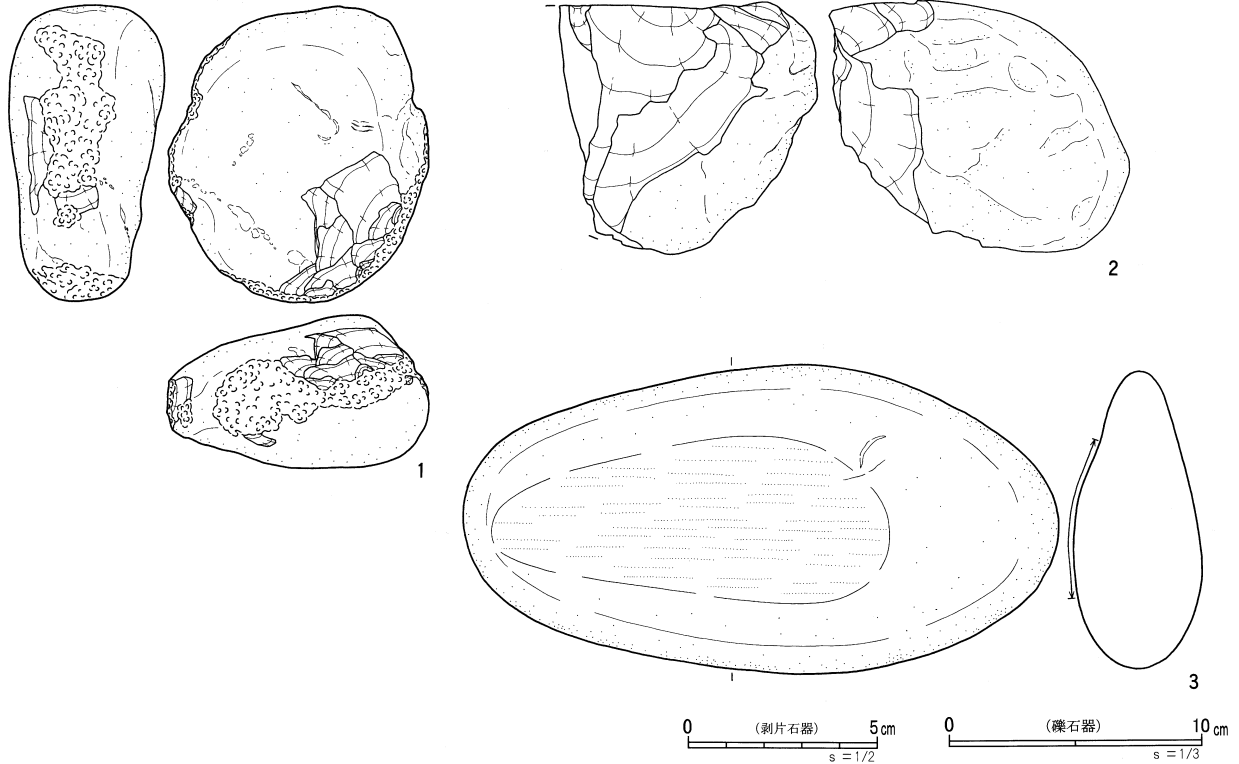
153~156はH-21床面出土である。153は黒曜石製の石鏃で柳葉形となる。原産地同定で「赤井川産」という結果がでた。154・155は石核で、いずれも原礫面を残す。156は断面三角形のすり石である。

157・158はH-22出土、157はスクレイパーで、急角度刃部となる。158は扁平打製石器である。

159~169はH-23出土で、159はHP-13、166はHP-11、164・165・167~169は床面出土である。159は石鏃で、周縁に簡易な調整が入る。図正面右側縁に折れ面を残す。160・161は両面調整石器で、鋸歯状となる部分がある。162はつまみ付きナイフ、163はスクレイパーである。164~166は石核、165は図正面側で剥離が行われ、166は周縁から剥離が行われる。167は珪岩製たたき石、168・169は扁平

S H-1

S H-2



図Ⅲ-120 S H-1・2出土の石器

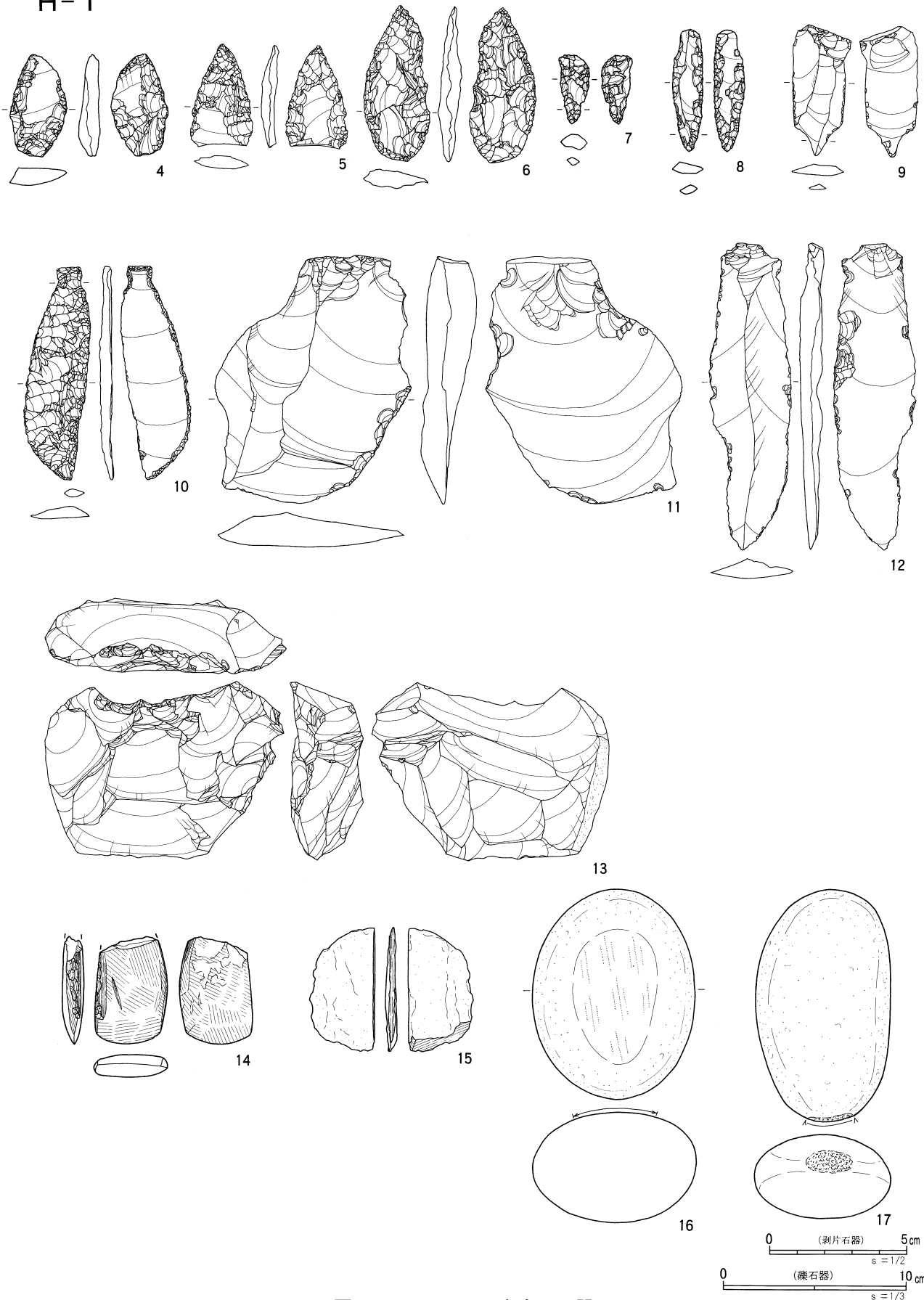
打製石器である。

170～172はH-24出土で170・172は床面出土である。170はスクレイパー、171は石核である。172は安山岩製の台石である。

173・174はH-25覆土出土で、173はスクレイパー、174は扁平打製石器である。175はH-27覆土出土の扁平打製石器で、片側の平坦面に敲打痕がある。176はH-28覆土下位出土の砂岩製の北海道式石冠である。

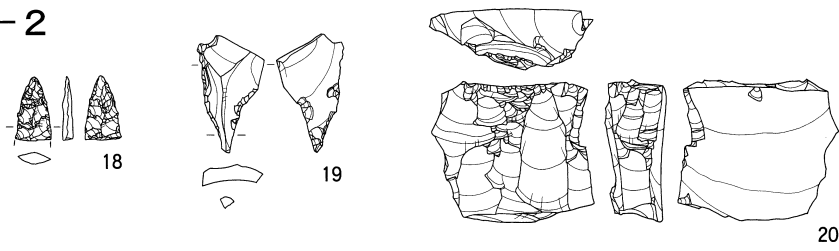
177～186はH-29出土で、182はHP-5、177・179・180・183・186は床直上出土である。177は石錐で両面調整により断面菱形に加工される。使用痕はみられない。188はつまみ付きナイフである。179～182はスクレイパーで、179・180は縦長剥片の側縁に刃部がある。183は小型の石核である。184は緑色泥岩製で、石斧基部をたたき石に転用したものである。185は扁平打製石器である。186は北海道式石冠の未成品である。大型の扁平礫を半円形に割り、割れ口を軽く擦っている。その後割れ口からの厚みをとる調整を行い、中央よりやや上のラインに敲打を巡らしている。

H-1

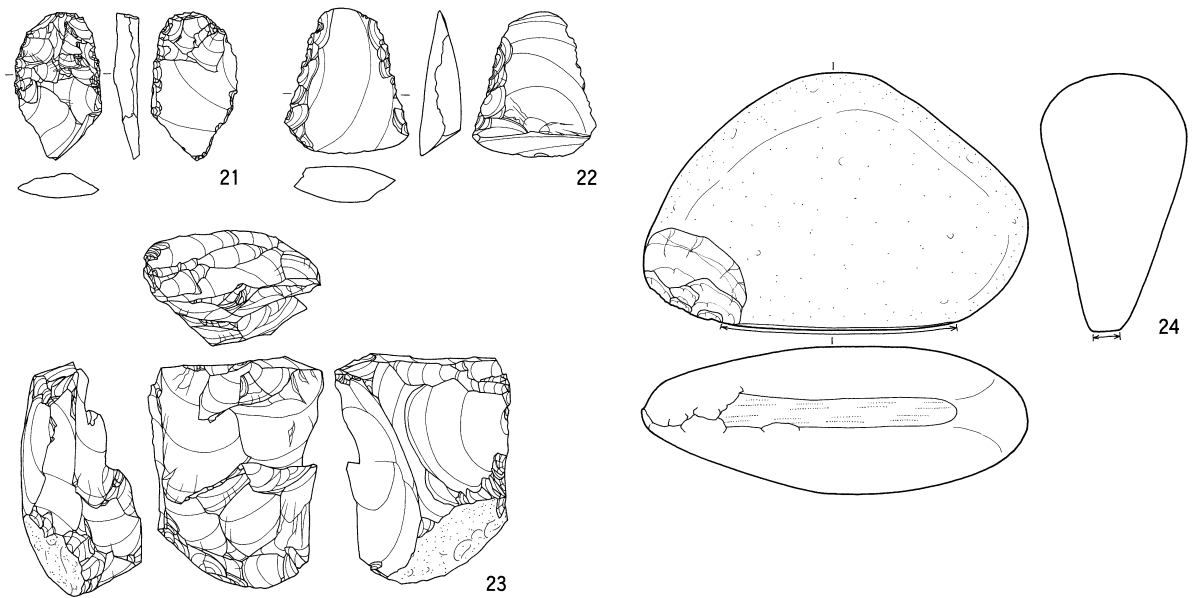


図III-121 H-1出土の石器

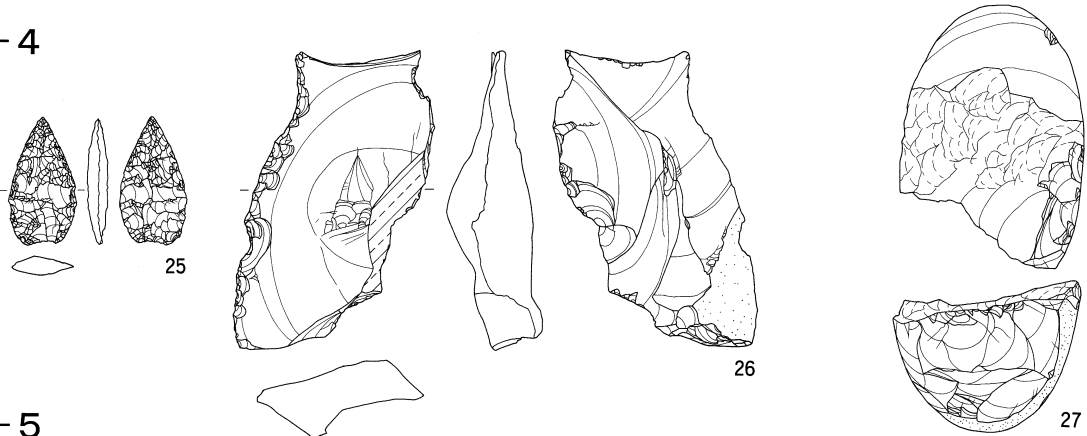
H-2



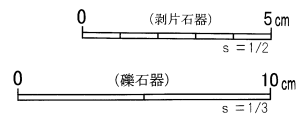
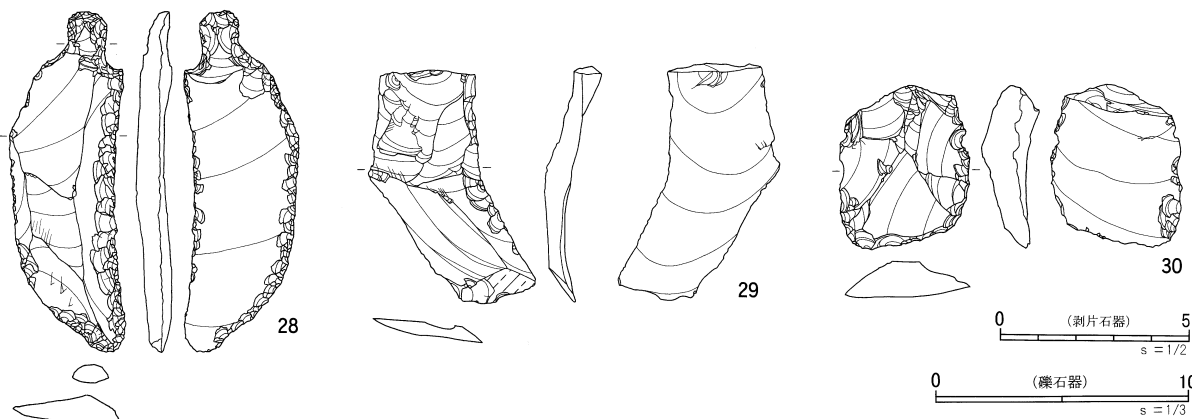
H-3



H-4



H-5



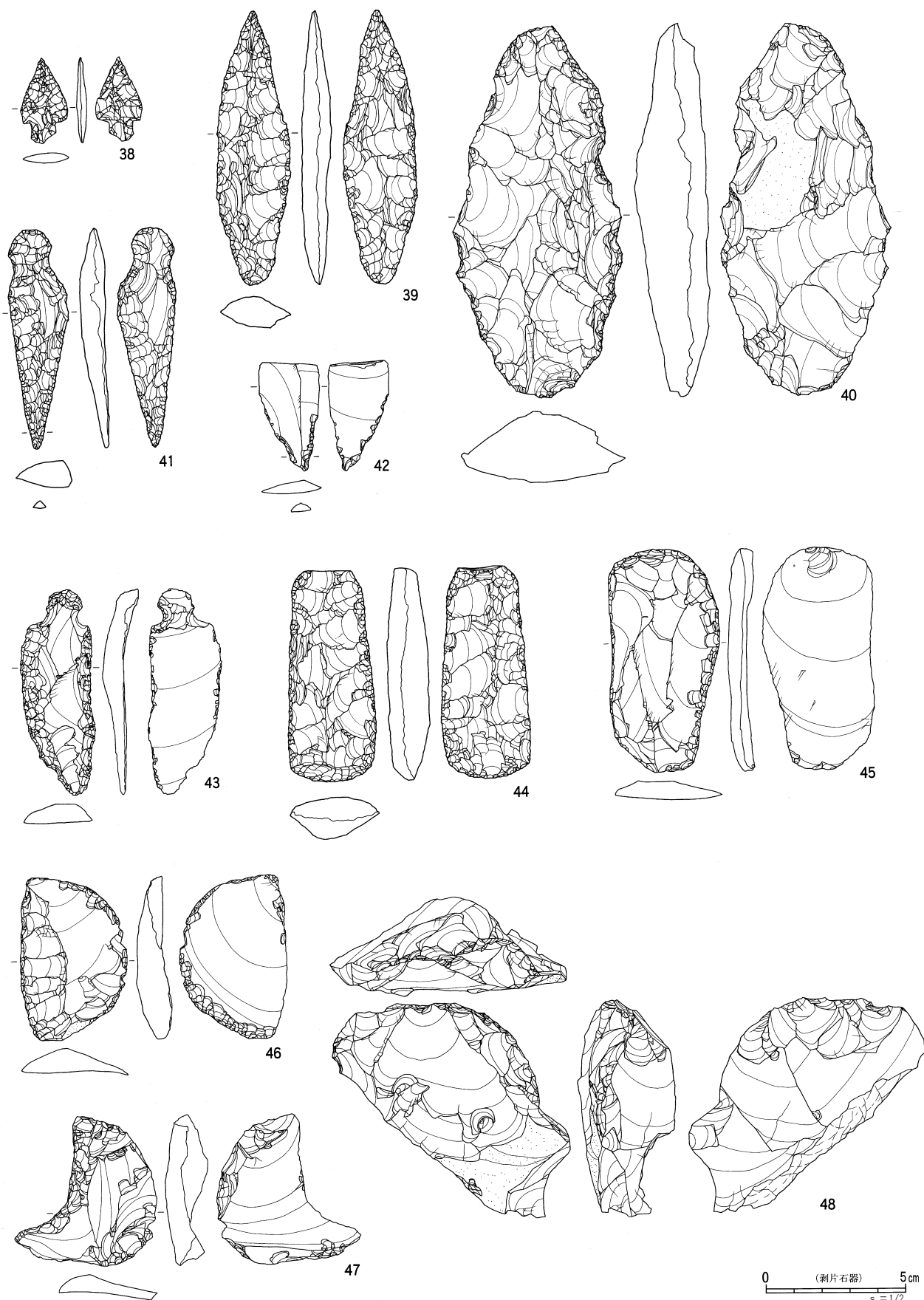
図Ⅲ-122 H-2～5出土の石器

H-6



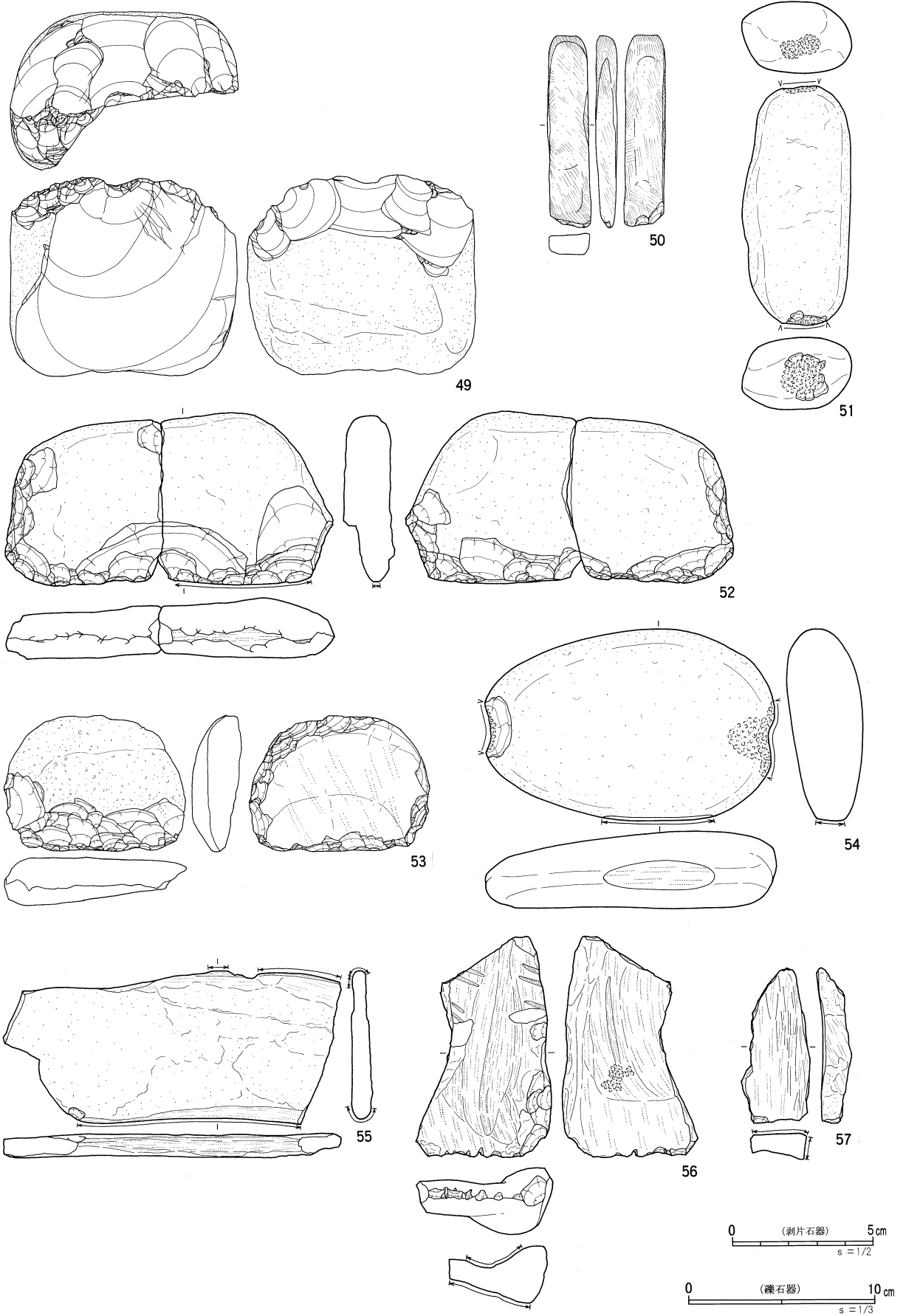
図III-123 H-6出土の石器等

H-7



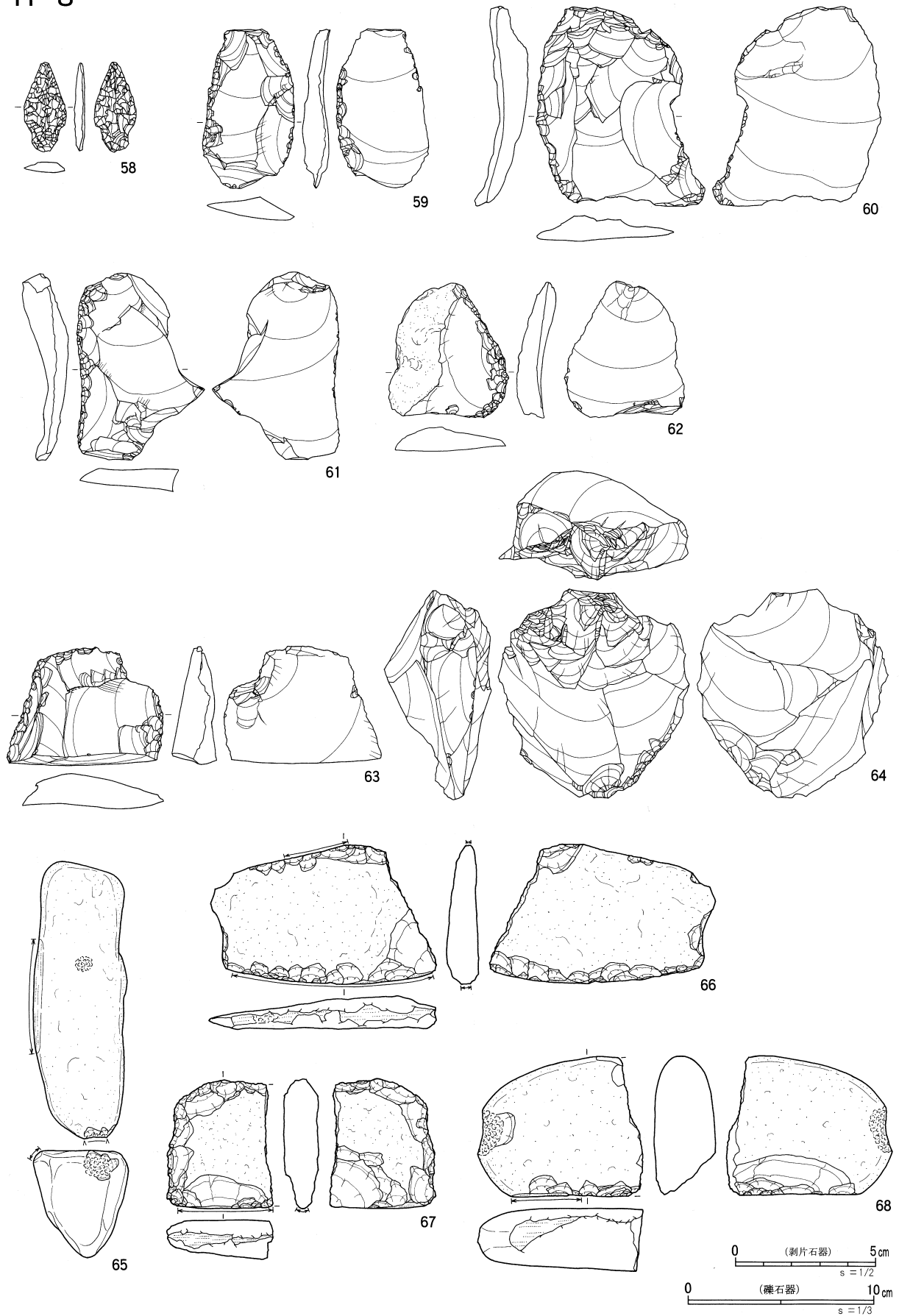
図Ⅲ-124 H-7出土の石器(1)

H-7



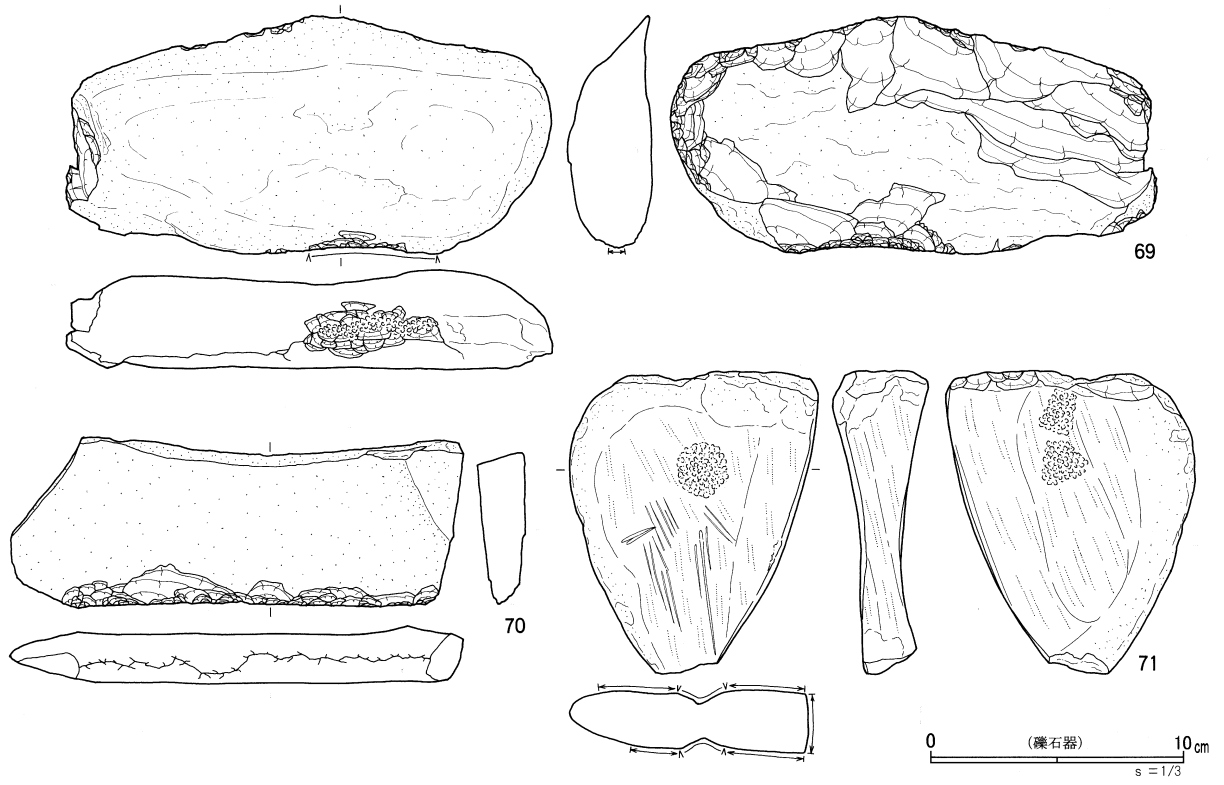
図III-125 H-7出土の石器(2)

H-8

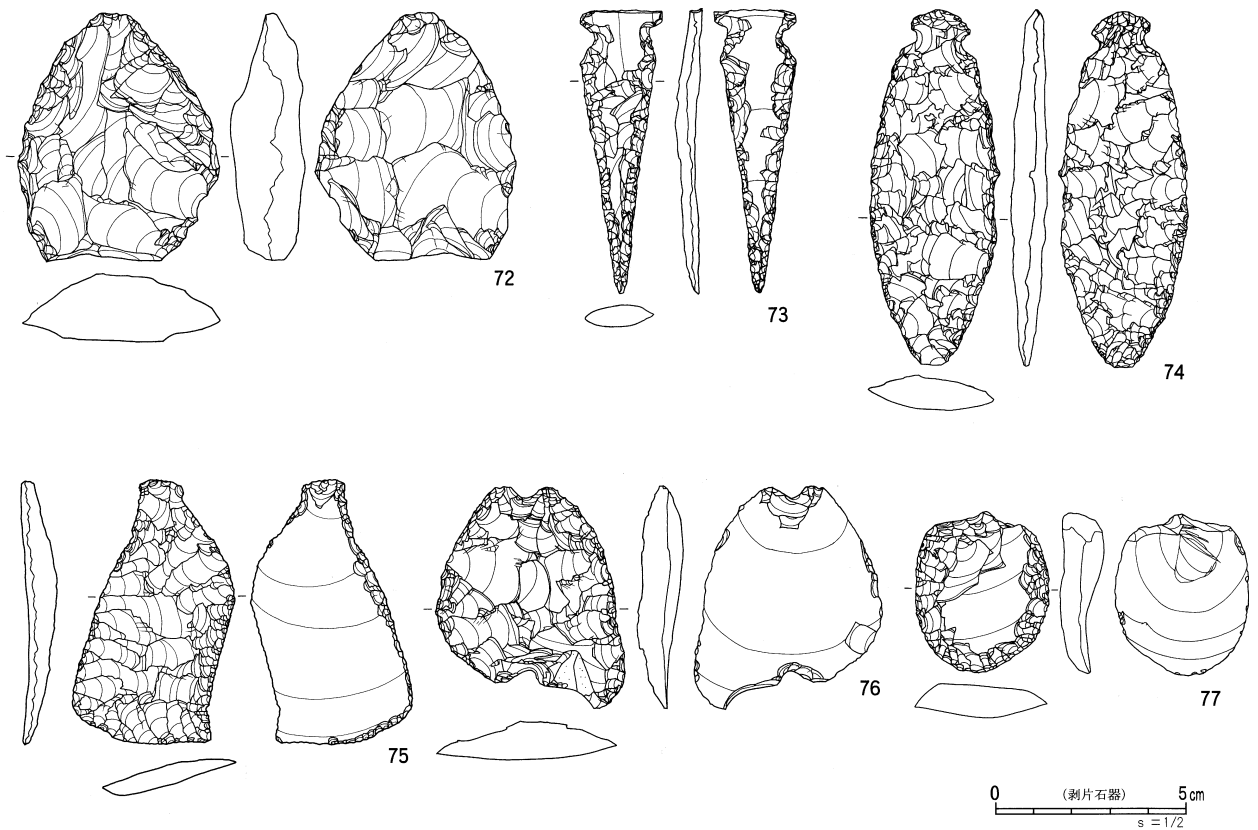


図Ⅲ-126 H-8 出土の石器 (1)

H-8

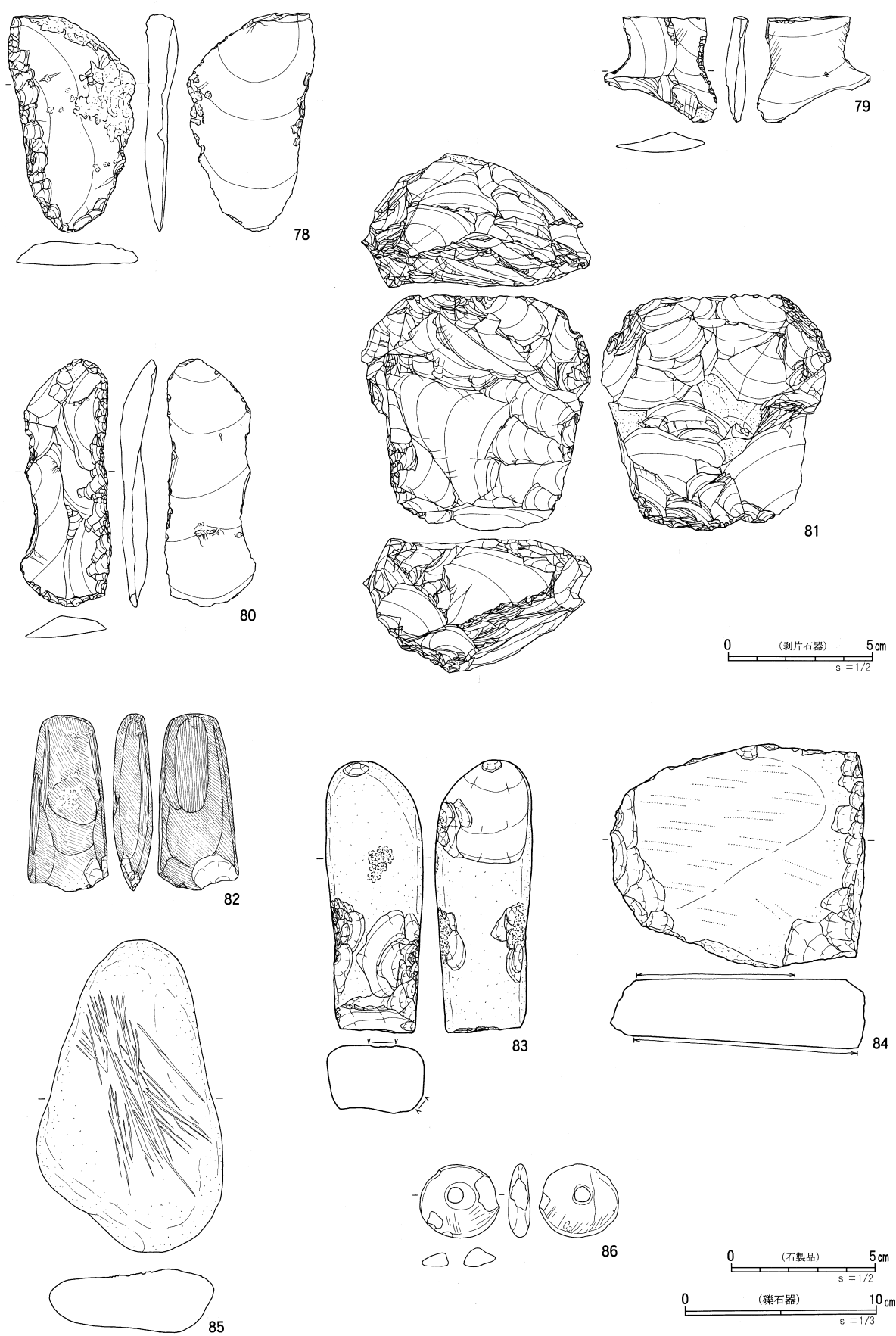


H-9



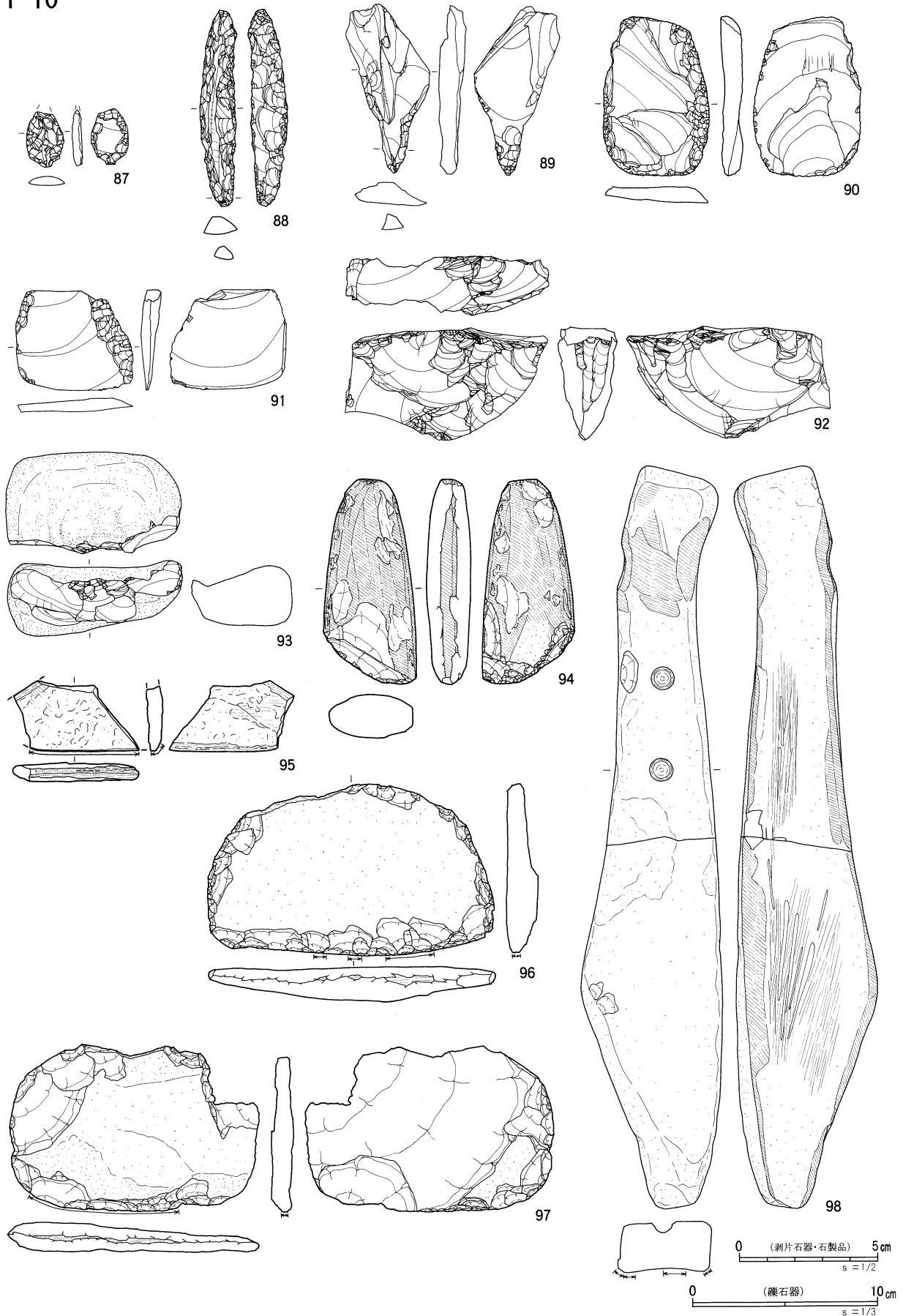
図III-127 H-8 (2)・H-9出土の石器

H-9



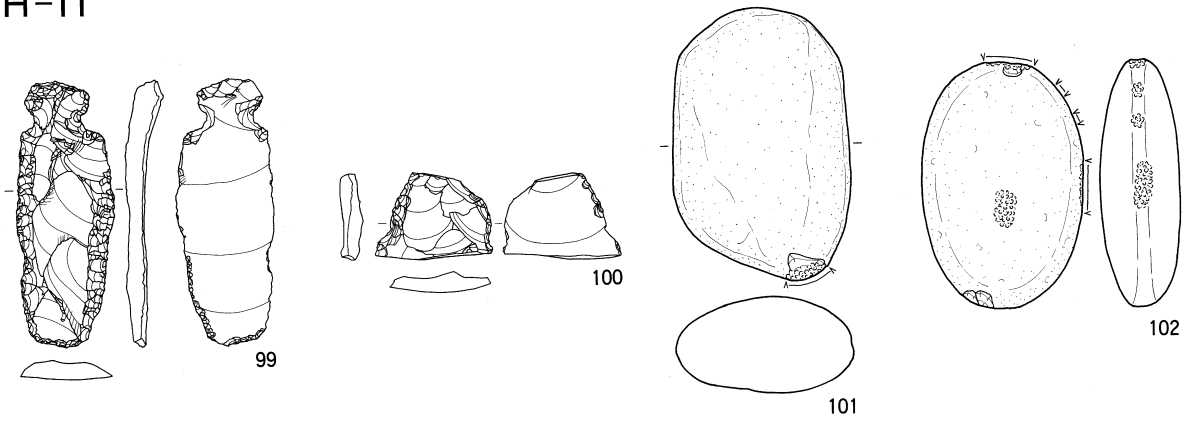
図Ⅲ-128 H-9出土の石器等(2)

H-10

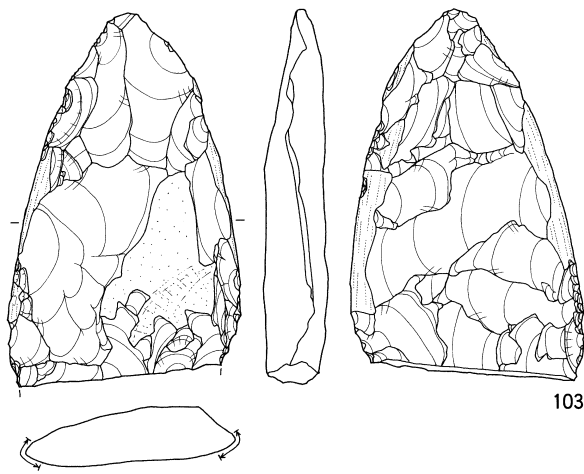


図III-129 H-10出土の石器等

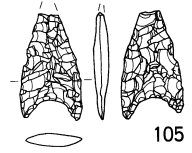
H-11



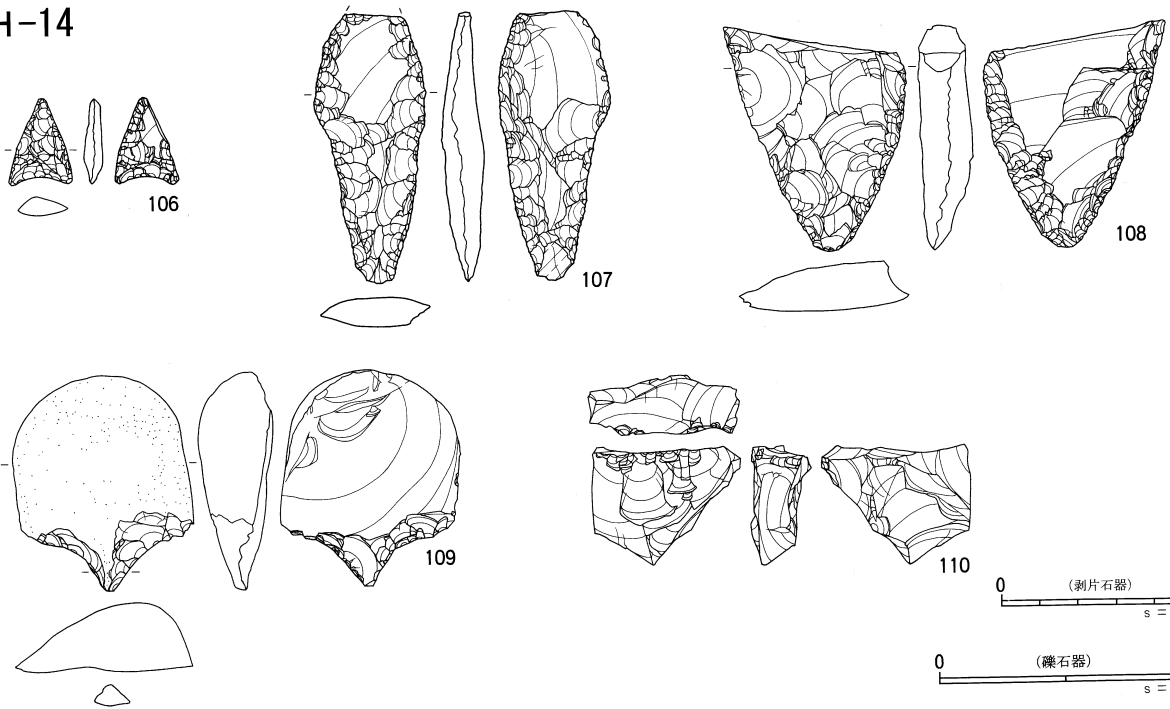
H-12



H-13



H-14

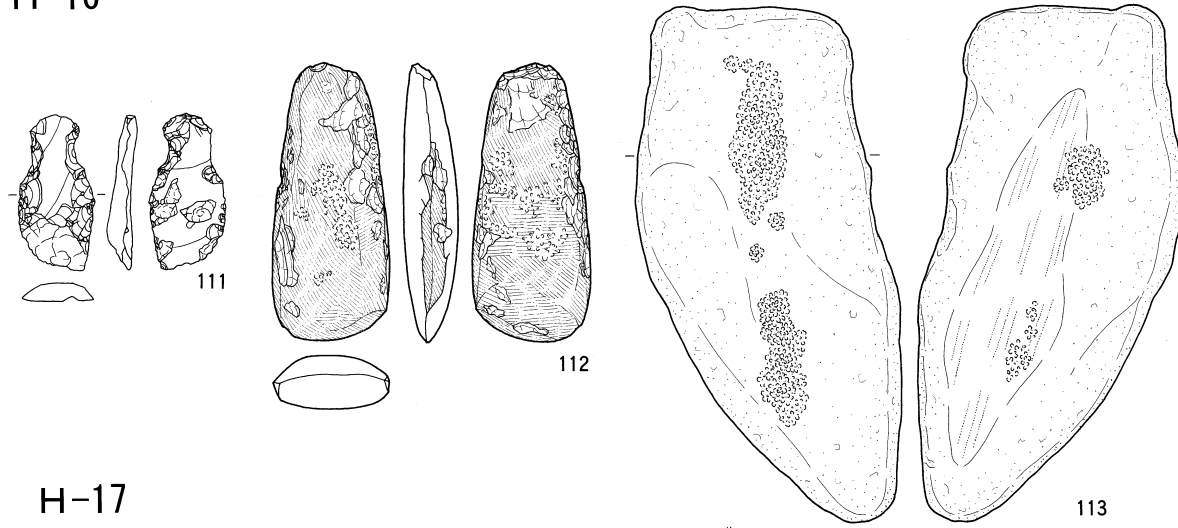


0 (剥片石器) 5cm
s = 1/2

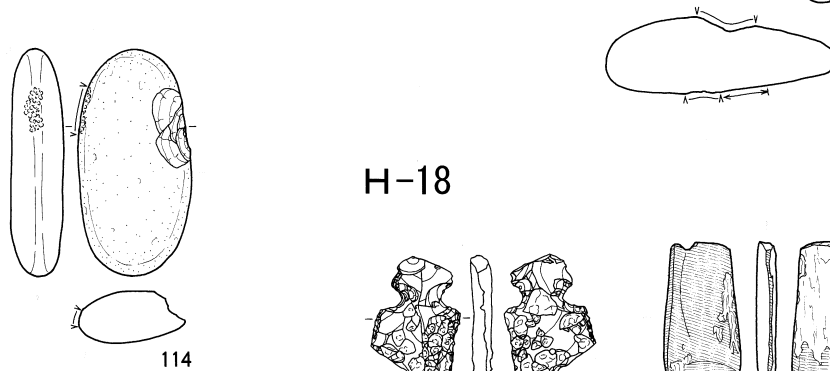
0 (礫石器) 10cm
s = 1/3

図Ⅲ-130 H-11~14出土の石器

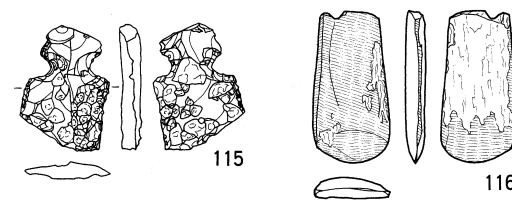
H-16



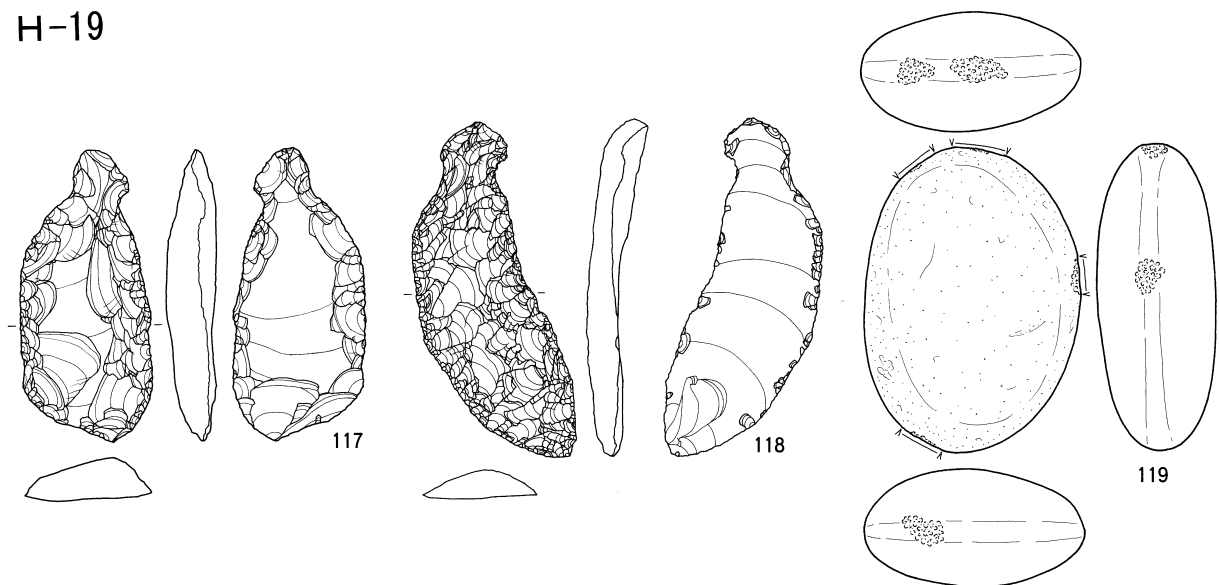
H-17



H-18



H-19

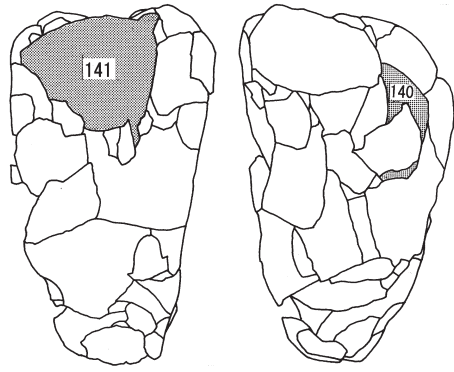


0 (剥片石器) 5cm
s = 1/2

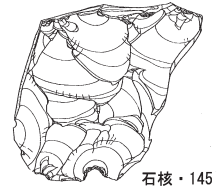
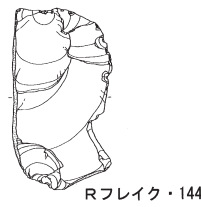
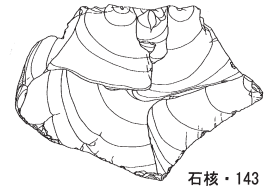
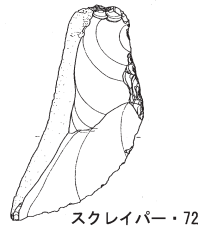
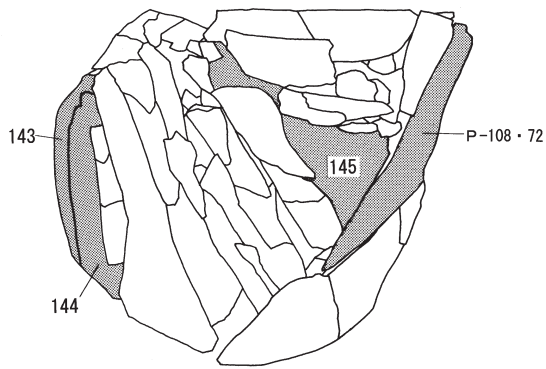
0 (礫石器) 10cm
s = 1/3

図III-131 H-16~19出土の石器

接合資料 1

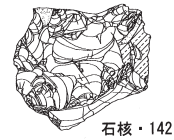
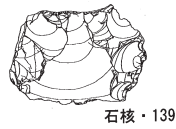
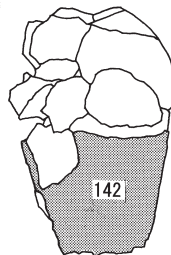
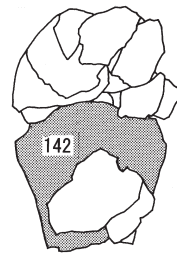
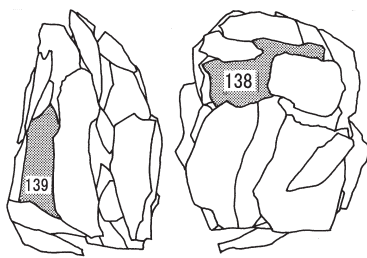


接合資料 2

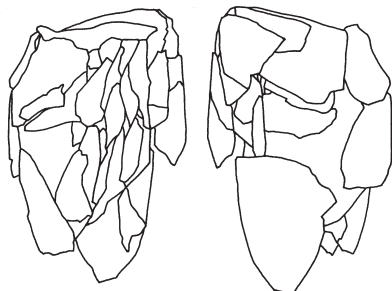


接合資料 5

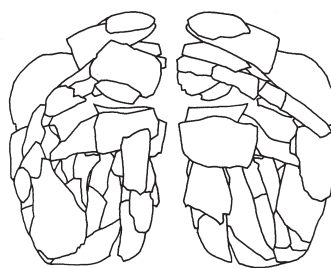
接合資料 3



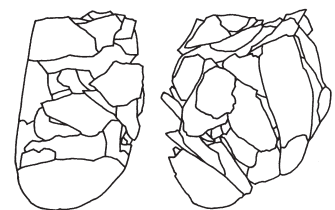
接合資料 4



接合資料 6



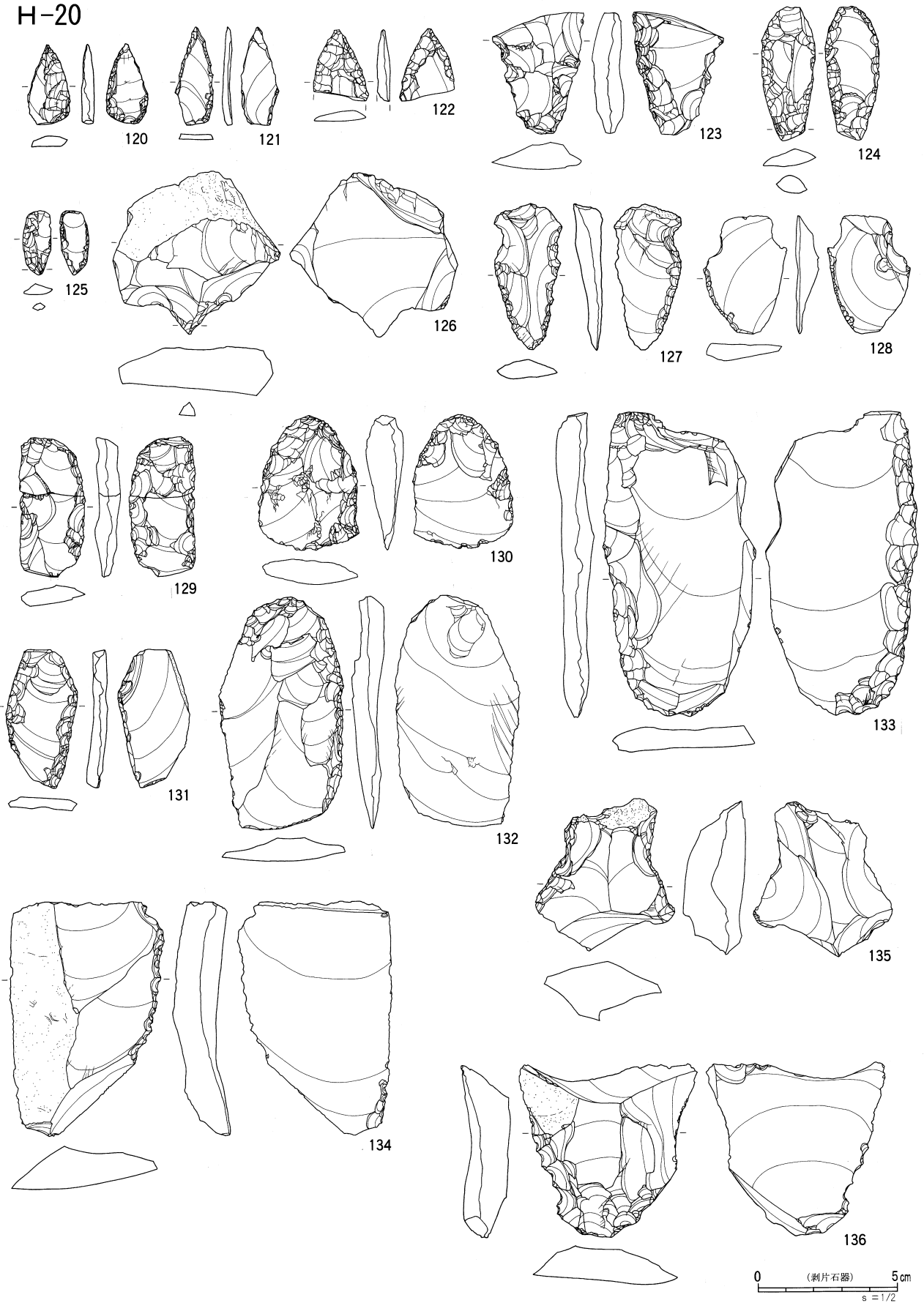
接合資料 7



写真をトレース
接合資料は約 1/4

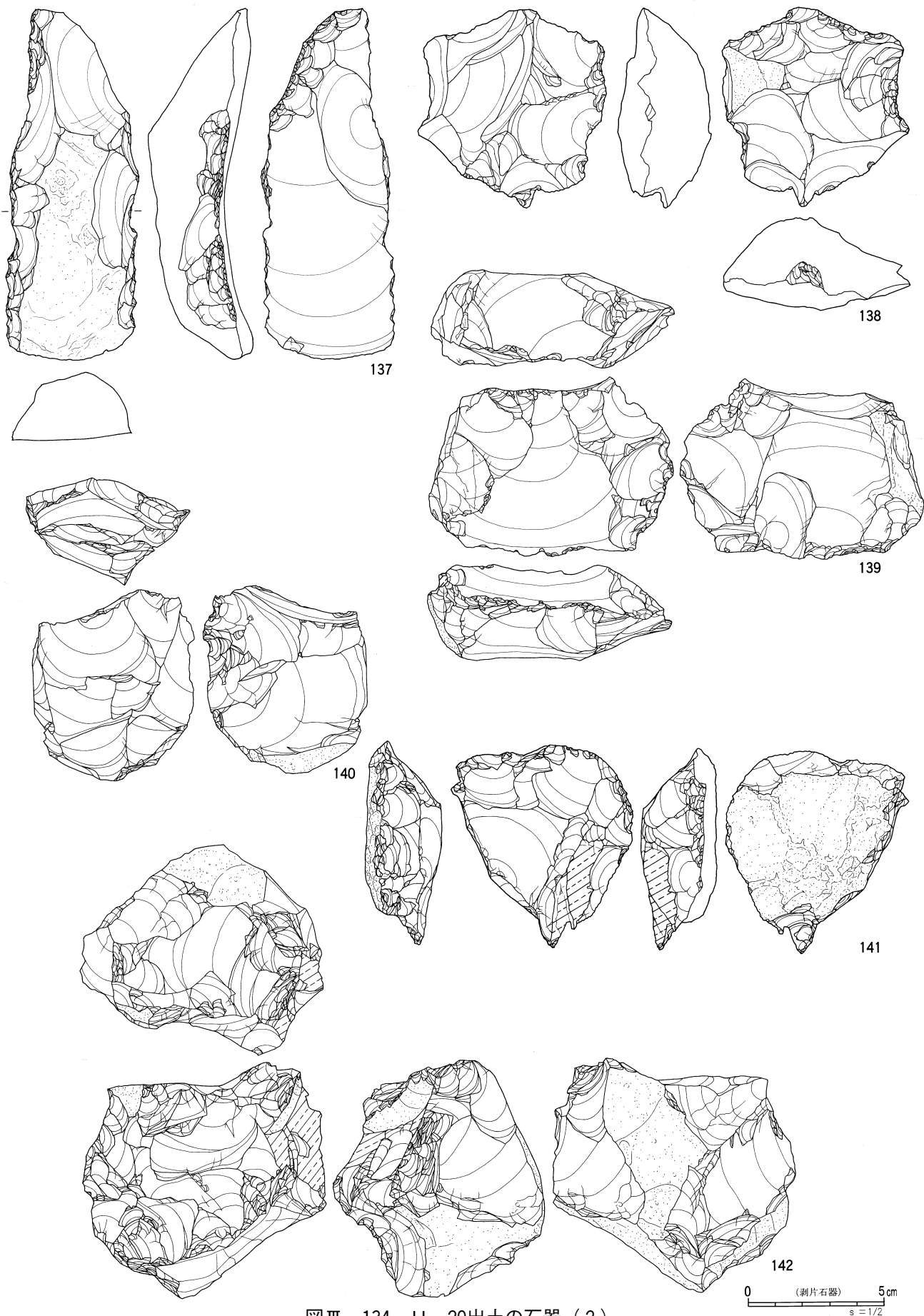
図Ⅲ-132 H-20出土の接合資料模式図

H-20



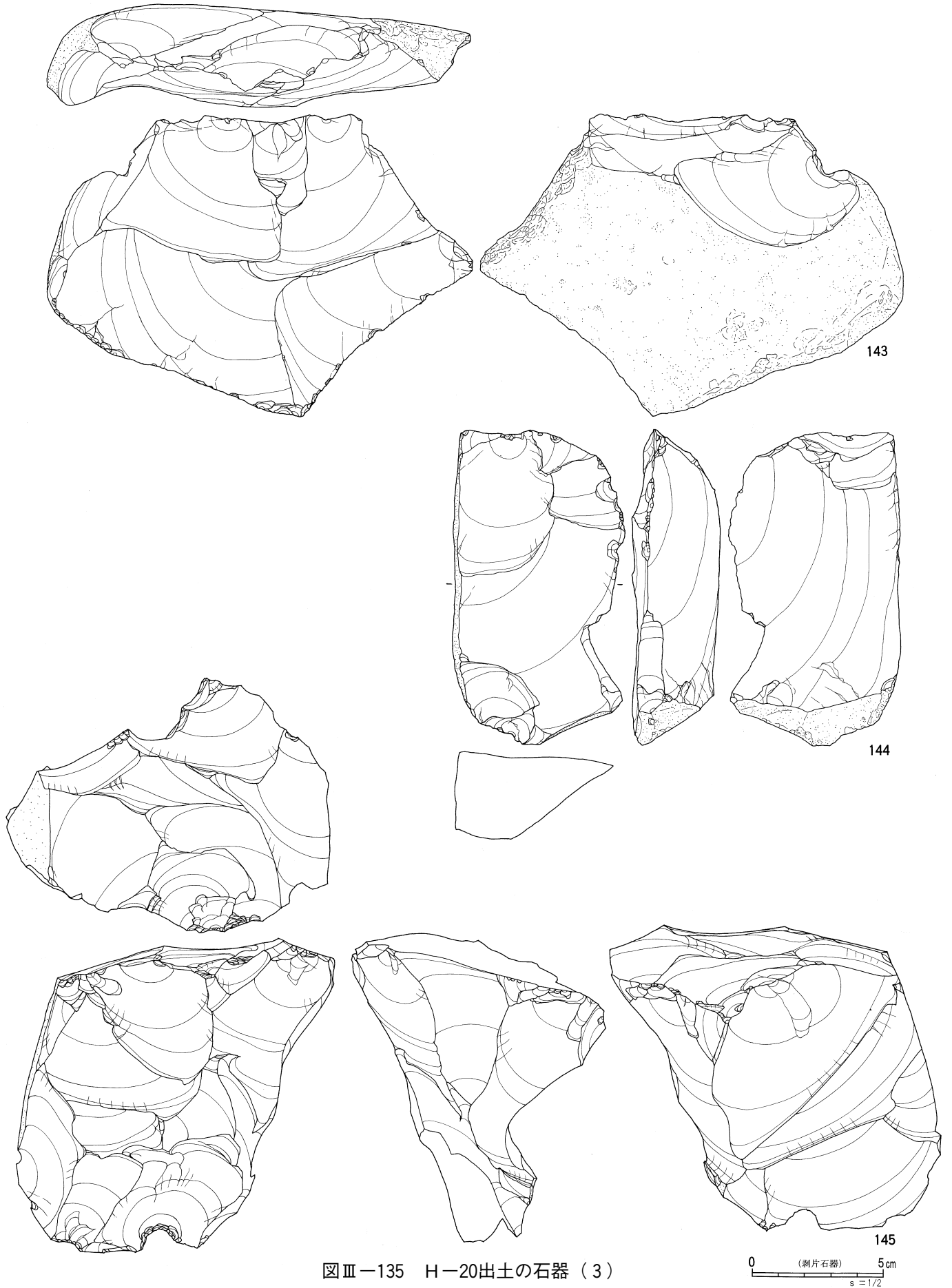
図III-133 H-20出土の石器(1)

H-20



図Ⅲ-134 H-20出土の石器(2)

H-20

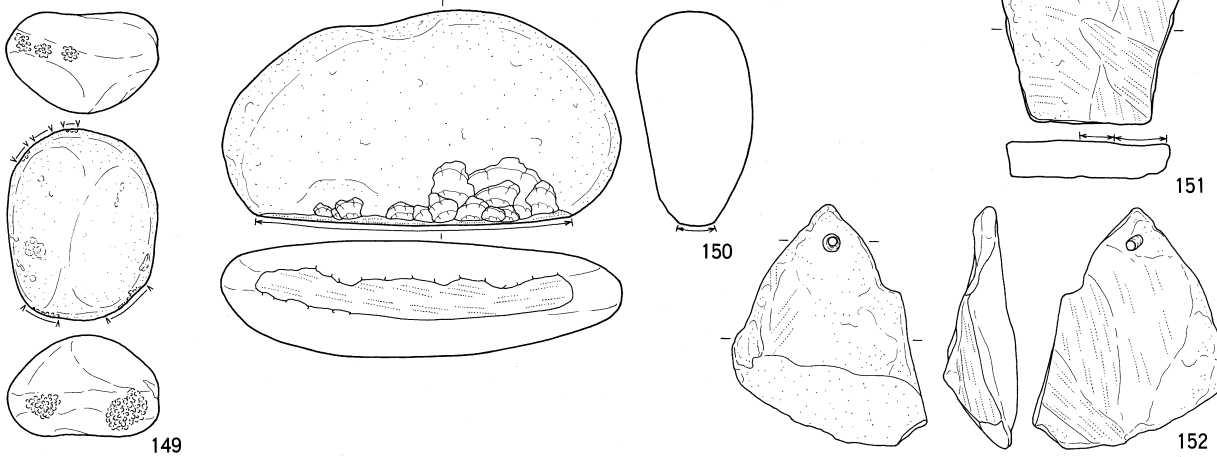
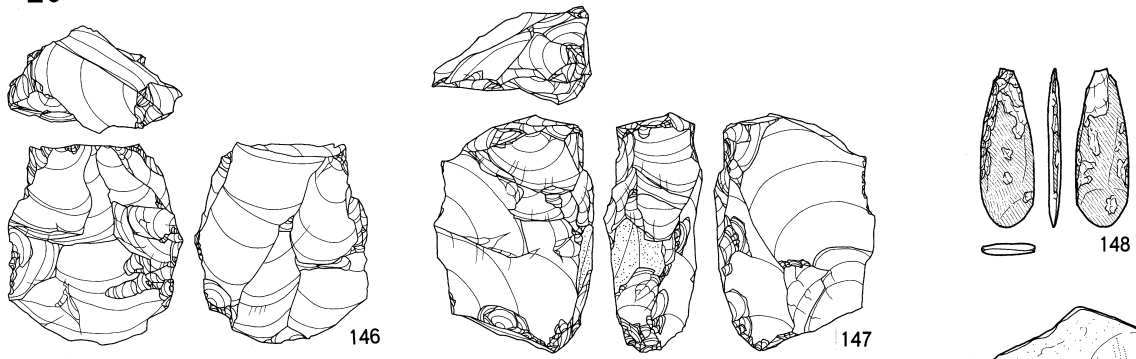


図III-135 H-20出土の石器(3)

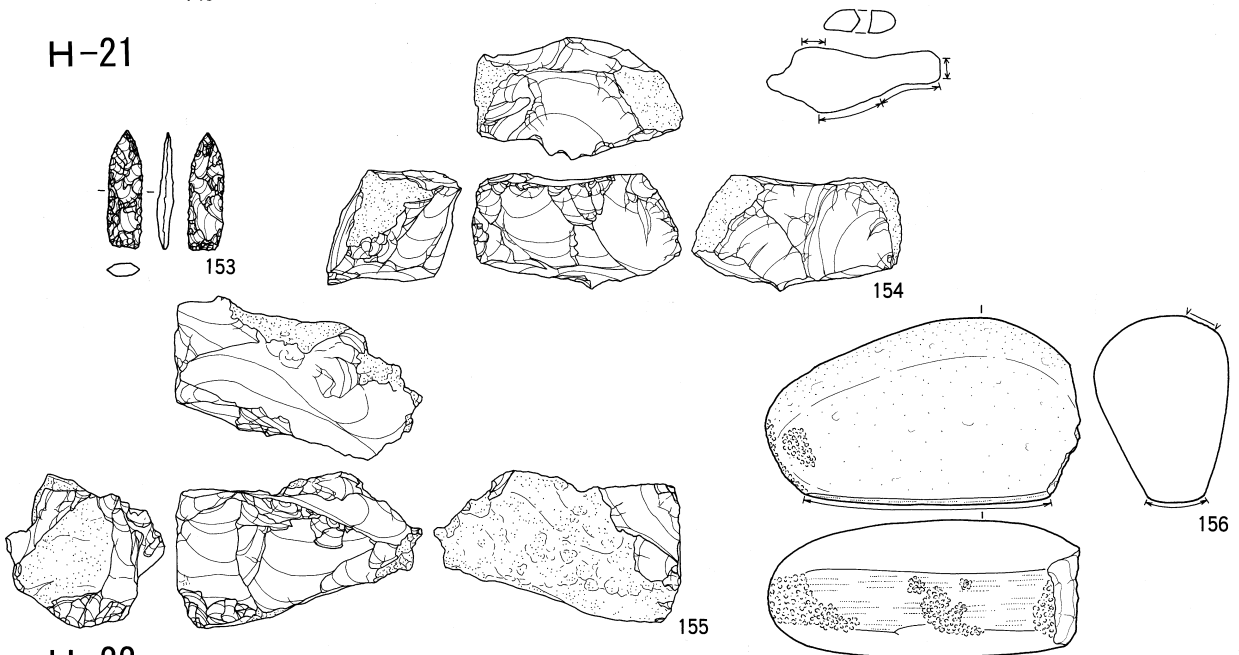
145

0 (剥片石器) 5cm
s=1/2

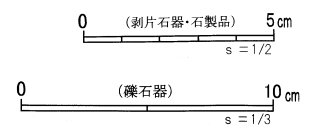
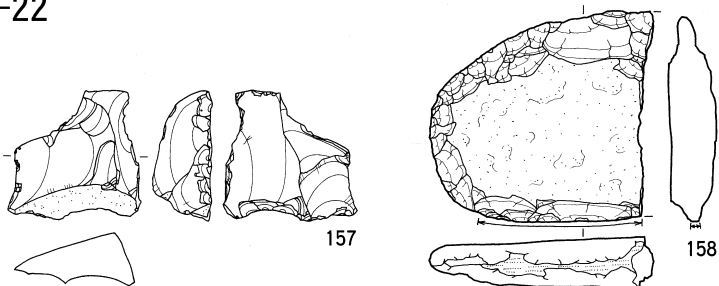
H-20



H-21

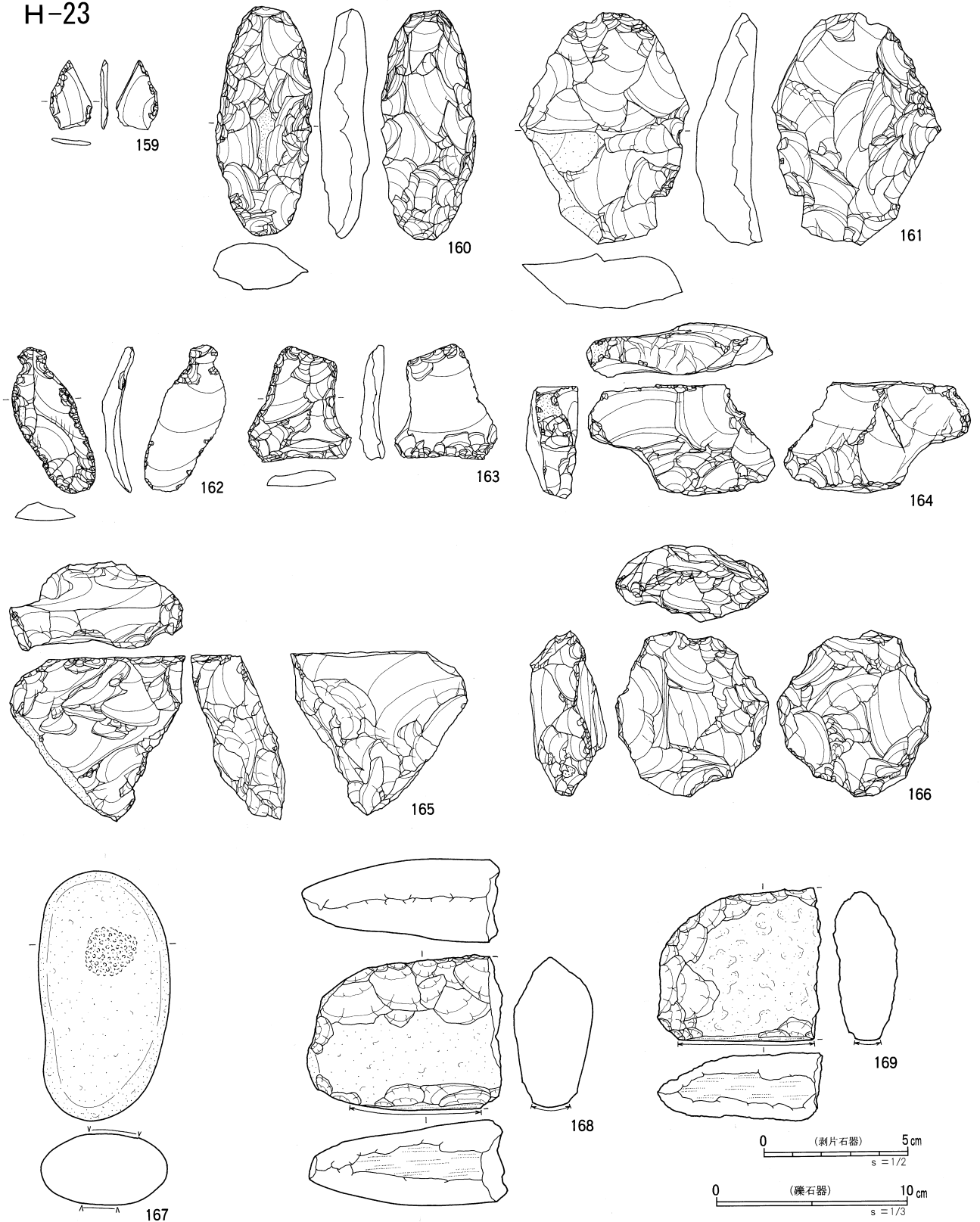


H-22



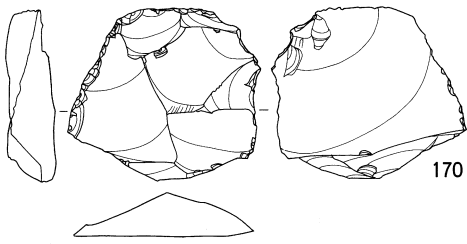
図Ⅲ-136 H-20 (4)・H-21・22出土の石器等

H-23



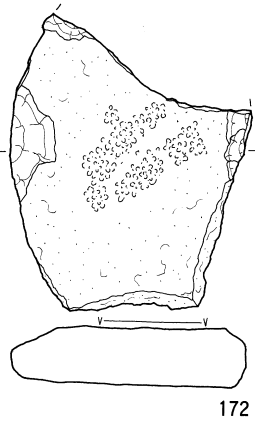
図III-137 H-23出土の石器

H-24



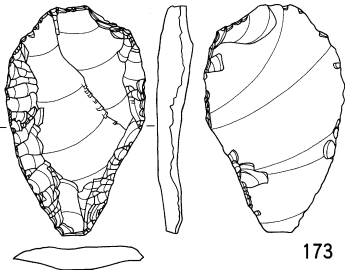
170

171



172

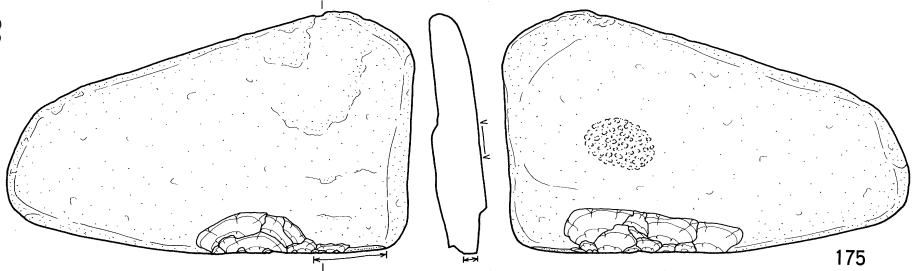
H-25



173

174

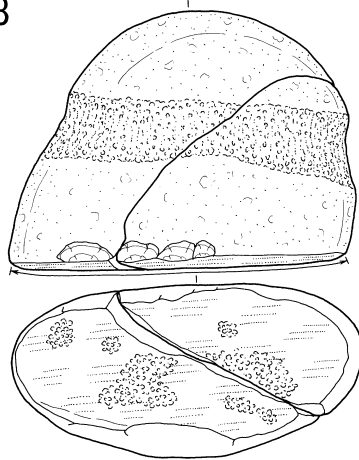
H-27



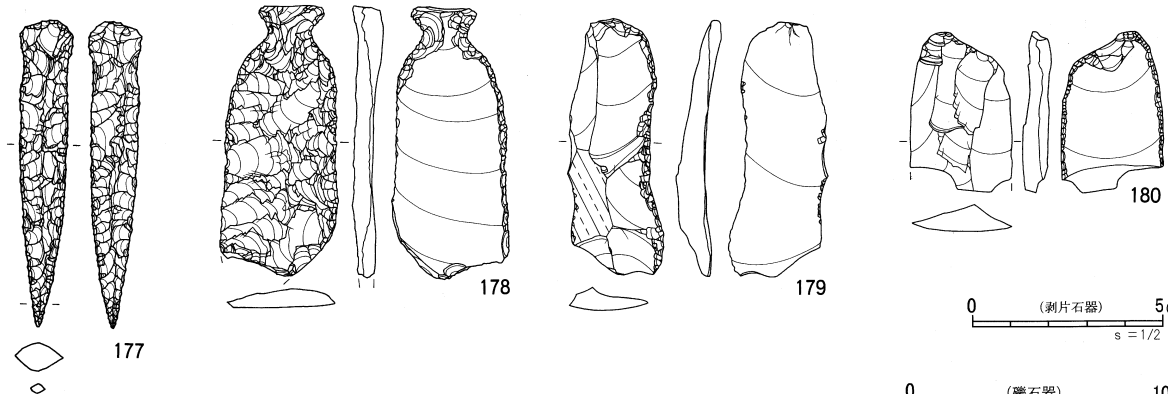
175

176

H-28



H-29



177

178

179

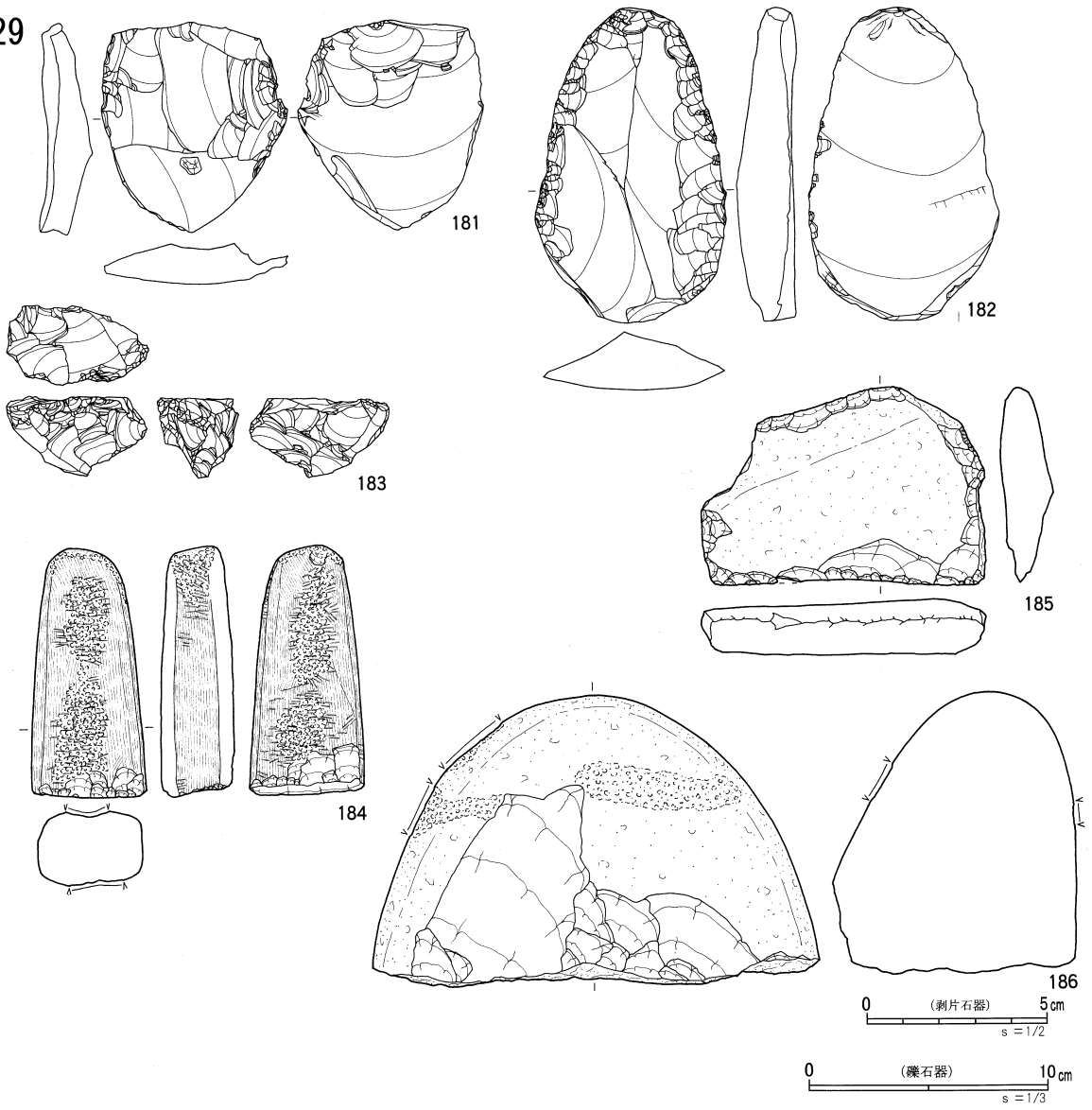
180

0 (剥片石器) 5 cm
s = 1/2

0 (礫石器) 10 cm
s = 1/3

図Ⅲ-138 H-24・25・27~29 (1) 出土の石器

H-29



図III-139 H-29出土の石器(2)

(4) 土坑・フレイク集中出土の石器等

1はP-1出土のスクレイパー片、つまみ付きナイフの可能性が有る。2はP-2出土の砂岩製砥石で、片面にすり痕があり、その裏側は平坦面にたたき痕がみられる。3はP-3出土のつまみ付きナイフで、やや被熱する。

4・5はP-4出土、4は石鏃片、5は安山岩製すり石である。6はP-5出土の大型フレイクである。

7~10はP-10出土である。7はスクレイパーである。8・9は石核で、8は礫を半割し、半割面を打面として周囲を打ち欠いている。9は角柱状となるもので両端から比較的長い剥片がとられている。10はめのう製のたたき石である。

11はP-14、12はP-16、13はP-17出土のスクレイパーである。14はP-18出土の三角形石鏃である。15はP-20出土の安山岩製扁平打製石器、16はP-24出土の安山岩製台石片である。17はP-25出土のRフレイクである。

18~23はP-31出土である。18は両面調整石器、19・22はスクレイパーである。19は鋸歯状刃部をもつ、22は約17cmと大型で、石核としてもよいかもしれない。20・21は石核で、20は打面を変えながら剥片をとっている。21は扁平の頁岩礫の平坦面から剥離を行っている。23は凝灰岩製の砥石で、両面に平滑なすり面がある。

24はP-39出土の砂岩製扁平打製石器、25はP-40出土の石核である。26はP-45出土のスクレイパーで、下端部を中心に炭化物が付着する。

27・28はP-51出土で、27はスクレイパーである。28は石核で、打面から連続して縦長剥片がとられる。全面に煤が付着する。29はP-56壁面直上出土のつまみ付きナイフである。

30・31はP-59出土で、30はスクレイパー、31は安山岩製の石皿である。

32はP-61出土の扁平な頁岩原石の石核、33はP-73出土のスクレイパーである。

34~39はP-89出土である。34は石鏃である。35・36はつまみ付きナイフで、押圧剥離が背面片側から入れられる。37は筥状石器、38・39はスクレイパーである。

40はP-96出土の石核、三角柱状で、一面は原礫面である。41はP-97出土の断面三角形すり石、42はP-99出土の扁平打製石器で、いずれも安山岩製である。

43・44はP-100出土のつまみ付きナイフ、43は底面出土である。

45~47はP-101出土である。45は石錐で被熱する。46はスクレイパー、47は安山岩製の扁平打製石器である。

48~52はP-102出土である。48は石錐で機能部がやや磨滅する。49~51はつまみ付きナイフ、背面に押圧剥離が施される。52は安山岩製の断面三角形すり石である。

53~60はP-104出土、53・54は両面調整石器で53は正面左側縁に折れ面や原石面が残る。55は底面出土の石錐である。56は筥状石器、57スクレイパーである。58は凝灰岩製の小型の石斧で、側面は折れ面となる。刃部幅は1.2cmである。59は安山岩製のたたき石、側縁にたたき痕がある。60は断面三角形のすり石片である。

61・62はP-105出土、61は石核で、原礫から剥離した素材の周囲から剥片をとっている。62は安山岩製の台石片である。

63~79はP-108出土である。63は柳葉形の石鏃で、基部は調整されていない。64・65は石錐、棒状で断面形が三角形となる。66はつまみ付きナイフである。67~73はスクレイパーで、いずれも剥片の側縁に簡単な刃部を持つ。69は鋸歯状の刃部となる。72はH-20の接合資料2と接合した。74は石核、75・76はたたき石である。77は凝灰岩製の小型の石斧、全面すられるが、側面は折れ面となる。

幅は1.2cmである。78は断面三角形のすり石、79は凝灰岩製の石錘である。

80はP-112出土の石核で、剥片素材の周縁から剥離を行っている。

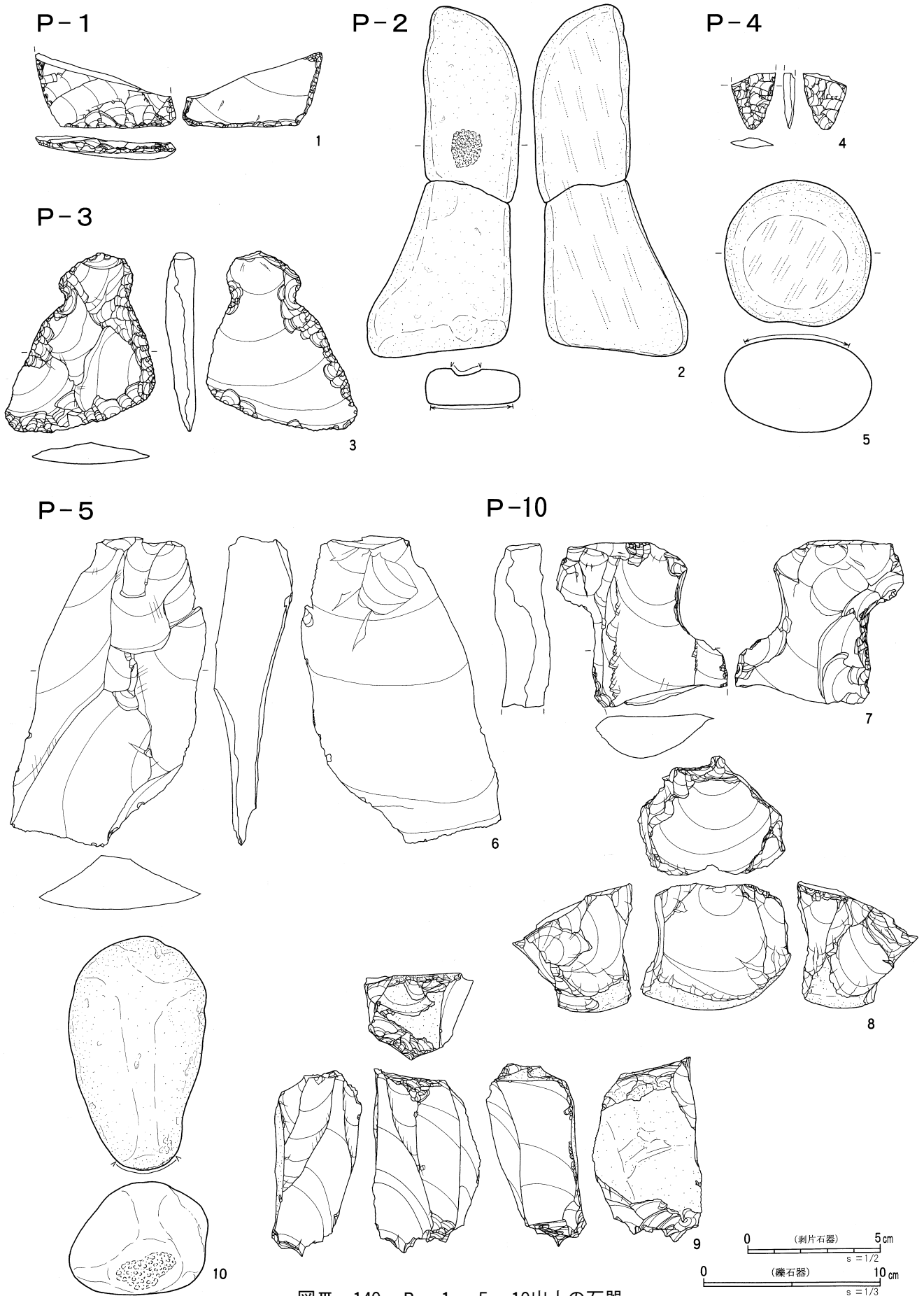
81～89はP-113出土である。81～83は石鏃、81は周縁部のみを加工する。82・83は柳葉形で、基部が平らとなる。83は厚みを残す。84は石錐で、厚みのある剥片の一端に機能部がある。85・86はスクレイパー、85は急角度の刃部が両側縁にあり、86は鋸歯状で内湾する刃部がみられる。87は石核で、両端にある打面から縦長の剥片が剥離される。上部の打面は側面周囲から調整される。88は珪岩製のたたき石、89は安山岩製の断面三角形のすり石で、2つの稜にすり痕が残る。

90はP-130出土のスクレイパー、91はP-131出土の石核で横長の剥片がとられている。

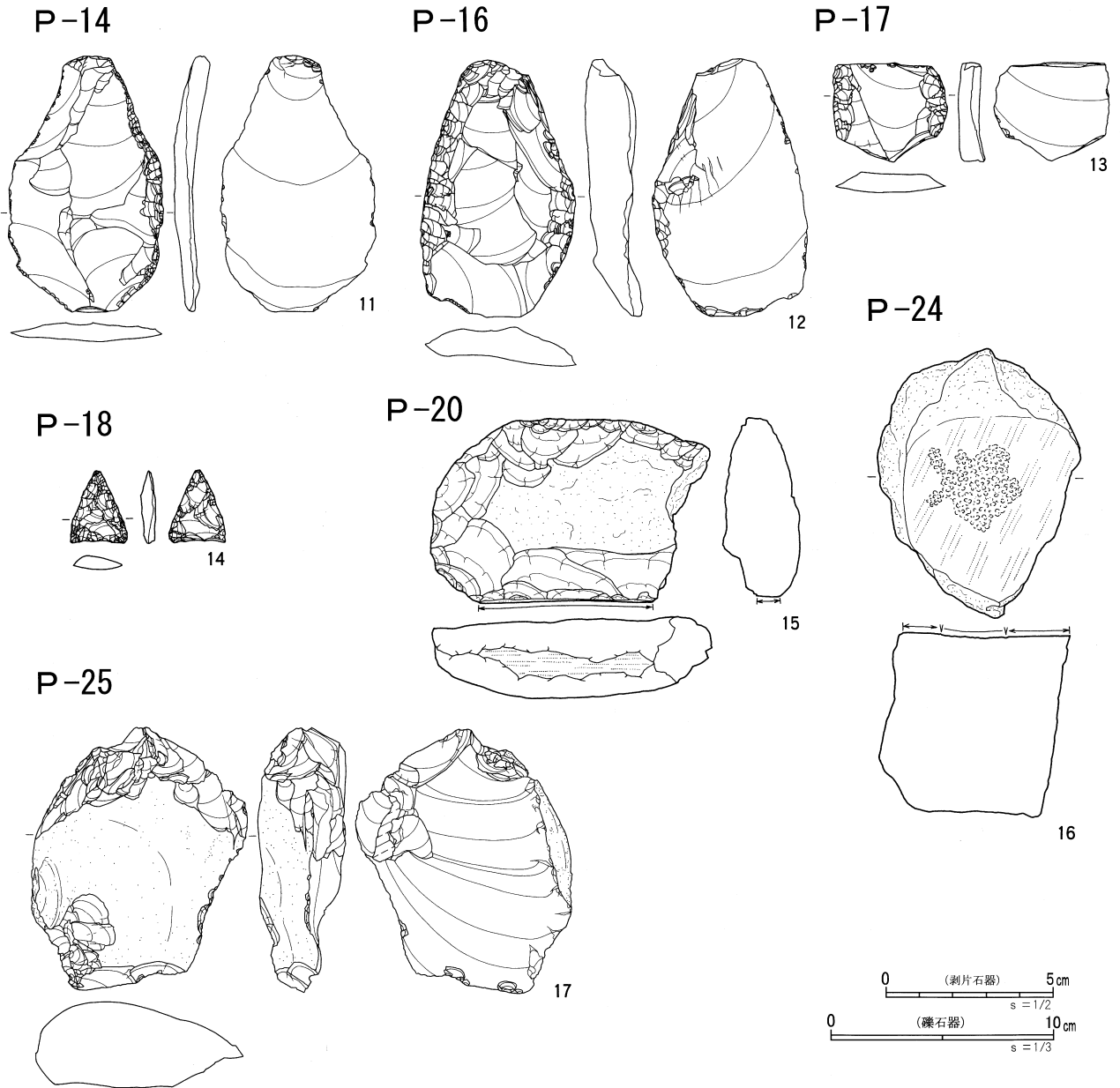
92はP-142出土のスクレイパーである。

93～96はFC-1出土である。93は両面調整石器、94はつまみ付きナイフ、95・96はスクレイパーである。

97・98はFC-3出土、H-9掘り上げ土直下から出土した。97は厚みがある素材で、両面調整石器としたが石核の可能性もある。98は石核で、打面調整を繰り返し、図正面側の剥離が行われる。97・98は同一の母岩である。(愛場)

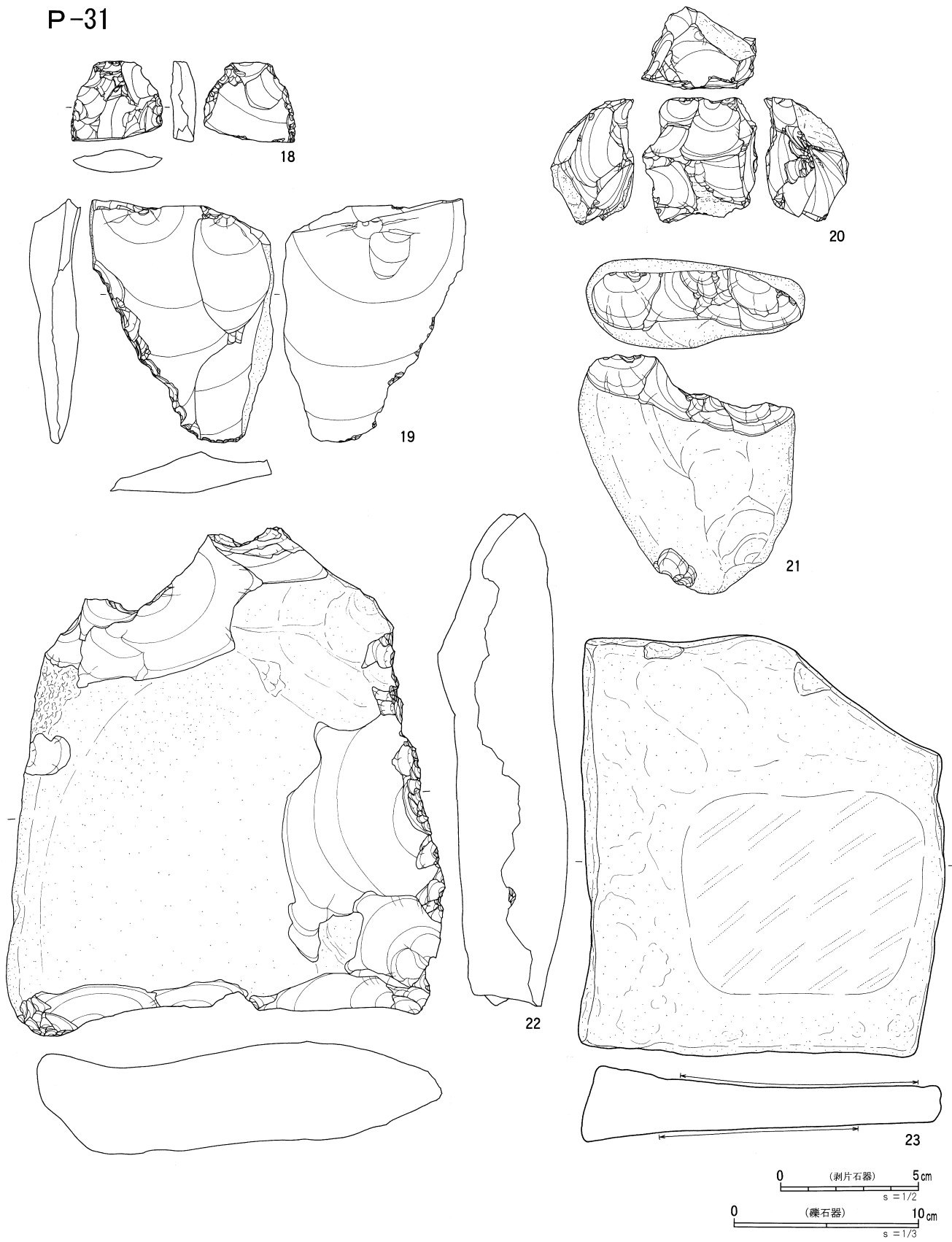


図Ⅲ-140 P-1~5・10出土の石器



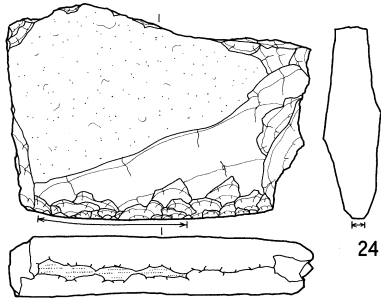
図III-141 P-14~25出土の石器

P-31

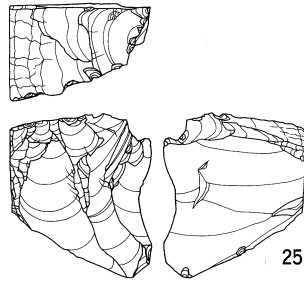


図Ⅲ-142 P-31出土の石器

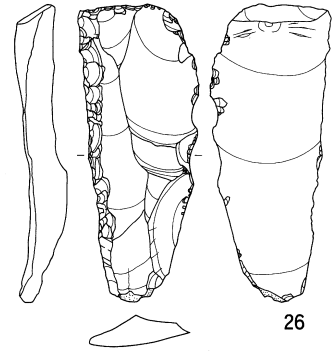
P-39



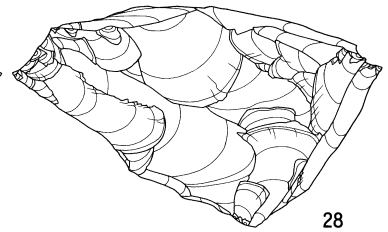
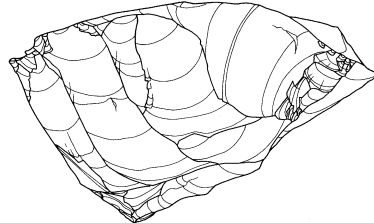
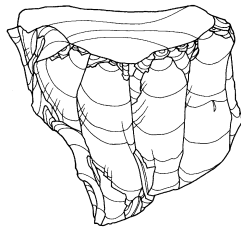
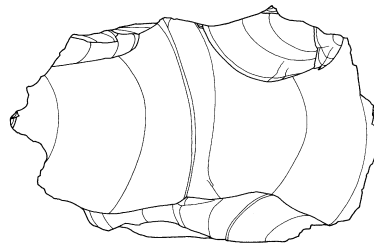
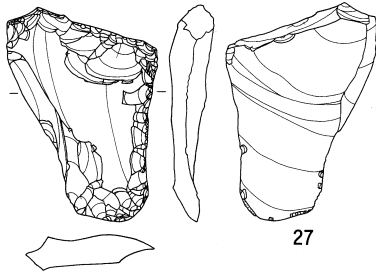
P-40



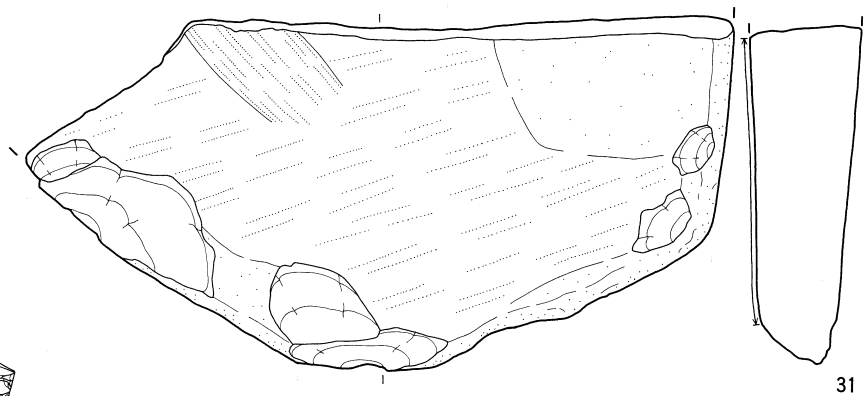
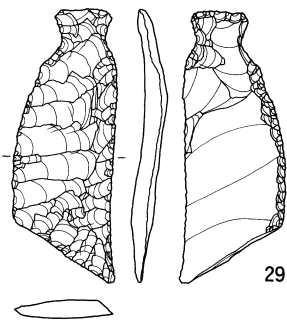
P-45



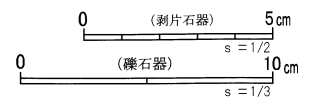
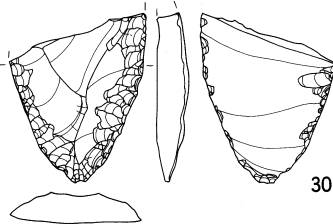
P-51



P-56

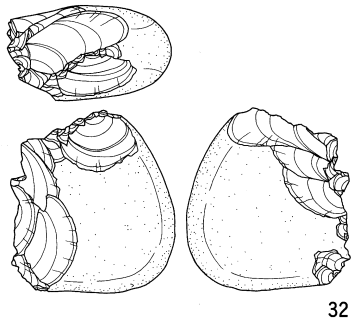


P-59



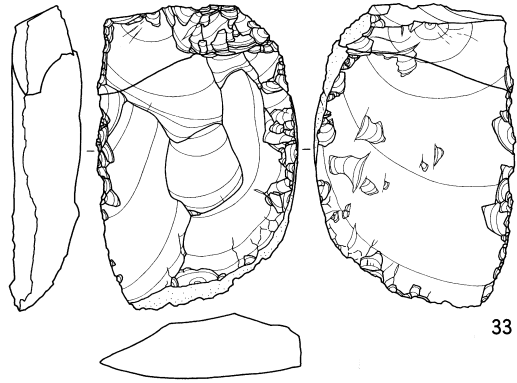
図III-143 P-39~59出土の石器

P-61



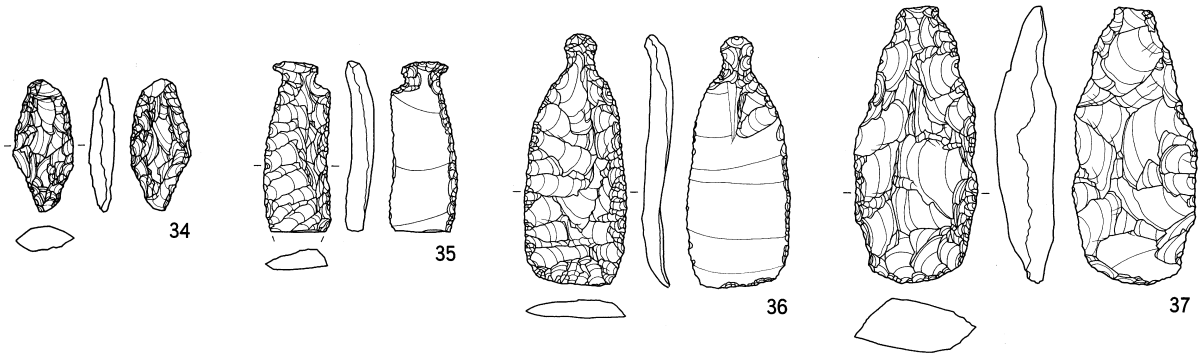
32

P-73



33

P-89

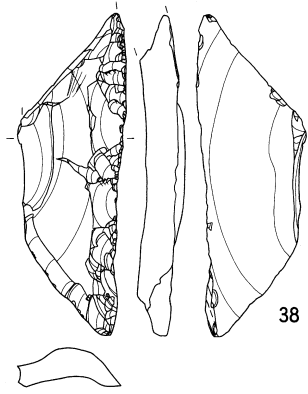


34

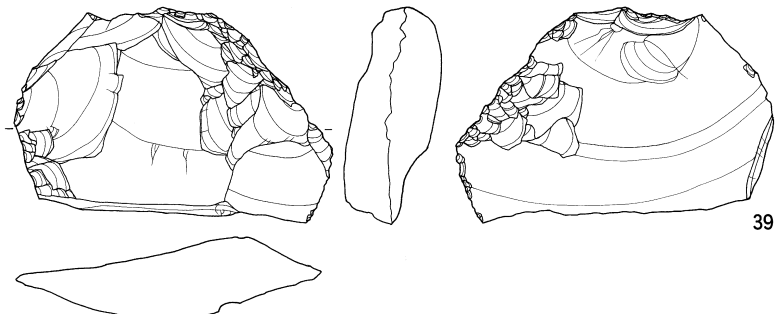
35

36

37

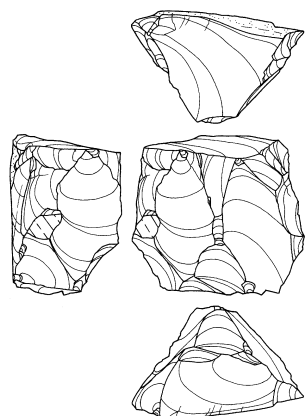


38



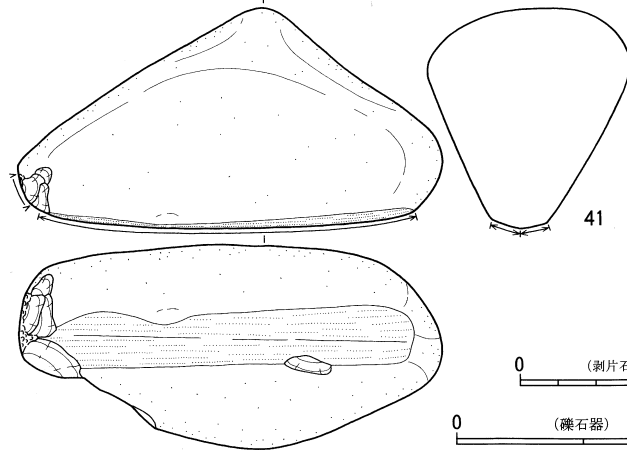
39

P-96



40

P-97

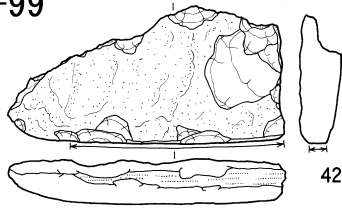


41

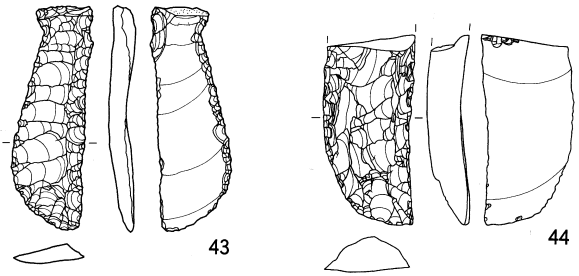


図Ⅲ-144 P-61~97出土の石器

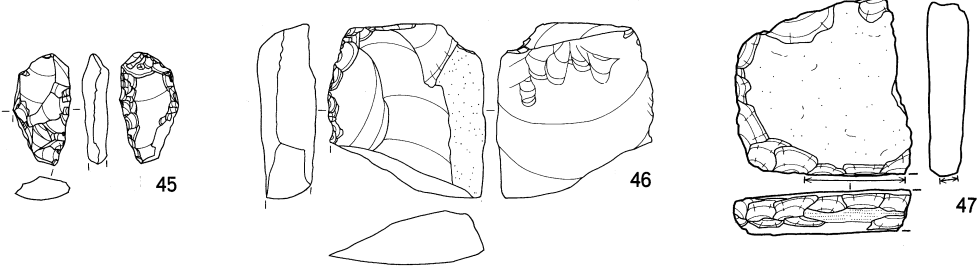
P-99



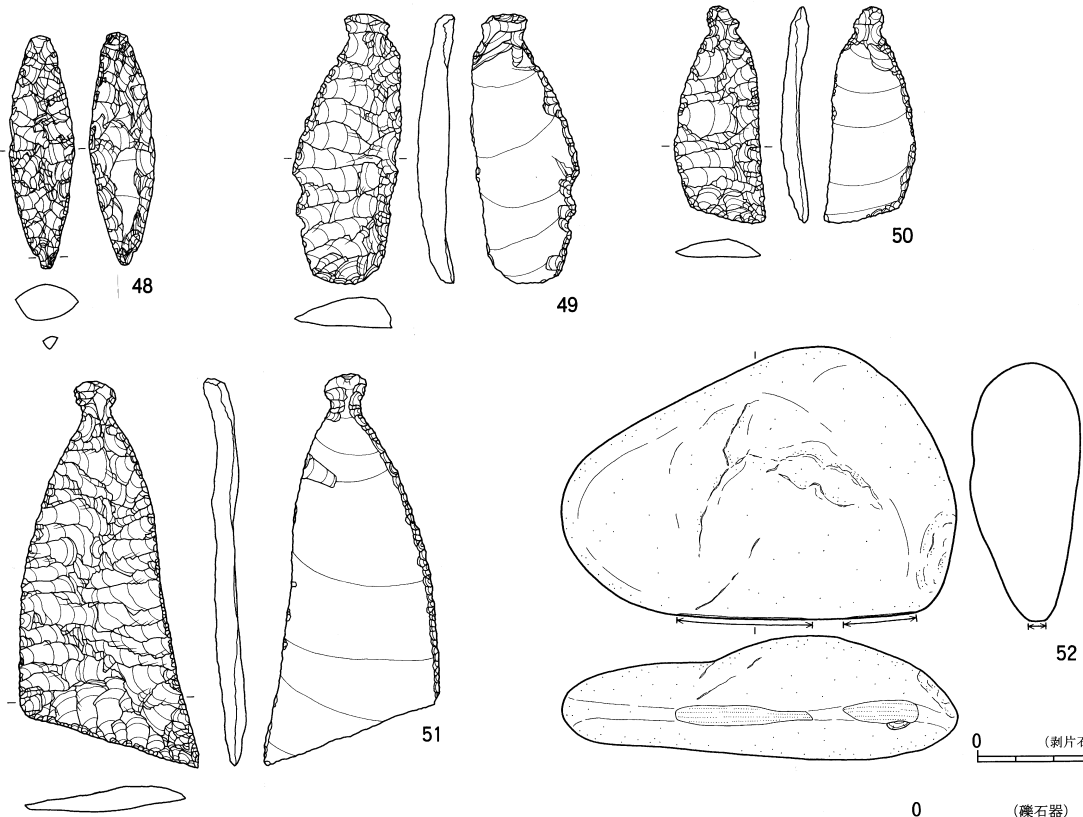
P-100



P-101

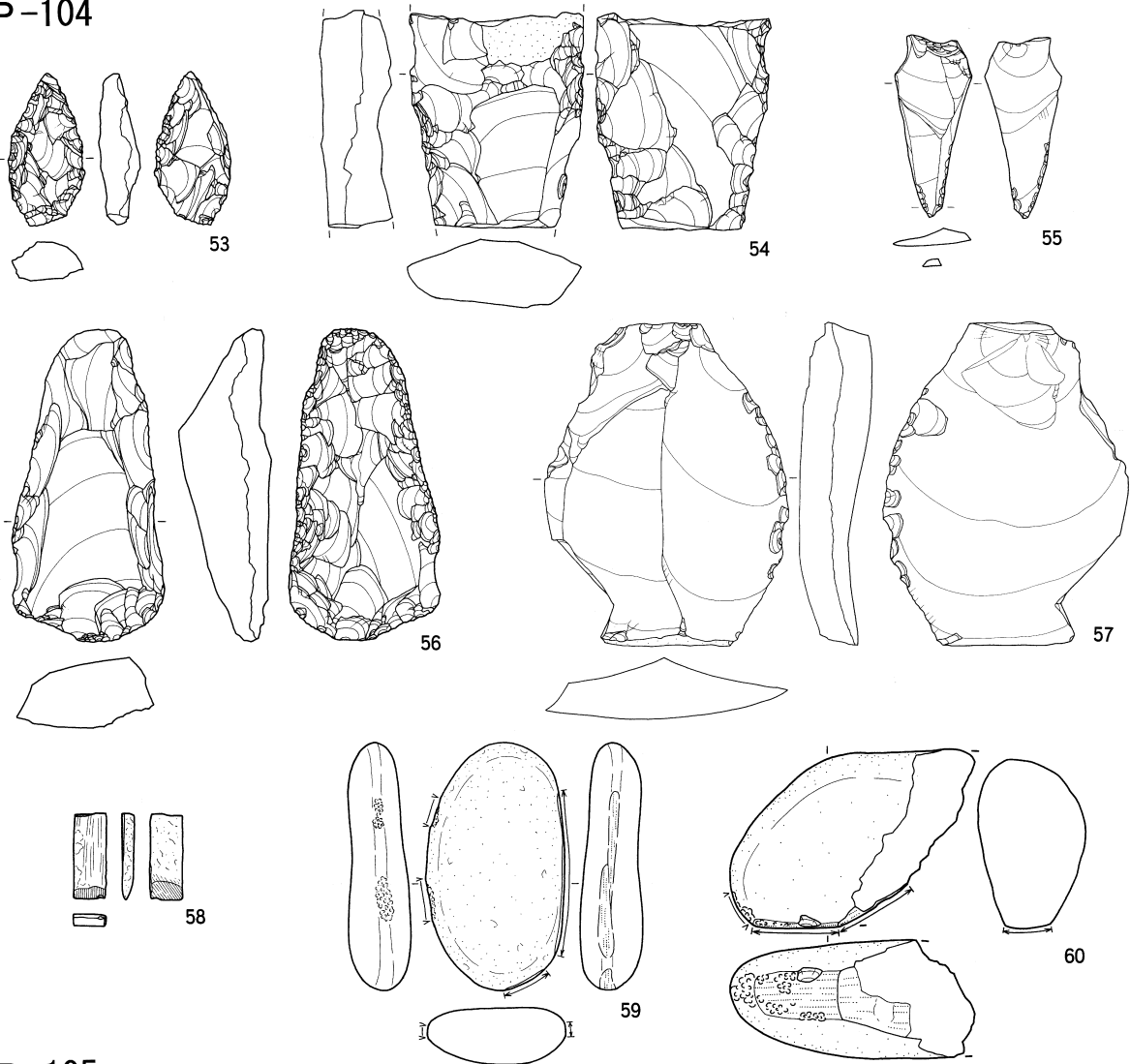


P-102

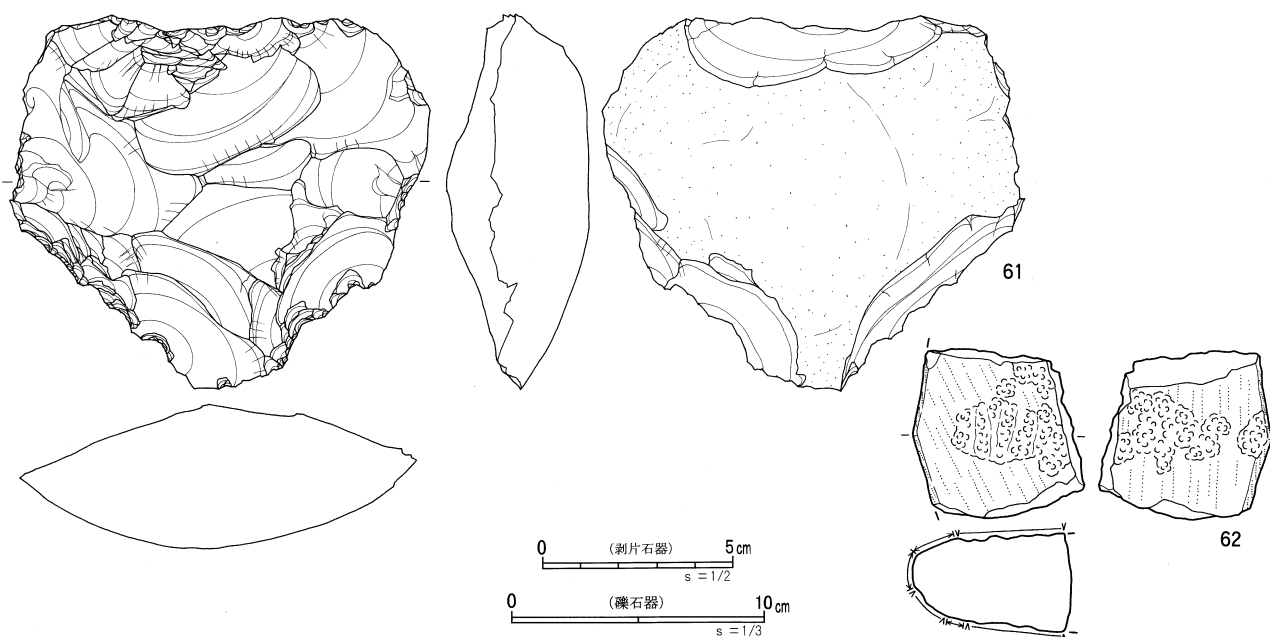


図III-145 P-99~102出土の石器

P-104



P-105



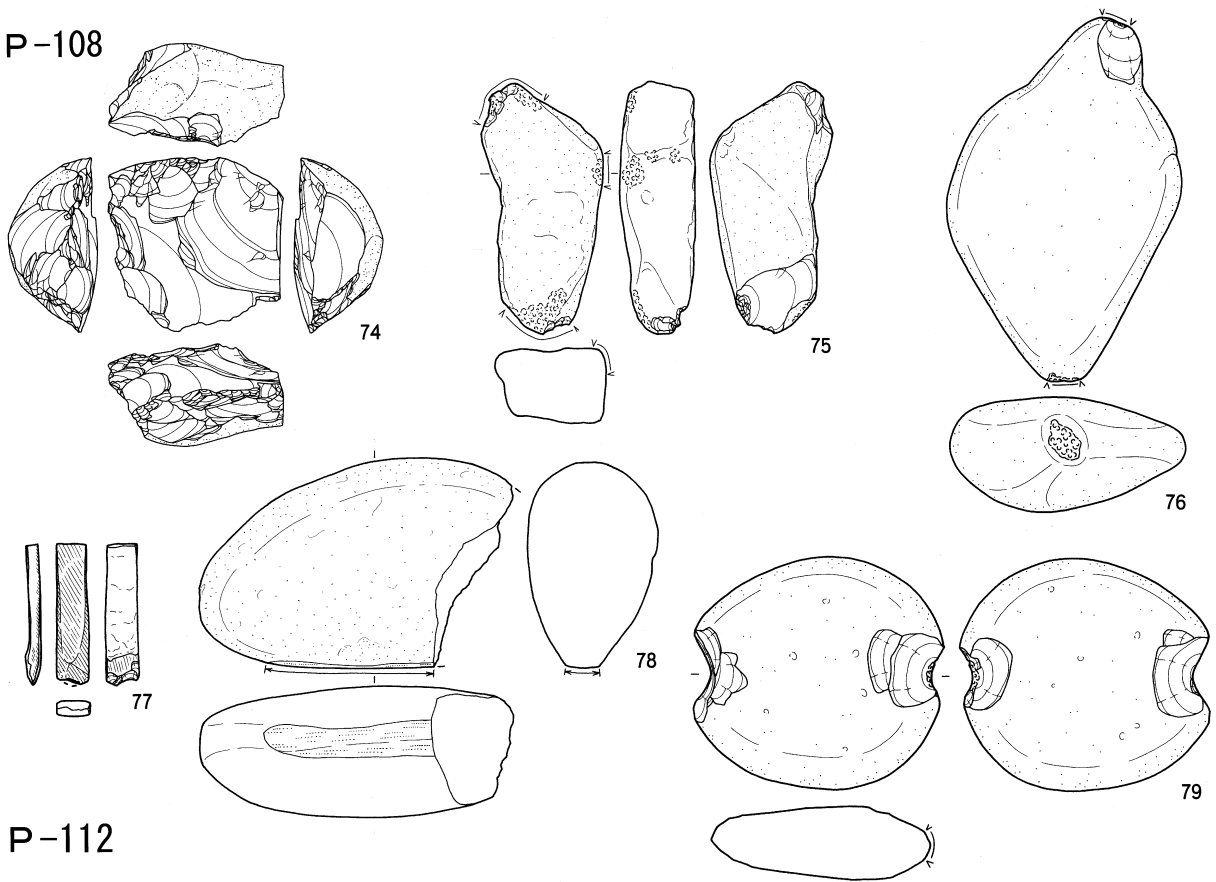
図III-146 P-104・105出土の石器

P-108

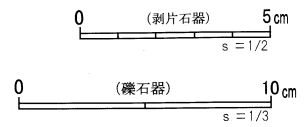
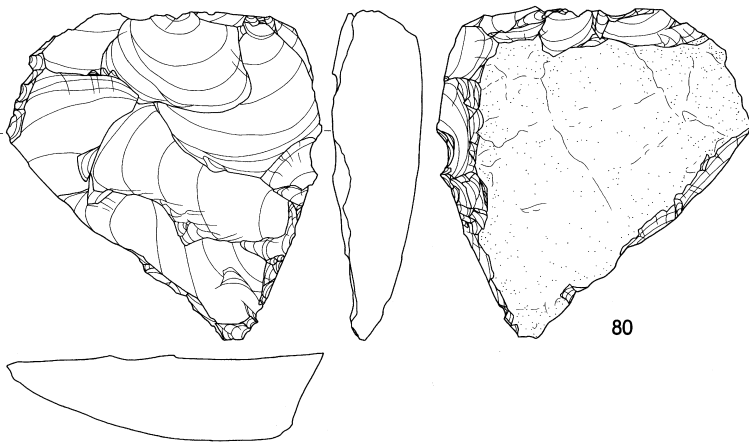


図III-147 P-108出土の石器(1)

P-108

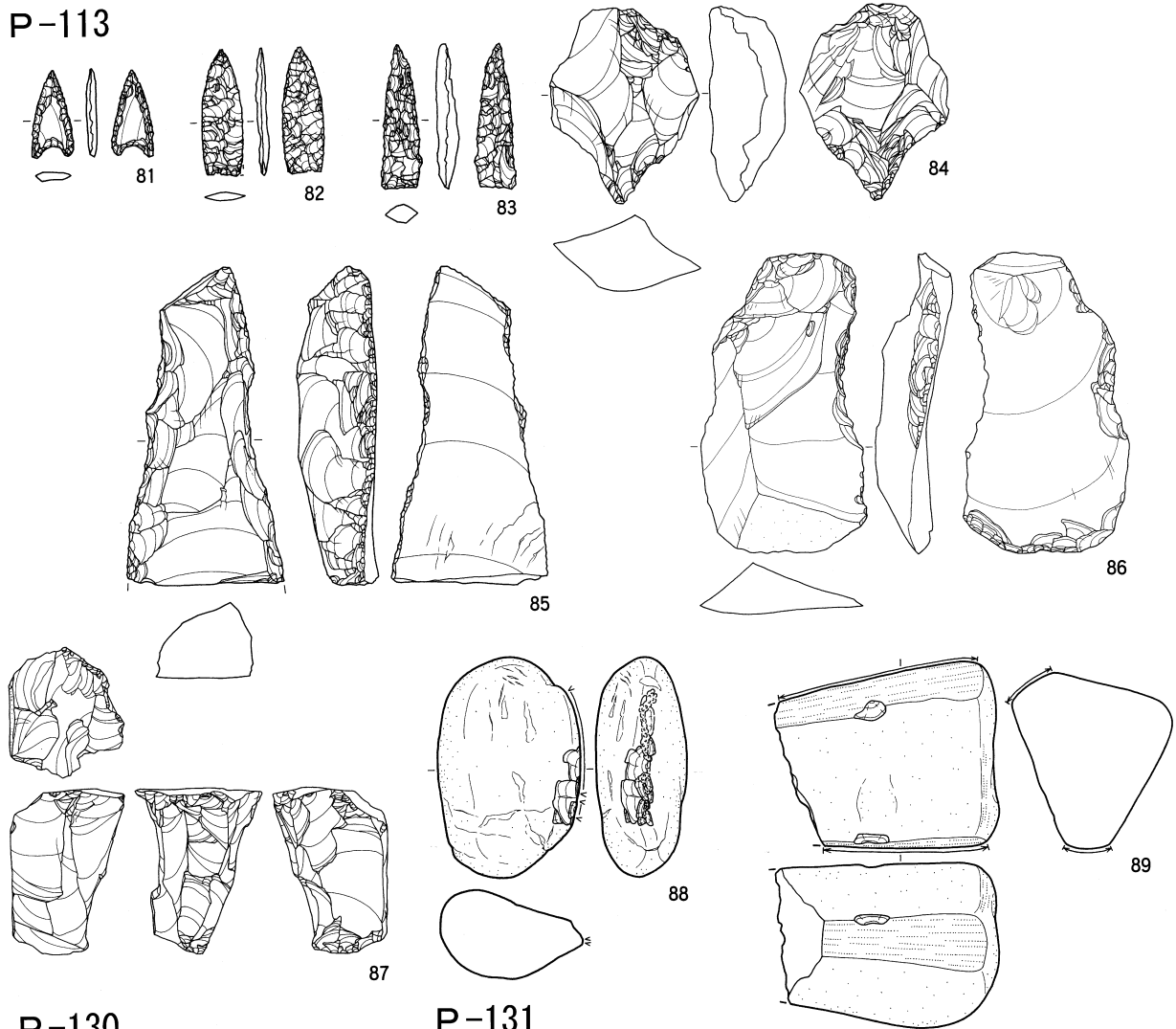


P-112

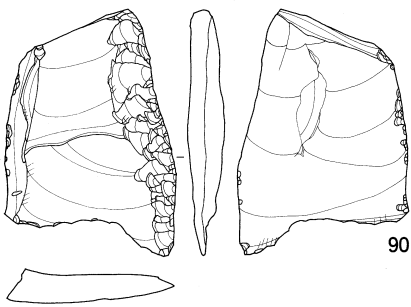


図Ⅲ-148 P-108 (2)・P-112出土の石器

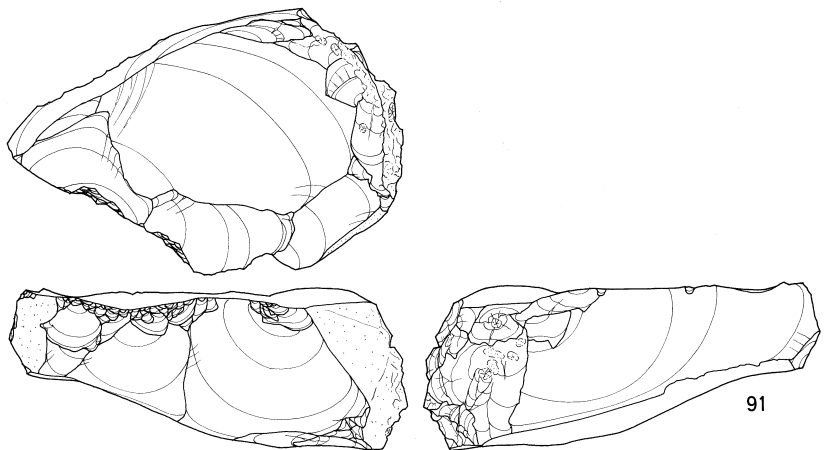
P-113



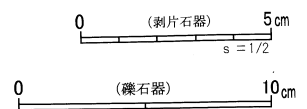
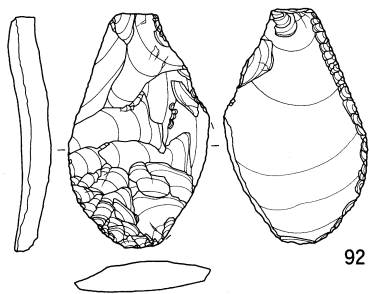
P-130



P-131

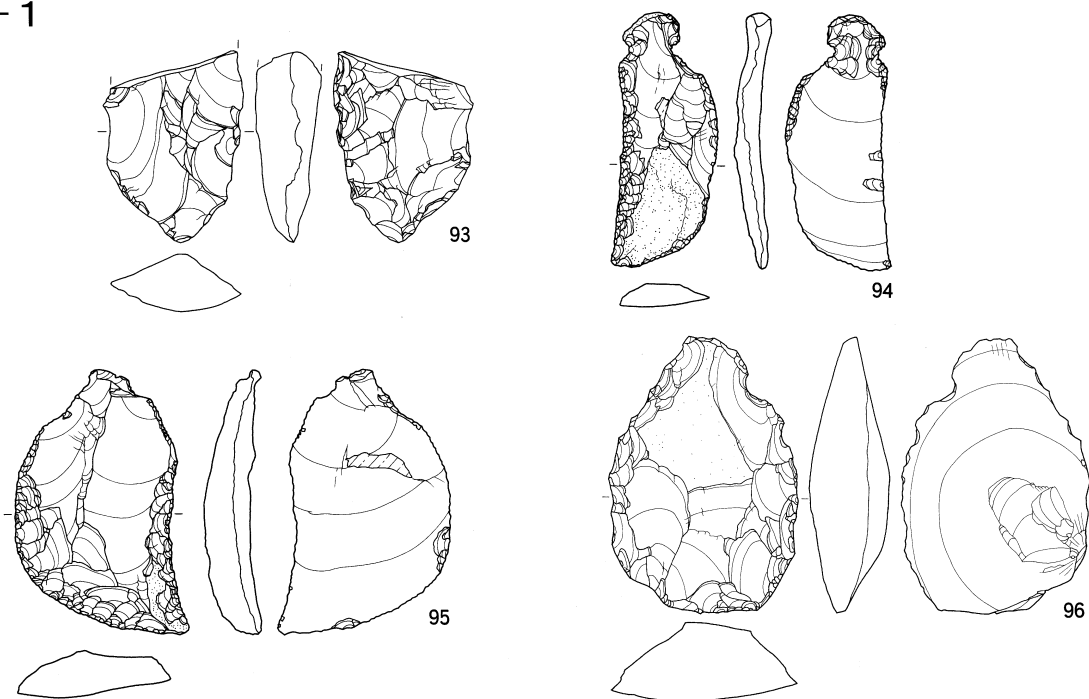


P-142

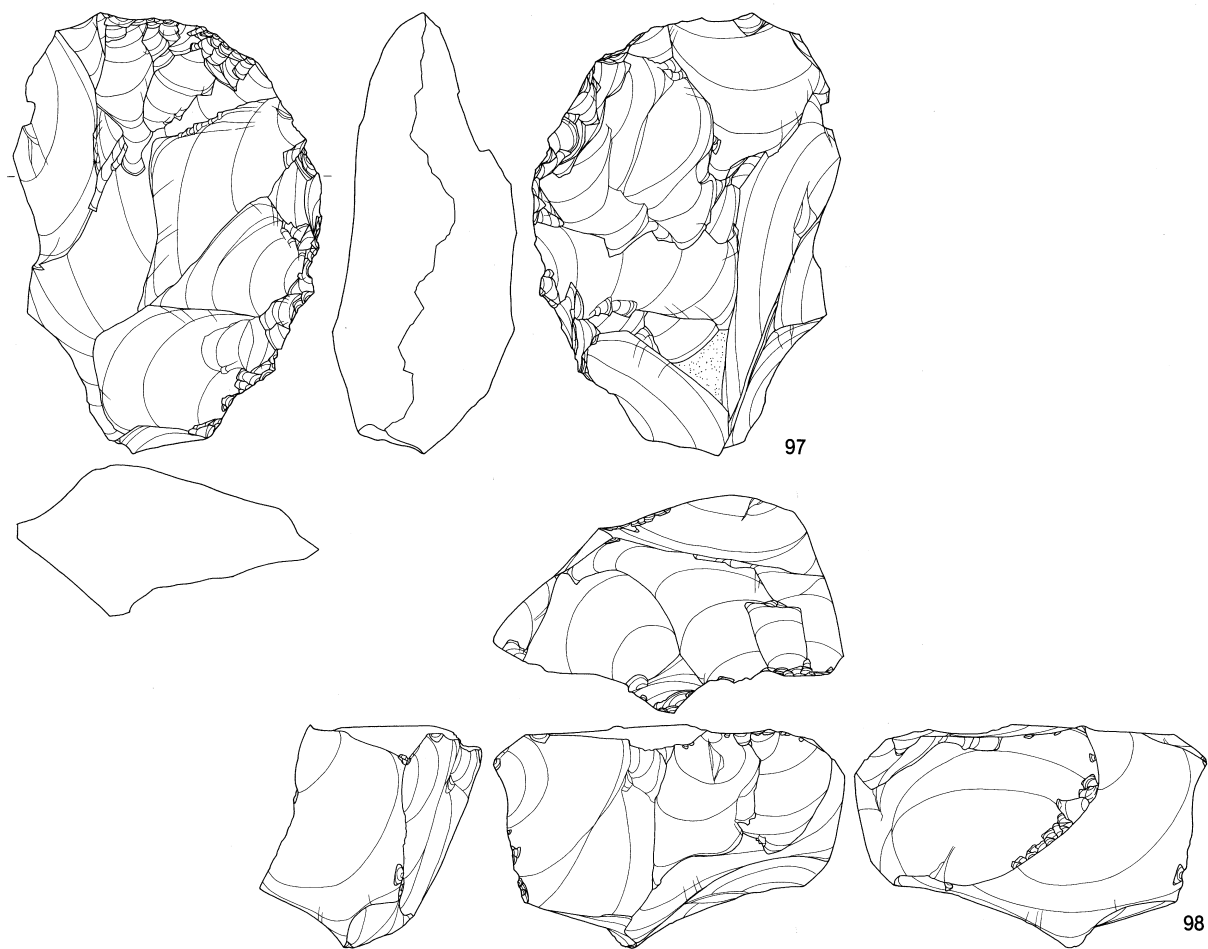


図III-149 P-113~142出土の石器

FC-1



FC-3



0 (剥片石器) 5cm
s=1/2

図III-150 FC-1・3出土の石器

表Ⅲ-1 竪穴住居跡規模一覧

遺構名	調査区	規模 (m)					平面形	付属遺構	時期	備考
		確認面		底面		最大深				
		長径	短径	長径	短径					
SH-1	M8・9・10/N8・9・10/O9・10	4.71	4.44	4.53	4.3	0.31	隅丸方形	カマド・樋道・HP-1・2	縄文文化期前半	
SH-2	M12・13/N12・13	4.06	3.6	3.83	3.39	0.36	隅丸長方形	カマド・樋道・HP-1~4	縄文文化期前半	
H-1	N17・18/O17・18/P17・18	6.96	6.68	5.96	5.64	0.96	円形	HP-1~17	縄文時代早期後半	
H-2	N22・23/O22・23	3.66	3.39	3.45	3.17	0.28	円形	HP-1~3	縄文時代早期後半?	
H-3	N15・16/O15・16/P15・16	8.75	4.99	7.89	3.83	0.75	不整楕円形	HF-1	縄文時代早期後半	
H-4	J8・9/K8・9	3.04	3.02	2.8	2.64	0.3	不整円形	HF-1・HP-1~6	縄文時代後期前半	
H-5	M12・13/N12・13	(5.26)	3.62	(5.0)	3.34	0.52	長方形	HP-1~14	縄文時代前期前半	
H-6	M10/N10	(3.44)	(2.80)	(3.16)	-	0.37	円形・卵形?	HF-1・2・HP-1~3	縄文時代後期前半	石組炉・先端部ビット
H-7	H41・42/I41・42・43/J41・42・43	8.13	7.85	7.99	7.71	0.93	円形	HP-1~17	縄文時代前期後半	
H-8	H38・39・40/I38・39・40	(8.60)	(4.10)	(8.26)	(3.92)	0.76	楕円形?	HF-1~3・HP-1~7・周溝	縄文時代前期後半	HF-2・3掘り込み
H-9	H34・35・36/I34・35・36	(10.71)	(4.87)	(10.57)	(4.75)	1.21	隅丸長方形?	HF-1・HP-1~13	縄文時代前期後半	掘り上げ土
H-10	I36・37・38/J36・37・38/K36・37・38	6.55	5.72	6.22	5.52	0.82	楕円形	HP-1~12	縄文時代前期後半	中央部掘り込み
H-11	I39・40/J39・40	4.08	3.48	3.96	3.31	0.7	楕円形	HF-1・HP-1~7	縄文時代前期後半	ベンチ構造
H-12	H41・42・43	(5.20)	(1.76)	(4.87)	(1.64)	0.26	円形?	HP-1・2	縄文時代前期後半	
H-13	O25・26/P25・26	5.6	4.7	5.2	4.26	0.48	不整六角形		縄文時代早期後半	
H-14	Q4・5/R4・5	3.57	3.35	3.38	3.22	0.42	不整円形	HF-1・2・HP-1~7・周溝	縄文時代後期前半	石組炉・出入口
H-15	Q5・6/R5・6	(2.14)	(1.38)	(2.14)	(1.32)	0.05	円形?	HF-1・2	縄文時代後期前半	
H-16	R4/S4	(3.74)	(1.42)	(3.55)	(1.17)	0.62	隅丸方形?		縄文時代	
H-17	S5	3.19	2.96	2.88	2.75	0.45	円形	HF-1・2・HP-1~9・周溝1	縄文時代後期前半	
H-18	R4・5/S4・5	2.85	2.66	2.69	2.54	0.3	六角形?	HF-1・HP-1・2・周溝	縄文時代後期前半	焼失住居
H-19	Q12・13	3.4	3.21	2.96	2.91	0.23	不整円形		縄文時代早期後半	
H-20	Q13・14/R13・14/S13・14	6.1	5.8	5.56	5.36	0.78	円形	HP-1~16・周溝1・2	縄文時代早期後半	石器製作跡
H-21	Q17/R16・17/S17	5.45	(4.52)	5.08	(4.54)	0.44	不整円形?	周溝1	縄文時代早期後半	
H-22	F48・49・50/I48・49・50	7.88	(3.32)	7.28	(2.24)	0.84	不整楕円形	HP-1~10	縄文時代前期後半	クルミビット
H-23	F50~52/G50~52/H50・51	5.96	5.84	5.7	5.7	0.68	不整楕円形	HP-1~16	縄文時代前期後半	
H-24	E52・53/F52・53/G52・53	(5.50)	4.67	(5.20)	4.51	0.32	不整楕円形	HP-1~3	縄文時代前期後半	ベンチ構造
H-25	F54・55/G54・55	(3.36)	(1.25)	(3.09)	(1.10)	0.43	不明		縄文時代前期後半	
H-26	H54	(2.53)	(1.69)	(2.53)	(1.60)	0.32	不明	HP-1~3	縄文時代前期後半	
H-27	K54・55/L54・55	3.38	3.14	3.15	2.83	0.23	円形	HP-1	縄文時代	
H-28	M45/N44・45	3.7	(2.87)	3.44	(2.70)	0.1	楕円形		縄文時代前期後半	
H-29	M43・44/N43・44	5.51	4.97	5.34	4.71	0.5	楕円形	HP-1~11	縄文時代前期後半	焼失住居

表Ⅲ-2 土坑等の規模一覧(1)

遺構	調査区	規模 (m)					備考
		確認面		底面		最大深	
		長径	短径	長径	短径		
P-1	L31	1.01	0.92	0.8	0.74	0.31	
P-2	M30・31	0.35	0.31	0.22	0.2	0.11	
P-3	O4・5	0.9	0.84	1	0.92	0.36	
P-4	O22	1.03	0.74	0.82	0.53	0.31	
P-5	K26/L26	0.94	0.84	0.93	0.92	0.34	
P-6	K25	0.64	0.59	0.43	0.39	0.2	
P-7	J16	0.72	0.67	0.51	0.53	0.17	
P-8	K16	0.71	0.63	0.87	0.83	0.34	
P-9	J15・16	0.48	0.44	0.34	0.34	0.14	
P-10	M18	1.65	1.34	1.34	1.04	0.49	
P-11	K13・14	1.1	0.84	0.62	0.72	0.4	
P-12	L12・13/M12・13	1.54	0.94	1.23	0.71	0.85	
P-13	N5	0.74	0.66	0.82	0.84	0.4	
P-14	N4	0.8	0.68	0.7	0.6	0.38	
P-15	O5	0.6	0.54	0.62	0.56	0.34	
P-16	N4	0.72	0.64	0.78	0.68	0.46	
P-17	N5	0.8	0.74	1	0.9	0.6	
P-18	N5	0.58	0.6	0.64	0.62	0.3	
P-19	M4	0.7	0.56	0.78	0.72	0.56	
P-20	N6	0.74	0.7	0.84	0.78	0.38	
P-21	M5・6/N5・6	0.66	0.58	0.92	0.88	0.66	
P-22	M5	0.88	0.8	1.08	1.04	0.48	
P-23	M5	0.84	0.78	0.74	0.66	0.5	
P-24	M5・6	0.84	0.7	1	0.9	0.68	
P-25	M6	0.52	0.44	0.5	0.42	0.4	
P-26	L8	1.2	1	1.02	1.12	0.28	
P-27	M5	0.7	0.62	0.64	0.52	0.2	
P-28	M6・7	0.8	0.64	0.88	0.8	0.54	
P-29	M7・8/N7・8	0.68	0.64	0.64	0.56	0.1	
P-30	L8	0.58	0.52	0.42	0.42	0.16	
P-31	M8・9	1.47	1.29	1.44	1.38	0.7	SP-1柱穴
P-32	M5	0.68	0.6	0.64	0.64	0.36	
P-33	L5	0.52	0.42	0.56	0.32	0.2	
P-34	E52・53	0.91	(0.47)	0.6	(0.33)	0.13	
P-35	L5	(0.76)	(0.26)	(0.86)	(0.24)	0.38	
P-36	L5	0.52	0.44	0.64	0.6	0.42	
P-37	L5	0.42	0.46	0.5	0.52	0.2	
P-38	L4	0.88	0.8	0.86	0.7	0.48	
P-39	K6	2.1	2.04	1.9	1.84	0.14	
P-40	N6	0.74	(0.34)	0.62	(0.36)	0.32	
P-41	N4	0.62	0.6	0.64	0.64	0.36	
P-42	M5	0.48	0.48	0.8	0.76	0.56	

遺構	調査区	規模 (m)					備考
		確認面		底面		最大深	
		長径	短径	長径	短径		
P-43	L6/M6	0.7	0.68	0.88	0.76	0.6	
P-44	N5	0.68	0.56	0.86	0.76	0.36	
P-45	L7・8/M7	0.82	0.76	0.84	0.78	0.36	
P-46	L7/M7	1.02	0.84	1.06	1.04	0.56	
P-47	M7	0.74	0.66	0.66	0.66	0.24	
P-48	M6	0.56	0.44	0.64	0.54	0.48	
P-49	M6	0.72	0.7	0.52	0.48	0.22	
P-50	M6・7	0.6	0.56	0.72	0.76	0.42	
P-51	M6/N6	0.52	0.44	0.86	0.76	0.6	
P-52	K13	0.62	0.52	0.6	0.66	0.36	
P-53	J14/K14	0.92	0.64	1.08	0.9	0.58	
P-54	M6/N6	0.38	0.36	0.36	0.34	0.4	
P-55	N4	(0.64)	(0.16)	(0.56)	(0.12)	0.24	
P-56	T22	1.74	1.5	1.16	1.06	0.24	
P-57	N7/O7	0.45	0.39	0.32	0.27	0.14	
P-58	H42	1.63	1.33	1.42	1.09	0.13	
P-59	H42	1.96	1.57	1.62	1.18	0.52	
P-60	I39	1.94	1.62	(1.10)	(0.96)	0.22	
P-61	J39・40	2.58	2	(1.90)	(1.40)	0.32	
P-62	K43	0.78	0.66	0.52	0.42	0.14	
P-63	K43	0.76	0.72	0.7	0.64	0.14	
P-64	K43	0.5	0.44	0.44	0.36	0.08	
P-65	I44	0.56	0.44	0.48	0.4	0.24	
P-66	I44	0.68	0.62	0.5	0.4	0.24	
P-67	I44	0.62	0.54	0.5	0.48	0.22	
P-68	I44	0.58	0.54	0.5	0.48	0.22	
P-69	H41	0.66	0.52	0.59	0.59	0.33	
P-70	I43	0.6	0.56	0.5	0.48	0.2	
P-71	K39	0.75	0.44	0.54	0.32	0.15	
P-72	J40	0.59	0.34	0.52	0.3	0.12	
P-73	J40・41/K41	0.61	0.43	0.48	0.3	0.12	
P-74	M40	0.66	0.51	0.53	0.43	0.27	
P-75	L40	0.58	0.44	0.55	0.38	0.22	
P-76	L40	0.53	0.37	0.43	0.3	0.35	
P-77	L40	0.58	0.75	0.54	0.68	0.33	
P-78	L40	0.52	0.43	0.43	0.41	0.22	
P-79	M40	0.58	0.58	(0.44)	(0.36)	0.34	
P-80	J43/K43	(0.52)	0.55	(0.42)	0.4	0.2	
P-81	J43	0.55	(0.25)	0.37	(0.13)	0.08	
P-82	L42/M42	0.64	0.54	0.64	0.52	0.15	
P-83	K42	0.71	0.53	0.49	0.35	0.19	
P-84	T13	0.56	0.56	0.46	0.44	0.12	

表Ⅲ－２ 土坑等の規模一覧（２）

遺構	調査区	規模 (m)					備考
		確認面		底面		最大深	
		長径	短径	長径	短径		
P-85	R10	0.67	0.55	0.49	0.36	0.1	
P-86	K44	0.46	0.32	0.41	0.3	0.17	
P-87	S11	0.56	0.54	0.48	0.44	0.32	
P-88	S10	0.66	0.62	0.58	0.54	0.1	
P-89	P9/Q9	2.29	1.95	2.12	1.77	0.21	S P-1 柱穴
P-90	Q10/R10	0.5	0.46	0.36	0.34	0.18	
P-91	Q10	0.4	0.4	0.3	0.3	0.14	
P-92	S9	0.53	0.48	0.32	0.29	0.16	
P-93	S9	0.56	0.46	0.36	0.32	0.12	
P-94	R7	0.81	0.54	0.68	0.43	0.26	
P-95	Q9	0.57	0.49	0.34	0.28	0.18	
P-96	Q9	0.57	0.36	0.49	0.28	0.18	
P-97	R8	0.26	0.24	0.22	0.22	0.22	
P-98	P11/Q11	2.58	(1.86)	2.23	(1.63)	0.2	
P-99	T9	2.43	1.89	1.82	1.4	0.24	
P-100	U9	1.9	1.5	1.46	1.48	0.14	
P-101	V5・6	2.26	(1.45)	1.93	(1.28)	0.22	
P-102	T12・13/U12・13	2.14	1.84	1.65	1.2	0.23	
P-103	U7・8	1.64	1.43	1.32	1.12	0.12	
P-104	P14・15/Q14・15	3.24	2.72	2.51	1.94	0.46	
P-105	S15	1.3	1.08	1.06	0.84	0.33	
P-106	T14/U14	0.77	0.62	0.69	0.45	0.22	
P-107	M49/N49	1.08	0.76	0.92	0.42	0.26	
P-108	P16・17/Q16・17	3.05	2.51	2.45	2.05	0.39	
P-109	I50・51	0.98	(0.68)	0.92	(0.54)	0.24	
P-110	I52	0.48	0.4	0.5	0.38	0.12	
P-111	I52	0.36	0.36	0.44	0.4	0.22	
P-112	I52	0.6	0.52	0.52	0.5	0.14	
P-113	Q16	(2.56)	2.18	(1.98)	1.73	0.31	
P-114	J52	0.48	0.42	0.54	0.5	0.22	
P-115	H52	0.42	0.38	0.4	0.28	0.12	
P-116	H52/I52	0.6	0.54	0.52	0.42	0.12	
P-117	I53・54	0.8	0.62	0.82	0.78	0.26	
P-118	H52	0.52	0.5	0.28	0.26	0.2	
P-119	I52	0.42	0.4	0.46	0.46	0.28	
P-120	I49	0.58	0.54	0.7	0.64	0.34	
P-121	K51	0.4	0.34	0.38	0.36	0.22	
P-122	K51	0.48	0.42	0.32	0.32	0.18	
P-123	H52	0.46	0.42	0.48	0.46	0.24	
P-124	H52	0.38	0.28	0.42	0.38	0.24	
P-125	I47	0.72	0.56	0.7	0.64	0.22	
P-126	H52/I52	0.5	0.36	0.32	0.28	0.24	
P-127	I47	0.76	0.51	0.66	0.37	0.09	
P-128	H52	0.52	0.4	0.64	0.5	0.26	

遺構	調査区	規模 (m)					備考
		確認面		底面		最大深	
		長径	短径	長径	短径		
P-129	H52	0.3	0.26	0.34	0.28	0.24	
P-130	G50/H50	(1.30)	1	(0.90)	0.58	0.18	
P-131	Q16・17	1.2	0.87	0.9	0.61	0.15	
P-132	H51	0.82	0.54	0.7	0.34	0.3	
P-133	H51・52	0.6	0.42	0.56	0.5	0.24	
P-134	H49/I49	0.64	0.64	0.32	0.32	0.34	
P-135	H50	0.72	0.54	0.78	0.52	0.32	
P-136	H49	0.8	(0.64)	0.8	0.58	0.38	
P-137	F53	0.72	0.69	0.59	0.56	0.22	
P-138	F54/G54	(0.71)	0.59	(0.77)	0.71	0.3	
P-139	M40	1.02	0.83	0.79	0.58	0.51	
P-140	M40	0.84	0.71	0.86	0.8	0.43	
P-141	N36	0.64	0.56	0.66	0.59	0.47	
P-142	N36	1.04	0.99	1.2	1.26	0.56	
P-143	P39	0.42	0.36	0.37	0.29	0.19	
P-144	N41・42/O41・42	0.62	0.59	0.65	0.72	0.24	
P-145	O31	0.69	0.49	0.74	0.56	0.35	
P-146	N31/O31	0.59	0.56	0.65	0.63	0.26	
P-147	O31	0.5	0.39	0.69	0.57	0.22	
P-148	O31	(0.28)	0.38	(0.15)	0.27	0.23	
P-149	O31	0.37	0.36	0.42	0.39	0.15	
P-150	O31	0.48	0.36	0.43	0.37	0.26	
P-151	O31	0.56	0.52	0.5	0.35	0.26	
P-152	P32・33/Q32・33	0.63	0.56	0.72	0.6	0.29	
P-153	O31	0.52	0.5	0.49	0.44	0.19	
T P-1	L30	2.54	0.54	3	0.46	0.8	
T P-2	N6	2.94	0.58	2.54	0.18	1.32	
T P-3	P4・5	2.89	0.51	4.44	0.18	1.05	
T P-4	P7	3.26	0.9	3.46	0.32	1.2	
T P-5	R7・8	3.2	0.7	3.3	0.14	1.2	
T P-6	T5・6	2.82	0.7	3.14	0.34	0.92	
T P-7	T6・7	2.54	0.7	3.12	0.16	1.02	
T P-8	S6・7	2.7	0.5	3.04	0.22	1.06	
T P-9	U6	2.5	0.4	2.84	0.32	0.8	
溝状遺構	U32・33・34・35・36/V36・37・38	(27.2)	0.37	(27.2)	0.24	0.38	柱穴4カ所
F-1	O18	0.97	0.93	—	—	0.15	
F-2	M6/N6	0.72	0.24	—	—	0.1	
F-3	N8	0.98	0.65	—	—	0.06	
F-4	J40	0.45	0.43	—	—	0.14	
F-5	Q36	1.46	(0.99)	—	—	0.22	
F C-1	M13	1.14	0.89	—	—	—	
F C-2	J39・40	1.43	1.07	—	—	—	
F C-3	H33	0.61	0.56	—	—	—	

表Ⅲ－３ 付属遺構規模一覧（１）

SH-1	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
HF-1	61	35			10	
HP-1	30	29	17	18	9	円形・断面皿状
HP-2	28	25	14	11	10	楕円形・断面皿状
SH-2	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
長径	短軸径	長軸径	短軸径			
HF-1	53	38			7	
HP-1	55	37	28	23	18	
HP-2	29	28	22	18	27	
H-1	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
長径	短軸径	長軸径	短軸径			
HF-1	96	95			15	覆土中
HP-1	24		10		43	柱穴
HP-2	17		8		19	柱穴
HP-3	14		7		24	柱穴
HP-4	12		7		20	柱穴
HP-5	16		9		31	柱穴
HP-6	13		7		19	柱穴
HP-7	13		6		21	柱穴
HP-8	18		8		13	柱穴
HP-9	20		8		31	柱穴
HP-10	16		5		18	柱穴
HP-11	14		5		25	柱穴
HP-12	16		5		51	柱穴
HP-13	16		6		19	柱穴
HP-14	10		4		25	柱穴
HP-15	14		10		23	柱穴
HP-16	13		4		20	柱穴
HP-17	16		5		21	柱穴
溝状遺構	51	23	42	14	6	
H-2	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
長径	短軸径	長軸径	短軸径			
HP-1	39	30	36	25	7	楕円形
HP-2	21	18	10	10	6	不整形・断面皿状
HP-3	28	24	14	10	6	不整形・断面皿状

H-3	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
HF-1	63	44			5	覆土中
HP-1	14		6		31	
H-4	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
長径	短軸径	長軸径	短軸径			
HF-1	76	56			6	
HP-1	43	40	39	33	9	
HP-2	44	13	30	4	5	
HP-3	47	20	39	9	8	
HP-4	38	26	31	17	5	
HP-5	31	27	25	21	18	
H-5	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
長径	短軸径	長軸径	短軸径			
HP-1	14		10		34	柱穴・内傾
HP-2	13		10		30	柱穴・内傾
HP-3	13		10		36	柱穴
HP-4	19		15		51	柱穴
HP-5	13		5		24	柱穴
HP-6	14		7		26	柱穴
HP-7	16		7		32	柱穴
HP-8	18		9		54	柱穴
HP-9	13		6		36	柱穴
HP-10	16		6		42	柱穴
HP-11	16		7		33	柱穴
HP-12	16		4		34	柱穴
HP-13	13		10		26	柱穴
HP-14	15		5		46	柱穴

表Ⅲ-3 付属遺構規模一覽(2)

H-6	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H F-1	37	29			3	
H F-1 掘り込み	52	40	48	35	7	石組炉
H F-2	24	20			3	
H P-1	41	36	23	17	5	不整形
H P-2	20	16	12	7	10	楕円形
H P-3	32	20	20	10	12	楕円形
H-7	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H P-1	38		24		75	柱穴
H P-2	53	38	12		67	柱穴
H P-3	29		20		45	柱穴
H P-4 A	37		21		56	柱穴
H P-4 B			9		76	柱穴
H P-5	41	24	18		72	柱穴
H P-6	48	41	21		81	柱穴
H P-7	44		18		70	柱穴
H P-8	34		13		58	柱穴
H P-9	60	47	21		78	柱穴
H P-10	36		22		72	柱穴
H P-11	21		11		51	柱穴
H P-12	25	21	16		40	柱穴
H P-13	58	36	18		60	柱穴
H P-14	31		17		42	柱穴
H P-15	25		20		47	柱穴
H P-16	32		21		65	柱穴
H P-17	32		22		61	柱穴
H-8	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H F-1	76	70				
H F-2	116	100	92	74	22	
H F-3	104	(83)	84	(72)	20	
H P-1	47	41	20	18	74	柱穴
H P-2	34	31	24	22	25	柱穴
H P-3	57	48	32	27	67	柱穴
H P-4	29	24	16	14	26	柱穴
H P-5	43	42	22	19	86	柱穴
H P-6	37	37	16	16	58	柱穴
H P-7	24	22	12	12	19	柱穴
周溝	200	27	190	20	5	
H-9	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H F-1	57	52			7	焼土
H F-1	135	106	111	92	6	掘り込み
H P-1	29		16		73	柱穴
H P-2	29		19		79	柱穴
H P-3	29		6		91	柱穴
H P-4	47	30	16		83	柱穴
H P-5	25		12		88	柱穴
H P-6	27		9		18	柱穴
H P-7	42	37	14		93	柱穴
H P-8	26		12		20	柱穴
H P-9	24		7		37	柱穴
H P-10	22		18		26	柱穴
H P-11	71	50	58	40	7	柱穴
H P-12	29		10		37	柱穴
H P-13	9		5		13	柱穴
H-10	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H P-1	26	24	23	23	88	柱穴
H P-2	34	32	22	21	68	柱穴
H P-3	42	29	32	23	69	柱穴
H P-4	25	21	13	12	43	柱穴
H P-5	26	24	17	17	48	柱穴
H P-6	24	22	13	12	49	柱穴
H P-7	15	14	12	12	40	柱穴
H P-8	13	13	11	10	25	柱穴
H P-9	25	24	16	15	50	柱穴
H P-10	25	21	19	18	52	柱穴
H P-11	28	(23)	24	(23)	49	柱穴
H P-12	18	18	7	6	61	柱穴

H-11	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H F-1	26	17			4	
H P-1	20	19	12	12	36	柱穴
H P-2	18	16	14	12	44	柱穴
H P-3	16	15	12	11	42	柱穴
H P-4	12	11	10	10	43	柱穴
H P-5	45	42	29	26	15	柱穴
H P-6	36	32	18	18	8	柱穴
H P-7	25	19	17	13	5	柱穴
H-12	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H P-1	23		15		66	柱穴・外傾
H P-2	27		15		65	柱穴・外傾
H-14	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H F-1	40	36			7	
H F-2	49	41			5	
H P-1	40	36	24	18	11	
H P-2	6		2		13	柱穴
H P-3	9		6		13	柱穴
H P-4	8		2		18	柱穴
H P-5	10		3		22	柱穴
H P-6	6		2		16	柱穴
H P-7	6		2		9	柱穴
H-15	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H F-1	34	28			4	
H F-1 掘り込み	38	38	29	25	3	
H F-2	31	(26)			4	
H-17	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H F-1 A	29	21			4	
H F-1 B	23	12			2	
H F-2	29	27			2	
H P-1	57	38	33	22	8	
H P-2	12		6		39	柱穴
H P-3	9		6		20	柱穴
H P-4	10		4		36	柱穴
H P-5	11		2		48	柱穴
H P-6	10		3		11	柱穴
H P-7	12		6		35	柱穴
H P-8	11		4		23	柱穴
H P-9	10		3		21	柱穴
周溝1	60	20	50	13	9	
H-18	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H F-1	37	32			3	
H F-1 掘り込み	71	66	64	55	6	
H P-1	38	23	20	12	8	
H P-2	27	15	12	4	15	
周溝1	42	10	39	6	5	
周溝2	27	11	21	4	5	
H-20	検出面 (cm)		底面 (cm)		深さ・厚さ (cm)	備考
	長径	短軸径	長軸径	短軸径		
H P-1	10		3		21	柱穴
H P-2	9		3		21	柱穴
H P-3	24		10		61	柱穴
H P-4	48	37	31	24	13	柱穴
H P-5	21	19	10	9	9	柱穴
H P-6	17		7		44	柱穴
H P-7	17		5		34	柱穴
H P-8	16		6		29	柱穴
H P-9	13		7		51	柱穴
H P-10	10		4		15	柱穴
H P-11	13		6		24	柱穴
H P-12	9		4		16	柱穴
H P-13	9		3		28	柱穴
H P-14	8		2		26	柱穴
H P-15	21		9		41	柱穴
H P-16	8		2		27	柱穴
周溝1	149	24	136	22	14	
周溝2	88	19	78	12	9	

表Ⅲ-3 付属遺構規模一覧(3)

H-21	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
周溝	90	29	67	20	5	
H-22	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
HP-1	80	66	70	57	26	
HP-2	27	23	16	18	14	柱穴
HP-3	29	28	24	20	10	柱穴
HP-4	46	37	19	20	61	柱穴
HP-5A	54	38	31	26	23	
HP-5B	20		10		45	柱穴
HP-6	25		24		49	柱穴
HP-7	30	25	30	25	26	
HP-8	31	20	12	9	6	柱穴
HP-9	20		6		10	柱穴
HP-10	107	47	102	39	6	
H-23	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
HP-1	42		21		67	柱穴
HP-2	29		21		53	柱穴
HP-3A	23		23		38	柱穴
HP-3B	(18)		19		31	柱穴
HP-4	30		18		72	柱穴
HP-5	28		28		46	柱穴
HP-6	21		13		8	柱穴
HP-7	29		12		48	柱穴
HP-8	39		20		71	柱穴
HP-9A	24		15		57	柱穴
HP-9B	22		10		62	柱穴
HP-10	15		12		29	柱穴
HP-11	16		15		36	柱穴
HP-12	20		17		30	柱穴
HP-13	40		18		65	柱穴
HP-14	22		22		31	柱穴
HP-15	100	20	97	14	8	周溝
HP-16	26		12		33	柱穴
H-24	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
HP-1	21		13		30	柱穴
HP-2	20		8		44	柱穴
HP-3	20		12		53	柱穴

H-26	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
HP-1	22	22	10	10	64	柱穴
HP-2	29	28	14	11	53	柱穴
HP-3	21	19	12	9	50	柱穴
H-27	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
HP-1	59	53	30	29	14	
H-29	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
HP-1	51	45	40	24	12	
HP-2	31	25	18	16	53	主柱穴
HP-3	37	33	23	18	57	主柱穴
HP-4	30	27	12	11	66	主柱穴
HP-5	43	35	24	21	67	主柱穴
HP-6	24	21	15	12	61	柱穴
HP-7	23	23	13	12	41	柱穴
HP-8	41	29	23	16	12	
HP-9	43	40	32	31	6	砂ビット
HP-10	20	19	15	12	27	柱穴
HP-11	7		1		26	柱穴
P-31	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
SP-1	24	24	18	17	12	
P-89	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
SP-1						
溝状遺構	H-11		検出面 (cm)		底面 (cm)	深さ・厚さ (cm)
	備考	長径	短軸径	長軸径		
MP-1	14	13	8	7	11	柱穴
MP-2	22	18	16	11	39	柱穴
MP-3	36	23	25	17	28	柱穴
MP-4	20	17	13	13	19	柱穴

表Ⅲ-4 遺構出土遺物一覧(1)

遺構	層位	土器				剥片石器類					礫石器類					土製品	合計	
		Ⅱ群b類	Ⅳ群a類	Ⅶ群	焼成粘土塊	石鏃	つまみ付きナイフ	スクレイパー	U・Rフレイク	石核	フレイク	石斧	たたき石	すり石	砥石			礫・原石
SH-1	覆土	12	2							22								36
	覆土1		1			1				7						3		12
	覆土2	4	26	15		1		1		81	1			1		37		167
	床直上		2	1						2						13		18
	床面		6	23				1	1	14	1	1				32		79
	カマド			7														7
計	16	37	46		2		2	1	126	2	1		1		85		319	
SH-2	B-Tm									1								1
	覆土	2		16		2	1		1	2	144					9		177
	覆土2			3						36						3		42
	床直上			3				1		6						382		392
	床面				1		1		1	7			1			124	1	136
	カマド粘土土									1								1
	カマド焼土土			1														1
HP-1覆土									1								1	
計	2		23	1	2	2		2	3	196			1		518	1	751	

表Ⅲ-4 遺構出土遺物一覧(5)

遺構	層位	土器				剥片石器類										礫石器類						合計								
		I群 b類	II群 a類	II群 b類	IV群 a類	V群	不明	石鏃	石鏃または ナイフ	両面調整 石器	石鏃	つまみ付き ナイフ	鉋状石器	スクレイ パー	U・R フレイク	石核	フレイク	石片類	たたき石	すり石	扁平 打製石器		砥石	石鏃	台石・ 石皿	礫・ 原石				
P-1	覆土 計	77																										10	116	
P-2	覆土 計	77																											10	116
P-3	覆土1 計																												2	4
P-4	覆土 計																												2	4
P-5	覆土 計																												1	4
P-8	覆土 計																												1	12
P-10	覆土 計	2																											1	12
P-11	覆土 計																												2	2
P-12	覆土 計																												2	2
P-13	覆土 計																												2	2
P-14	覆土 計																												2	2
P-15	覆土 計																												2	2
P-16	覆土 計																												2	2
P-17	覆土 計																												2	2
P-18	覆土 計																												2	2
P-19	覆土 計																												2	2
P-20	覆土 計																												2	2
P-21	覆土 計																												2	2
P-22	覆土 計																												2	2
P-23	覆土 計																												2	2
P-24	覆土 計																												2	2
P-25	覆土 計																												2	2
P-26	覆土 計																												2	2
P-28	覆土 計																												2	2
P-29	覆土 計																												2	2

表Ⅲ-4 遺構出土遺物一覧(6)

遺構	層位	土器				不明	石鏃	石槍またはナイフ	面調整石器	石鏃	剥片石器類						礫石器類						合計															
		I群 a類	II群 a類	II群 b類	IV群 a類						V群	石鏃	つまみ付き ナイフ	鉋状石器	スクレイ パー	U・R フレイク	石核	フレイク	石斧類	たたき石	すり石	扁平 打製石器		砥石	石鏃	台石・ 石皿	礫・ 原石											
P-31	覆土 計		10	37			1	1												4	3	3	130		1				1					22	214			
P-32	覆土 計		1																																	1	1	
P-33	覆土 計		3																																		3	3
P-34	覆土 計	1					1																													1	3	
P-35	覆土 計		1																				1													1	3	
P-36	覆土 計																						4														4	4
P-37	覆土 計																						4														4	4
P-39	覆土1 計		2																																		1	1
P-40	覆土 計		3																																		1	23
P-41	覆土 計		3																																		1	13
P-42	覆土 計		4																																		5	5
P-43	覆土 計		4																																		5	5
P-44	覆土 計																																				8	8
P-45	覆土 計		1																																		1	1
P-46	覆土 計		1																																		1	1
P-47	覆土 計		3																																		1	1
P-48	覆土 計		3																																		1	1
P-50	覆土 計		3																																		1	1
P-51	覆土 計																																				1	14
P-53	覆土 計		1																																		1	1
P-54	覆土 計		1																																		1	1
P-56	覆土 壁面直上 計																																				1	1
P-58	覆土 計	1	3																																		1	2
P-59	覆土 計	1	63																																		1	16
			63																																		1	23
																																					1	127

表Ⅲ-4 遺構出土遺物一覧(8)

遺構	層位	土器					剥片石器類										礫石器類						合計				
		I群 b類	II群 a類	II群 b類	IV群 a類	V群	不明	石鏃	石鏃または ナイフ	両面調整 石器	石鏃	つまみ付き ナイフ	鋸状石器	スクレイ パー	U・R フレイク	石核	フレイク	石片類	たたき石	すり石	扁平 打製石器	砥石		石鏃	台石・ 石皿	礫・ 原石	
P-99	覆土																										431
	坑底直上 計			189																							7
P-100	覆土		246																								438
	底面 計		246																								325
P-101	覆土			2	12																						44
	底面 計			2	12																						59
P-102	覆土	47																									7
	底面 計	47																									66
P-103	覆土																										2
	坑底 計			1																							4
P-104	覆土	201																									321
	覆土1 覆土3 底面 計	366 45 221																									602
P-105	覆土	44																									77
	坑底 計	44																									77
P-106	覆土	1																									2
	坑底 計	1																									2
P-107	覆土	252																									257
	坑底 計	282																									287
P-108	覆土	1292																									2062
	坑底 計	1292																									2062
P-109	覆土																										9
	坑底 計																										9
P-111	覆土	15																									25
	坑底 計	15																									25
P-112	覆土	4																									5
	坑底 計	4																									5
P-113	覆土	976																									1438
	坑底 計	976																									1438
P-116	覆土	2																									2
	坑底 計	2																									2
P-117	覆土	8																									37
	坑底 計	8																									37
P-118	覆土	1																									1
	坑底 計	1																									1
P-123	覆土	2																									2
	坑底 計	2																									2
P-128	覆土	3																									3
	坑底 計	3																									3
P-129	覆土	5																									5
	坑底 計	5																									5
P-130	覆土																										8
	坑底 計																										8

表Ⅲ—4 遺構出土遺物一覧(9)

遺構	層位	土器					剥片石器類										礫石器類						合計				
		I群 b類	II群 a類	II群 b類	IV群 a類	V群	不明	石鏃	石橋または ナイフ	両面調整 石器	石鏃	つまみ付き ナイフ	片状石器	スクレイ パー	U・R フレイク	石核	フレイク	石滓類	たたき石	すり石	扁平 打製石器	砥石		石鏃	台石・ 石皿	礫・ 原石	
P-131	覆土 計	1																									7
P-132	覆土 計	3																									8
P-136	覆土 計																										1
P-138	覆土 計																										1
P-139	覆土 計	6																									7
P-140	覆土 計	1																									1
P-142	覆土 計	3																									4
P-145	覆土 計																										1
P-149	覆土 計	1																									1

表Ⅲ-4 遺構出土遺物一覧(10)

遺構	層位	土器					剥片石器類							礫石器類			合計
		I群 b類	II群 b類	IV群 a類	IV群 c類	V群	石鏃	石槍または ナイフ	両面調整 石器	つまみ付き ナイフ	スクレ イパー	U・Rフ レイク	石核	フレ イク	石斧	扁平 打製石器	
TP-1	覆土												2			2	4
	計												2			2	4
TP-2	覆土		6	34			1					1	65			14	121
	計		6	34			1					1	65			14	121
TP-3	覆土			4									10			12	26
	計			4									10			12	26
TP-4	覆土	1	4	11									65		1	22	104
	計	1	4	11									65		1	22	104
TP-5	覆土	4	10	64		9	1			6	2		229			26	351
	計	4	10	64		9	1			6	2		229			26	351
TP-6	覆土		16	19			1			2			43	1		33	115
	計		16	19			1			2			43	1		33	115
TP-7	覆土	1	12	8								1	71			21	114
	計	1	12	8								1	71			21	114
TP-8	覆土		3	33						1			22			29	88
	計		3	33						1			22			29	88
TP-9	覆土		3	50									13			19	85
	計		3	50									13			19	85
溝-1	覆土	24	6										16			73	119
	覆土下	2															2
計	26	6											16			73	121
F-1	焼土												1				1
	計												1				1
F-2	焼土		1										3				4
	計		1										3				4
F-5	焼土												2				2
	計												2				2
FC-1	II							2	1	3		2	1392				1400
	計							2	1	3		2	1392				1400
FC-2	II	6	5				1						816				828
	計	6	5				1						816				828
FC-3	H-9掘り上げ土							1				3	58			4	66
	計							1				3	58			4	66

表Ⅲ-5 遺構掲載土器一覧(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	分類	部位	器種	色調	胎土	口縁・形態等/文様等/地文	内面	点数	備考 (器高×口径×底径)
Ⅲ-102	1	55	SH-1	覆土	Ⅶ	底部	甕	浅黄橙10YR 8/3	砂粒	//縦ハケメ	横ハケ・ナデ	2	(11.5)××8.7
				カマド								1	
				床面								1	
Ⅲ-102	2	55	SH-1	覆土	Ⅶ	底部	甕	灰白10YR 8/2	輝石	//浅い縦ハケメ・底部管葉痕	深いハケメ	1	(7.4)××7.4
				O9								2	
Ⅲ-102	3	55	SH-1	床面	Ⅶ	口縁	甕	黒褐10YR 3/2	長石	平縁//横、斜めハケメ	横ハケ	1	
				カマド								1	
Ⅲ-102	4	55	SH-1	カマド	Ⅶ	口縁	甕	浅黄橙10YR 8/3	砂粒・輝石	平縁//横ハケメ	横ハケ	3	
				床面								1	
Ⅲ-102	5	55	SH-1	床面	Ⅶ	胴部	甕	にぶい黄橙10YR 6/3		平縁/浅い沈線文/	横ハケ	1	割られる
Ⅲ-102	6	55	SH-1	カマド	Ⅶ	胴部	甕	にぶい黄橙10YR 6/3	砂粒	//縦ハケメ	横ハケ	1	輪積み痕
Ⅲ-102	7	55	SH-1	床面	Ⅶ	胴部	甕	にぶい橙7.5YR 6/4	輝石	//縦ハケメ・ヘラ痕	横ハケ・炭化物	4	輪積み痕
Ⅲ-102	8	55	SH-1	床面	Ⅶ	胴部	甕	にぶい黄橙10YR 7/4		//縦ハケメ・縦ミガキ	黒色	3	
Ⅲ-102	9	55	SH-1	床面	Ⅶ	底部	坏	にぶい黄橙10YR 7/4	石英	//ミガキ	黒・ミガキ	1	
Ⅲ-102	10	55	SH-2	床直	Ⅶ	全体	小型土器	にぶい褐色10YR 5/3	輝石	4波状/段/縦ハケメ、ミガキ	横ハケ・ナデ・炭化物	1	6.8×10.7×4.3
Ⅲ-102	11	55	SH-2	覆土	Ⅶ	口縁	甕	褐灰10YR 4/1		平縁//ハケ→ミガキ	黒・ミガキ	11	
Ⅲ-102	12	55	SH-2	カマド	Ⅶ	口縁	坏	灰黄褐10YR 5/2		平縁/段状沈線文/ミガキ	黒・ミガキ	1	
				O12								1	
Ⅲ-102	13	55	SH-2	床直	Ⅶ	底部	坏	褐灰10YR 4/1		//ミガキ		1	
Ⅲ-102	14	55	SH-2	床直	土製品		紡錘車	にぶい黄橙10YR 7/3		沈線文		1	
Ⅲ-103	15	59	H-1	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3	石英	平縁/縄線文(弧状、縦、横)/	指頭ナデ	1	口唇側面圧痕
Ⅲ-103	16	59	H-1	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい橙7.5YR 6/4		丸軸絡糸体圧痕文・刺突文	炭化物・ナデ	4	補修孔
Ⅲ-103	17	59	H-1	覆土	I b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4		//LR底面も	炭化物	2	
Ⅲ-103	18	59	H-1	覆土	I b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	//LR		7	
Ⅲ-103	19	59	H-3	覆土	I b	口縁	深鉢			//LR	縄文	1	
Ⅲ-103	20	59	H-3	覆土	I b	胴部	深鉢	褐灰10YR 4/1	輝石	//L熱系文斜行/	炭化物	2	
				風倒木								1	
Ⅲ-103	21	59	H-3	覆土	I b	胴部	深鉢	褐灰10YR 6/1	石英	//縦線文/LR	横位調整	2	
Ⅲ-103	22	59	H-3	覆土	I b	底部	深鉢	橙7.5YR 6/6	長石	LR羽状・縦位の縄端側面圧痕		3	
				P15								1	
Ⅲ-103	23	59	H-3	覆土	土製品	胴部	土製円盤	灰黄褐10YR 6/2	長石	絡糸体圧痕文		1	(4.7)×(8.2)×4.4
Ⅲ-103	24	56	H-4	覆土	IV a	底部	深鉢	にぶい黄橙		RL縄文	炭化物	1	
Ⅲ-103	25	59	H-4	覆土下	IV a	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4		平縁/貼付上縄線文・無文部/LR		1	
Ⅲ-103	26	59	H-4	覆土	IV a	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	砂粒	山形突起/蛇行沈線文/LR		2	
				J9								8	
				II								6	
Ⅲ-103	27	59	H-4	覆土	IV a	口縁	深鉢	にぶい黄橙		平縁/沈線雷文/LR		6	
				J9								14	
Ⅲ-103	28	59	H-4	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	//無節		4	
Ⅲ-103	29	59	H-5	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい橙10YR 6/4	長石	平縁/押引文/LR		2	
Ⅲ-103	30	59	H-6	覆土	IV a	口縁	深鉢	灰白色10YR 7/1		折り返し口縁/沈線/	横位調整	1	
Ⅲ-103	31	59	H-6	覆土	IV a	口縁	鉢	にぶい橙10YR 6/4	輝石・石英	平縁/沈線文・磨り消し/LR		1	

表Ⅲ-5 遺構掲載土器一覽(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	分類	部位	器種	色調	胎土	口縁・形態等/文様等/地文	内面	点数	備考 (器高×口径×底径)
Ⅲ-103	32	59	H-6	覆土	Ⅳa	胴部	深鉢	にぶい橙7.5YR 6/4		／細い縦線文縦位/RL	炭化物	2	
Ⅲ-104	33	56	H-7	覆土	Ⅱb	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3	繊維	緩やかな4波状/縄線文・結束羽状/自縄自巻2種?・底面にも	ナデ	45	37.0×21.0×11.0
		56	H-7	覆土下位	Ⅱb	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3				151	
Ⅲ-104	34	59	H-7	覆土2	Ⅱb	口縁	深鉢	橙7.5YR 6/6	繊維	／貼付帯・短軸絡糸体6A/正撚・反撚の合撚	明赤褐	5	
Ⅲ-104	35	59	H-7	床直	Ⅱb	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 5/3	石英	平縁/摺糸文横走/		2	
Ⅲ-104	36	59	H-7	覆土	Ⅱb	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 4/3	砂粒・繊維	平縁/摺糸文横走/摺糸文		10	
Ⅲ-104	37	59	H-7	覆土	Ⅱb	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 5/3	石英	波状/短軸絡糸体6A・縦線文/LR	ナデ	2	
Ⅲ-104	38	59	H-7	覆土	Ⅱb	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 5/3	繊維	／貼付帯・沈線文/摺糸文縦、斜め	黒色	1	
Ⅲ-104	39	59	H-7	覆土	Ⅱb	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		揚げ底//R摺糸文		3	
Ⅲ-104	40	56	H-8	床面	Ⅱb	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3	繊維	4波状・口唇キザミ/LR 縄線文/LR	焼成良	9	30.0×26.0×11.8
			H-8	覆土								45	
			H38	I								1	
			H38	II								20	
			H39	II								3	
Ⅲ-104	41	60	H-8	床	Ⅱb	口縁	深鉢	にぶい黄橙7.5YR 5/3	長石	43と同一/絡糸体圧痕文・貼付上刺突文/R摺糸文	ミガキ	33	
Ⅲ-104	42	60	H-8	床	Ⅱb	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3	繊維	／縄線文/	ナデ	5	
Ⅲ-104	43	60	H-8	床	Ⅱb	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 5/3		41と同一//R摺糸文縦、斜め	ミガキ	11	
Ⅲ-105	44	56	H-9	H P-11	Ⅱb	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 5/4	繊維	平縁/縄線文・結束羽状/RL		67	(24.0)×19.0×-
Ⅲ-105	45	56	H-9	覆土	Ⅱb	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	繊維	平縁/縄線文/LR	炭化物	81	23.2×12.0×10.0
Ⅲ-105	46	56	H-9	覆土	Ⅱa	全体	深鉢	橙7.5YR 7/6	砂粒	平縁/すだれ状縄文/摺糸文	縦ミガキ	21	15.0×14.0×7.4
Ⅲ-105	47	56	H-9	覆土	Ⅱb	全体	深鉢	橙5YR 6/6	砂粒	1突起・キザミ/LR 縄線文/摺糸文		32	19.2×12.8×9.0
Ⅲ-105	48	56	H-9	床直	Ⅱb	全体	深鉢	橙7.5YR 6/6		4波状・口唇キザミ/縄線文・刺突文/摺糸文		2	29.9×22.3×11.0
			H-9	H F-1								22	
			H-9	覆土								33	
			H-9	覆土								31	
Ⅲ-105	49	56	H-10	覆土	Ⅱb	全体	深鉢	橙7.5YR 6/6		4波状・口唇キザミ/縄線文/LR	ミガキ	2	47.8×32.8×14.7
			H35	II								2	
			J36	II								1	
			J37	II								1	
Ⅲ-105	50	57	H-9	覆土	Ⅱb	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	角礫	4波状/隆帯・絡糸体圧痕文/LR	ミガキ	60	32.0×21.2×10.8
Ⅲ-106	51	57	H-9	覆土	Ⅱb	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		4波状/縄線文/多軸絡糸体		43	44.8×33.5×14.7
			H34	II								21	
Ⅲ-106	52	57	H-9	覆土	Ⅲa	全体	深鉢	にぶい黄橙7.5YR 6/4		4波状/縦位貼付・縄線文・刺突文/LR 縄文	ミガキ	74	43.9×33.3×15.0
Ⅲ-106	53	60	H-9	覆土	Ⅱb	口~胴	深鉢	橙7.5YR 6/6	長石・繊維	平縁/絡糸体圧痕文・刺突文/多軸絡糸体	炭化物	18	
Ⅲ-106	54	60	H-9	覆土	Ⅱb	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR	繊維	4突起・キザミ状貼付/縦位貼付・縄線文・キザミ/LR 縦線文		6	
Ⅲ-106	55	60	H-9	覆土	Ⅱb	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	繊維	／縄線文・隆帯・刺突文/多軸絡糸体	ミガキ	27	
Ⅲ-106	56	57	H-9	覆土	Ⅱb	底部	深鉢	橙7.5YR 6/6	繊維	／結束羽状/摺糸文・底面も	ミガキ	39	上げ底
Ⅲ-106	57	60	H-9	覆土	Ⅱb	胴部	土製品	灰白色10YR 8/2		摺糸文		1	
Ⅲ-107	58	60	H-10	床	Ⅱb	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	砂粒	4突起?/縦位貼付/多軸絡糸体		7	
			H-10	覆土下位								4	
Ⅲ-107	59	60	H-10	覆土下位	Ⅱb	口縁	深鉢	明黄橙10YR 7/6		平縁/口縁摺糸横走/すだれ状縄文	ミガキ	1	
Ⅲ-107	60	60	H-11	覆土	Ⅱb	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 4/3		平縁/縄線文・結束羽状/摺糸文	ミガキ	1	
Ⅲ-107	61	60	H-11	覆土	Ⅲa	口縁	深鉢	明黄橙10YR 7/6		平縁/縄線文・縄端圧痕文・貼付/	ミガキ	1	
Ⅲ-107	62	60	H-11	床	Ⅱa	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		／縦2条縄線文/摺糸文		1	
Ⅲ-107	63	61	H-12	覆土	Ⅱb	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		／結束?羽状		1	
Ⅲ-107	64	61	H-13	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3		／縄線文/R	横位調整	1	
Ⅲ-107	65	57	H-14	床直	Ⅳa	胴~底	深鉢	浅黄橙10YR 8/4		／貼付帯/LR	横・斜め調整痕	7	(15.2)×-×10.0
Ⅲ-107	66	61	H-14	床面	Ⅳa	口縁	深鉢	明黄橙10YR 7/6	砂粒	平縁/貼付帯/RL		1	
Ⅲ-107	67	61	H-14	覆土	Ⅳa	口縁	深鉢	にぶい黄橙7.5YR 5/4		平縁//RL	焼成良	3	
Ⅲ-107	68	61	H-14	覆土	Ⅳa	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 5/4		平縁/LR 縄線文/LR	調整痕・底部炭化物	11	
Ⅲ-107	69	61	H-14	覆土	Ⅳa	胴~底	深鉢	橙7.5YR 6/6		／多条LR・RL	調整痕	14	
Ⅲ-107	70	57	H-14	覆土	Ⅳa	胴~底	深鉢			／RL・上げ底	煤	7	
Ⅲ-108	71	61	H-16	覆土	Ⅳa	口縁	深鉢	黒褐10YR 3/2	石英	平縁//横ミガキ、無文		1	
			S4	II								1	
Ⅲ-108	72	61	H-16	床面	Ⅳa	口縁	深鉢	黒褐10YR 3/2		平縁//多条RL	縦ミガキ	2	補修孔
Ⅲ-108	73	61	H-16	床面	Ⅲb	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4		／摺糸文		1	
Ⅲ-108	74	61	H-16	床面	Ⅳa	底部	深鉢	黒褐10YR 3/2		／浅い条痕	調整痕・にぶい橙	2	
Ⅲ-108	75	61	H-17	覆土2	Ⅳa	口縁	深鉢	黒褐10YR 3/2	長石	平縁/縄端圧痕/多条LR	ミガキ	1	
Ⅲ-108	76	61	H-17	覆土3	Ⅱb	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3		波状/隆帯・キザミ/摺糸文		1	
Ⅲ-108	77	61	H-17	覆土1	Ⅱb	胴部	深鉢	褐灰10YR 4/1	砂粒	／縦線文/LR	黒・縦ミガキ	1	
Ⅲ-108	78	61	H-18	トレンチ	Ⅱb	口縁	深鉢	浅黄橙10YR 8/4	輝石	波状//LRL	焼成良	1	
Ⅲ-108	79	61	H-18	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4		口縁折り返し状/無文/LR	焼成良	2	炭化材付着
Ⅲ-108	80	61	H-18	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	輝石	／/RL	横調整痕	2	
Ⅲ-108	81	61	H-19	覆土	I b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	輝石	／/上げ底		1	
Ⅲ-109	82	57	H-20	覆土下位	I b	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	平縁/縄端回転文/無節	凹凸	117	32.5×29.5×7.3
Ⅲ-109	83	57	H-20	床面	I b	胴~底	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	／/LR・底面も・上げ底	調整痕	34	(14.3)×-×7.7
Ⅲ-109	84	61	H-20	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙7.5YR 6/4	砂粒	88と同一口唇縄文/縄線文・縄端圧痕文/RL	調整痕・炭化物	8	
Ⅲ-109	85	61	H-20	床面	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3	輝石	口唇縄刻み//RL 縄線文・縦線文/RL	凹凸	4	
			覆土下位	8									
Ⅲ-109	86	61	H-20	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	口唇縄端刺突/縄線文/多条RL	LR	2	
Ⅲ-109	87	61	H-20	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3		／縄線文/LR	炭化物	2	補修孔
Ⅲ-109	88	61	H-20	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3	砂粒	84と同一//RL	炭化物	4	
			覆土下位	1									
Ⅲ-109	89	62	H-20	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3	輝石	／縄線文/LR	指頭痕	2	
Ⅲ-109	90	62	H-20	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3		／押引文・刺突文/	剥離	1	
Ⅲ-109	91	62	H-20	覆土	I b	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	平縁//多条LR	凹凸	7	
Ⅲ-109	92	62	H-20	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3	砂粒	平縁/口唇縄端圧痕//RL	炭化物	1	
			覆土下位	1									

表Ⅲ-5 遺構掲載土器一覽(3)

図	番号	図版	出土地点	層位	分類	部位	器種	色調	胎土	口縁・形態等/文様等/地文	内面	点数	備考 (器高×口径×底径)
Ⅲ-109	93	62	H-20	床面	I b	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 4		平縁・口唇 R 縄文/綾絡文/LR	横位調整痕	9	炭化物
				覆土下位								1	
Ⅲ-110	94	62	H-20	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3	砂粒	平縁・口唇 LR//LR	LR・凹凸	25	2 cm以上の砂粒
Ⅲ-110	95	62	H-20	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 4	長石・砂粒	平縁//多条 RL	指頭・凹凸・炭化物	19	
Ⅲ-110	96	62	H-20	覆土下位	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 3		平縁・口唇 LR//LR	縄文・条痕	2	
Ⅲ-110	97	62	H-20	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 4		平縁・口唇 LR//多条 RL		3	
				覆土下位								5	
Ⅲ-110	98	62	H-20	床面	I b	底部	深鉢	浅黄橙10YR 8 / 4	砂粒	底部張り出し//RL		1	
Ⅲ-110	99	57	H-20	覆土1	I b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3		//RL・上げ底		4	
Ⅲ-110	100	62	H-20	覆土1	I b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3	砂粒	//LR 底外面も・上げ底		2	
Ⅲ-110	101	62	H-20	覆土1	I b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 4		上げ底//RL		4	
Ⅲ-110	102	62	H-20	覆土1	I b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 4	砂粒	//RL		1	底面平ら
Ⅲ-111	103	62	H-21	覆土	I b	口縁	深鉢	黒10YR 2 / 1		平縁/綾絡文/RL	横位調整痕	1	補修孔
Ⅲ-111	104	62	H-21	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4	砂粒	平縁・口唇 RL/縄文・縄文/	炭化物	3	
Ⅲ-111	105	63	H-22	覆土	II b	口縁	深鉢	明黄褐10YR 7 / 6	繊維	平縁/LR 縄文・条痕・貼付帯/LR 羽状		2	
Ⅲ-111	106	63	H-22	床面	II b	口縁	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4	繊維	平縁/不整綾絡文/R 捻糸文		1	
				覆土								4	
Ⅲ-111	107	63	H-22	覆土	II b	胴部	深鉢	明黄褐10YR 7 / 6	繊維	//合摺		2	
Ⅲ-111	108	63	H-22	覆土	II b	底部	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4	繊維	やや上げ底/LR・底外面 LR		3	
Ⅲ-111	109	58	H-23	覆土	II b	全体	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4	繊維	4 波状/綾絡文・隆帯/反摺	ミガキ	105	30.8×27.3×15.5
Ⅲ-111	110	58	H-23	覆土	II b	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3		4 波状//複節		28	
Ⅲ-111	111	63	H-23	覆土下位	II b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 3	繊維	平縁/沈線文・不整綾絡文/	ミガキ	3	
Ⅲ-111	112	63	H-23	覆土	II b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 3	繊維	波状/LR 縄文/LR		3	
Ⅲ-111	113	63	H-23	覆土	II b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3	砂粒・石英	折り返し/縄文/複節		1	
Ⅲ-111	114	63	H-24	覆土	II b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 3	繊維	平縁/絡糸体圧痕文/		1	
Ⅲ-111	115	63	H-24	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3	繊維多	//隆帯/R 捻糸文		2	
Ⅲ-111	116	63	H-25	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 4	繊維多	//縄線? 貼付はがれる/捻糸文		2	
Ⅲ-112	117	63	H-27	覆土	II b	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 3	繊維	118と同一/網目状捻糸文/多軸絡糸体	褐色7.5YR 4 / 6	2	
				K54								28	
Ⅲ-112	118	63	K54	II	II b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 4	繊維	//多軸絡糸体・上げ底		10	
Ⅲ-112	119	63	H-28	覆土下	II b	口縁	深鉢	橙7.5YR 6 / 6	繊維	緩やかな波状/無文部/反摺・捻糸文	ミガキ	4	
Ⅲ-112	120	63	H-28	覆土下	II b	口縁	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4	繊維	119と同一/無文部/反摺		2	
Ⅲ-112	121	58	H-29	覆土	II b	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 4	繊維	緩やかな波状/縄文・捻糸文/反摺縄文? 縦行・底面も	炭化物	119	34.9×27.8×13.3
				N44								1	
Ⅲ-112	122	63	H-29	覆土下位	II b	胴部	深鉢	浅黄橙10YR 8 / 4	繊維	//捻糸文縦・斜めに施文		1	
Ⅲ-112	123	63	H-29	覆土	II b	底部	深鉢		長石			2	
Ⅲ-113	1	64	P-1	覆土	I b	胴部	深鉢	橙7.5YR 6 / 6		//自縄自巻羽状/	炭化物	3	
Ⅲ-113	2	64	P-1	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 3	石英	//自縄自巻羽状/	炭化物	6	
Ⅲ-113	3	64	P-3	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 4	砂粒	//LR		1	
Ⅲ-113	4	64	P-10	覆土3	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 3		平縁/自縄自巻L/		1	
Ⅲ-113	5	64	P-14	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4	繊維	//不整綾絡文? /		1	摩耗
Ⅲ-113	6	64	P-11	覆土	IV a	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 3	砂粒	平縁・口唇貼付帯/多条 LR		32	
Ⅲ-113	7	64	P-17	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 3	繊維・砂粒	//L 捻糸文		1	
Ⅲ-113	8	64	P-19	覆土	IV a	口縁	深鉢	橙7.5YR 7 / 6		波状//多条 LR		1	
Ⅲ-113	9	64	P-20	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4	繊維	//L 捻糸文		1	
Ⅲ-113	10	64	P-22	覆土	II b	胴部	深鉢	明黄褐10YR 7 / 6	繊維	底部付近//R 捻糸文		1	
Ⅲ-113	11	64	P-23	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4		//反摺	縦調整	1	
Ⅲ-113	12	64	P-24	覆土	II b	胴部	深鉢	明黄褐10YR 7 / 6	繊維多	摩耗で不明//		1	
Ⅲ-113	13	64	P-26	覆土	IV a	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 3	石英	//		1	
Ⅲ-113	14	64	P-28	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 3	繊維	摩耗で不明//		2	
Ⅲ-113	15	64	P-31	覆土	IV a	胴部	深鉢	灰黄褐10YR 4 / 2	石英	//沈線文・磨り消し/		1	
Ⅲ-113	16	64	P-31	覆土	IV a	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3	輝石	//磨り消し/	浅黄橙	1	
Ⅲ-113	17	64	P-31	覆土	IV a	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 3	石英	//綾絡文/RL・LR 羽状	炭化物	1	
Ⅲ-113	18	64	P-33	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄褐10YR 5 / 3	繊維・砂粒	//LR		1	
Ⅲ-113	19	64	P-33	覆土	II b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 3	繊維	底部外面縄文//		1	
Ⅲ-113	20	64	P-39	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 4	繊維	//貼付上つまみ/		1	
Ⅲ-113	21	64	P-39	覆土	II b	胴部	深鉢	橙7.5YR 6 / 8		//捻糸文		1	
Ⅲ-113	22	64	P-40	覆土	II b	胴部	深鉢	橙7.5YR 7 / 6	繊維・砂粒	//直前段合摺	炭化物	3	
Ⅲ-113	23	64	P-42	覆土	II b	胴部	深鉢	橙7.5YR 6 / 8	繊維	//捻糸文?		1	
Ⅲ-113	24	64	P-42	覆土	II b	底部	深鉢	橙7.5YR 7 / 6	繊維	//胴部・底外面 LR・上げ底		1	
Ⅲ-113	25	64	P-45	覆土	II b	胴部	深鉢	黒褐10YR 3 / 2	角礫	//不整綾絡文/LR	橙	1	
Ⅲ-113	26	64	P-46	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 3	繊維	//LR		1	
Ⅲ-113	27	64	P-47	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄褐10YR 5 / 3	繊維	//捻糸文		1	
Ⅲ-114	28	64	P-50	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4	繊維	//結束?・捻糸文		1	
Ⅲ-114	29	64	P-59	覆土	II b	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 5 / 3	繊維	平縁? 外反/横位捻糸文/L 捻糸文		9	
Ⅲ-114	30	64	P-59	覆土	II b	底部	深鉢	橙7.5YR 6 / 6	繊維	29と同一・上げ底		4	
Ⅲ-114	31	64	P-60	坑底	II b	胴部	深鉢	浅黄橙10YR 8 / 4	砂粒	//L 捻糸文		1	
Ⅲ-114	32	64	P-61	覆土	II b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 3	繊維	//隆帯/		2	
Ⅲ-114	33	64	P-68	覆土	I b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3		平縁/絡糸体圧痕文/	炭化物	3	
Ⅲ-114	34	64	P-71	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 3	砂粒	//縄端圧痕・自縄自巻羽状/	炭化物	1	
Ⅲ-114	35	64	P-72	坑底	I b	口縁	深鉢	灰黄褐10YR 5 / 2		平縁/捻糸文・孔/		1	
Ⅲ-114	36	64	P-75	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄褐10YR 5 / 3		//絡糸体圧痕文/		1	
Ⅲ-114	37	65	P-77	坑底	I b	胴部	深鉢	黒褐10YR 3 / 2	石英	//自縄自巻? /		1	
Ⅲ-114	38	65	P-78	覆土	I b	胴部	深鉢	黒褐10YR 3 / 2	石英	//絡糸体圧痕文/自縄自巻 LR・LL		2	
Ⅲ-114	39	65	P-79	覆土	I b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7 / 4		//絡糸体圧痕文/自縄自巻 LR・LL		1	
Ⅲ-114	40	65	P-84	覆土	I b	胴部	深鉢	灰黄褐10YR 4 / 2	砂粒	//RL	RL	1	
Ⅲ-114	41	65	P-87	覆土	I b-3	胴部	深鉢	黒褐10YR 3 / 2		//微隆起・絡糸体圧痕文/	にぶい黄橙	1	
Ⅲ-114	42	65	P-89	覆土上	I b	口~胴	深鉢	にぶい橙7.5YR 6 / 4	繊維・長石	平縁/不整綾絡文/LR		21	補修孔
Ⅲ-114	43	65	P-89	覆土	II b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3	繊維・長石	平縁/隆帯/直前段反摺		8	補修孔
Ⅲ-114	44	65	P-89	覆土	II a	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6 / 3	石英	平縁/縦・横押引文/		6	

表Ⅲ-5 遺構掲載土器一覽(4)

図	番号	図版	出土地点	層位	分類	部位	器種	色調	胎土	口縁・形態等/文様等/地文	内面	点数	備考 (器高×口径×底径)
Ⅲ-114	45	65	P-89	覆土	Ⅱ b	底部	深鉢	橙7.5YR 6/6		//LR と RR の R 捻り・底部沈線文格子状		4	
Ⅲ-114	46	65	P-89	覆土	Ⅱ a	胴部	深鉢	灰黄褐10YR 4/2		/押し文/尖底		1	上部底
Ⅲ-114	47	65	P-94	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	にぶい橙7.5YR 6/4	砂粒	/細い貼付帯/LR	炭化物	1	
Ⅲ-115	48	58	P-96 P-95	覆土	Ⅰ b	口~胴	深鉢	にぶい橙7.5YR 6/4	長石	2突起//RL・LR 羽状	ナデ・ヘラ状工具	171 3	27.1×30.2×4.5
Ⅲ-115	49	65	P-98	覆土	Ⅱ b	胴部	深鉢	にぶい橙7.5YR 6/4		//捻糸文	炭化物	1	
Ⅲ-115	50	58	P-99	覆土	Ⅱ b	全体	深鉢	橙7.5YR 6/6	繊維多	緩やかな波状/断面三角貼付帯/LR・LR と RR の R 捻り	剥落	89	23.8×17.5×10.0
Ⅲ-115	51	65	P-99	覆土	Ⅱ b	口~胴	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3		波状/隆帯上指頭/LR		10	
Ⅲ-115	52	58	P-100	覆土	Ⅱ b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3	白	//押し文		14	6.6×-×-
Ⅲ-115	53	65	P-100	覆土	Ⅱ a	口~胴	深鉢	褐10YR 4/4	砂粒	平縁//多条LR	黒色	13	摩耗
Ⅲ-115	54	65	P-100	覆土	Ⅱ a	口~胴	深鉢	にぶい橙7.5YR 6/4	繊維	//多条LR		31	
Ⅲ-115	55	65	P-100	覆土	Ⅱ a	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		/押し文/	炭化物	1	
Ⅲ-115	56	65	P-101	覆土	Ⅳ a	口縁	深鉢	灰黄褐10YR 6/2	輝石	平縁/沈線文/LR		1	
Ⅲ-115	57	65	P-101	覆土	Ⅳ a	胴部	深鉢	灰黄褐10YR 6/2	輝石	/沈線文/		1	
Ⅲ-115	58	65	P-102	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	輝石	/微隆起・絡条体圧痕文/		3	
Ⅲ-115	59	65	P-102	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		/微隆起・絡条体圧痕文/		5	
Ⅲ-115	60	58	P-102	覆土	Ⅰ b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		/微隆起・絡条体圧痕文/		6	
Ⅲ-116	61	66	P-104	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		平縁・口唇/LR/綫い縄線文/LR	横位調整痕	8	補修孔
Ⅲ-116	62	66	P-104	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3		平縁LR/縄線文/LR	LR	4	
Ⅲ-116	63	66	P-104	覆土	Ⅰ b	口縁	鉢?	にぶい橙7.5YR 6/4		平縁/綫格文/LR		1	
Ⅲ-116	64	66	P-104	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		/綫格文/		2	
Ⅲ-116	65	66	P-104	底面	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	砂粒	平縁/綫格文/LR と R 結束	LR・炭化物	5	
Ⅲ-116	66	66	P-104	覆土 底面	Ⅰ b	口縁	深鉢	灰黄褐10YR 5/2	砂粒	平縁//多条LR	横位調整痕	1 4	
Ⅲ-116	67	66	P-104	底面	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3		平縁//多条LR	指頭調整	4	
Ⅲ-116	68	66	P-104	底面	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	平縁//多条LR	横位調整痕・炭化物	21	
Ⅲ-116	69	66	P-104	覆土 覆土1	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒・石英	平縁LR//LR 縦気味	炭化物	2 1	補修孔
Ⅲ-116	70	66	P-104	覆土 覆土1	Ⅰ b	底部	深鉢	にぶい橙7.5YR 7/4		/底部縄線圧痕/多条LR		6 1	底部外面平ら
Ⅲ-116	71	66	P-104	床	Ⅰ b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3	砂粒	上げ底//LR	炭化物	2	
Ⅲ-116	72	66	P-104	覆土1	Ⅰ b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4		上げ底//LR		1	
Ⅲ-117	73	66	P-105	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		波状/縄線文/RL	RL	3	縄線意識
Ⅲ-117	74	66	P-105	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	橙7.5YR 6/6	砂粒	//RL	RL・炭化物	7	縄線意識
Ⅲ-117	75	66	P-105	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	黒褐10YR 3/2		平縁/RL 縄線文・2又工具刺突文/	炭化物	1	
Ⅲ-117	76	66	P-107	覆土	Ⅱ a	口~胴	深鉢	橙7.5YR 6/6	繊維	//LR	LR	11	
Ⅲ-117	77	66	P-107	覆土	Ⅱ a	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	繊維	//RL・LR	横位調整痕	13	
Ⅲ-117	78	66	P-107	覆土	Ⅱ a	胴部	深鉢	黄橙7.5YR 7/8	繊維	//RL	RL・横位調整痕	3	
Ⅲ-118	79	58	P-108 Q16 II	覆土	Ⅰ b	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	砂粒	平縁//LR	口縁付近文・凹凸	92 15	28.2×26.0×5.6
Ⅲ-118	80	58	P-108	覆土	Ⅰ b	全体	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		平縁//LR	LR・炭化物	19	13.2×16.0×5.7
Ⅲ-118	81	66	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4		小波状/LR 縄線文・隆帯・綫格/LR	炭化物	4	口唇縄キザミ
Ⅲ-118	82	66	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		平縁・縄キザミ/LR 縄線文/LR	炭化物	1	
Ⅲ-118	83	67	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	灰黄褐10YR 5/2	石英	平縁・LR/LR 縄線文/多条LR		16	
Ⅲ-118	84	67	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	長石	波状・LR/LR 縄線文/多条LR	多条LR	10	
Ⅲ-118	85	67	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	灰黄褐10YR 4/2		平縁・縄圧痕/RL 縄線文/LR	炭化物	1	縄線意識・焼成良
Ⅲ-118	86	67	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3		平縁LR/LR 縄線文/多条LR	条痕・炭化物	1	
Ⅲ-118	87	67	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	平縁/RL 縄線文・2又工具刺突/		2	
Ⅲ-118	88	67	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3		平縁組紐回転/平組紐圧痕?/多条LR	LR・炭化物	4	
Ⅲ-118	89	67	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3	砂粒	平縁LR/綫格文/多条LR	多条LR	4	
Ⅲ-118	90	67	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3	砂粒	平縁RL//RL	炭化物	2	縄線意識
Ⅲ-118	91	67	P-108	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3		//RL	疵打痕	1	縄線意識
Ⅲ-118	92	67	P-108	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 5/3	砂粒	小波状・縄線文//多条LR	LR	7	
Ⅲ-118	93	67	P-111	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	橙7.5YR 6/6	輝石	//自縄自巻		2	
Ⅲ-118	94	67	P-112	覆土	Ⅰ b	胴部	土製品	橙7.5YR 6/6	輝石	/綫格文/自縄自巻		1	
Ⅲ-119	95	67	P-113	覆土	Ⅰ b	口~胴	深鉢	橙7.5YR 6/6	輝石	平縁・縄圧痕/RL 縄線文・綫格文/LR	炭化物	14	
Ⅲ-119	96	67	P-113	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3		平縁/RL 縄線文/		1	
Ⅲ-119	97	67	P-113	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	浅黄橙10YR 8/3	砂粒	/LR 縄線文/LR	炭化物	16	
Ⅲ-119	98	67	P-113	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3		平縁/綫格文/RL	横位調整痕・炭化物	5	99と同一
Ⅲ-119	99	67	P-113	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3	砂粒	平縁/綫格文/RL	炭化物	1	98と同一
Ⅲ-119	100	67	P-113	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい橙7.5YR 6/4	砂粒	平縁//RL	横位調整痕・炭化物	3	条間あく
Ⅲ-119	101	67	P-113	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3		平縁//RL	RL	5	
Ⅲ-119	102	67	P-113	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/3		平縁//RL	横位調整痕・炭化物	10	
Ⅲ-119	103	67	P-113	覆土	Ⅰ b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	//LR・上げ底	炭化物	1	
Ⅲ-119	104	67	P-113	覆土	Ⅰ b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	砂粒	//RL・上げ底	指頭	1	
Ⅲ-119	105	58	P-113	覆土	Ⅰ b	底部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		//LR・上げ底		2	
Ⅲ-119	106	67	P-116	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 6/3		//LRL?		1	
Ⅲ-119	107	67	P-117	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	灰黄褐10YR 5/2		波状/綫格文/	横位調整痕	2	
Ⅲ-119	108	67	P-117	覆土	Ⅰ b	底部	深鉢	明褐7.5YR 5/6	輝石	//平底		1	
Ⅲ-119	109	67	P-118	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	浅黄橙10YR 8/3	砂粒	平縁//自縄自巻?		1	
Ⅲ-119	110	67	P-129	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	灰黄褐10YR 4/2		/綫格文・絡条体圧痕文/		2	
Ⅲ-119	111	67	P-131	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	砂粒	//LR・底外面LR	横位調整痕	1	
Ⅲ-119	112	67	P-132	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	にぶい橙7.5YR 6/4	石英	/綫格文/		1	底部付近
Ⅲ-119	113	67	P-142	覆土	Ⅰ b	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4	砂粒	平縁/貼付・絡条体圧痕文・捻糸文/		1	
Ⅲ-119	114	67	P-142	覆土	Ⅰ b	胴部	深鉢	明褐7.5YR 5/6	輝石	/綫格文/自縄自巻		1	
Ⅲ-119	115	67	TP-5	覆土	V	口縁	深鉢	にぶい黄橙10YR 7/4		波状/沈線文・三叉文/LR	ミガキ	2	
Ⅲ-119	116	67	TP-5	覆土	V	胴部	注口	にぶい黄橙10YR 7/4		/ミガキ/	黒色	1	

表Ⅲ-6 遺構出土掲載石器等一覧(1)

図番号	番号	図版	器種名	遺構/発掘区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅲ-120	1	55	たたき石	SH-1	床面	チャート	11.7	10.3	6.1	905	火打ち石?被熱
Ⅲ-120	2	55	石核	SH-2	床面	チャート	6.7	7.9	6.8	420	火打ち石
Ⅲ-120	3	55	すり石	SH-2	床面	砂岩	23.7	12.1	5.2	1960	煤付着
Ⅲ-121	4	68	石鏃	H-1	覆土3	頁岩	3.7	2.1	0.8	5.3	
Ⅲ-121	5	68	石鏃	H-1	覆土2	頁岩	3.8	2.3	0.6	3.88	
Ⅲ-121	6	68	石槍またはナイフ	H-1	覆土1	頁岩	5.7	2.5	0.8	8.78	
Ⅲ-121	7	68	石鏃	H-1	覆土1	黒曜石	2.5	1.2	0.6	1.34	丸瀬布系?
Ⅲ-121	8	68	石鏃	H-1	覆土2	頁岩	4.5	1.2	0.4	2.35	
Ⅲ-121	9	68	石鏃	H-1	覆土2	頁岩	4.8	2.1	0.4	4.27	
Ⅲ-121	10	68	つまみ付きナイフ	H-1	覆土1	頁岩	7.7	2.5	0.5	7.57	
Ⅲ-121	11	68	スクレイパー	H-1	覆土2	頁岩	9.0	7.1	2.0	85.62	
Ⅲ-121	12	68	Uフレイク	H-1	覆土2	頁岩	11.2	3.0	0.9	22.01	
Ⅲ-121	13	68	石核	H-1	覆土2	頁岩	6.5	8.7	2.7	145.7	
Ⅲ-121	14	68	石斧	H-1	覆土1	蛇紋岩	(5.8)	4.0	1.2	46.9	
Ⅲ-121	15	68	擦り切り残片	H-1	覆土2	蛇紋岩	4.5	2.4	0.4	5.48	
Ⅲ-121	16	68	すり石	H-1	覆土2	安山岩	11.4	8.8	6.0	850	
Ⅲ-121	17	68	たたき石	H-1	覆土2	安山岩	12.5	7.3	4.5	610	
Ⅲ-122	18	68	石鏃	H-2	床面	頁岩	1.7	1.0	0.3	0.38	
Ⅲ-122	19	68	石鏃	H-2	覆土2	頁岩	3.1	1.8	0.5	2.55	
Ⅲ-122	20	68	石核	H-2	覆土2	頁岩	3.8	4.3	1.6	30.24	
Ⅲ-122	21	68	両面調整石器	H-3	覆土2	頁岩	3.9	2.3	0.7	5.34	
Ⅲ-122	22	68	鋭状石器	H-3	覆土3	頁岩	3.8	3.3	1.1	12.57	トランシエ様
Ⅲ-122	23	68	石核	H-3	覆土2	頁岩	6.1	4.7	3.1	78.58	
Ⅲ-122	24	68	すり石	H-3	覆土2	砂岩	10.1	15.1	5.8	1040	
Ⅲ-122	25	68	石鏃	H-4	覆土2	頁岩	3.4	1.8	0.5	2.65	
Ⅲ-122	26	68	スクレイパー	H-4	覆土	頁岩	7.9	5.4	2.5	50.57	
Ⅲ-122	27	68	石核	H-4	ベルト	頁岩	4.1	5.0	6.9	118.86	
Ⅲ-122	28	68	つまみ付きナイフ	H-5	覆土2	頁岩	9.0	3.1	1.0	19.39	
Ⅲ-122	29	68	スクレイパー	H-5	覆土2	頁岩	6.2	4.4	1.6	10.01	
Ⅲ-122	30	68	スクレイパー	H-5	覆土	頁岩	4.3	3.5	1.6	16.31	
Ⅲ-123	31	68	石鏃	H-6	覆土1	頁岩	2.7	1.5	0.5	1.61	アスファルト付着
Ⅲ-123	32	68	スクレイパー	H-6	覆土2	頁岩	6.9	4.7	2.2	62.2	
Ⅲ-123	33	68	鋭状石器	H-6	覆土2	頁岩	10.6	6.0	3.2	128.41	
Ⅲ-123	34	68	たたき石	H-6	覆土2	泥岩	9.5	6.8	2.5	203.9	
Ⅲ-123	35	68	北海道式石冠	H-6	覆土2	溶結凝灰岩	10.3	12.6	5.8	1050	
Ⅲ-123	36	69	石皿	H-6	覆土2	安山岩	28.6	22.1	5.9	4750	
Ⅲ-123	37	69	石製品	H-6	覆土2	凝灰岩	10.7	6.4	1.8	100.5	
Ⅲ-124	38	69	石鏃	H-7	覆土2	黒曜石	3.0	1.7	0.4	1.2	
Ⅲ-124	39	69	石槍またはナイフ	H-7	覆土2	頁岩	9.8	2.7	1.1	22.69	
Ⅲ-124	40	69	両面調整石器	H-7	覆土2	頁岩	13.2	6.0	2.7	172.3	
Ⅲ-124	41	69	石鏃	H-7	床面	頁岩	7.9	2.2	1.0	11.61	
Ⅲ-124	42	69	石鏃	H-7	床面	頁岩	3.9	2.2	0.5	3.54	
Ⅲ-124	43	69	つまみ付きナイフ	H-7	覆土2	頁岩	7.3	2.7	1.3	12.85	
Ⅲ-124	44	69	鋭状石器	H-7	覆土2	頁岩	7.6	3.2	1.5	40.07	
Ⅲ-124	45	69	スクレイパー	H-7	覆土2	頁岩	8.0	4.0	1.0	26.34	
Ⅲ-124	46	69	スクレイパー	H-7	覆土2	頁岩	5.8	3.8	1.3	19.54	
Ⅲ-124	47	69	スクレイパー	H-7	覆土2	頁岩	5.4	5.1	1.6	19.48	
Ⅲ-124	48	69	石核	H-7	床直上	頁岩	7.8	8.5	3.5	135.74	
Ⅲ-125	49	69	石核	H-7	覆土2	頁岩	7.2	8.2	5.6	245.66	
Ⅲ-125	50	69	石斧	H-7	床直上	泥岩	10.2	2.3	1.2	40.92	
Ⅲ-125	51	69	たたき石	H-7	覆土2	珪岩	12.8	5.8	3.8	450	
Ⅲ-125	52	69	扁平打製石器	H-7	覆土2	安山岩	9.1	17.5	3.2	495	
Ⅲ-125	53	69	扁平打製石器	H-7	覆土2	安山岩	7.3	9.7	2.7	193.98	
Ⅲ-125	54	69	扁平打製石器	H-7	H P-4 覆土	安山岩	10.2	15.5	4.1	990	
Ⅲ-125	55	69	石鏃	H-7	覆土2	凝灰岩	8.2	18.1	1.3	184	
Ⅲ-125	56	69	砥石	H-7	覆土2	凝灰岩	11.8	7.2	3.5	223.4	煤付着
Ⅲ-125	57	69	砥石	H-7	覆土2	凝灰岩	8.2	3.6	1.5	41.3	煤付着
Ⅲ-126	58	69	石鏃	H-8	覆土2	黒曜石	3.2	1.5	0.4	1.4	
Ⅲ-126	59	69	スクレイパー	H-8	床面	頁岩	5.7	3.3	1.0	13.46	
Ⅲ-126	60	69	スクレイパー	H-8	床面	頁岩	7.2	6.1	2.0	38.59	
Ⅲ-126	61	69	スクレイパー	H-8	床面	頁岩	6.7	4.6	1.7	25.53	
Ⅲ-126	62	69	スクレイパー	H-8	床面	頁岩	4.8	4.3	1.4	16.8	
Ⅲ-126	63	70	スクレイパー	H-8	H F-3	頁岩	4.2	5.6	1.6	29.38	
Ⅲ-126	64	70	石核	H-8	H F-3	頁岩	7.5	6.9	3.9	111.14	
Ⅲ-126	65	70	たたき石	H-8	H F-3	安山岩	14.8	5.0	5.7	545	
Ⅲ-126	66	70	扁平打製石器	H-8	床面	安山岩	7.5	12.2	1.9	181.8	
Ⅲ-126	67	70	扁平打製石器	H-8	床面	安山岩	6.9	5.7	2.1	113.2	
Ⅲ-126	68	70	扁平打製石器	H-8	床面	安山岩	7.5	8.9	3.4	340	煤付着
Ⅲ-127	69	70	扁平打製石器	H-8	H P-1	片岩	19.1	9.4	3.9	850	
Ⅲ-127	70	70	扁平打製石器	H-8	H F-3	安山岩	6.8	17.9	2.2	355	
Ⅲ-127	71	70	砥石	H-8	H F-2	凝灰岩	11.9	9.8	3.8	390	炭化物付着
Ⅲ-127	72	70	両面調整石器	H-9	覆土2	頁岩	6.5	5.4	2.0	60.59	
Ⅲ-127	73	70	石鏃	H-9	覆土2	頁岩	7.5	2.2	0.7	6.27	
Ⅲ-127	74	70	つまみ付きナイフ	H-9	覆土2	黒曜石	9.4	3.4	0.9	24.77	
Ⅲ-127	75	70	つまみ付きナイフ	H-9	床面	頁岩	7.0	4.4	1.0	14.57	
Ⅲ-127	76	70	スクレイパー	H-9	覆土2	頁岩	5.9	5.0	1.3	28.25	
Ⅲ-127	77	70	スクレイパー	H-9	覆土2	頁岩	4.2	3.5	1.2	15.52	
Ⅲ-128	78	70	スクレイパー	H-9	床面	頁岩	7.6	4.5	1.2	33.14	
Ⅲ-128	79	70	スクレイパー	H-9	床面	頁岩	3.7	4.0	0.8	6.63	
Ⅲ-128	80	70	スクレイパー	H-9	覆土2	頁岩	8.6	3.1	1.3	23	
Ⅲ-128	81	70	石核	H-9	覆土2	頁岩	8.2	8.1	4.7	269.08	
Ⅲ-128	82	70	石斧	H-9	覆土2	泥岩	9.2	4.2	2.1	137.22	
Ⅲ-128	83	70	たたき石	H-9	覆土2	泥岩	14.1	5.1	3.6	310	

表Ⅲ-6 遺構出土掲載石器等一覧(2)

図番号	番号	図版	器種名	遺構/発掘区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅲ-128	84	70	石皿	H-9	覆土2	安山岩	11.6	13.3	3.6	950	
Ⅲ-128	85	70	石製品	H-9	覆土1	凝灰岩	10.9	6.5	2.6	112.8	線刻
Ⅲ-128	86	70	石製品	H-9	覆土2	凝灰岩	2.6	2.8	0.8	2.39	平玉
Ⅲ-129	87	70	石鏃	H-10	覆土4	頁岩	2.0	1.4	0.4	0.96	
Ⅲ-129	88	70	石鏃	H-10	床面	頁岩	7.1	1.4	0.6	7.94	
Ⅲ-129	89	70	石鏃	H-10	覆土4	頁岩	6.1	3.1	1.0	11.47	
Ⅲ-129	90	70	スクレイパー	H-10	床面	頁岩	5.8	3.9	0.8	16.39	
Ⅲ-129	91	70	スクレイパー	H-10	覆土4	頁岩	3.6	4.2	0.7	8.64	
Ⅲ-129	92	70	細石刃核	H-10	覆土4	頁岩	4.1	7.4	2.2	52.57	旧石器・美利河型
Ⅲ-129	93	70	石核	H-10	床面	頁岩	2.7	6.4	3.7	69.57	
Ⅲ-129	94	70	石斧	H-10	覆土4	泥岩	11.0	4.9	2.4	190.5	
Ⅲ-129	95	70	石鋸	H-10	覆土1	安山岩	(3.8)	(6.8)	1.0	30.3	
Ⅲ-129	96	71	扁平打製石器	H-10	床面	安山岩	9.2	15.5	1.9	278.7	
Ⅲ-129	97	71	扁平打製石器	H-10	覆土4	安山岩	9.9	13.5	1.6	172.6	
Ⅲ-129	98	71	石製品	H-10	床面	粘板岩	26.8	5.1	2.4	307	骨刀に似る
Ⅲ-130	99	71	つまみ付きナイフ	H-11	覆土1	頁岩	7.0	2.6	1.0	10.75	
Ⅲ-130	100	71	スクレイパー	H-11	覆土5	頁岩	2.3	3.1	0.6	3.57	
Ⅲ-130	101	71	たたき石	H-11	覆土5	頁岩	10.7	7.0	3.7	410	
Ⅲ-130	102	71	たたき石	H-11	覆土5	安山岩	9.7	6.4	3.2	283.3	
Ⅲ-130	103	71	石鋸	H-12	床直上	頁岩	9.8	6.2	1.7	105.9	
Ⅲ-130	104	71	石鋸	H-12	床直上	安山岩	4.7	8.5	1.1	51.7	
Ⅲ-130	105	71	石鏃	H-13	覆土	頁岩	2.8	1.6	0.4	1.4	
Ⅲ-130	106	71	石鏃	H-14	覆土1	頁岩	1.7	2.3	0.5	1.46	
Ⅲ-130	107	71	石槍またはナイフ	H-14	覆土2	頁岩	7.1	3.0	1.2	18.3	
Ⅲ-130	108	71	石槍またはナイフ	H-14	覆土1	頁岩	5.9	4.8	1.4	32.28	
Ⅲ-130	109	71	石鏃	H-14	覆土1	頁岩	5.7	4.8	2.0	49.93	
Ⅲ-130	110	71	石核	H-14	覆土2	頁岩	3.1	4.0	1.6	15.84	
Ⅲ-131	111	71	つまみ付きナイフ	H-16	覆土1	頁岩	4.1	2.0	8.0	4.59	
Ⅲ-131	112	71	石斧	H-16	覆土2	片岩	10.1	4.6	2.1	154.7	
Ⅲ-131	113	71	たたき石	H-16	床直上	安山岩	20.3	10.5	3.4	760	すり面あり
Ⅲ-131	114	71	たたき石	H-17	覆土3	安山岩	8.9	4.5	2.1	123.3	
Ⅲ-131	115	71	つまみ付きナイフ	H-18	覆土	頁岩	3.3	2.4	0.6	3.22	
Ⅲ-131	116	71	石斧	H-18	覆土	片岩	5.9	3.0	0.8	23.4	
Ⅲ-131	117	71	つまみ付きナイフ	H-19	床直上	頁岩	7.7	3.5	1.4	33.3	
Ⅲ-131	118	71	つまみ付きナイフ	H-19	覆土	頁岩	8.9	4.3	1.7	26.7	
Ⅲ-131	119	71	たたき石	H-19	床直上	安山岩	12.0	8.6	4.6	670	
Ⅲ-133	120	71	石鏃	H-20	床面	頁岩	2.9	1.6	0.5	2.04	
Ⅲ-133	121	71	石鏃	H-20	H P-4	頁岩	3.6	1.4	0.4	1.45	
Ⅲ-133	122	71	石鏃	H-20	床面	頁岩	2.6	2.0	0.5	2.01	
Ⅲ-133	123	71	両面調整石器	H-20	覆土	頁岩	4.4	3.3	1.2	12.77	
Ⅲ-133	124	71	石鏃	H-20	床面	頁岩	2.3	1.1	0.4	0.91	
Ⅲ-133	125	71	石鏃	H-20	H P-4	頁岩	4.8	2.0	0.7	6.46	
Ⅲ-133	126	76	石鏃	H-20	床面	頁岩	5.9	6.1	1.8	56.49	
Ⅲ-133	127	76	つまみ付きナイフ	H-20	床面	頁岩	5.3	2.5	1.1	9.93	
Ⅲ-133	128	76	つまみ付きナイフ	H-20	床面	頁岩	4.2	3.0	0.9	5.97	
Ⅲ-133	129	76	スクレイパー	H-20	床面	頁岩	5.0	2.4	0.5	9.7	
Ⅲ-133	130	76	スクレイパー	H-20	床面	頁岩	4.9	3.6	1.4	15.46	
Ⅲ-133	131	76	スクレイパー	H-20	床面	頁岩	5.0	2.6	0.8	7.21	
Ⅲ-133	132	76	スクレイパー	H-20	床面	頁岩	8.4	4.5	1.2	31.81	
Ⅲ-133	133	76	スクレイパー	H-20	床面	頁岩	11.0	5.6	1.4	69.66	
Ⅲ-133	134	76	スクレイパー	H-20	床面	頁岩	8.5	5.6	2.1	74.64	
Ⅲ-133	135	76	スクレイパー	H-20	床面	頁岩	5.5	4.5	2.2	40.79	
Ⅲ-133	136	76	スクレイパー	H-20	床面	頁岩	6.2	6.4	1.8	52.4	
Ⅲ-134	137	76	スクレイパー	H-20	床面	頁岩	13.0	5.0	3.7	208	接合
Ⅲ-134	138	76	石核	H-20	床面	頁岩	7.4	7.0	3.5	135.78	接合3
Ⅲ-134	139	76	石核	H-20	周溝1	頁岩	6.7	9.1	3.6	219.56	接合3
Ⅲ-134	140	76	石核	H-20	床面	頁岩	7.1	6.1	4.1	114.61	接合1
Ⅲ-134	141	76	石核	H-20	床面	頁岩	7.5	6.8	2.9	131.74	接合1
Ⅲ-134	142	76	石核	H-20	床面	頁岩	8.7	9.0	7.9	550	接合5
Ⅲ-135	143	77	石核	H-20	床面	頁岩	8.8	9.0	7.8	610	接合2
Ⅲ-135	144	77	Rフレイク	H-20	床面	頁岩	12.1	6.6	3.4	292.74	接合2
Ⅲ-135	145	77	石核	H-20	床面	頁岩	11.9	12.4	9.7	1001	接合2
Ⅲ-136	146	77	石核	H-20	床面	頁岩	5.3	4.6	2.8	54.75	
Ⅲ-136	147	77	石核	H-20	床面	頁岩	6.3	4.3	2.6	59.02	
Ⅲ-136	148	77	石斧	H-20	床面	片岩	6.2	2.0	0.4	7.8	
Ⅲ-136	149	77	たたき石	H-20	床面	頁岩	7.5	5.9	4.0	235.9	
Ⅲ-136	150	77	すり石	H-20	床面	安山岩	8.4	15.7	4.6	890	
Ⅲ-136	151	77	砥石	H-20	床面	凝灰岩	8.2	7.6	1.5	89.8	
Ⅲ-136	152	77	石製品	H-20	覆土1	凝灰岩	6.4	5.2	2.0	38.7	
Ⅲ-136	153	77	石鏃	H-21	床面	黒曜石	3.1	0.9	0.4	1.06	赤井川
Ⅲ-136	154	77	石核	H-21	床面	頁岩	3.1	5.5	3.5	51.02	
Ⅲ-136	155	77	石核	H-21	床面	頁岩	4.1	6.5	4.2	88.61	
Ⅲ-136	156	77	すり石	H-21	床面	安山岩	7.3	12.3	5.4	730	
Ⅲ-136	157	77	スクレイパー	H-22	覆土3	頁岩	3.4	3.6	1.6	14.33	
Ⅲ-136	158	77	扁平打製石器	H-22	H P-5 覆土	安山岩	8.2	8.8	2.0	184	
Ⅲ-137	159	77	石鏃	H-23	H P-13 覆土	頁岩	2.4	1.5	0.3	0.6	
Ⅲ-137	160	77	両面調整石器	H-23	覆土3	頁岩	8.1	5.9	2.3	87.2	
Ⅲ-137	161	77	両面調整石器	H-23	覆土3	頁岩	8.0	3.3	1.8	43.5	
Ⅲ-137	162	77	つまみ付きナイフ	H-23	覆土3	頁岩	5.1	2.9	1.2	6.16	
Ⅲ-137	163	77	スクレイパー	H-23	覆土3	頁岩	4.6	3.6	0.9	8.9	
Ⅲ-137	164	78	石核	H-23	床面	頁岩	3.9	6.5	1.8	42.8	
Ⅲ-137	165	78	石核	H-23	床面	頁岩	5.8	6.1	3.2	80.6	
Ⅲ-137	166	78	石核	H-23	H P-11 覆土	頁岩	5.4	5.8	2.7	70.5	

表Ⅲ-6 遺構出土掲載石器等一覧(3)

図番号	番号	図版	器種名	遺構/発掘区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅲ-137	167	78	たたき石	H-23	床面	珪岩	12.9	6.8	3.7	490	
Ⅲ-137	168	78	扁平打製石器	H-23	床面	安山岩	8.0	8.6	3.5	275	
Ⅲ-137	169	78	扁平打製石器	H-23	床面	安山岩	8.0	10.3	4.3	450	
Ⅲ-138	170	78	スクレイパー	H-24	床面	頁岩	4.6	5.0	1.3	23.3	
Ⅲ-138	171	78	石核	H-24	覆土	頁岩	3.3	2.7	2.6	11.9	
Ⅲ-138	172	78	台石	H-24	床面	安山岩	11.6	(9.5)	2.5	400	
Ⅲ-138	173	78	スクレイパー	H-25	覆土	頁岩	6.1	3.7	1.0	17.1	
Ⅲ-138	174	78	扁平打製石器	H-25	覆土	安山岩	7.8	7.7	2.3	179	
Ⅲ-138	175	78	扁平打製石器	H-27	覆土	安山岩	9.5	16.1	2.8	450	
Ⅲ-138	176	78	北海道式石冠	H-28	覆土	砂岩	10.1	13.8	6.7	1230	
Ⅲ-138	177	78	石錐	H-29	床直上	頁岩	8.2	1.5	0.8	8.7	
Ⅲ-138	178	78	つまみ付きナイフ	H-29	覆土2	頁岩	7.2	3.1	0.8	14.4	
Ⅲ-138	179	78	スクレイパー	H-29	床直上	頁岩	8.8	5.3	1.7	65.21	
Ⅲ-138	180	78	スクレイパー	H-29	床直上	頁岩	4.3	2.7	0.8	7.35	
Ⅲ-139	181	78	スクレイパー	H-29	覆土	頁岩	6.8	2.6	1.2	9.93	
Ⅲ-139	182	78	スクレイパー	H-29	H P-5 覆土	頁岩	5.9	5.2	1.5	36.55	
Ⅲ-139	183	78	石核	H-29	床直上	頁岩	2.2	3.9	2.3	15.6	
Ⅲ-139	184	78	たたき石	H-29	覆土2	緑色泥岩	10.3	4.8	3.1	273	
Ⅲ-139	185	78	扁平打製石器	H-29	覆土2	安山岩	8.2	11.9	2.3	257	
Ⅲ-139	186	78	北海道式石冠	H-29	床直上	安山岩	12.0	18.7	10.2	2900	
Ⅲ-140	1	79	スクレイパー	P-1	覆土	頁岩	2.8	5.3	1.0	7.85	
Ⅲ-140	2	79	砥石	P-2	覆土	砂岩	19.7	8.8	2.1	290	
Ⅲ-140	3	79	つまみ付きナイフ	P-3	覆土1	頁岩	6.8	5.7	1.2	29.05	
Ⅲ-140	4	79	石鏃	P-4	覆土	頁岩	2.1	1.7	0.4	1.19	
Ⅲ-140	5	79	すり石	P-4	覆土	安山岩	8.1	8.2	5.2	520	
Ⅲ-140	6	79	フレイク	P-5	覆土	頁岩	11.6	7.5	3.1	120.44	
Ⅲ-140	7	79	スクレイパー	P-10	覆土	頁岩	6.2	6.4	2.1	61.61	
Ⅲ-140	8	79	石核	P-10	覆土	頁岩	4.8	5.7	4.4	112.4	
Ⅲ-140	9	79	石核	P-10	覆土3	頁岩	7.0	4.1	3.6	95.68	
Ⅲ-140	10	79	たたき石	P-10	覆土	めのう	13.0	7.8	6.3	790	
Ⅲ-141	11	79	スクレイパー	P-14	覆土	頁岩	7.7	4.7	1.1	19.05	
Ⅲ-141	12	79	スクレイパー	P-16	覆土	頁岩	7.7	4.7	1.7	36.88	
Ⅲ-141	13	79	スクレイパー	P-17	覆土	頁岩	3.5	3.0	0.8	8.45	
Ⅲ-141	14	79	石鏃	P-18	覆土	頁岩	2.2	1.7	0.5	1.24	
Ⅲ-141	15	79	扁平打製石器	P-20	覆土	安山岩	8.1	12.5	3.5	450	
Ⅲ-141	16	79	台石	P-24	覆土	安山岩	12.0	9.0	8.2	1160	
Ⅲ-141	17	79	Rフレイク	P-25	覆土	頁岩	7.9	6.5	2.6	107.26	
Ⅲ-142	18	79	両面調整石器	P-31	覆土	頁岩	2.9	3.3	0.9	8.94	
Ⅲ-142	19	79	スクレイパー	P-31	覆土	頁岩	8.8	6.7	1.9	74.31	
Ⅲ-142	20	79	石核	P-31	覆土	頁岩	4.5	4.2	3.0	49.55	
Ⅲ-142	21	79	石核	P-31	覆土	頁岩	8.4	8.0	3.3	174.15	
Ⅲ-142	22	79	スクレイパー	P-31	覆土上面	頁岩	17.8	16.1	4.3	1350	
Ⅲ-142	23	79	砥石	P-31	覆土上面	凝灰岩	22.7	19.8	4.3	1530	
Ⅲ-143	24	79	扁平打製石器	P-39	覆土1	砂岩	8.5	11.9	2.4	340	
Ⅲ-143	25	79	石核	P-40	覆土	頁岩	3.7	4.3	2.6	37.53	
Ⅲ-143	26	79	スクレイパー	P-45	覆土	頁岩	7.9	3.2	1.4	21.8	
Ⅲ-143	27	80	スクレイパー	P-51	覆土	頁岩	5.7	4.0	1.2	17.24	
Ⅲ-143	28	80	石核	P-51	覆土	頁岩	5.8	9.7	6.2	287.25	
Ⅲ-143	29	80	つまみ付きナイフ	P-56	壁面直上	頁岩	7.2	2.8	0.9	10.71	
Ⅲ-143	30	80	スクレイパー	P-59	覆土	頁岩	4.5	3.6	0.9	11.32	
Ⅲ-143	31	80	石皿	P-59	覆土	安山岩	28.0	13.9	4.5	2500	
Ⅲ-144	32	80	石核	P-61	覆土	頁岩	4.8	4.3	2.5	59.63	
Ⅲ-144	33	80	スクレイパー	P-73	覆土1	頁岩	6.5	5.7	1.8	85.9	
Ⅲ-144	34	80	石鏃	P-89	覆土	頁岩	3.5	1.6	0.7	3.3	
Ⅲ-144	35	80	つまみ付きナイフ	P-89	覆土	頁岩	4.5	1.8	0.8	5.25	
Ⅲ-144	36	80	つまみ付きナイフ	P-89	覆土	頁岩	6.7	2.7	0.8	10.3	
Ⅲ-144	37	80	籠状石器	P-89	覆土	頁岩	7.3	3.3	1.7	34	
Ⅲ-144	38	80	スクレイパー	P-89	覆土	頁岩	8.5	2.9	1.0	21.1	
Ⅲ-144	39	80	スクレイパー	P-89	覆土	頁岩	5.7	8.4	2.7	88.9	
Ⅲ-144	40	80	石核	P-96	覆土	頁岩	4.2	4.5	3.0	59.6	
Ⅲ-144	41	80	すり石	P-97	覆土	安山岩	8.7	16.7	8.0	85.9	
Ⅲ-145	42	80	扁平打製石器	P-99	覆土	安山岩	5.4	10.8	1.8	3.3	
Ⅲ-145	43	80	つまみ付きナイフ	P-100	底面	頁岩	5.9	2.2	0.7	6.38	
Ⅲ-145	44	80	つまみ付きナイフ	P-100	覆土	頁岩	5.0	2.5	1.2	14.24	
Ⅲ-145	45	80	石錐	P-101	覆土	頁岩	2.9	1.5	0.7	2.85	
Ⅲ-145	46	80	スクレイパー	P-101	覆土	頁岩	4.6	4.2	1.4	28.94	
Ⅲ-145	47	80	扁平打製石器	P-101	覆土	安山岩	7.0	(7.0)	1.8	126	
Ⅲ-145	48	80	石錐	P-102	覆土	頁岩	6.2	1.7	1.0	9.3	
Ⅲ-145	49	80	つまみ付きナイフ	P-102	覆土	頁岩	7.1	2.9	1.0	15.06	
Ⅲ-145	50	80	つまみ付きナイフ	P-102	覆土	頁岩	5.7	2.4	0.8	6.59	
Ⅲ-145	51	80	つまみ付きナイフ	P-102	底面	頁岩	10.3	4.7	0.9	25.42	
Ⅲ-145	52	80	すり石	P-102	底面	安山岩	10.7	14.6	4.9	1000	
Ⅲ-146	53	81	両面調整石器	P-104	覆土1	頁岩	4.2	2.1	1.2	7.87	
Ⅲ-146	54	81	両面調整石器	P-104	覆土1	頁岩	5.9	4.8	2.1	64.13	
Ⅲ-146	55	81	石錐	P-104	底面	頁岩	5.0	2.2	0.5	3.62	
Ⅲ-146	56	81	籠状石器	P-104	底面	頁岩	8.5	4.2	2.6	77.34	
Ⅲ-146	57	81	スクレイパー	P-104	覆土	頁岩	8.8	6.7	2.1	90.28	
Ⅲ-146	58	81	石斧	P-104	覆土3	凝灰岩	3.5	1.3	0.5	3.29	
Ⅲ-146	59	81	たたき石	P-104	覆土1	安山岩	10.0	5.6	2.5	203	
Ⅲ-146	60	81	すり石	P-104	覆土1	安山岩	7.3	10.0	4.9	360	
Ⅲ-146	61	81	石核	P-105	覆土	頁岩	9.9	11.1	3.8	360	
Ⅲ-146	62	81	台石	P-105	覆土	安山岩	(6.7)	(6.8)	3.9	210	
Ⅲ-147	63	81	石鏃	P-108	覆土	頁岩	2.6	1.1	0.3	0.88	

表Ⅲ-6 遺構出土掲載石器等一覧(4)

図番号	番号	図版	器種名	遺構/発掘区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅲ-147	64	81	石錘	P-108	覆土	頁岩	4.7	1.8	0.8	7.06	
Ⅲ-147	65	81	石錘	P-108	覆土	頁岩	4.3	1.3	0.6	3.22	
Ⅲ-147	66	81	つまみ付きナイフ	P-108	覆土	頁岩	7.5	2.5	1.2	13.25	
Ⅲ-147	67	81	スクレイパー	P-108	覆土	頁岩	2.7	4.2	0.8	8.12	
Ⅲ-147	68	81	スクレイパー	P-108	覆土	頁岩	5.0	3.8	1.5	23.01	
Ⅲ-147	69	81	スクレイパー	P-108	覆土	頁岩	7.4	7.5	1.8	71.81	
Ⅲ-147	70	81	スクレイパー	P-108	覆土	頁岩	10.0	5.1	1.5	50.1	
Ⅲ-147	71	81	スクレイパー	P-108	覆土	頁岩	12.7	6.8	1.4	100.6	
Ⅲ-147	72	81	スクレイパー	P-108	覆土	頁岩	14.3	8.7	2.4	186	接合資料2
Ⅲ-147	73	81	スクレイパー	P-108	覆土	頁岩	7.8	4.0	1.6	28.1	
Ⅲ-148	74	81	石核	P-108	覆土	頁岩	4.6	4.6	2.7	53.7	
Ⅲ-148	75	81	たたき石	P-108	覆土	泥岩	9.9	4.8	2.9	164	
Ⅲ-148	76	81	たたき石	P-108	覆土	砂岩	14.3	9.3	4.5	660	
Ⅲ-148	77	81	石斧	P-108	覆土	凝灰岩	5.5	1.3	0.6	4.98	
Ⅲ-148	78	81	すり石	P-108	覆土	安山岩	8.3	12.3	5.2	550	
Ⅲ-148	79	81	石錘	P-108	覆土	凝灰岩	9.2	9.9	2.9	350	
Ⅲ-148	80	82	石核	P-112	覆土	頁岩	8.7	8.4	2.4	160.3	
Ⅲ-149	81	82	石鏃	P-113	覆土	頁岩	2.4	1.2	0.3	0.74	
Ⅲ-149	82	82	石鏃	P-113	覆土	頁岩	3.5	1.2	0.4	1.14	
Ⅲ-149	83	82	石鏃	P-113	覆土	頁岩	4.0	1.2	0.6	2.38	
Ⅲ-149	84	82	石錘	P-113	覆土	頁岩	5.4	4.1	2.1	35.77	
Ⅲ-149	85	82	スクレイパー	P-113	覆土	頁岩	8.8	4.4	2.2	73.51	
Ⅲ-149	86	82	スクレイパー	P-113	覆土	頁岩	8.3	4.6	2.2	49.92	
Ⅲ-149	87	82	石核	P-113	覆土	頁岩	4.6	3.2	3.5	40.34	
Ⅲ-149	88	82	たたき石	P-113	覆土	珪岩	9.0	5.9	3.8	257	
Ⅲ-149	89	82	すり石	P-113	覆土	安山岩	7.6	(9.3)	6.8	640	
Ⅲ-149	90	82	スクレイパー	P-130	覆土	頁岩	6.5	4.6	1.0	25.41	
Ⅲ-149	91	82	石核	P-131	覆土	頁岩	4.3	10.5	7.0	300	
Ⅲ-149	92	82	スクレイパー	P-142	覆土	頁岩	6.2	3.8	1.1	17.82	
Ⅲ-150	93	82	石槍またはナイフ	FC-1	Ⅱ	頁岩	5.0	3.7	1.7	25.13	
Ⅲ-150	94	82	つまみ付きナイフ	FC-1	Ⅱ	頁岩	6.8	2.8	1.0	12.17	
Ⅲ-150	95	82	スクレイパー	FC-1	Ⅱ	頁岩	7.0	4.6	1.6	35.85	
Ⅲ-150	96	82	スクレイパー	FC-1	Ⅱ	頁岩	7.3	5.0	2.1	70.26	
Ⅲ-150	97	82	両面調整石器	FC-3	H-9 堀上土下	頁岩	11.6	8.2	4.8	355	98と同一母岩
Ⅲ-150	98	82	石核	FC-3	H-9 堀上土下	頁岩	5.9	9.3	5.7	250.21	97と同一母岩

IV章 包含層の遺物

1. 土器・土製品

包含層からは土器27,453点、土製品6点、焼成粘土塊79点が出土した。

土器はI群b類土器が16,428点、II群b類土器が7,869点、IV群a類土器が2,675点で、その他I群a類土器、III群a類土器、III群b類土器、IV群c類土器、V群土器、VII群土器が少量出土する。

I群a類土器(1)

I群a類土器は、K45区から2点出土した。1は貝殻条痕文が内外面に施される。

I群b類土器

I群b類土器は16,428点出土した。I群b-1類土器、b-3類土器、b-4類土器に細分される。I群b-1類土器は約6,000点出土した。東釧路II式相当の土器が主体で、縄線文・刺突文・綾絡文・縄文などが施されるものである。東釧路III式土器も少量みられる。I群b-4類土器は約8,300点出土した。調査区北側に広く分布する。破片が細かく、復原できたものはない。I群b-3類土器はごく少量の出土である。

I群b-1類土器(2~16)

H-1・20・21、P-108・113などの縄文時代早期後半の遺構周辺、13~24ラインに多く分布する。2~15は東釧路II式相当の土器、16は東釧路III式土器である。

2・3は隆帯があるもので、いずれも多条の原体による縄文が斜位、横位に施文される。2は隆帯上に中空の工具による横からの刺突文が施される。3は薄い貼付上と、その上下に縄線文が施され、口唇部は棒状工具で刺突される。

4は中空工具による刺突文がみられるもの。無文地に平行、斜めの刺突列が見てとれる。内面は横位の条痕が残る。

5~7は無文地に縄線文が施されるものである。5は縄線文のほか、縄端圧痕文がみられる。6は口唇および口唇直下内外面に縄文が施され、縦、斜位の縄線文が施文される。7は縄線文により三角形が構成される。

8は条痕文がみられるものである。横位に条痕が施された後、間隔をおいて斜位に条痕が連続してひかれる。

9・10は同一個体で、撚糸文が施される。口唇には棒状工具による刺突文がみられる。

11~14は縄文が施されるものである。11は器厚が薄く、口縁から丸みをもってすぼまっていく器形である。縄文施文後の横位条痕文が口唇直下など数条観察される。内面には全面に条痕がみられる。12は撚りの違う原体を交互に施文し、羽状となる。東釧路III式土器の可能性がある。13・14はLR原体により、口唇や内面にも縄文が施文される。

15は底部である。底部はやや上げ底で縄文が施される。内面には指頭による調整痕が残る。

16は絡糸体圧痕文が横位、縦位に施され、口縁部は肥厚する。

I 群 b - 3 類土器 (17)

17は細い貼付帯があり、縦位の短縄文がみられる。

I 群 b - 4 類土器 (18~28)

調査区北側29~55ラインを中心に出土する。北側の小型土坑群と分布域が重なる。

18は絡条体圧痕文が施される。器面の横位調整により微隆起状の段がみられる。19は縄端圧痕文、絡条体圧痕文が施される。20は縄線文、撚糸文により鋸歯状、波状の文様が描かれている。21は横位に魚骨回転文が施される。22は絡条体圧痕文、押引文、綾絡文が施される。

23~25・28には自縄自巻の原体による羽状縄文が施され、23・25は綾絡文がみられる。28は底部で、条がややみだれる。26は絡条体、27は連続刺突列とその下位には絡条体圧痕文が施される。

II 群 a 類土器 (29~31)

P12区、P39区から10点出土した。

29は押引文が施される。30・31は尖底である。30は絡条体圧痕文が施され、31は摩耗により文様不明で、胎土には繊維が含まれる。

II 群 b 類土器 (32~40)

調査区全体から7,869点出土した。調査区南西の舌状台地先端やH-7~12、22~29周辺にまとまる傾向がある。円筒土器下層 b~d 式がある。

32・33は復原土器である。32は器高22cm、口径16cm、底径9cm程の筒型で、口頸部は屈曲し、口縁部はやや開く器形となる。口縁は緩やかな波状で、口頸部には横位の条痕文がみられる。胴部は撚糸文が縦、斜行する。円筒土器下層 d 式である。33はH-9掘り上げ土下から出土した。底部から胴部の復原で、撚糸文が胴部と底部外面に施される。胎土に繊維はあまり含まない。

34・35はいずれも断面形が三角形となる隆帯があり、指頭による圧痕文が施される。口頸部には不整の綾絡文が施され、胎土には繊維を多く含む。円筒土器下層 b 式である。34は隆帯上下で不整の綾絡文が施され、胴部は撚糸文が縦位に施される。35は地文に縄文が施される。

36は波状口縁で、口頸部には撚糸文・綾絡文が横位に施される。内面は磨かれる。

37は波頂部で、縄線文が菱形に施されている。円筒土器下層 c 式である。

38・39は円筒土器下層 d 2 式で縦位の貼付があるもの。いずれも縄線文や縄によるキザミがみられ、内面は磨かれる。38は胴部に多軸絡条体の回転文が施される。39は縦位貼付の痕跡が残る。胴部には撚糸文が施される。

40は底部で上げ底となる。細い原体の撚糸文が胴部に施される。

III 群 a 類土器 (41)

III 群 a 類土器は21点出土した。

41は波頂部で、横位とボタン状の貼付があり、刺突文が施される。波頂部には棒状工具による刺突がなされる。胴部は複節の縄文が施される。

IV 群 a 類土器 (42~67)

IV 群 a 類土器は調査区南西側を中心に2,675点出土した。H-14~18など縄文時代後期前葉の遺構

と分布が重なる。涌元式～大津式土器である。

42・43は復原土器である。42は器高7cm、口径8cm、底径4.4cmの小型鉢形土器で、口縁部には縄線文、胴部にLR原体による縄文が施される。43は底部から胴部まで復原された深鉢形土器で、底径は6.6cmである。全体にゆがみ、底部はやや上げ底となる。胴部はヘラ状工具による縦位の調整痕がみられる。

44・45は貼付帯があるものである。44は2条の薄い貼付があり、貼付上と体部では原体の方向を変えて、縄文を施文している。45は壺形に近い土器で、貼付上下や口頸部に縄線文が施される。

46～60は沈線文が施されるものである。沈線により渦巻き状(49)、弧線文(50)、カニバサミ状(51)、蛇行文(52)、雷文(53・57)、乙字状(54)、波状(59)などの文様が描かれる。49～51・53・54・58～60には磨り消し文がみられる。

46は縄文地に細い沈線文、47は無文地に浅い沈線文が描かれる。48は壺形土器の口縁部である。49の地紋は無節縄文である。50・52は鉢形土器で、内面にも沈線文が施される。54・55は同一個体、無文地に沈線文が描かれる。56は波状口縁で、太い沈線で方形に区画され、沈線間には櫛状の工具で条痕状の沈線も施される。57・58は同一個体で、底径4cm程の小型土器である。59・60も同一個体で、胎土は緻密で焼成が良い。

61・62は縄文が施されるものである。61は波状口縁で、多条のLR原体による縄文が横走する。62は複節の縄文が施される。

63～65は無文のものである。63は口唇断面が角形で、縦位の調整痕が内外面に残る。64は小突起がある口縁部、65は折り返し状の口縁で、縄文施文後、磨り消された可能性がある。

66・67は底部である。底部外面は無文、平らで、体部には縄文が施される。66は底部側面に縄線文が1条施文される。

V群土器(68～76)

V群土器は255点出土した。68は縄文地に爪形文がみられる小破片である。69は沈線文、三叉文がみられる。

70～74は鉢形もしくは浅鉢形土器である。口頸部は74以外屈曲し、無文もしくは平行沈線文が施文される。胴部は細い原体による縄文が縦位、斜位に施される。70～73には瘤状の貼付が施される。72の口唇角には細い棒状工具によるキザミが入れられる。73は細い先端の工具により、刺突文、沈線文が施される。74は幅広の沈線文が巡る。

75はキザミにより小波状となる深鉢形土器である。76は壺形土器の頸部である。

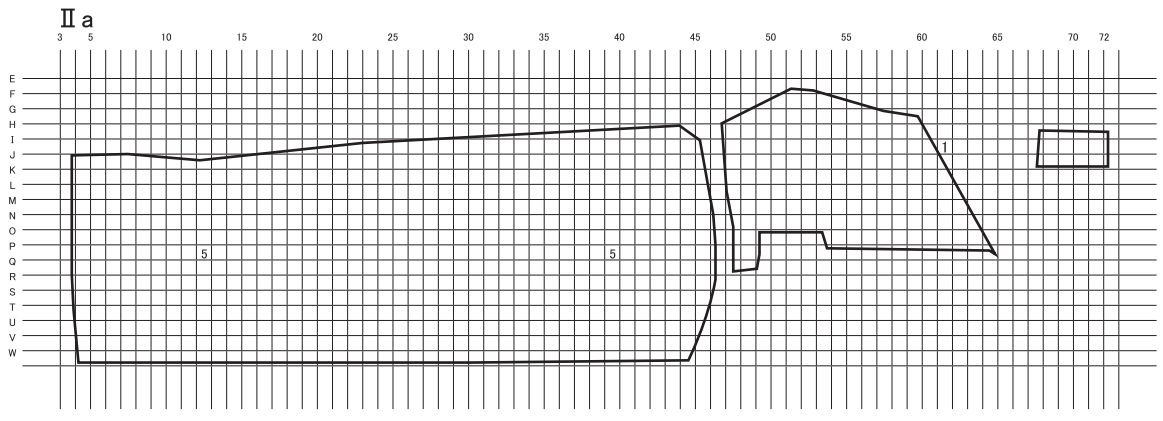
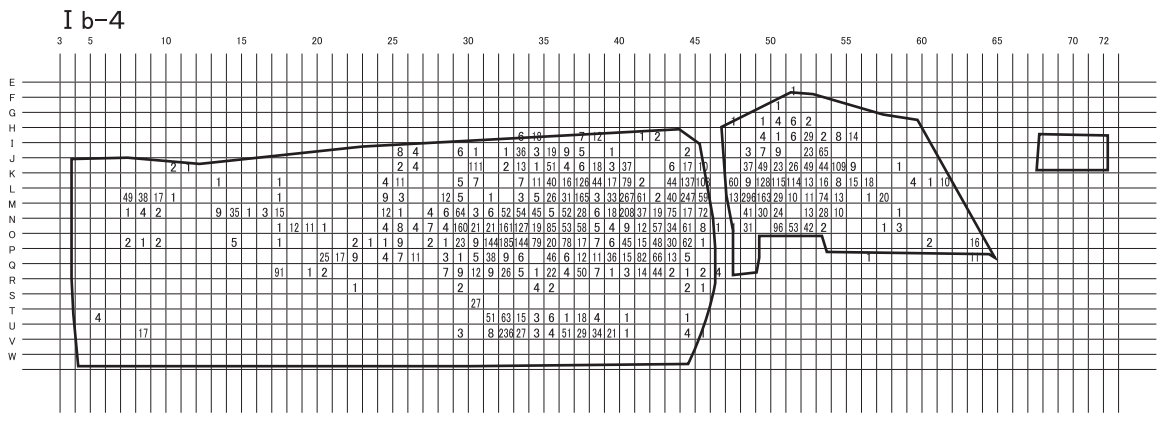
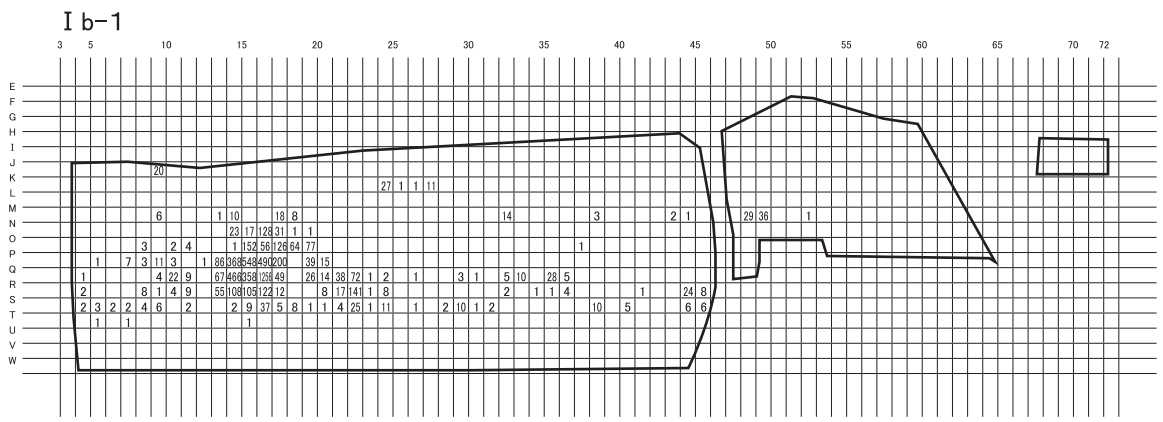
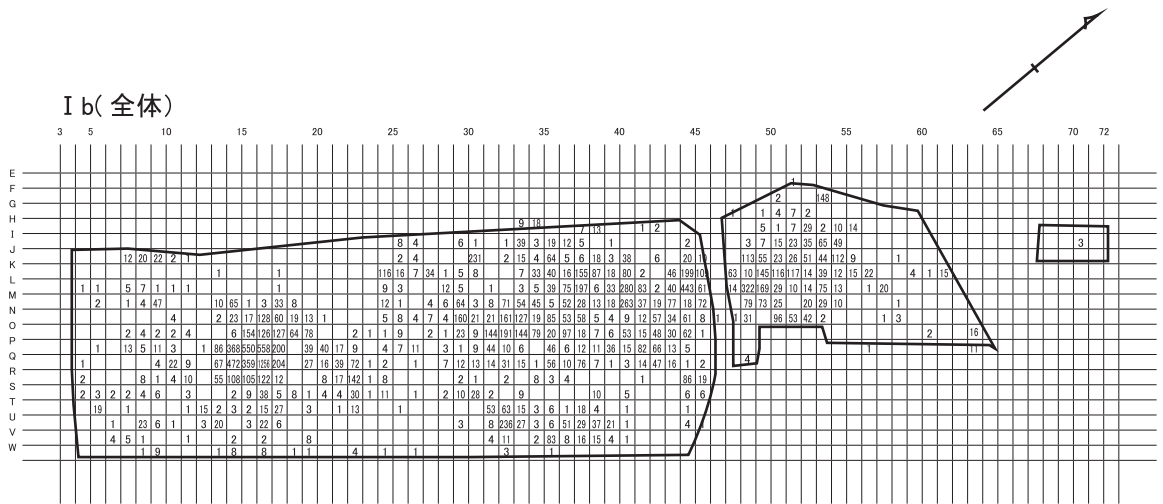
VII群土器(77・78)

VII群土器は49点出土した。77・78は甕の口縁部で、ハケメ調整痕が残る。

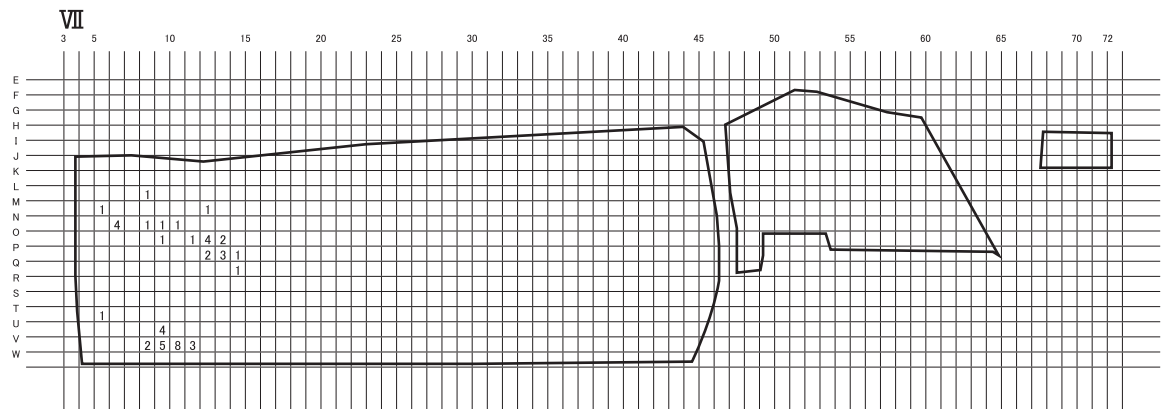
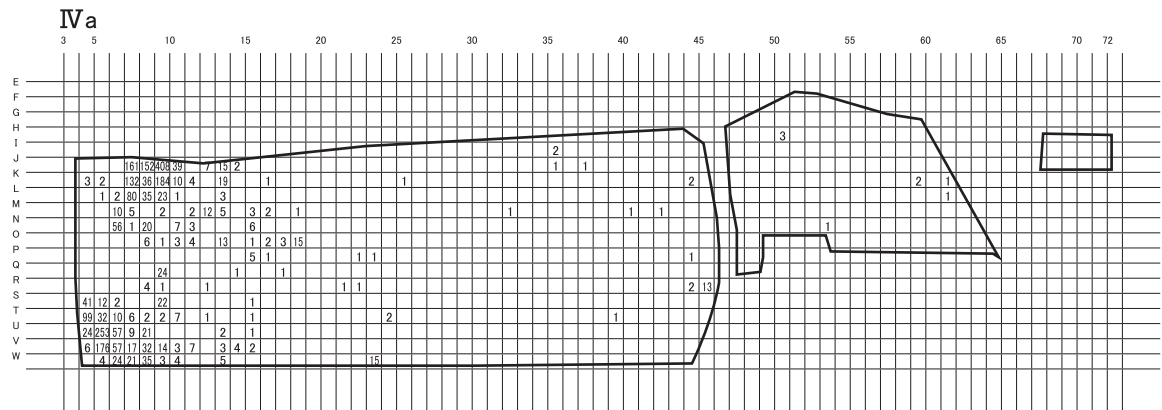
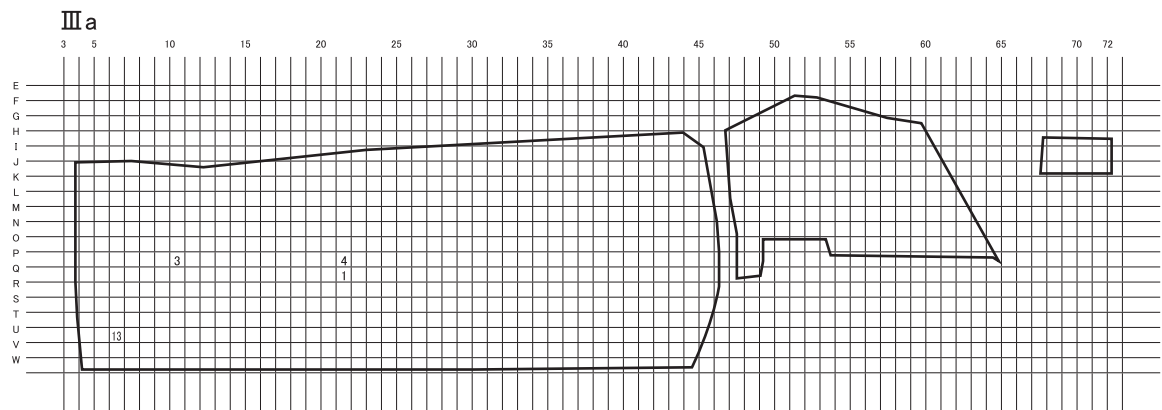
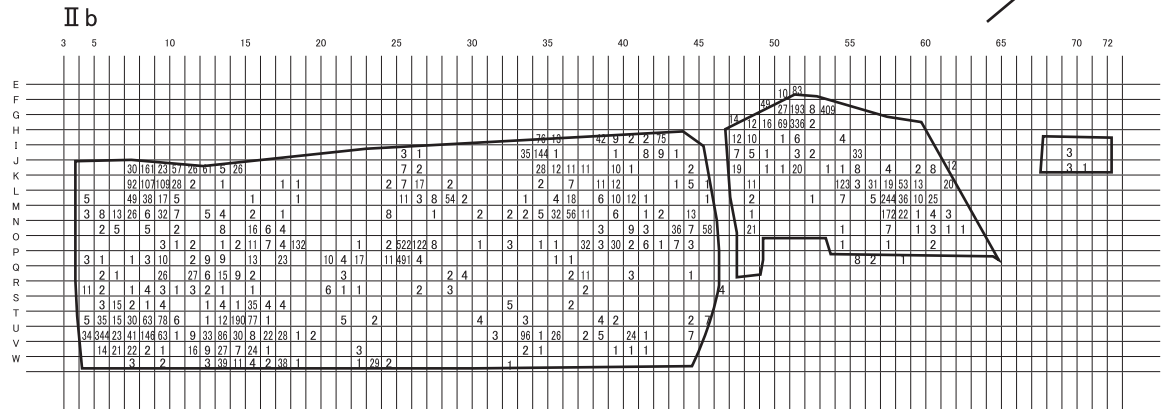
土製品

79～83は土器片再生の土製品である。いずれも割れ口は軽く研磨されている。79・82はI群b-4類土器、80はI群b-1類土器、81・83はIII群土器が利用される。

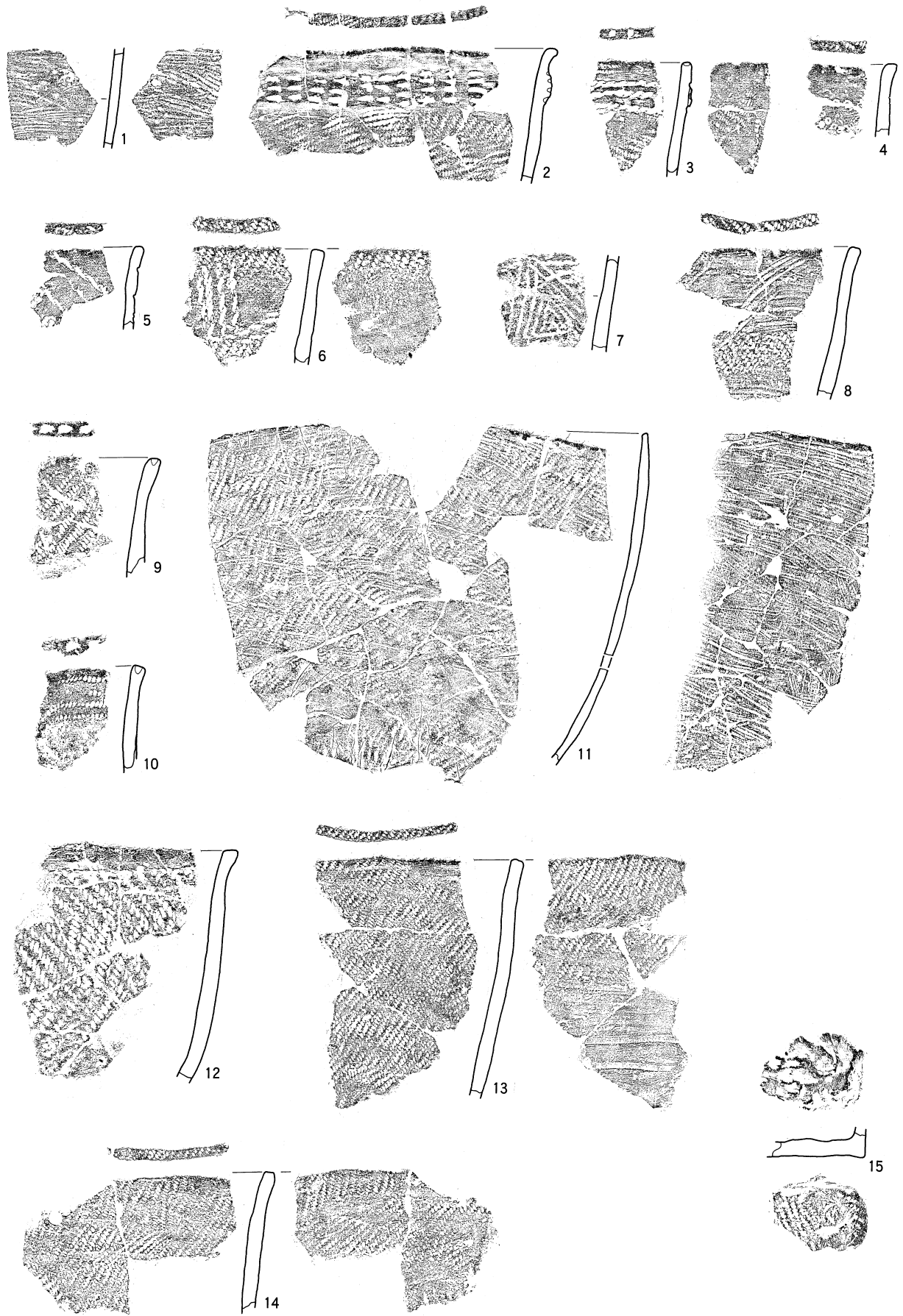
79は4つの孔がかけられる土製品である。80～82は再生土製円盤で、82は未成品である。83は両端に挟りが作出される。土器片錘と考えられる。(愛場)



图IV-1 包含層出土土器分布图(1)



図IV—2 包含層出土土器分布図(2)

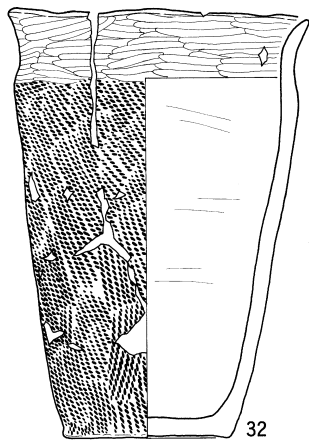


図IV-3 包含層出土の土器 (1)

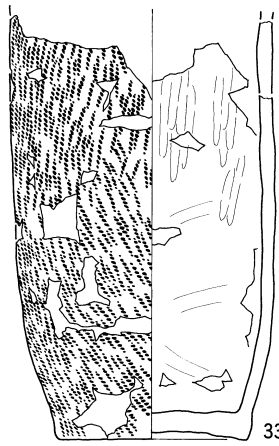
0 (拓本土器) 5cm
s = 1/3



図IV-4 包含層出土の土器(2)

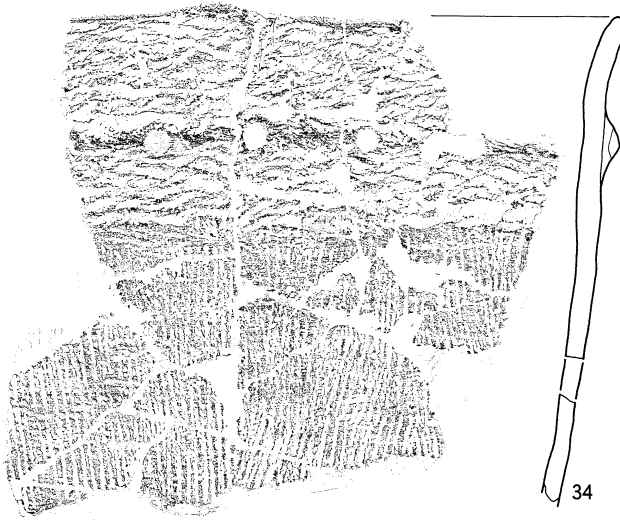


32

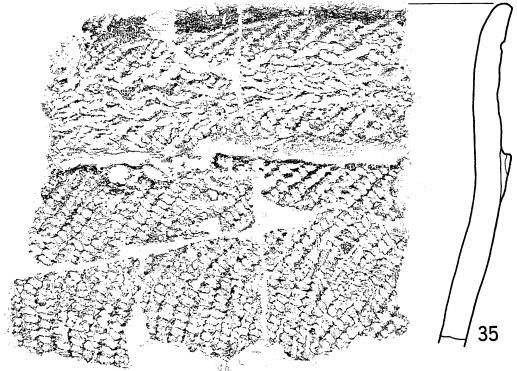


33

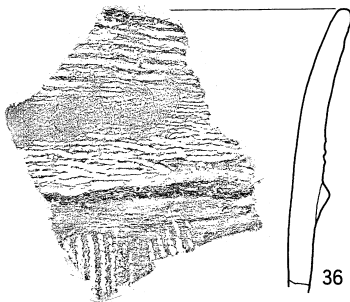
0 (復原土器) 10 cm
s = 1/4



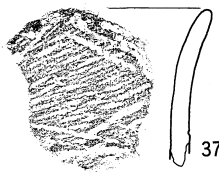
34



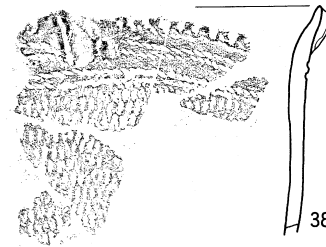
35



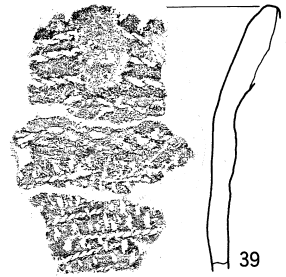
36



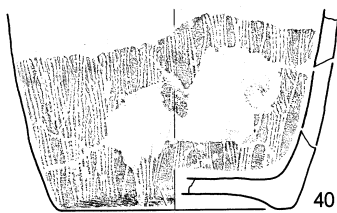
37



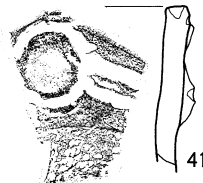
38



39



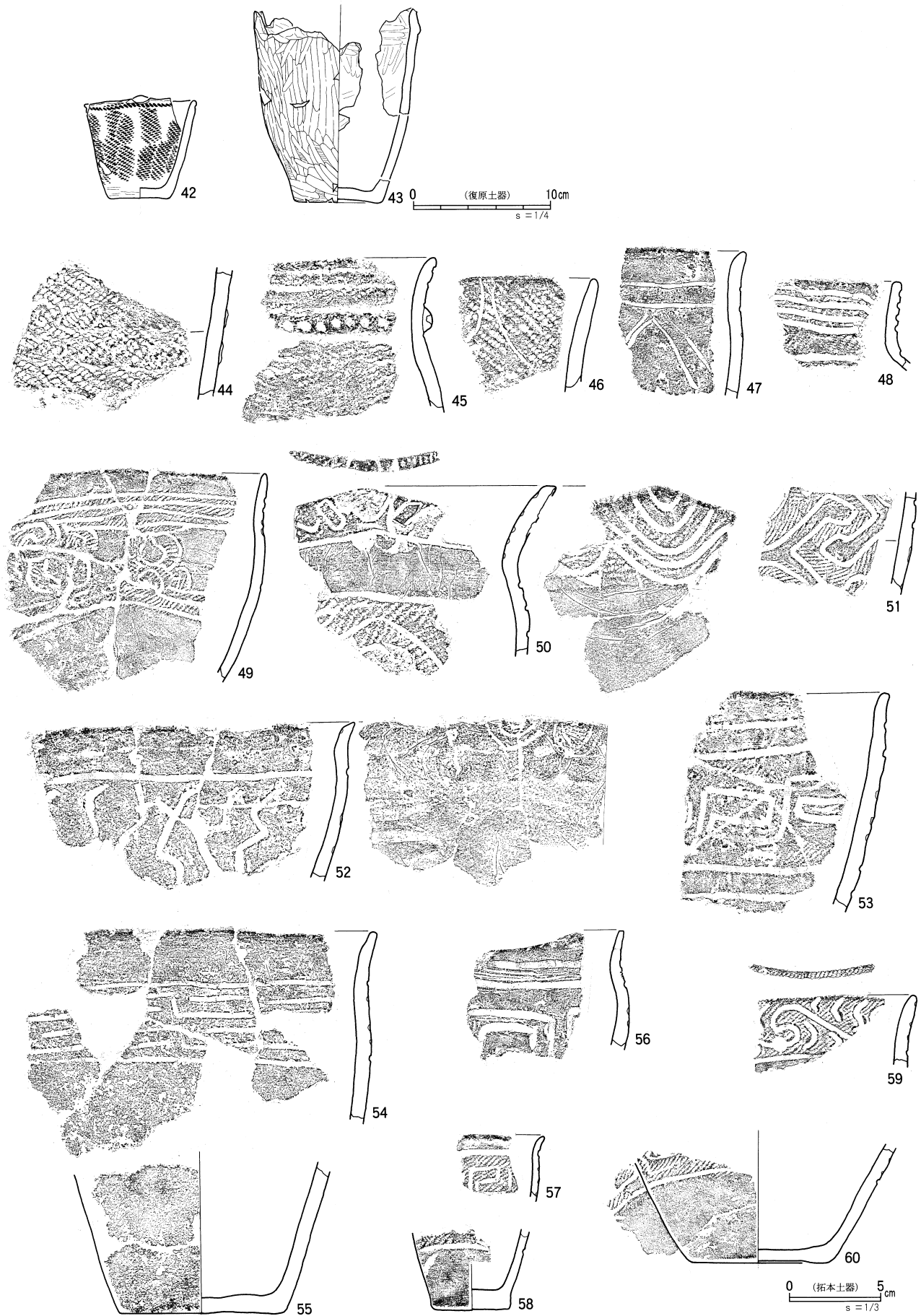
40



41

0 (拓本土器) 5 cm
s = 1/3

図IV-5 包含層出土の土器 (3)



図IV-6 包含層出土の土器(4)



図IV-7 包含層出土の土器（5）・土製品

2. 石器等

包含層出土の石器は、剥片石器2,440点、フレイク46,408点、礫石器553点、礫・原石11,107点、石製品24点である。剥片石器では、スクレイパー857点、Uフレイク544点、石核270点などが多く、ついでつまみ付きナイフ207点、石鏃174点がある。石材は、ほとんどが頁岩である。

礫石器では、たたき石、扁平打製石器が多くみられ、石斧や砥石などは少ない。

器種別の分布は、概ね遺構の分布域と重なり、あまり偏りはないが、スクレイパー、石核、フレイクは、縄文時代早期の住居跡周辺に多い傾向がある。また旧河道付近のU・V・W 4～15区では、石核、たたき石、扁平打製石器が多く出土した。

石刃鏃（1）

1は石刃鏃とした。頁岩製で、わずかに湾曲した石刃素材を利用する。側縁は基部近くでやや丸味を帯び、周縁の加工は背面、腹面の順で行われている。Q17区出土で、周辺には東釧路Ⅱ式相当期の遺構があるため、これに伴う可能性がある。

石鏃（2～20）

石鏃は174点出土した。調査区全域で見られるが、5～23ラインにややまとまる傾向がある。三角形鏃、有茎鏃が比較的多い。4～6・10・20は黒曜石製で2・5は赤井川産という同定結果がでた。それ以外は頁岩製である。

2～4は柳葉形で、2は基部が内湾し、3は側縁がやや鋸歯状となる。5・6は菱形に近いもの、7～15は三角形である。7～10は基部が内湾し、11～15は基部が直線的となる。10・14・15は側縁が曲線的となる。16～20は有茎のもので、18は基部にアスファルトが付着する。

石槍またはナイフ（21～27）

石槍またはナイフは75点出土した。平面形は、柳葉形21・23・24、木葉形22・26、五角形25・27があり、破損品が多い。

両面調整石器（28～32）

両面調整石器は130点出土した。破損して全体形状が不明のものが多い。木葉形に調整されるが、明瞭な尖頭部がみられないもの（28・29）、円形に加工されるもの（30）、石核の可能性のあるもの（31・32）などがある。

石錐（33～38）

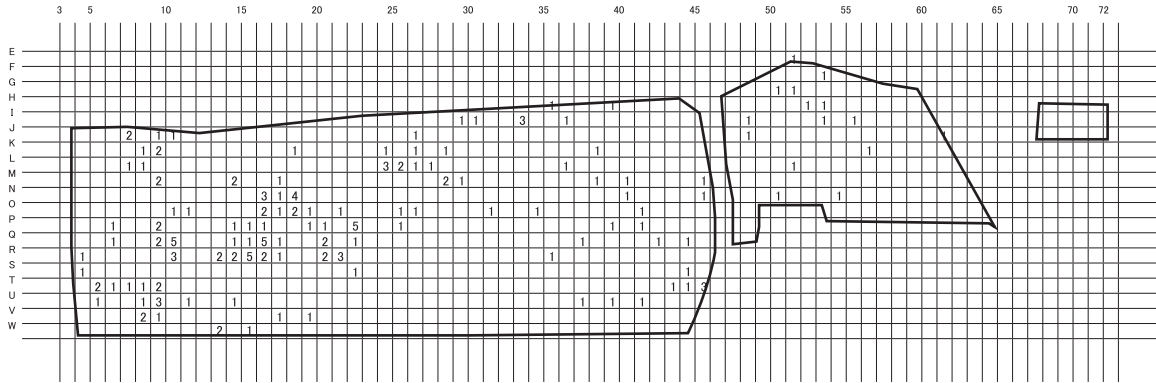
石錐は71点出土した。両面加工で棒状のもの（33～36）、剥片の一端に機能部を設けるもの（37・38）がある。34は上部が薄く加工される。35は剥片の折れ面を利用する。38は原石面のある、比較的大きな剥片が利用される。先端部の断面は三角形となる。

つまみ付きナイフ（39～45）

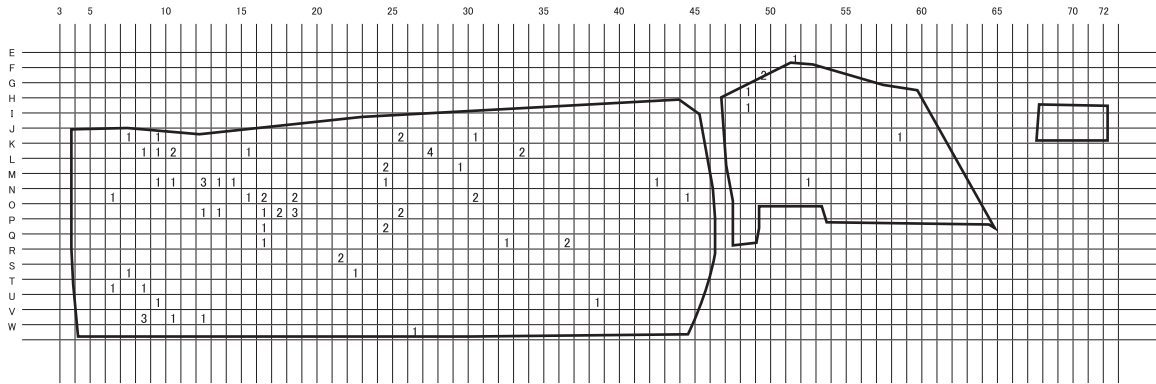
つまみ付きナイフは206点出土した。39～42は、背面側縁に腹面加工のための打面を作出するもので、縄文時代早期後半の特徴がある。39は下端部に急角度の刃部がある。

43・44は両面加工のものである。44は下端部が磨滅して光沢があり、石錐として利用されている。

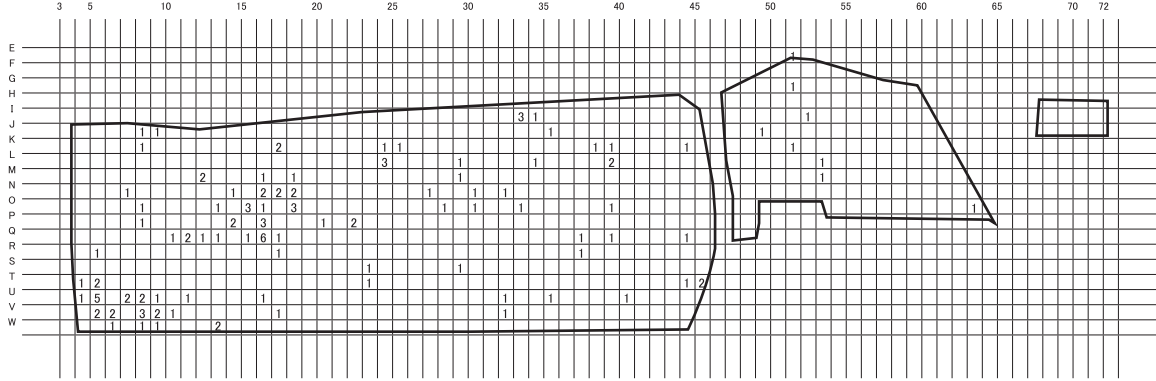
石鋸



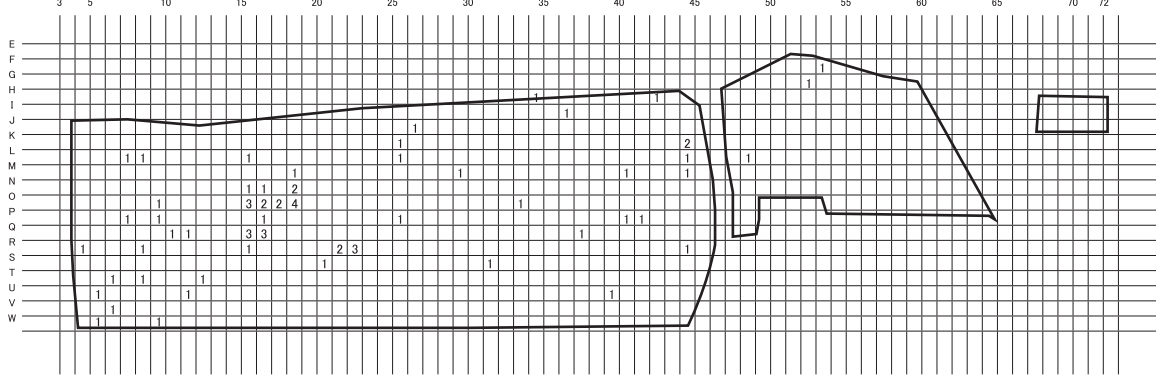
石槍またはナイフ



両面調整石器

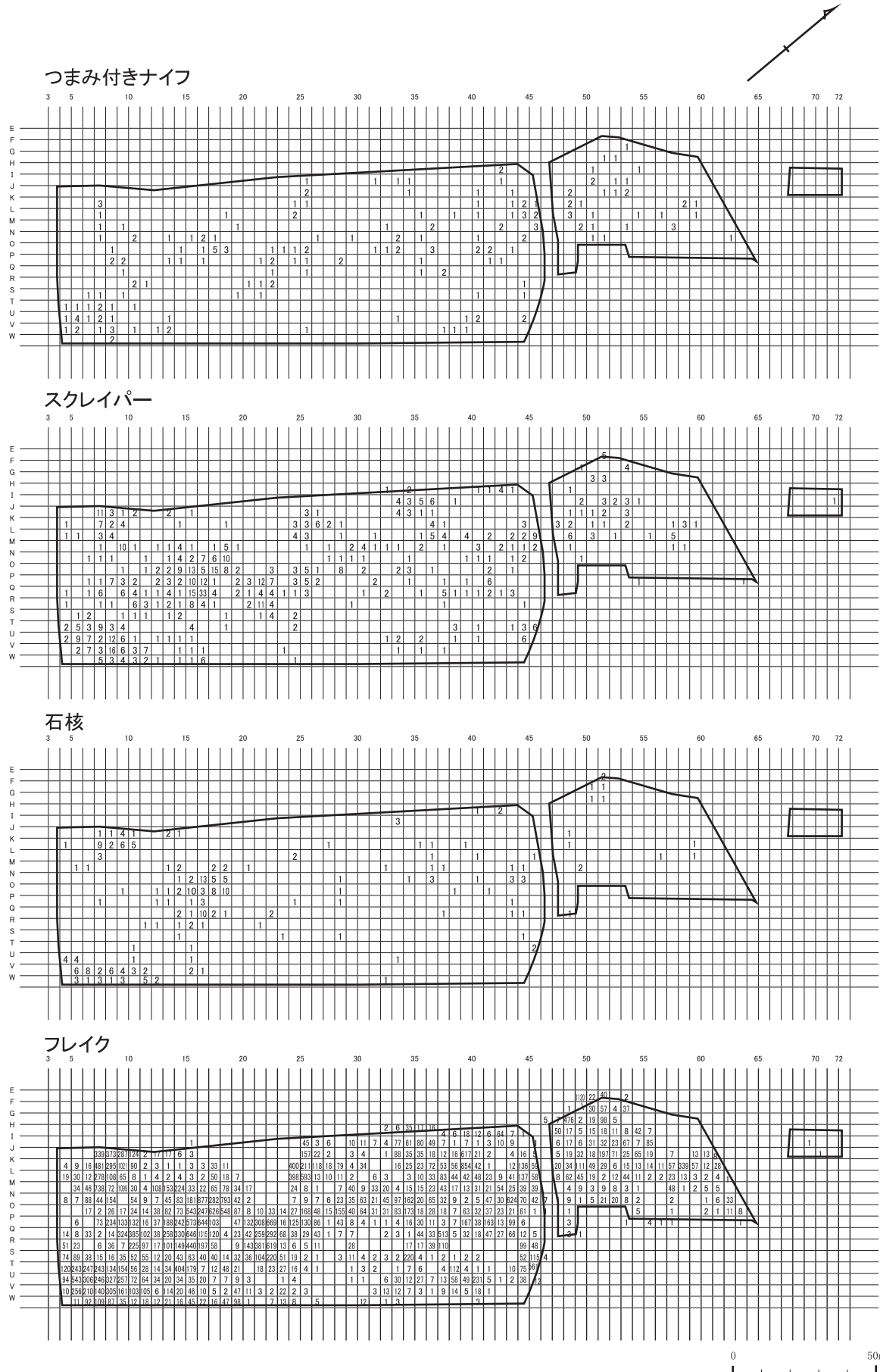


石錐



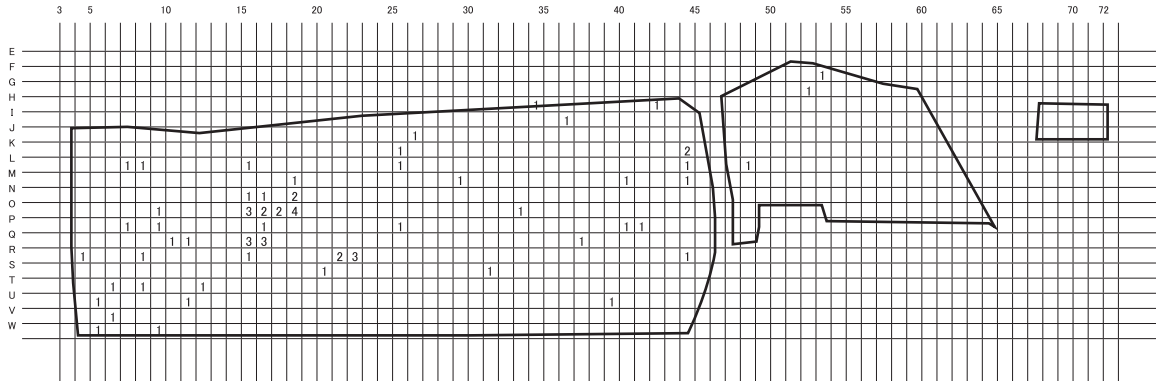
0 50m

図IV-8 包含層出土石器分布図(1)

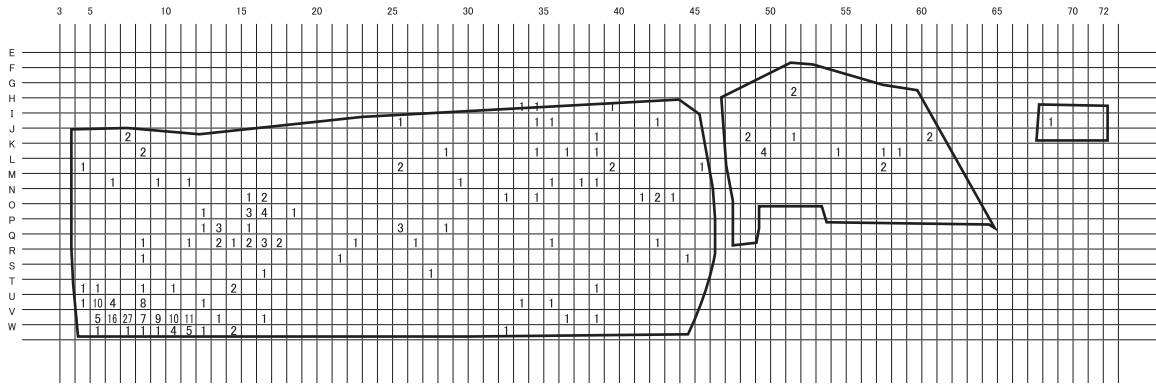


図IV-9 包含層出土石器分布図(2)

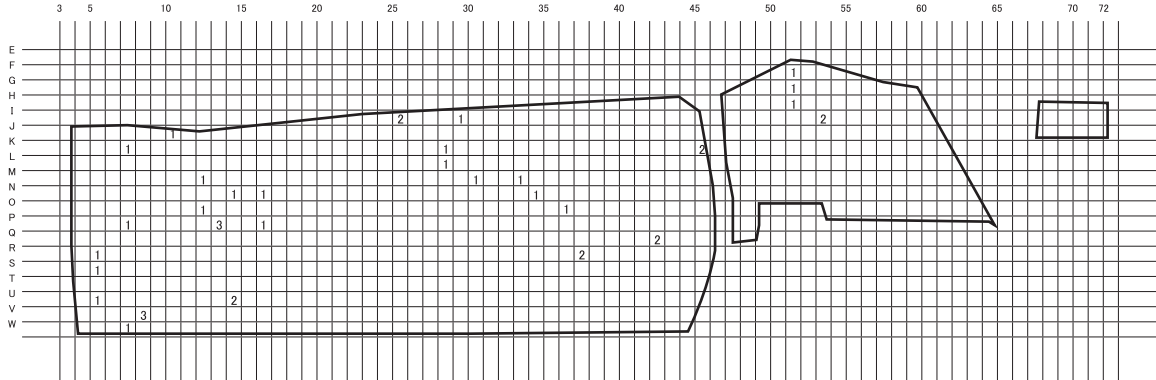
石斧



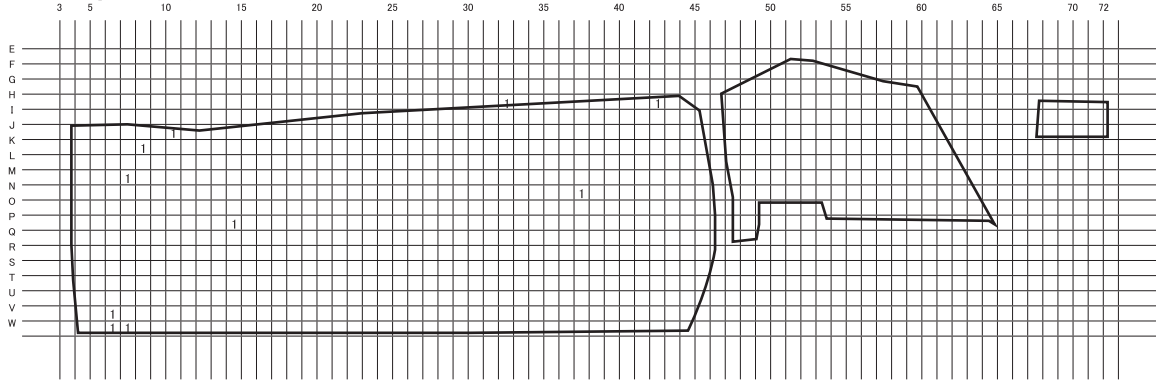
たたき石



すり石

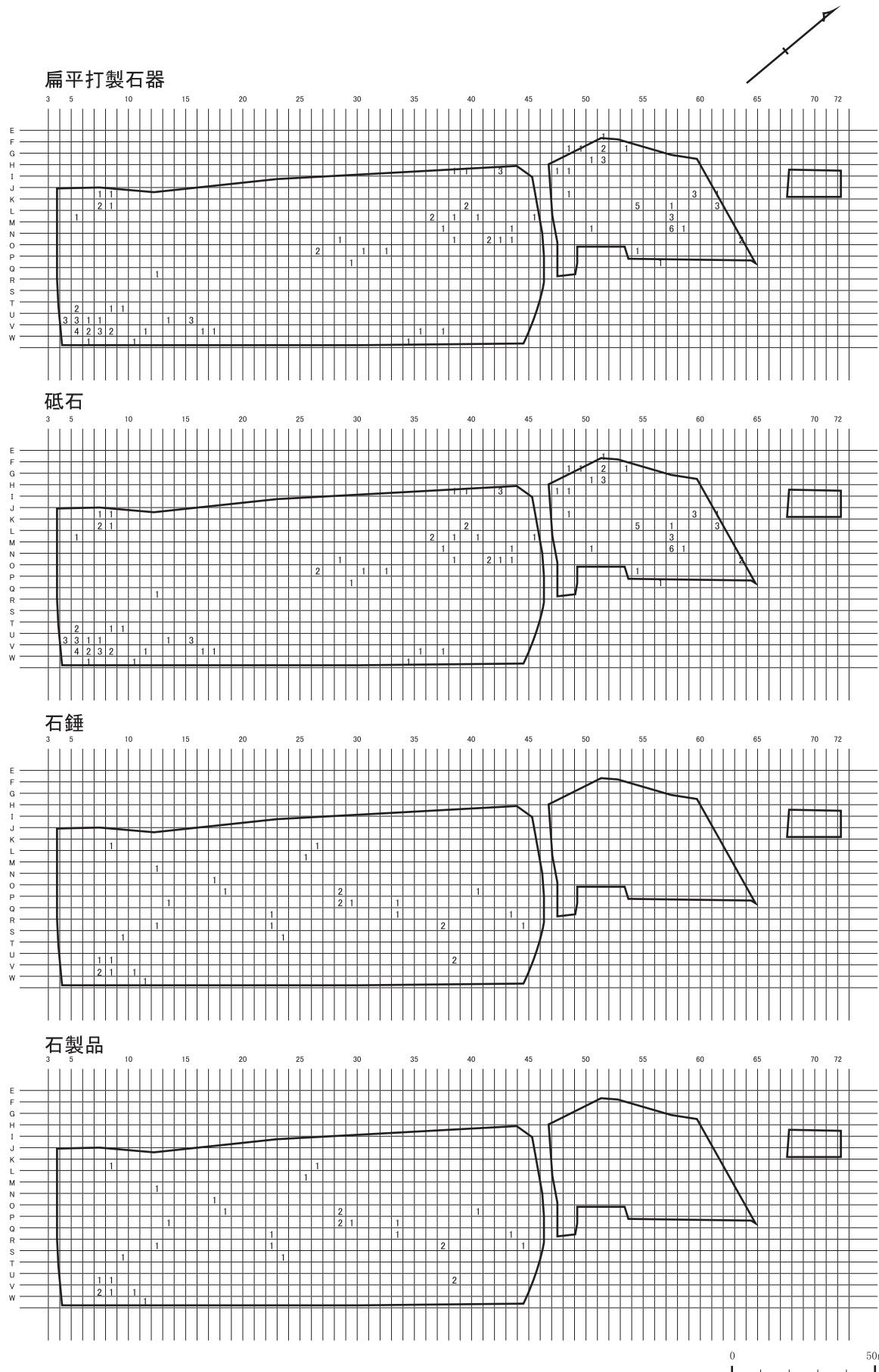


北海道式石冠

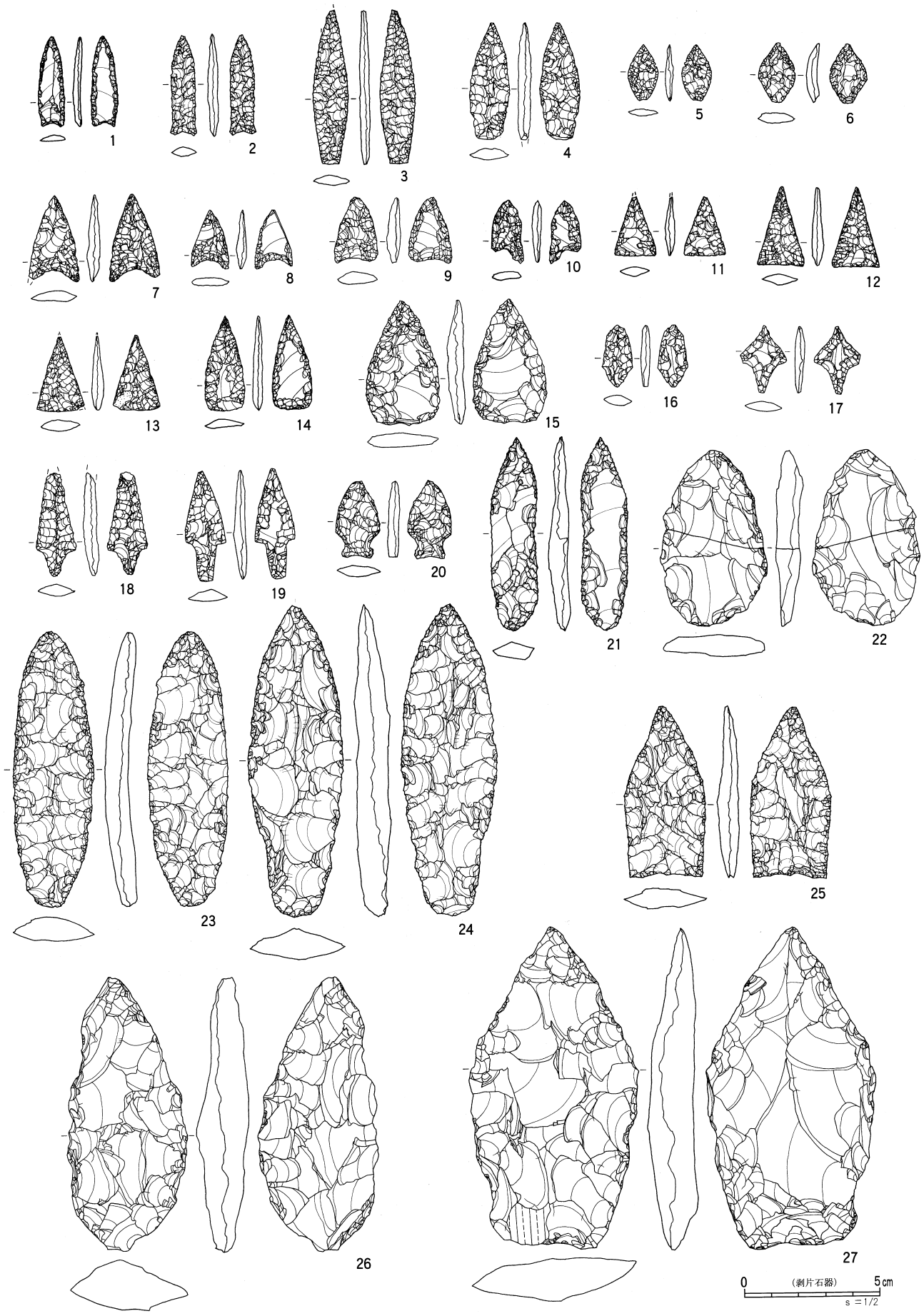


0 50m

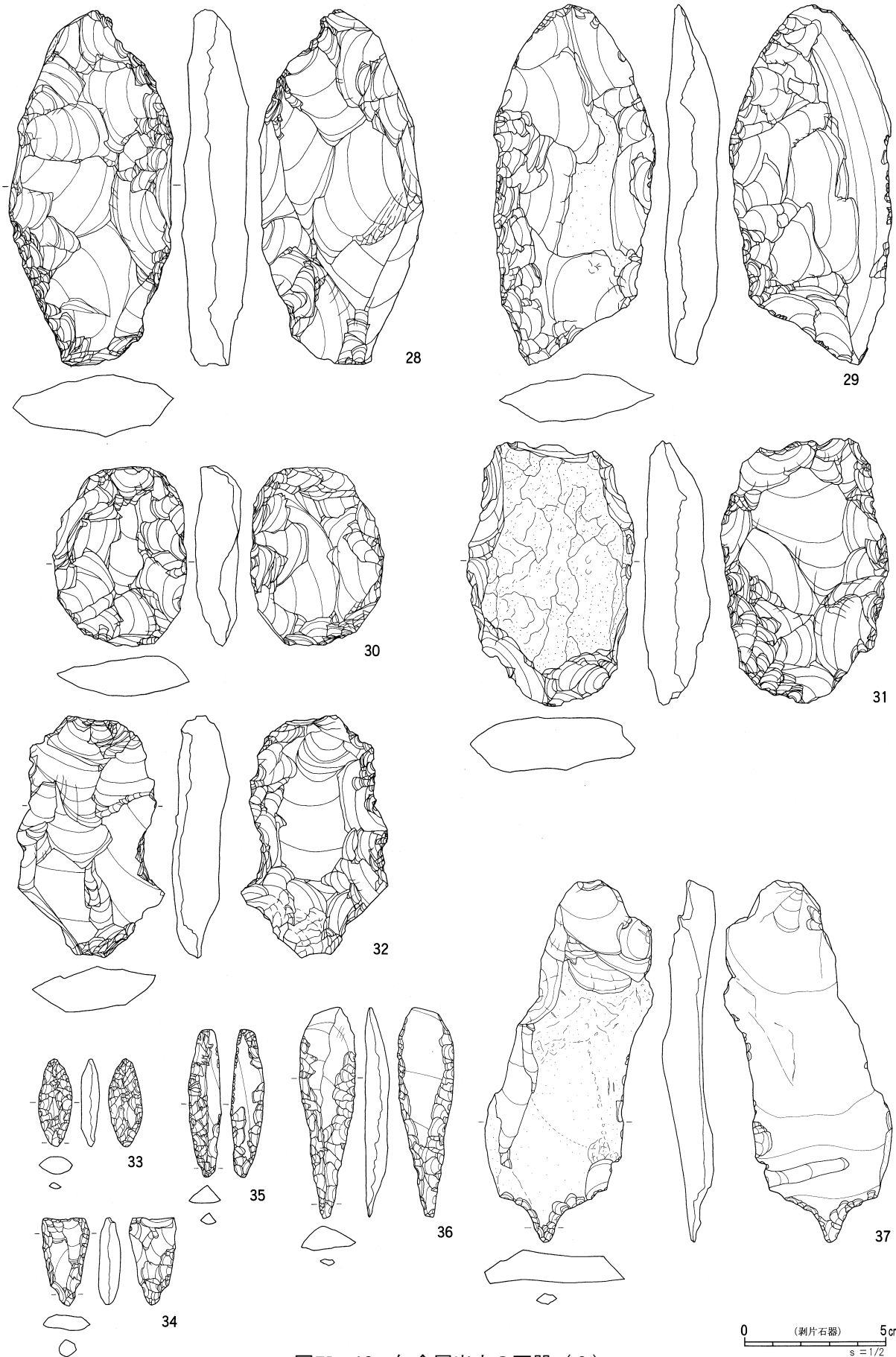
図IV-10 包含層出土石器分布図(3)



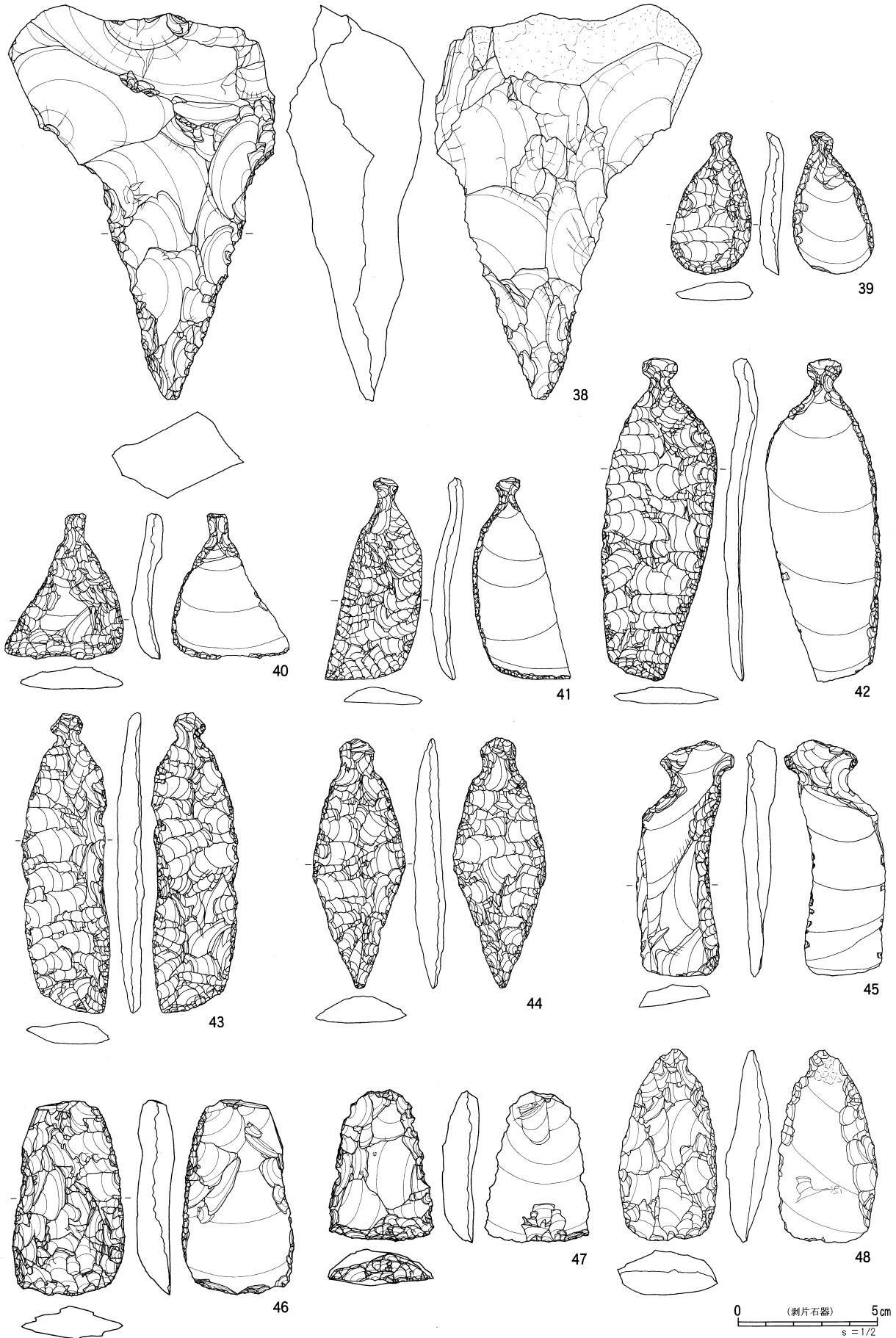
図IV-11 包含層出土石器分布図(4)



図IV-12 包含層出土の石器 (1)



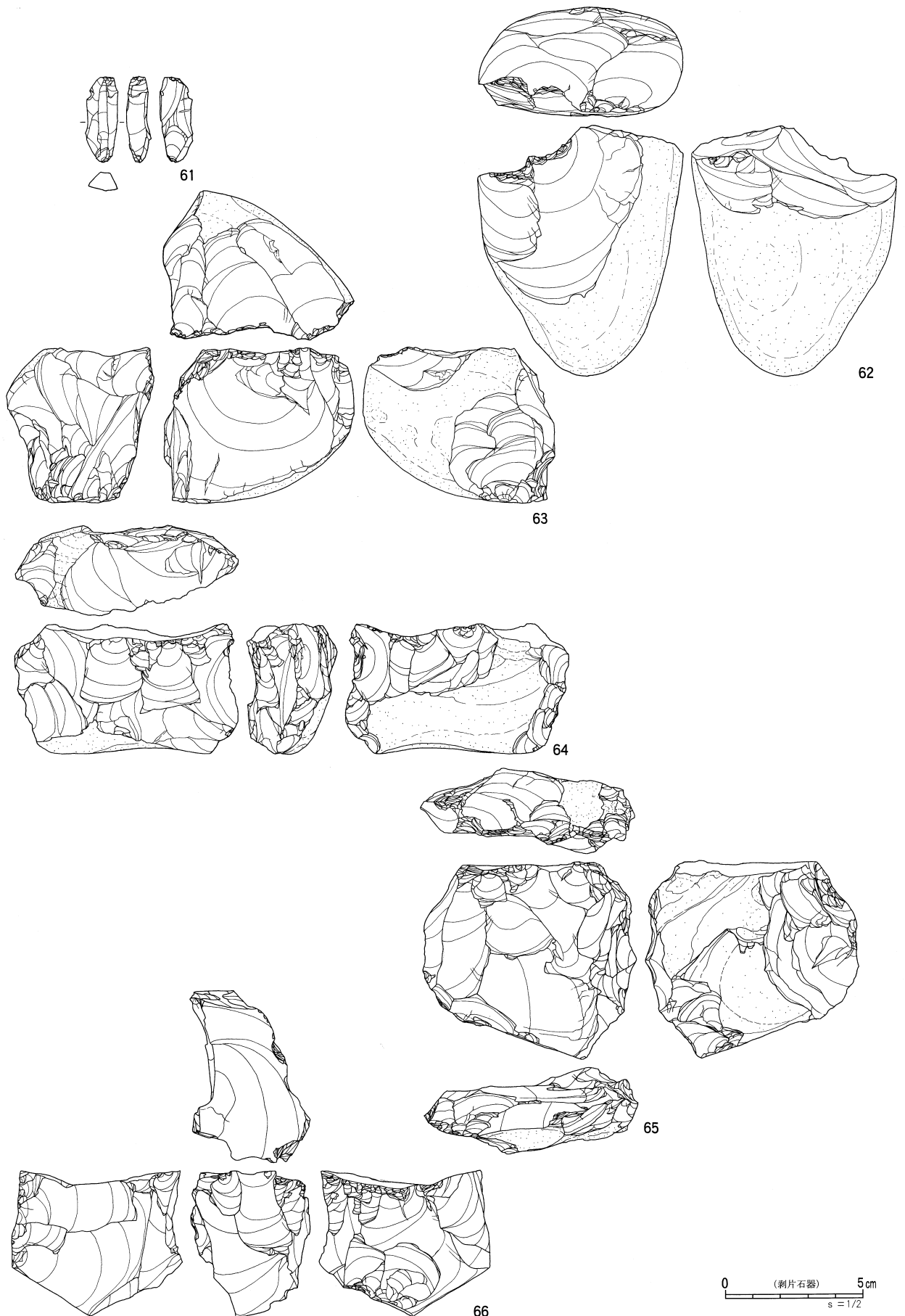
図IV-13 包含層出土の石器(2)



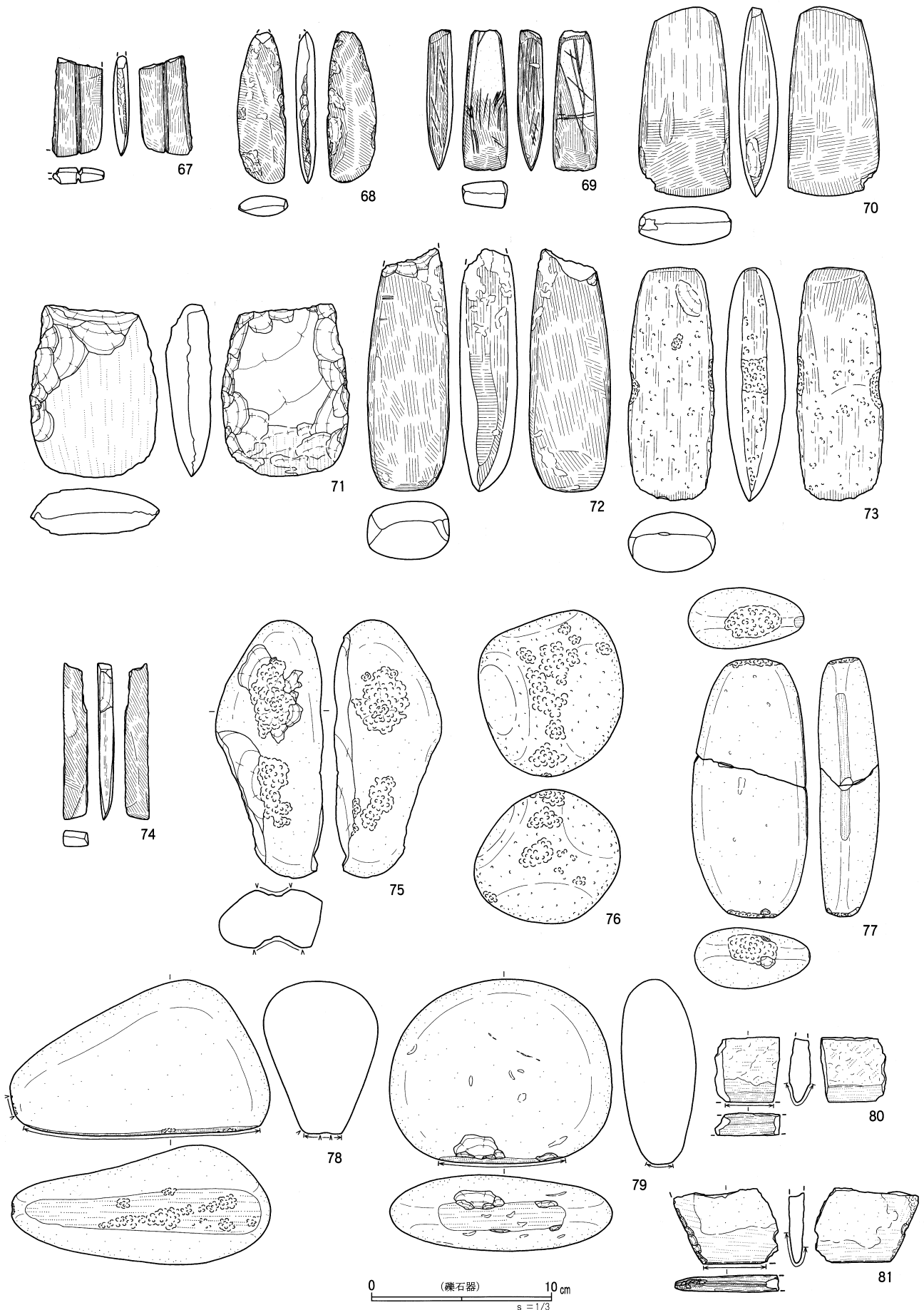
図IV-14 包含層出土の石器 (3)



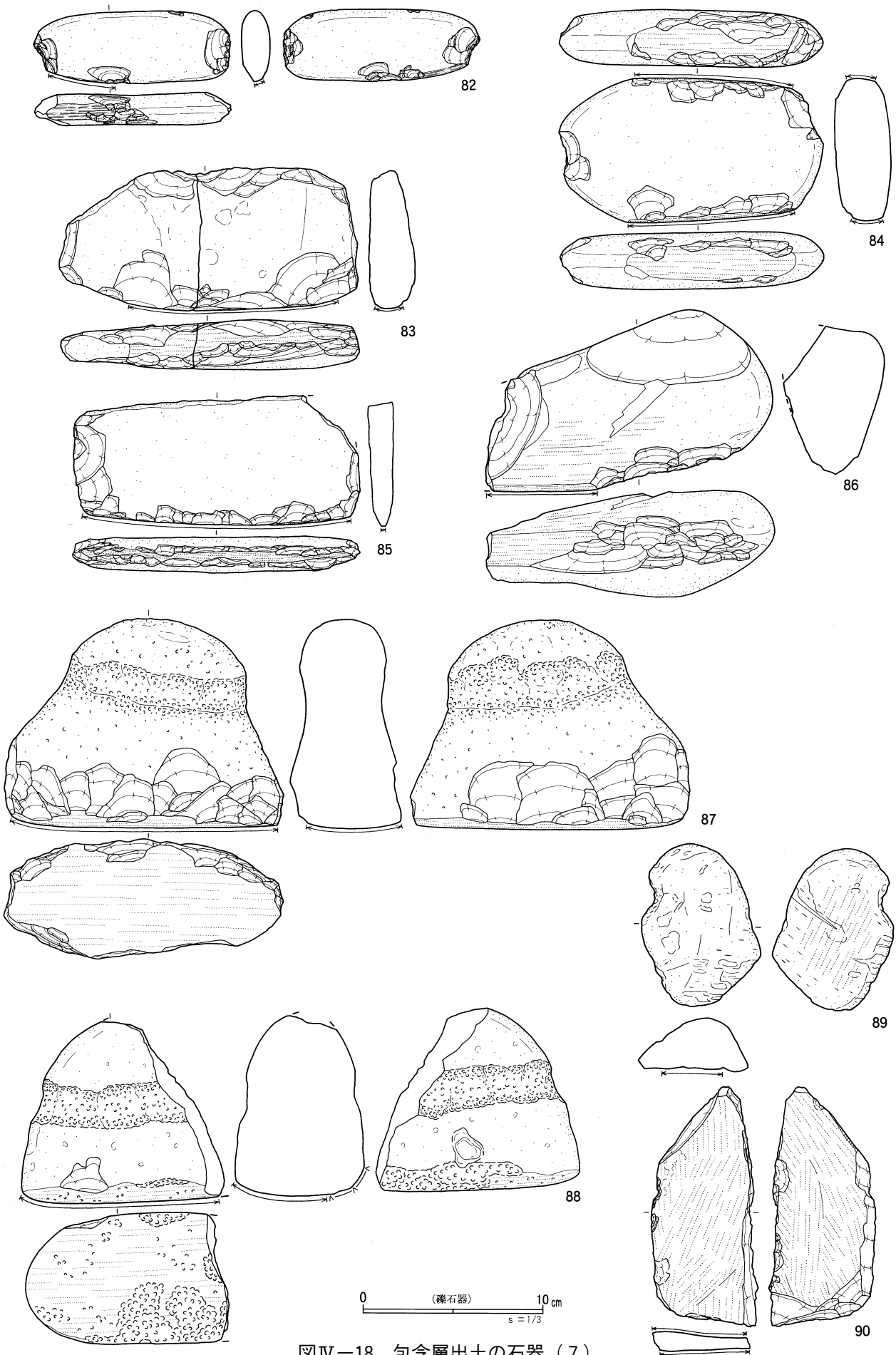
図IV-15 包含層出土の石器(4)



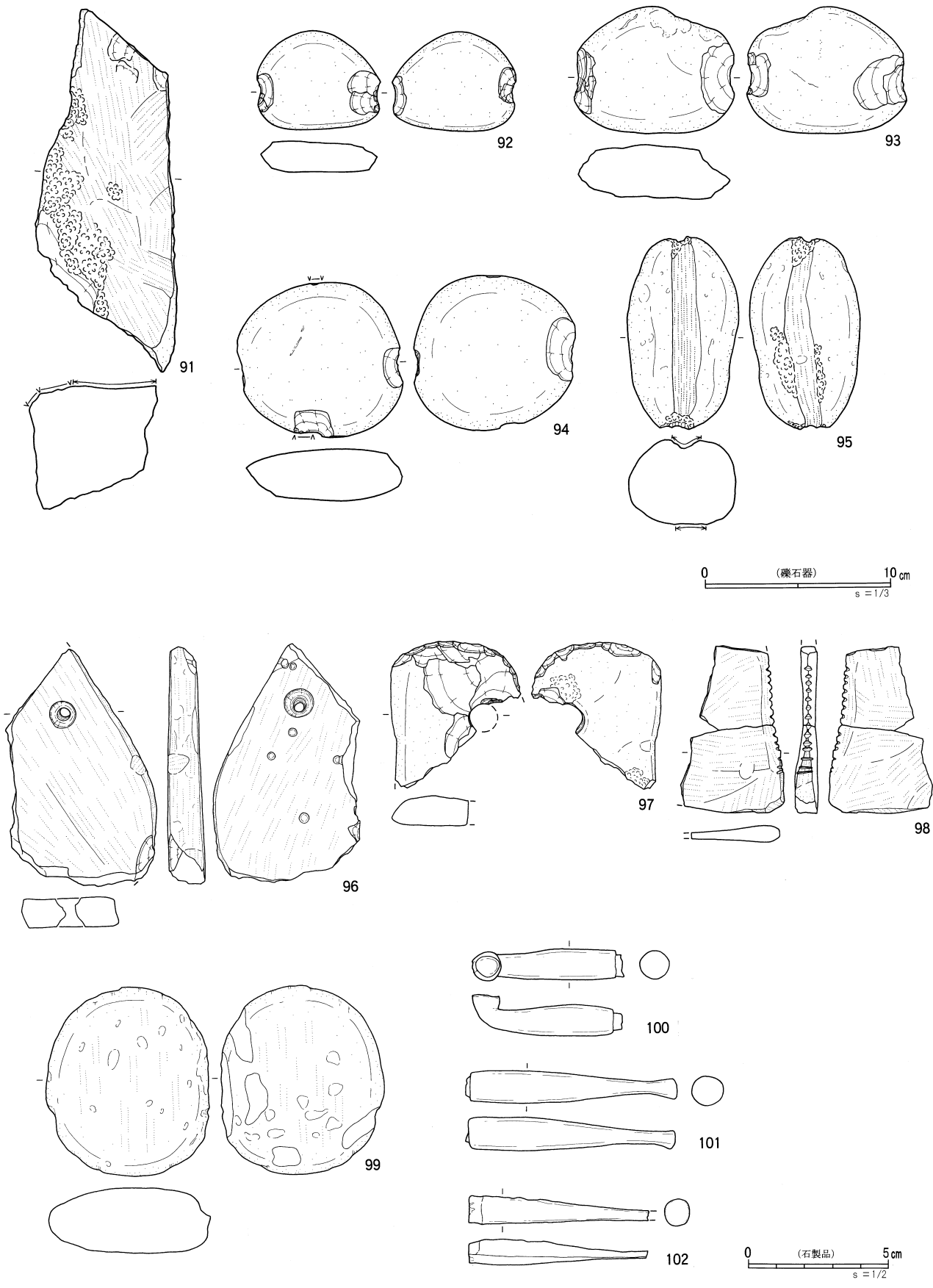
図IV-16 包含層出土の石器 (5)



図IV-17 包含層出土の石器 (6)



図IV-18 包含層出土の石器(7)



図IV-19 包含層出土の石器(8)・石製品・金属製品

45は縦長剥片の打瘤部につまみ部分が設けられる。

篋状石器（46～53）

篋状石器は17点出土した。46は長方形に近く、47～51は撥形となる。49は上端部、側縁、下端部とも急角度の加工がなされる。51はいわゆるトランシェ様石器で、刃部には原石面が残る。

52・53は小型の楕円形で、両面全面に二次加工が施される。

スクレイパー（54～60）

スクレイパーは857点出土した。調査区全域に分布するが、縄文時代早期の住居跡周辺やU・V・W-4～15の旧河道部近くにやや多く分布する傾向がある。スクレイパーは剥片の形状を変えず、側縁の一部に刃部がみられるものが多い。

54・57は下端部にラウンド状の急角度刃部がみられる。55は破損するが長方形に近い形状のもので、急角度の刃部が形成される。56は剥片長軸両端に抉りが入れられ、下端部に刃部がある。59は縦長剥片素材を利用する。右側縁は背面、腹面交互の調整により、鋸歯状となる。

楔形石器（61）

楔形石器は2点出土した。61は両端に刃潰れがみられ、断面は台形状となる。

石核（62～66）

石核は270点出土した。

62～64は円礫を素材とする。64は円礫を半割した面を打面とし、周囲を打ち欠いている。65は厚みがある剥片の周縁を剥離する。66は打面を変えながら、比較的縦長の剥片をとっている。

石斧（67～74）

石斧は45点出土した。

67・68・70は蛇紋岩製である。67は擦り切りにより、3つ以上の石のみを製作しようとしたもので、左側縁は折りとられている。68は右側縁が直線的で擦り切りの痕跡が残る。69は泥岩で、沈線状の条痕が全面にみられる。71は安山岩製である。原石面を残す破片を利用する。72は緑色泥岩製でいわゆる丸のみに近い形状となる。73は安山岩製で両側面中央には敲打により抉りが入れられる。74は小型で、両側縁には折れ面が残る。P-108などの土坑から同様のものが出土しているため、縄文時代早期後半期の遺物である可能性が高い。

たたき石（75～77）

たたき石は233点出土した。破損するものが多い。

75は両面に深いたたき痕が、2か所みられる。楕円素材を棒状に加工している。76は稜部に浅いたたき痕がある。77は長軸両端にたたき痕があるが、扁平打製石器の可能性はある。

すり石（78・79）

すり石は40点出土した。78・79は1稜部にすり痕が残る。78は断面三角形で、すり面には敲打痕が残る。

石鋸 (80・81)

2点出土した。80・81は小破片で、断面がV字状となる。

扁平打製石器 (82～86)

扁平打製石器は108点出土した。板状礫や扁平礫が利用される。

長軸両端に抉りがいれられるもの (82・84) がある。82は下端部がV字状に加工され、一部条痕状のすり痕が残る。85は上端が折れ面となる。86は断面三角形で稜部のすり面をV字状に再加工する。図正面や上部には条痕がみられる。

北海道式石冠 (87・88)

北海道式石冠は10点出土した。破損品が多く、87は唯一の完形品である。

砥石 (89～91)

砥石は48点出土した。板状礫の平面を利用するものが多い。

89は軽石製で1面が平坦なすり面となっている。90は板状礫の両面が擦られており、やや湾曲する部分もある。91はやや厚い素材で敲打後、1面が平滑に擦られている。

石錘 (92～95)

石錘は33点出土した。

92は出土中、最も小型のものである。94は3抉で、被熱し赤みを帯びる。95は安山岩製で、礫長軸に溝が巡るものである。

石製品 (96～99)

石製品は24点出土した。

96は板状の砥石に貫通孔があり、他にも浅い穿孔が6か所程穿たれている。右側面にはすり痕がある。平坦面両面には錆色の物質が付着する。97は破損するが、凝灰岩礫に穿孔の跡がみられるものである。98は凝灰岩製で、側縁にキザミが入れられ、鋸歯状となる。99は軽石を研磨し、円形に加工したものである。

3. 金属製品

金属製品は4点出土した。キセル3点、舟釘1点である。キセルについて図示した。

100～102は銅製のキセルである。100は雁首、101は吸い口で、W34区から出土した。いずれも内部には木質部が残る。102は吸い口部分で、先端が破損する。 (愛場)

表IV-1 掲載土器一覧(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	分類	部位	器種	色調	胎土	口唇・形態等/文様等/地文	内面	点数	備考 (器高×口径×底径)
IV-3	1	83	K45	Ⅲ	I a	胴部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4	砂粒	横位条痕文	横条痕	2	
IV-3	2	83	P16	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/4		縄文/隆帯・刺突文/多条 LR	横調整痕	13	
IV-3	3	83	Q16	Ⅲ	I b-1	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/4		刺突/隆帯・RL縄線文/多条 LR	縄文	2	
IV-3	4	83	Q16	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4		縄端圧痕文/刺突文/	横条痕	2	口縁やや外反
IV-3	5	83	Q16	Ⅲ	I b-1	口縁部	深鉢形	灰黄褐10YR 5/3		縄端圧痕文/RL縄線文・縄端圧痕文/		2	
IV-3	6	83	Q16	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/3	砂粒	LR/RL縄線文/LR	縄文・炭化物	1	
IV-3	7	83	O32	Ⅱ	I b-1	胴部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/3		/LR縄線文で三角形/		2	
IV-3	8	83	Q15	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/3		RL/条痕文/RL	条痕	3	
IV-3	9	83	M32	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	灰黄褐10YR 5/2		刺突文//擦余文?		2	
IV-3	10	83	M31	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	灰黄褐10YR 5/2		刺突文//擦余文?		1	
IV-3	11	83	J 9	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4		平縁/条痕文/RL	条痕文	28	
IV-3	12	83	O18	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/3		平縁//RL・RL羽状		12	II a?
IV-3	13	83	Q14	Ⅲ	I b-1	口縁部	深鉢形	にぶい褐7.5YR 5/4		多条 LR//多条 LR	縄文・横調整痕	4	
IV-3	14	84	N14 N15	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	にぶい褐7.5YR 5/5		多条 LR//多条 LR	LR	1 1	補修孔
IV-3	15	84	P16 P22	Ⅲ	I b-1	底部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/3		//胴部・底面 LR	指頭	1 3	
IV-4	16	84	Q22	Ⅱ	I b-1	口縁部	深鉢形	褐7.5YR 4/6		平縁/絡条体圧痕文/		2	口縁部肥厚・丸軸
IV-4	17	84	W 9	Ⅱ	I b-3	胴部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4		/貼付帯・RL縄線文/	炭化物	1	
IV-4	18	84	U32	Ⅱ	I b-4	胴部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4		/細かい絡条体圧痕文・段状/	爪跡	1	補修孔
IV-4	19	84	Q22	Ⅲ	I b-4	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/3		平縁/縄端圧痕文・絡条体圧痕文/	炭化物	1	
IV-4	20	84	Q42	Ⅱ	I b-4	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/3	砂粒	口唇尖る/擦余文・縄線文/		3	
IV-4	21	84	K37	Ⅲ	I b-4	口縁部	深鉢形	橙7.5YR 6/6		波状/魚骨回転文/縄文?	炭化物	3	
IV-4	22	84	O31	Ⅱ	I b-4	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4		口唇尖る/絡条体圧痕文・骨?による押引文・綾絡文		2	
IV-4	23	84	J 48	Ⅱ	I b-4	口縁部	深鉢形	橙7.5YR 6/6		/縄文・綾絡文/自縄自巻 R・L		10	
IV-4	24	84	P43	Ⅱ	I b-4	口縁部	深鉢形	灰黄褐10YR 5/2		//自縄自巻 R・L		2	焼成良
IV-4	25	84	P42	Ⅱ	I b-4	口~底	鉢形	浅黄橙10YR 8/4		/綾絡文/自縄自巻 R・L	条痕	2	
IV-4	26	84	J 48	Ⅱ	I b-4	口縁部	深鉢形	にぶい黄褐10YR 5/3		/絡条体/	調整痕	12	
IV-4	27	84	K37 L37 L37	Ⅱ Ⅱ Ⅲ	I b-4	口縁部	深鉢形	橙7.5YR 6/6		口唇尖る/刺突文・絡条体/		1 10 1	
IV-4	28	84	P44	Ⅱ	I b-4	底部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4		//自縄自巻 L		2	
IV-4	29	84	L 8	風倒木	Ⅱ a	胴部	深鉢形	黒褐10YR 3/2		//押引文曲線	炭化物	1	
IV-4	30	84	T33	Ⅱ	Ⅱ a	底部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/3		//絡条体		2	尖底
IV-4	31	84	S17	Ⅱ	Ⅱ a	底部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/4		不明		1	尖底
IV-5	32	83	N45	風倒木	Ⅱ b	口~底	深鉢形	にぶい橙7.5YR 6/4		やや波状/条痕文/擦余文・自縄自巻?	繊維	46	22.7×16.0×9.0
IV-5	33	83	I34	H-9掘り上げ土	Ⅱ b	胴~底部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/4		//擦余文・底部外面にも	縦ミガキ	81	(12.5)×(14.0)×10.0
IV-5	34	84	O25	Ⅱ	Ⅱ b	口縁部	深鉢形	にぶい黄褐10YR 5/3	繊維	平縁/不整綾絡文・貼付上指頭/ R擦余文	繊維	28	
IV-5	35	85	P25	Ⅱ	Ⅱ b	口縁部	深鉢形	にぶい橙7.5YR 6/4	繊維	平縁/縄文・不整綾絡文・貼付上指頭/ 多条 LR	繊維	6	
IV-5	36	85	E51	風倒木	Ⅱ b	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4		平縁/擦余文・綾絡文・貼付帯/ R擦余文	光沢	1	
IV-5	37	85	G51	Ⅱ	Ⅱ b	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/4		波状/縄線文変形/	良	1	
IV-5	38	85	H34	Ⅱ	Ⅱ b	口縁部	深鉢形	黒褐10YR 3/2		縦位貼付・縄線文/多輪絡条体回転文	黒光沢	6	
IV-5	39	85	N37	Ⅱ	Ⅱ b	口縁部	深鉢形	灰黄褐10YR 5/2		縦位貼付・縄線文/縄線文/擦余文	光沢	3	
IV-5	40	85	J 34	H-9掘り上げ土	Ⅱ b	底部	深鉢形	橙7.5YR 6/6		細いR擦余文/	ミガキ	11	
IV-5	41	85	U 7	Ⅲ	Ⅲ a	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/4		波状/ボタン状貼付・刺突文/複節		1	
IV-6	42	83	U 5	Ⅱ	Ⅳ a	口~底	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/3		突起?/縄線文/RL		7	7.3×8.3×4.4
IV-6	43	83	J 8 J 9	Ⅱ	Ⅳ a	胴~底部	深鉢形	灰黄褐10YR 6/2		//無文(ヘラ状工具縦調整痕)	調整痕	2 21	(14.3)×—×6.6
IV-6	44	85	O 9	Ⅲ	Ⅳ a	胴部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/4	砂粒	/貼付帯/RL羽状		1	
IV-6	45	85	V 7	Ⅱ	Ⅳ a	口縁部	壺形	にぶい褐7.5YR 6/4	石英・長石	平縁/縄線文・貼付上刺突文/RL	光沢	2	
IV-6	46	85	V 6	Ⅱ	Ⅳ a	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/3	石英・長石	平縁/沈線文/RL		1	
IV-6	47	85	L 8	I	Ⅳ a	口縁部	深鉢形	にぶい黄褐10YR 4/3		平縁/沈線文/無文		1	
IV-6	48	85	K 9	Ⅱ	Ⅳ a	口縁部	壺形	黒褐10YR 3/2		平縁/沈線文/RL	ひび割れ	1	
IV-6	49	85	J 8	Ⅱ	Ⅳ a	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4		平縁/沈線文(渦巻)/無節		8	
IV-6	50	85	L 9	Ⅱ	Ⅳ a	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/4		波状/弧状沈線文・磨り消し/RL	沈線・縄文	6	
IV-6	51	85	K 9	Ⅱ	Ⅳ a	胴部	深鉢形	黒褐10YR 3/2		/沈線文・磨り消し/RL		1	
IV-6	52	85	J 9	Ⅱ	Ⅳ a	口縁部	深鉢形	褐7.5YR 4/6		平縁/沈線文(鈍行)/無文	沈線	5	
IV-6	53	85	J 7	Ⅱ	Ⅳ a	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 7/4		/沈線文(雷)・磨り消し/無節		5	
IV-6	54	85	J 9 J 9 J 10	Ⅱ Ⅲ Ⅲ	Ⅳ a	口縁部	深鉢形	褐7.5YR 4/6		平縁/沈線文(乙)/磨り消し		3 2 1	
IV-6	55	86	J 9 J 10 J 10	Ⅱ Ⅲ Ⅲ	Ⅳ a	底部	深鉢形	褐7.5YR 4/6	石英・長石	//磨り消し		2 1 2 1	54と同一
IV-6	56	86	V 5	Ⅱ	Ⅳ a	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10YR 6/3		/沈線文・櫛状沈線/	炭化物	1	
IV-6	57	86	V 7	I	Ⅳ a	口縁部	深鉢形	灰白10YR 8/2		平縁/沈線文(雷)/LR		1	
IV-6	58	86	V 6	Ⅱ	Ⅳ a	底部	深鉢形	灰白10YR 8/2		57と同一の底部		1	

表IV-1 掲載土器一覧(2)

図	番号	図版	出土地点	層位	分類	部位	器種	色調	胎土	口唇・形態等/文様等/地文	内面	点数	備考 (器高×口径×底径)
IV-6	59	86	J 8	II	IV a	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10Y R 6/4		平縁/沈線文(波型)・磨り消し/L R		1	
IV-6	60	86	J 8	II	IV a	底部	深鉢形	にぶい黄橙10Y R 6/4		59と同一の底部		4	
IV-7	61	86	U 4 U 4	II III	IV a	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10Y R 7/4		平縁//L R横走		2 2	補修孔
IV-7	62	86	V 8	II	IV a	口縁部	深鉢形	黒褐10Y R 3/2		平縁//複節		2	
IV-7	63	86	T 5	II	IV a	口縁部	深鉢形	灰黄褐10Y R 6/2		平縁//無文	縦調整	2	
IV-7	64	86	J 9	II	IV a	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10Y R 7/4		小突起//無文	黒色	3	
IV-7	65	86	J 9	II	IV a	口縁部	深鉢形	橙7.5Y R 6/6		折り返し口縁//無文(磨り消し?)		7	
IV-7	66	86	L 9	III	IV a	底部	深鉢形	黒褐10Y R 3/2	砂粒・長石	//縄線文/R L		1	
IV-7	67	86	V 6	II	IV a	底部	深鉢形	にぶい黄橙10Y R 6/4	石英・長石	//L R	黒色	1	
IV-7	68	86	T 14	II	V	胴部	深鉢形	にぶい黄橙10Y R 7/3		//爪形文/L R		1	
IV-7	69	86	R 8	II	V	胴部	深鉢形	灰黄褐10Y R 6/2		//沈線文・三叉文/	黒色	2	補修孔
IV-7	70	86	K 27	II	V	口縁部	浅鉢形	にぶい黄橙10Y R 7/4		平縁/沈線文・瘤状貼付/L R縦位		4	
IV-7	71	86	P 29	II	V	口縁部	浅鉢形	灰黄褐10Y R 6/2		平縁/沈線文・瘤状貼付/L R縦位		1	摩耗
IV-7	72	86	K 27 K 27	I II	V	口縁部	鉢形	にぶい黄橙10Y R 7/2		平縁/沈線文/L R縦位	炭化物	5 15	
IV-7	73	86	V 13	II	V	口縁部	浅鉢形	にぶい黄橙10Y R 7/4		//刺突文・沈線文/L R縦位		1	
IV-7	74	86	V 32	II	V	口縁部	浅鉢形	灰白10Y R 8/2		平縁/沈線文/L R縦位		1	
IV-7	75	86	T 14	II	V	口縁部	深鉢形	にぶい黄橙10Y R 7/3	砂粒	小波状//L R		2	
IV-7	76	86	O 31	II	V	頸部	壺形	にぶい黄橙10Y R 7/3		//無文		2	
IV-7	77	86	O 12	II	VII	口縁部	甕	浅黄橙10Y R 8/3	砂粒	//ハケメ		1	
IV-7	78	86	V 9	II	VII	口縁部	甕	にぶい黄橙10Y R 6/4	砂粒	//ハケメ		1	
IV-7	79	86	L 49	II	I b-4	胴部	土製品	橙7.5Y R 6/6		再生土製品・縹織文		1	
IV-7	80	86	Q 21	II	I b-1	胴部	土製円盤	浅黄橙10Y R 8/4		再生土製円盤・摺糸文		1	
IV-7	81	86	P 21	III	III	胴部	土製円盤	橙7.5Y R 6/6		再生土製円盤・結束羽状		1	
IV-7	82	86	J 49	II	I b-4	胴部	土製円盤	にぶい黄橙10Y R 7/2		再生土製円盤未成品		1	
IV-7	83	86	M 9	III	III	胴部	土器片錘	にぶい黄橙10Y R 7/4		土器片錘		1	

表Ⅳ-2 包含層出土掲載石器一覧(1)

図番号	番号	図版	器種名	遺構/発掘区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
IV-12	1	87	石刃鏃	Q17	Ⅱ	頁岩	3.4	1.0	0.3	0.95	
IV-12	2	87	石鏃	P15	Ⅲ	黒曜石	3.7	1.0	0.4	1.15	赤井川
IV-12	3	87	石鏃	I30	I	頁岩	(5.7)	1.3	0.4	2.58	
IV-12	4	87	石鏃	R21	Ⅱ	頁岩	4.3	1.5	0.5	2.78	
IV-12	5	87	石鏃	I53	Ⅱ	黒曜石	2.1	1.1	0.3	0.41	赤井川
IV-12	6	87	石鏃	Q9	Ⅲ	黒曜石	2.2	1.4	0.4	1.01	
IV-12	7	87	石鏃	P19	Ⅱ	頁岩	3.2	1.9	0.5	1.89	
IV-12	8	87	石鏃	R17	Ⅱ	頁岩	2.2	1.4	0.4	0.8	
IV-12	9	87	石鏃	P6	Ⅲ	頁岩	2.5	1.6	0.5	1.67	
IV-12	10	87	石鏃	V17	Ⅱ	黒曜石	2.3	1.2	0.3	0.69	
IV-12	11	87	石鏃	K24	Ⅲ	頁岩	(2.2)	1.5	0.4	0.83	
IV-12	12	87	石鏃	U39	Ⅱ	頁岩	2.9	1.7	0.4	1.14	
IV-12	13	87	石鏃	R35	Ⅱ	頁岩	2.8	1.8	0.3	1.38	
IV-12	14	87	石鏃	O26	Ⅱ	頁岩	3.5	1.5	0.4	1.58	
IV-12	15	87	石鏃	T45	Ⅱ	頁岩	4.6	2.8	0.6	6.91	
IV-12	16	87	石鏃	H39	Ⅱ	頁岩	2.3	1.1	0.4	0.84	
IV-12	17	87	石鏃	U9	Ⅱ	頁岩	2.5	1.7	0.4	0.86	
IV-12	18	87	石鏃	M40	Ⅱ	頁岩	3.3	1.5	0.6	2.03	アスファルト付着
IV-12	19	87	石鏃	M28	Ⅱ	頁岩	4.1	1.5	0.5	1.81	
IV-12	20	87	石鏃	J48	Ⅱ	黒曜石	2.8	1.7	0.4	1.75	
IV-12	21	87	石槍またはナイフ	M24	Ⅱ	頁岩	7.2	1.5	0.8	8.96	
IV-12	22	87	石槍またはナイフ	K33	Ⅱ	頁岩	6.5	4.0	1.1	23.6	
IV-12	23	87	石槍またはナイフ	V8	Ⅱ	頁岩	10.1	3.0	0.9	29.6	
IV-12	24	87	石槍またはナイフ	N44	Ⅱ	頁岩	11.4	3.5	1.3	44.7	
IV-12	25	87	石槍またはナイフ	R21	Ⅱ	頁岩	6.3	3.0	0.8	12.6	
IV-12	26	87	石槍またはナイフ	J7	Ⅱ	頁岩	10.1	4.5	2.0	69.3	
IV-12	27	87	石槍またはナイフ	K15	I	頁岩	11.9	6.4	1.9	123.6	
IV-13	28	87	両面調整石器	K8	Ⅱ	頁岩	12.8	5.8	1.9	138.01	
IV-13	29	87	両面調整石器	N32	Ⅱ	頁岩	12.6	5.9	2.4	171.4	
IV-13	30	87	両面調整石器	V9	Ⅱ	頁岩	6.4	4.8	1.7	54.5	
IV-13	31	87	両面調整石器	O8	Ⅱ	頁岩	9.4	6.0	2.0	133.53	
IV-13	32	87	両面調整石器	U8	Ⅱ	頁岩	8.6	5.2	2.1	76.28	
IV-13	33	88	石鏃	P40	Ⅱ	頁岩	3.1	1.2	0.7	2.36	
IV-13	34	88	石鏃	O33	Ⅱ	頁岩	3.1	1.7	0.7	3.28	
IV-13	35	88	石鏃	S20	Ⅱ	頁岩	5.2	1.2	0.8	4.24	
IV-13	36	88	石鏃	O18	Ⅱ	頁岩	7.5	2.0	0.9	9.82	
IV-13	37	88	石鏃	V6	Ⅱ	頁岩	12.9	6.0	1.9	87.1	
IV-14	38	88	石鏃	V5	Ⅱ	頁岩	14.2	9.6	4.9	360	
IV-14	39	88	つまみ付きナイフ	J40	Ⅱ	頁岩	5.1	2.9	0.9	10.68	
IV-14	40	88	つまみ付きナイフ	M50	Ⅱ	頁岩	5.2	4.2	1.1	11.98	
IV-14	41	88	つまみ付きナイフ	P8	Ⅱ	頁岩	7.3	3.5	1.2	13.36	
IV-14	42	88	つまみ付きナイフ	K49	Ⅱ	頁岩	11.6	4.2	1.3	29.52	
IV-14	43	88	つまみ付きナイフ	J34	Ⅱ	頁岩	10.8	3.2	1.0	30.03	
IV-14	44	88	つまみ付きナイフ	G52	Ⅱ	頁岩	9.0	3.4	1.2	24.49	
IV-14	45	88	つまみ付きナイフ	P25	Ⅱ	頁岩	8.5	3.6	1.2	21.61	
IV-14	46	88	籠状石器	R8	Ⅲ	頁岩	7.0	4.1	1.4	39.3	
IV-14	47	88	籠状石器	V8	Ⅱ	頁岩	5.4	3.8	1.3	26.9	
IV-14	48	88	籠状石器	R12	I	頁岩	6.9	3.5	1.6	32.6	
IV-15	49	88	籠状石器	P16	Ⅱ	頁岩	8.6	5.1	1.6	74.8	
IV-15	50	88	籠状石器	P15	Ⅱ	頁岩	7.5	6.5	1.7	46.9	
IV-15	51	88	籠状石器	M44	Ⅱ	頁岩	6.5	5.1	1.6	47.86	
IV-15	52	88	籠状石器	L37	Ⅱ	頁岩	2.1	3.0	0.7	4.39	
IV-15	53	88	籠状石器	M43	Ⅱ	頁岩	3.9	2.2	0.8	7.83	
IV-15	54	88	スクレイパー	K58	Ⅱ	頁岩	4.0	1.8	0.9	5.5	
IV-15	55	88	スクレイパー	R44	Ⅱ	頁岩	7.8	5.9	1.5	58	
IV-15	56	88	スクレイパー	M40	Ⅱ	頁岩	4.9	7.7	0.8	22.4	
IV-15	57	89	スクレイパー	W9	Ⅱ	頁岩	5.2	4.2	2.2	32.1	
IV-15	58	89	スクレイパー	V9	Ⅱ	頁岩	10.4	3.8	1.4	49.41	
IV-15	59	89	スクレイパー	R15	Ⅱ	頁岩	11.2	4.1	1.7	42.91	
IV-15	60	89	スクレイパー	N17	Ⅱ	頁岩	3.7	6.3	2.3	55.93	
IV-16	61	89	楔形石器	O17	Ⅱ	頁岩	3.1	1.2	0.9	2.69	
IV-16	62	89	石核	V5	Ⅱ	頁岩	9.1	7.5	4.0	300	
IV-16	63	89	石核	V16	Ⅱ	頁岩	5.7	7.0	5.4	224.57	
IV-16	64	89	石核	Q44	Ⅱ	頁岩	4.7	8.2	3.3	145.13	
IV-16	65	89	石核	P13	Ⅱ	頁岩	7.2	7.8	3.2	162.77	
IV-16	66	89	石核	J8	Ⅱ	頁岩	5.3	4.4	6.2	122.32	
IV-17	67	89	石斧	U13	I	蛇紋岩	(5.5)	2.9	0.8	21.8	擦り切り
IV-17	68	89	石斧	N16	Ⅲ	蛇紋岩	8.4	2.8	1.1	35.6	
IV-17	69	89	石斧	O40	Ⅱ	頁岩	7.8	2.5	1.5	37.2	線刻
IV-17	70	89	石斧	J36	Ⅱ	蛇紋岩	10.5	5.1	2.1	175.3	
IV-17	71	89	石斧	J25	Ⅱ	安山岩	(5.5)	2.9	10.8	210.8	
IV-17	72	89	石斧	U4	Ⅱ	安山岩	(13.4)	4.5	3.2	355	
IV-17	73	89	石斧	U38	Ⅱ	安山岩	12.9	4.8	3.3	340	
IV-17	74	89	石斧	O17	Ⅱ	頁岩	8.6	1.4	0.9	12.9	
IV-17	75	89	たたき石	N43	Ⅱ	頁岩	14.2	6.0	3.5	300	
IV-17	76	89	たたき石	J60	Ⅱ	砂岩	14.3	6.4	3.4	460	
IV-17	77	89	たたき石	U8	Ⅱ	安山岩	9.2	8.0	7.4	700	
IV-17	78	89	すり石	P7	Ⅱ	安山岩	8.6	14.3	6.6	860	
IV-17	79	89	すり石	O36	Ⅱ	安山岩	10.2	12.3	4.2	800	
IV-17	80	89	石鏃	I36	H-9掘り上げ土	安山岩	3.6	3.6	1.3	27.1	
IV-17	81	89	石鏃	N41	Ⅱ	安山岩	(4.1)	(5.8)	1.0	30.9	
IV-18	82	90	扁平打製石器	H38	Ⅱ	頁岩	4.0	10.9	1.8	101.2	
IV-18	83	90	扁平打製石器	G51	Ⅱ	安山岩	7.9	16.5	2.8	500	
IV-18	84	90	扁平打製石器	H47	I	安山岩	8.0	14.6	3.2	600	
IV-18	85	90	扁平打製石器	V5	Ⅱ	安山岩	7.2	15.9	2.1	310	

表IV-2 包含層出土掲載石器一覧(2)

図番号	番号	図版	器種名	遺構/発掘区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
IV-18	86	90	扁平打製石器	V 7	II	凝灰岩	9.9	(16.0)	5.9	890	
IV-18	87	90	北海道式石冠	H32	II	安山岩	11.6	15.5	7.6	1490	
IV-18	88	90	北海道式石冠	M 7	II	安山岩	(10.0)	(11.3)	7.3	1100	
IV-18	89	90	砥石	V 5	III	軽石	9.0	6.7	3.0	19.9	
IV-18	90	90	砥石	K 7	II	凝灰岩	13.2	5.9	1.1	100.6	
IV-19	91	90	砥石	K24	III	凝灰岩	19.2	7.8	7.4	995	
IV-19	92	90	石錘	R22	II	砂岩	5.3	6.7	1.7	90.9	
IV-19	93	90	石錘	O28	II	珪岩	6.8	8.6	2.9	231.3	
IV-19	94	90	石錘	W11	II	安山岩	8.3	8.8	2.9	340	
IV-19	95	90	石錘	N17	II	安山岩	10.3	6.0	4.6	400	
IV-19	96	90	石製品	N17	II	砂岩	8.5	5.4	1.3	61.6	有孔
IV-19	97	90	石製品	O19	III	泥岩	5.3	4.7	1.1	19.9	有孔
IV-19	98	90	石製品	N16・P15	II・III	凝灰岩	6.0	3.8	0.8	14.9	
IV-19	99	90	石製品	H42	II	軽石	6.8	5.9	2.4	29.5	
IV-19	100	90	キセル	W34	I	銅製品	5.6	1.1	1.5	12.45	雁首
IV-19	101	90	キセル	W34	I	銅製品	7.6	1.3	1.5	15.83	吸口
IV-19	102	90	キセル	M18	I	銅製品	6.5	1.1	0.9	2.51	吸口

V章 まとめ

1. 遺構について

縄文時代早期後半（I群b-1類）の竪穴住居跡は、6軒（H-1・3・13・19~21）検出した。

平面形は、H-3が不整の楕円形、H-13が不整形である以外、円形となる。大きさは、H-3が長径9m程で、円形のもの直径3~7m程とばらつきがみられる。いずれも炉跡はないが、H-20では、床面ほぼ中央に窪んでやや硬くなる面がある。柱穴は、H-1・20で住居中央付近を巡る太いものと、北側壁際の細いものがみられた。また壁際に周溝を持つもの（H-1・20・21）がある。

H-1・20・21では、剥片石器が多量に出土し、特にH-20では石核や不定形剥片の接合資料が得られた。頁岩原石を持ち込み、石器の製作をおこなっていた跡と考えられる。P-108出土のスクレイパーと接合する例があるため、同時期の土坑であると考えられる。

縄文時代前期後半の竪穴住居跡は、13軒（H-7~12・22~26・28・29）検出した。

平面形は円形・楕円形で、大きさは4m未満~10m以上である。楕円形のもの大きい傾向がある。柱穴は主柱穴4本（H-7・10・11・23・29）と、6本以上（H-8・9・22）のものがあり、柱の位置から、建て替えが想定されるもの（H-7・23）もある。炉跡は、掘り込みを伴うもの（H-8・9・11?・22・23?）が多く、中央もしくは長軸上に設置される。付属遺構は、ベンチ構造（H-11・25）、周溝（H-8・22・23）、砂ピット（H-29）などがみられる。時期は円筒土器下層b~d1式で、放射性年代測定や床面出土土器から、H-8・22が古く、H-7・23・24・29があり、H-25・9・11が新しいと考えられる。

縄文時代後期前葉の竪穴住居跡は、6軒（H-4・6・14・15・17・18）検出した。

平面形は円形が多く、H-18のみ六角形に近い形状となる。大きさはすべて4m未満で、3mをきるものもある。炉跡はすべてで確認され、H-4・15以外は、中心より南東壁側の床面に、石組炉がある。H-14では、壁際にほぼ全周する周溝と出入口構造がみられた。

土坑は153基検出した。平面形が円形・不整形で、長径が30cm~1m未満となるものが122基あり、このうち半数近くは、断面形がフラスコ状になる。これらの土坑は調査区4~10ライン、30~32ライン、37~55ラインなどに集中する傾向がある。時期は出土遺物から4~10ラインは縄文時代前期後半・後期前葉、30~55ラインは縄文時代早期後半（東釧路IV式土器期）の可能性がある。

直径1m以上の土坑は31基で、平面形は楕円形・不整形となる。遺物を伴うものが多く、特に縄文時代早期後半（I群b-1類P-104・105・108・113）の土坑からは、土器やフレイクを中心に遺物が多く出土した。このほかに縄文時代早期後半（中茶路式P-102）、縄文時代前期前半（P-100・107）、縄文時代前期後半（P-58~61・89・99）、縄文時代後期前葉（P-11・19）の土坑がある。

また近世期以降の土坑墓（P-12）が1基あり、人骨が検出している。

溝状遺構は、溝底面に柱穴があることから、木柵設置のための布掘り跡と考える。時期はB-Tm降下（10世紀）以前で、溝覆土の炭化材の放射性炭素年代測定では、8世紀中~9世紀初頭という結果がでた。柱穴がみられる範囲は27m中、西側の6m程で、それ以外は底面に鋤と思われる工具痕が残るのみである。柵は溝すべてに設置されていない可能性がある。

柱穴を有する溝状遺構は、道内では類例がないが、北東北地方では多く、集落を区画する柵跡と考えられている。年代は9~11世紀である。青森県向田（35）遺跡報告書でまとめられた県内例では、青森市細越遺跡、野木遺跡、朝日山（2）遺跡、鯉ヶ沢町空沢遺跡、深浦町蘆野遺跡、浪岡町羽黒平

(1) 遺跡、野辺地町向田 (35) 遺跡がある。

本遺跡では、擦文文化期の竪穴住居跡 2 軒 (8 世紀末・放射性年代測定では 7 世紀中～8 世紀) を検出したが、溝状遺構とは 80m 程西へ離れて所在する。放射性年代測定での年代のずれもあり、溝状遺構と竪穴住居跡の関連は不明である。

2. 遺物について

縄文時代早期後半の I 群 b-1 類土器が、H-20・21、P-104・105・108・113 などから、まとめて出土した。遺構出土の土器について、文様ごとの集成図を作成した (図 V-1)。

以下特徴を述べる。

器形：口径と底部の差が大きい深鉢を基本とし、鉢形土器、小型鉢形土器 (H-20・91) がある。口縁は平縁であるが、P-105・74 のように波状になるものもある。口唇断面形状は角型が多く、ほかに外側にやや肥厚するもの、丸型などがある。器壁は凹凸があり、P-108・79 など全体にゆがむものがある。底部は小型で、外側にやや張り出す。底部外面の周縁には貼付帯を巡らし、やや上げ底としている。底部外面には縄文が施され、内面には指頭圧痕がみられる例がある。

内面：内面はササラ状工具による横位調整、指頭によるナデ調整がみられる。また口縁付近に縄文を施す例も多い。明瞭な貝殻条痕があるものはない。

胎土：比較的緻密で、砂粒が混じるものが多い。色調は、にぶい黄橙色、にぶい橙色などがある

文様：貼付文、縄線文、縄端圧痕文、縄端回転文、刺突文、綾絡文、縄文がみられる。

貼付帯があるものは、P-108・81 のみである。貼付上には縄の側面圧痕が縦位に施されている。

縄線文は横位、斜位、波形に施文され、これに縄端圧痕文を加えて、文様帯を構成する。このほか円弧を組み合わせた文様 (P-108・87、P-113・97)、平組紐の圧痕文 (P-108・88) などがみられる。文様は無文地に施文されるものが多い。

縄端回転文は H-20・82 の復原土器にみられたもので、無節原体の縄端側面を横位回転させ、円弧状の文様を連続させるものである。

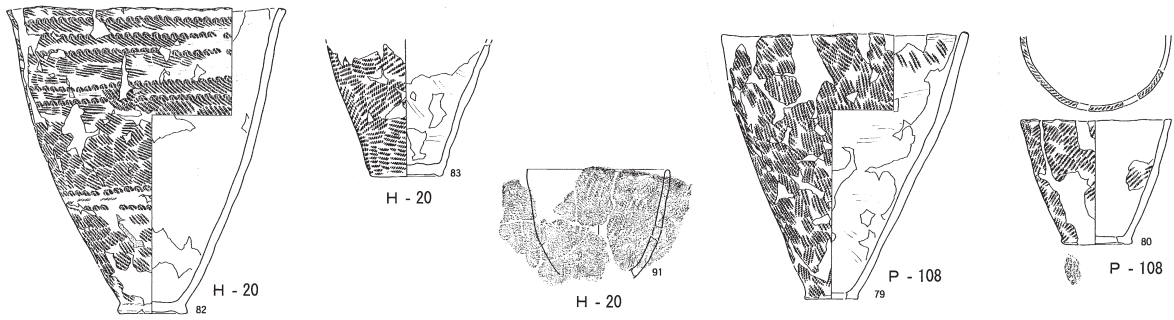
綾絡文は縄文地に横位に施されるもので、数条を 1 セットにして帯状になるものや、綾絡文のみみられる破片もある。

縄文は狭い幅での斜行縄文が主体的である。施文の向きを変え、切り合う例も多い。また縄端を意識して施文し、端部に段差ができるものがある (P-105・74)。原体は LR・RL で、0 段多条となるものが多い。また無節の原体も使用される。

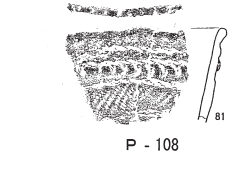
上記の土器群は、道内では函館市中野 B 遺跡 (I 群 F 類土器)、松前町高野遺跡 (IV 群土器)、長万部町オバルベツ 2 遺跡出土土器などに類似し、道外では青森県表館 VI 群土器と類する。中野 B 遺跡 I 群 F 類は赤御堂式に後続し、東釧路 II 式に相当するものと考えられている (熊谷 北埋 97・富永 2004)。

道南地方では、この時期、折り返し口縁や貼付、内面条痕を特徴とする仮称「西桔梗式」土器があり、長万部町富野 3 遺跡などで、赤御堂式土器との共伴が知られる。本土器群は、それに後続するもので、東釧路 II 式相当の土器の一例と考えられる。

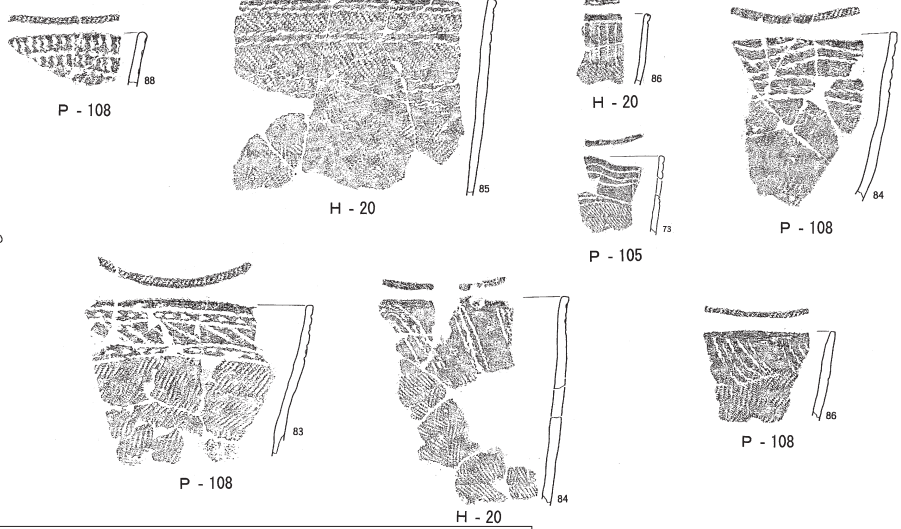
復原土器



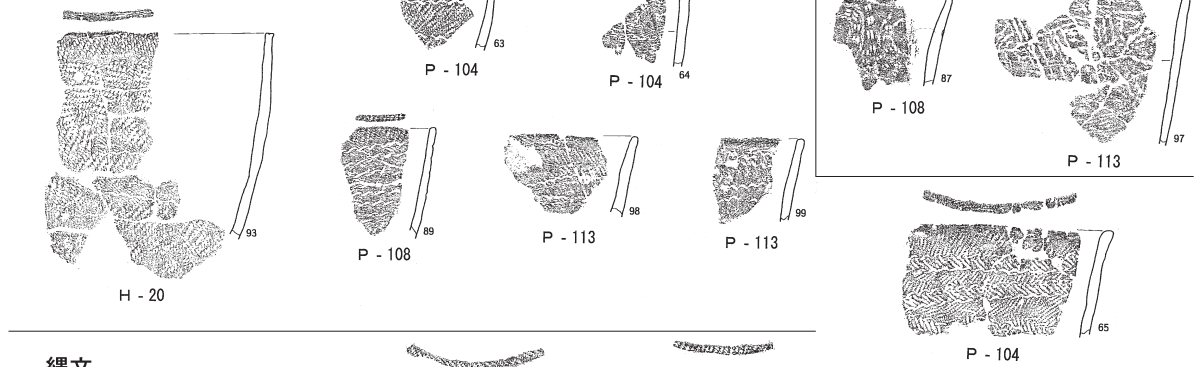
貼付文



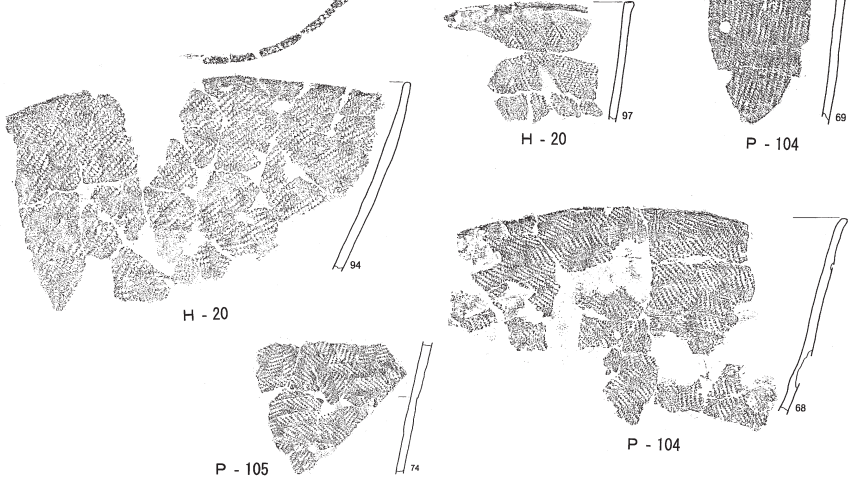
縄線文



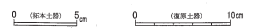
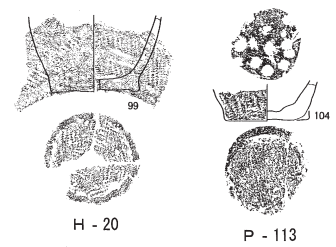
綾絡文



縄文



底部



図V-1 遺構出土のI群b-1類土器集成

3. 自然科学的分析結果の評価について

(1) 黒曜石原産地同定(付篇1)

10点の試料中、6点が赤井川産と同定された(表V-1)。他に赤石山Ⅲ、置戸が1点である。残りのうち2点は、試料K i - 1 (H-1出土 石錐)は、第2・4図は産地群の外にみられ、6・8図では丸瀬布群の範囲内にあり、丸瀬布群で被熱を受けたと推定された。また、K i - 3 (H-20原石)は、すべての図のいずれの原産地群の範囲内にみられず、産地は特定できなかった。

前者のように黒曜石が被熱を受けた際に生じる化学組成の変化を知るため、また、後者のように不明となる結果のものを同定できうる分析元素の設定、これらの化学的变化、対照標準資料の体系化がさらに必要である。

(2) 放射性炭素年代(AMS測定)(付篇2)

平成22年度に20点(K i - 1~20)、平成23年度に3点(k i - 21~23)を測定した。これらの結果のうち、暦較正年代に注目し、1・2標準偏差が50%以上の試料21点について、年代の新しい順に並べた表V-2を作成した。

溝状遺構、SH-1・2は擦文文化期である。SH-1・2は、7世紀中頃~8世紀と想定より古い数値で、溝状遺構はこれら住居跡よりも若干新しい年代である。関連する遺構と考えていたが、再検討が必要となった。また、H-23 床面出土の試料：K i - 23 (IAAA-103332)も7世紀代の値であるが、H-23は発掘調査で縄文時代前期の住居跡である。遺構図を再検討した結果、試料である炭化材の出土位置と床面には10cm程度高さが異なるので、この炭化材が本住居跡に伴わないと判断する。

縄文時代後期の住居跡は、H-17・14・6で、縄文時代前期の住居跡は、新しい年代が示された順に、H-11・9・7・29・8・22である。縄文時代早期の住居跡はH-13・20があり、前者は早期後半、後者はこれよりも約1700年古い。

H-18は縄文時代後期の住居跡であるが、標準偏差が50%未満の測定値は、縄文時代中期を示している。

(3) 炭化材の樹種同定(付篇3)

同定結果から、時代により使用する木を使い分けていることがわかる。すなわち、擦文文化期(SH-2)では、トネリコ属で、縄文時代はクリである。いずれも遺跡周辺の植生にみられるもので、そこから入手したと推測される。

(4) 出土の種実(付篇4)

種実には、炭化したものと未炭化のものがみられた。後者は、低湿地性遺跡等の還元層に残存するもので、本遺跡の立地環境に該当せず、発掘調査や水洗・整理作業中に混入した可能性が高いとの結論であった。このことは時代が新しい擦文文化期の遺構にもみられ、フローテーション法を用いる場合、注意しなければならない事項である。

炭化種子と未炭化種子を表V-3にまとめた。遺構に伴うと考えられる炭化種子については、多くが偶発的に遺構内に持ち込まれたと推測されるが、擦文文化期のSH-1の「オニグルミ」と、縄文時代前期の住居跡、H-22内のHP-1覆土中の「ユリ科炭化鱗莖」は食用の可能性が高い。なおH-22HP-1ではオニグルミが大量に出土している。

(5) P-12出土人骨について

人類学的鑑定では以下の所見が得られた。

- ・人骨の残りは悪く、歯冠の情報から、年齢・性別を推測した。
 - ・歯の咬耗から壮年と判断され、切歯には和人特有の形状が認められた。
 - ・残存する歯の歯冠計測値の組み合わせによる線形判別法により、母集団を江戸時代の関東地方の和人、アイヌ民族として分析し、いずれも男性と判断された。
 - ・同じく歯冠計測値から、江戸時代和人か北海道アイヌかを判別し、和人と判断された。
- また、遺構の状況は、屈葬であること、副葬品がないことから、和人であると推測された。
- 以上、人類学的鑑定や遺構の状況から、被葬者は和人の壮年男性であると判断される。

(6) P-12出土人骨の放射性年代測定

P-12出土の人骨のうち、依存状態が良好だった部位は頭部と左右の脛骨であった。この脛骨（左右は不明）から抽出したコラーゲンから年代測定を行った。

暦年較正年代で高い確率の値は、西暦1833-1880年（1標準偏差 36.4%）、1805-1892年（2標準偏差 54.8%）で19世紀である。

しかし、コラーゲン試料の性質の分析から、C/N（炭素/窒素）比では、本試料は外部汚染を受けていること、さらに摂取タンパク源は、草食性の陸上動物と海産魚貝類の両者が認められたことが判明した。

本遺跡は、調査前は住宅地で上位の層が削平されており、人骨コラーゲンが外部汚染を受けている。加えて、海産魚貝類を少なからず摂取してことから、海洋リザーバー効果の影響を受けていることを考慮すると、17世紀後葉以降と推測される。（愛場）

表V-1 黒曜石原産地同定結果一覧（産地別）

試料名	器種	出土地点	時期	原産地	SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	TiO ₂	K ₂ O	CaO	Rb(l)	Sr(l)
K i - 4	石鏃	H-21	縄文時代早期	赤井川	77.1739	11.9037	1.1456	0.1163	4.6696	0.8051	949	571
K i - 5	フレイク	H-26	縄文時代前期	赤井川	76.8476	11.7849	1.2166	0.1085	4.8761	0.8570	924	405
K i - 6	フレイク	H-29	縄文時代前期	赤井川	76.9592	11.7537	1.0950	0.1015	4.5842	0.7838	1101	649
K i - 7	フレイク	P-56	縄文時代	赤井川	77.2322	11.7424	1.1050	0.0968	4.5758	0.7565	1063	485
K i - 9	石鏃	包含層	縄文時代	赤井川	76.9828	11.9906	1.1496	0.0966	4.6589	0.8131	1054	772
K i - 10	石鏃	包含層	縄文時代	赤井川	76.9067	12.0147	1.1872	0.1121	5.0424	0.8398	1180	443
K i - 2	フレイク	H-20	縄文時代早期	赤石山Ⅲ	76.6998	12.1438	1.0957	0.0895	4.6251	0.5308	1378	107
K i - 8	フレイク	P-89	縄文時代前期	置戸	77.9567	11.4893	1.1894	0.1667	3.5204	1.1326	633	1124
K i - 3	原石	H-20	縄文時代早期	不明	74.1335	9.6811	2.1017	0.3099	3.8809	2.7269	622	948
K i - 1	石鏃	H-1	縄文時代早期	丸瀬布系?	76.7358	11.4696	1.5466	0.2156	3.8001	1.2551	968	991

表V-2 放射性炭素年代測定結果一覽（時代順）

測定番号	調査年度	試料名	採取場所	1σ 暦年代範囲		2σ 暦年代範囲		時代等	
IAAA-112215	平成23年度	K i - 23	溝状遺構 覆土	777calAD - 831calAD (43.2%) 837calAD - 869calAD (25.0%)	718calAD - 743calAD (6.8%) 768calAD - 889calAD (88.6%)	8世紀中頃～9世紀初頭		縄文文化期	
IAAA-103315	平成22年度	K i - 3	S H - 2 床面	683calAD - 722calAD (38.5%) 741calAD - 770calAD (29.7%)	669calAD - 777calAD (95.4%)		7世紀中頃～8世紀後半		縄文文化期
IAAA-103313	平成22年度	K i - 1	S H - 1 カマド	655calAD - 689calAD (64.8%) 754calAD - 758calAD (3.4%)	650calAD - 715calAD (81.1%) 745calAD - 768calAD (14.3%)	7世紀中頃～8世紀初頭		縄文文化期	
IAAA-103314	平成22年度	K i - 2	S H - 1 炉跡 (H F - 1)	664calAD - 694calAD (43.4%) 702calAD - 707calAD (4.3%) 748calAD - 765calAD (20.5%)	658calAD - 724calAD (66.9%) 739calAD - 771calAD (28.5%)	7世紀中頃～8世紀中頃		縄文文化期	
IAAA-103332	平成22年度	K i - 20	H - 23 床面	645calAD - 670calAD (68.2%)		613calAD - 686calAD (95.4%)		7世紀代	
IAAA-103316	平成22年度	K i - 4	S H - 2 炉跡 (H F - 1)	434calAD - 469calAD (26.5%) 481calAD - 535calAD (41.7%)	420calAD - 545calAD (95.4%)		5世紀前半～8世紀中頃		縄文文化期
IAAA-103325	平成22年度	K i - 13	H - 17 炉跡 (H F - 1)	2024calBC - 1941calBC (68.2%)	2113calBC - 2101calBC (1.8%) 2036calBC - 1894calBC (93.6%)	縄文時代中・後期 約B. C. 2000		縄文文化期	
IAAA-103324	平成22年度	K i - 12	H - 14 炉跡 (H F - 1)	2488calBC - 2438calBC (41.1%) 2421calBC - 2404calBC (10.5%) 2378calBC - 2350calBC (16.7%)	2566calBC - 2525calBC (10.8%) 2497calBC - 2341calBC (84.6%)	縄文時代中期 約B. C. 2400年		縄文文化期	
IAAA-103317	平成22年度	K i - 5	H - 6 床面	2562calBC - 2535calBC (35.4%) 2493calBC - 2470calBC (32.8%)	2574calBC - 2462calBC (95.4%)		縄文時代中期 約B. C. 2500		縄文文化期
IAAA-103322	平成22年度	K i - 10	H - 11 床面 (H C - 1)	3491calBC - 3470calBC (18.7%) 3374calBC - 3341calBC (49.5%)	3499calBC - 3450calBC (24.4%) 3444calBC - 3439calBC (0.4%) 3379calBC - 3330calBC (53.3%) 3215calBC - 3181calBC (9.5%) 3158calBC - 3124calBC (7.9%)	縄文時代前期 約B. C. 3300		縄文文化期	
IAAA-103321	平成22年度	K i - 9	H - 9 炉跡 (H F - 1)	3518calBC - 3496calBC (15.4%) 3460calBC - 3376calBC (52.8%)	3627calBC - 3597calBC (8.8%) 3526calBC - 3483calBC (22.3%) 3476calBC - 3370calBC (64.3%)	縄文時代前期 約B. C. 3500		縄文文化期	
IAAA-103318	平成22年度	K i - 6	H - 7 床面	3639calBC - 3630calBC (10.9%) 3581calBC - 3533calBC (57.3%)	3647calBC - 3621calBC (18.3%) 3606calBC - 3522calBC (77.1%)	縄文時代前期 約B. C. 3500		縄文文化期	
IAAA-112214	平成23年度	K i - 22	H - 29 床面	3632calBC - 3561calBC (49.5%) 3536calBC - 3518calBC (13.5%) 3395calBC - 3386calBC (5.2%)	3635calBC - 3551calBC (55.4%) 3542calBC - 3501calBC (20.3%) 3429calBC - 3380calBC (19.7%)	縄文時代前期 約B. C. 3500		縄文文化期	
IAAA-103320	平成22年度	K i - 8	H - 8 炉跡 (H F - 2)	3632calBC - 3560calBC (51.6%) 3537calBC - 3518calBC (13.5%) 3394calBC - 3388calBC (3.1%)	3636calBC - 3501calBC (77.4%) 3428calBC - 3381calBC (18.0%)	縄文時代前期 約B. C. 3500		縄文文化期	
IAAA-112213	平成23年度	K i - 21	H - 29 床面	3636calBC - 3629calBC (7.3%) 3585calBC - 3531calBC (60.9%)	3641calBC - 3520calBC (95.4%)		縄文時代前期 約B. C. 3500		縄文文化期
IAAA-103331	平成22年度	K i - 19	H - 22 床面	3634calBC - 3626calBC (6.9%) 3599calBC - 3551calBC (45.8%) 3542calBC - 3526calBC (15.5%)	3641calBC - 3516calBC (92.4%) 3409calBC - 3406calBC (0.4%) 3399calBC - 3384calBC (2.6%)	縄文時代前期 約B. C. 3500		縄文文化期	
IAAA-103330	平成22年度	K i - 18	H - 22 床面	3638calBC - 3629calBC (8.9%) 3584calBC - 3531calBC (59.3%)	3645calBC - 3520calBC (95.4%)		縄文時代前期 約B. C. 3500		縄文文化期
IAAA-103319	平成22年度	K i - 7	H - 8 床面	3694calBC - 3682calBC (11.5%) 3664calBC - 3636calBC (56.7%)	3706calBC - 3631calBC (86.1%) 3561calBC - 3537calBC (9.3%)	縄文時代前期 約B. C. 3500		縄文文化期	
IAAA-103323	平成22年度	K i - 11	H - 13 床面	4355calBC - 4327calBC (54.4%) 4284calBC - 4271calBC (13.8%)	4436calBC - 4427calBC (1.0%) 4369calBC - 4259calBC (94.4%)	縄文時代早期 約B. C. 4300		縄文文化期	
IAAA-103328	平成22年度	K i - 16	H - 20 床面	6018calBC - 5981calBC (51.0%) 5943calBC - 5926calBC (17.2%)	6055calBC - 5968calBC (66.1%) 5956calBC - 5904calBC (29.3%)	縄文時代早期 約B. C. 6000		縄文文化期	
IAAA-103329	平成22年度	K i - 17	H - 20 床面	6076calBC - 6018calBC (68.2%)	6205calBC - 6191calBC (2.2%) 6184calBC - 6170calBC (1.9%) 6162calBC - 6141calBC (3.3%) 6111calBC - 5999calBC (87.9%)	縄文時代早期 約B. C. 6000		縄文文化期	
IAAA-103326	平成22年度	K i - 14	H - 18 床面	2562calBC - 2535calBC (28.8%) 2493calBC - 2465calBC (39.4%)	2572calBC - 2512calBC (40.6%) 2505calBC - 2438calBC (47.7%) 2421calBC - 2404calBC (2.8%) 2379calBC - 2349calBC (4.3%)	縄文時代中期 約B. C. 2500		縄文文化期	
IAAA-103327	平成22年度	K i - 15	H - 18 床面	2562calBC - 2535calBC (29.3%) 2493calBC - 2466calBC (38.9%)	2573calBC - 2512calBC (41.9%) 2505calBC - 2450calBC (46.5%) 2445calBC - 2439calBC (0.6%) 2420calBC - 2404calBC (2.5%) 2378calBC - 2350calBC (3.9%)	縄文時代中期 約B. C. 2500		縄文文化期	

表V-3 遺構出土炭化種実同定結果一覧

試料番号	遺構	層位	試料点数	時代・時期	炭化種子	未炭化種子	備考						
Ki-1	SH-1	床面	2	擦文文化期	オニグルミ核：1 ウルシ属-ヌルデ属 炭化内果皮：1	タニソバ果実 イヌタデ果実 アカザ属種子 エノキグサ種子 等							
Ki-2			3										
Ki-3			1										
Ki-4			2										
Ki-5			1										
Ki-6			1										
Ki-7			1										
Ki-8			3										
Ki-9			1										
Ki-10			1										
Ki-11			2										
Ki-12			3										
Ki-13			2										
Ki-14			1										
Ki-15			1										
Ki-16			2										
Ki-17			5										
Ki-18			7										
Ki-19			1										
Ki-20			1										
Ki-21			4										
Ki-22			1										
Ki-23			1										
Ki-24			1										
Ki-25			1										
Ki-26			1										
Ki-27			1										
Ki-28			2										
Ki-29			4										
Ki-30			1										
Ki-31			2										
Ki-32			1										
Ki-33			1										
Ki-34			2										
Ki-35			1										
Ki-36			2										
Ki-37			2										
Ki-38			1										
Ki-39			1										
Ki-40			2										
Ki-41			1										
Ki-42			3										
Ki-43			2										
Ki-44			HF-1					1					
Ki-45	カマド周辺	5			イネ科種子：2	タニソバ種子 エノキグサ種子							
Ki-46	SH-2	床面	1	擦文文化期	ウルシ属-ヌルデ属 炭化内果皮：1 タデ科果実：1	タニソバ果実 アカザ属種子 エノキグサ種子 等							
Ki-47			1										
Ki-48			13										
Ki-49			1										
Ki-50			3										
Ki-51			2										
Ki-52			2										
Ki-53			1										
Ki-54			3										
Ki-55			1										
Ki-56			1										
Ki-57			1										
Ki-58			2										
Ki-59			6										
Ki-60			2										
Ki-61			1										
Ki-62			1										
Ki-63			2										
Ki-64			HF-1					6			イネ科種子：1	タニソバ種子 アカザ属種子等	
Ki-65			1										
Ki-66	H-1	床面	3	縄文時代早期	—	タニソバ種子							
Ki-67	F-1	焼土	3	縄文時代	—	タニソバ種子 アカザ属種子							
Ki-68			1										
Ki-69	F-2	焼土	4	縄文時代	—	タニソバ種子							
Ki-70	H-8	HF-2	5	縄文時代前期	イヌビエ属種子：1 イネ科種子：1	—							
Ki-71		HF-3	28		イヌビエ属種子：1 タデ科果実：1	タニソバ種子 イヌタデ果実							
Ki-72	H-9	HF-1	2	縄文時代前期	—	タニソバ種子 アカザ属種子							
Ki-73	H-14	HF-1	2	縄文時代 中期末-後期初頭	サナエタデーオオイヌタデ果実 ：1	タニソバ種子							
Ki-74	H-15	HF-1	1	縄文時代 中期末-後期初頭	エノコログサ属種子：1	—							
Ki-75	H-17	HF-1	3	縄文時代 中期末-後期初頭	—	タニソバ種子 エノキグサ種子							
Ki-76	H-18	HF-1	1	縄文時代 中期末-後期初頭	ウルシ属-ヌルデ属 炭化内果皮：1	—							
Ki-77	H-22	HP-1 覆土	5	縄文時代前期	ユリ科 炭化鱗莖：1	—							

付 篇

1. 黒曜石原産地同定

第四紀地質研究所 井上 巖

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製JSX-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（FP法）による自動定量計算システムが採用されており、6C~92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30kV、4mA）の採用で微量試料~最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。

分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクFP法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はSi、Ti、Al、Fe、Mn、Mg、Ca、Na、K、P、Rb、Sr、Y、Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb、Sr、Y、Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量%）でSiO₂-Al₂O₃、Fe₂O₃-TiO₂、K₂O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

2 分析結果

第1表 化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

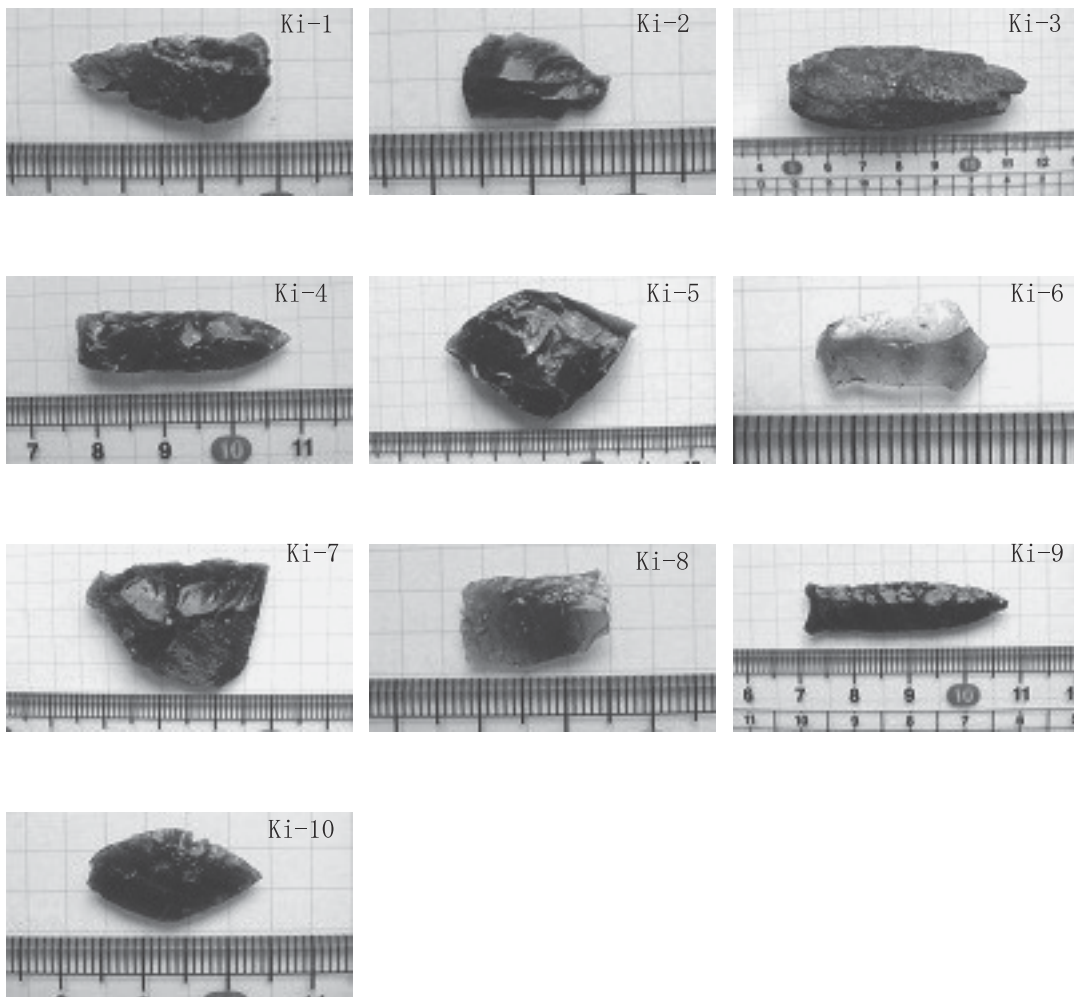
最も多く検出されたのは赤井川産で10個中6個が該当する。K-1は弱被熱した丸瀬布系？、K-3は原石で表面が風化し、新鮮な面での分析ができず、原産地不明とした。K-8の置戸産は弱被熱したもので図中の領域にばらつきがある。

第1表 化学分析表

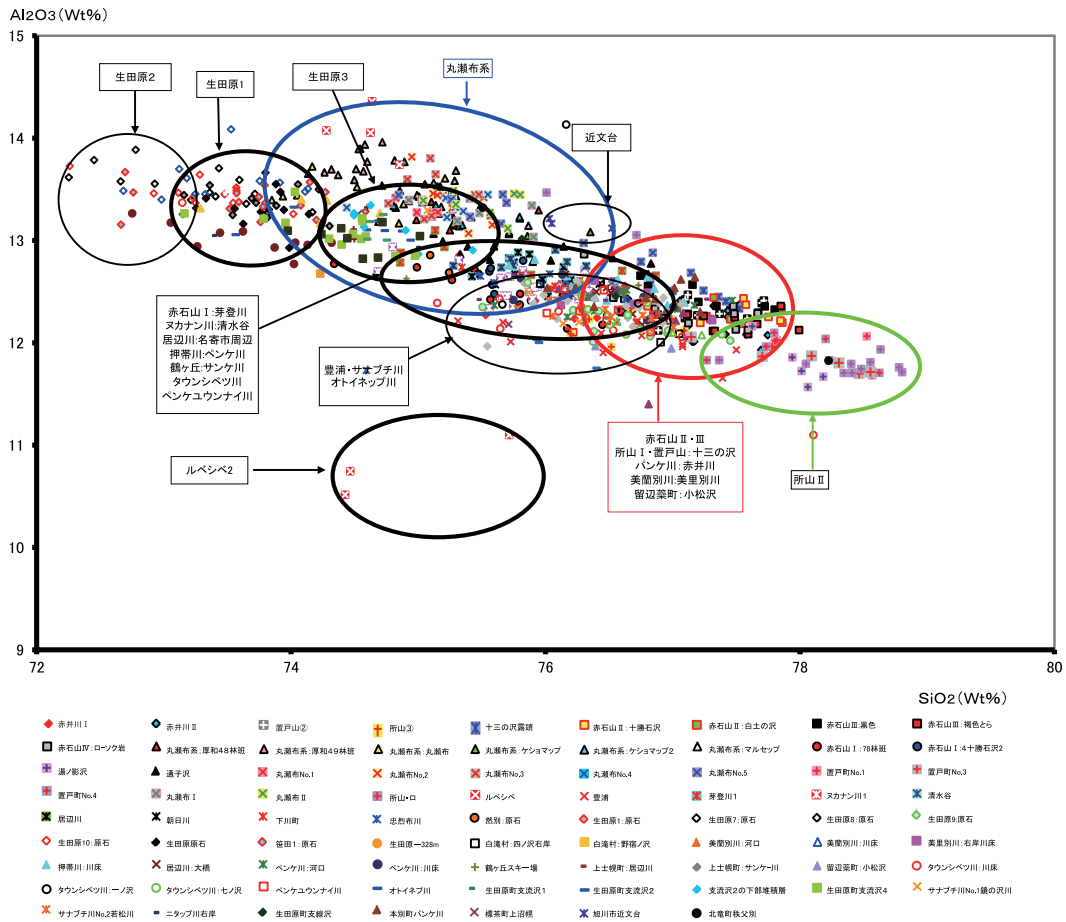
試料名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	Total	Rb(I)	Sr(I)	原産地	器種	時期
Ki-1	4.2032	0.0000	11.4696	76.7358	0.6520	3.8001	1.2551	0.2156	0.0733	1.5466	0.0144	0.0151	0.0000	0.0190	99.9998	968	991	丸瀬布系?	石鏝	H-1縄文時代早期
Ki-2	4.0504	0.0000	12.1438	76.6998	0.6656	4.6251	0.5308	0.0895	0.0679	1.0957	0.0177	0.0014	0.0012	0.0111	100.0000	1378	107	赤石山Ⅲ	フレイク	H-20縄文時代早期
Ki-3	4.1984	0.0000	9.6811	74.1335	2.6930	3.8809	2.7269	0.3099	0.2018	2.1017	0.0168	0.0262	0.0037	0.0261	100.0000	622	948	不明	原石	H-20縄文時代早期
Ki-4	3.4428	0.0000	11.9037	77.1739	0.6365	4.6696	0.8051	0.1163	0.0655	1.1456	0.0140	0.0086	0.0039	0.0143	99.9998	949	571	赤井川	石鏝	H-21縄文時代早期
Ki-5	3.5667	0.0000	11.7849	76.8476	0.6322	4.8761	0.8570	0.1085	0.0780	1.2166	0.0130	0.0058	0.0025	0.0110	99.9999	924	405	赤井川	フレイク	H-26縄文時代前期
Ki-6	3.9494	0.0000	11.7537	76.9592	0.6607	4.5842	0.7838	0.1015	0.0768	1.0950	0.0139	0.0084	0.0023	0.0112	100.0001	1101	649	赤井川	フレイク	H-29縄文時代前期
Ki-7	3.7226	0.0000	11.7424	77.2322	0.6584	4.5758	0.7565	0.0968	0.0739	1.1050	0.0140	0.0066	0.0025	0.0135	100.0002	1063	485	赤井川	フレイク	P-56縄文時代
Ki-8	3.7016	0.0000	11.4893	77.9567	0.7276	3.5204	1.1326	0.1667	0.0734	1.1894	0.0083	0.0151	0.0026	0.0163	100.0000	633	1124	置戸	フレイク	P-89縄文時代前期
Ki-9	3.5366	0.0000	11.9906	76.9828	0.6569	4.6589	0.8131	0.0966	0.0714	1.1496	0.0151	0.0113	0.0045	0.0127	100.0001	1054	772	赤井川	石鏝	縄文時代
Ki-10	3.1067	0.0000	12.0147	76.9067	0.6764	5.0424	0.8398	0.1121	0.0757	1.1872	0.0162	0.0062	0.0039	0.0121	100.0001	1180	443	赤井川	石鏝	縄文時代

引用文献

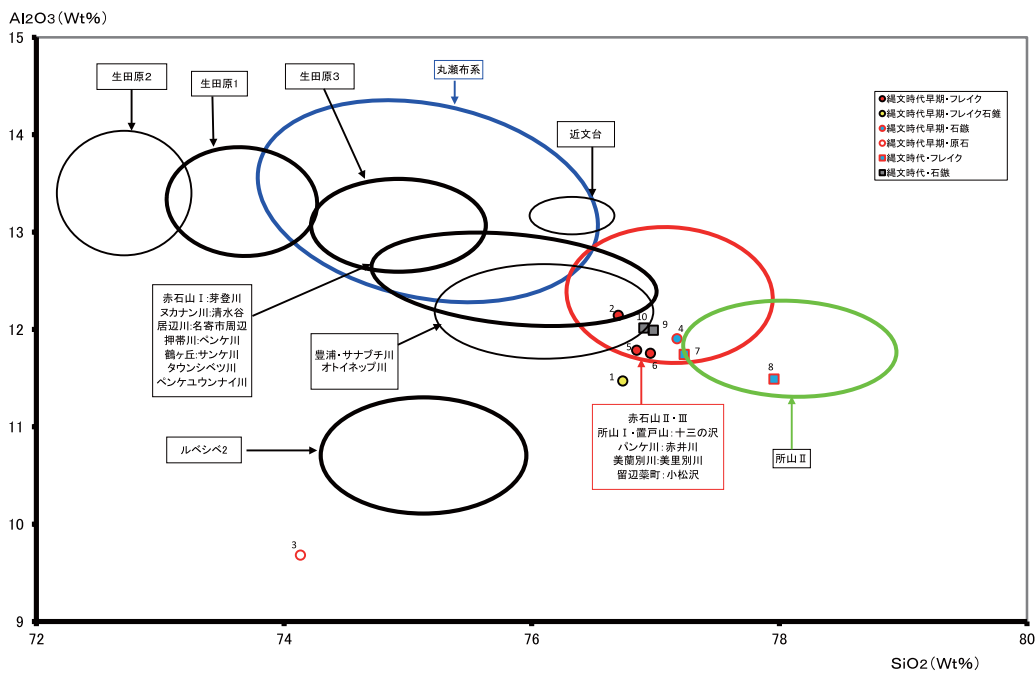
- 井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析 (XRF)
北越考古学 第11号 23-38
- 井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言 軽石学雑誌 第7号 23-51.
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 東北・北陸編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 北海道編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石写真集



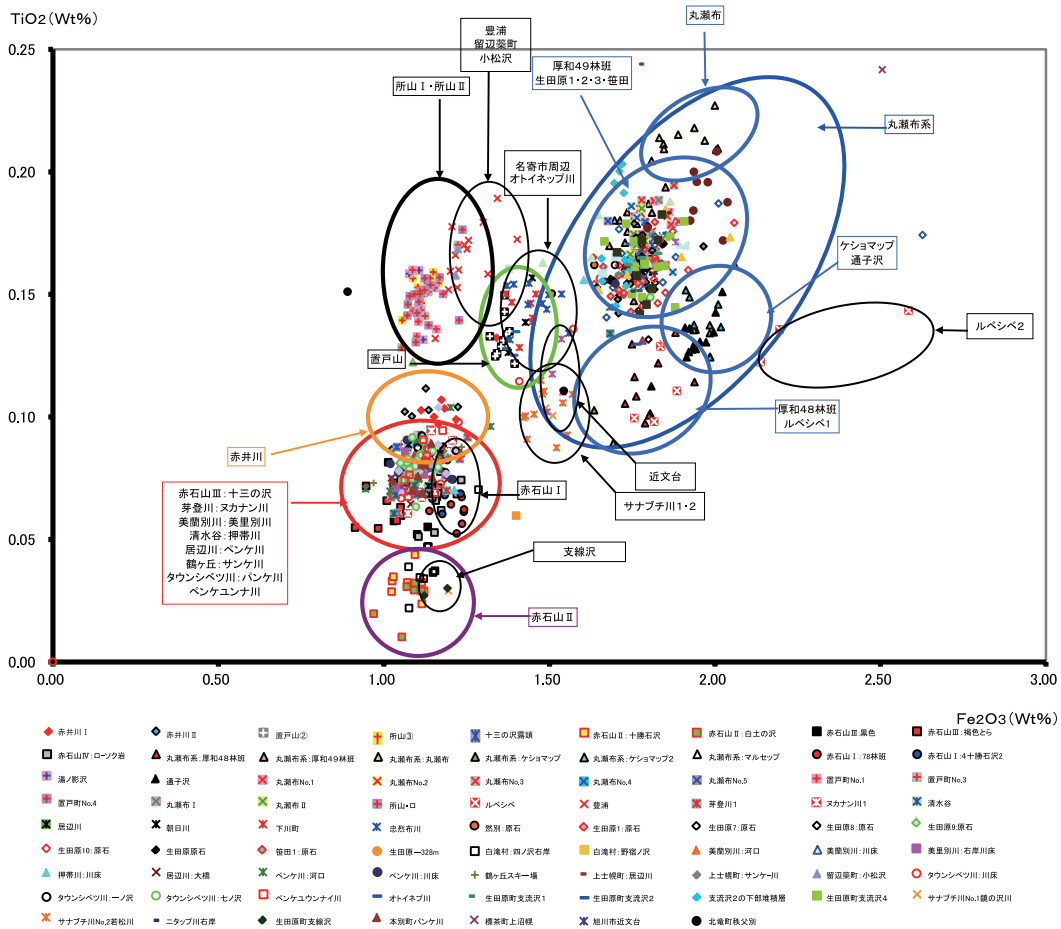
(平成23年2月29日 受領)
(平成23・24年度 愛場 点検・一部編集)



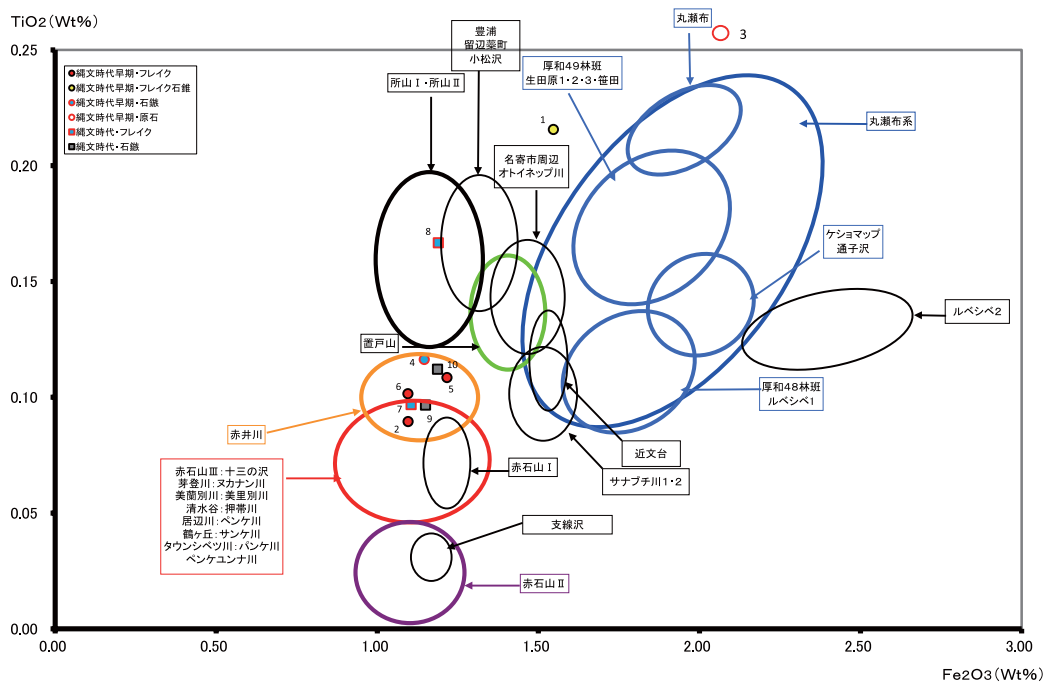
第 1 図 北海道の黒曜石 SiO₂-Al₂O₃図 (標準図)



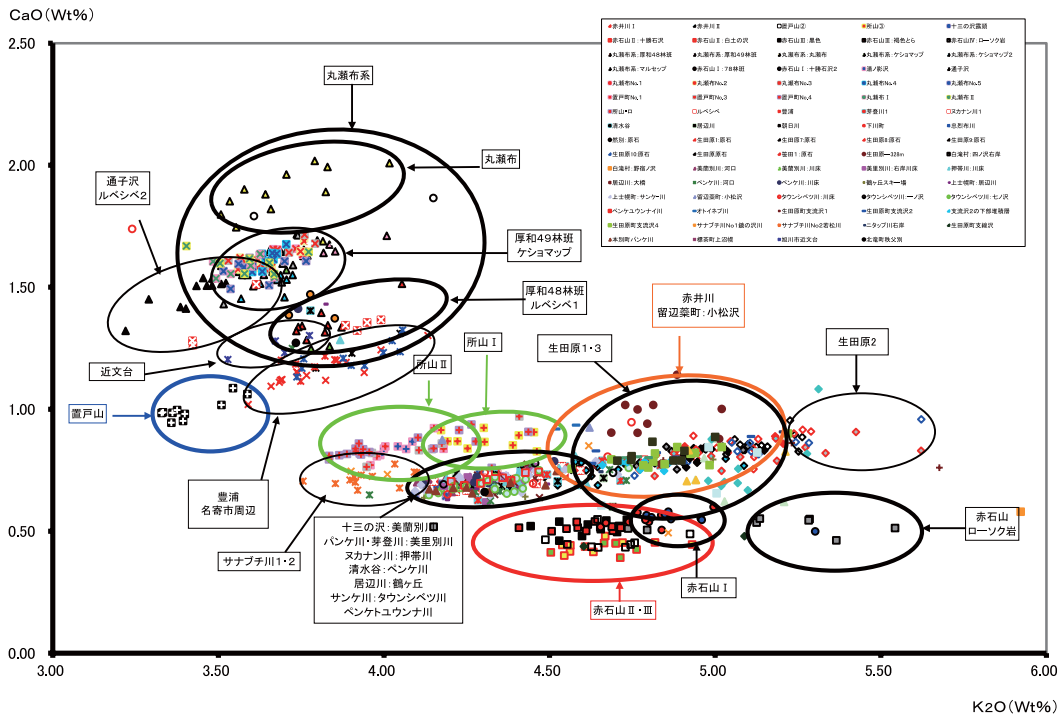
第 2 図 木古内遺跡の黒曜石 SiO₂-Al₂O₃図



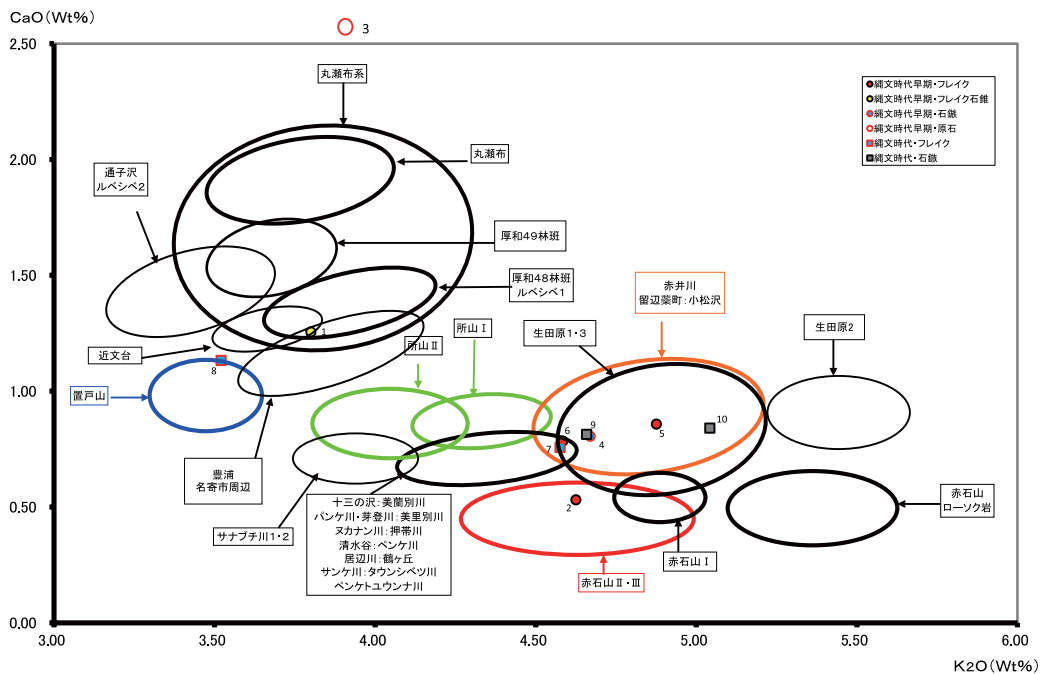
第3図 北海道の黒曜石 Fe_2O_3 - TiO_2 図 (標準図)



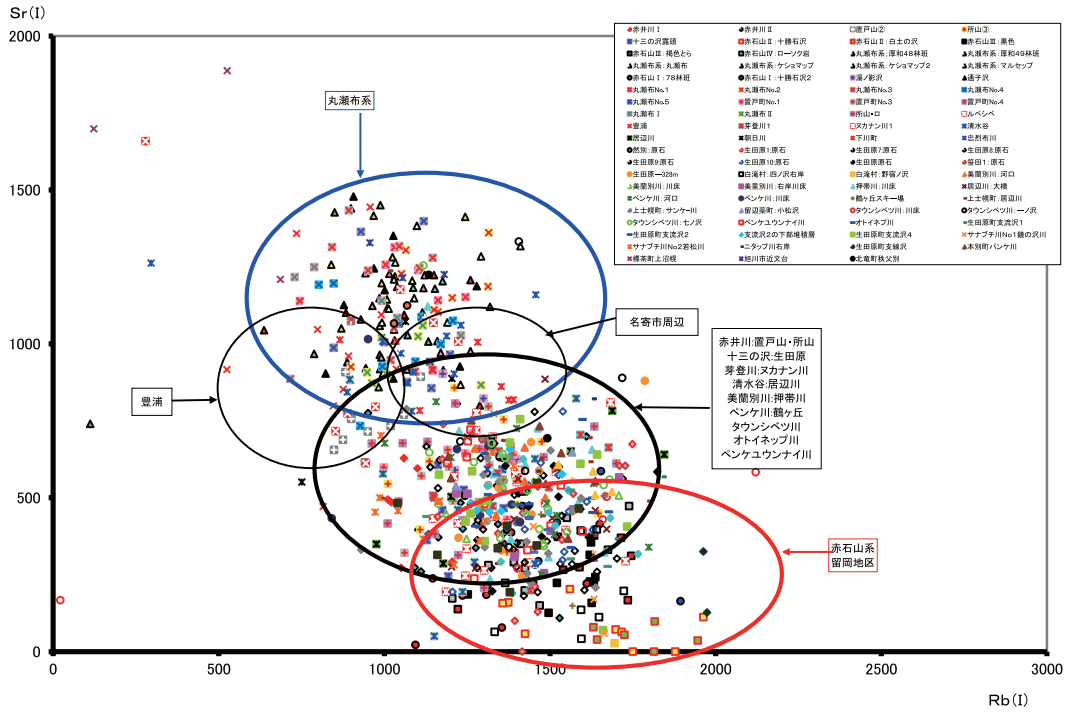
第4図 木古内遺跡の黒曜石 Fe_2O_3 - TiO_2 図



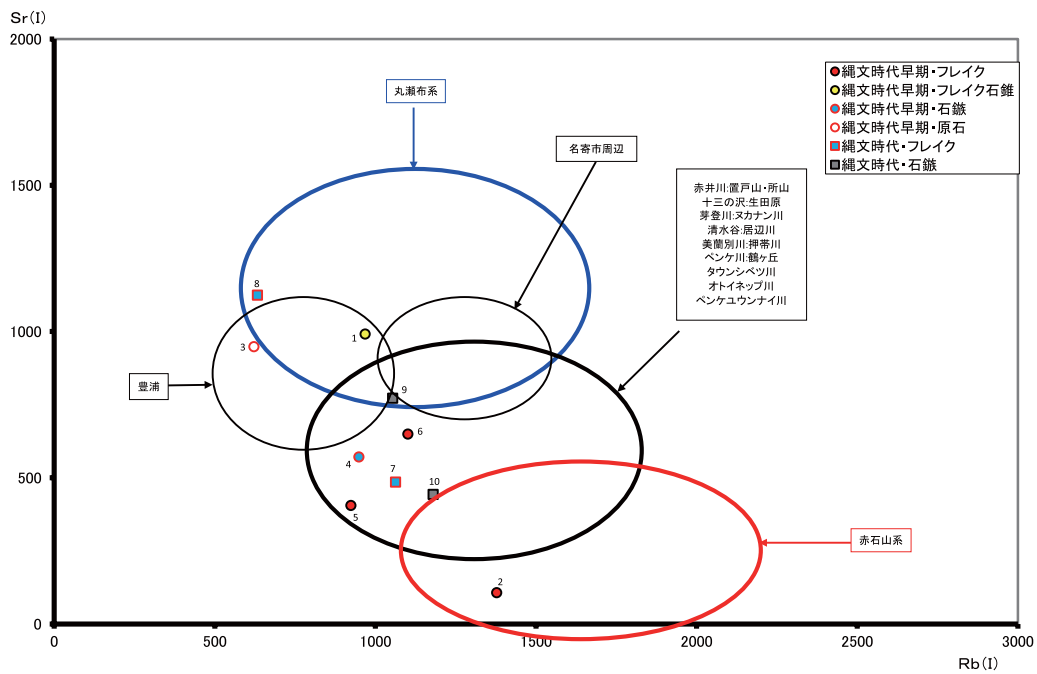
第 5 図 北海道の黒曜石 K₂O—CaO 図 (標準図)



第 6 図 木古内遺跡の黒曜石 K₂O—CaO 図



第7図 北海道の黒曜石 Rb—Sr 図 (標準図)



第8図 木古内遺跡の黒曜石 Rb—Sr 図

2. 放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

木古内遺跡は、北海道木古内町字木古内55-1ほか(北緯41°40'57"、東経140°26'41")に所在する。測定対象試料は、住居跡出土木炭23点(Ki-1:IAAA-103313~Ki-20:IAAA-103332)で(表1)、Ki-1、3、5~7、10、11、14~20、21、23は調査現場にて直接採取、Ki-2、4、8、9、12、13、22はフローテーション法で回収され、Ki-23を包含する覆土は、白頭山-苫小牧火山灰(B-Tm)より下位である。なお、Ki-1~20は平成22年度、ki-21~23は平成23年度の採取である。

2 測定の意義

住居跡や溝状遺構の年代を知り、遺跡の性格を理解する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1 M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

3 MVタンデム加速器(NEC Pelletron 9 SDH-2)をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) δ¹³Cは、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0 yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代はδ¹³Cによって同位体効果を補正する必要がある

る。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下一桁を丸め10年単位で表示され、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

住居跡のうち、覆土中にB-Tm火山灰が認められる住居跡出土試料の ^{14}C 年代は、SH-1カマド出土のKi-1が $1330\pm 30\text{yrBP}$ 、同炉跡(HF-1)出土のKi-2が $1310\pm 30\text{yrBP}$ 、SH-2床面出土のKi-3が $1280\pm 30\text{yrBP}$ 、同炉跡(HF-1)出土のKi-4が $1580\pm 30\text{yrBP}$ である。SH-1出土の2点の値は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なり、近い年代を示す。他方、SH-2出土の2点の間には年代差が認められる。暦年較正年代 (1σ) は、Ki-1が $655\sim 758\text{cal AD}$ 、Ki-2が $664\sim 765\text{cal AD}$ 、Ki-3が $683\sim 770\text{cal AD}$ 、Ki-4が $434\sim 535\text{cal AD}$ の間に各々複数の範囲で示される。いずれもB-Tm火山灰の降灰年代より古く、調査所見に整合する。

その他の住居跡出土試料の ^{14}C 年代は、H-6床面出土のKi-5が $3980\pm 30\text{yrBP}$ 、H-7床面出土のKi-6が $4800\pm 30\text{yrBP}$ 、H-8床面出土のKi-7が $4860\pm 30\text{yrBP}$ 、同炉跡(HF-2)出土のKi-8が $4740\pm 30\text{yrBP}$ 、H-9炉跡(HF-1)出土のKi-9が $4690\pm 30\text{yrBP}$ 、H-11床面HC-1(炭化材集中)出土のKi-10が $4590\pm 30\text{yrBP}$ 、H-13床面出土のKi-11が $5480\pm 30\text{yrBP}$ 、H-14炉跡(HF-1)出土のKi-12が $3940\pm 30\text{yrBP}$ 、H-17炉跡(HF-1)出土のKi-13が $3620\pm 30\text{yrBP}$ 、H-18床面出土のKi-14が $3970\pm 30\text{yrBP}$ 、同Ki-15が $3970\pm 30\text{yrBP}$ 、H-20床面出土のKi-16が $7110\pm 40\text{yrBP}$ 、同Ki-17が $7200\pm 40\text{yrBP}$ 、H-22床面出土のKi-18が $4790\pm 30\text{yrBP}$ 、同Ki-19が $4770\pm 30\text{yrBP}$ 、H-23床面出土のKi-20が $1370\pm 30\text{yrBP}$ 、H-29床面出土のKi-21が $4780\pm 30\text{yrBP}$ 、Ki-22が $4740\pm 30\text{yrBP}$ である。同じ住居跡で2点測定された例を見ると、H-18・22・29の試料各3点の値は、各々誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なり、近い年代を示す。H-8とH-20の試料各2点の間には、各々若干年代差が認められるものの、おおよそ近接した年代値と言える。暦年較正年代 (1σ) は、Ki-5が $2562\sim 2470\text{cal BC}$ の間に2つの範囲、

K i - 6 が3639~3533cal BC の間に2つの範囲、K i - 7 が3694~3636cal BC の間に2つの範囲、K i - 8 が3632~3388cal BC の間に3つの範囲、K i - 9 が3518~3376cal BC の間に2つの範囲、K i - 10 が3491~3341cal BC の間に2つの範囲、K i - 11 が4355~4271cal BC の間に2つの範囲、K i - 12 が2488~2350cal BC の間に3つの範囲、K i - 13 が2024~1941cal BC の範囲、K i - 14 が2562~2465cal BC の間に2つの範囲、K i - 15 が2562~2466cal BC の間に2つの範囲、K i - 16 が6018~5926cal BC の間に2つの範囲、K i - 17 が6076~6018cal BC の範囲、K i - 18 が3638~3531cal BC の間に2つの範囲、K i - 19 が3634~3526cal BC の間に3つの範囲、K i - 20 が645~670cal AD の範囲、k i - 21 が3636~3531cal BC、k i - 22 が3632~3386cal BC、K i - 23 が777~869cal AD の間に複数の範囲で示される。K i - 16、17は縄文時代早期後葉頃、K i - 11は縄文時代前期前半頃、K i - 6~8、18、19、21、22は縄文時代前期後葉頃、K i - 9、10は縄文時代前期末葉から中期初頭頃、K i - 5、12、14、15は縄文時代中期末葉から後期初頭頃、K i - 13は縄文時代後期前葉頃、K i - 20は擦文文化期に相当する年代値である。また、白頭山-苦小牧火山灰 (B-Tm) の下位に位置する、溝状遺構の覆土の木炭、k i - 23の¹⁴C年代は1210±20yrBP で矛盾しない。

試料の炭素含有率を見ると、K i - 1~19・21~23はすべて50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。K i - 20は約41%と若干低く、微細な炭化物と観察されているが、木炭ではない可能性も指摘される。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
I AAA-103313	K i - 1	S H - 1 カマド	木炭	AAA	-26.77 ± 0.55	1,330 ± 30	84.74 ± 0.27
I AAA-103314	K i - 2	S H - 1 炉跡(HF-1)	木炭	AAA	-24.19 ± 0.40	1,310 ± 30	84.97 ± 0.27
I AAA-103315	K i - 3	S H - 2 床面	木炭	AAA	-27.94 ± 0.60	1,280 ± 30	85.28 ± 0.28
I AAA-103316	K i - 4	S H - 2 炉跡(HF-1)	木炭	AAA	-26.28 ± 0.67	1,580 ± 30	82.17 ± 0.28
I AAA-103317	K i - 5	H - 6 床面	木炭	AAA	-24.90 ± 0.53	3,980 ± 30	60.93 ± 0.21
I AAA-103318	K i - 6	H - 7 床面	木炭	AAA	-27.50 ± 0.60	4,800 ± 30	55.04 ± 0.21
I AAA-103319	K i - 7	H - 8 床面	木炭	AaA	-24.95 ± 0.54	4,860 ± 30	54.63 ± 0.21
I AAA-103320	K i - 8	H - 8 炉跡(HF-2)	木炭	AAA	-24.29 ± 0.55	4,740 ± 30	55.41 ± 0.21
I AAA-103321	K i - 9	H - 9 炉跡(HF-1)	木炭	AAA	-27.35 ± 0.68	4,690 ± 30	55.79 ± 0.21
I AAA-103322	K i - 10	H - 11 床面HC-1	木炭	AAA	-26.80 ± 0.43	4,590 ± 30	56.49 ± 0.20
I AAA-103323	K i - 11	H - 13 床面	木炭	AAA	-24.41 ± 0.57	5,480 ± 30	50.55 ± 0.19
I AAA-103324	K i - 12	H - 14 炉跡(HF-1)	木炭	AAA	-28.00 ± 0.51	3,940 ± 30	61.22 ± 0.22
I AAA-103325	K i - 13	H - 17 炉跡(HF-1)	木炭	AAA	-26.77 ± 0.55	3,620 ± 30	63.74 ± 0.22
I AAA-103326	K i - 14	H - 18 床面	木炭	AaA	-25.67 ± 0.59	3,970 ± 30	61.04 ± 0.22
I AAA-103327	K i - 15	H - 18 床面	木炭	AAA	-24.43 ± 0.42	3,970 ± 30	61.03 ± 0.22
I AAA-103328	K i - 16	H - 20 床面	木炭	AAA	-25.45 ± 0.52	7,110 ± 40	41.29 ± 0.18
I AAA-103329	K i - 17	H - 20 床面	木炭	AAA	-26.15 ± 0.67	7,200 ± 40	40.82 ± 0.18
I AAA-103330	K i - 18	H - 22 床面	木炭	AAA	-29.09 ± 0.73	4,790 ± 30	55.09 ± 0.22
I AAA-103331	K i - 19	H - 22 床面	木炭	AAA	-26.34 ± 0.36	4,770 ± 30	55.23 ± 0.21
I AAA-103332	K i - 20	H - 23 床面	木炭	AaA	-27.42 ± 0.53	1,370 ± 30	84.32 ± 0.30
I AAA-112213	k i - 21	H - 29床面	木炭	AAA	-25.40 ± 0.46	4,780 ± 30	55.14 ± 0.20
I AAA-112214	k i - 22	H - 29床面	木炭	AAA	-21.79 ± 0.42	4,740 ± 30	55.43 ± 0.20
I AAA-112215	k i - 23	溝状遺構覆土	木炭	AAA	-21.21 ± 0.46	1,210 ± 20	86.01 ± 0.26

表 2

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-103313	1,360 \pm 20	84.43 \pm 0.25	1,330 \pm 25	655calAD – 689calAD (64.8%) 754calAD – 758calAD (3.4%)	650calAD – 715calAD (81.1%) 745calAD – 768calAD (14.3%)
IAAA-103314	1,300 \pm 30	85.11 \pm 0.26	1,308 \pm 25	664calAD – 694calAD (43.4%) 702calAD – 707calAD (4.3%) 748calAD – 765calAD (20.5%)	658calAD – 724calAD (66.9%) 739calAD – 771calAD (28.5%)
IAAA-103315	1,330 \pm 30	84.77 \pm 0.26	1,278 \pm 26	683calAD – 722calAD (38.5%) 741calAD – 770calAD (29.7%)	669calAD – 777calAD (95.4%)
IAAA-103316	1,600 \pm 30	81.95 \pm 0.25	1,577 \pm 27	434calAD – 469calAD (26.5%) 481calAD – 535calAD (41.7%)	420calAD – 545calAD (95.4%)
IAAA-103317	3,980 \pm 30	60.95 \pm 0.20	3,979 \pm 27	2562calBC – 2535calBC (35.4%) 2493calBC – 2470calBC (32.8%)	2574calBC – 2462calBC (95.4%)
IAAA-103318	4,840 \pm 30	54.76 \pm 0.20	4,796 \pm 30	3639calBC – 3630calBC (10.9%) 3581calBC – 3533calBC (57.3%)	3647calBC – 3621calBC (18.3%) 3606calBC – 3522calBC (77.1%)
IAAA-103319	4,860 \pm 30	54.63 \pm 0.20	4,857 \pm 31	3694calBC – 3682calBC (11.5%) 3664calBC – 3636calBC (56.7%)	3706calBC – 3631calBC (86.1%) 3561calBC – 3537calBC (9.3%)
IAAA-103320	4,730 \pm 30	55.49 \pm 0.20	4,743 \pm 30	3632calBC – 3560calBC (51.6%) 3537calBC – 3518calBC (13.5%) 3394calBC – 3388calBC (3.1%)	3636calBC – 3501calBC (77.4%) 3428calBC – 3381calBC (18.0%)
IAAA-103321	4,730 \pm 30	55.52 \pm 0.20	4,687 \pm 30	3518calBC – 3496calBC (15.4%) 3460calBC – 3376calBC (52.8%)	3627calBC – 3597calBC (8.8%) 3526calBC – 3483calBC (22.3%) 3476calBC – 3370calBC (64.3%)
IAAA-103322	4,620 \pm 30	56.28 \pm 0.20	4,587 \pm 29	3491calBC – 3470calBC (18.7%) 3374calBC – 3341calBC (49.5%)	3499calBC – 3450calBC (24.4%) 3444calBC – 3439calBC (0.4%) 3379calBC – 3330calBC (53.3%) 3215calBC – 3181calBC (9.5%) 3158calBC – 3124calBC (7.9%)
IAAA-103323	5,470 \pm 30	50.61 \pm 0.18	5,479 \pm 30	4355calBC – 4327calBC (54.4%) 4284calBC – 4271calBC (13.8%)	4436calBC – 4427calBC (1.0%) 4369calBC – 4259calBC (94.4%)
IAAA-103324	3,990 \pm 30	60.84 \pm 0.21	3,942 \pm 28	2488calBC – 2438calBC (41.1%) 2421calBC – 2404calBC (10.5%) 2378calBC – 2350calBC (16.7%)	2566calBC – 2525calBC (10.8%) 2497calBC – 2341calBC (84.6%)
IAAA-103325	3,650 \pm 30	63.51 \pm 0.21	3,617 \pm 28	2024calBC – 1941calBC (68.2%)	2113calBC – 2101calBC (1.8%) 2036calBC – 1894calBC (93.6%)

表 2

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-103326	3,980 \pm 30	60.95 \pm 0.20	3,965 \pm 28	2562calBC – 2535calBC (28.8%) 2493calBC – 2465calBC (39.4%)	2572calBC – 2512calBC (40.6%) 2505calBC – 2438calBC (47.7%) 2421calBC – 2404calBC (2.8%) 2379calBC – 2349calBC (4.3%)
IAAA-103327	3,960 \pm 30	61.11 \pm 0.21	3,966 \pm 28	2562calBC – 2535calBC (29.3%) 2493calBC – 2466calBC (38.9%)	2573calBC – 2512calBC (41.9%) 2505calBC – 2450calBC (46.5%) 2445calBC – 2439calBC (0.6%) 2420calBC – 2404calBC (2.5%) 2378calBC – 2350calBC (3.9%)
IAAA-103328	7,110 \pm 30	41.25 \pm 0.18	7,105 \pm 35	6018calBC – 5981calBC (51.0%) 5943calBC – 5926calBC (17.2%)	6055calBC – 5968calBC (66.1%) 5956calBC – 5904calBC (29.3%)
IAAA-103329	7,220 \pm 30	40.72 \pm 0.17	7,198 \pm 35	6076calBC – 6018calBC (68.2%)	6205calBC – 6191calBC (2.2%) 6184calBC – 6170calBC (1.9%) 6162calBC – 6141calBC (3.3%) 6111calBC – 5999calBC (87.9%)
IAAA-103330	4,860 \pm 30	54.63 \pm 0.20	4,788 \pm 31	3638calBC – 3629calBC (8.9%) 3584calBC – 3531calBC (59.3%)	3645calBC – 3520calBC(95.4%)
IAAA-103331	4,790 \pm 30	55.08 \pm 0.21	4,769 \pm 30	3634calBC – 3626calBC (6.9%) 3599calBC – 3551calBC (45.8%) 3542calBC – 3526calBC (15.5%)	3641calBC – 3516calBC (92.4%) 3409calBC – 3406calBC (0.4%) 3399calBC – 3384calBC (2.6%)
IAAA-103332	1,410 \pm 30	83.90 \pm 0.28	1,369 \pm 28	645calAD – 670calAD (68.2%)	613calAD – 686calAD (95.4%)
IAAA-112213	4,790 \pm 30	55.09 \pm 0.20	4,782 \pm 29	3636calBC – 3629calBC (7.3%) 3585calBC – 3531calBC (60.9%)	3641calBC – 3520calBC (95.4%)
IAAA-112214	4,690 \pm 30	55.79 \pm 0.20	4,740 \pm 28	3632calBC – 3561calBC (49.5%) 3536calBC – 3518calBC (13.5%) 3395calBC – 3386calBC (5.2%)	3635calBC – 3551calBC (55.4%) 3542calBC – 3501calBC (20.3%) 3429calBC – 3380calBC (19.7%)
IAAA-112215	1,150 \pm 20	86.68 \pm 0.25	1,210 \pm 24	777calAD – 831calAD (43.2%) 837calAD – 869calAD (25.0%)	718calAD – 743calAD (6.8%) 768calAD – 889calAD (88.6%)

[参考値]

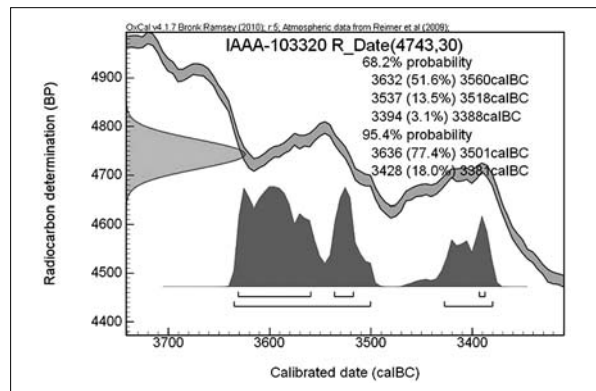
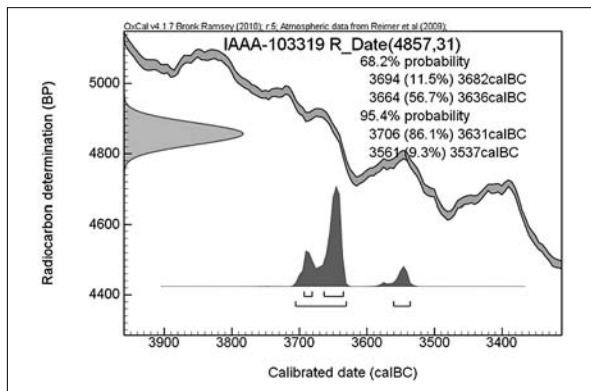
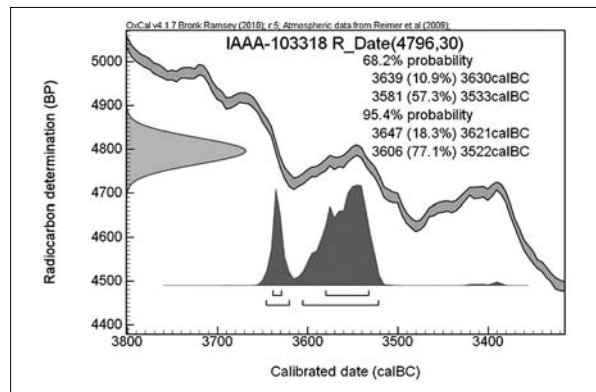
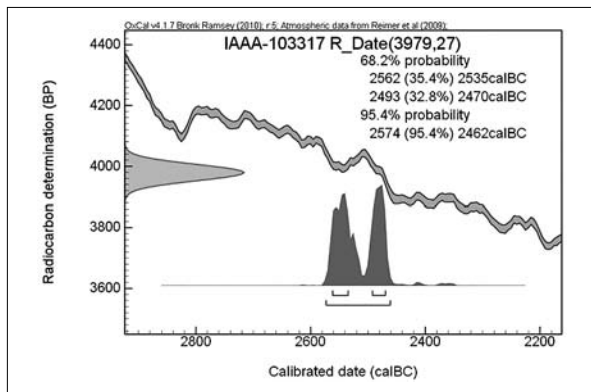
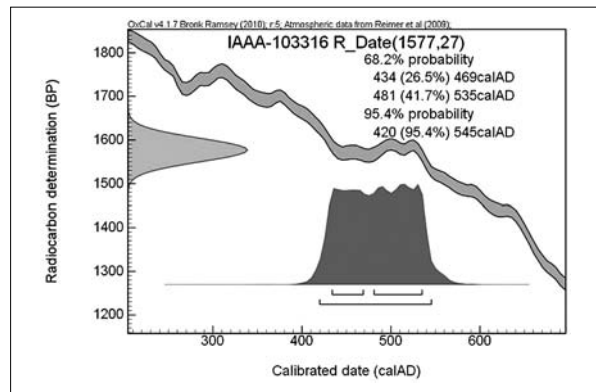
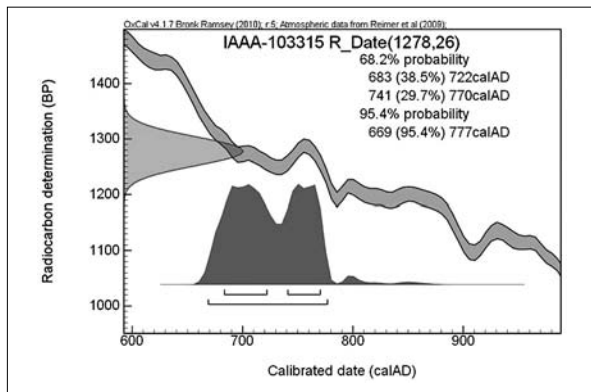
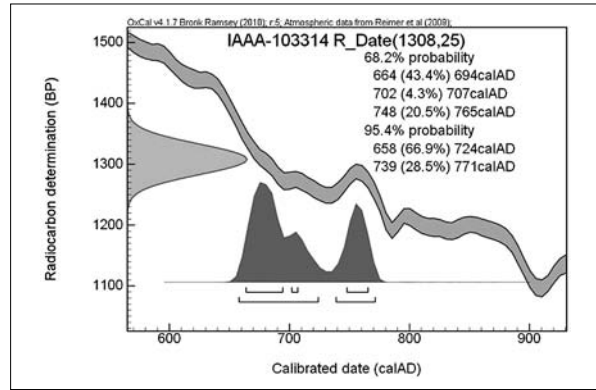
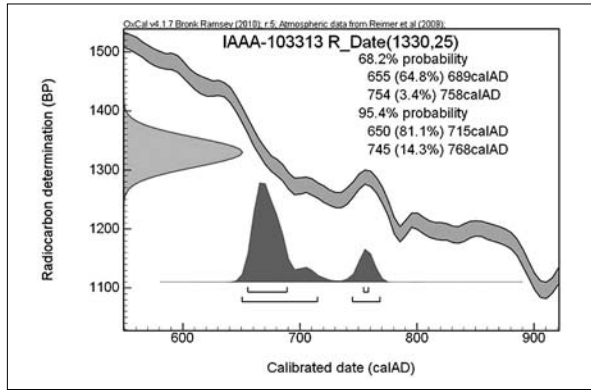
文献

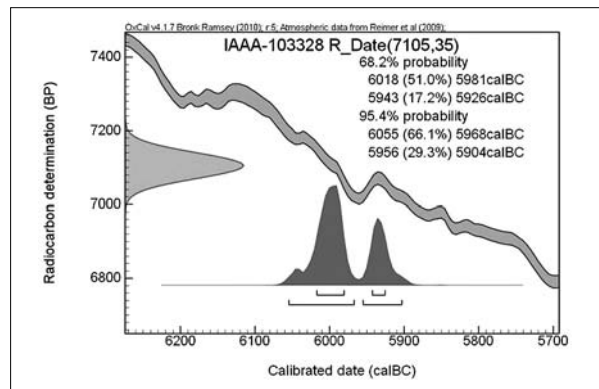
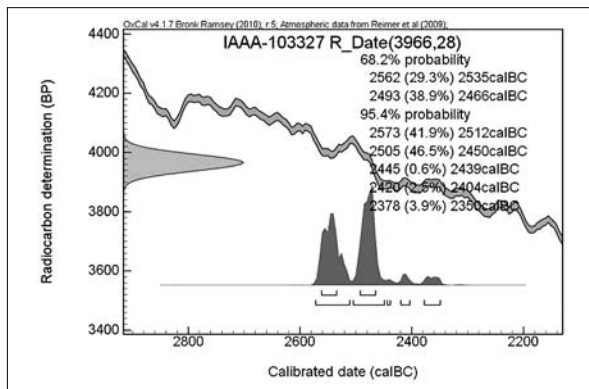
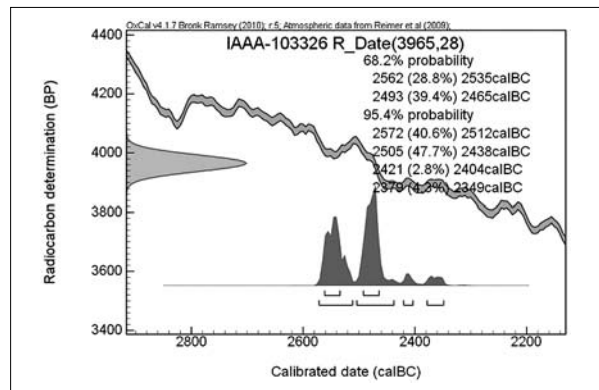
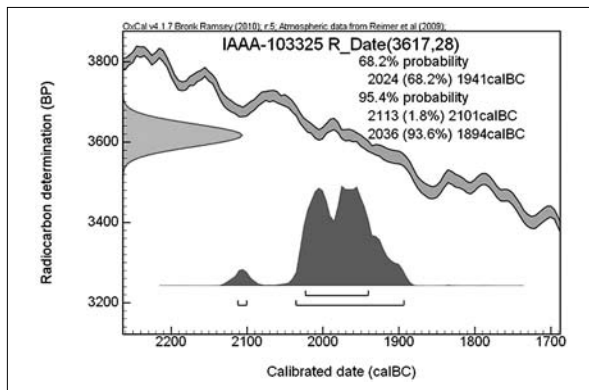
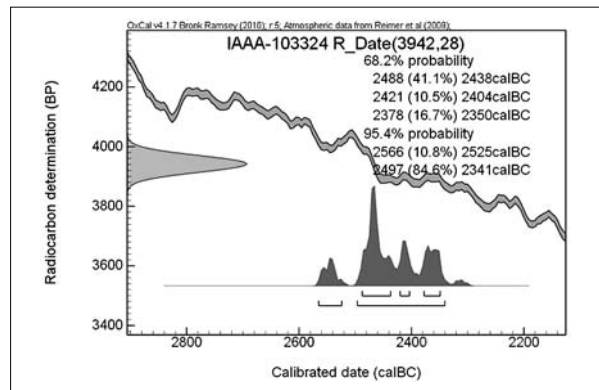
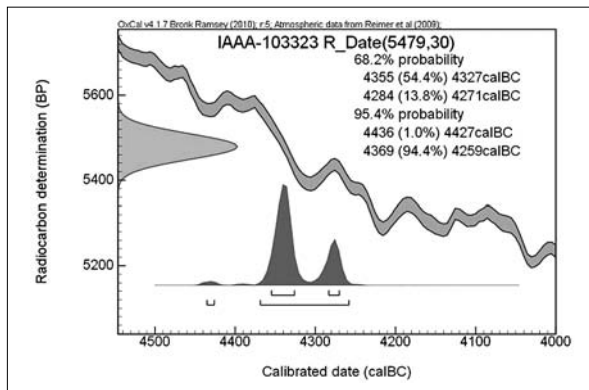
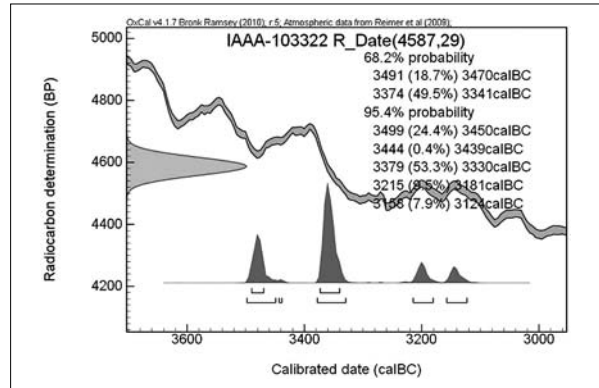
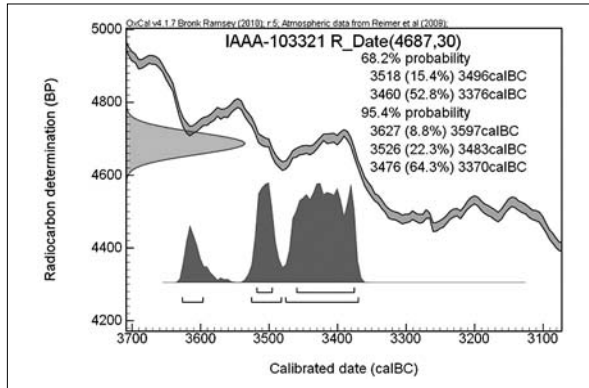
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

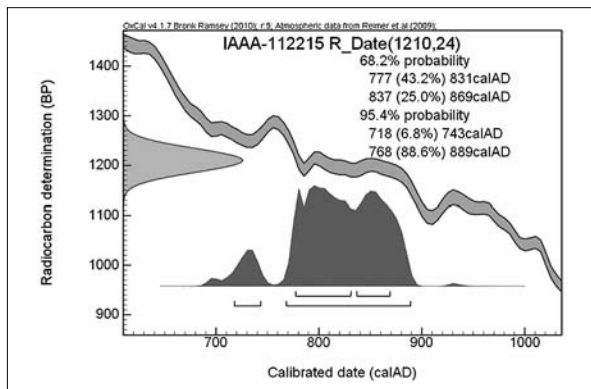
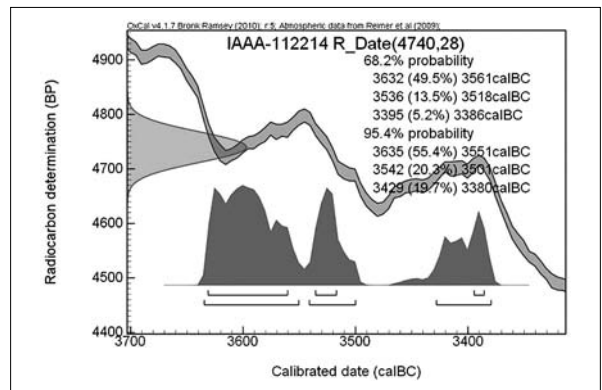
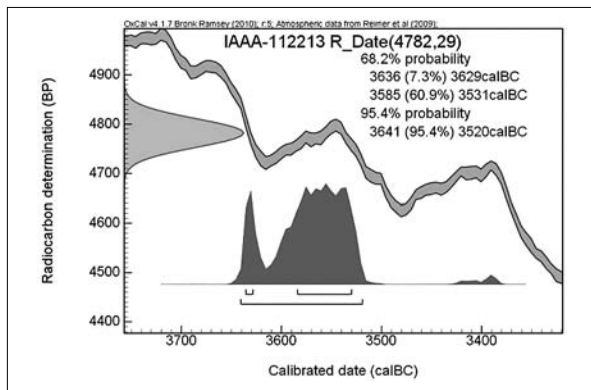
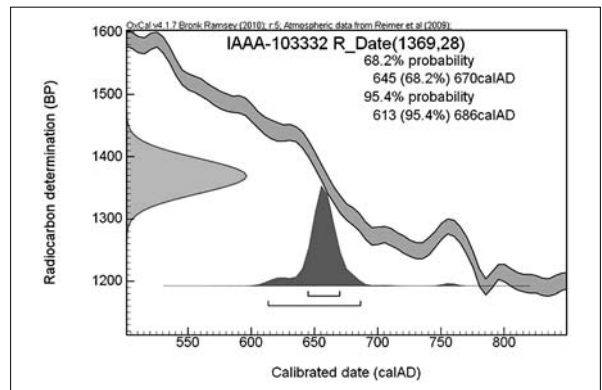
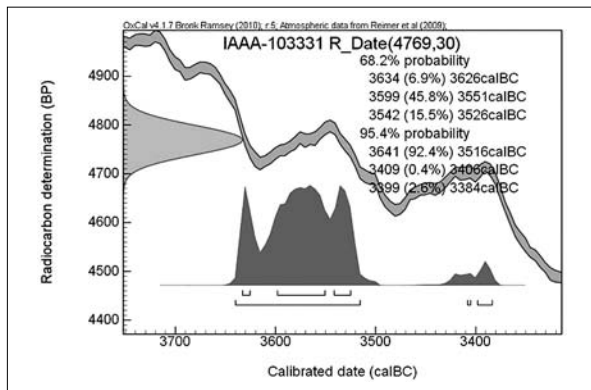
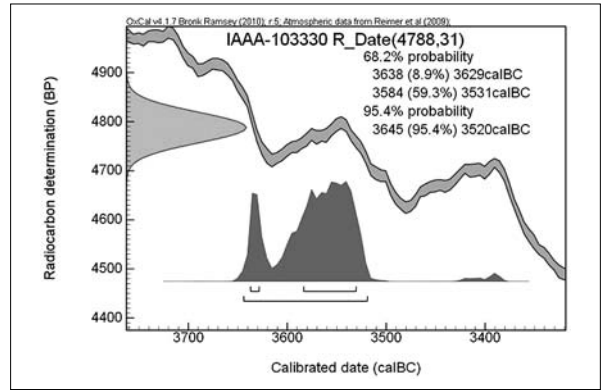
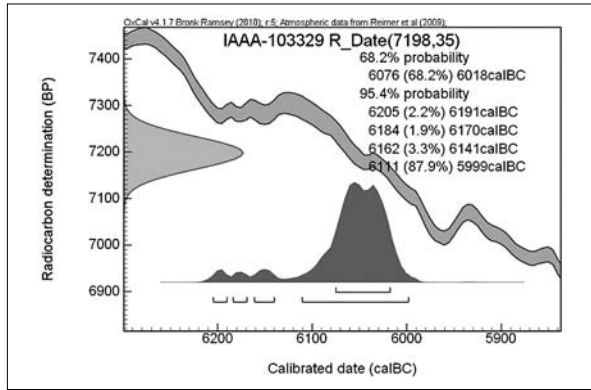
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves,

0 -50,000 years calBP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150







(平成23年 3月23日・平成24年 2月27日 受領)
 (平成23・24年度 愛場 点検・編集)

3. 炭化材樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

木古内遺跡は上磯郡木古内町に所在する、縄文時代から擦文文化期の遺跡である。ここから出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料はいずれも住居構築材と考えられる炭化材である。擦文文化期の竪穴住居跡SH-2から5点（Ki-01~05）、縄文時代後期の竪穴住居跡H-14から1点（Ki-06）とH-18から5点（Ki-07~10）、縄文時代前期の竪穴住居跡H-22から2点（Ki-11~12）とH-29から8点（Ki-13~20）、計20点である。

方法は、試料の三断面（横断面・接線断面・放射断面）を、手あるいはカッターナイフを用いて割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定、銀ペーストを塗布した。乾燥後、金蒸着して走査型電子顕微鏡（日本電子(株)製 JSM-5900LV型）を用いて樹種の同定を行った。

3. 結果

針葉樹が一分類群と、広葉樹はクリ、コナラ属コナラ節、トネリコ属の三分類群、計四分類群が確認された。樹種同定結果を表1に示す。以下に同定根拠となった木材組織の特徴を記載する。

(1) 針葉樹 Coniferous wood

仮道管、放射組織からなる針葉樹である。

(2) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。道管放射組織間壁孔は柵状となる。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木で、材は耐朽性・耐湿性に優れ、保存性が高い。

(3) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で加工困難である。

(4) トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科

晩材部では、非常に厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2~3個複合して、散在する環孔材である。道管の穿孔は単一、放射組織は同性で1~3列幅である。

トネリコ属は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモを含むシオジ節とトネリコ、アオダモなどを含むトネリコ節に分かれる。材は、トネリコ節は中庸~やや重硬、切削加工は容易で保存性も中庸、シオジ節はトネリコ節より重硬で強く粘りがあり、加工・保存性は中庸である。

表1 樹種同定結果

試料番号	遺構	現場取り上げ番号	重量(g)	時期	種別	樹種	形状(残存径、残存年輪数)
K i -01	S H -2	サンプル①	0.22	擦文文化期	住居構築材	トネリコ属	破片(1.0×1.3cm、24年輪)
K i -02	S H -2	サンプル③	2.27	擦文文化期	住居構築材	トネリコ属	破片(2.0×1.5cm、28年輪)
K i -03	S H -2	サンプル1	0.16	擦文文化期	住居構築材	針葉樹	破片(1.3×0.3cm、5年輪)
K i -04	S H -2	サンプル4	2.53	擦文文化期	住居構築材	トネリコ属	破片(3.5×1.8cm、34年輪)
K i -05	S H -2	サンプル5	0.36	擦文文化期	住居構築材	トネリコ属	破片(0.7×1.0cm、4年輪)
K i -06	H -14	遺物番号10	0.46	縄文時代後期	住居構築材	クリ	破片(1.0×1.0cm、11年輪)
K i -07	H -18	サンプル③	0.8	縄文時代後期	住居構築材	クリ	破片(1.2×1.0cm、8年輪)
K i -08	H -18	サンプル⑥	5.22	縄文時代後期	住居構築材	コナラ属コナラ節	破片(不明)
K i -09	H -18	サンプル⑩	0.83	縄文時代後期	住居構築材	クリ	破片(1.8×1.0cm、4年輪)
K i -10	H -18	サンプル⑬	0.29	縄文時代後期	住居構築材	クリ	破片(1.2×0.6cm、3年輪)
K i -11	H -22	炭2	0.24	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(1.2×0.3cm、3年輪)
K i -12	H -22	炭7	0.12	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(0.6×0.8cm、1年輪)
K i -13	H -29	サンプル①	0.26	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(0.7×0.3cm、2年輪)
K i -14	H -29	サンプル②	2.11	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(3.2×2.0cm、30年輪)
K i -15	H -29	サンプル④	0.77	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(1.3×1.3cm、5年輪)
K i -16	H -29	サンプル⑤	3.28	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(1.9×1.8cm、6年輪)
K i -17	H -29	サンプル⑦	1.8	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(2.3×1.1cm、4年輪)
K i -18	H -29	サンプル⑧	0.7	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(2.4×1.8cm、25年輪)
K i -19	H -29	サンプル⑪	5.5	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(不明)
K i -20	H -29	サンプル⑫	0.43	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(1.6×0.7cm、5年輪)

(平成24年 2月29日 受領)
(平成24年度 愛場 点検・編集)

4. 種実の同定

中村賢太郎・バンダリ スダルシャン (パレオ・ラボ)

1. はじめに

木古内遺跡は、上磯郡木古内町字木古内に所在し、標高6～11mほどの海岸段丘上に立地する。ここでは、縄文時代(時期不明)の焼土、縄文時代早期後半の竪穴住居跡、縄文時代前期後半の竪穴住居跡、縄文時代後期前葉の竪穴住居跡、擦文文化期の竪穴住居跡から出土した種実の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

同定対象試料は、K i - 1 ~ 77の77試料である。試料は、縄文時代(時期不明)の焼土F - 1 (K i - 68)、F - 2 (K i - 69)、縄文時代早期後半の竪穴住居跡H - 1 (K i - 66、67)、縄文時代前期後半の竪穴住居跡H - 8 (K i - 70、71)、H - 9 (K i - 72)、H - 22 (K i - 77)、縄文時代後期前葉の竪穴住居跡H - 14 (K i - 73)、H - 15 (K i - 74)、H - 17 (K i - 75)、H - 18 (K i - 76)、擦文文化期の竪穴住居跡S H - 1 (K i - 1 ~ 45)、S H - 2 (K i - 46 ~ 65)の各遺構から採取された。(公財)北海道埋蔵文化財センターにより各遺構から採取された土壌についてフローテーションが行われ、最小0.425mmの篩目で回収された試料から、種実の抽出が行われ、カプセル状容器に乾燥保存されていた。同定は、パレオ・ラボにおいて行い、実体顕微鏡下で検鏡し同定と計数を行った。

3. 結果

同定した結果、木本植物ではオニグルミ炭化核とウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮の二分類群、草本植物ではユリ科炭化鱗茎、イヌビエ属炭化種子、エノコログサ属炭化種子、イネ科炭化種子、タニソバ未炭化果実、イヌタデ未炭化果実、サナエタデーオオイヌタデ炭化果実、タデ科炭化果実、アカザ属未炭化種子、エノキグサ未炭化種子の十分類群の、計十二分類群であった。この他に、科以下の同定ができなかったものを不明炭化種実、残存が悪く同定不能な種実を同定不能炭化種実とした。表1・2に採取位置別の同定結果を示し、遺構別の産出傾向を記載する(不明と同定不能炭化種実を除く)。

[F - 1 : 縄文時代(時期不明)]

アカザ属未炭化種子1点が出土した。

[F - 2 : 縄文時代(時期不明)]

タニソバ未炭化果実4点が出土した。

[H - 1 : 縄文時代早期後半]

床面直上と焼土H F - 1からタニソバ未炭化果実が出土した。

[H - 8 : 縄文時代前期後半]

焼土H F - 2からイヌビエ属炭化種子、イネ科炭化種子、H F - 3からイヌビエ属炭化種子、タニソバ未炭化果実、イヌタデ未炭化果実、タデ科炭化果実が出土した。

[H - 9 : 縄文時代前期後半]

タニソバ未炭化果実、アカザ属未炭化種子が出土した。

[H-22：縄文時代前期後半]

ユリ科炭化鱗茎1点が出土した。

[H-14：縄文時代後期前葉]

タニソバ未炭化果実とサナエタデーオオイヌタデ炭化果実が出土した。

[H-15：縄文時代後期前葉]

エノコログサ属炭化種子1点が出土した。

[H-17：縄文時代後期前葉]

タニソバ未炭化果実とエノキグサ未炭化種子が出土した。

[H-18：縄文時代後期前葉]

ウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮1点が出土した。

表1 縄文時代の遺構から出土した種実（括弧は破片を示す）

分類群	部位/サンプル番号	縄文 (時期不明)		早期後半			前期後半				後期前葉			
		F-1	F-2	H-1	H-1 HF-1	H-8 HF-2	H-8 HF-3	H-9 HF-1	H-22 HP-1	H-14 HF-1	H-15 HF-1	H-17 F-1	H-18 HF-1	
		焼土	焼土	床面直上	焼土	(焼土)	(焼土)	焼土上面	覆土	(焼土)	(焼土)	(焼土)	(焼土)	
	水洗量 (g)	1,600	32,300	1,800	13,100	8,000	3,000	4,000	12,200	3,000	1,000	2,000	1,500	
		Ki-68	Ki-69	Ki-66	Ki-67	Ki-70	Ki-71	Ki-72	Ki-77	Ki-73	Ki-74	Ki-75	Ki-76	
ウルシ属-ヌルデ属	炭化内果皮												1	
ユリ科	炭化鱗茎								1					
イヌビエ属	炭化種子					1	1							
エノコログサ属	炭化種子										1			
イネ科	炭化種子					1								
タニソバ	未炭化果実		4	1	2		2	1		1			1	
イヌタデ	未炭化果実						1							
サナエタデーオオイヌタデ	炭化果実									(1)				
タデ科	炭化果実						1							
アカザ属	未炭化種子	1							1					
エノキグサ	未炭化種子												1	
不明	炭化種実				(1)		2							
同定不能	炭化種実								2				1	
炭化材	破片					3	2							
昆虫卵	炭化							13						
種	—								2					

[SH-1：擦文文化期]

床面直上では、タニソバ未炭化果実とエノキグサ未炭化種子が多く、その他にオニグルミ炭化核、ウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮、イヌタデ未炭化果実、アカザ属未炭化種子が出土した。焼土HF-1では、タニソバ未炭化果実が出土した。また、カマド周辺では、イネ科炭化種子とエノキグサ未炭化種子が出土した。

[SH-2：擦文文化期]

床面直上では、タニソバ未炭化果実が多く、その他にウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮、タデ科炭化果実、アカザ属未炭化種子、エノキグサ未炭化種子が出土した。焼土HF-1では、タニソバ未炭化果実がやや多く、その他にイネ科炭化種子とアカザ属未炭化種子が出土した。

表2 擦文文化期の遺構から出土した種実

分類群	部位／サンプル番号	遺構				
		SH-1	SH-1 HF-1	SH-1	SH-2	SH-2 HF-1
		床面直上	焼土	カマド周辺	床面直上	焼土上面
	水流量 (ml)	59,000	1,300	6,700	50,050	4,600
		K i - 1 ~ 43	K i - 44	K i - 45	K i - 46 ~ 63	K i - 64, 65
オニグルミ	炭化核	(1)				
ウルシ属-ヌルデ属	炭化内果皮	1			1	
イネ科	炭化種子			2		1
タニソバ	未炭化果実	14	1		23	4
イヌタデ	未炭化果実	1				
タデ科	炭化果実				1	
アカザ属	未炭化種子	3 (1)			1	1
エノキグサ	未炭化種子	17		1	4	
不明	炭化種実	1			2	
同定不能	炭化種実	(2)				
炭化材	破片				1	1
植物?	炭化	1			1	
虫えい	炭化	9			2	
子囊菌	炭化子囊	25		2	7	
昆虫卵	炭化	1				
	未炭化	1				
植物以外	不明	1				

次に、種実の形態的特徴を記載し、図版に写真を示して同定根拠とする。

(1) オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 炭化核

小破片である。核壁は緻密で堅く、表面には緩やかな起伏があり、浅い溝状の彫紋が見られる。

(2) ウルシ属-ヌルデ属 *Toxicodendron* - *Rhus* 炭化内果皮 ウルシ科

上面観は中央がやや膨らむ扁平、側面観は中央がややくびれた広楕円形で、片方が膨れる三角形になる。やや光沢があり、ざらついた質感がある。長さ2.9mm、幅2.1mm。

(3) ユリ科 Liliaceae 炭化鱗茎

形状は球形に近い。鱗片葉が密に層状に重なる点などからユリ科の鱗茎に類似する。長さ2.3mm、幅2.5mm。

(4) イヌビエ属 *Echinochloa* sp. 炭化種子 イネ科

側面観が卵形ないし楕円形、断面は片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広くうちわ型で、長さは全長の2/3程度と長い。長さ1.2mm、幅1.1mm。

(5) エノコログサ属 *Setaria* sp. 炭化種子 イネ科

上面観は楕円形、側面観は楕円形。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚があり、長さは全長の2/3程度。長さ1.3mm、幅1.2mm。

(6) イネ科 Gramineae 炭化種子

種子の上面観は楕円形、側面観は先端がやや尖る長楕円形。長さ1.2mm、幅0.5mm。

(7) タニソバ *Persicaria nepalensis* (Meisn.) H. Gross 未炭化果実 タデ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は円形。先端部が突出する。表面には微細な網目模様がある。長さ1.9mm、幅1.6mm。炭化、未炭化の判断に迷うものも含む。

(8) イヌタデ *Persicaria longiseta* (De Bruyn) Kitagawa 未炭化果実 タデ科

上面観は三角形、側面観は広卵形。先端部が突出する。表面は平滑で光沢がある。また、稜となる部分が幅広である。長さ1.9mm、幅1.2mm程度。

(9) サナエタデーオオイヌタデ *Persicaria scabra* (Moench) Mold. - *P. lapathifolia* (L.) S.F.Gray
炭化果実 タデ科

破片である。上面観は扁平で両凸レンズ形。先端がやや尖る。表面は平滑で光沢はない。残存長1.5mm、幅1.2mm。

(10) タデ科 *Polygonaceae* 炭化果実

上面観は三角形、側面観は卵形。先端がやや尖る。表面には微細な網目模様がある。長さ2.0mm、幅1.4mm。

(11) アカザ属 *Chenopodium* spp. 未炭化種子 アカザ科

上面観はやや扁平、側面観は円形。表面には強い光沢があり、硬い。着点の一端がやや突起し、中心部方向にむかって浅い溝がある。長さ1.2mm、幅1.1mm。

(12) エノキグサ *Acalypha australis* L. 未炭化種子 トウダイグサ科

側面観は倒卵形。表面には細かい網目模様がある。長さ1.7mm、幅1.2mm。炭化、未炭化の判断に迷うものも含む。

(13) 虫えい Gall

上面観は円形で、側面観は楕円形。表面は粗い。長さ3.0mm、残存幅2.1mm。

(14) 子囊菌 *Ascomycotina* 炭化子囊

球形あるいはゆがんだ球形で、表面には微細な網目模様がある。径1mm程度。

4. 考察

時期の異なる複数の遺構からタニソバ未炭化果実、イヌタデ未炭化果実、アカザ属未炭化種子、エノキグサ未炭化種子が多く出土したが、未炭化種実水分に富む還元的な環境でなければ残存しないと考えられる。木古内遺跡は立地から判断して非還元的な環境であり、遺構の使用・廃棄当時の種実は遺存しないと考えられる。したがって未炭化種実水分は、生物の活動によって後世に地表から二次的に移動したか、あるいは土壌の採取やフローテーションの際に風などにより運ばれ混入した現生の種実と考えられる。

以下、炭化種実に絞って考察する。

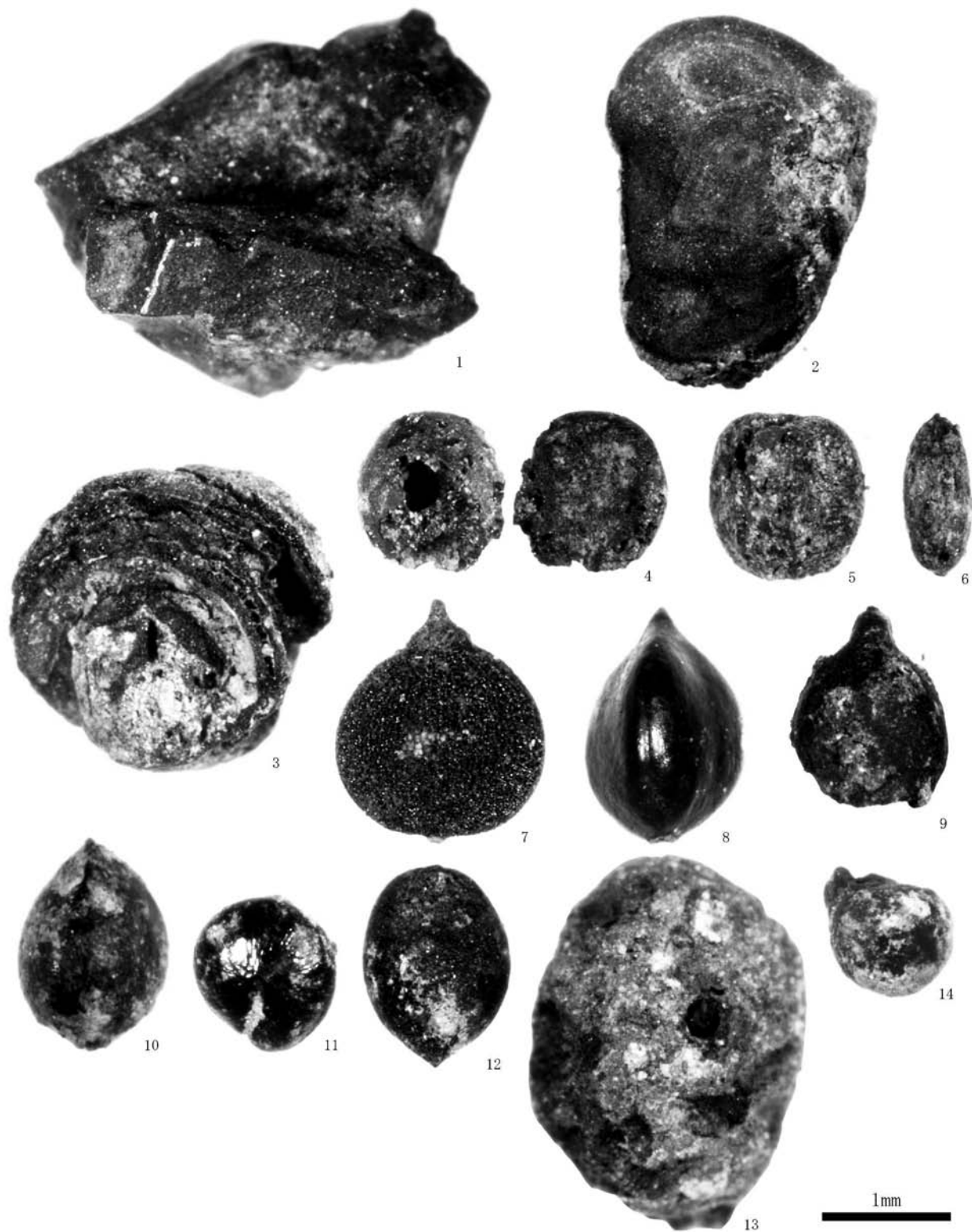
縄文時代前期後半の堅穴住居跡からは、ユリ科炭化鱗茎、イヌビエ属炭化種子、イネ科炭化種子、タデ科炭化果実が出土した。イヌビエ属、イネ科、タデ科は周囲に生えていたものが偶発的に炭化し混入した可能性の他、野生種が食用にされた可能性も考えられる。ユリ科炭化鱗茎は覆土からの出土であるが、食用にされた可能性が考えられる。

縄文時代後期前葉の堅穴住居跡からは、ウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮、エノコログサ属炭化種子、サナエタデーオオイヌタデ炭化果実が出土した。ウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮は、おそらく意図的に堅穴住居跡に持ち込まれたと考えられるが、利用法は不明である。エノコログサ属は、周囲に生えていたものが偶発的に炭化し混入した可能性の他、野生種が食用された可能性も考えられる。

擦文文化期の堅穴住居跡からは、オニグルミ炭化核、ウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮、イネ科炭化種子、タデ科炭化果実が出土した。オニグルミ炭化核はおそらく利用後の残滓と考えられる。ウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮は、縄文時代後期前葉と同様におそらく意図的に堅穴住居跡に持ち込まれたと考えられるが、利用法は不明である。イネ科やタデ科は周囲に生えていたものが偶発的に炭化し混入した可能性の他、野生種が食用された可能性も考えられる。

(平成24年 2月29日 受領)

(平成24年度 愛場 点検・編集)



図版1 木古内遺跡出土種実の实体顕微鏡写真

1. オニグルミ炭化核 (K i - 4)
2. ウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮 (K i - 46)
3. ユリ科炭化鱗茎 (K i - 77)
4. イヌビエ属炭化種子 (K i - 70)
5. エノコログサ属炭化種子 (K i - 74)
6. イネ科炭化種子 (K i - 64)
7. タニソバ未炭化果実 (K i - 64)
8. イヌタデ未炭化果実 (K i - 71)
9. サナエタデ-オオイヌタデ炭化果実 (K i - 73)
10. タデ科炭化果実 (K i - 50)
11. アカザ属未炭化種子 (K i - 33)
12. エノキグサ未炭化種子 (K i - 21)
13. 虫えい (K i - 35)
14. 子囊菌 (K i - 40)

5. P-12出土人骨について

松村博文（札幌医科大学）

北海道渡島半島に位置する木古内遺跡のP-12土坑墓より、近世（江戸時代相当期）の時期のものとみられる人骨が1体検出された。保存状態ならびに部位同定の結果と、性別、年齢、帰属集団の推定結果など的人类学的所見を記す。保存状態の比較的良好な歯については、取り上げ時に遺物番号が与えられている。それらの歯種の同定結果は、冠計測値とともに表1に示した。また図1にこれらの歯とともに残存する比較的大きな骨片の写真を付した。

所見

人骨の遺存状態は不良であり、頭部については、土坑墓内では輪郭は明瞭ではあったが、形を保って取り上げられたのは右頭頂骨と歯および右上顎骨と右下顎骨の一部のみである。これらの骨片はいずれも表面は保たれているが、内部は溶融が進んでおり、骨厚が極めて薄くなっている。歯は17点の歯冠が良好に残存し、うち16点については歯種の同定が可能であった。咬耗は、第1大臼歯以外は歯髄までいたらない軽度のレベル（第1大臼歯 Broca 1度、その他の歯 Broca 2度）である。従って年齢は、壮年（20-40歳）と推定される。切歯には和人特有の強いシャベル形を呈しているのが認められる。四肢と体幹については、土坑墓内で輪郭を確認されていたが、比較的大きな部位として取り上げることができたのは左右の脛骨の一部のみであった。頭部と同様に、かなり溶融が進んでおり、緻密質が失われ薄くなっているため、かなり変形している

性別

性別については、歯の大きさから推定するほかはない状態にある。一般にヒトには歯冠の大きさに有意な性差が存在することが知られていることから、残存する歯の歯冠計測値の組み合わせを用いた線形判別分析により、性別の判定をおこなった。判別関数を導くにあたっては、どのグループを母集団として用いるかが問題になる。被葬者は屈葬の様式で埋葬されており、アイヌ文化に特有の副葬品も検出されていないこと、和人が入植していた松前という地理的位置からも、和人の可能性が高いとみられるので、江戸時代の関東地方の和人を母集団として用いた。とはいえ、被葬者の帰属集団は明確とはいえないので、アイヌをもとにした性判別分析も試みた。結果は表2に示されるとおりである。係数の算出にはステップワイズ法を用いている。これらの係数を用いて算出された判別得点が正なら男性、負なら女性である。江戸時代の和人をもとにした分析では、高い正答率の判別式が導かれており、この式を適用し計算された本被葬者の判別得点は正の値となり男性と判別された。その確率は99.2%と極めて高い。アイヌを用いた性判別分析の結果でも99.3%の確率で男性と判別された。従って、帰属集団がどちらであっても、本被葬者は男性とみなしてよい。

帰属

埋葬様式が屈葬であることから本被葬者が和人ではないかとみられているが、より客観的な推定をおこなうため、歯冠計測値から帰属集団の判別をおこなった。結果は表3に示されるとおりである。母集団である江戸時代の人と北海道アイヌから、ステップワイズ法により算出された、これら2グループを判別するための係数が示されている。これらの係数で98%の精度で判別が可能である。これらの

係数を用いて算出された判別得点が正なら和人、負ならアイヌである。結果として本被葬者は、99.9%の確率をともなって和人と判別された。

まとめ

木古内遺跡P-12土坑墓出土の人骨は保存状態が極めてよくない状態であったが、残存する歯の計測データから、かなり高い確率をともなって和人の壮年男性と推定された。

(平成23年3月25日 受領)

(平成24年度 愛場 点検)

表1. 木古内遺跡P-12出土人骨の検出された歯種と歯冠計測値 (単位: mm)

		左		右			
		記号	近遠心径	頬舌径	記号	近遠心径	頬舌径
上顎	中切歯						
	側切歯			K	7.27	5.81	
	犬歯			L	8.21	9.10	
	第1小臼歯	B	7.67	9.27	E	7.30	9.52
	第2小臼歯						
	第1大臼歯	A	10.34	11.78			
	第2大臼歯	C	9.75	舌側破損			
	第3大臼歯	F	8.17	10.40			
	下顎	中切歯	P	5.10	6.23		
側切歯		Q	6.30	6.70			
犬歯					H	6.99	7.76
第1小臼歯					M	7.81	8.21
第2小臼歯					N	7.22	8.18
第1大臼歯					I	11.70	10.56
第2大臼歯					J	11.21	9.91
第3大臼歯		D	11.01	9.87	G	10.72	9.54

記号: 検出取り上げの際に附された整理記号、Oは歯種不明
イタリック数値: 性判別分析に用いた計測値

表2 木古内遺跡P-12出土人骨の歯冠計測値にもとづく性判別分析の結果

		江戸時代和人に よる判別係数	アイヌによる判 別係数
歯冠近遠心径			
上顎	犬歯		1.922
上顎	第1小白歯		2.097
上顎	第1大白歯		-3.156
上顎	第2大白歯	-1.580	
下顎	犬歯		-5.841
歯冠頬舌径			
上顎	犬歯	-1.790	-1.264
上顎	第1小白歯	1.597	-2.917
上顎	第1大白歯	0.612	
下顎	犬歯		-2.689
下顎	第1小白歯	-1.369	5.483
下顎	第1大白歯		2.910
定数		18.592	24.382
判別分析に用いた個体数		38	51
元の関数の判別正答率		86.8%	97.6%
木古内P-12の性判別得点		2.338	0.876
木古内P-12の性判別結果		男性	男性
木古内P-12の性判別確率		99.2%	99.3%

表3 木古内遺跡P-12出土人骨の歯冠計測値にもとづく帰属集団の判別分析の結果

江戸時代和人とアイヌをもとにした判別係数		
歯冠近遠心径		
上顎	第1小白歯	-1.351
上顎	第1大白歯	0.821
上顎	第2大白歯	-0.790
下顎	第1小白歯	2.192
歯冠頬舌径		
上顎	犬歯	-1.142
下顎	第1小白歯	-2.678
下顎	第2小白歯	-0.622
下顎	第1大白歯	1.792
定数		8.786
判別分析に用いた個体数		46
元の関数の判別正答率		97.8%
木古内P-12の帰属集団判別得点		2.206
木古内P-12の帰属集団判別結果		和人
木古内P-12の帰属集団判別確率		99.9%



图1 木古内遺跡 P-12出土人骨

6. P-12出土人骨の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS年代測定グループ
中村賢太郎・山形秀樹・伊藤 茂・尾崎大真・丹生越子・廣田正史
小林紘一・Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani

1 はじめに

北海道木古内町に位置する木古内遺跡より検出された、近世以降と推測される人骨について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。また、人骨コラーゲンが土壌中の有機物などにより骨の外部から汚染されていないかを評価するために炭素窒素比（C/N比）も測定した。さらに、海産物の摂取による ^{14}C 年代への海洋リザーバー効果の影響を検討するため、炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}$ ）に基づいて、摂取された食物の種類について検討した。

2 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

P-12は方形の土坑墓であり、その中から埋葬された人骨が検出された。残存部位は頭部と左右の脛部であった。測定対象は一方の腓骨である。人骨には時期を推定できる遺物が伴っていなかった。

腓骨は状態が非常に悪く、発掘調査現場での取上げのためにコーティング剤（パラロイドB72）が塗布されていた。超音波洗浄及びアセトン洗浄を施し、表面の汚れとパラロイドB72を除去した後、試料からコラーゲンを抽出し、それを用いて ^{14}C 年代、C/N比、 $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ の測定を行った。

^{14}C 年代の測定では、試料調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正（AMSで測定した $\delta^{13}\text{C}$ による）を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）であるFlash EA1112（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいてC/N比（原子数比）を算出した。

炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ ）および窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}_{\text{Air}}$ ）の測定には、質量分析計DELTA V（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。

表1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-16493	遺構：P-12 その他：方形の墓	試料の種類：ヒト腓骨 状態：dry その他：一部パラロイドB72処理	アセトン処理 超音波洗浄 コラーゲン抽出

3 結果

(1) 放射性炭素年代測定

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載

した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の実験誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期5730 \pm 40年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1 (較正曲線データ: Intcal09) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表2 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
P L D -16493	-17.24 \pm 0.12	123 \pm 16	125 \pm 15	1685AD(9.9%)1699AD 1721AD(7.0%)1732AD 1808AD(6.5%)1818AD 1833AD(36.4%)1880AD 1916AD(8.5%)1928AD	1682AD(27.2%)1736AD 1805AD(54.8%)1892AD 1907AD(13.4%)1935AD

(2) 炭素窒素比

表3にC/N比を示す。C/N比は抽出したコラーゲンの質を確認する方法として用いられる。現生動物骨から抽出したコラーゲンのC/N比は2.9~3.6を示すとされる。今回の結果は3.85であり、大きく外れてはいないものの、人骨コラーゲンは土壌中の有機物などにより骨の外部から汚染されている可能性がある。

(4) 炭素・窒素安定同位体比

表3に抽出したコラーゲンの $\delta^{13}\text{C}$ と $\delta^{15}\text{N}$ を示す。図2では、生前に摂取していたタンパク源を推定するために食物の範囲と共にプロットした。また、比較のために伊達元成の報告(伊達 2010)から引用した北海道伊達市有珠4遺跡の近世アイヌ(1640年以降)の値($n=7$)を示した。有珠4遺跡は海岸近くに立地する遺跡であり、アイヌ墓から検出された人骨が分析されている。その他、南川雅男の論文(南川 2001)から引用した樺太と北海道の近世アイヌ($n=5$)および愛媛県の近世和人($n=4$)の値も示した。人が食物中のタンパク質を利用して体組織を構成する際に同位体分別が起き、 $\delta^{13}\text{C}$ は4.5‰、 $\delta^{15}\text{N}$ は3.5‰、重い同位体が濃縮する。図2では人骨コラーゲンの値から濃縮分を差し引いてある。

表3 炭素・窒素安定同位体比測定結果

遺構	試料種	C/N比	安定同位体比	
			$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$	$\delta^{15}\text{N}_{\text{AIR}}$
遺構: P-12 その他: 方形の墓	ヒト腓骨	3.85	-17.3	10.6

4 考察

炭素・窒素安定同位体比を示した図2において、木古内遺跡P-12出土人骨は、C₃植物や草食動物といった陸産物と海棲哺乳類や海産魚類などの海産物との間にプロットされた。陸産物側に偏っているが、海産物もある程度摂取していた可能性も考えられる。したがって、P-12出土人骨の¹⁴C年代は海洋リザーバー効果の影響を受け古く出ている可能性がある。

¹⁴C年代の暦年較正を行った結果、2σ暦年代範囲は1682–1736cal AD (27.2%)、1805–1892cal AD (54.8%)、1907–1935cal AD (13.4%)を示した。較正曲線が比較的平坦な時期に該当するため、暦年代範囲が複数にわたり、年代を絞り込むことが難しい。上に述べたとおり、海洋リザーバー効果の影響で年代値が古くなっている可能性があるため、人骨の年代は17世紀後葉よりも新しい「ある時期」と考えることが妥当である。

また、図2における他遺跡との比較では、木古内遺跡P-12出土人骨は陸産物側に偏る傾向が見られ、海産物に大きく依存する伊達市有珠4遺跡のアイヌとはタンパク源の摂取割合が異なっていたと言える。食物摂取の仕方に関して、木古内遺跡P-12出土人骨が、どういった集団と近いのかは、比較対象を増やして改めて検討する必要がある。

なお、C/N比は人骨コラーゲンが土壌中の有機物などにより骨の外部から汚染されている可能性を示唆しており、¹⁴C年代、 $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ が本来の値とは異なっている可能性を考慮する必要がある。

引用参考文献

赤澤威・南川雅男 (1989) 炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元。

田中琢・佐原眞編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」：132–143、クバプロ。

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), 337–360.

伊達元成・青野友哉・大島直行・松田宏介 (2008) 陸産・海産の食料資源摂取率を人骨の炭素14年代から求める試み。総研大文化科学研究、5、73–80。

伊達元成 (2010) 有珠4遺跡における人骨と動物骨および漆製品の放射性炭素 (¹⁴C) 年代測定。

青野友哉・三谷智広編「有珠4遺跡発掘調査報告書」：121–124、伊達市噴火湾文化研究所。

DeNiro, M. J. (1985) Postmortem preservation and alteration of *in vivo* bone-collagen isotope ration in relation to pale dietary reconstruction. *Nature*, 317, 806–809.

南川雅男 (2001) 炭素・窒素同位体分析により復元した先史日本人の食生活。

国立歴史民俗博物館研究報告、86、333–357。

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」：3–20、日本第四紀学会。

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G. S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K. A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009)

IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0 – 50,000 Years cal BP.

Radiocarbon, 51, 1111–1150.

Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa (2002).

Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Na-

gano, Japan. Radiocarbon 44 (2), 549–557.

吉田邦夫・西田泰民（2009）考古科学が探る火炎土器.

新潟県立歴史博物館編「火炎土器の国 新潟」：87–99、新潟日報事業社.

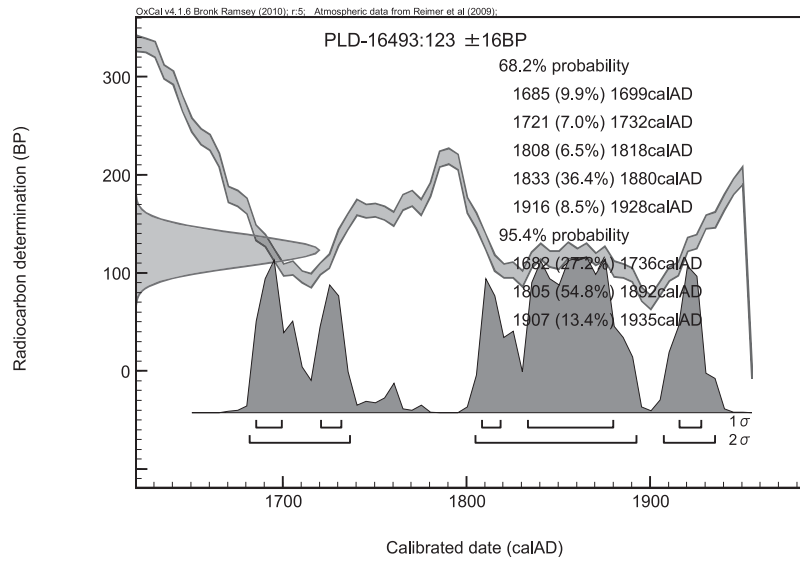


図1 暦年較正結果

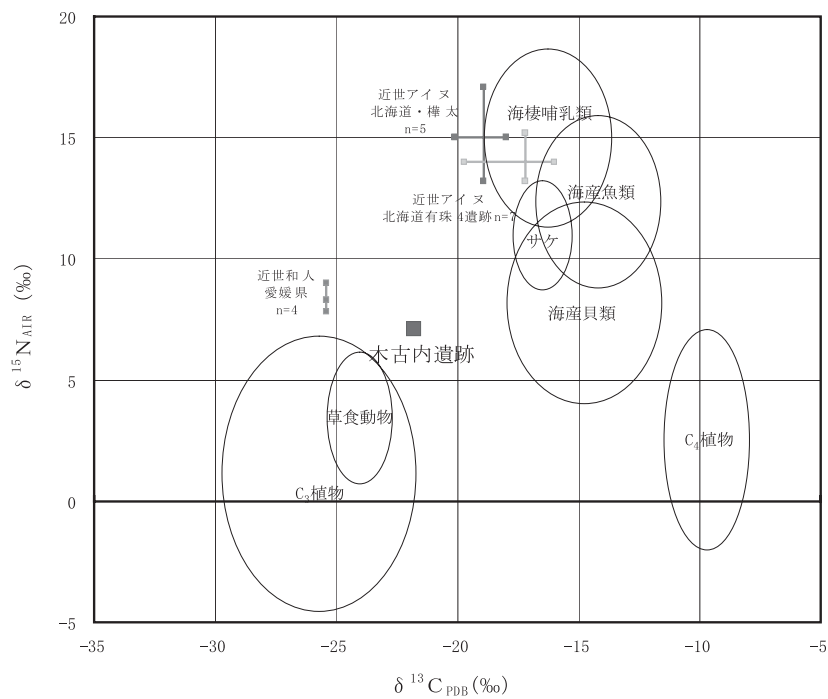


図2 安定同位体比

(平成22年11月19日 受領)
 (平成23・24年度 愛場 点検)

写真図版



遺跡遠景（鉄塔奥）



表土除去後地形

図版 2



基本土層（P 56 付近）



調査区南西側調査終了状況（北から）



SH - 1 土層断面



SH - 1 遺物出土状況

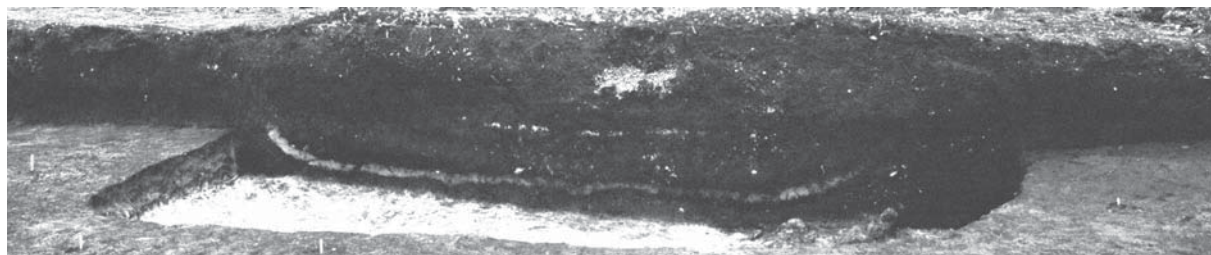


HF - 1 および煙道土層断面



HF - 1 周辺遺物出土状況

図版 4



SH - 2 土層断面



煙道土層断面



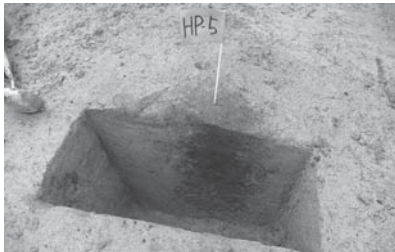
HF - 1 土層断面



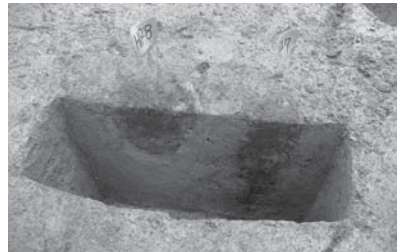
SH - 2 完掘状況



H - 1 土層断面



HP - 5 土層断面



HP - 7・8 土層断面



HP - 9 土層断面



H - 1 遺物出土状況

图版 6



H - 2 土层断面



HP - 1 土层断面



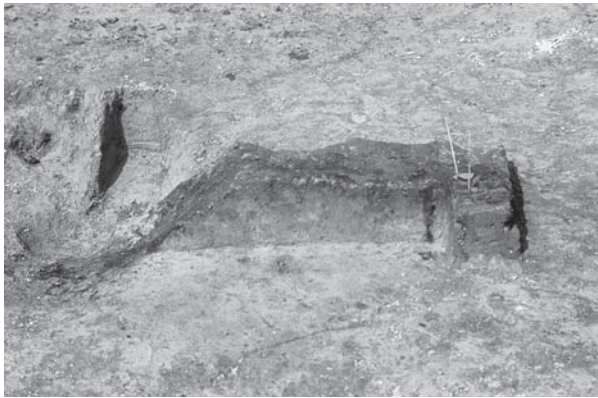
HP - 2・3 完掘状况



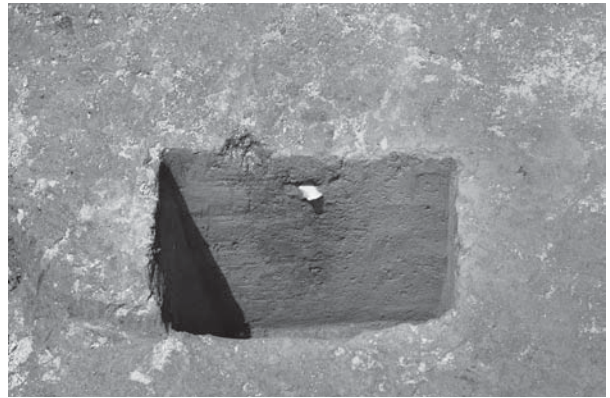
H - 2 完掘状况



H - 3 土層断面



HF - 1 土層断面



HP - 1 土層断面



H - 3 完掘状況

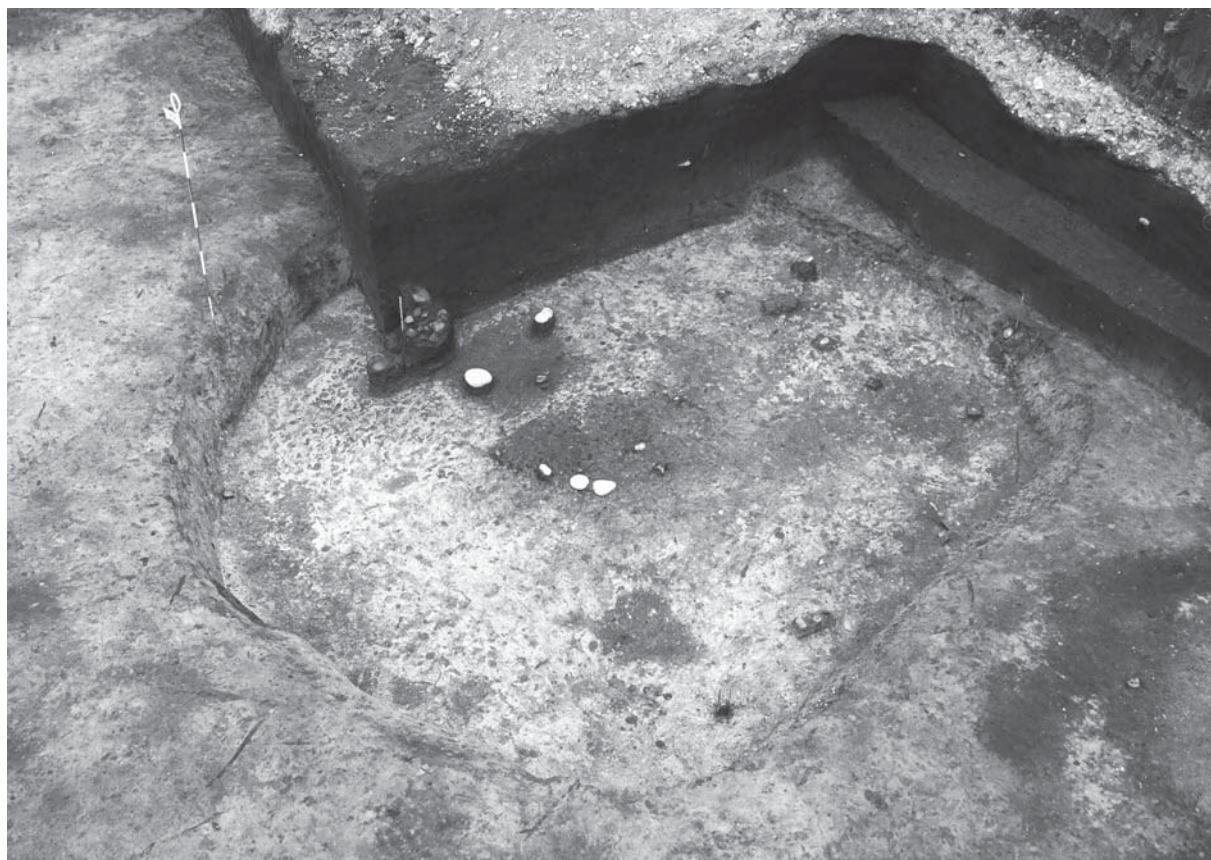
図版 8



H - 4 上面遺物出土状況



H - 4 土層断面



H - 4 遺物出土状況



H - 4 付属遺構土層断面



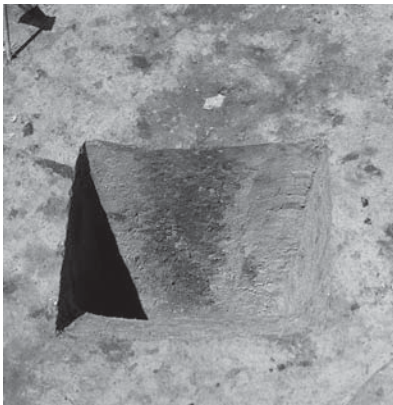
H - 4 完掘状況



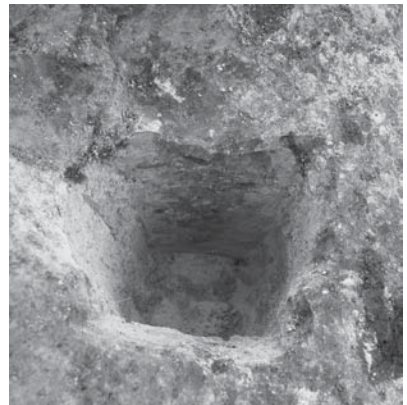
H - 5 土層断面



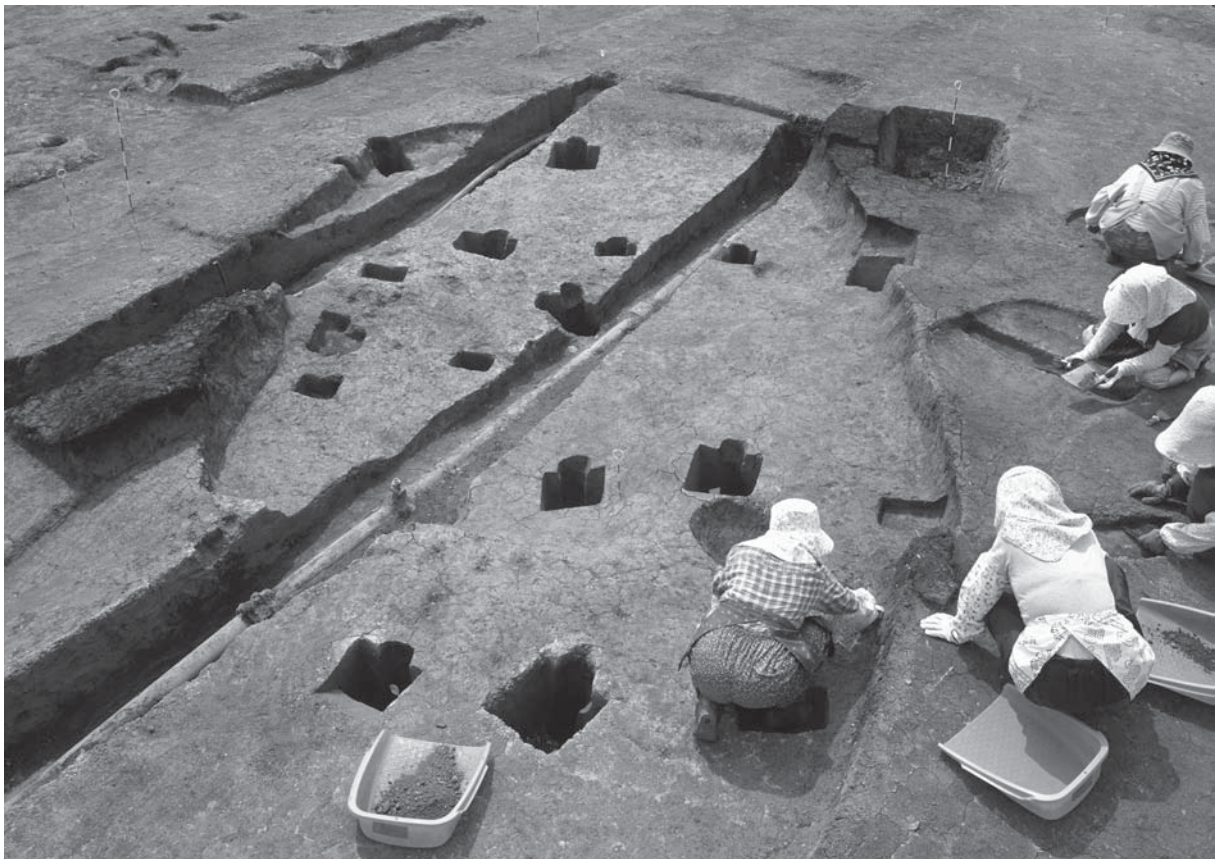
HP - 4 土層断面



HP - 9 土層断面



HP - 11 土層断面



H - 5 完掘状況



H - 6 土層断面



H - 6 遺物出土状況



H F - 1 土層断面



H - 6 完掘状況



H - 7 ~ 12 調査状況



調査状況 (H - 9 掘り上げ土検出)



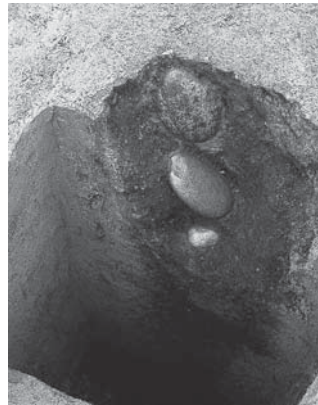
H - 7 土層断面



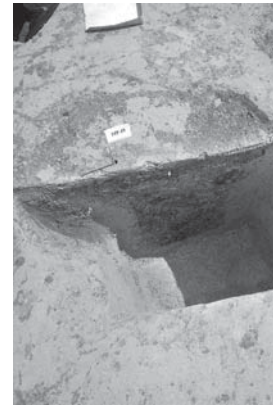
HP - 16 土層断面



覆土中土器出土状況



HP - 4 遺物出土状況



HP - 13 土層断面



H - 7 完掘状況



H - 8 土層断面



HP - 1 遺物出土状況



HF - 3 遺物出土状況



H - 8 完掘状況



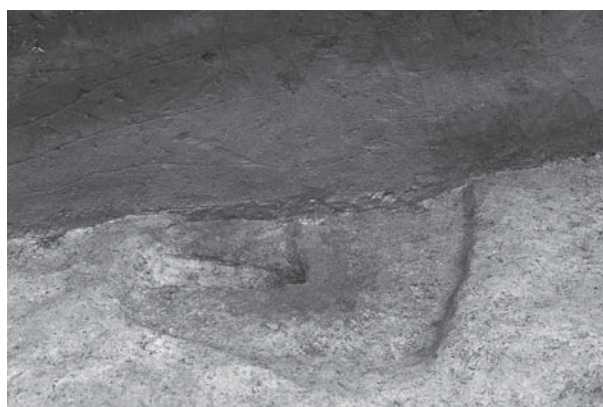
周溝検出状況



HP - 6 土層断面



H - 9 土層断面



H F - 1 検出状況



H P -11 遺物出土状況



H - 9 覆土中遺物出土状況



H - 9 完掘状況



H-10 土層断面



石製品出土状況



HP-4・5・6 土層断面



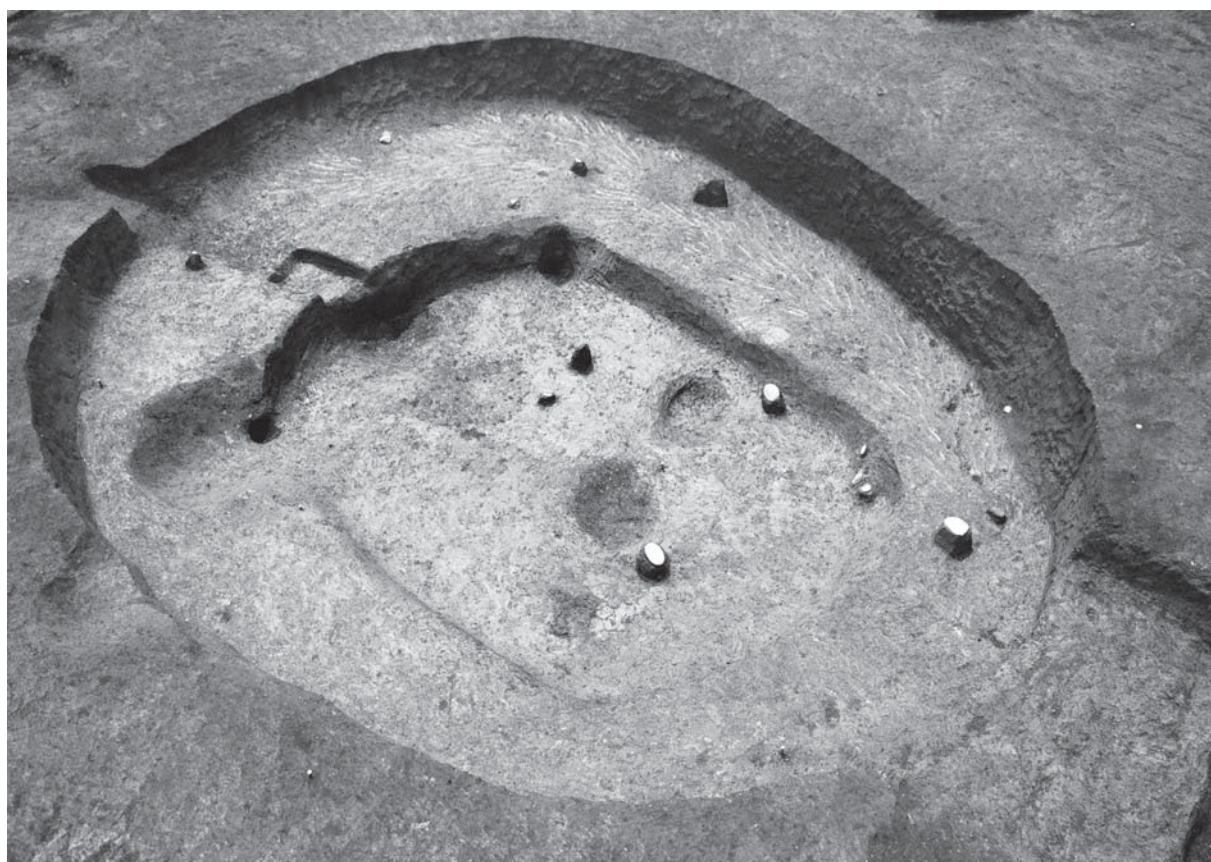
HP-10 土層断面



H-10 完掘状況



H-11 土層断面



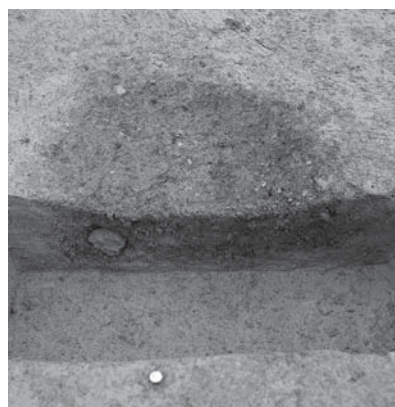
H-11 遺物出土状況



HP-2 土層断面



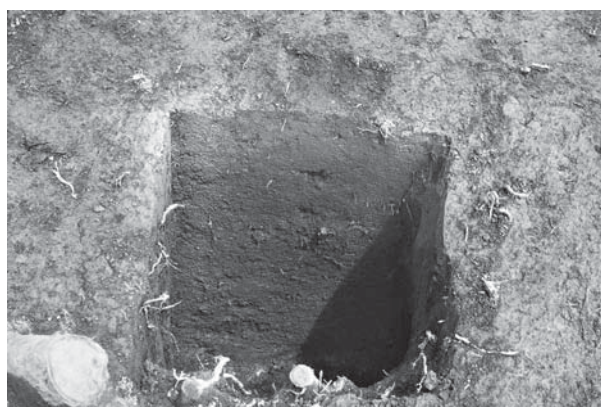
HP-3 土層断面



HP-5 土層断面



H-12 土層断面



HP-1 土層断面



HP-2 土層断面



H-12 完掘状況



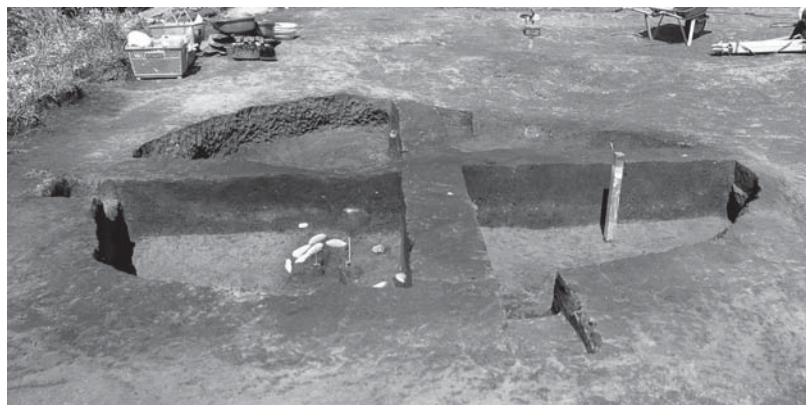
H-13 土層断面



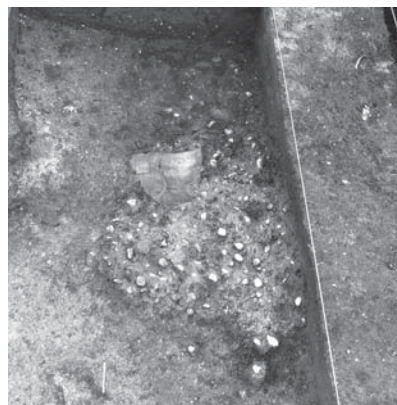
H-13 完掘状況



H-17・18・14 調査状況



H-14 土層断面



覆土中小礫出土状況



礫出土状況



H F - 1 検出状況



周溝完掘状況



H-14 完掘状況



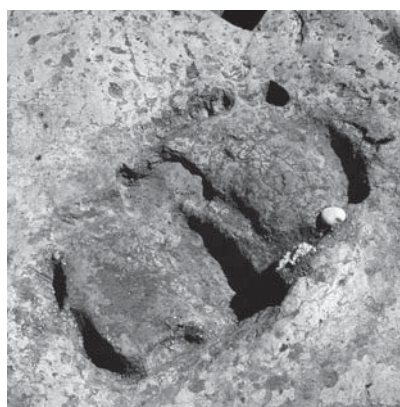
H-15 遺物出土状況



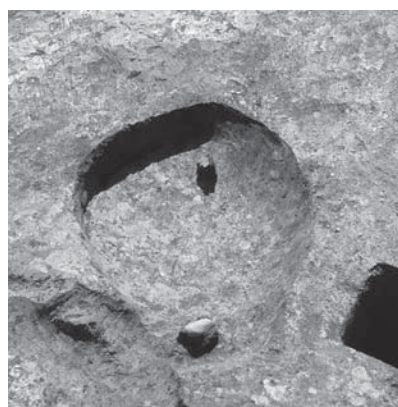
H-16 遺物出土状況



H-17 土層断面



HF-1 完掘状況



HP-1 完掘状況



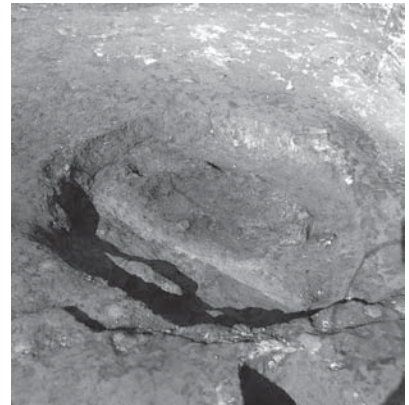
周溝1 土層断面



H-17 完掘状況



H-18 土層断面



HF-1 土層断面



炭化材検出状況



HP-1・2・3 完掘状況



H-18 完掘状況



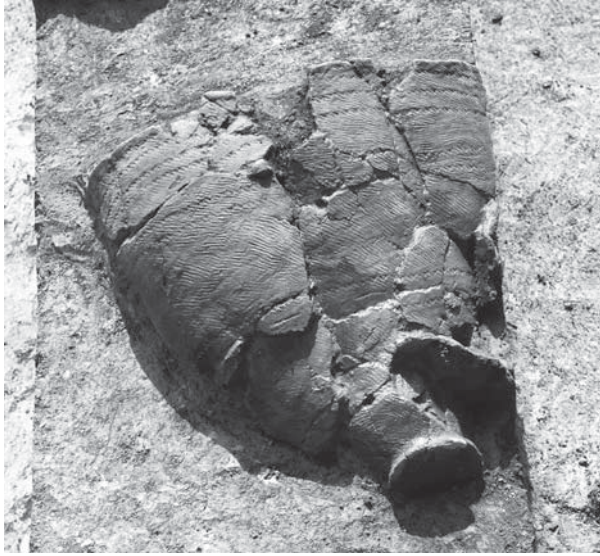
H-19 土層断面



H-19 遺物出土状況



H-20 土層断面



H-20 覆土中土器出土状况



覆土中土器出土状况



H-20 遺物出土状况



床面石器出土状况



床面石器出土状况



HP - 1・2・10 完掘



HP - 6 遺物出土状況



HP - 7 土層断面



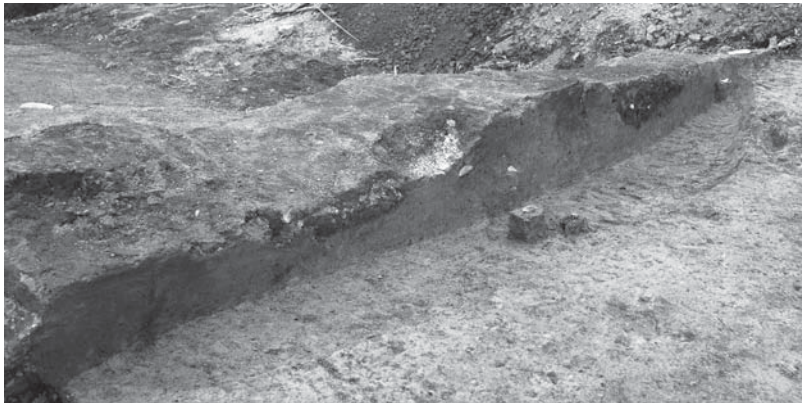
周溝 2 土層断面



H -20 完掘状況



H-21 西側土層断面



H-21 東側土層断面



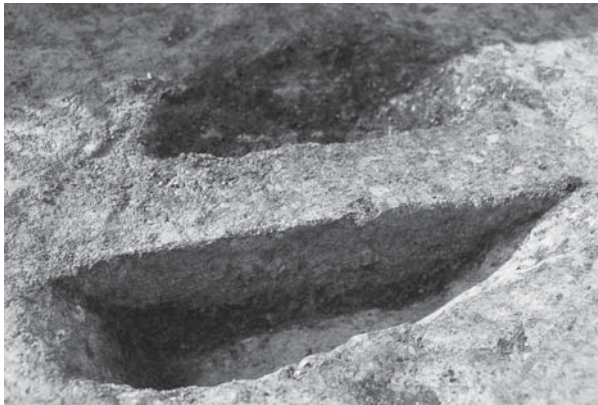
周溝 1 完掘状況



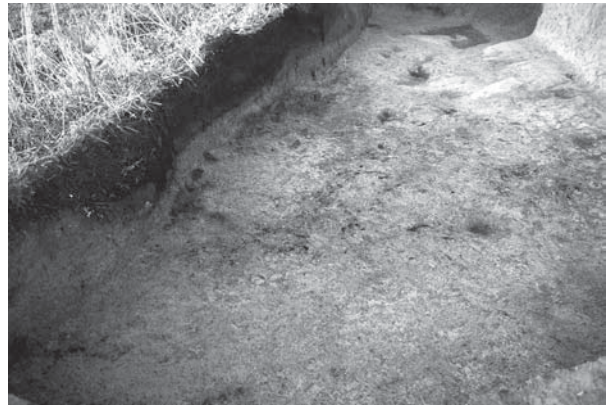
H-21 遺物出土状況



H-22 土層断面



HP-1 土層断面



炭化材出土状況



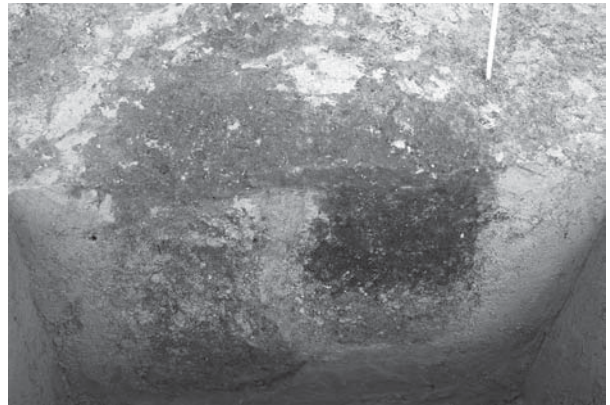
H-22 完掘状況



H-23 土層断面



覆土中土器出土状況



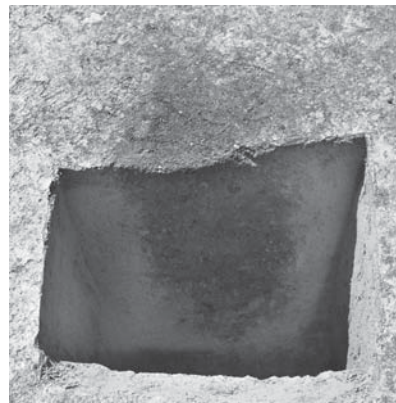
HP-3A・B土層断面



H-23 完掘状況



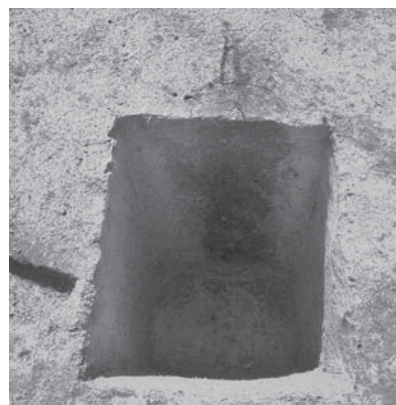
H-24 土層断面



HP-2 土層断面



H-24 西側完掘状況



HP-3 土層断面



H-24 東側遺物出土状況



H -25 土层断面



H -25 完掘状况



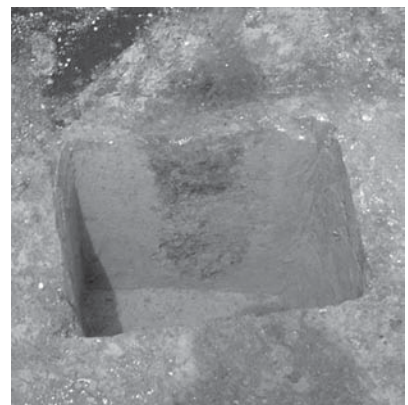
H -26 土层断面



H -26 完掘状况



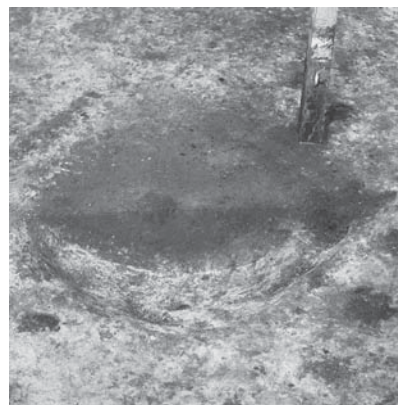
H -26 HP - 1 土层断面



H -26 HP - 2 土层断面



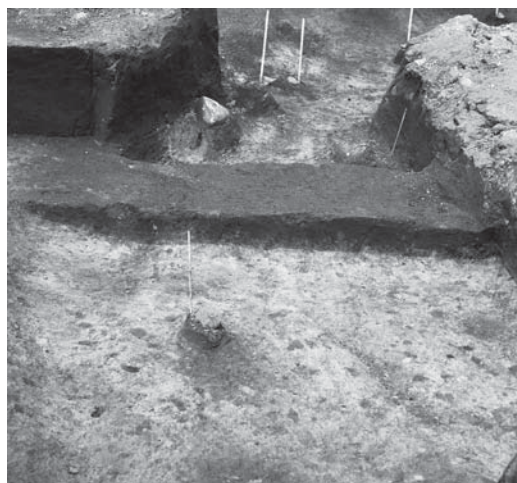
H-27 土層断面



HP-1 土層断面



H-27 完掘状況



H-28 土層断面



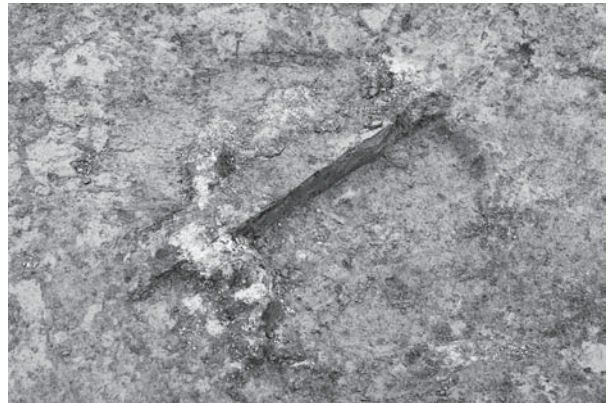
H-28 完掘状況



H-29 土層断面



床面遺物出土状況



HP-9 砂検出状況



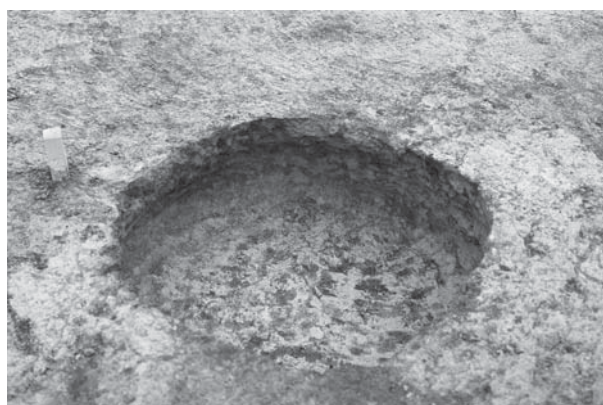
H-29 炭化材検出状況



P - 1 遺物出土状況



P - 2 遺物出土状況



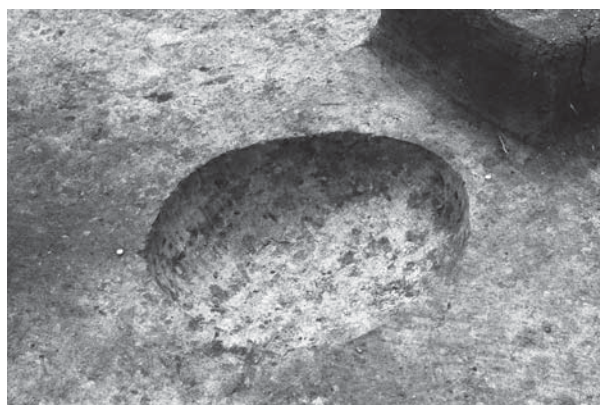
P - 3 完掘状況



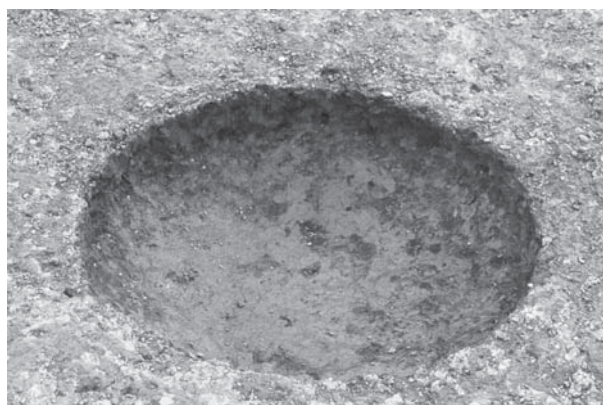
P - 4 遺物出土状況



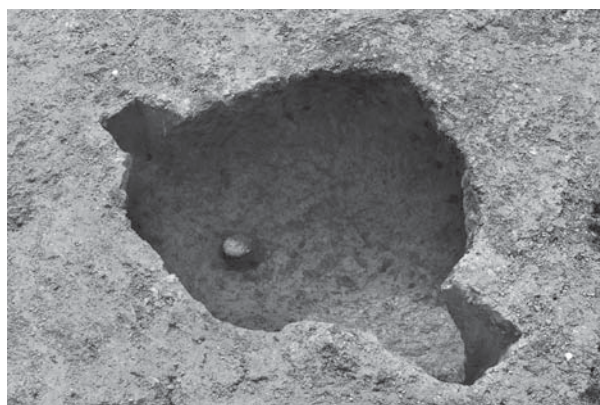
P - 5 遺物出土状況



P - 6 完掘状況



P - 7 完掘状況



P - 8 遺物出土状況



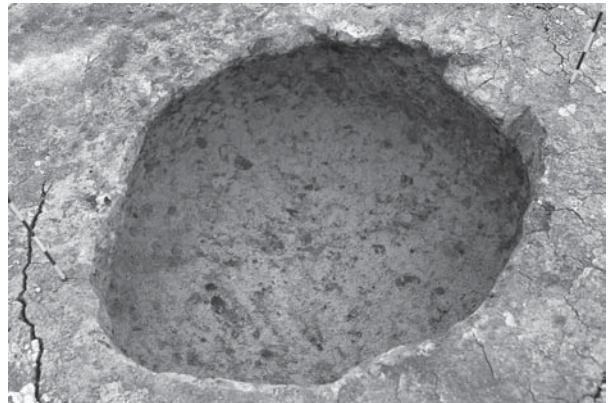
P - 9 土層断面



P -10 遺物出土状況



P -11 遺物出土状況



P -13 完掘状況



調査区南西部土坑群



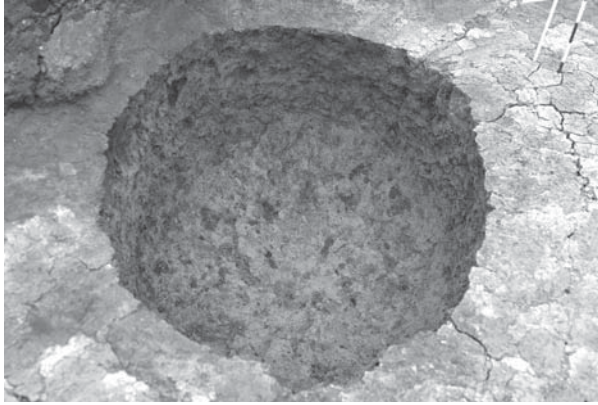
P-12 土層断面



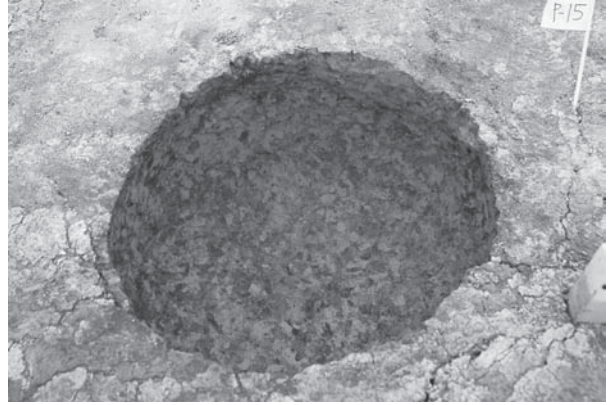
人骨検出状況



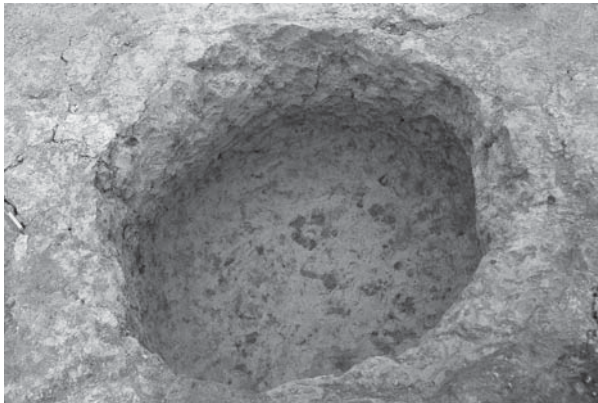
人骨検出状況



P -14 完掘状況



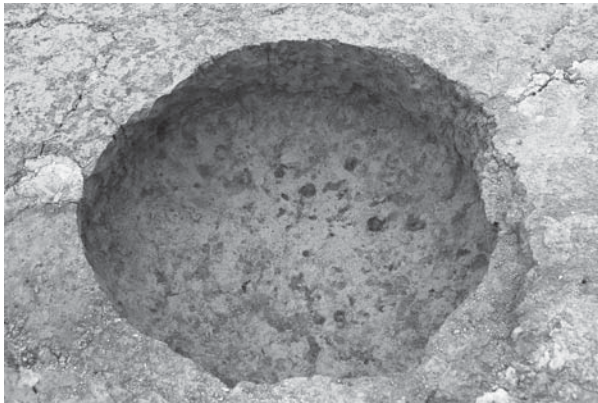
P -15 完掘状況



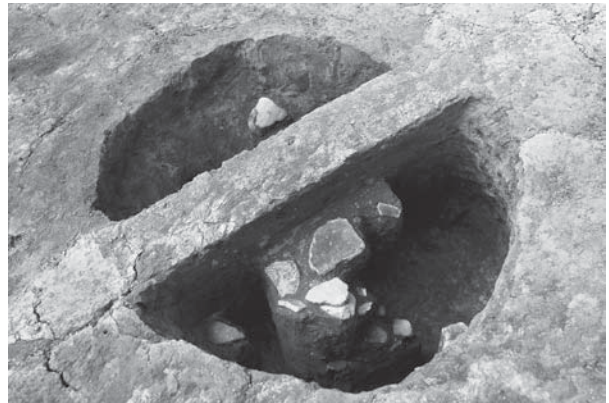
P -16 完掘状況



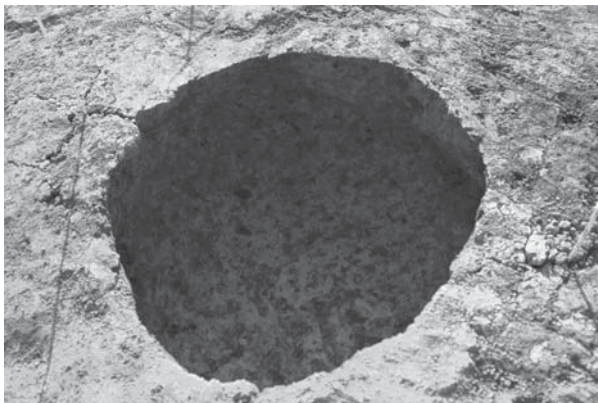
P -17 土層断面



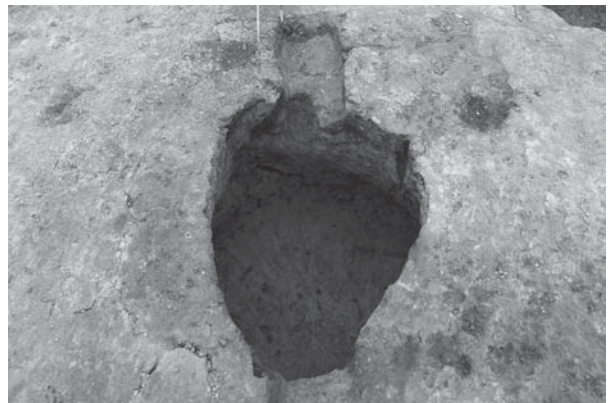
P -18 完掘状況



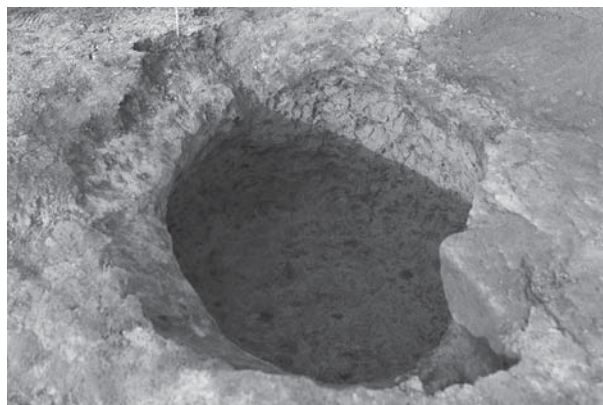
P -19 遺物出土状況



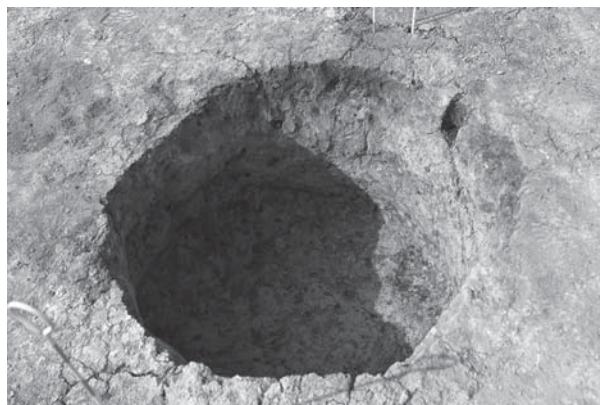
P -20 完掘状況



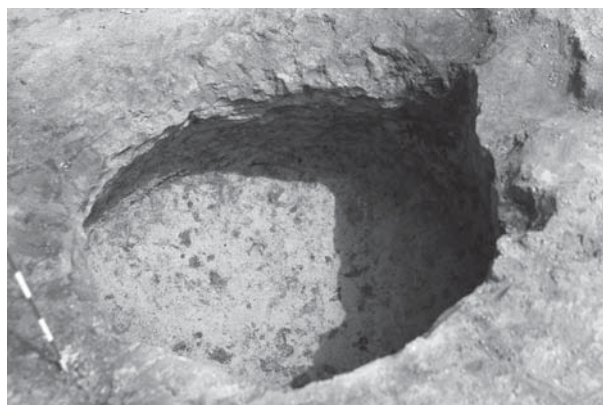
P -21 完掘状況



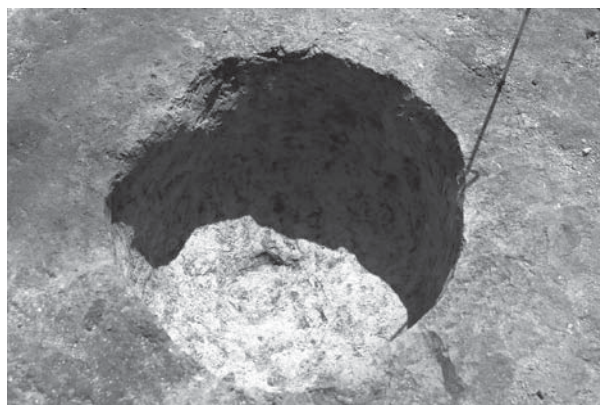
P -22 完掘状況



P -23 完掘状況



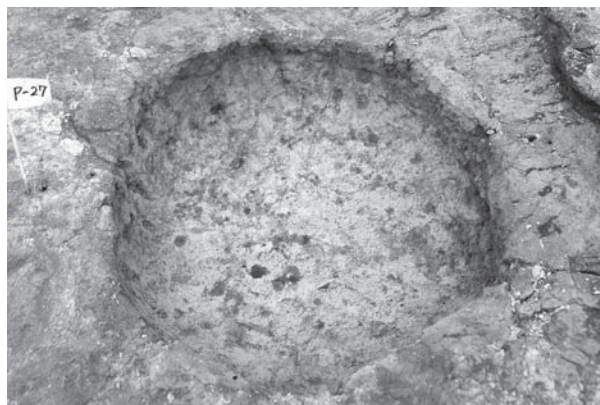
P -24 完掘状況



P -25 完掘状況



P -26 土層断面



P -27 完掘状況



P -28 完掘状況



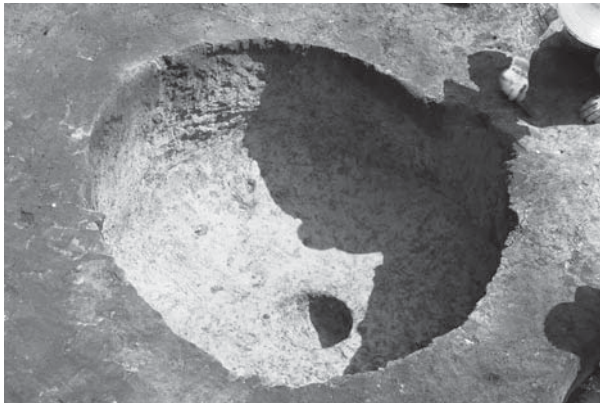
P -29 完掘状況



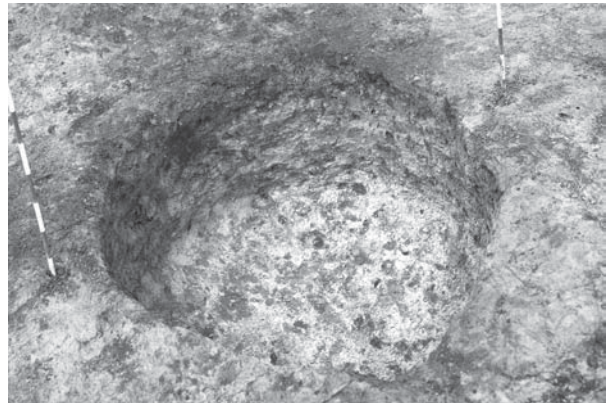
P -30 完掘状況



P -31 遺物出土状況



P -31 完掘状況



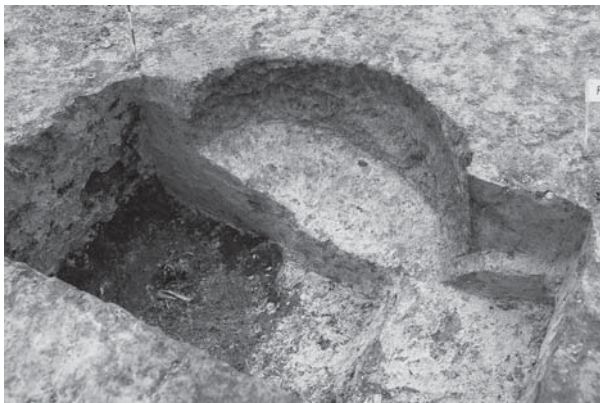
P -32 完掘状況



P -33 土層断面



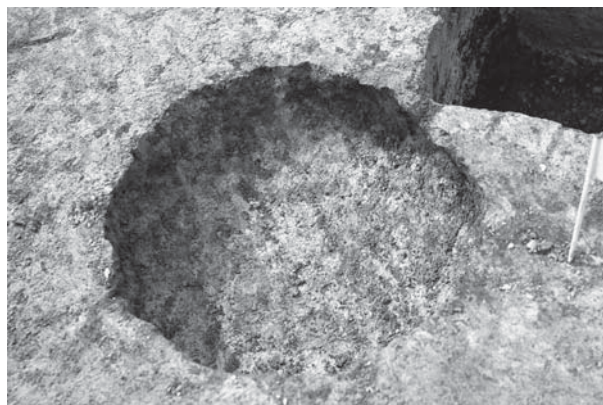
P -34 遺物出土状況



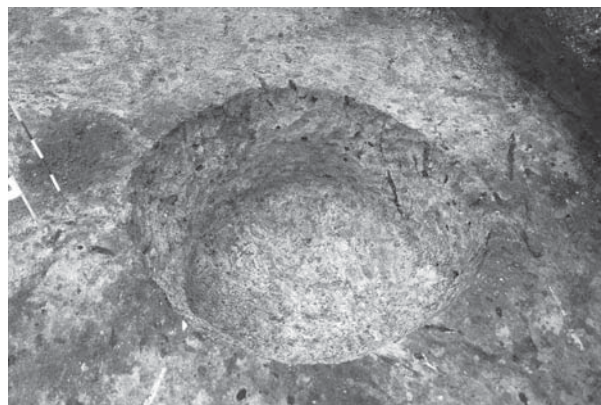
P -35 完掘状況



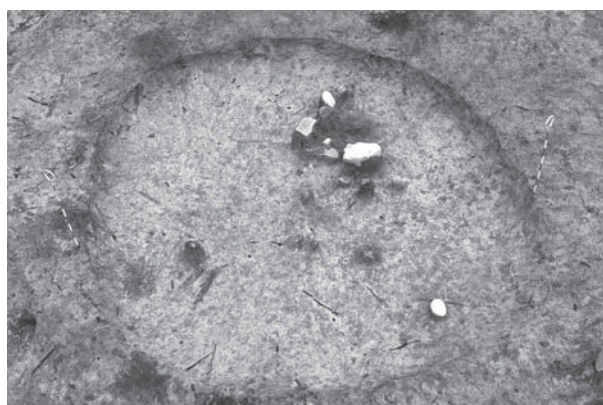
P -36 完掘状況



P -37 完掘状況



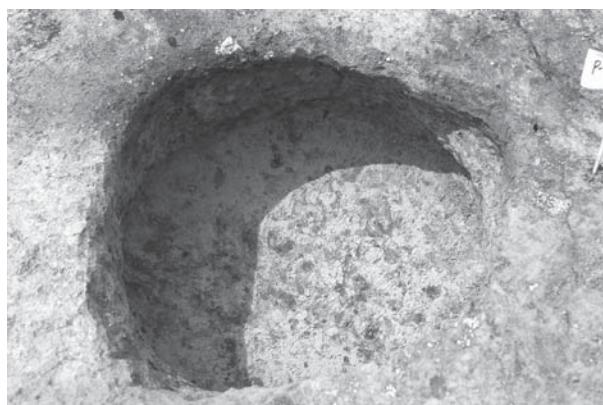
P -38 完掘状況



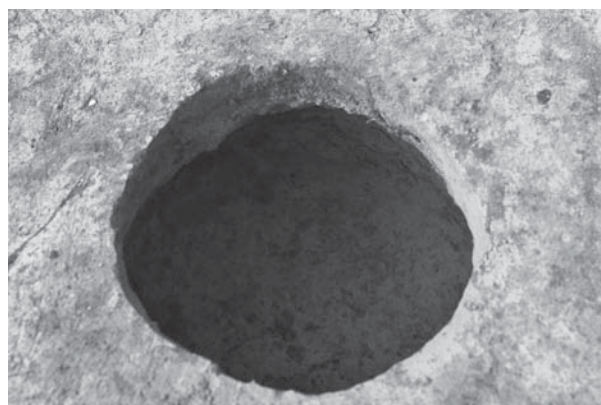
P -39 遺物出土状況



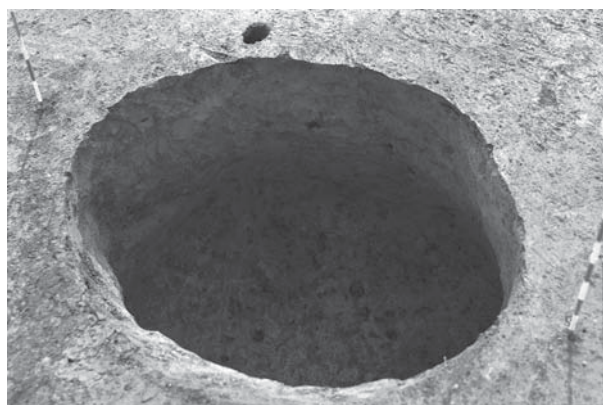
P -40 土層断面



P -41 完掘状況



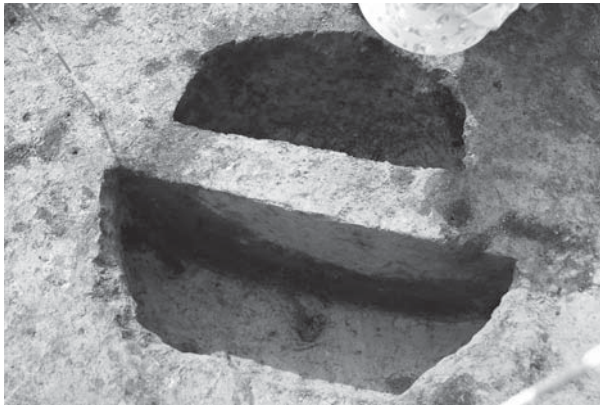
P -42 完掘状況



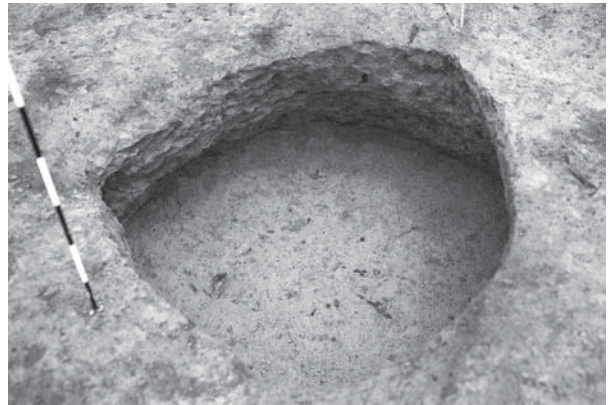
P -43 完掘状況



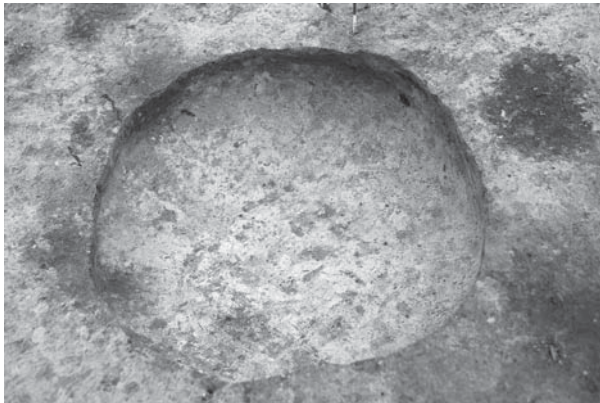
P -44 完掘状況



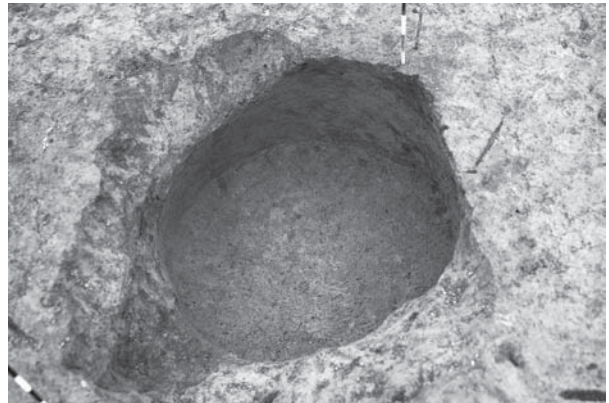
P -45 土層断面



P -46 完掘状況



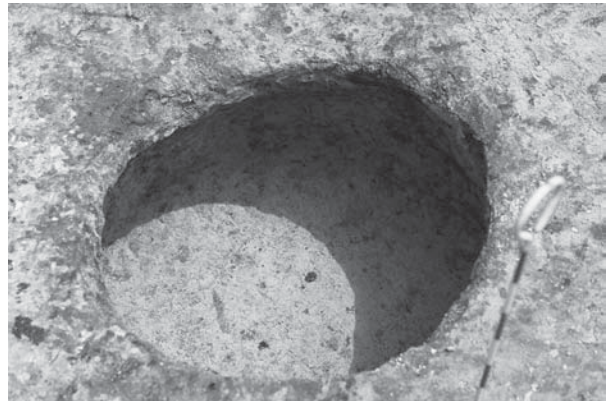
P -47 完掘状況



P -48 完掘状況



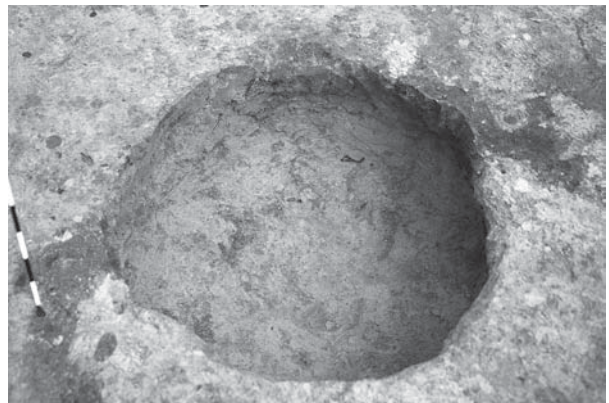
P -49 完掘状況



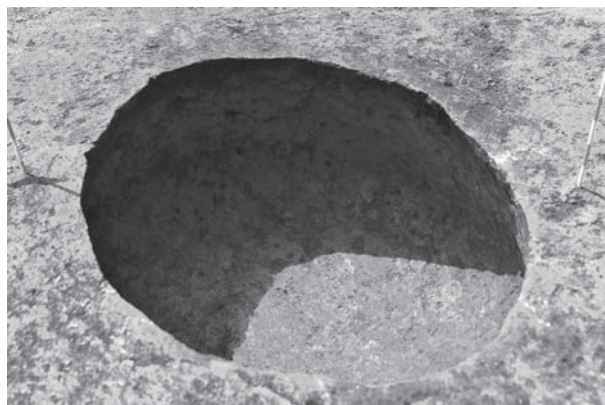
P -50 完掘状況



P -51 完掘状況



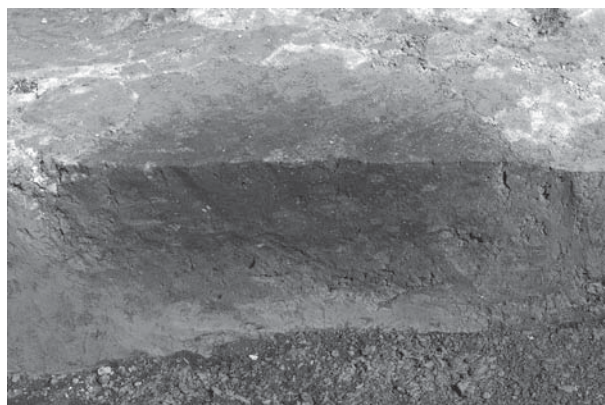
P -52 完掘状況



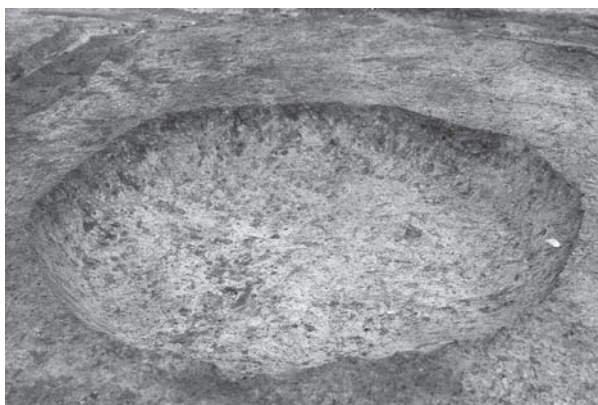
P -53 完掘状况



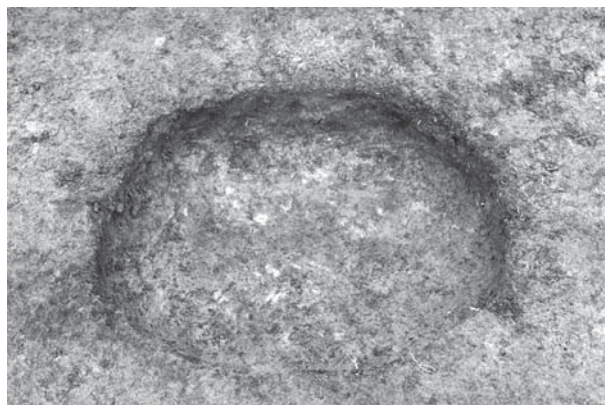
P -54 完掘状况



P -55 土层断面



P -56 完掘状况



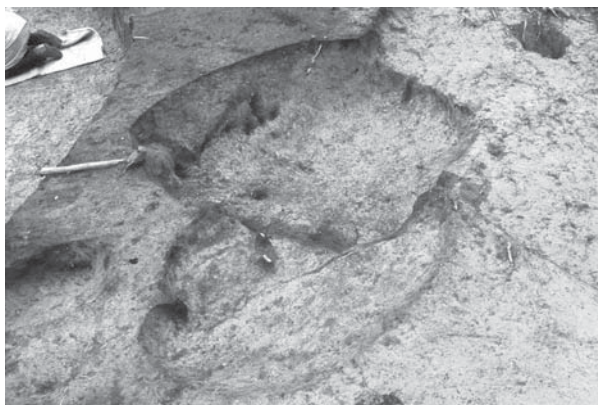
P -57 完掘状况



P -58 土层断面



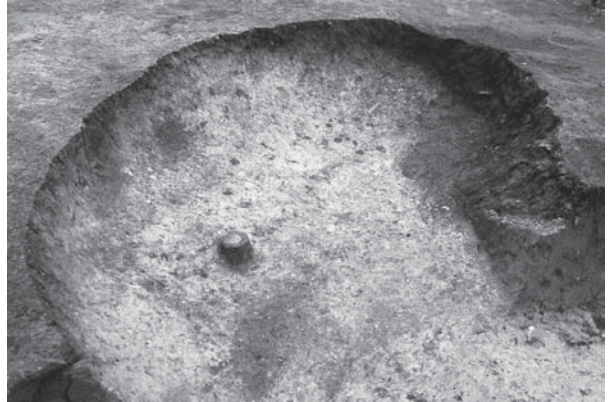
P -59 土层断面



P -58・59 完掘状况



P -60 完掘状況



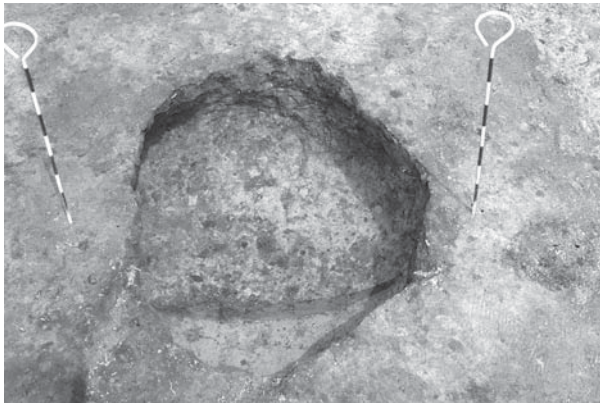
P -61 遺物出土状況



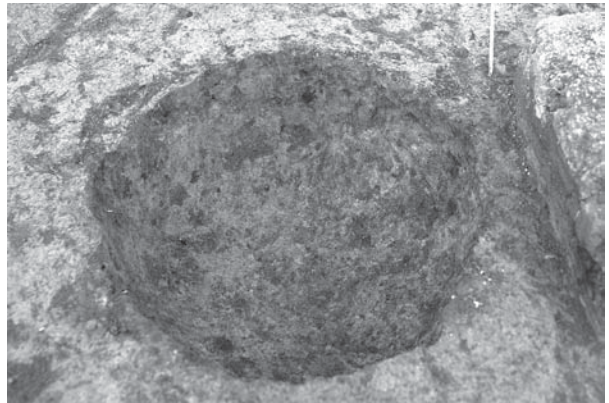
P -62・63・64 完掘状況



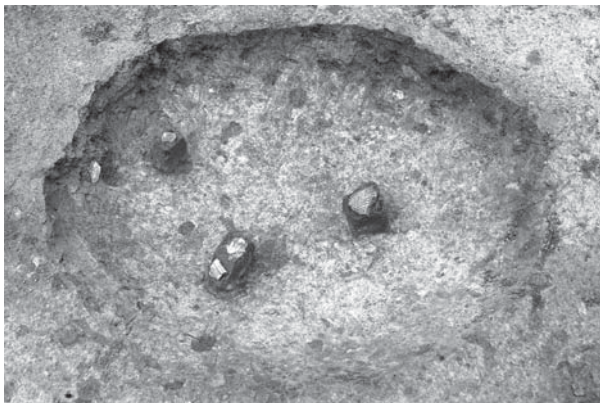
P -65・66・67・68 完掘状況



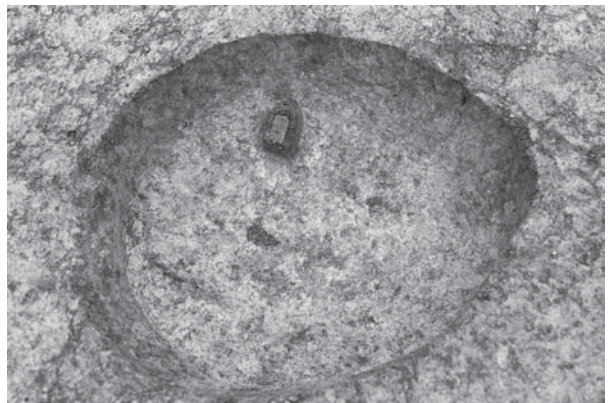
P -69 完掘状況



P -70 完掘状況



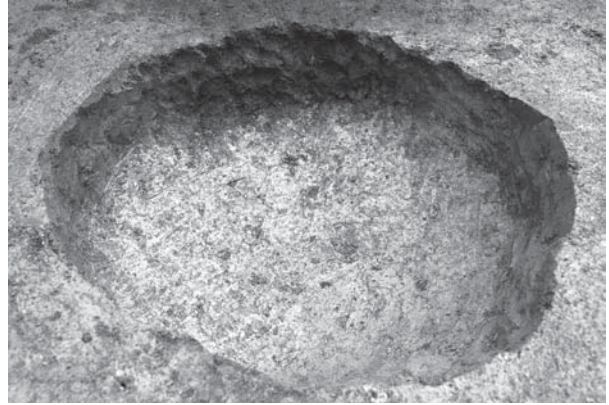
P -71 遺物出土状況



P -72 遺物出土状況



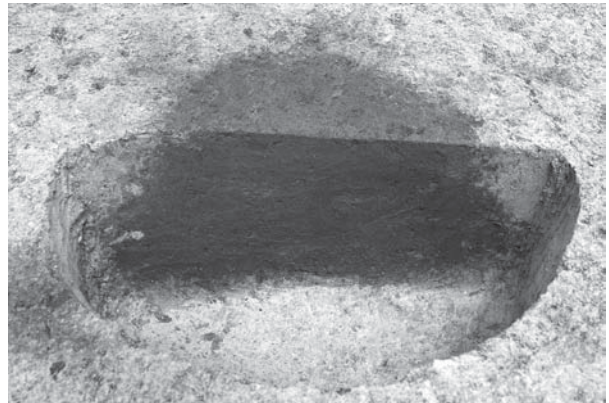
P-73 遺物出土状況



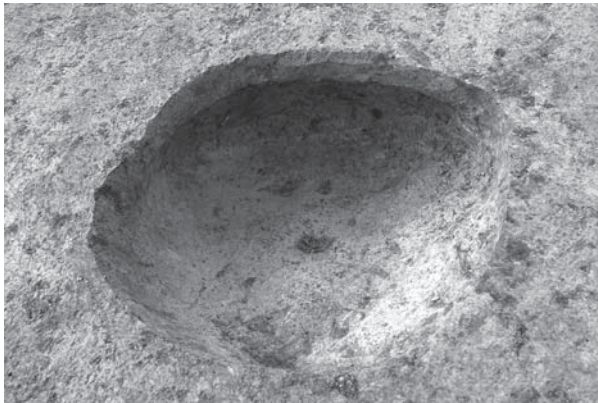
P-74 完掘状況



P-75・76 完掘状況



P-77 土層断面



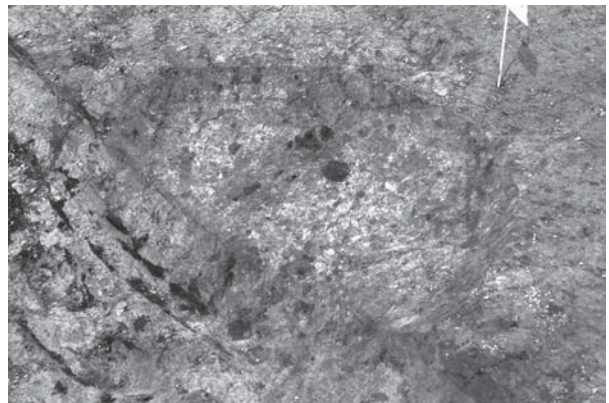
P-78 完掘状況



P-79 完掘状況 (H 23年度)



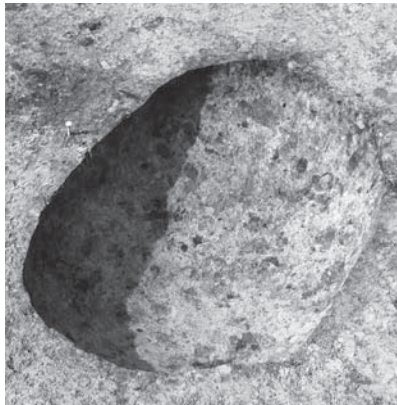
P-80 完掘状況



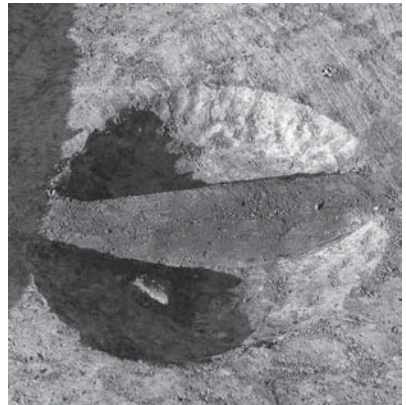
P-81 完掘状況



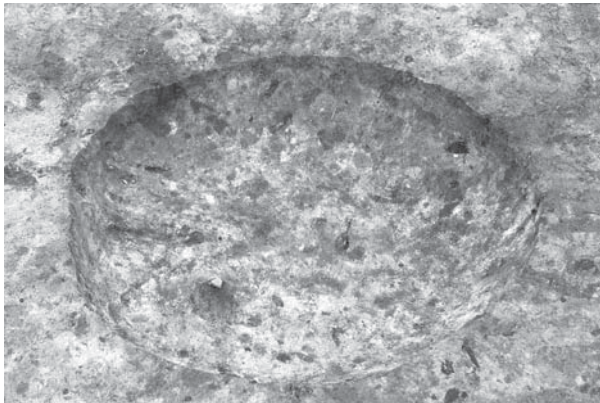
P -82 完掘状況



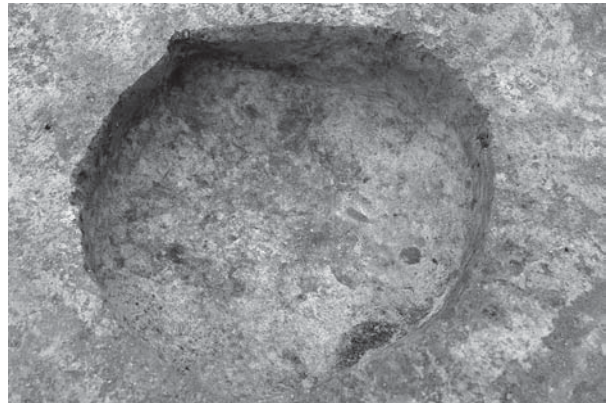
P -83 完掘状況



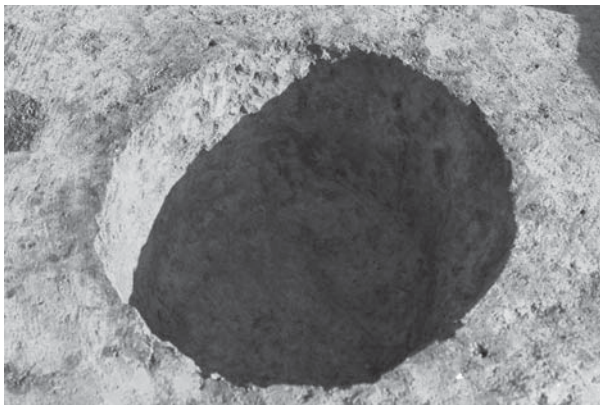
P -84 完掘状況



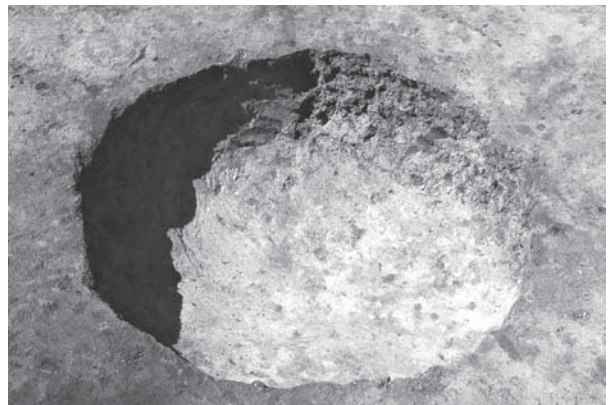
P -85 完掘状況



P -86 完掘状況



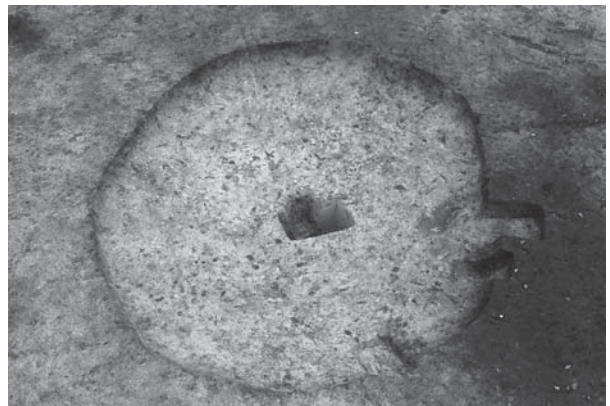
P -87 完掘状況



P -88 完掘状況



P -89 遺物出土状況



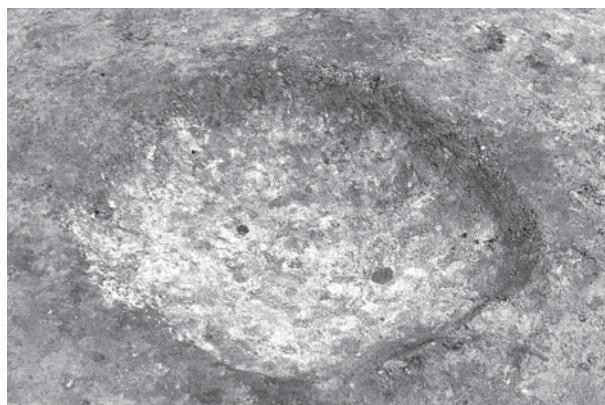
P -89 完掘状況



P -90・91 完掘状况



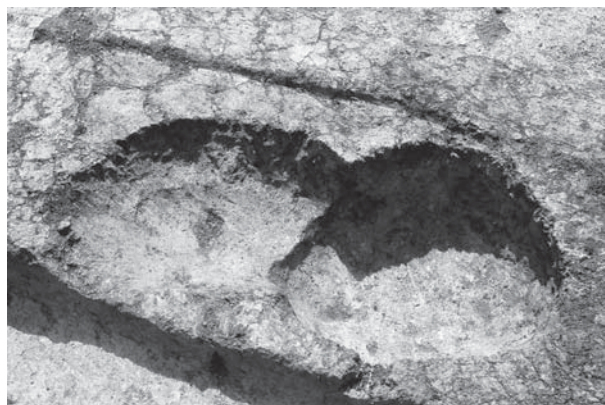
P -92 完掘状况



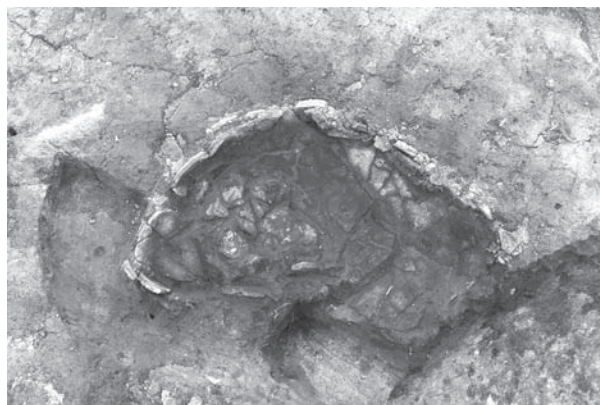
P -93 完掘状况



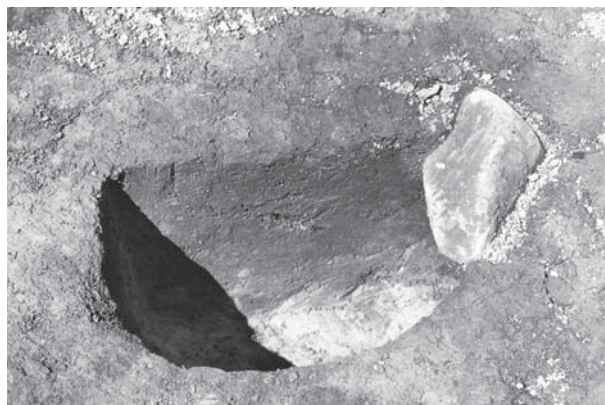
P -94 完掘状况



P -95・96 完掘状况



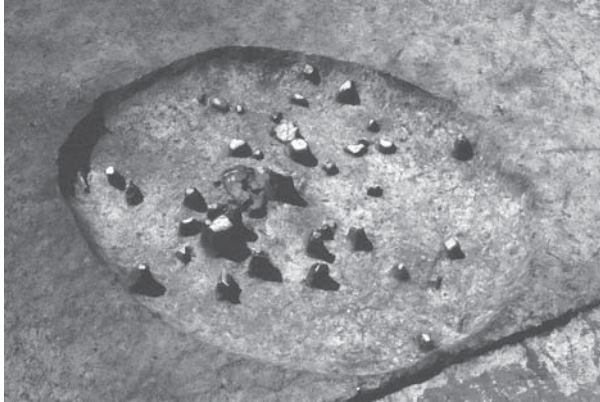
P -96 遺物出土状况



P -97 土層断面



P -98 遺物出土状况



P -99 遺物出土状況



P -99 遺物出土状況



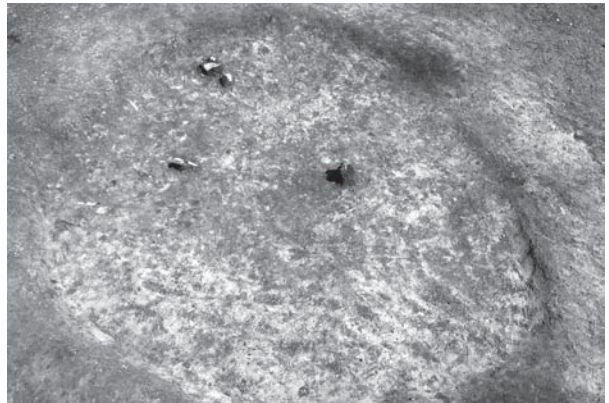
P -100 遺物出土状況



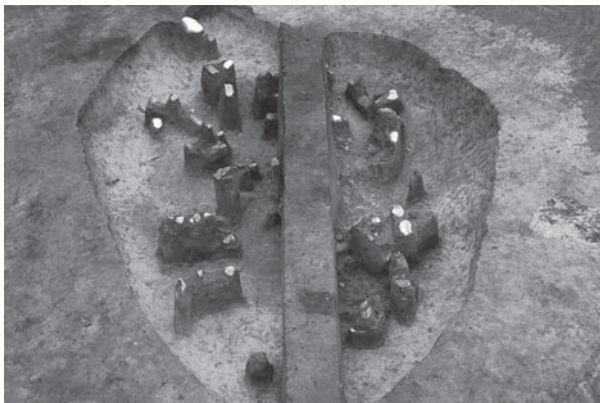
P -101 完掘状況



P -102 遺物出土状況



P -103 遺物出土状況



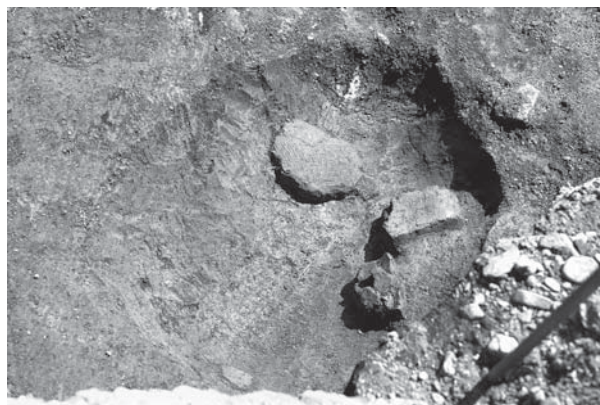
P -104 遺物出土状況



P -105 遺物出土状況



P -106 遺物出土状況



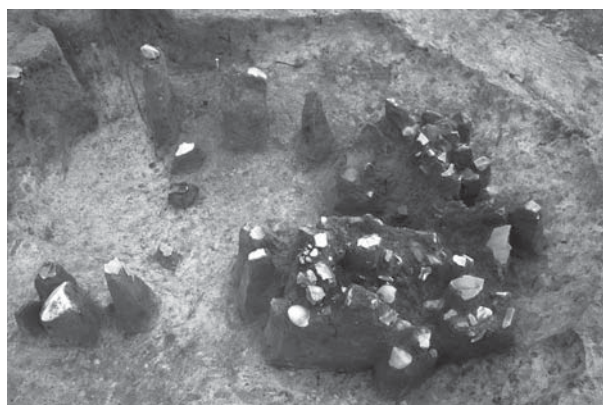
P -107 遺物出土状況



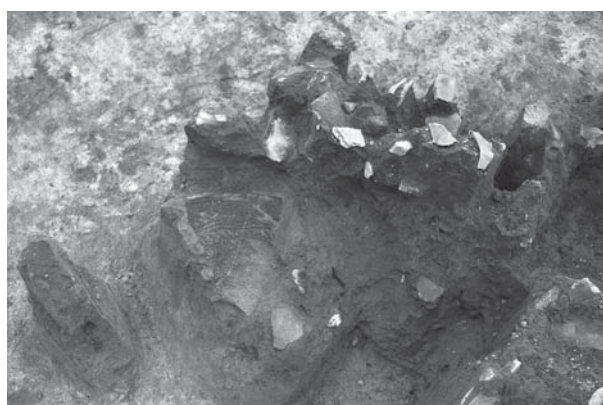
P -108 遺物出土状況



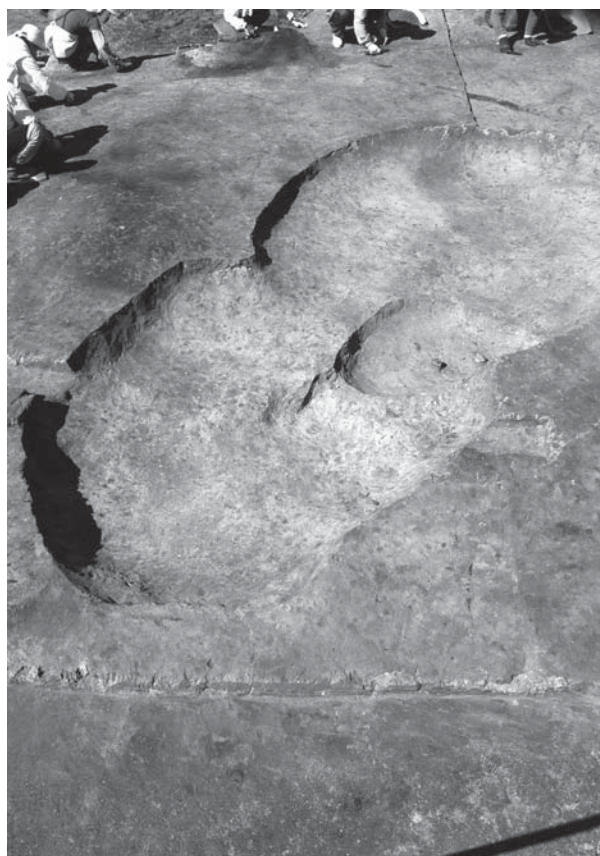
P -108 遺物出土状況



P -113 遺物出土状況



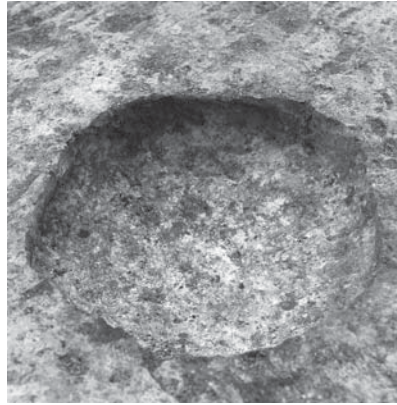
P -113 遺物出土状況



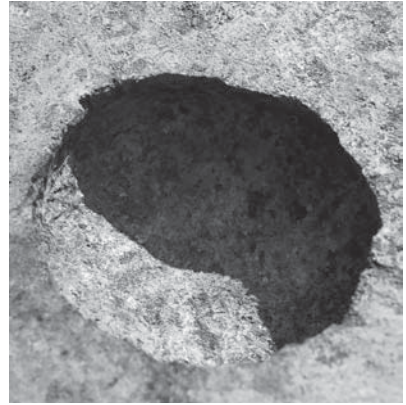
P -108・113 完掘状況



P -109 完掘状况



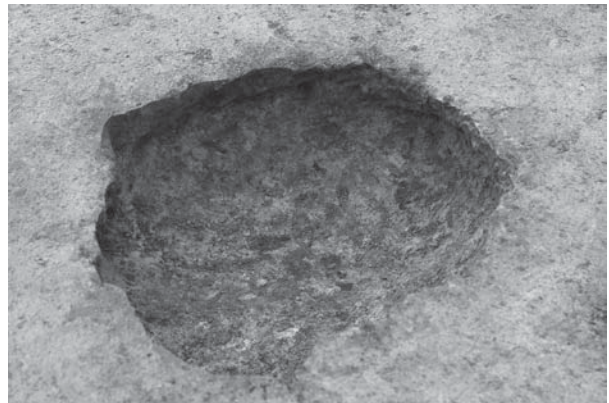
P -110 完掘状况



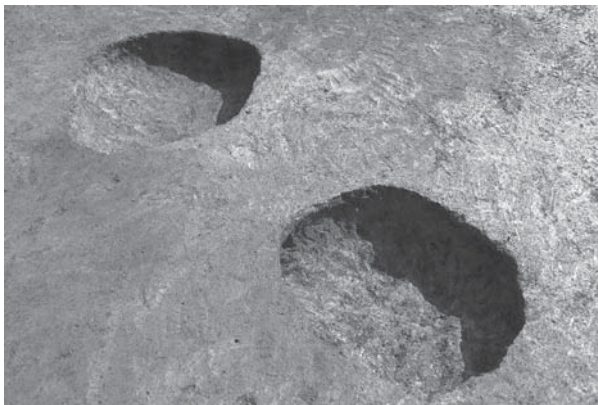
P -111 完掘状况



P -112 遺物出土状况



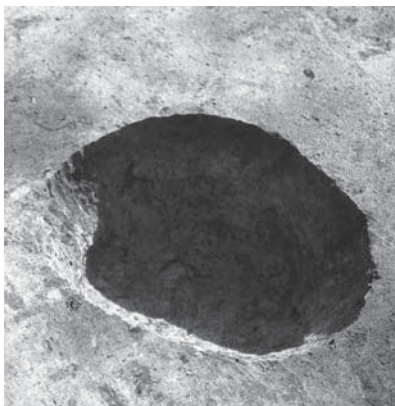
P -114 完掘状况



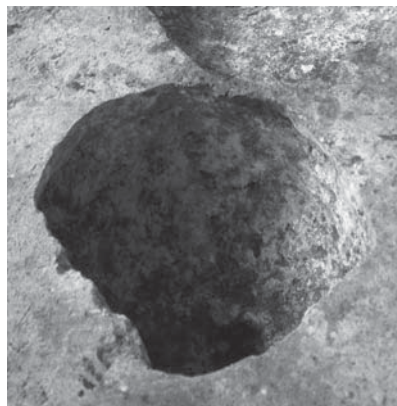
P -115・116 完掘状况



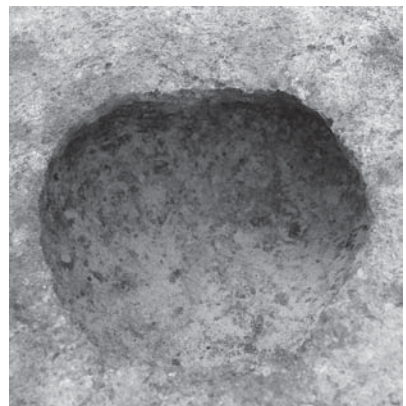
P -117 完掘状况



P -118 完掘状况



P -119 完掘状况

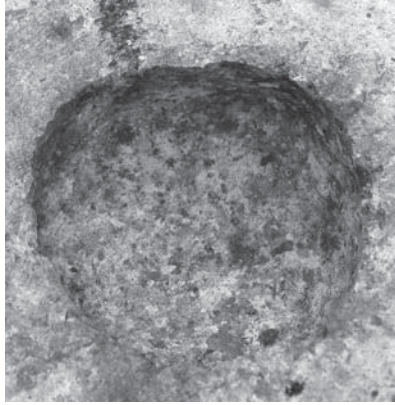


P -120 完掘状况

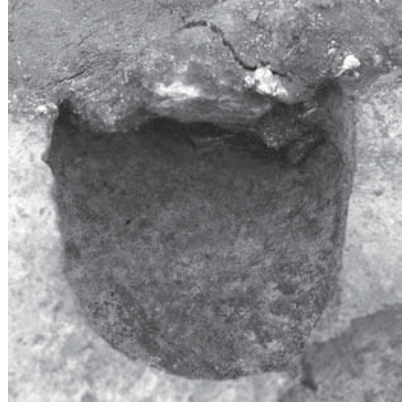
图版50



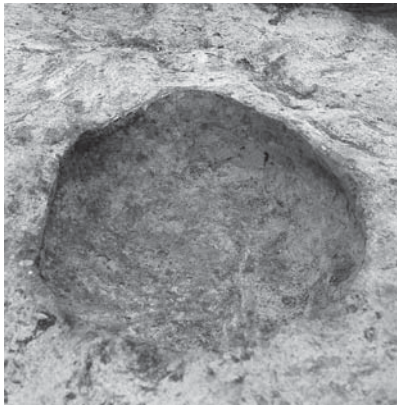
P -121・122 完掘状况



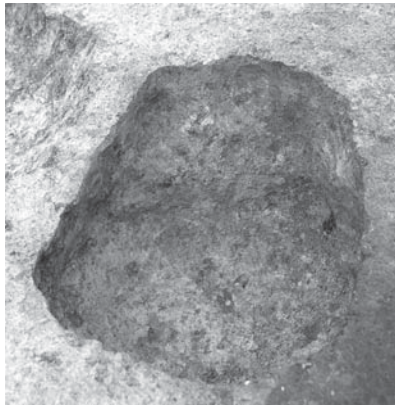
P -123 完掘状况



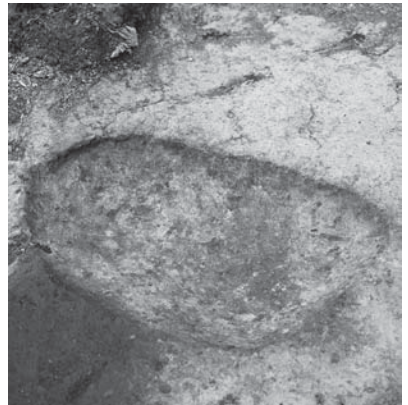
P -124 完掘状况



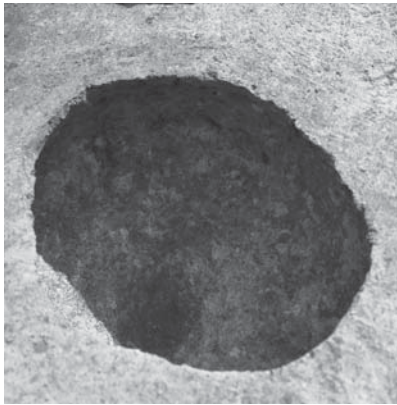
P -125 完掘状况



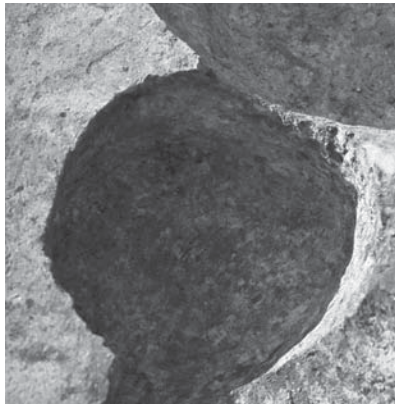
P -126 完掘状况



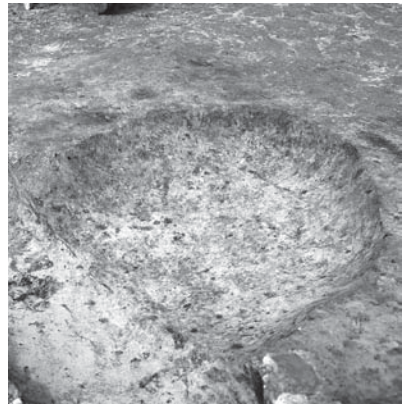
P -127 完掘状况



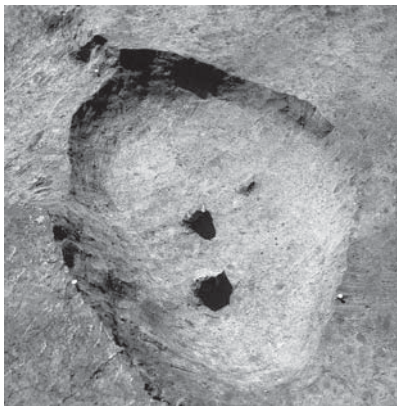
P -128 完掘状况



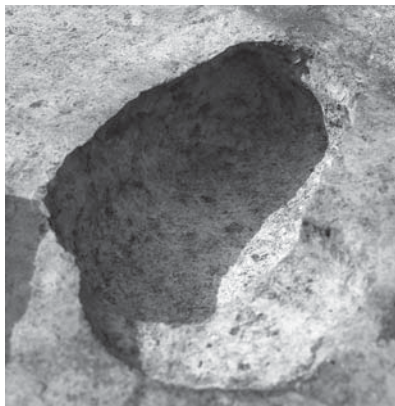
P -129 完掘状况



P -130 完掘状况



P -131 遺物出土状况



P -132 完掘状况



P -133 完掘状况



P -134 土层断面



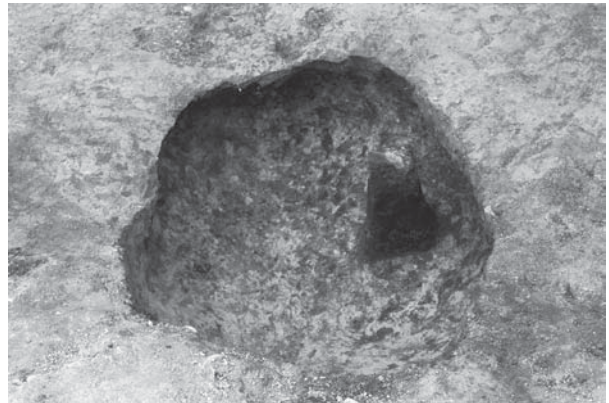
P -135 完掘状况



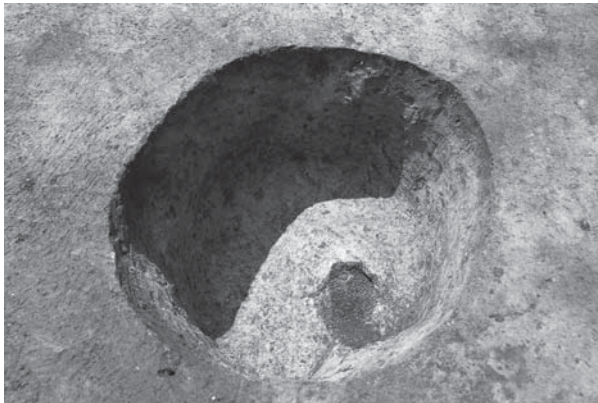
P -136 完掘状况



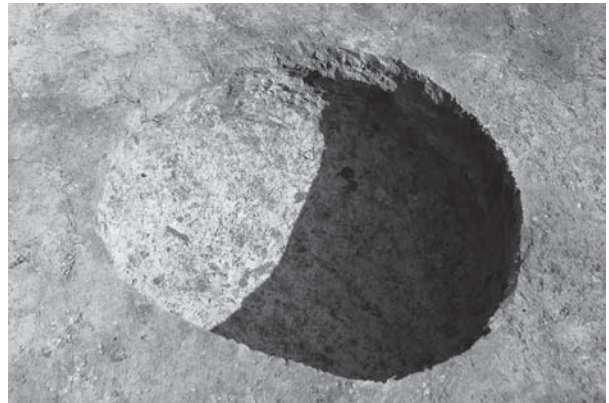
P -137 完掘状况



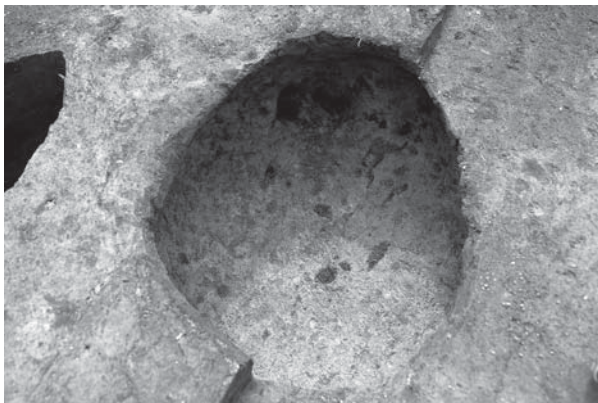
P -138 遺物出土状况



P -139 完掘状况



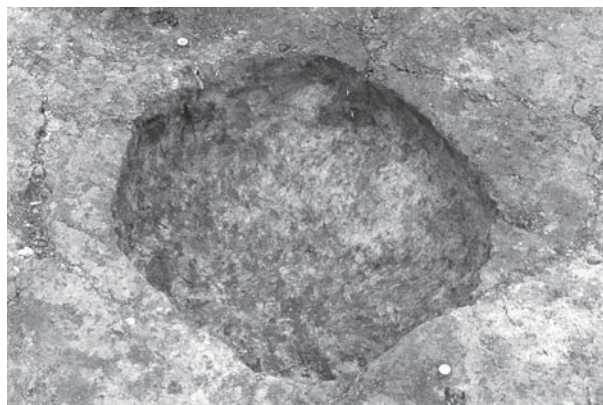
P -140 完掘状况



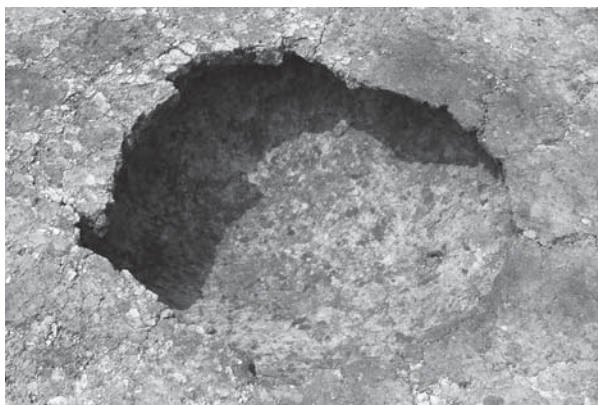
P -141 完掘状况



P -142 完掘状况



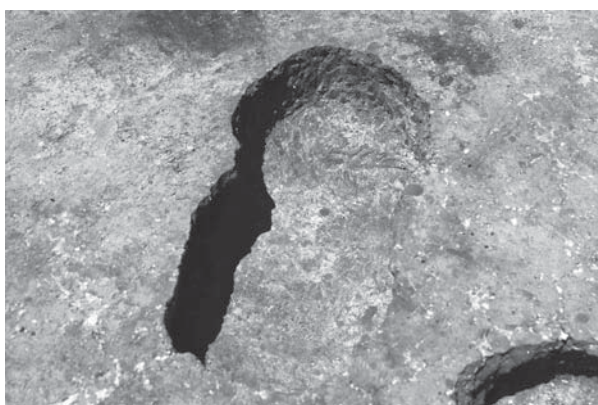
P -143 完掘状况



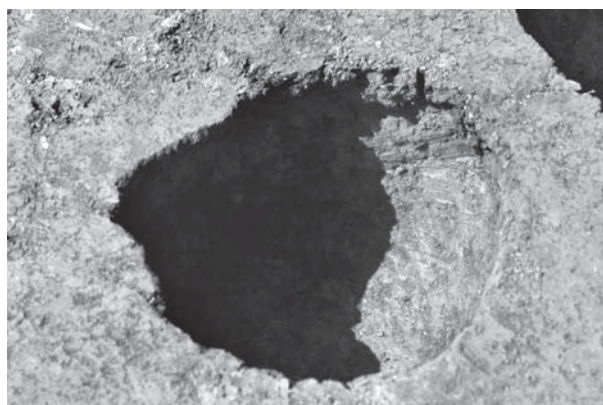
P -144 完掘状况



P -145 · 147 · 153 完掘状况



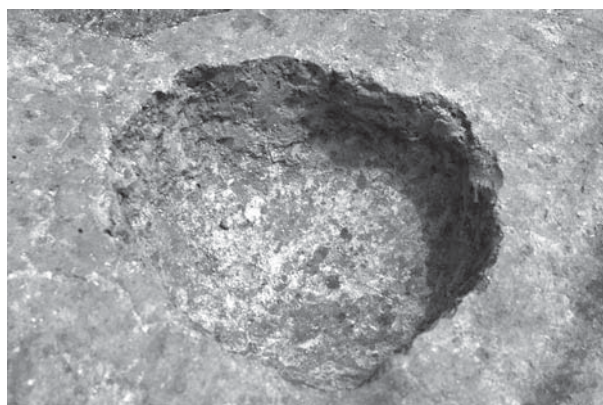
P -148 完掘状况



P -149 完掘状况



P -150 完掘状况



P -151 完掘状况



P -152 完掘状况



TP - 1 完掘状况



TP - 2 完掘状况



TP - 3 完掘状况



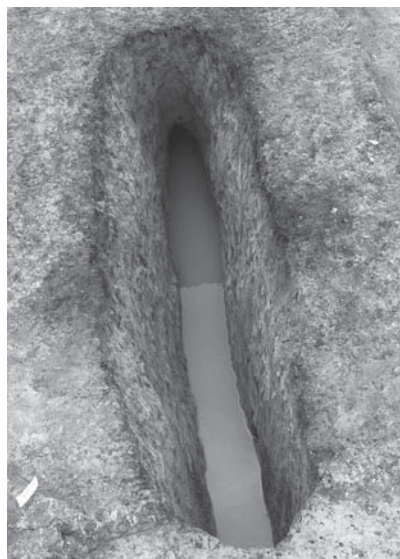
TP - 4 完掘状况



TP - 5 完掘状况



TP - 6 完掘状况



TP - 7 完掘状况



TP - 8 完掘状况



TP - 9 完掘状况



溝状遺構 34 ライン土層断面



33 ライン土層断面



鋤先痕検出状況



MP - 2 完掘状況



MP - 3 完掘状況



溝状遺構完掘状況



SH-1・1



SH-1・2

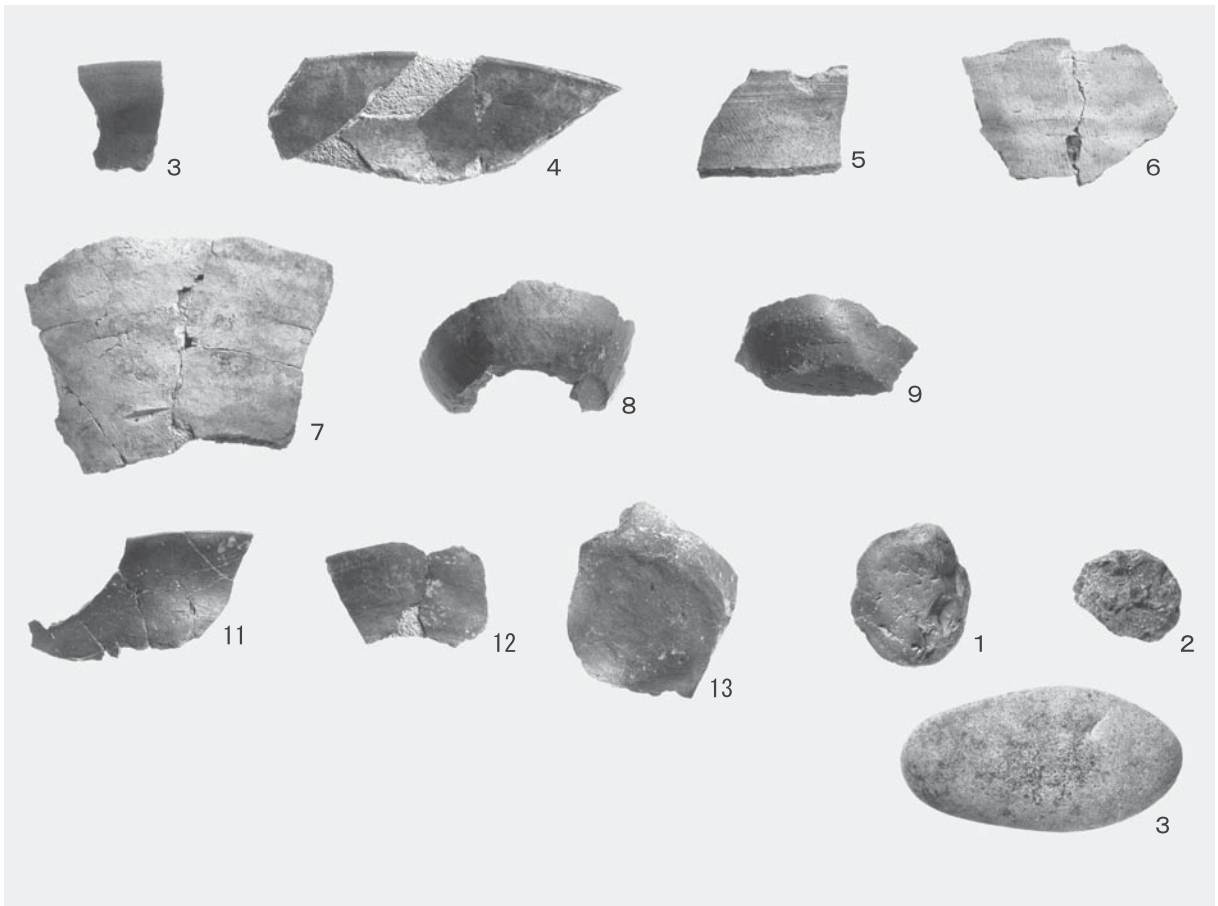


SH-2・10



SH-2・14

(s=1/1)



SH-1・2 出土の遺物



H - 4 - 24



H - 7 - 33



H - 8 - 40



H - 9 - 44



H - 9 - 45



H - 9 - 46



H - 9 - 47



H - 9 - 48



H - 9 - 49

H-4・7・8・9出土の復原土器



H-9・50



H-9・51



H-9・52



H-9・56



H-14・70



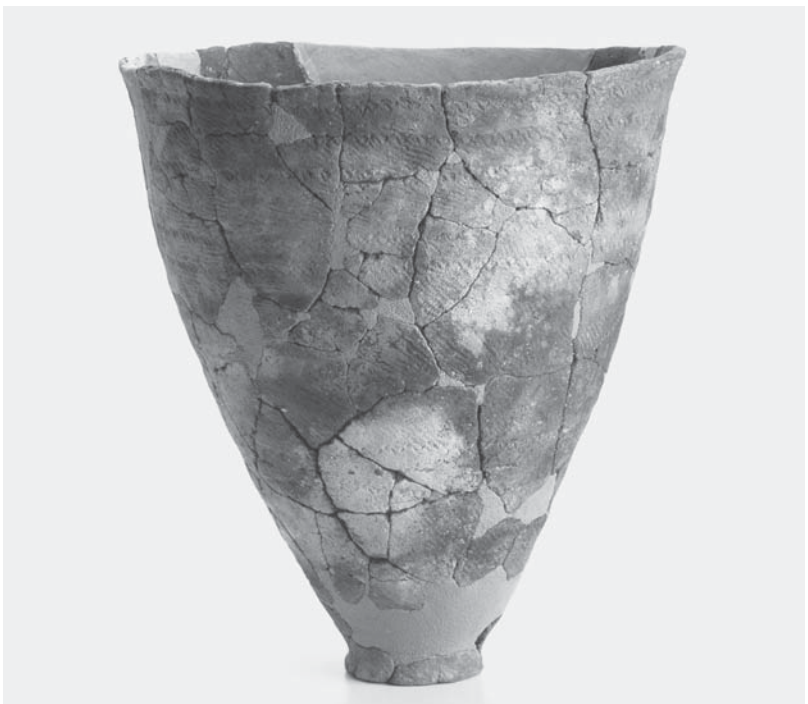
H-20・99



H-14・65



H-20・83



H-20・82

H-9・14・20出土の復原土器



H -23・109



H -23・110



H -29・121



P -96・48



P -99・50



P -100・52



P -108・79



P -108・80

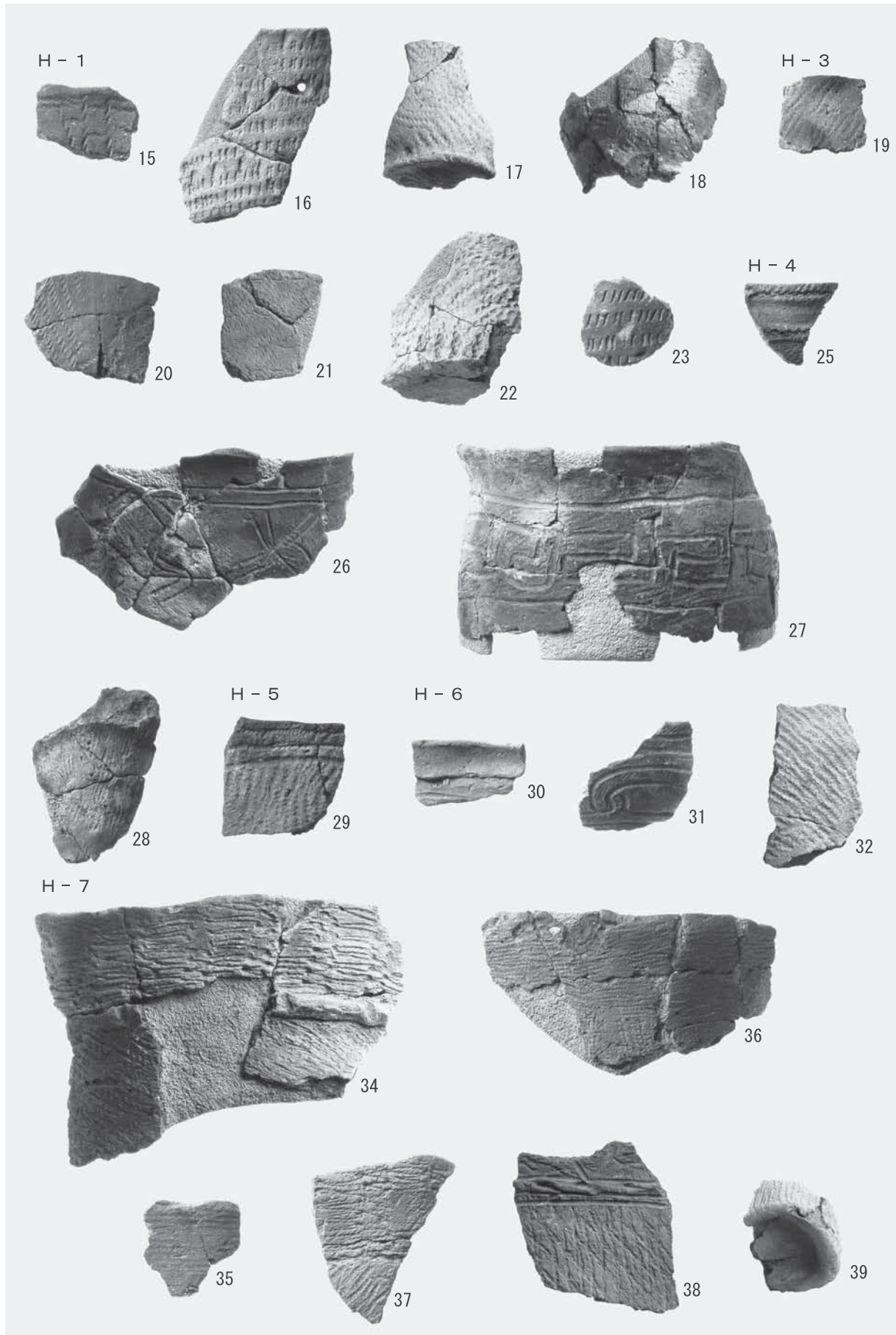


P -102・60

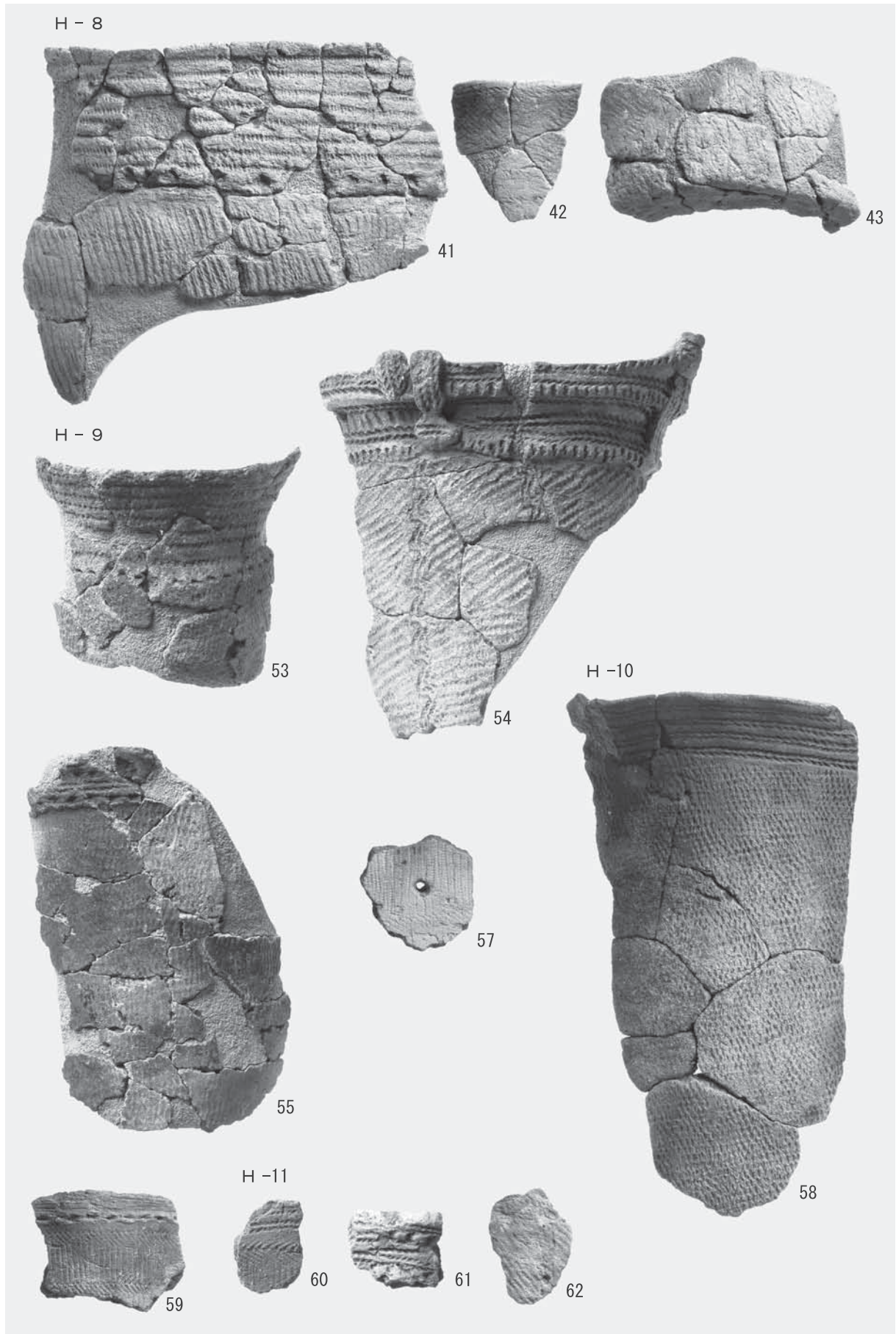


P -113・105

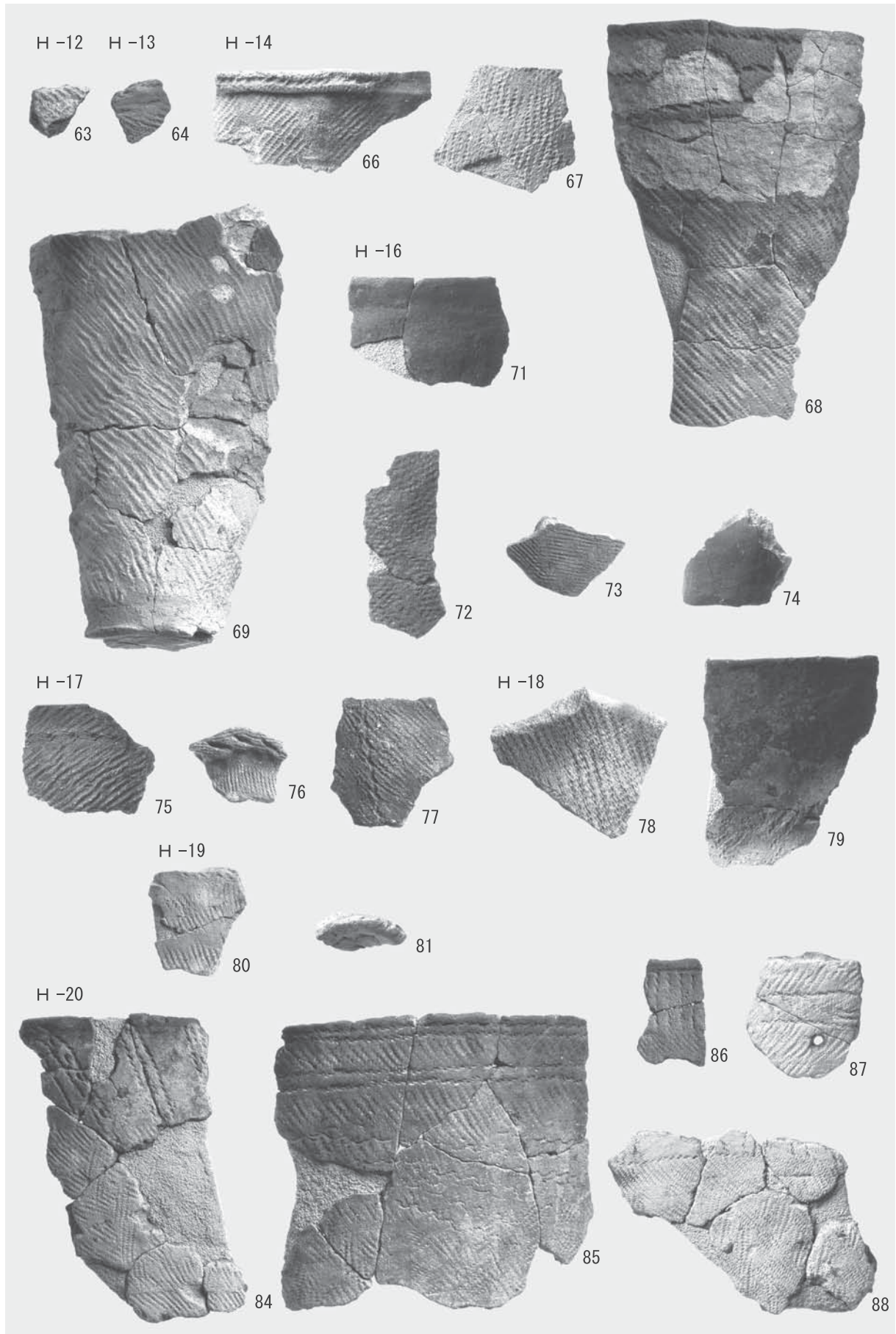
H-23・29・土坑出土の復原土器・底部



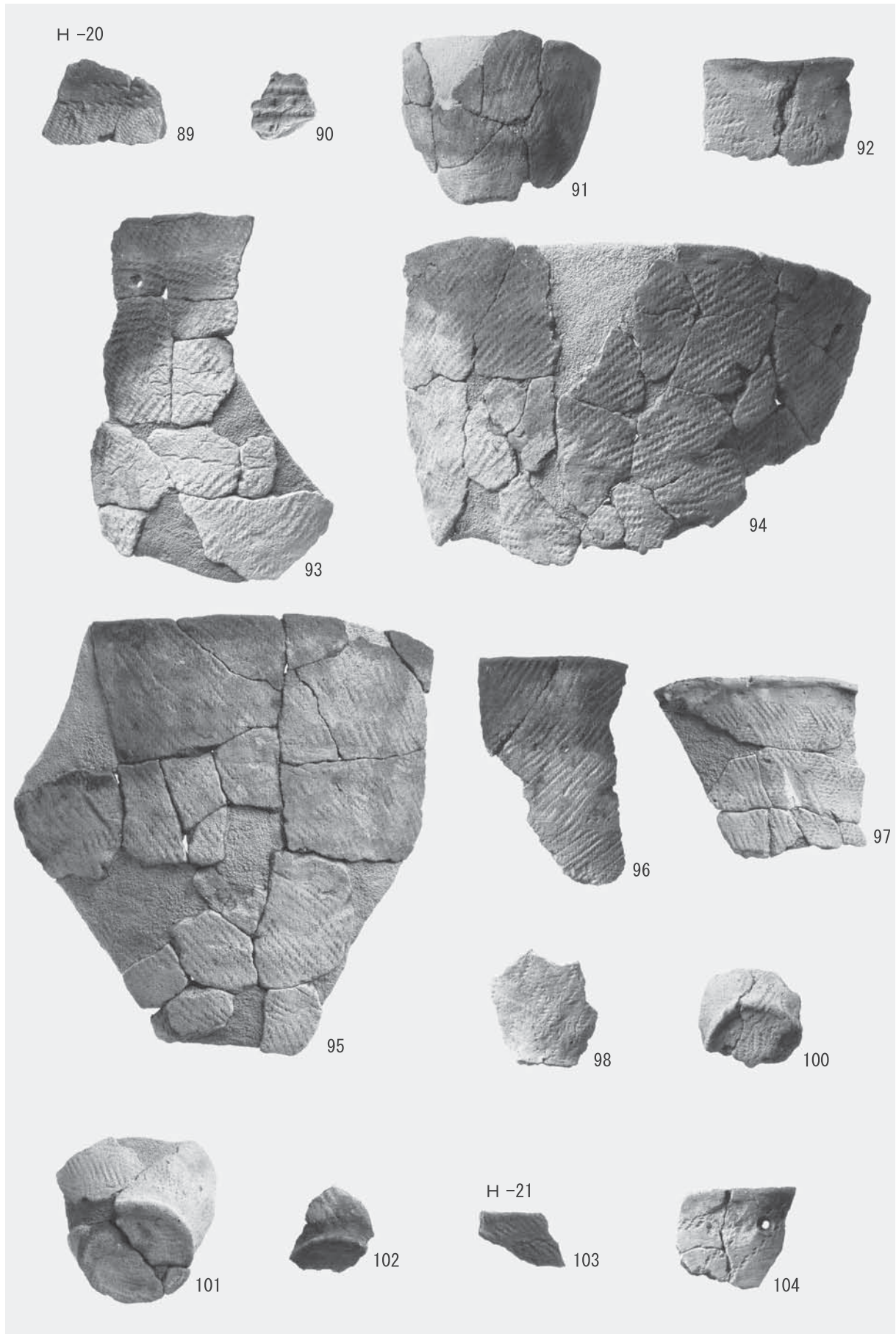
H-1～7出土の拓本土器



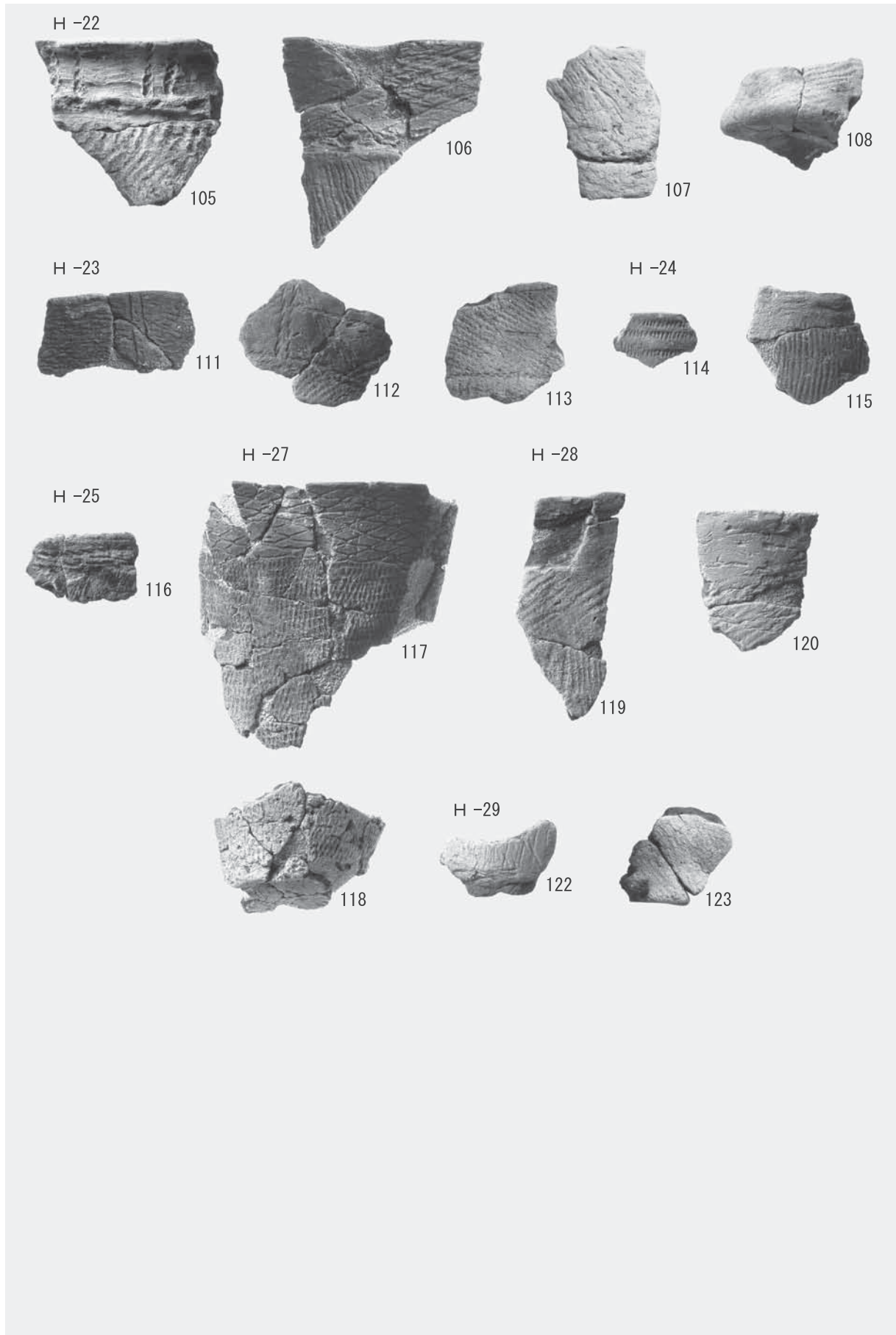
H-8～11出土の拓本土器



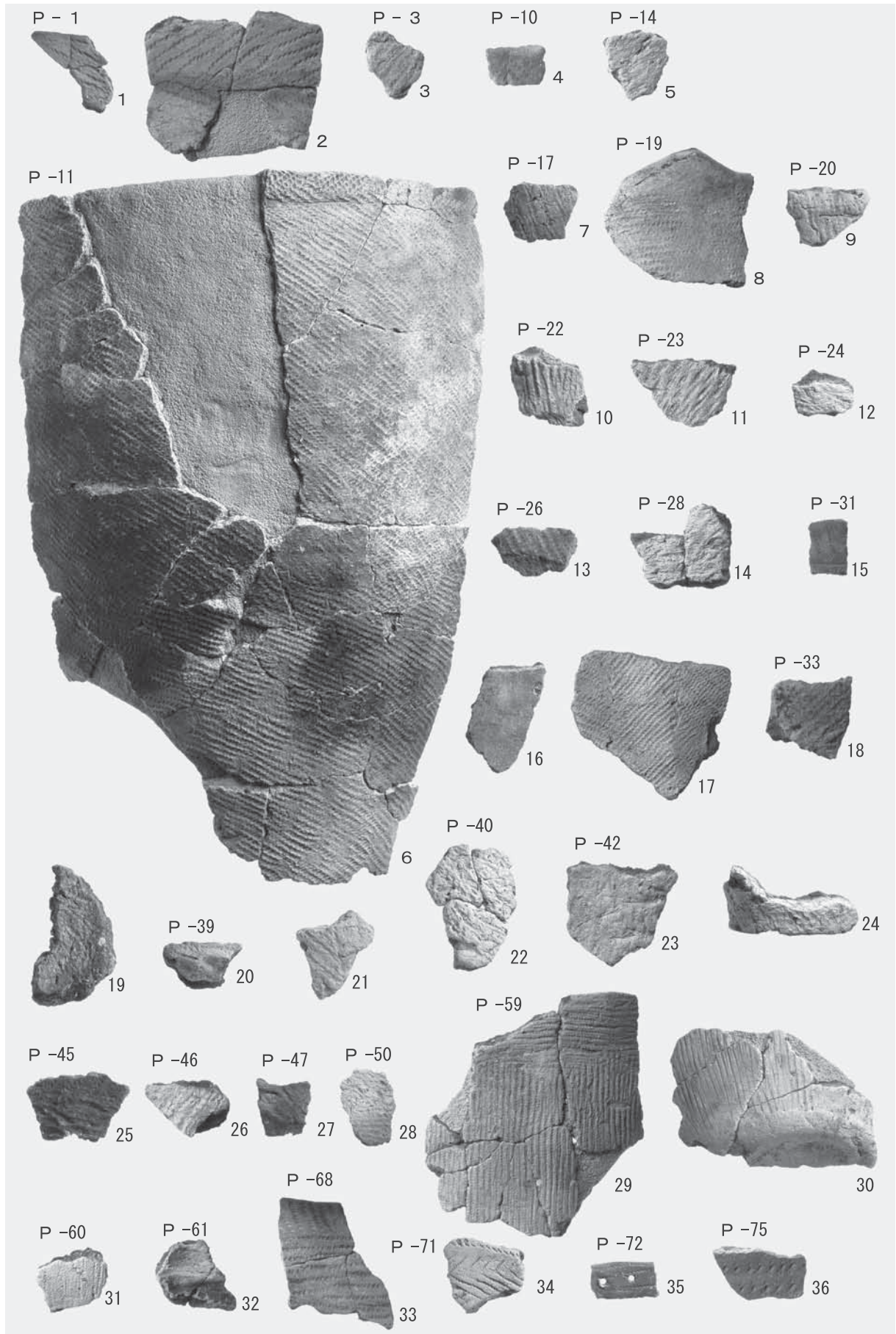
H-12~20出土の拓本土器



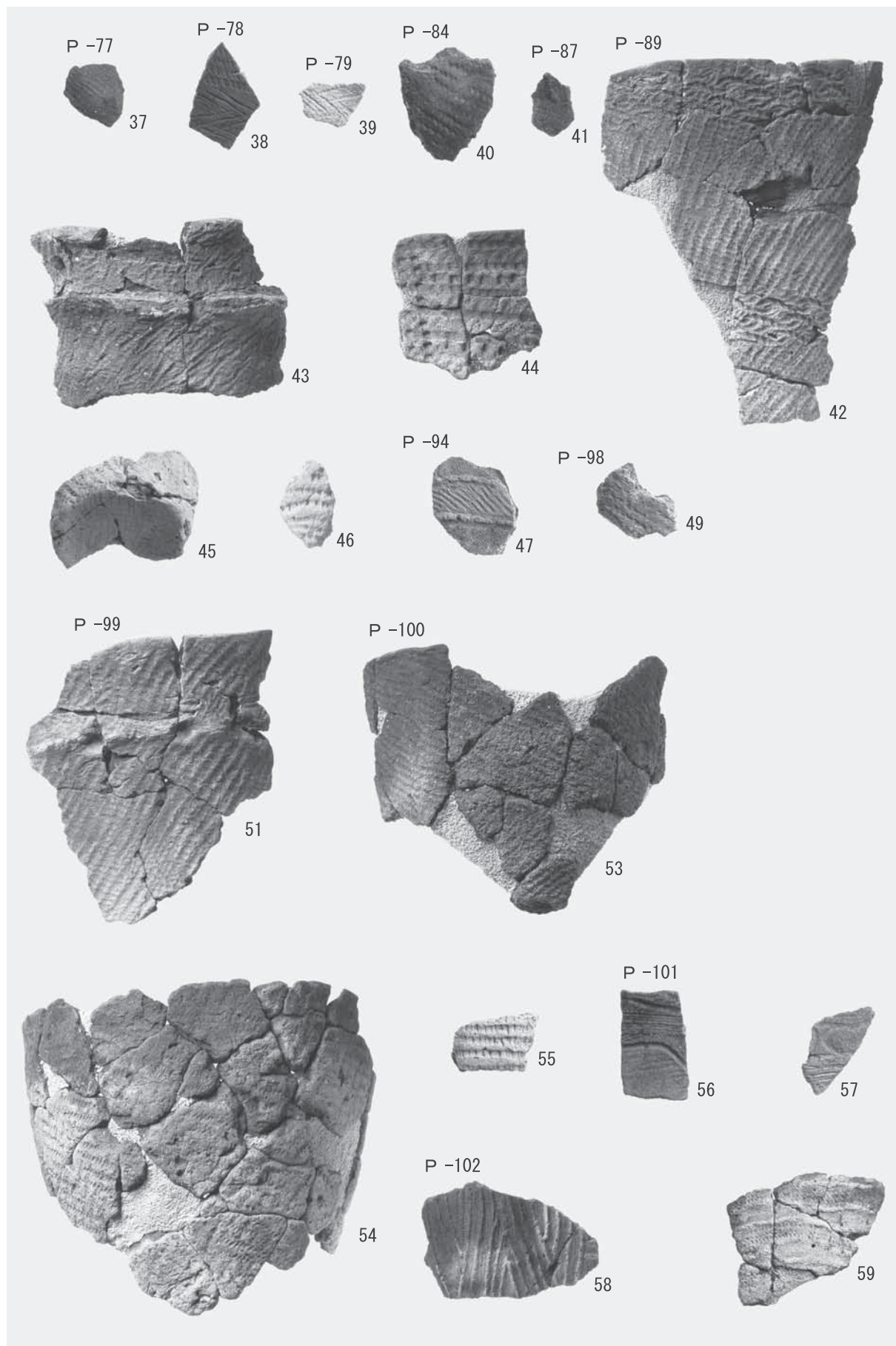
H-20・21出土の拓本土器



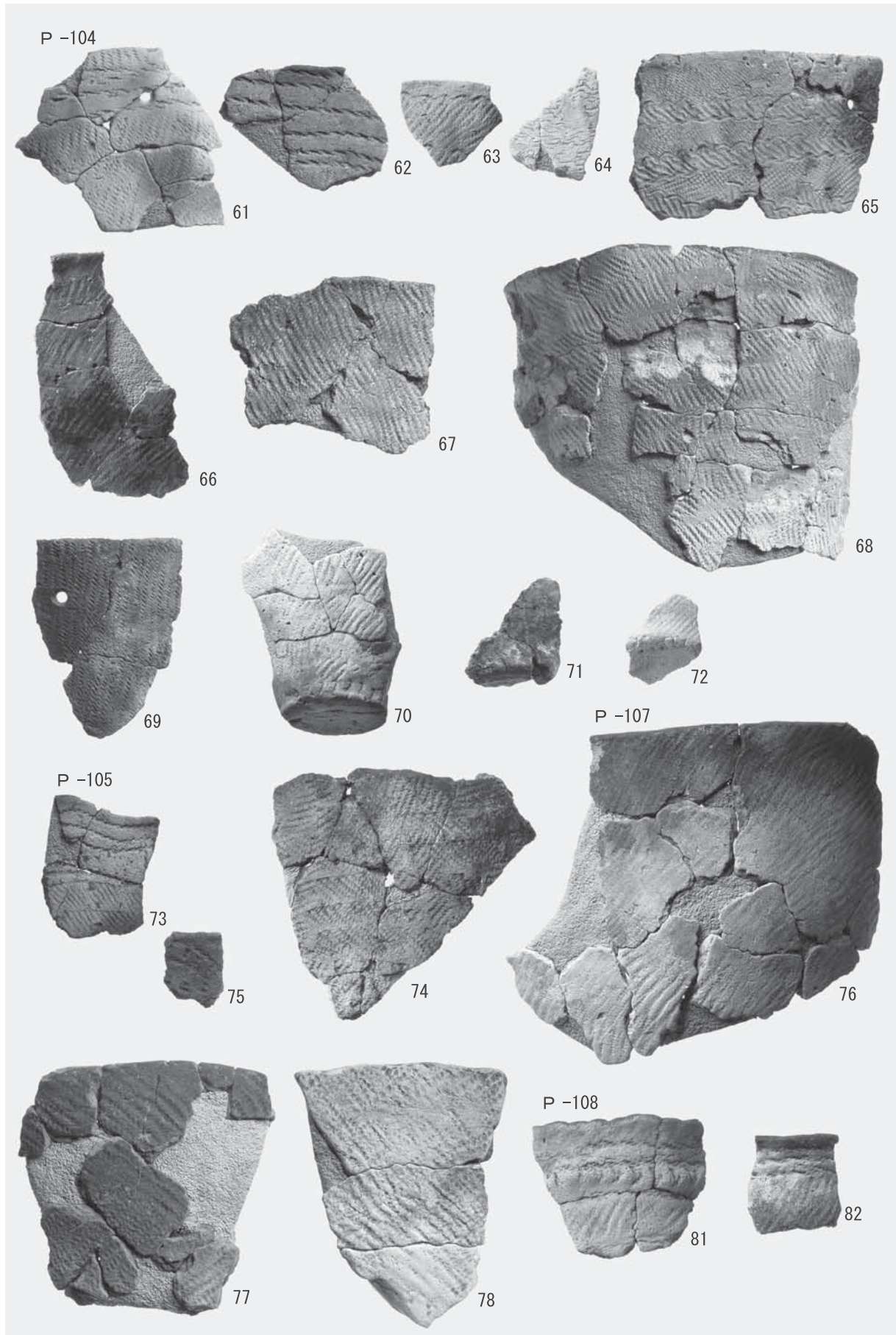
H-22~29出土の拓本土器



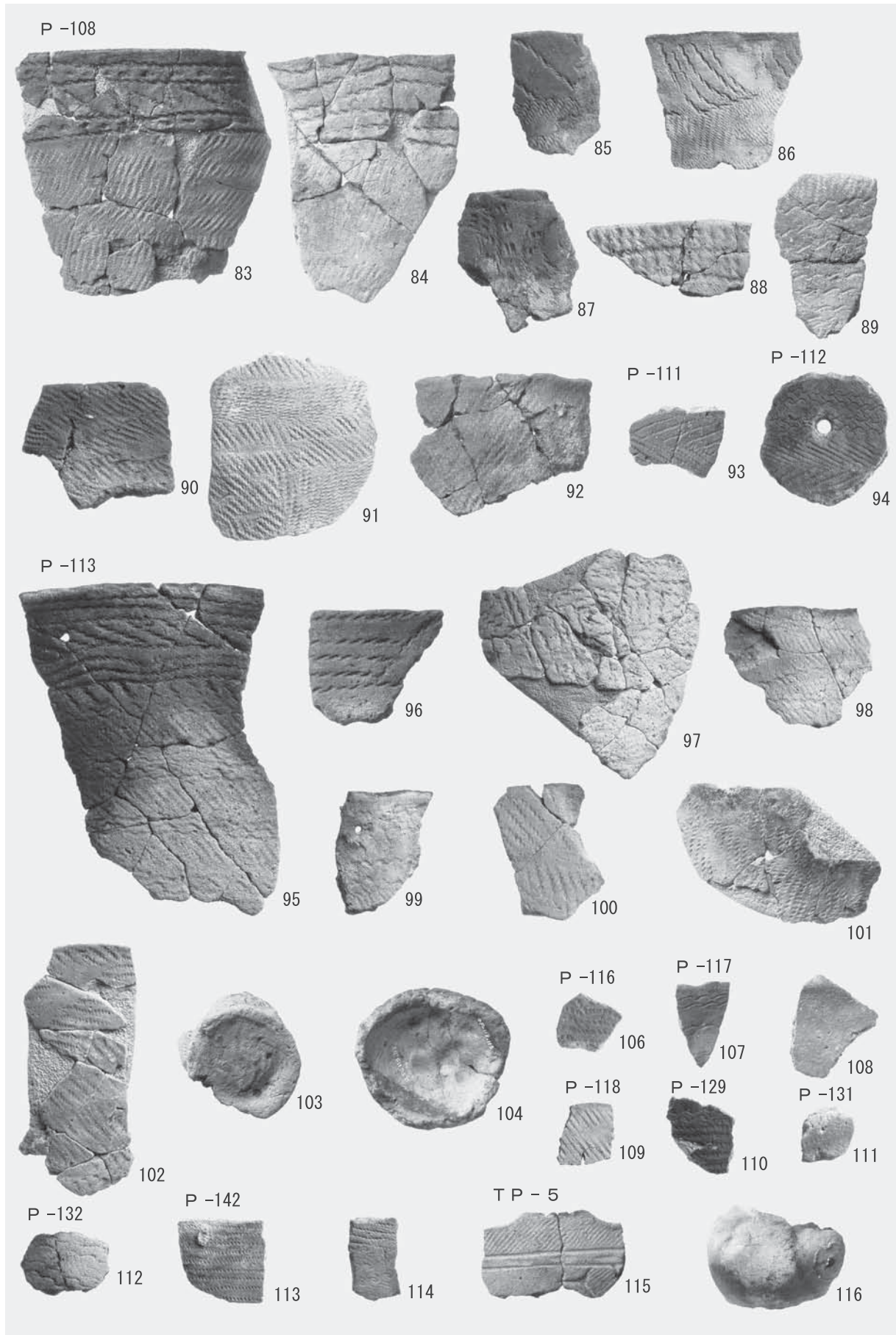
P - 1 ~ 75出土の拓本土器



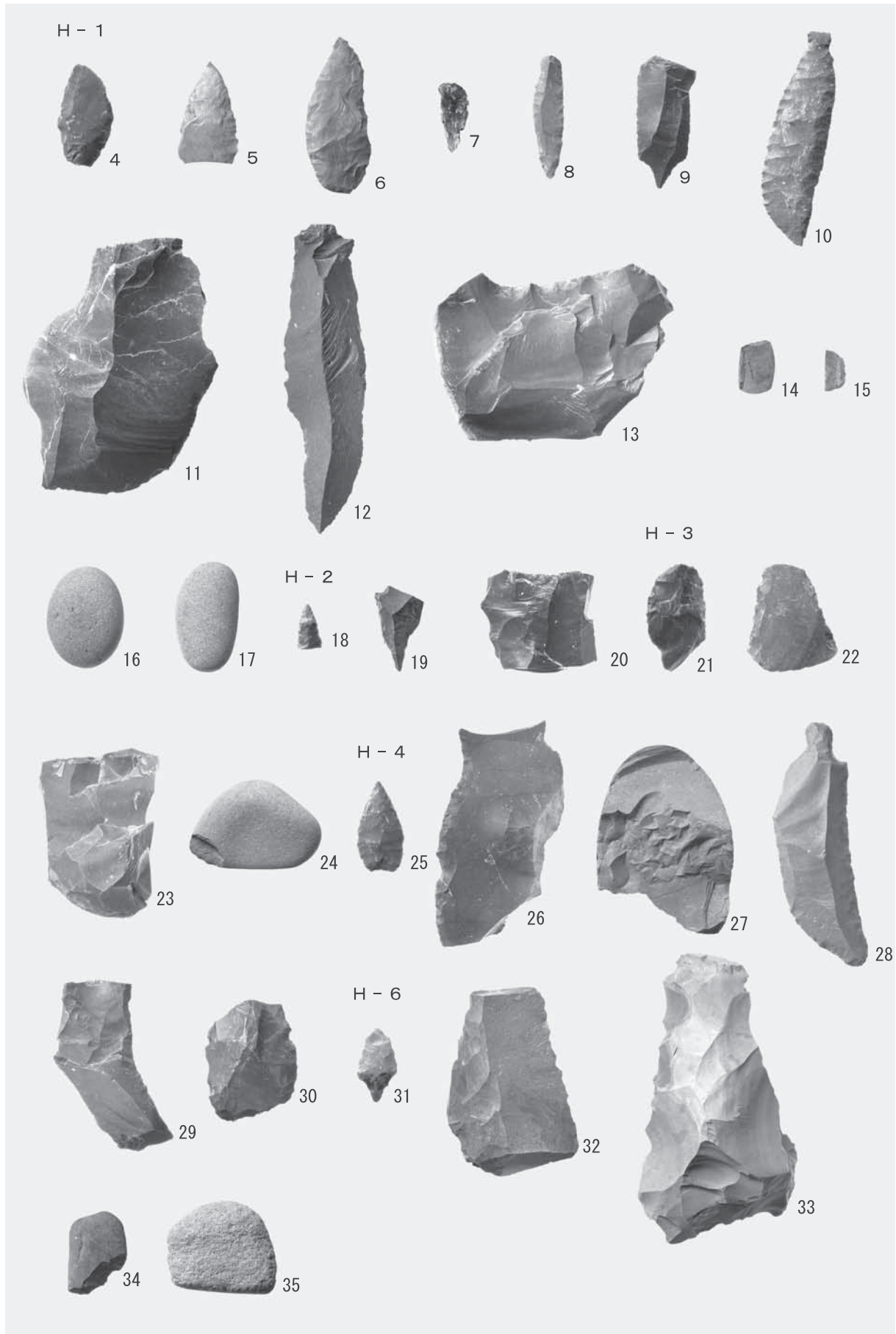
P-77~102出土の拓本土器



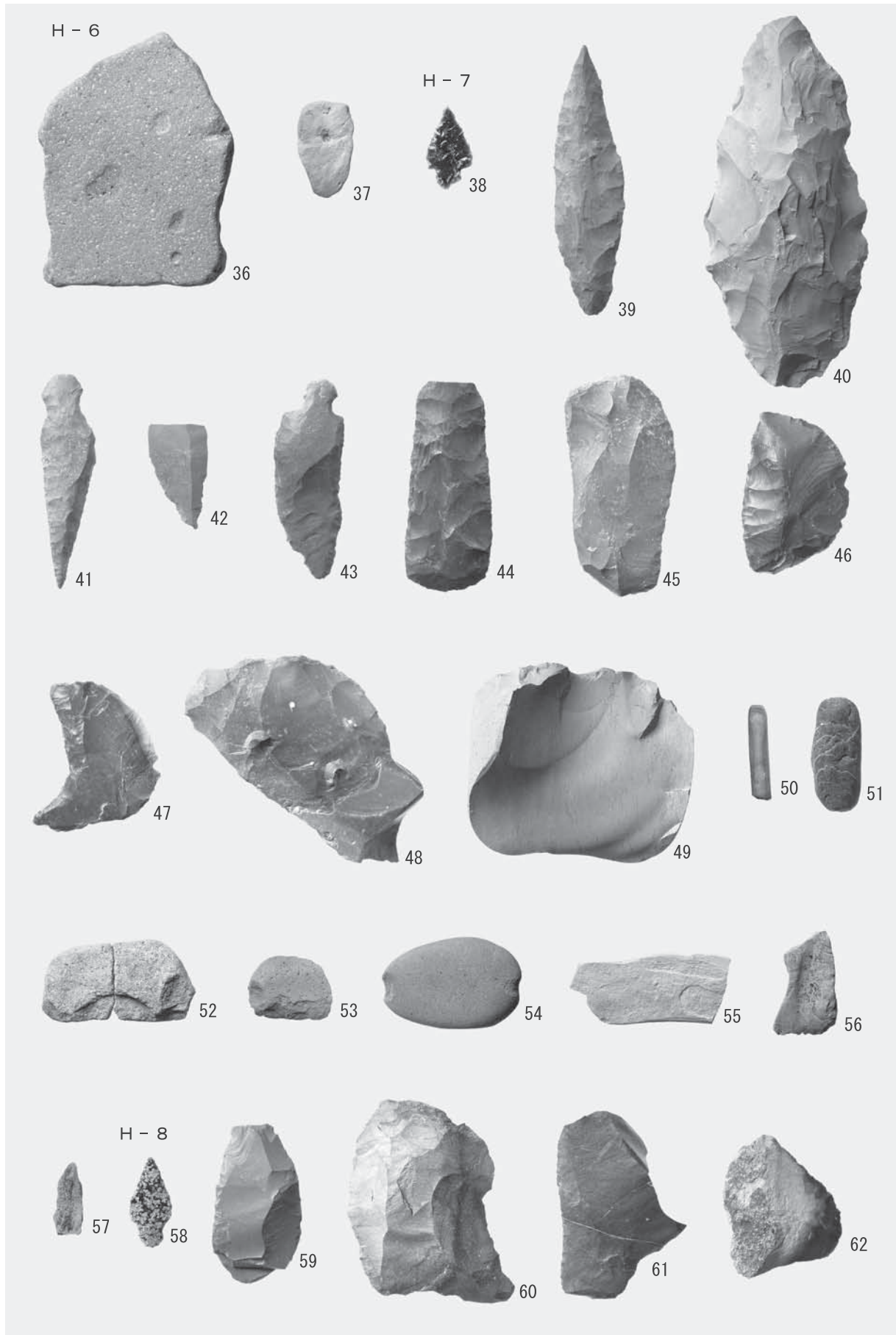
P-104~108出土の拓本土器



P-108~142・TP出土の拓本土器



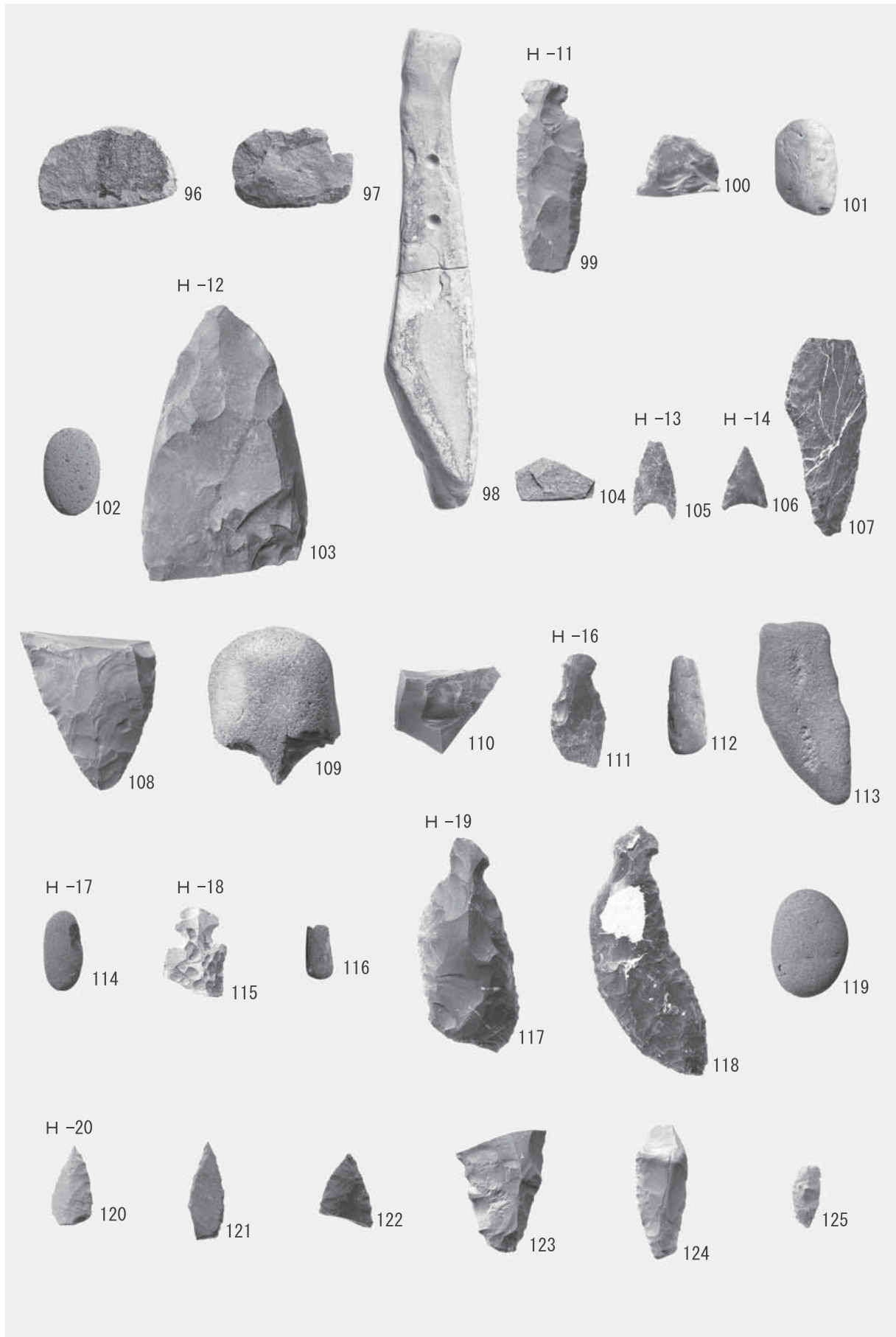
H-1 ~ 6 出土の石器



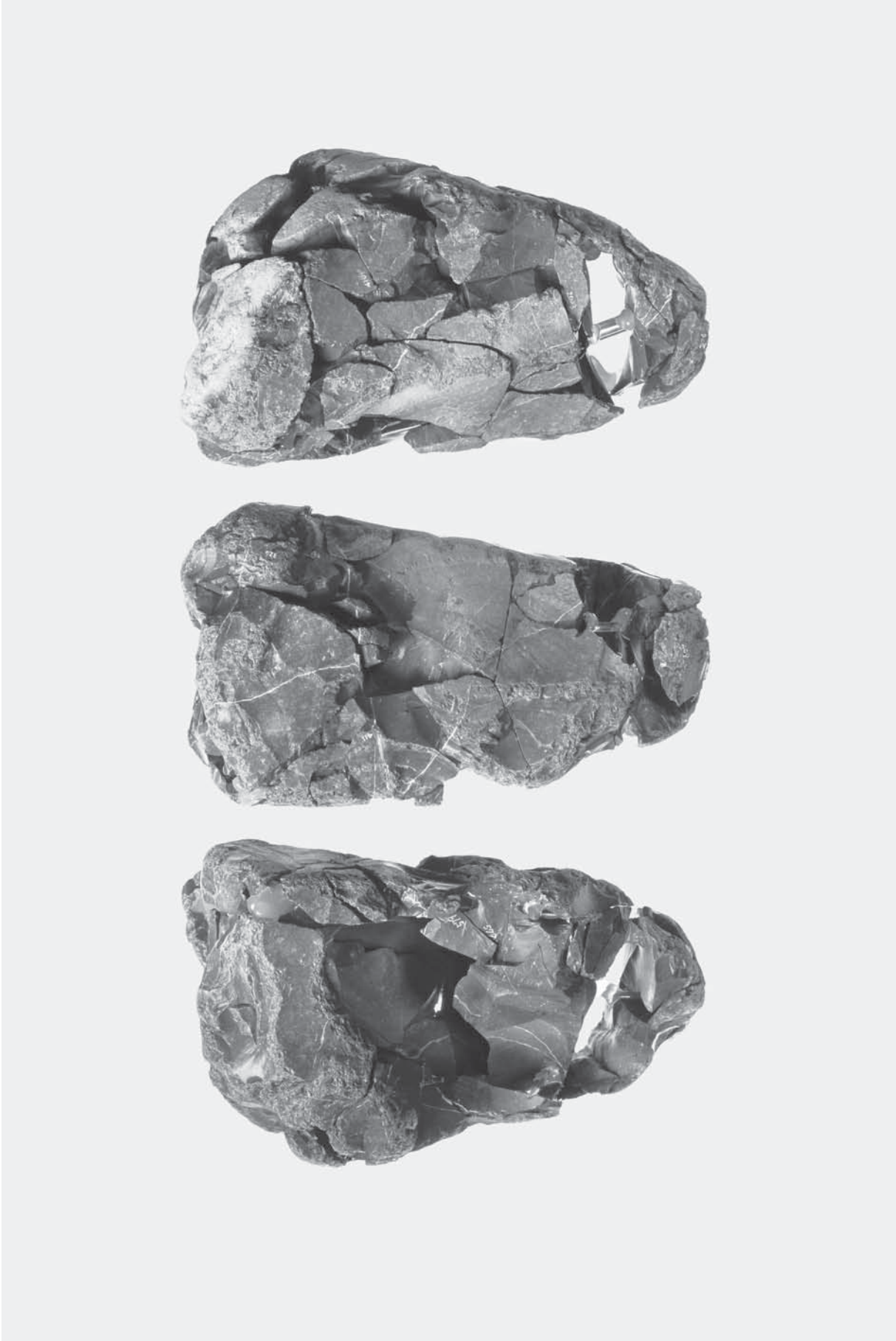
H-6～8出土の石器等



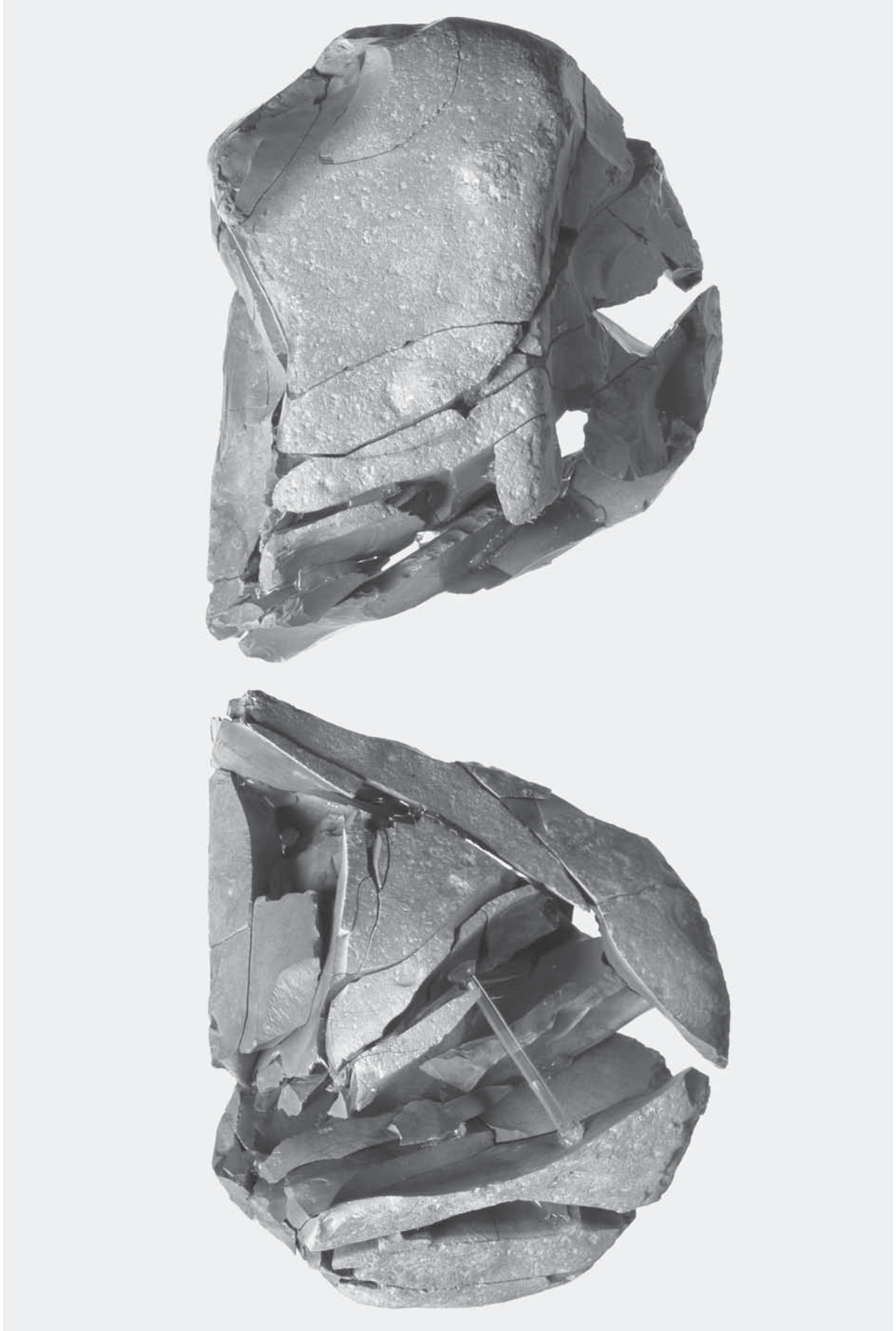
H-8 ~10出土の石器等



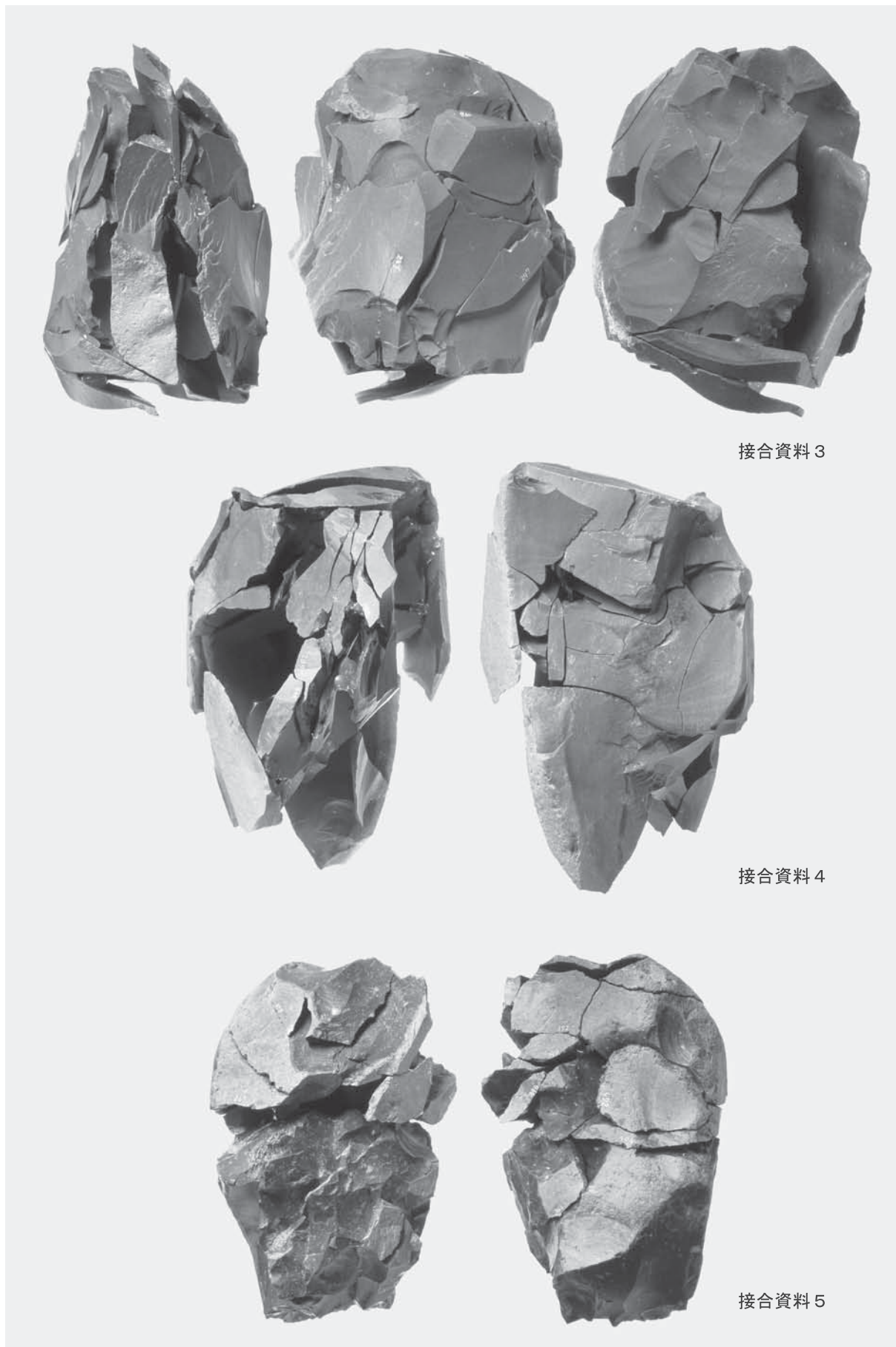
H-10~20出土の石器等



H-20出土の接合資料 1



H-20出土の接合資料 2



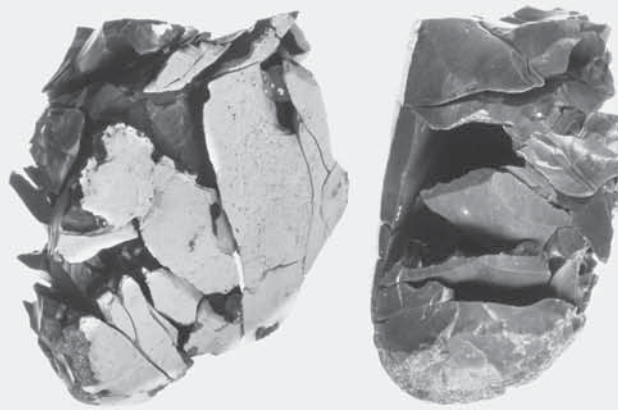
接合資料 3

接合資料 4

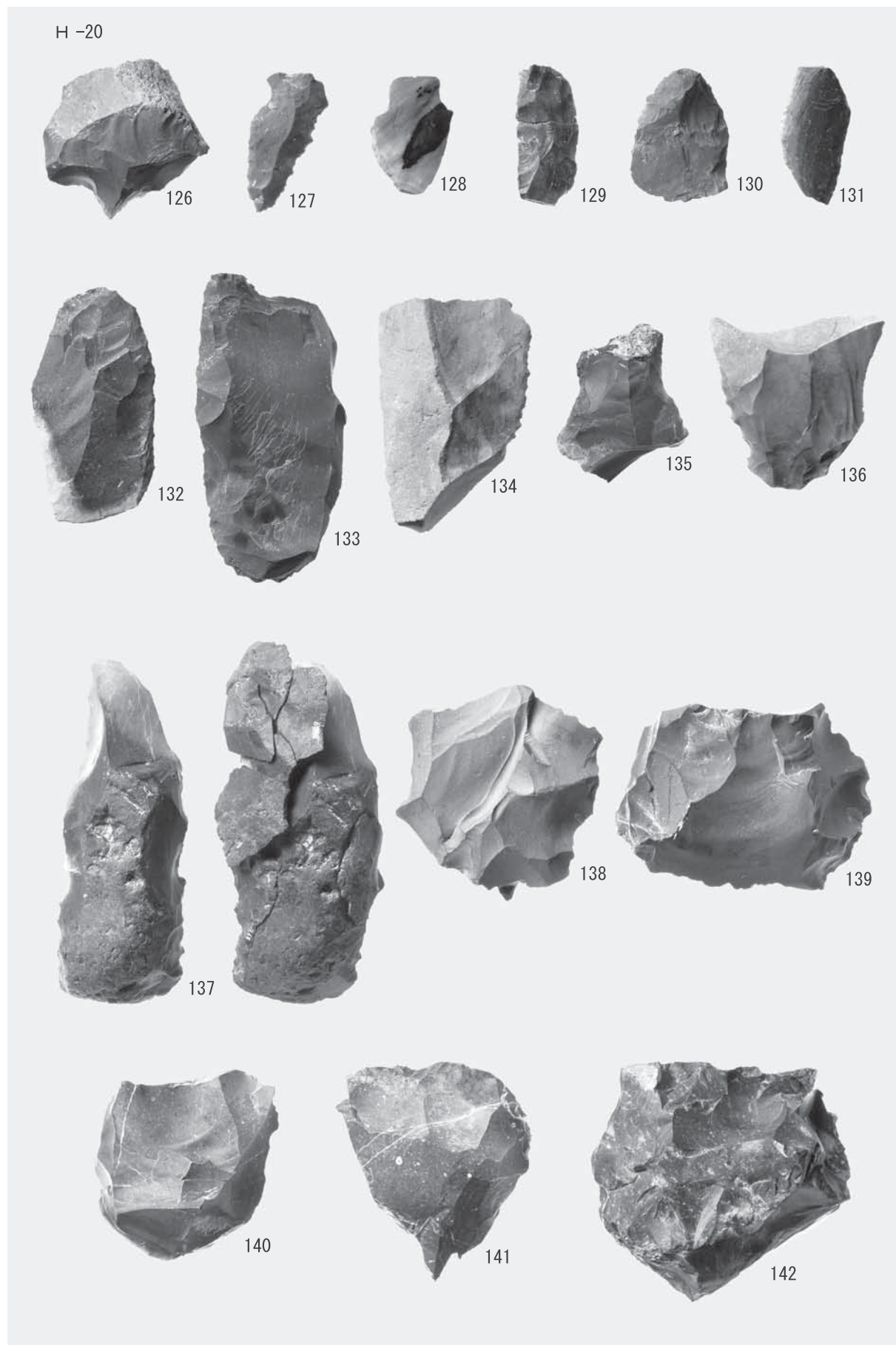
接合資料 5



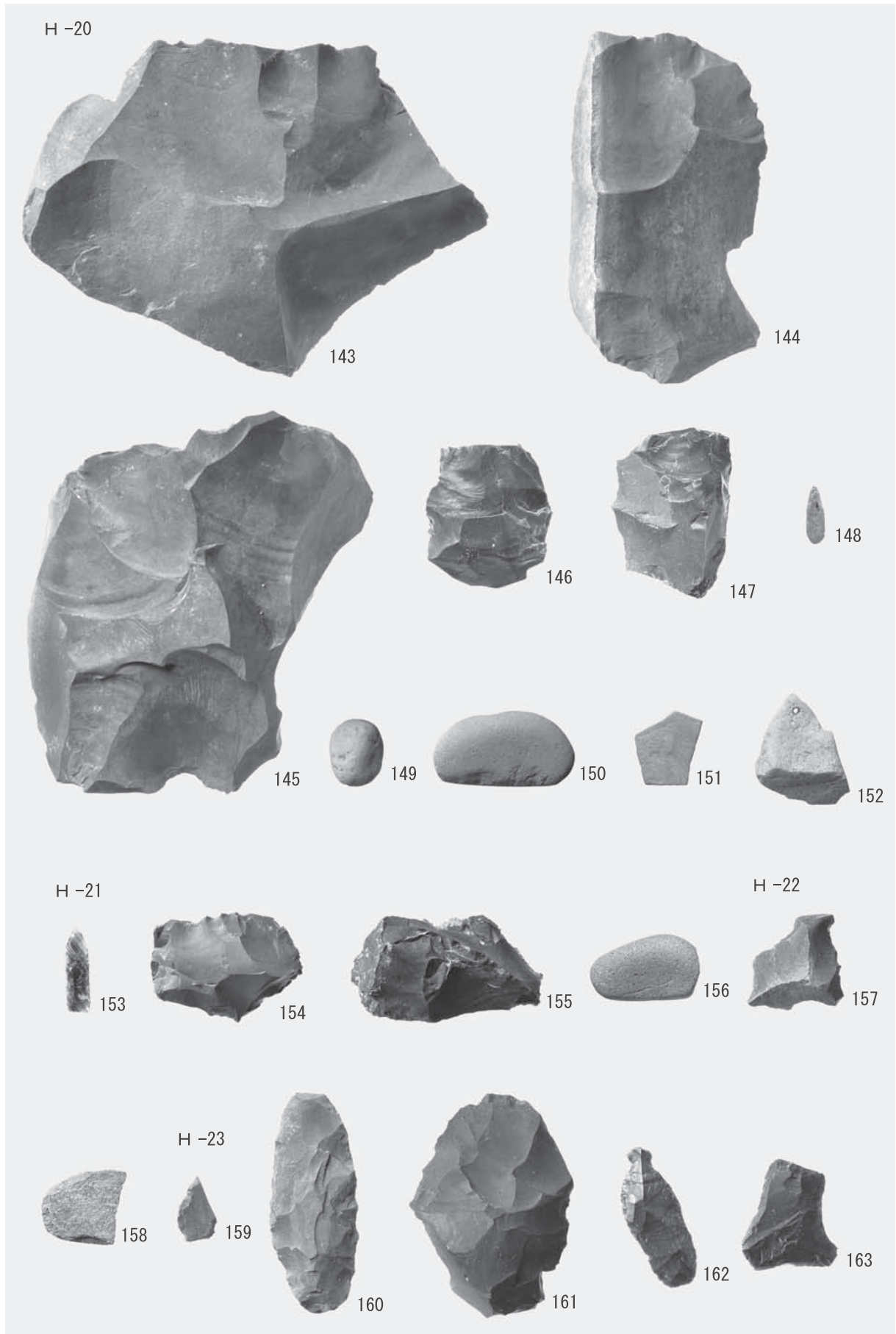
接合資料 6



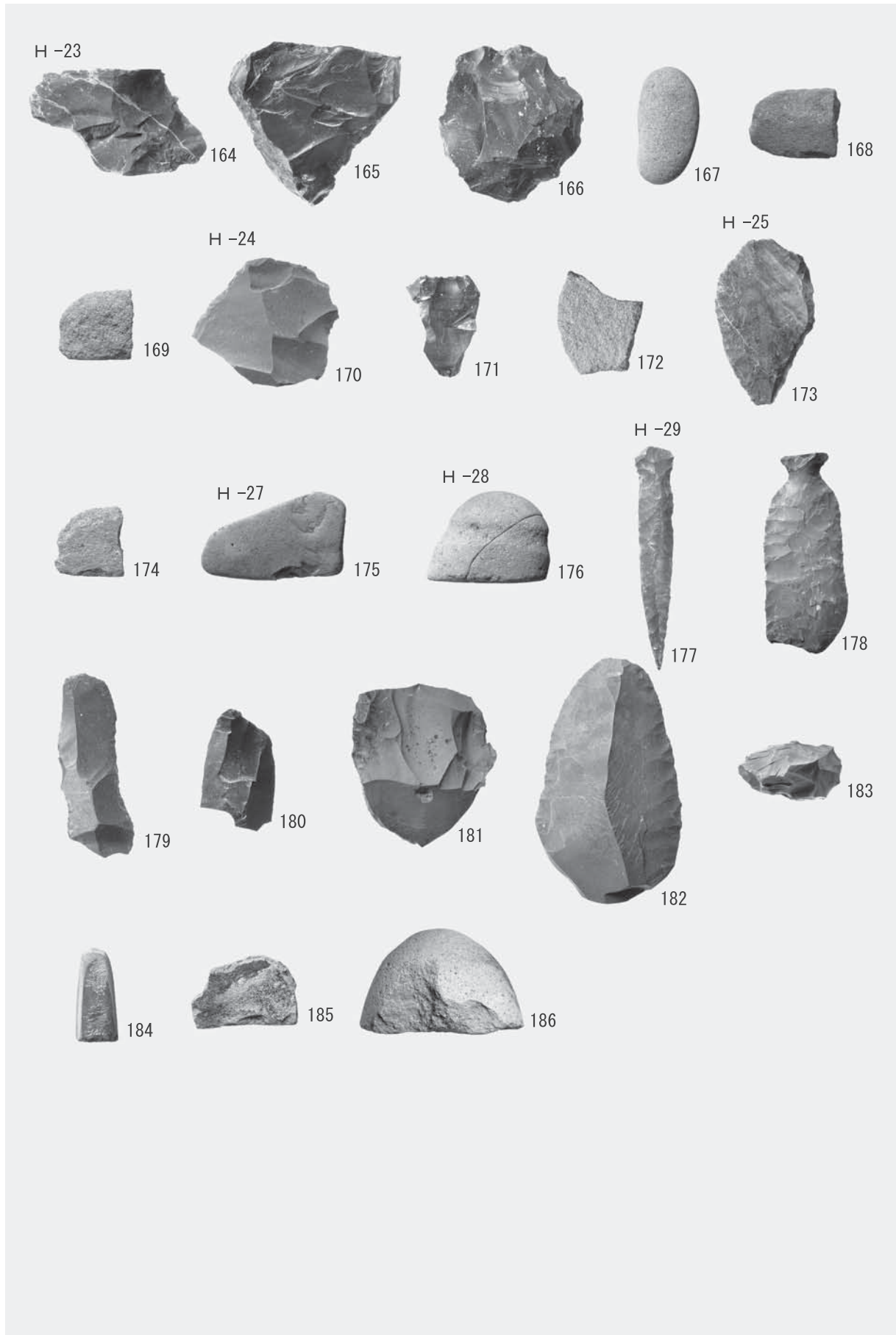
接合資料 7



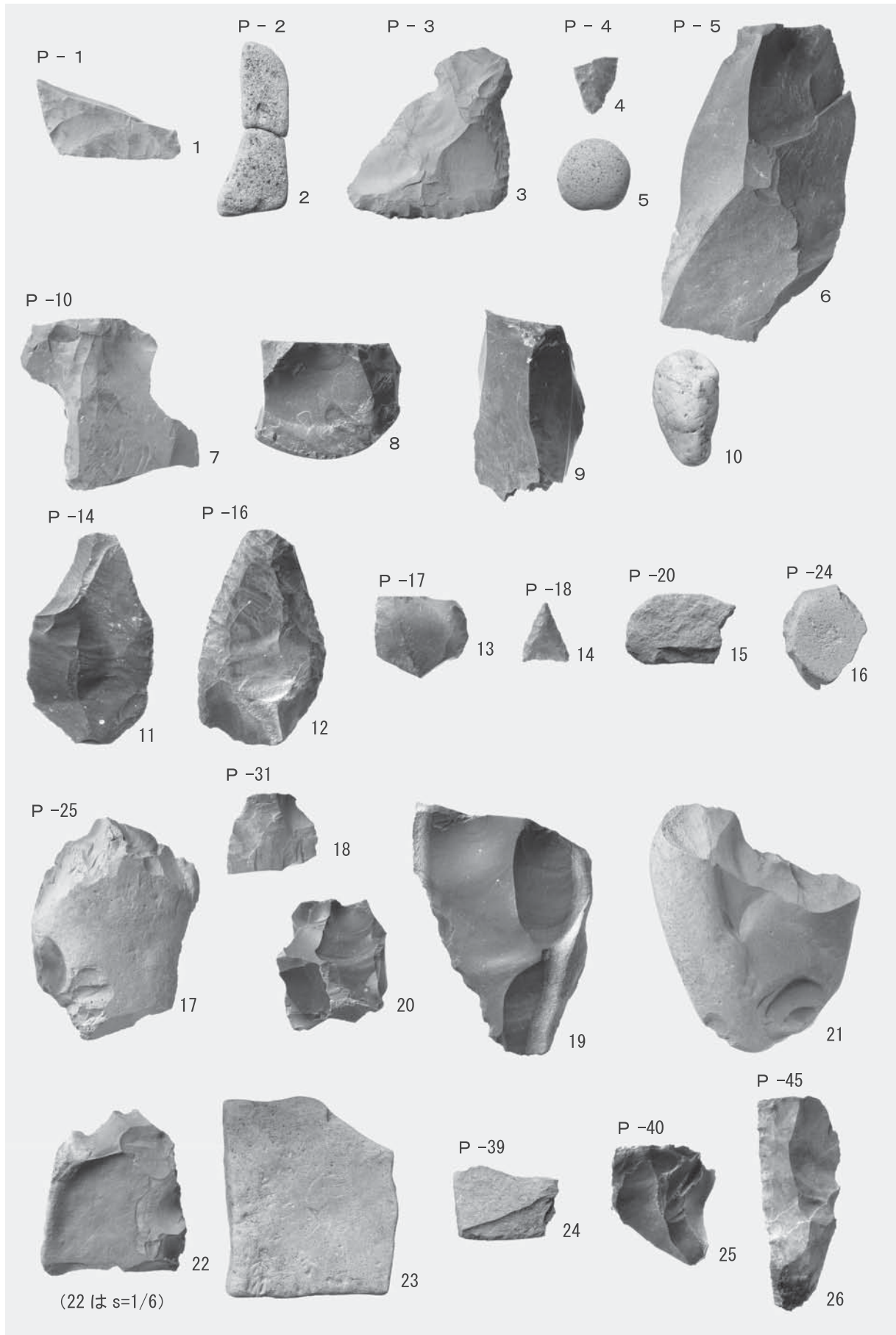
H-20出土の石器



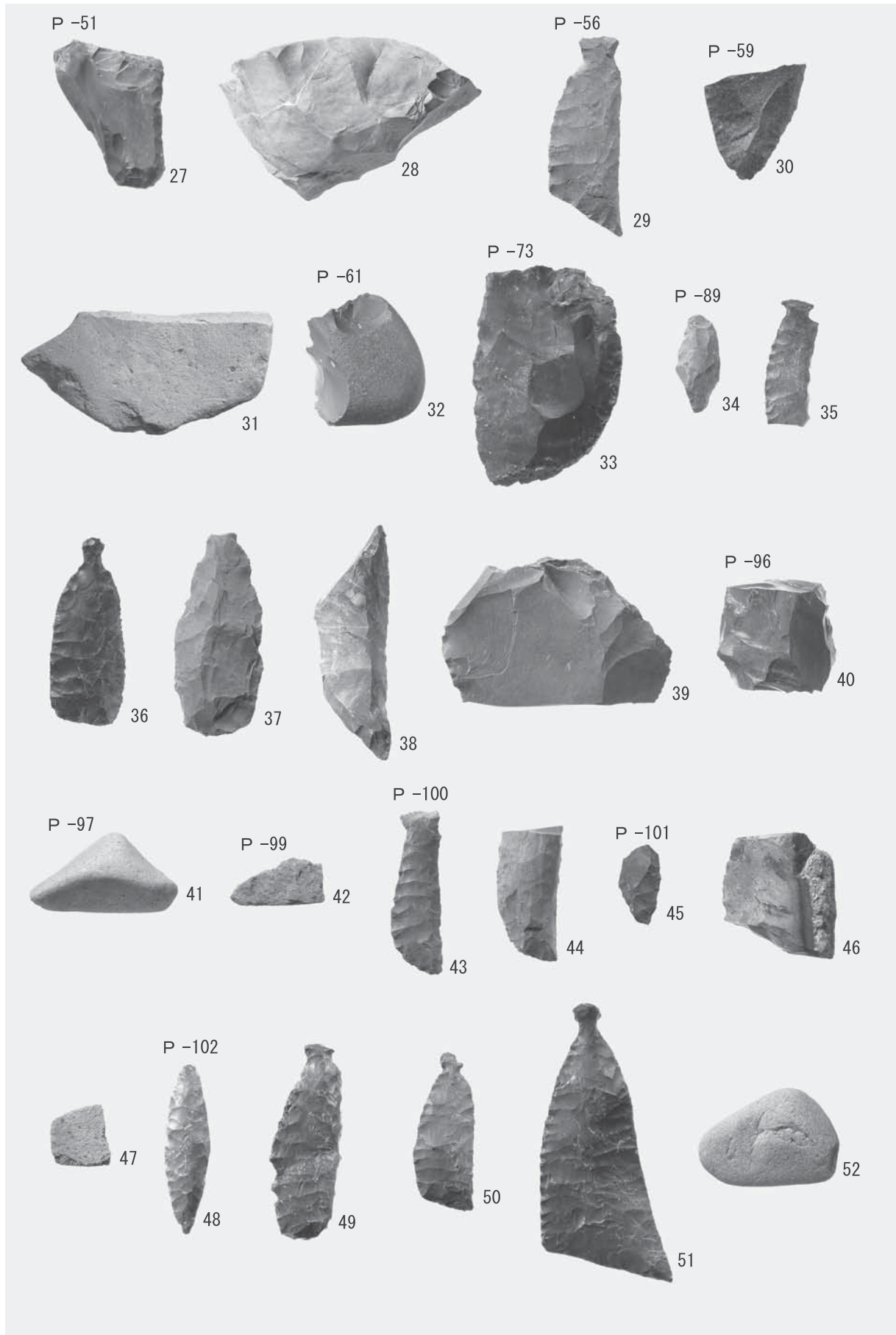
H-20~23出土の石器



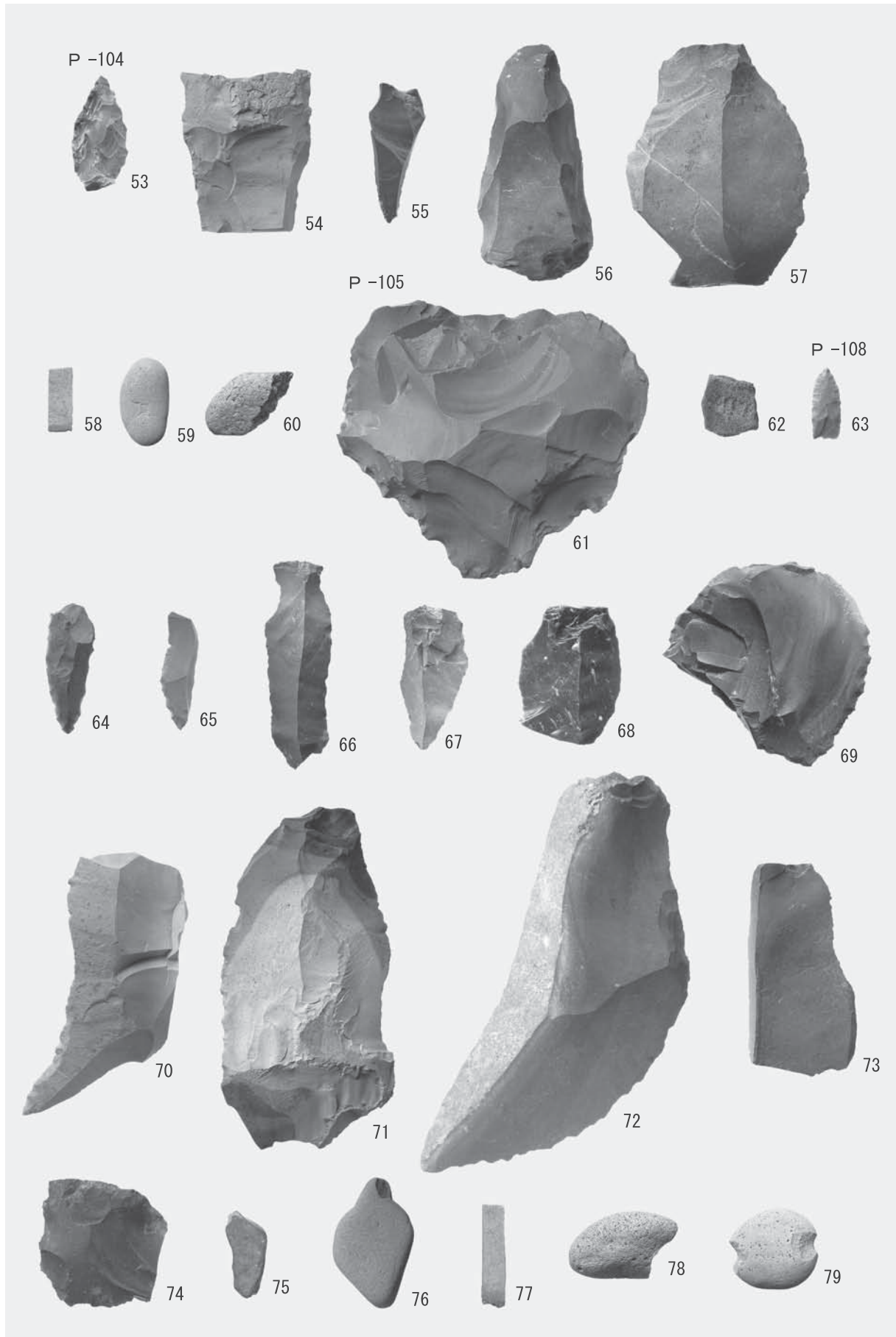
H-23~29出土の石器



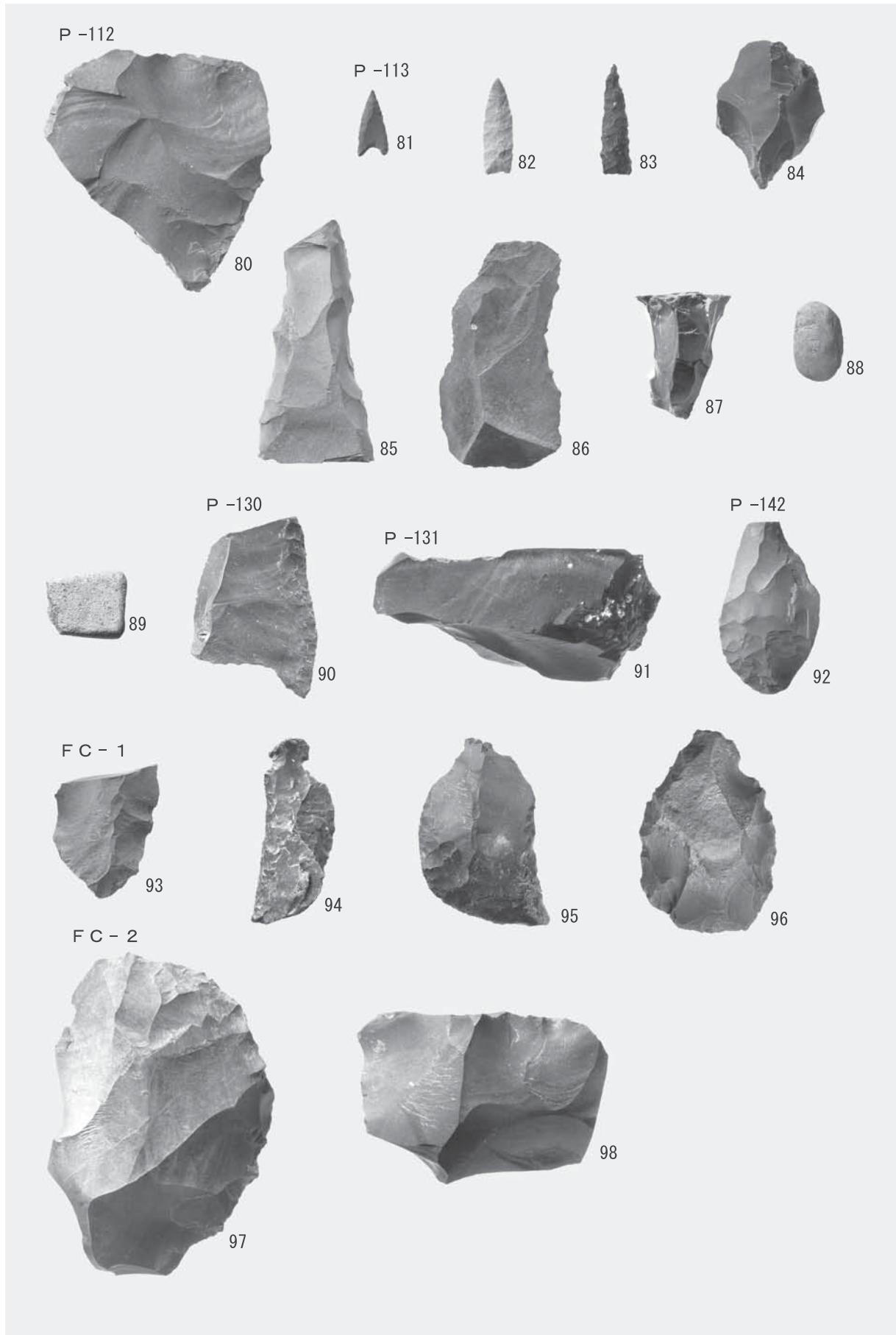
P - 1 ~ 45出土の石器



P-51~102出土の石器



P-104~108出土の石器



P-112~142・FC出土の石器



包含層・32



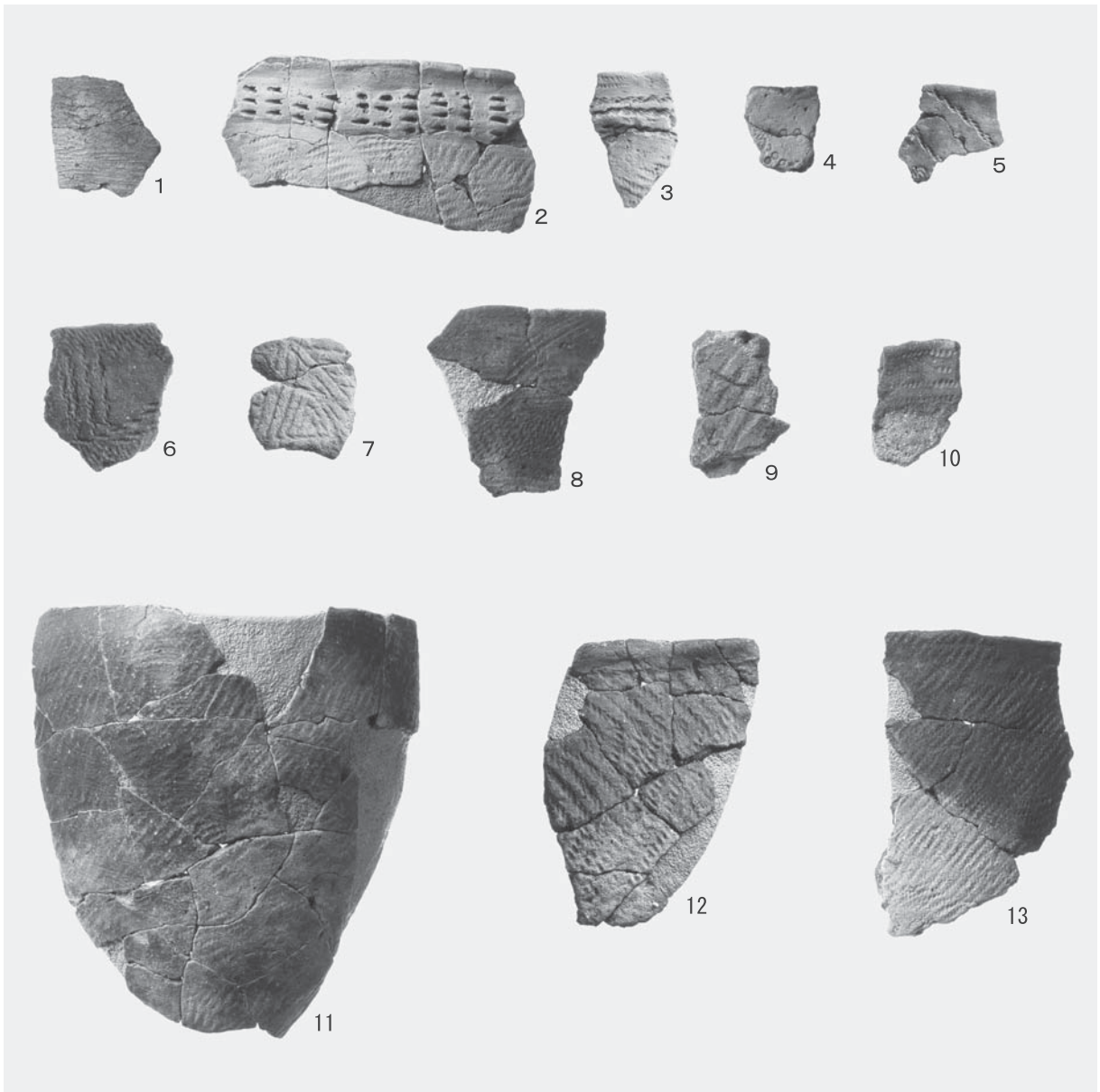
包含層・33



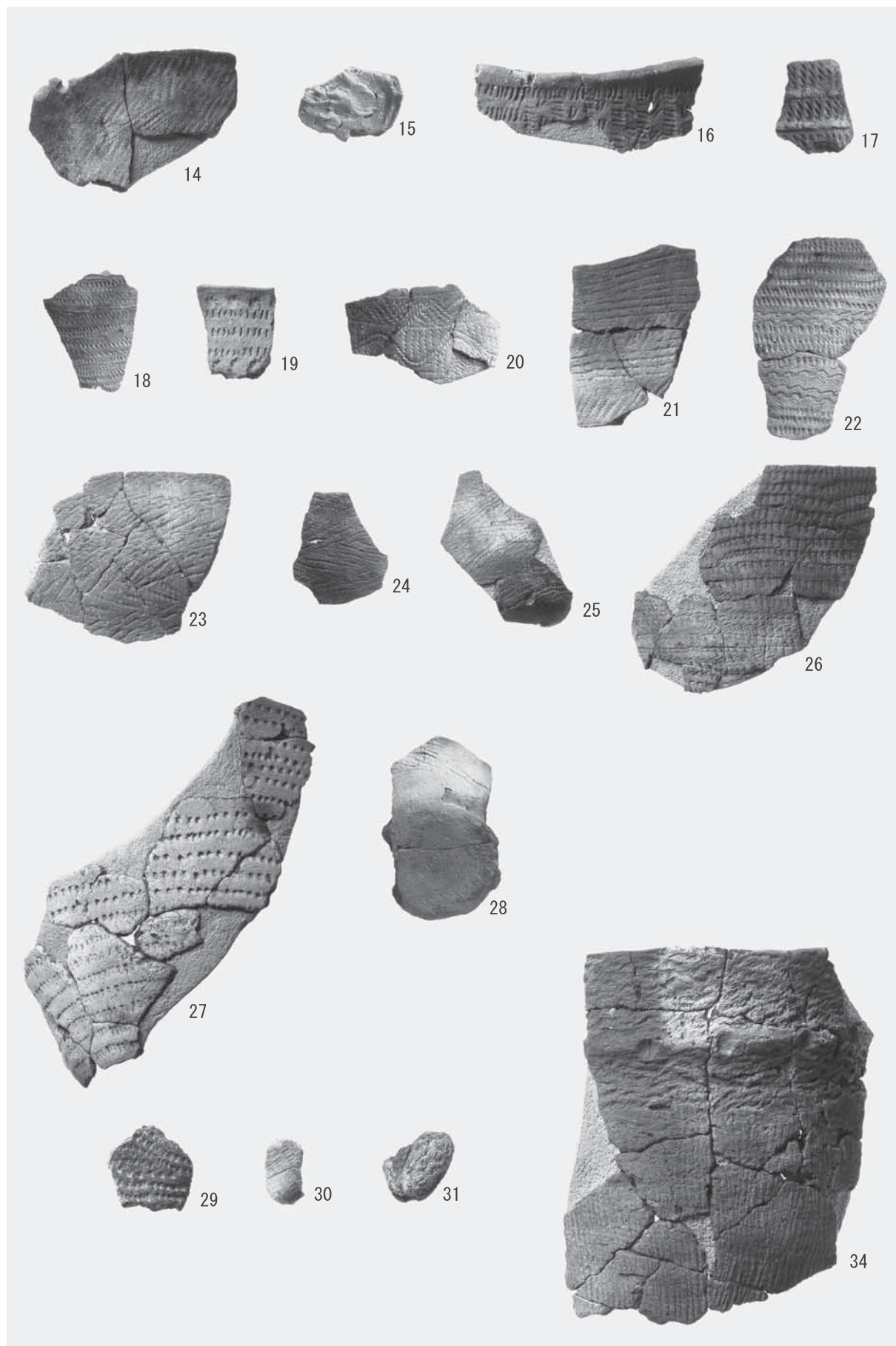
包含層・42



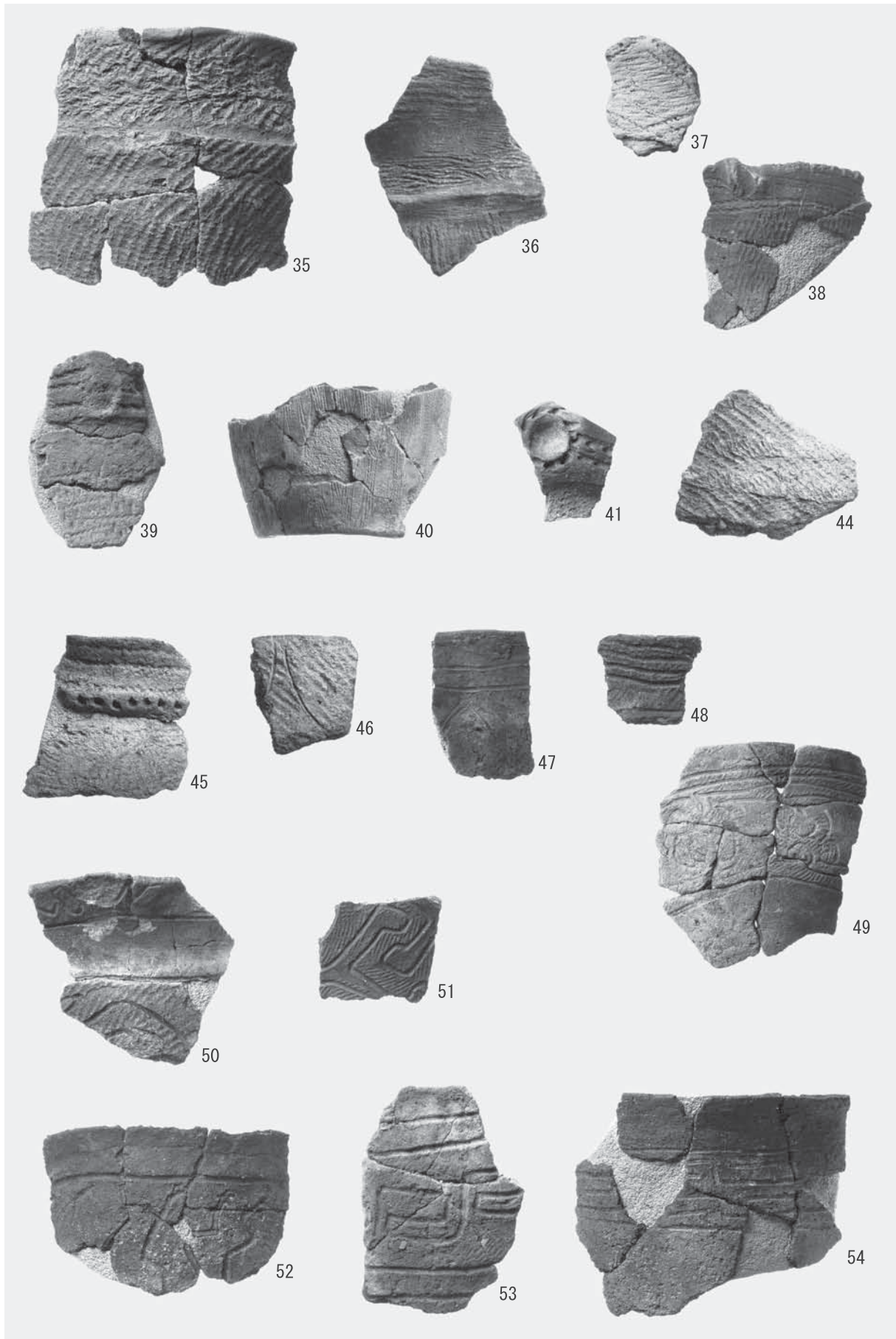
包含層・43



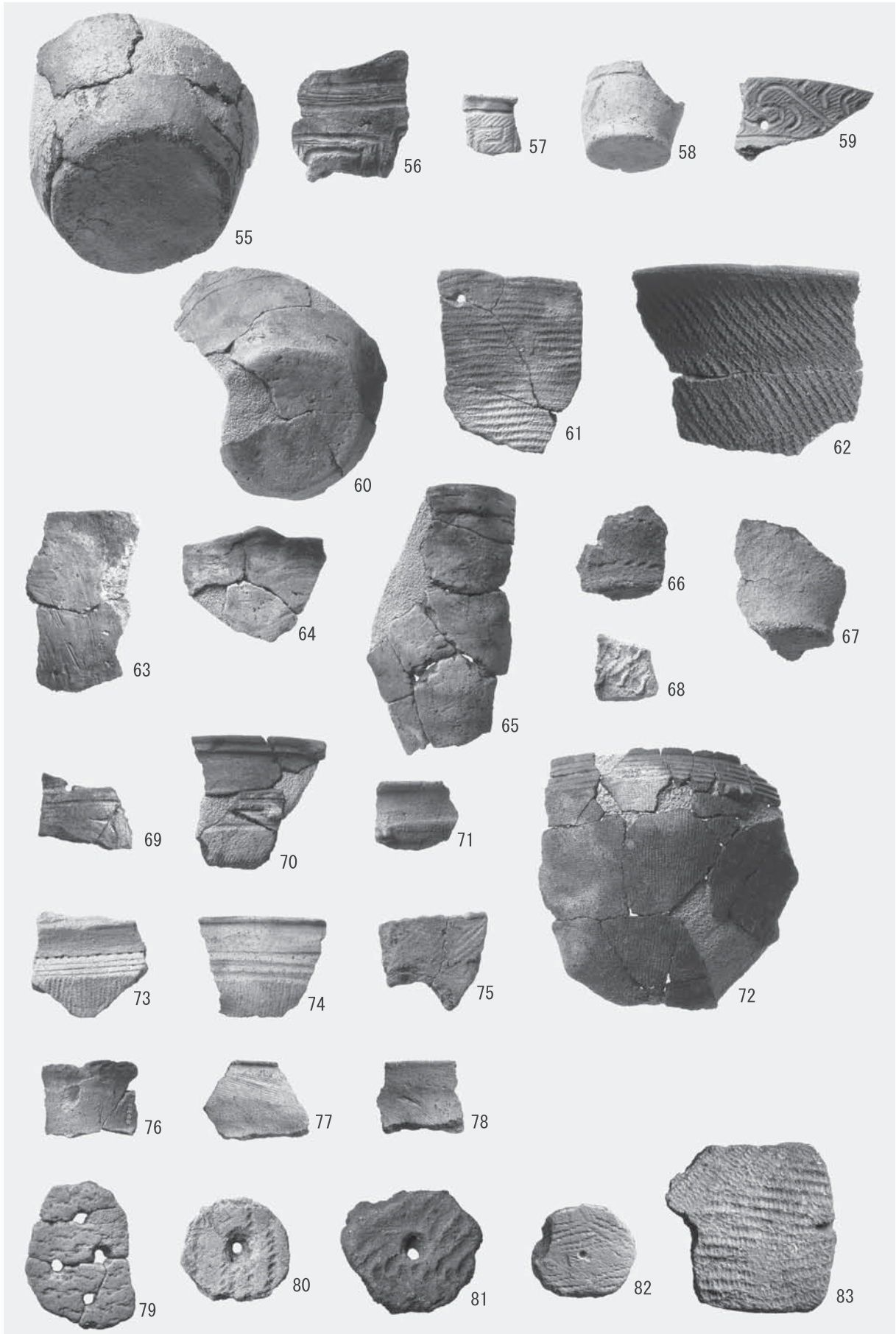
包含層出土の復原土器・拓本土器（1）



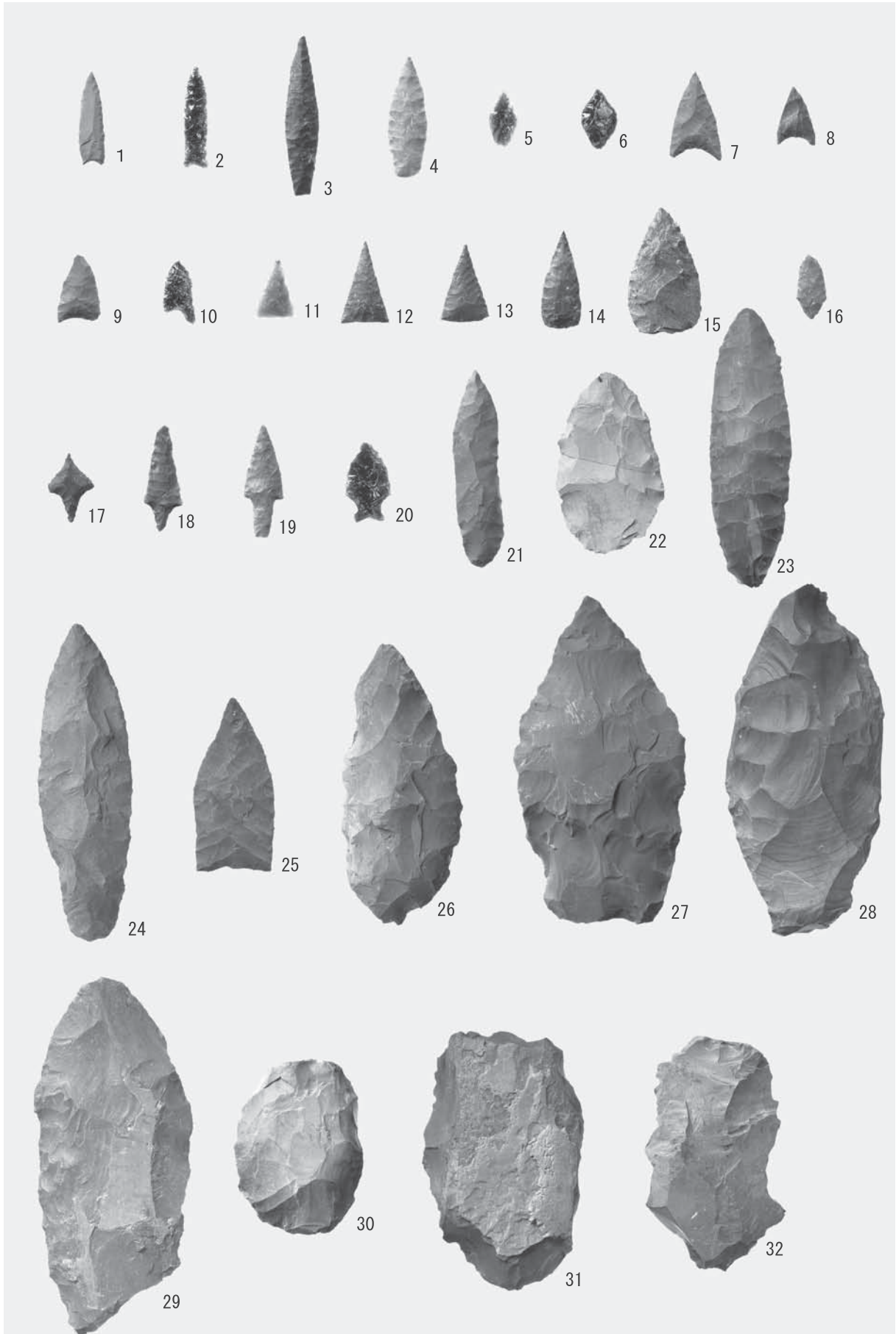
包含層出土の拓本土器（2）



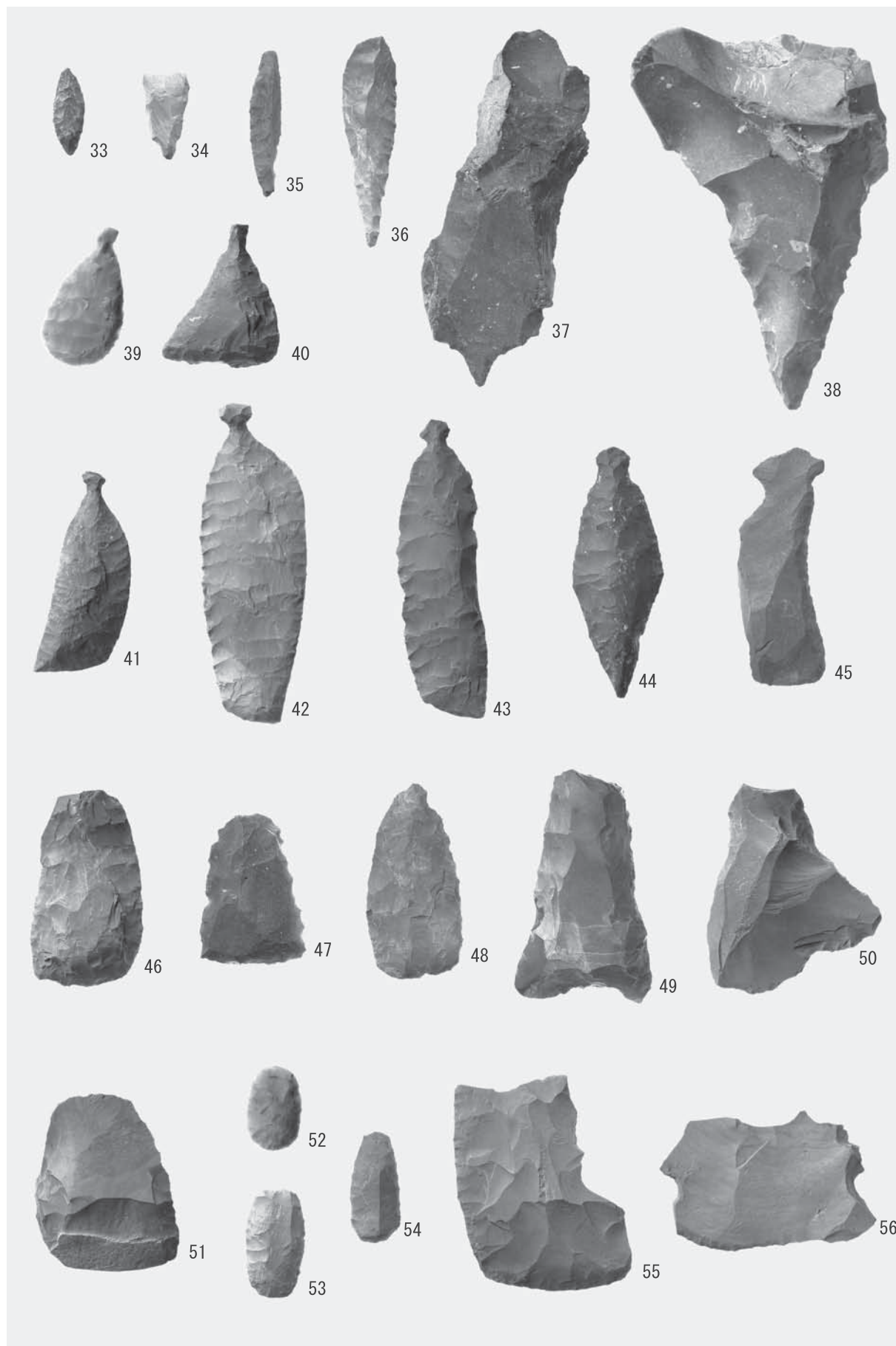
包含層出土の拓本土器（3）



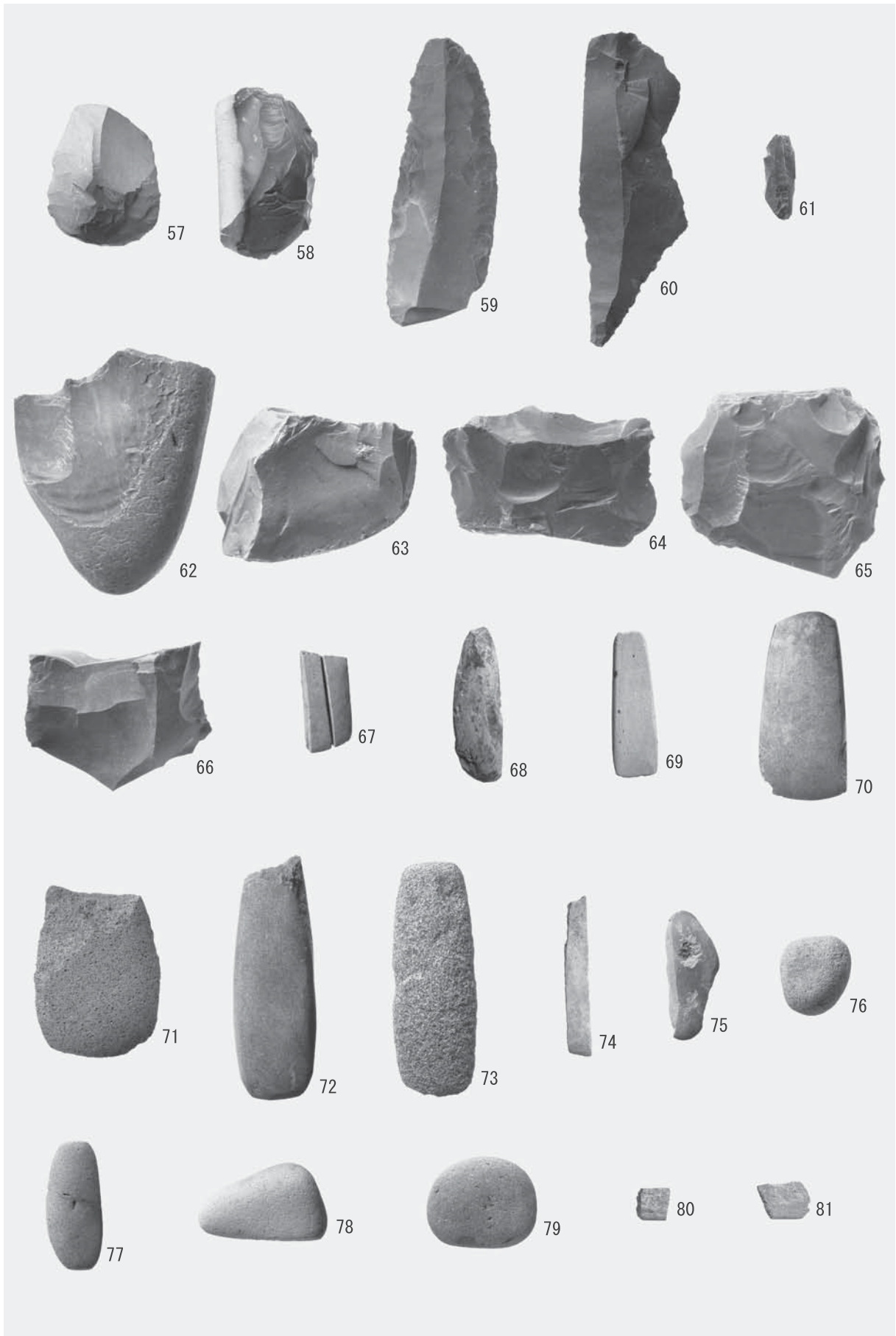
包含層出土の拓本土器（4）・土製品



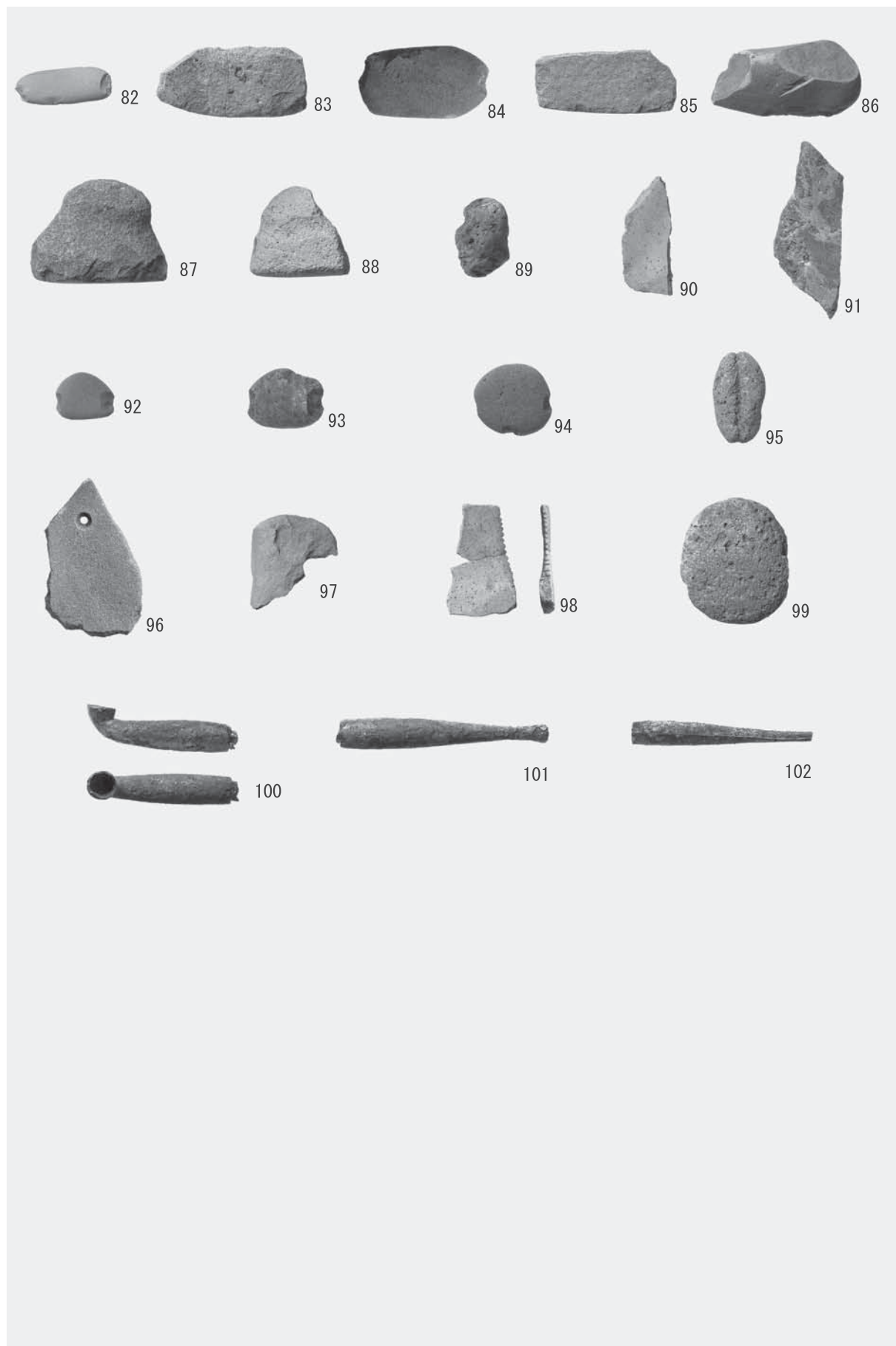
包含層出土の石器（1）



包含層出土の石器 (2)



包含層出土の石器 (3)



包含層出土の石器（４）・石製品・金属製品

引用参考文献

(公財)北海道埋蔵文化財センター刊行物

- (財)北海道埋蔵文化財センター 2010 『調査年報22』
(財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『調査年報23』
(財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『調査年報24』
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2013 『調査年報25』

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書

- (財)北海道埋蔵文化財センター 1987 『木古内町建川2・新道4遺跡』
津軽海峡線(北海道方)建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書(4)北埋調報43
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1988 『木古内町 新道4遺跡』
津軽海峡線(北海道方)建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書(5)北埋調報52
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1989 『美沢川流域の遺跡群XII』
新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報58
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1996 『中野B遺跡』
函館空港拡張工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報97
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1996 『西桔梗1遺跡』
一般国道228号函館江差自動車道函館茂辺地道路改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報99
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『長万部町 富野3遺跡』
北海道縦貫自動車道(七飯～長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報131
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町 濁川左岸遺跡 -B地区-』
北海道縦貫自動車道(七飯～長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報190
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町 濁川左岸遺跡 -A地区-』
北海道縦貫自動車道(七飯～長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報208
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2010 『森町 石倉1遺跡(2)』
北海道縦貫自動車道(七飯～長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報266
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町 木古内2遺跡』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 278
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町 大平遺跡・大平4遺跡』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 280
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『木古内町 蛇内2遺跡』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 281
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『木古内町 大平4遺跡(2)・蛇内2遺跡(2)』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 292
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2013 『木古内町 木古内2遺跡(2)』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 293

木古内町 1982 『木古内町史』
 木古内町教育委員会 1995 『木古内町 釜谷 5 遺跡』
 木古内町教育委員会 1999 『木古内町 釜谷遺跡』
 函館市教育委員会 1994 『豊原 2 遺跡』
 北桧山町教育委員会 2001 『豊岡 6 遺跡』
 八雲町教育委員会 2004 『栄浜 2・3 遺跡』
 長万部町教育委員会 2002 『栄原 2 遺跡 (2)』
 北海道文化財保護協会 2006 『オバルベツ 2 遺跡』

青森県教育委員会 1988 『館野遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 119
 青森県教育委員会 1989 『表館 (1) 遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 120
 青森県教育委員会 2004 『向田 (35) 遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 373

西田 茂 1993 「ふたたび東釧路Ⅱ式について」 潮見 浩先生退官記念論集『考古論集』
 富永勝也 2004 「北海道考古学の現状と課題 縄文時代早期」『北海道考古学会』第40輯
 遠藤香澄 2008 「縄文系平底土器」 小林達雄編『総覧 縄文土器』

日本ペトロロジー学会編 1997『土壌調査ハンドブック 改訂版』 博友社
 小山正忠・竹原秀雄 2004『新版標準土色帖』 日本色研事業株式会社

報告書抄録

ふりがな	きこないちょう きこないいせき							
書名	木古内町 木古内遺跡							
副書名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）							
シリーズ番号	第304集							
編著者名	村田 大 愛場和人							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地 1 TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238 E-mail mail@domaibun.or.jp ホームページ http://www.domaibun.or.jp							
発行年月日	平成26年（西暦2014）年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		O30杭		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
きこないいせき 木古内遺跡	ほっかいどう 北海道 かみいそぐん 上磯郡 きこないちよう 木古内町 あざきこない 字木古内 55・56ほか	01334	B-05-3	41° 41′ 05″	144° 26′ 28″	20110509 ～ 20120715	12,020m ²	北海道新幹線 建設事業に伴 う事前調査
種別	集落跡							
主な時代	縄文時代早期後半、前期後半、後期前葉、擦文文化期							
主な遺物	縄文時代早期後半（東釧路Ⅱ式）、前期後半（円筒土器下層b～d式）の土器・石器等							
要 約								
<p>縄文時代 竪穴住居跡29軒（縄文時代早期後半、縄文時代前期後半、縄文時代後期前葉など） 土坑152基（縄文時代早期後半～縄文時代後期前葉） 擦文文化期 竪穴住居跡2軒、溝状遺構1か所（木柵設置のための布掘り跡？） 近世～近代 土坑墓1基</p>								

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第304集

木古内町 ^{きこない} 木古内遺跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成26年3月24日 発行

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌685番地1

TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238

E-mail mail@domaibun.or.jp

URL <http://www.domaibun.or.jp>

印 刷 株式会社 サンキ

〒011-0907 札幌市北区新琴似7条12丁目1-30

TEL (011) 299-1010